KAIZO

改造

11
9-12

九月號

1929

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

豫約募集

牧水全集

全十二巻　一冊一圓五十錢

總內容

第一巻　歌集
第二巻　歌集
第三巻　歌集
第四巻　紀行文
第五巻　紀行文。小説
第六巻　随筆小品
第七巻　随筆小品。長詩。童謡
第八巻　歌論歌話
第九巻　雑篇
第十巻　書簡（夫人宛）
第十一巻　書簡
第十二巻　書簡。日記。年譜

牧水全集、名を聞くだにそこに溢るる清涼味を感ずるではないか。玲瓏の風格、豊けき人間味、牧水氏の短歌こそは、人麿、西行、芭蕉等の作と共にわが純粋の民族詩の最高峯として讃仰さるべきものである。氏の紀行文、随筆、書簡等もまた天衣無縫の名文として定評あるもの。騒然たる現代に本全集を贈り得ることは本社の欣快とするところである。來れ、而してこの大詩人の靈の息吹に觸れよ。

第一回配本（目下配本中）
第三巻　歌集　くろ土　山櫻の歌　黒松

第二回配本　第四巻　紀行文

特色

一、未發表の作品、少年期の作品等まで完全に網羅した眞の全集である。
一、裝幀の高雅、印刷の鮮明、校正の嚴密、すべて全集中の模範たらんことを期した。
一、口繪として掲ぐる毎巻四葉、全巻を通じて四十八葉の寫眞は著者の全生涯を讀者の眼前に展開する。
一、毎巻添付の月報は各方面の人々の執筆になり、最も興味深きものとする。

〆切八月三十一日

東京・芝・愛宕下町
改造社
振替東京八四〇二番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

GIFT OF
SIDNEY M. EHRMAN

腦及神經鎭靜劑
ホパレット

劇薬に非らざる……純植物性製劑

特に頭腦を過勞する人々

疲勞、焦燥、興奮、その他現代の精神的生活は、他方に於て安靜と休養と、安らかなる睡眠とを要求します。

◎

そうして斯る場合に何よりもホパレットが推奨されて居ります。頭が重い、眠れない、動悸がする、胸苦しい、業務に少しも興味を持てない、逆上する、些事に怒り易い、といふやうな場合に先づ第一に試むべきものとされて居ります。

従來の催眠劑に共通の缺點はそれが何れも毒又は劇藥であることです、これに反しホパレットは純植物性で作用が緩和、頭腦を冷靜ならしめ食慾消化を催進し、永く用ひても決して有害に作用しません。婦人小兒にも全く安全です。

◎

讀書、勉學、事務又は他の精神的作業に因る頭腦の過勞又は興奮を慰藉するためには、一日三回每食後に三錠づゝ、又は就寢前に三―五錠を與ふれば快適なる熟睡と翌日に於ける頭腦の爽快とを得せしめます。



神經衰弱・ヒステリー
興奮・不眠症の治療及豫防に賞用せらる

說明書送呈す

一〇〇錠……一圓四十錢
五〇〇錠……十 圓

著名藥店にあり

獨逸マーチ製藥會社
總代理店
株式會社 田邊元三郎商店
東京市日本橋區本町

HP23

卷一冊一圓五十錢

第四卷
第五卷
第六卷
第七卷
第八卷
第九卷
第十卷
第十一卷
第十二卷

紀行文
紀行文。小説
隨筆小品
隨筆小品。長詩。
童謠
歌論歌話
雜篇
書簡（夫人宛）
書簡
書簡。日記。年譜

隨筆、書簡等もまた
許あるもの。騷然たる現代に本全集を贈り得ることは本社の欣快とするところである。來れ、而してこの大詩人の靈の息吹に觸れよ。

第一回配本（目下配本中）
第三卷 歌集 くろ土 山櫻の歌 黒松

第二回配本 第四卷 紀行文

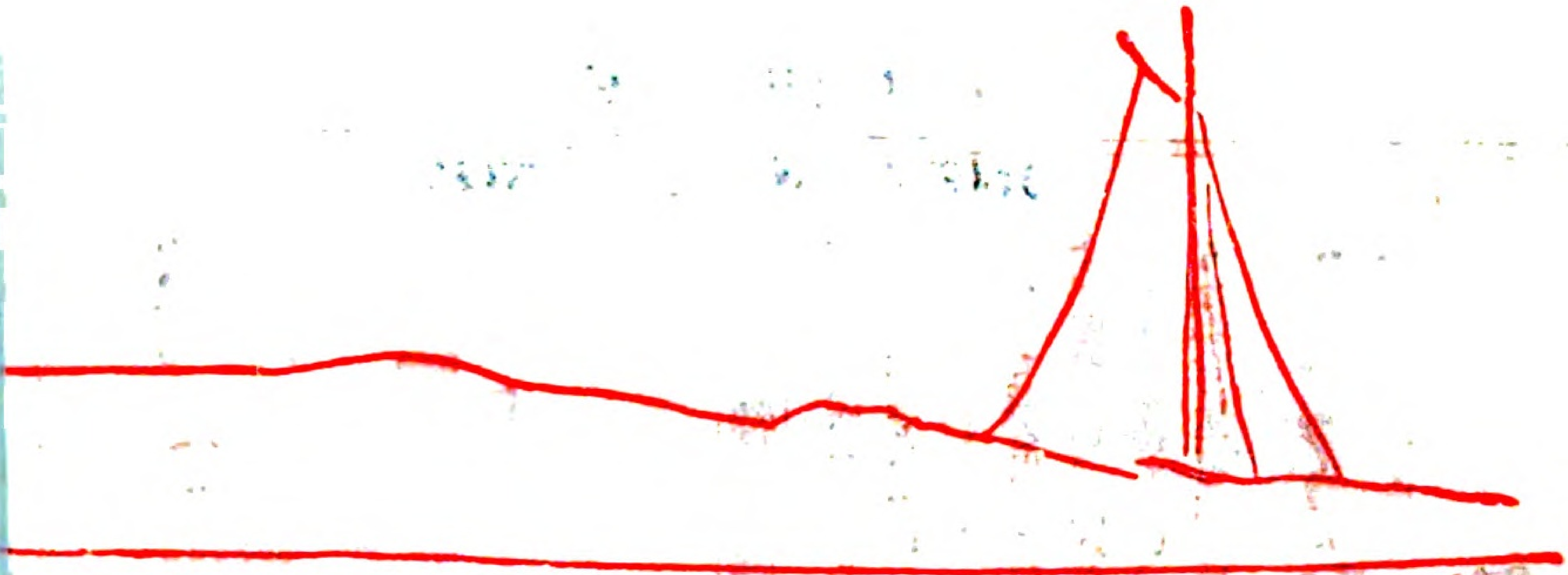
べて全集中の模範た
らんことを期した。

一、口繪として掲ぐる每卷四葉、全卷を通じて四十八葉の寫眞は著者の全生涯を讀者の眼前に展開する。

一、每卷添付の月報は各方面の人々の執筆になり、最も興味深きものとする。

三十一日

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA



改造九月號目次

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

好評
◇文學士吉村[illegible]治氏新著◇
[illegible]愛讀すべき不朽の史書[illegible]
[illegible]史論
正價金壹圓五拾錢
[illegible]

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

◇文學士吉村勝治氏新著◇

――《愛讀すべき不朽の快著》

好評激甚

近世 世界政治外交史論

本書は佛蘭西革命から最近のロカルノ條約に至るまでの世界政治外交史を平易に明快に事實と評論とを適宜に按排して鳥瞰的の概念を與へんとしたものである。これまで發行されてある樣な專門的な著書とは異つて現代一般の讀書人の讀物として恰好のものである。また高等學校程度の學生には興味をもちつゝ自ら記憶し得るやうに企圖されたる等特色ある著述である。

（時事新報批評）

菊判最上製美本 全壹册四百餘頁

正價金參圓五拾錢 送料廿七錢

山上德信氏著 ●最新西洋歷史辭典 西洋歷史研究者の大福音也 本邦唯一の西洋史辭典出來 （最新刊） 金參圓參拾錢 送料廿七錢

目黑禧一氏著 ●最新東洋歷史辭典 著者が數年間の努力に成りし苦心の大著完成發賣せり （最新刊） 金參圓九拾錢 送料廿七錢

[illegible]講義を中心として著者[illegible] 金參圓八拾錢 送料廿七錢

吉松祐一氏著 ●加賀の千代女の生涯 千代女の傳記と人及句の評論百五拾年忌紀念出版なり （再版） 金壹圓貳拾錢 送料十二錢

島爲男氏著 ●夏目さんの人及思想 珍らしい程行屆いた夏目さんの研究であると大好評也 （三版） 正價金貳圓 送料十八錢

山名正太郎著 ●思潮文獻 日本自殺情死紀 珍らしく興味あるものと大好評を博し現代必讀の好書 （三版） 正價金貳圓 送料十八錢

大關增次郎著 ●カント研究 カント哲學の體系を探究し盡せるもの哲學研究者必備の良書也 （三版） 金七圓八拾錢 送料廿七錢

吉田絃二郎著 ●タゴール哲學と文藝 タゴールを詳傳し彼の代表的の作品を忠實に移植す。 （拾六版） 金貳圓五拾錢 送料十八錢

日高瓊々彥著 ●國家に及ぼす宗教の害毒 全宗教を否定せる一大論文大好評一讀を希ふ （三版） 金壹圓八拾錢 送料十二錢

山名正太郎著 ●政談演說仕方と聽き方 際物でなく開いた頁が直ぐ役立つ指導書 （五版） 金壹圓五拾錢 送料[illegible]錢

東京市神田區小川町二ノ三

大同館發行

振替貯金口座東京八七貳番

再版

安岡正篤著

東洋倫理概論

現代人の生活不安の根柢となり背景となつてゐるものは深刻な靈魂の飢渇である。人間として、國民としての生活意義の荒廢である。この飢渇と荒廢とは煩瑣な論理を操り、空虛な概念を弄んでゐる講壇の倫理學者や、味も香もない處世訓、直情にぴたりと來ぬ飜譯的道德書などでは到底救はれない。此書は著者みづからこの惱みを救はんが爲に多年聖賢の學を尋ねて實參苦修した中におのづから得た原理と確信とを細やかに系統を立て丶論述し、人間生涯の大道を明らかにしたもので、東洋人生哲學の實藏を近代人の爲に開く無二の秘鍵である。

菊判總布函入 紙數三百餘頁 定價 貳圓四拾錢 郵稅十二錢

好評四版

獨逸 ショーペンハウエル著 増富平藏譯

人生達觀

最高等の占ひであり、豫言であるのは偉大な哲學者の人生觀である。本書は人間を達觀せる偉大なる哲學者ショウ氏の人生觀で、苟も人生の眞相、人生の歸趨を知らんとする讀者に取つてはこれ以上のものはない。

四六判總布製 定價 貳圓七拾錢 郵稅十二錢

上卷十九版 下卷十版

慶應大學教授 戸川秋骨譯

エマーソン論文集

近代に於ける最も幽玄にして最も健全なる思想家はエマーソンである。加之其文辭最も簡潔にして又最も雄勁、句々みな座右の銘とするに足る。譯文亦精確、苟も靈性の向上を志ざすもの丶必ず一讀すべき名著である。

四六判總洋布製 ▽上卷 定價參圓 ▽下卷 貳圓五拾錢 郵稅各十二錢

東京本郷西片町 玄黃社 電話小石川一三九番 振替東京七九九五番

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

緊縮の原則の檢討

緊縮に原則の有無が問はれる。その原則が個人的克己節欲主義のものならば、それは及ばざること絶望的な時代錯誤物だ。その原則が特權階級の利己主義の一變裝であるならばそれは社會犯だ。原則がその兩者の範圍内のものであるならば遠からずして時がこれを實驗し、前者は無能故に全大衆の失望を、そして輕蔑を買ひ、後者はその利己主義の暴露故に無産大衆の新義憤を刺戟する。

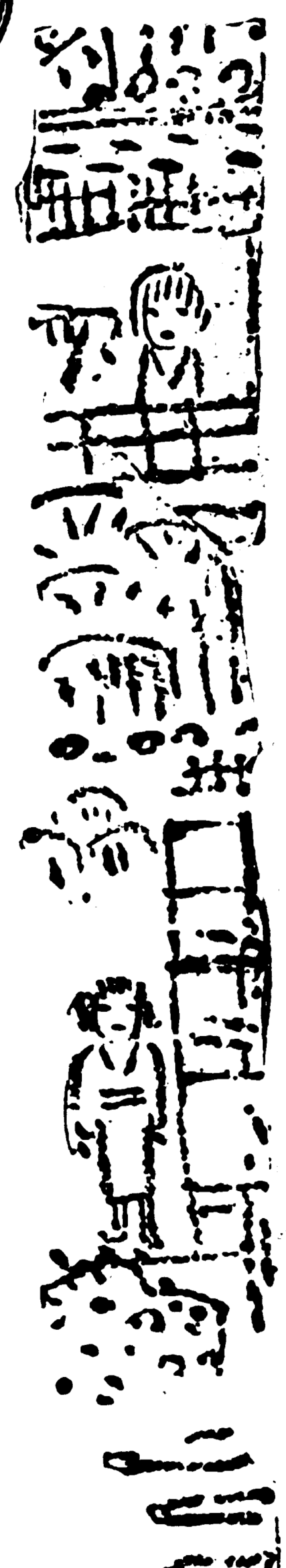
緊縮の原則が道德主義に存する限りそれは失敗だ。それは前産革時代の社會經濟の原則たりえたものに過ぎない。現代にあつては、それは私經濟の一規則たりうるが公經濟の原則では斷じてありえない。現代の經濟は科學、機械を方法とする。社會のためにこれを、この無心物を酷使することが現代政治の要務であらねばならん。

消費制限は、生産が大事な人間の時間、精力をあまりに要求するが故に、人性全的、人生全的經濟から見てばからしい場合——前産革時代はこれ——か、無原料の場合かに限つて合理的だ。單なる購買力の不足は決してそれを正當化しうるものでない。然るに、現制は、またそれの一適用たる目下の緊縮は、信用、金融、購買力、錢を社會的見地に立つて改革する根柢的用意をばすこしも持たない。

斯かる緊縮によつては失業が必然增大する。いな、失業の增大は、もしもそれが失生計を意味しないならば現代に於ては奬勵すべきものだ。その業が勞働である場合の事だ。しかし、それは目下の事情に於ては當面應急の考察たる價値を持たない。要は、緊縮は官邊、行政の方位を起點として、すべての非社會的な費用、不生産的な費用に大斧鉞として斷行さるべきにある。そして、社會的價値あるすべての生産をば進んで勇敢に保護、奬勵すべきだ。その條件として、分配の方法を社會化することの必要は勿論だが、生産及び分配を規定する金融機構そのもの、信用組織そのものに社會化の大洗禮、變革を與へる必要がある。しかし、これはすでに現內閣に要望すべき限界外だ。現內閣にして眞に生き凌ぐ意思あらばその根本的再生をはかるほかない。これが絶望であるところに、無産黨、及び未生新興黨の存在理由がある。

十　版
近代に於ける最も幽玄にして最も健全なる思想家はエマーソンである。加之其文辭最も簡潔にして又最も雄勁、句々みな座右の銘とするに足る。譯文亦精確、苟も靈性の向上を志さすもの必ず一讀すべき名著である。
各十二錢
M562
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

LIBRARY OF THE UNIVERSITY OF CALIFORNIA



大學の顛落

森戸辰男

本稿は去る六月二十九日京都帝國大學講演部の囑に應じ、同大學においてなした講演の手稿に基づくものであり、從つて講演體が保存せられてゐる。その內容はさしあたり講演の特殊の事情、就中、その聽衆によつて條件づけられてはゐるが、根本的には我社會、我文化の一大問題として一般的重要性を有するものと信ずるが故に、ここに本誌を通して廣く世人に問ふ次第である。

一

もう六年になるが、私はかつて本大學において『思想と鬪爭』と題する一場の講演をなしたことがある。私の記憶にして誤りなくば、當時、親しく私を演壇に紹介して下すつたのは河上教授であつた。しかるに、いま、私は嘗てのやうに同教授によつて紹介せらるるの光榮を持ちえないのはもちろん、本大學の一教授としてさへ彼れを見出しえないのである。當時を想ひ現在を稽へ、私の胸底に一種の感慨と物足らなさがあるとしても、それは諸君の理解しえぬところではあるまい。いふまでもなくこれは私一個の個人的感情である。しかし、理由こそ違へ諸君の心の奥にも亦、卓拔な學者、眞摯なる眞理の探求者、無產階級のための勇敢なる思想的戰士としての河上教授の大學よりの喪

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

もう六年になるが、私はかつて本大學において『思想と闘爭』と題

『階級のための勇敢なる思想的戰士としての河上教授の大學よりの

失に對して、私のとほゞ相似た感慨の渦卷いてゐるのを想見しうるやに思はれる。

人間は自分の立つ地位を動かぬものと假想し、屢ゝ去來し隆替する他人の運命についてのみ考へがちである。諸君は大學を去り行く河上教授を心から愛惜されたに違ひない。さうして多くの諸君はこの運命を阻止すべく積極的の努力をさへ惜まれなかつたと聞き及んでゐる。だが、その如何を問はず、諸君のすべてに係はる最も直接にして眞劍な問題は、一河上氏の大學教授の地位よりの失脚それ自體ではなくて、却つて、それによつて象徴されてゐるところの諸君の大學の文化史的地位の頽落でなければならぬ、と私は考へてゐる。

河上教授の辭職は切離された個々の事件として考へられてはならない。それは我國における（二十九字削除）大學の學園において産出しつつある一聯の諸事象のシムボルである。吾々は、かの學生社會科學運動の迫害に關聯して學生生活の諸部面に加へられつつある當局の壓迫と共に、屢ゝ囂々たる輿論の反對の間に、ヨリ多くはしかし輿論の背後において隱密の裡に、或は東京に或は京都に或は九州に或は北海道に、多數の學生とかなりの數の教授とが大學の校門から放逐されたことを知つてゐる。彼等はいはゞ、、、、教授としての、學生としての地位を奪はれたのである。彼等はまさにその地位を失墜した。而も大學は厳然として昔の如く此處に屹立してゐる。時計臺と大講堂は増の地方から笈を負うて學問の聖域と考へられてゐるこの大學を目指して蝟集しつつある。大學は厳然としてもとの如く此處に屹立し、それは金城湯池であるかに見える。諸君は磐石の上に立つと信じつつ、「墮落し行く天使」だちを愛惜の情を以て見送られたのである。しかし私は敢へて諸君に問ひたい、ヨリ深い意味において地位の頽落を經驗したものは、彼等であるか、はたまた大學其者であるか、と。たとへ不幸なる戰火がその時計臺と大講堂とを粉碎したとしても、未だそれは大學の頽落ではない。と私は考へる。嘗て東京の大震災が東京大學の圖書館とそれの數萬卷の藏書とを灰燼に化した場合にも、大學の地位には聊かの動搖もなかつたではないか。にも拘らず私は今、少數異端者の退出といふ、見方によつては殆んどとるに足らぬ出來事によつて、我國大學の頽落といふ文化史上の一大事件が象徴されてゐると主張するのである。此の如き大膽な――多くの人々によつては亂暴とさへ見える――主張をなすからには、之を基礎づけるなにか根本的な理由がなければならぬのである。

二

大學の頽落を語るには、まづ、頽落に先き立つて大學の占め來つた地位を明かにしておかねばならぬ。大學は在來我國の文化史上に如何なる地位を占め來つたか。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

最尖端に立つ深奥の知識が攻究せられ、教授せられてゐることが期待されてゐるからである。我國の大學制度も亦略ぼ同じ任務を大學に課してゐるものの如く、既に明治十九年の我國最初の大學令は、帝國大學の目的が「國家ノ須要ニ應ズル學術技藝ヲ教授シ及其蘊奥ヲ攻究スル」ことに存する旨を規定してゐる。（帝國大學令第一條）大正七年帝國大學令に代つた大學令においては、官・公・私立の大學が制度上承認せられるに至つたが、しかし大學の目的に關しては「兼テ人格ノ陶冶及國家思想ノ涵養ニ留意スベキモノトス」といふ他の見地からは頗る注目に値する副目的の追加を除いては、本質的には帝國大學令の規定が繼承せられてゐるのである。（大學令第一條）單に世間の認識と制度上の所期とにおいてのみならず、事實の上においても亦我國の大學は、わけても帝國大學は、久しい間我國學界における專門的權威の集合所であり、そこでは我國の發展段階にとつては、たとへ最尖端でないにしても、極めて上層に位する學術技藝の理論および應用が攻究せられ、教授せられて來、そこからの卒業生は單に學問上においてだけでなく、法律、政治、經濟、産業等の諸の領域において明治大正における新日本の國家および社會の完成に方つて壓倒的な役割を果し來つたのである。かやうな意味において大學は久しき間我國における最高學府として我國文化の指導的地位を占め來つたのである。

私は我國文化といふた、しかし生活の土壌から切離された抽象的な文化は存在しない。では、大學が指導的役割を果し來つた我國文化は如何なる型の文化であつたか。このことはまた大學令の中に見える「國家」なる文字の解釋にも關聯してゐるやうに思ふ。即ち、大學の目的は「國家ノ須要ニ應ズル學術ノ理論及應用ヲ教授シ、並ニソノ蘊奥ヲ攻究シ」「兼テ……國家思想ノ涵養ニ留意スベキモノ」であるといふ。私は嘗て此壇上から、大學令に於るこの國家に果して人類の共同社會の意味に解すべきか、はたまた我國現在の（十字削除）國家の意味に解釋すべきかといふ、大學の文化史的使命にとつては決して輕視し難き疑問を提出したことがある。實際、六年以前にはまだかやうな問題を提起しうるほどの餘地が存してゐたのだ。さうして私の記憶にして正しければ、聽衆諸君は後の解釋、即ち、大學は我が、、、、、、、、、國家に須要なる學術の理論及應用を教授し、茲にその蘊奥を攻究し、兼て、、、、、、、、、、、、、、、に留意すべきものであるとなす解釋については、笑殺によつて之に答へられたのであつた。然るに、其後に起つた諸々の事件の結果として、吾々は今日斯の狀態に立至つてゐるのである。いまや疑もなく、大學は（十字削除）者の之に對する解釋について、も早なにらの疑義を挾む餘地を存せぬイデオロギイの最高の學府であり、（十字削除）文化の指導機關であるのである。

とは云へ、大學と我が（十字削除）國家及社會との間におけるかやうな密接不離なる關係は、久しい間大學が我國文化史上に占め來つた優越なる地位を傷けるものではない。むしろその故にこそ大學は我國

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

文化の指導的地位に立ち、所謂最高學府たりえたのである。といふのは、封建の夢から醒めた我國民に課せられた最高の文化史的使命は、何よりも先づ、資本主義的國家及社會の建設であつた。資本主義は我國における文化進展が經由すべかりし必然的な文化段階であつたのである。故に我國における大學は單に（十字削除）國家における最高の文化機關であるのではなく、恰もそのことのために、久しい間我國文化の發展史上において光輝ある指導的地位を享受し來つたのである。この意味において大學は長い間名實ともに我國における最高の學府であつたといふことができよう。

三

然るに大學の此の如き文化史的地位は、數年來頗る不安なものとなり來つた。それは世界史における新局面の展開とともに、我國民大衆にとつてもまた漸く新なる文化史的展望が開け、資本主義の彼方の世界の存在が認識され始めて來てからのことである。ヨーロッパにおける無產階級運動の躍進、資本主義の（十一字削除）新社會に對する大衆の熱意と（十一字削除）に向つての無產階級の迫進とその、、、、、、、、、、、等々、これらの劃期的な諸事件は、極めて少數の所謂主義者たちによつては疾くに指摘されてゐたところの、、、、、、、、横はる新なる社會、新なる理想、新なる思惟、新なる學問、新なる文化の存在を大衆に意識せしめたのである。我國における資本主義の進展によつて既に下準備をされてゐた我が無產大衆はこの新なる社會、新なる理想、新なる文化、新なる科學に對する鋭い感覺と敏い理解とを示し、（三十三字削除）この時以來、（十一字削除）新社會、新理想、新文化の問題は我が社會の現實喫緊の問題となつたのである。

大學はその脚下に現出したこの新なる世界、新なる文化に對して、いかなる態度を採るべきか。大學は久しく我國文化の指導的機關であつた。だがそれは、既に述べたやうに、資本主義が封建主義の彼方に横はる新世界、新文化、新理想であつた限りにおいてであつた。然るにいまや、、、、、、、新なる世界、新なる文化新なる理想が啓けんとしてゐるのだ。この時においても亦大學は我國文化の指導者たるの意味において最高學府たらんとするか、また、たりうるか。これは現代が大學に問ひかけたところのスフィンクスの謎である。

當初において大學はこの謎の重大性を十分意識しなかつた。それは極めて漠然と、新しき時代においても亦、最高學府としての在來の文化史的地位を維持しうるかの如くに信じた。それは往々新しき世界にコケットするものの如くにさへ見えた。だが、それは束の間であつた。といふのは、いかに觀念的にものを考へる人々にとつても、新しき世界、新しき文化の展望が無產階級の階級鬪爭の進展に條件づけられてゐること、舊世界、舊文化の傍に生起せんとしてゐる新世界新文化の存立が（二十八字削除）を主導としてゐること、從つてこれら兩世界、兩

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

文化も亦、、、、、、、、、、、、に立つてゐることが、久しく發見されずにあることは不可能であつたから。それ故に、大學はそれが統一的な存在である限りは、封建主義に對して資本主義文化の最高學府であり、それと同時に資本主義に對して社會主義の最高學府であるといふことの絕對に不可能なることが明かになつた。ここでも亦問題はあれもこれもではなくて、あれかこれかであつた。かくて大學は運命の十字路に置かれたのである。若し大學が新なる局面に處してもなほ在來の文化史上の指導的地位を保たうと思へば、それは新なる世界、新なる文化、新なる思惟にその門戶を開放し、此處においても亦その優越的な地位を確立することに努力すべきであつた。しかしさうすることによつて大學は多くの點において資本主義的文化の最高學府なる特質を喪失するであらう。之に反して、もしも、大學が殘された一つの他の道を辿り、（十字削除）國家の最高學府として留まらうと欲するならば、大學は新世界、新文化、新科學に對して門戶を閉鎖すべきであるのみならず、資本主義とその學問的最高機關たる大學の權威を、、、ところの新しき文化、新しき思惟の克服のために鬪爭しなければならない。かくすることによつて、しかし、大學は我國文化の指導的地位から顚落せざるをえないであらう。

　だが、この二者擇一は自由意志に從つて大學の行ひうるところではなかつた。大學は社會の上に浮んだ抽象的存在ではなく、一個の社會的な、我國においては一個の國家制度上の、存在である。從つてそれの任務はそれが存在する社會および國家によつて規定されざるを得ないのである。それゆゑに我が大學の新世界、新文化、新科學に對する態度も亦、本質的には、我國の資本主義社會、それを代表する、、によつて決定されるのであり、さうしてその指定さるべき使命たるや、またおのづから明かなのである。といふのは、舊社會は根本的に新なる文化、思想、學問に對して略ぼ相似た態度を史上に繰返し來つてゐるから。

四

ギツトフオーゲルは新なる文化・思想・學問にほかならぬ「、、、、、、、思想」が階級的な舊社會に認容される道程を「（一）默殺（二）嘲笑（三）排擊（四）降服の四段階」に分けてゐるが、私は他の機會に之に關聯して次の如く書いたことがある。（大原社會問題研究所雜誌第九册拙稿『マルクス・エンゲルスのイデオロギイ觀㈡』）かやうな定式化の當否に關する原理的な問題はしばらく措き、歷史上のおよび目前の多くの事例は、新思想の社會的旅程の大筋が多くの場合上記とほぼ相似たものであることを物語らぬであらうか。事實において根本的な意味で新たな──それは多くの場合同時に、、、であるのだが、──思想はその發生の當初には、舊社會によつて無視せられ、默殺せられるのを常とする。しかし沈默が此の如き思想の成長を阻止することのできないのはもちろんである。そこで舊社會はいやいやながら之に對して何

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

、、ところの新しき文化、新しき思惟の克服のために鬪爭しなければならない。かくすることによつて、しかし、大學は我國文化の指導的地位から頽落せざるをえないであらう。

だが、この二者擇一は自由意志に從つて大學の行ひうるところではなかつた。大學は社會の上に浮んだ抽象的存在ではなく、一個の社會的な、我國においては一個の國家制度上の、存在である。從つてそれの事例は、新思想の社會的旅程の大筋が多くの場合上記とほぼ相似たものであることを物語らぬであらうか。事實において根本的な意味で新たな——それは多くの場合同時に、、、であるのだが、——思想はその發生の當初には、舊社會によつて無視せられ、默殺せられるのを常とする。しかし沈默が此の如き思想の成長を阻止することのできないのはもちろんである。そこで舊社會はいやいやながら之に對して何とか自分の態度を積極的に表明しなければならなくなる。さうして第一段において、ひとは侮蔑と嘲笑とによつて無造作に新思想を葬り去らうと試みる。いまだ舊社會が新思想の重要性を理解しない證據である。ところが、新思想はこの笑殺の戰法を嘲笑しつつ、、、、、、、、以て進展し、遂に舊社會の、、、、、、、、、、屢〻また、、、、、、、、さへが到來する。ここにおいて始めて舊社會は新思想の、、、、、、、、狼狽しつつも極めて眞劍な態度を以て之に對峙するに到る。かくて「排擊」の時代が——思想上では、支配階級的學者思想家による理論的排擊の、そして教育、宗教等の諸手段による通俗的排擊の時代が——實踐上では、、、、、、即ち、、、、、が、即ち、或は、、、、、、、、、、、、、、、、、、、の、或は、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、の、或は財閥による直接的經濟的な、、の、時代が始まるのである。

だが、、、、、、、、思想は思想的排擊によつて窒息させることもできず、實踐的排擊によつて壓死せしめることもできない。場合によつては、これらの手段は新思想を舊社會の公的場面から退散せしめることには成功するかも知れぬが、丁度そのために新思想はそれの本來の温床たる（十二字削除）、彼處に根を張つて再び芟除しがたく繁茂するであらう。あまつさへ、支配階級的立場よりする大童な理論的排擊は却つて所謂正統思想の理論的弱點と時代錯誤とを露呈することによつて新思想の（四十六字削除）その、、、を實證するかに見える。

かくて新思想は何物を以てしても、、することのできぬ、、、、、となるであらう。

けれども私の見るところに從へば、此の如き事情の下においてさへ、舊社會は決して本來の姿における新思想に降服することなく、從つてまた新思想はその本來の姿においては決して舊社會の公的思想とはならぬであらう。なぜなら舊社會が根本的な意味で新たな思想を公認するといふことは、畢竟、舊社會が、、、、、を、その、、、、、を、思想的に宣明することにほかならぬのだから。それ故に社會が新思想に降服するかに見えるのは、實は、それに先立つて新思想を代表する新興階級が（十四字削除）したことの結果、この新社會においてかの新思想が公認の思想たるに至る過程なのである。他方において舊社會における新思想の排擊は多くの場合直ちにこの新社會の出現に接續するものではない。舊社會は眞正面からの突擊が、、、、、、、する新思想の前に結局、、であることに氣がつく。しかも舊社會は（十二字削除）してはゐない。そこで舊社會は新思想に對する最後の努力を試みる。絕對的承認が結局、、、、にほかならぬことを意識するとともに、絕對的排擊の到底不可能なる次第を經驗するに至つたところの舊社會に殘された唯一の道は妥協・讓步のそれであらう。即ち彌縫によつて舊き皮囊を維持せんとの最後の企圖である。さうしてそれには次の二つの方法が數へられる。その一つは新思想における、、、、を除去し、若しくは緩和した上、舊社會が新思想への歸依を表明する

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

といふやり方であり、他はそれが依然として全體としての新思想に反對しつつ、新思想における多くの眞理的要素を公然又は隱然と自己の體系中に攝取することによつて舊思想を新裝するといふやり方である。もちろんこの舊社會の新思想に對するかやうな妥協は、新思想が、、、、、、思想である限り、極めて不安定なものたらざるをえないとは云へ、それは新思想が過渡時代において經過しなければならぬ一つの段階と認めらるべきであらう。」

此の如き、、、、、、新思想、新文化の一つとして吾々は資本主義社會における（六字削除）を擧げることができる。久しき默殺と笑殺の後に、この新思想、新文化に對して舊社會は、多くのヨーロッパ諸國にあつて今や主として妥協の段階にあるが如く、我國の現狀においてはいまだ主としてそれの排擊の段階にあるかに見える。さうしてかやうな情勢の下に、諸種の國家的社會的機關の中に立ち混りつつ我國の大學も亦、この民衆の裡に蹶起しつつある新なる世界・新なる文化・新なる思惟に對する排擊の一機關に身を墮したのである。嘗ては封建主義の超克の上に築かるべき我國新文化の指導者といふ光榮ある地位にあつたその大學が、今やその世界を（十四字削除）我國における新思想・新文化に對して背を向けるのみならず、進んでこの新思想新文化の、、をその任務となすところの一個の、、、、、、となりさがりつつあるのである。これぞまことに我國文化史上における大學の顚落でなくして何であるか。

五

何に基づいて、大學が新思想・新文化克服の機關となつたことを主張するのであるか。

數回の（十三字削除）以來、支配階級は「外來惡思想の流傳」に淵源する思想國難に對する「拔本塞源」の道を思想善導に求め之を以て治安文教の政治の眼目となし「この方針に基づいて、教育の內容の改善をはかるはもちろん、立法行政各般の施設にわたつて常に、、、、を期し、殊に靑年および學生生徒等をしてその方途を誤らざらしめんがために適當の施設をなし、また社會教育を振興せんがために特に行政機關の擴張を行ひ、各種團體の活動と相俟つてその目的を達せん」ことを企てたのであつた。さうして大學は眞先きにこの、、、、、、の鎗玉に上り、易々としてその一機關に身を墮したのである。

私は、、、、、といふこの無邪氣なる言葉の裏に、新文化、、、、、、、の含まれてゐるのを認めるものだ。何が故に之をいふか。

、、、は彼等の提唱するところに從へば、二つの中心的スローガンの周圍を廻轉してゐる。一つは唯物主義の排擊――精神主義の强調であり、他は外來思想の排擊――日本思想または東洋思想の振興である。

先づ第一の問題について考へて見るに、人々のいふ如く資本主義の世界は萬物物化の世界である。嘗てマルクスはこの眞を指摘して次の如く書いたことがある。「ブルジョアジイは それが支配權を握るに至つた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ところでは、すべての封建的、族長的、牧歌的諸關係を破壞した。それは人間を彼れの生れながらの上長に結びつけたところの色とりどりの封建的紐帶を容赦なく引きちぎり、そして人と人とを結ぶものとしては、ただ赤裸々な利害、冷酷な『現金勘定』以外の何者をも殘さなかつた。それは敬虔なる宗教的情熱や武士的な感激や町家的な感傷などいふ神憑りをば利己的打算といふ冷水の中に溺らせた。それは人格の尊嚴を交換價値に解消し、そして無數の特許された既得の諸自由權に代へて唯一つの無良心なる商業の自由を設定した。一言以て云へば、それは宗教的、政治的幻想を以て隱蔽せられてゐた搾取に代へて公然な、厚顏無恥な、直接な、露骨な搾取を置いたのである。ブルジョアジイは在來の名譽あるそして畏敬を以て見られ來つた一切の活動からそれの後光を剝ぎ去つた。それは醫者、法律家、僧侶、詩人、學者をば昔のおかかえの賃勞働者たらしめた。ブルジョアジイは家族關係からそのしほらしくセンチメンタルなヴエールを引き裂いて、純然たる一個の金錢關係に引き戻した。」とこれは一個の極めて厚顏無恥な所謂唯物主義ではないか。さうしてこの唯物主義の前には、洋の東西、皮膚の黃白の區別はない。日露戰爭後一大躍進をなした我國新興ブルジョアの唯物的傾向は、今日なほ「成金」なる語によつて吾々の間に生々しい記憶を喚び起しつつあるではないか。しかし當時、彼等の非難されたる唯物的傾向は主として個人的消費の方面に留まつてゐた。たとへ其後この方面においては、彼等の民衆に對する遠慮と何ほどかの趣味の精煉とによつて、幾分の變化が齎らされたとは云へ、同時に、ヨリ恐ろしい力を以て、ブルジョアジイの實踐的な物化傾向は我國の政治、宗教、教育、思想、學問、家族關係の全領域に滲透し始めたのである。今日これらの生活部面において黃金の力から獨立なる部分がどれだけ殘されてあるか。例へば、政治上において大官に纏はる頻々たる醜聞「見えざる手」に動かさるる政黨者流の集散離合を想ひ見よ。ブルジョア政黨すら反對黨として國民の後援を獲んとする限り、「綱紀の肅正」を絕叫せざるを得ないほどの事態に立ち至つてゐるのである。然かもこの時にあたつて「唯物主義の排擊」を提唱することは頗る時宜に適した策であるかに見える。たしかにそれは、直接、資本家階級又は國家から、、、、、所謂「宗教家や經世家」はさておくも、少くとも血の巡りの惡るい小市民や、資本主義か封建主義、、、、、、、、、、、、、、教育家や、、、、、、所謂憂國の志士を隨喜追隨せしめるには十分であらう。だが、吾々は問うて見る必要がある、それは果實に、資本主義の必然的現象であり、その爛發期において特に顯著になりつつあるこの唯物的傾向を克服せんとしてゐるのであるか、と。否此の如きは全然不可能である。何故なれば、此の如きブルジョア的唯物主義の克服はこれが根源たる、、、、、、、、、、、、なしには到底不可能であり、さうして、、、、、、、、、、、に均しい此の如き排擊を支配階級が敢てなさう筈はないからである。故に、謂ふところの『唯物主義の排擊』は明かにブルジョア的唯物主義の排擊ではないのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

では、排撃さるべき唯物主義とは何であるか。いふまでもなくそれはプロレタリア的唯物主義である。頽廢せるブルジョア文化、その利己的享樂的唯物的傾向の土臺たる資本主義其者を克服することによつて、これらの諸弊の根本的廓淸を達成せんとするところの無產階級運動の實踐的竝に理論的唯物主義である。支配階級は第一に無產階級の實踐的唯物主義を排擊せんとする。何となれば、無產階級運動はその日常鬪爭においては無產大衆の生活の向上を實現するため、何よりも先づ賃銀、俸給、小作料の引上げ、勞働時間の短縮、物價家賃の引下げ等の物質的諸利益の追求に全力を傾倒する、さうしてそのことは結局いづれかの形において資本家の利潤を減少せしめることにならざるをえないから。玆にこそ全策動の最奥の秘密が伏在してゐるのである。しかし精神的な資本家はこの嚴然たる物質的事實には眼を蔽うて、亡び行く精神主義のためにのみ流涕する。勞働者がパンのことのみを考へて精神のことを考へず、さうして人はパンのみにて生くるものにあらずと敬虔なる長大息をなし、協調主義の御用思想と精神的な修養講座によつて勞働者をこの恐るべき唯物禍から救濟せんとしてゐる。なるほど今日の自覺した無產大衆の諸要求は、一面においては極めて露骨に物質的である。何故なれば、彼等は未だ大衆としては修養を云ひ、學問を論じ、藝術を要求するほどの生活の餘裕を持たないのだ。「人間は支配を爭ひ、政治や宗教や哲學をやる前に、何を措いても食ひ、飮み、住み、着ねばならない。」不幸にして我が國の無產大衆は未だ此の如き窮乏の中に遺棄せられてゐるのである。故に、今日における無產階級運動におけるこの物質的傾向は社會的に必然的であり、さうして合理的である。、、、は無產大衆の搾取の上に立つ剩餘價値の獲得者であればこそ生活の餘裕を得て、所謂精神主義者となり、修養を談じ、學問を樂しみ、藝術を享樂することができるのである。たとへばその修養が某々行者への信仰であり、その學問が講談本の耽讀であり、その藝術心が『三十六人集』の山分けであるにしても。かくて吾々は、ブルジョアジイが無產大衆の唯物的傾向を批難すべき何等の道德的權威をも持たぬことを知りうるのである。

諸君、私は現代我國における無產階級運動の實踐における物質的傾向を以て合理的であるといふた。これには深いわけがあるのである。少しく以前、政府の一官廳は我國の資本主義にとつて容易ならざる一事實を發表した。それは內閣統計局の發表した第四回生命統計表である。それによれば、我國民の死亡率、特に幼兒と二十歲前後における青年男女、就中、女子のそれが世界の文明國中の随一であり、從つて平均壽命も亦世界の文明國中最短のものであるだけではなく、この狀況は平均的には明治二十四年以來改善の徵を見ないのみならず却つて惡化の勢を示し、殊に、零歲および二十年における男女の死率は各時期を通じて顯著なる遞增をなしてゐるのである。諸君、、、、、、、、、の資本閥が肥大し、宏壯なるビルヂイングと大工場とが所在に簇生し、無數の飛行機と潛水艦と自動車とが空水陸の三帶を征服し、數

多の大學と高等諸學校が增設され、國威が世界に發揚されつゝある間に、つまり、我國資本主義が蹊々として内外に繁榮しつゝある間に、(十七字削除)、幼兒と靑年の死亡率は年一年と高まり、日本人の壽命は日一日と縮まり行いたのである。

何が故であるか。一般に國民死亡率の高率なるとは、國民大衆における生活の窮乏、過勞、營養不良、不健康なる環境等の存在を指示する。靑年男女の死亡率の急激なる上昇について下條統計局長は「これは靑年期に結核死亡の多數あることおよび工場勞働の急增に衛生設備の伴はないことなどの不健康にもとづくものと考へられる」と説明してゐる。世界に類例の稀れな靑年女子の死亡率の高率は我國の首要產業たる纖維工業における女工の搾取と密接なる關係を持たないか。不良なる工場寄宿舍は屢々結核を製造して農村への傳播する中心地とさへ云はれてゐるではないか。不良なる條件の下に長時間過激な勞働に服し、低廉なる賃銀の故に、營養不足し不健康なる地域に建てられた不良なる住宅に住み、淸楚なる休養と十分なる醫療を享け得ない彼等の壽命が、これら諸條件の作出者である資本主義の進展と共に益々縮まり、その母性が荒廢し、幼兒死亡の增大するのは何の不思議もないことである。して見れば、我國民の平均壽命が著しく短かく、のみならず益々ヨリ短かくならうとするかにさへ見えるのは、(七十四字削除)古人はかやうな人身御供一つ二つを要求するのをさへ妖怪と呼んでおぢ恐れた。それの幾十萬數百萬を貪食する怪物が今日白晝吾々の面前に立つてゐるのである。而も現代の支配階級はこのモロクに對しては、全然無力である。諸君の知らるる如くさき頃、彼等の一フラクションたる民政黨は國民生活の(十四字削除)、、、、、狂的な喧噪を捲き起したが、恰もその時、無產大衆の血によつて書かれ、國民の將來にとつて寒心すべきこの數字が發表された。さうして彼等は目を蔽うて之を默過したのである。しかも彼等は民衆のための政治を、、、、、、、と稱してゐるのである。が、深く考へて見るまでもなく、それはその筈で、すべてのブルジョア政黨は與黨も野黨もこの數字に明示されてゐる國民の災禍を曇らざる良心を以ては糾彈し得ないのだ。(五十七字削除)

獨り無產階級運動のみが、さうしてまさにそれの物質的傾向において、資本家の搾取に抗爭して大衆のために高き賃銀と短き勞働時間とヨリよき生活條件に向つて鬪ふことによつてこの、、、、、、、に努力し來つたのである。之に反して資本階級は大衆の生活苦を和げ健康を保全し、生活を充實し、生命の浪費を防ぐためにする諸施設に對して——或は賃銀の上昇又は維持において、或は勞働時間の短縮において、或は危險防止設備の設置において、或は寄宿舍の改善において——頑強に反對し、以てこの(十字削除)を育成助長しつゝある。我國における勞働保護法の制定および改正の經過、勞働組合法案小作法案の運命等等を想起せられよ。今日、國民大衆にとつて第一に必要なるものは、深遠なる哲學でもなく、高尙なる藝術でもなく、幽玄な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る宗教でもなく、何よりも先づ生活の餘裕であり、傷つけられたる健康の回復であり、亡びつつある物質的生命の取戻しである。彼等の此物質的要求に應ふるとこそ現代の急務なのだ。然るに彼等の魂のために憂うる敬虔なる資本家は片々たる御用布教師の説教と修養講話とを彼等に贈る。魚を求める者に石を與へるとはまさにこのとではないか。之れに對して無産階級運動のみよく終始一貫國民大衆の生活と健康と生命との防衛と伸張とのために闘爭して國民の生命をその破滅より擁護し來つたといふ輝ける歴史を有つのである。さうしてこれが謂ふところの彼等の運動の唯物的傾向なのである。無産階級の實踐的唯物主義の文化史上におけるこの、、と公明とに對して、、、、、の一辭柄たるにほかならぬ資本家階級の精神主義の如何に卑陋にして僞善的であることか。

六

無産階級の實踐的唯物主義に劣らず、支配階級の排撃するものはその理論的唯物主義である。さうしてこの無産階級の理論的唯物主義とは唯物史觀を中核とするマルクス主義にほかならぬのである。序ながら、此處にいふ理論的唯物主義は諸君の知らるる通り、利己主義と相同じい倫理的唯物主義と全然別物である。今日我國では物質的利益の、犧牲なしにはマルクス主義の信奉者たりえない。この信仰の告白はよし彼等を(二十九字削除)・之に反して理想主義を名乘ることは却つて保生の近道である。如何に多くの修養と學問との呼賣人が唯物主義の排撃と精神主義の提唱とによつて彼等の物質的利益をポケットに取り込みつつあることか。即ち倫理的見地よりすれば、今日の我國では唯物主義は多くの場合理想主義的であり、理想主義が却つて唯物主義的なのである。若し唯物主義が倫理的意味において批難されるのであれば、その批難はたしかに理論的唯物主義者にではなく、却つて理論的理想主義者にこそ向けらるべきであらう。

だが、吾々の問題は理論的唯物主義と呼ばるるマルクス主義である。さうしてそれの遵奉の故に河上教授が、さうして其他幾多の教授學生が大學から放逐せられたことは諸君の熟知するところである。支配階級は何故にマルクス主義の唯物論をかくまで排撃するのか。私は今日ここで諸君に向つてマルクス主義の講義をするつもりはないが、要するにそれはマルクス主義が現代における資本主義の實相を如實に反映する、、の科學であるからである。即ちマルクス主義は、、、、、人類社會の(五字削除)を指摘し、資本主義の機構を曝露し、その、、、、を論證し、同時にまた無産階級解放の、從つてまた新社會・新文化建設の諸條件を闡明するのである。さうしてこのことのために、然り唯このことのために、それはブルジョアジイおよびその理論的代辯者にとつて「一個の無氣味たる不詳科學であり、「一つの、、であり、、であり」從つてまた排撃の對象ともなるのである。何故ならそれの思惟方法は「現存事物の肯定的理解のうちに、同時にまたそ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

犠牲なしにはマルクス主義の信奉者たりえない [illegible]
し彼等を（二十九字削除）。之に反して理想主義を名乗ることは却つ
らそれの則推方法は「現存事物の肯定的理解のうちに、同時にまたそ

の否定の・その必然的没落の・理解を含め、あらゆる生成した形態を運動の流れにおいて、それゆゑにまたその暫時的な方面から、把握し、何物によつても畏伏せしめられず、その本質上批判的であり、、、であるからである。」さうして支配階級が理想主義を遵奉するのは、根本においては、それが眞實なる認識であるがためではなくて、實は、それがマルクス主義の對立物であり、從つてマルクス主義の透徹せる理論が大衆を捉へて一個の、、、、たらんとするのを防止するに恰好な精神的手段であるからにほかならぬ。彼等の社會的な學問に對する配慮は、如何にして眞實の改造に不可缺なる、、なる改造理論を否定せんかに集中してゐるのである。

故に、所謂唯物主義の排撃、精神主義の强調の僞はらざる姿は、無產階級的思惟並に實踐の排撃たることに存する。無產階級の運動は國民大衆をば、それに襲ひかかつてゐる肉體的頽廢と政治的、道德的墮落から救ふべく努力して居り、無產階級の理論はこれら（八十七字削除）、從つて無產階級解放の條件が、成熟しつつあることを闡明して無產大衆に自己の社會的地位と、、、、とについての正しき認識を與へ、以て彼等の行動の誤りなき指針たらんことを志しつつある。此の如き無產階級的思惟並に實踐の排撃は、だから、（十七字削除）新社會、新文化を建設せんとする思想及運動に對する侵撃であり、それ故にまた、（六十字削除）その頽廢的唯物的傾向の支持・擁護以外の何者でもないのである。

七

思想善導の第二のスローガンは外來思想の排撃＝日本思想又は東洋思想の振興であるが、これまたその本質においては、無產階級的思惟並に實踐の排撃以外の何者でもなく、唯それが此處では國粹主義によつて粉飾されてゐるといふ點において前者と違ふばかりである。外來思想の排撃、自國思想の高揚——これこそ理論と條理の爭ひに破綻した政治上および思想上における煽動家（デマゴーグ）の慣用する最後の奥の手ではないか。たしかにそれは國民の理性に訴へる代りに、その、、、、、、、を挑發するのには、同情と和親に導く人類的感情を振起する代りに、人種的、國民的（十字削除）、またとない屈竟な精神的手段であるに違ひない。だが吾々の擔うてゐる重大なる文化史的使命の一つは、まさにこの盲目的な本能と原始的な偏見とから人類を解放することに存するのではないだらうか。

それはともかくとして、支配階級の排撃せんとする外來思想とは一體何であるか。我國の社會が資本主義の上に立つてゐることは、今日誰しも之を疑ふものはない。さうしてそれは政治的には、また、ともあれ一個の立憲國だ。ところで、この資本主義、立憲主義の思想・制度は外來制度、外來思想であるのか、はたまた我國固有のものであるのか。答は明瞭である。卽ち何人もこれらのものが近々百年來、五十年來我國に輸入された泰西の制度、思想であることを否定しえない

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あらう。しかも外來思想の排撃者はこの明白なる外來の制度・思想を排撃せず、恰かもそれが千古の昔から我國の存續し來つた醇風美俗であるかに取扱ふのだ。さうしてそれの理由としては、それが、、、、、制度・思想であるといふ以外には、何等承服するに足る論據を吾々は捜しあてえないのである。之に反してその對立物たる社會主義についてはどうであるか。私の研究所では最近『日本社會主義文獻』を編纂しつつあるが、單にこの事實からも觀取しうるやうに、彼等がその外來性を論難しつつある間に、我國の社會主義は、すでにその研究のために一個の文獻誌を必要とする程度の歴史的存在となり畢つてゐるのである。實際において、資本主義や立憲主義の我國への移入は社會主義の移入に先立つこと僅々二、三十年を出でないのであるから、それらの立場に立つ者は少くとも外來思想の故を以ては社會主義を排撃することはできない筈である。にも拘らず、彼等にとつては社會主義こそ外來思想中の外來思想であつて、從つて何よりも先きに排撃されなければならぬ思想なのである。さうしてその理由も亦簡單である、即ち社會主義が無產階級思想並に運動であり、それ故にまた資本主義にとつての、、、的な思想並に運動であるからに外ならぬ。して見れば外來思想云々は支配階級が（十一字削除）と訴へて國民大衆を（十五字削除）、それによつて彼等は一方では、、、、思想をば恰も大衆みづからにとつての日本思想、東洋思想である、、、、、、、、他方では無產階級的思惟をば國民大衆の（二十六字削除）

彼等は東洋思想・日本思想の顯揚といふ。だが、今日我國における多數の無產大衆および青年學徒の間に鬱勃として興起しつつある新なる思想は日本思想ではないのか。これら新思想の抱懷者も亦まがふかたなき日本人である。若き日本を代表するこれらの日本人の思想が何故に日本思想でありえないか。隣邦若き支那に、若き印度に、若き土耳古に、若き、、に澎湃たる新なる思想は東洋思想ではないのか。これら新思想の抱懷者も亦正真正銘の東洋人である。若き東洋を代表するこれらの東洋人の思想が何故に東洋思想でありえないか。これらすべてにも拘らず彼等は唯々否と答へる。さうしてその理由を釋明して彼等は曰ふ、吾々の謂ふところの日本思想・東洋思想とはすべて日本人・東洋人の抱懷する思想を無差別にしか呼ぶのではない、それは日本人に固有の、東洋人に固有の、思想を言ふのである、と。

然らばこの意味においての日本思想・東洋思想とは何であるか。制度・思想が天來のものでないと解する限り、それは民族の歴史的發展の所産にほかならぬのだが、此の場合、彼等は眞實に各民族、各人種に特質的なるものを眼中に置きつつあるか。否、彼等は傳來的文化の諸要素中において、或場合には無產階級的思惟と異るもの乃至それと相容れざるものを探し、他の場合には、資本主義と異るもの乃至それと相容れざるものを尋ね、之を抽出して日本又は東洋に固有の文化・思想と呼ぶのである。從つてそれは種々の國民に特有な言葉と情調とを以て表現されてゐるとは云へ、その本質においては、常に資本

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

[redacted]
他方では無産階級的思惟をば國民大衆の（二十六字削除）[redacted]
調とを以て表現されてゐるとは云へ、その本質においては、常に資本

主義に先立つ諸文化段階によつて遺されたところの、多くの民族に共通な諸思想中、或場合には資本主義に對して、他の場合には社會主義に對して、動員されうる思想的諸要素にほかならぬのである。この見地からして吾々はまた、日本又は東洋固有の思想として強調されつつあるものにおいて、何故に、搾取と壓制との存在せざりし、、、、、の文化的遺産からは、それに本質的な進歩的諸要素が悉く入念に陶汰せられて僅少の反動的要素のみが云はば裝飾的に保持せられてゐるに反して、大衆の搾取と壓制の上に立つところの奴隷經濟や封建制度よりの諸イデオロギイの大群が仰々しき能書附きでところ得顔に横行濶歩してゐるかの理由をもたやすく理解しうるであらう。例へば、日本又は東洋の思想の云爲せられるとき、常に持ち出されるところの、、の思想、、、、、、、、、、、、、等等の封建的特質を想起されるがよい。ブルジョアジイと封建的イデオロギイ!?　この組み合はせを諸君は奇異に感ぜられるのか。しかしブルジョアジイが封建制度に對して眞實に闘爭したのはそれの新興時代においてのみであつた、やがて資本主義が爛熟し、一方では金融寡頭の云はば資本家的封建制が確立し、他方では無産階級の闘爭が彼等の存在の、、、、、に至るや、彼等は一つには無産大衆を馴致する思想的手段として、二つには封建的殘存諸勢力への誠意と結盟の證左として、封建的イデオロギイの高貴と尊嚴とを高唱するのである。

要するに、ここにおいてもまた外來思想と固有思想との對立は啓蒙されざる民衆を（十五字削除）、資本主義擁護のためにする無産階級的思惟並に實踐の排撃・克服こそがその眼目とするところなのである。

八

文化史上において以上の如き反動的役割を演ずるところの思想善導の一機關にまで所謂「最高の學府」は顛落したのである。だがそれは狹い意味での大學當局、即ち總長、部長、學生主事等についてのみいひうることではないか。教授諸先生は自己の良心の命ずるところに從つて、威武に屈せず、富貴に淫せられず、ひたすら學術の蘊奧を攻究し、眞理の奥殿を訪ねて、その成果を學生に教授しつつある。彼等が恰も、、、、、、、、、、、、、、、そのスローガンに合致するやうに、彼等の教授する最高の學問知識を適應改變するかの如く主張するのは諸先生に加へられた許しがたき誣言である。大學の行政は或は思想善導の一機能を發揮しようとするかも知れぬが、そこに攻究せられ教授せらるる學術の理論並に應用は、斷じてこの思想善導とは沒交渉である。（十一字削除）それのみが吾々の關心するところの大學の任務であると。かく諸君は私を反駁されるかも知れぬ。果してさうであるか。

今日、大學の彼方の世間では虚僞はむしろ生活の常態である。私はこの場合、他人を欺かんとの故意を以て犯さるる自由意志的な虚僞を主として眼中においてゐるのではない。問題は、その

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

不眞實を知りつつも何等かの（十字削除）意識的又は無意識的に犯さるる云はば、、、、、、にある。さうしてその基底において、、、、、、、、を藏する現社會は、道德・宗教の世界においても、政治・法律の世界においても、經濟・社交の世界においても、上記の虛僞なしにはその存立すらが既に不可能なのである。まことに虛僞は現社會に必要なる本質的制度であるかに見える。かくてマックス・ノルダウは現代文明の諸疾患の根本原因を『習慣的嘘』に求めて居り、他の見地からではあるが、或る學者は『嘘の効用』をさへ說くのである。資本主義の下においては研學の仕事も教育の仕事も一個の生活のために職業と化し、それは本質的にはかの活辯やアナウンサアやの職業と何等異るところがなくなつた。彼等の職業は、雇主又は注文主が彼等に與へたプログラムの、、・、、の批評ではなく、唯忠實にこれを實行することにある。さうして彼等はその生活を斷念しない限り、彼等が（十三字削除）をもまことしやかに說明し、放送せざるをえないのである。ところで、同じく職業化した學問業、教育業のみが獨りこの社會の大勢からその「名譽ある孤立」を保持しうるであらうか。必ずやここでも亦、嘗てマルクスがブルジョア經濟學について指摘したるが如く「この學理が正しいか、あの學理が正しいかが問題ではなくて、それが資本のために役立つか害になるか、好都合であるか不都合であるかが、、、、、、觸れるかどうかが問題であり、利益を超越した研究の代りに御用的な論難攻擊が現はれ、囚はれざる科學的考察の代りに、辯護のための疚しき心と、、、、、とが現はれる」であらう。だが、俗世界におけるこの墮落は、大學といふ學問的聖地に行ひすましてゐる學問的聖者の眞理への獻身的態度を棄すことはできないとも考へられる。さうして吾々も亦之を承認して差支ない。といふのは、吾々の暴露は、主としてこの又はかの個人の道德的罪惡に向けらるべきではなくて、むしろそれらの土臺をなしつつある社會的、、の根本的事實に向けらるべきものであるのだから。個々的のそれであれ、集合的のそれであれ、、、、、を問題とする限りは、吾々は未だ道德的見地に立つものであり、從つて吾々の論難は之を犯行する人々の道德性に集中せられ、その救治策も亦この道德的領域に求められることになる。ブルジョア的社會科學を攻擊するためには疑もなく頗る有利に見えるこの道德的陣地を放棄するのは、吾々の社會觀がヨリ根本的な認識であり、ヨリ固い確信の上に立つてゐるからである。

マルクスは彼の卓拔な經濟學上の研究において、剩餘價値の成立を商品取引者の、そして特に勞働力購買者の、、、、、、に求めず、に、それが正當なる價格において賣買せられても、否、まさにさうに賣買せられるそのことの故に、剩餘價値が成立する所以を明かにした。即ち、彼の論證に從へば、資本家が悉く道德堅固な正義の遵奉者とあると假定してもなほ、、、、、は必然なのである。恰もそのやうに、マルクスは彼のイデオロギイ論において、ブルジョア的思惟が誤意識に轉化する本質的の原因を個々のブルジョア的學者・思想家の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

道德的墮落に求めることをせずに、遷移しつゝある社會組織とそれに伴うて發展する階級鬪爭の過程に見出したのである。私はこの深遠なるマルクスのイデオロギイ觀をここで諸君に說明する餘裕を持たぬが、マルクスによれば、諸君の知らるるが如く、人間の思惟・學問、就中社會科學は彼れの社會的存在によつて規定される。從つて今日のやうな階級社會においては、社會科學も亦階級性を帶びざるをえない。蓋し思惟・學問には一定の立場を必要とし、そして歷史的具體的に存在するかくの如き立場の中最も顯著なるものは社會階級の立場にほかならぬのだから。さうして現存社會の基本的階級がブルジョアジイとプロレタリアートとであるに照應して、社會科學はブルジョア的社會科學とプロレタリア的社會科學との二大陣營に分たれる。それ故にまたかの一般に人間的な超階級的な社會科學なるものは存在しえない。しか見えるものは、多くの場合、兩基本階級の中間を浮動するところの、最近我國においては屢々新自由主義と呼びなされてゐるところの、中產的小市民層の階級的立場にほかならぬのである。

故に社會科學の世界には、理論上にも實際上にも、互に相反撥する上記兩見地の對立が存在するのである。だが、この對立において何故にプロレタリヤ的科學は（八十八字削除）恰も嘗てブルジョアジイの歷史的立場がこの點において封建階級のそれを凌駕したやうに。かくて、今日、ブルジョア的社會科學は本質的には、、、社會的意識を表示し、プロレタリア的社會科學は本質的には、、、社會的意識を表示するのである。尤もこのことはしかし現在のブルジョア的科學の全內容がすべて誤謬であり、現在のプロレタリア的科學の全內容がすべて眞理であるといふ主張とはまるで關係ない。吾々は一方では現在のブルジョア的社會科學をばそのブルジョア性の故にその一切合切を棄却し、他方では現在のプロレタリア的社會科學を其儘の形で十全の眞理として鵜呑みにせんとするが如き狂人ではない。吾々はブルジョア的科學が廣般なる部分的知識の探求において多くの効績を擧げてゐるし、その論理的構成において屢々精妙巧緻であることを十分承認する。さうして吾々はついて之れに學ぶの謙譲を持ち合はさぬほどの狹量者ではないのである。と同時に吾々はまた虛心坦懷にプロレタリア的科學における部分的研究と論理的組立とに希望さるべき多くが殘されてゐることを告白する。吾々は現在のプロレタリア的社會科學の無謬性を盲信してそれの反省と批判と發展とを無用視するものではない。だが、それらすべてに拘らず、現社會の根本的認識においてはプロレタリア的社會科學のブルジョア的社會科學に對する、、、、、、、、。卽ち、現段階においてプロレタリア的社會科學は本質において、、、社會的意識であり、（十二字削除）、ブルジョア的社會科學は本質的には、、、社會的意識であり、、、、、、、、。

ところでいまや大學からは、この客觀的眞理の擔ひ手であり文化促進者であるところの無產階級的社會科學が徹底的に驅除せられようとしてゐる。さうしてそこに殘るものは、影の薄い小市民的自由主義

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つつましやかな存在を除いては、唯、（四十字削除）。かくて大學にとつては、最高學府としての中心使命たるその學問においても亦、少くとも社會科學の關する限り、その文化史的地位の頽落は最早避けがたき運命たるのである。

九

かくて大學はその頽落の道を急ぐ。だが、なにらかの力があつてこの頽落から大學を救ひえないであらうか。

吾々は先づ此の如き力として進歩的學生大衆を擧げることができる。支配階級によつて強要された大學の頽落を阻止してそれの文化史的地位を確保するためになされた學内における努力は、極めて少數なる教授のそれを除けば、主としてこの進歩的學生大衆によつて代表され來つたのである。（百一字削除）、主として次の如き社會的事情に依存するものと考へられるから。即ち、先づ、（百三十字削除）。だが、此の點について最も注意すべきものは、數年來著しくなつた大學卒業生の販路の梗塞である。即ち、我國の國民經濟と國家とは最早年と共に愈々多く大量的に市場に投げ出される大學卒業生に對して、彼等の希望に應ずる地位はもちろん、その生産費を償ふに足る地位をも、否、屢々少からぬ人々には一般になにらの地位をも供與しえない現狀にある。かくて未就職者の數は逐年に遞增して、所謂知識階級失業問題を生じ、生活に對する、、、の壓迫は容赦なく所謂學問の聖境に闖入しつつある。さうしてこのことのさしあたりの結果が、（四十五字削除）。

以上の如き事實は一面においては疑もなく、大學の頽落を阻止せんとする一勢力が學生大衆の間に存續し、場合によつては、、、、、、、あらうことを豫見せしめるものであるとはいへ、しかし私はその將來についてはむしろ悲觀的である。といふのは、これらの同じ事實は、他面、その繼續的作用においてはまさに上記と正反對の結果をもたらすものと考へられるから。それは何故であるか。久しい間大學教育は我國の小市民によつて最も確實な、そして――若干の虚榮心と子供への愛と祖先への義務とをも同時に充足しうるといふ意味において――最も都合のよい投資方法と考へられて來た。かの田畑屋敷を賣つて我子を大學に送つたといふ所在に聞かれる感傷的な教育美談に飾られた我國の教育熱は、封建的イデオロギイに蔽はれたこの經濟的動機を除外しては到底十分に理解することはできないのである。然るに、今日大學の教育が愈々高價になり行くに反比例して、それへの投資の收益率は急激に減退し、多くの場合、それは損失でこそあれ、何等かの收益ある投資ではなくなりつつあるのである。かてて加へて、資本主義の進展は小市民層の零落を招來し、子弟の大學教育に投資さるべき餘裕の彼等の手に殘るものが益々少なくなつてゐる。これらの事情は相待つて必ずや小市民層の子弟を大學より遠ざけ、かくて大學は（十五字削除）＝並に研究機關たるの特質を一層濃厚ならしめるであら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

希望に應ずる地位はもちろん、その生產費を償ふに足る地位を

[redacted]には一般になにらの地位をも供與しえない現狀にある。かくて未就職者の數は[redacted]を生じ、生活に對する、、、、の壓迫は容赦なく所謂學問の聖境に闖入

き餘裕の彼等の手に殘るものが益ゝ少なくなつてゐる。これらの事情[redacted]す、かくて大學は

に[redacted]（十五字削除）並に研究機關たるの特質を一層濃厚ならしめるであら

う。さうしてそれの必然的結果が大學の、、、、、そこに教授・研究せらるる社會的諸學の御用化、そこに涵養せらるる思想および理想の反動化であるであらうことは、識者を俟たずして之を洞見するにかたくはないのである。

進歩的學生大衆の力も亦結局大學顚落の大勢を阻止しえないとして、では、自由主義教授の努力においてこの力を見出しえないか。今日、大學には人間的、超階級的立場に立つと信じつつ、資本主義と社會主義の兩者とからの中立を、若しくは兩者への宣戰を、布告してゐるかなり多くの所謂自由主義教授の存することを私は知つてゐる。しかしこの所謂自由主義者には私の見るところでは、大體古い型と新しい型との二つ種別がある。さうして第一の自由主義の特徴が反動に對する眞實の鬪爭と無產階級的思想並に運動に對する同情的寬恕とに存するに反し、後の自由主義は支配階級の反動主義に對する和親的な寬大と無產階級的思想並に運動に對する所謂「嚴正なる批判」を以てその本質とする。さうして若し大學の顚落を阻止する一勢力として大學教授の自由主義に望を囑しうるとせば、もちろんそれは上記の意味における新しい型の自由主義ではなくて、古い型の自由主義でなければならぬ。さうして幸にも大學には極めて少數であるとは云へ、眞實に大學の反動化を憂ひ、之れと戰ひつつある自由主義者がある。吾々は種々の問題についてこれらの人々と見解を異にすると雖も、なほ、彼等の眞摯と公正なる態度とを尊敬するものである。更に吾々は必ずしも彼等の數の少ないことを失望しない。なぜなら彼等の活動の効果は彼等の頭數の多寡に依るよりは、むしろ社會における自由主義の勢威の隆替に依存すると考へるから。

然らば我國において自由主義は如何なる將來を持つと豫想されるか。思ふに、自由主義は我國における諸思潮中最も不運なる存在の一つである。といふのは、自由主義が新日本のイデオロギイであつた時には、それの本來の負擔階級たる實力あるブルジョアジイは存在せず實力あるブルジョアジイが存在するに至つた時代には、自由主義は既にもう時代遲れの思潮となつて居たからである。然り、獨占的又は組織的資本主義の時代においては自由主義はまさに時代錯誤である。諸君は過般のイギリスの總選擧において自由主義がその本家本元においてその思想的內容においてもその外的勢力においても、既に凋落の途上にあることを聞知されたことであらう。我國においても亦少しく以前新自由主義と稱する自由主義の後產が政治上並に思想上に束の間の出現をなしたことがある。政治上におけるそれは昨夏の臨時議會において政友會とも黨せず民政黨にも組みしないと聲明しつつ、結局、政友會內閣を支持することによつてその正體を暴露したが、それと同じく、思想上の新自由主義も亦、右に反動と戰ひ左にマルクス主義と戰ふと稱しつつ、結局、マルクス主義を浸擊することによつて反動の勝利を幇助しつつあるのである。

嘗て我國の大學の世界には、官學の國家主義的傾向に對して資本家

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

的自由主義の見地に立ちつつ堂々と之に對抗した私學があつた。自由主義の經濟的側面に立脚する慶應義塾、新自由主義の宗教的、道德的側面即ち英米の教育的キリスト教を基調とする同志社、自由主義の政治的側面、即ちデモクラシイを强調する早稻田大學、これら三系統の自由主義思想を標榜する三私立大學が帝國大學の超然的國家主義に對峙してゐた姿は、たしかに我國思想史上における一偉觀であつたと云へよう。然るにこの自由主義思想史において光榮ある三私學の現狀は如何であるか。かの楠公權助論によつて（十字削除）「東西學說の折衷を云はずして儒教を根柢より排斥せんと欲し」た福澤先生の慶應義塾は、諸君が先週この講壇からその所說を拜聽された××教授の如き純乎たる國粹主義者をその教授團に加へて自他共に之を怪まぬほどに國家主義化してゐるではないか。「天下の公衆と自由の港に安着して眞理の鄕を開拓し以て新日本國を經營」せんがために新島先生によつて創立せられ、爾來久しく反動の古都においてキリスト教的自由のために奮鬪し來つた同志社はどうなつたか。ここでは、先頃の同志社事件が之を暴露したるが如く、全同志社の財政權を掌握する××理事の「利權的、陰謀的、恐怖政治の下に」「一切の理想的な努力、進步的批判が餘す所なく窒息せしめられてゐ、而も嘗ては理想的進步的努力のまがふ方なき代表者であり社會の良心であつた基督教的同志社が之に對して徹底の無關心を裝ひ、若しくは盲從してさへゐるやうな、かかる狀態は未だ嘗てあらざりしものである。」（十三教授の聲明書）嘗ては信仰の自由のために鬪うた輝ける歷史を持つ同志社が今や平然としてマルクス主義的信仰に對する無良心なる彈壓迫害を縱迯すほどに尾羽打ち枯らしてゐるのである。大隈侯が早稻田大學を設立したのは「國民をして自治獨立の精神を持たせんとせば、須く先づ學問の獨立を計らなければならず、そして學問の獨立を完うする道は、權勢情實のキンを脫したる一大私立學校を起し、學に志す者をして自由に必要の諸學科を修めしむるにある」と信じたからであつた。故に學問の獨立は同大學『建學の本義』の首要條項である。然るにこの學問の獨立、政治の自由を旗印とする大學において、マルクシズムに關する限り、學問の獨立、行動の自由はいづくにあるか。かの軍教事件以來大山教授の追放より最近の雄辯會の解散事件に至るまで、それは徹底的に『建學の本義』の正反對を實踐しつつあるのではないか。この光ある歷史を持つ大學も亦その『建學の本義』を反古にして、、、、、、、、のキハンに全然屈服して了つたのである。故に今日では官私兩大學對立の文化史的意義はまるで失はれて了つた。存在するものは、官公私立の大學を含めて、唯一色の、、、、、、、、、の諸大學あるのみである。帝國主義の時代において自由主義が時代錯誤である如く、帝國主義の大學內においても亦自由主義は一つの時代錯誤であらう。自由主義教授の信賴するに足る人格と卓絕せる學識と不撓の鬪爭力を以てするも、この、、、、、、、には、云はば蟷車に向ふ蟷螂である。吾々は彼等からも亦大學の頹勢を挽回する力を期待しえないのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

態は未だ嘗てあらざりしものである。」（十三教授の聲明書）嘗ては信　々は我等からも本大學の頽勢を挽回する力を期待しえないのである。

十

大學と共に大學が其尖端に立ちつつある舊社會、舊文化は（七十三字削除）此世界こそ舊社會とその大學とからの落伍者をば、まさにそのために心から歡迎するのである。それは被壓大衆の一被壓者に對する單なる同情からのみではない。それは「、、の心臓」が「、、の頭腦」に邂逅した喜び、新なる世界の實踐的力が新なる世界の思惟的力を自らの間に取り戻した歡びでなくてはならぬ。そこにこそ吾々は支配階級のそれとは原理的に異るところの新なる力、新なる生命、新なる文化、光輝ある未來の生成しつつあるのを認めざるをえないのである。

（百四〇削除）。人間が彼れの理想と將來とを談ることを止めて「俺が若い頃には」と前置きした昔語りを繰返すやうになつたとき、それは彼れがもう老境に入つた徴候である。と云はれてゐる。個人についても多くの眞理を含むこの立言は、屢々階級についてもあてはまる。一つの階級がその輝ける（十七字削除）徒らに古を顧み過去を語るとき、その階級はも早老衰期に入つてゐるのである。扨て、諸君は小學校において、中學校において、高等學校において諸君の、、、、、、、、から、かの（十一字削除）を幾度繰返して聞かされたことであるか。だが、支配階級も亦その若かりし時代には決してさうではなかつた。彼等は明治革命に際しては過去を凝視懸着する代りに、「智識を世界に求め、、、、、、、、」ことをスローガンとして、眼を世界に轉じつつ我國の將來を劃策したものである。（七十六字削除）。明治維新において、、、、、、、、、であつた國體觀念すら今やブルジアジイの手によつて（十三字削除）反動的武器に墮せしめられようとしてゐるではないか。吾々はも早そこに青春と生命と力と未來とを見ることができず、唯、老衰と頽廢と施綴と過去とを見るのみである。

一方には生命と力と未來とを約束する新興の世界、他方にはその宏壯にして華麗は外觀の中にもも早頽廢と老衰と沒落の徴候を示しつつある既成の世界、この二つの世界がいま諸君の眼前に對峙してゐるのだ。現代はまさに（百五字削除）。諸君が笈を負うては此處大學に學ぶに至つた所以は、恐らく單なる糊口と榮達のためのみではなかつたらう。（百二十六字削除）大學は最高の學府最上級の文化機關である、ひとが其處に最高の學問と文化を求め最高の理想と生命とを期待したとしても、（十五字削除）。かやうな希望を懷きつつ中學校五年高等學校三年の刻苦勉勵の後に、諸君は今約束の地カナンに辿りついた。諸君が初めて角帽を戴いたとき諸君はたしかに内心にささやかな誇りと喜びとを感じたに違ひない、今や帝國最高の學府の一員となり、最高の文化と學問と理想と生命とをほしいままに享受しうるとの豫想において。

然るに何の不幸であるか、諸君が十數年の荒野の旅の後に、この揺ぎなく見ゆる時計臺の下に辿りついたとき、大學は頽落したのである。そこに流れ滴りあるべき乳と蜜とは涸れて了つたのである。（六

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

十一字削除）大學はもはや文化史的意味においては最高の學府ではなくなつたのだ。それだけではない、今日大學は多くの諸君には糊口の道をさへ保障しえなくなつたのである。

今日學生大衆の（十一字削除）、意識的には未だ十分に把握されてゐないところの大學のこの頽落が學生諸君の心理にもたらしつつあるところの一つの陰影にほかならぬ。（三十八字削除）清朗なるべき諸君の青春の胸を蔽うてゐるのを見出すであらう。だがこの憂鬱はカフェーの歡樂とスポーツの狂熱によつてゴマ化し去られてはならない。それはその、、、、、、、において凝視されねばならぬ。即ち、憂鬱の青白き影においてではなく、それを（二十三字削除）かくて遂げられた自己諒解の後に、（三十九字削除）生命と力と將來に充ちた新なる世界への salto mortale をも敢てなすことができるであらう。さうしてまた諸君は頽落したる舊き大學の傍らにおいてここかしこに既にその礎石の置かれつつある新なる大學のために諸君の一石を寄與しうることもできるであらう。（一九二九年八月）

河上肇著
資本主義經濟學の史的發展
特製定價金五圓 郵稅金二十四錢

河上肇著
經濟學大綱
經濟學全集 第一篇
○資本家的社會の解剖○資本家的經濟學の發展
（配本濟）

山川均・石濱知行・河野密著
唯物史觀經濟史
經濟學全集 第三十二篇
○資本主義以前經濟史○資本主義の成立とその後に於ける經濟の發展○社會主義經濟の發展
（配本濟）

カール・マルクス著・高畠素之譯
改造社版 資本論（全譯）
全五冊 定價各冊一圓 郵稅各冊十八錢

改造社發行

舊平價解禁論

井上準之助

金の輸出解禁は我國經濟界に於ける最大懸案であつて、多年不況に沈淪せる財界の行詰りの打開することも、經濟界の根本建直しを行ふことも、總て金解禁問題の解決から出發するにあらざれば、其目的を達し難いのであつて、此の點に付ては何人も異論のなき處なるべし。只其の解禁の方法に付ては、或は期限付解禁を唱ふるものあり、或は舊平價切り下解禁を主張するものなきにあらず。然しながら吾々は舊平價により金の輸出解禁を決行せんとするものであつて、日本の財界の狀態はこの舊平價解禁の常道を踏んで毫も支障なきことを、確信するものである。

所謂新平價解禁論も人に依り、其の主張の根據を異にするは固よりであるが、之を要約すれば、金の解禁は目下の急務である、然るに我國の爲替相場は財界四圍の事情より見て、自然に平價に恢復することの見込が立たぬ。此間に於て若し強て解禁を行ふならば、爲替相場の急騰となり、物價金融に激變を生じ、事業界を壓迫し、財界に動搖を生ぜしむるの惧ありと謂ふに歸着する樣である。又濱口內閣の爲さんとする如く金解禁の準備として、財政の整理緊縮、國民の消費節約をなし、物價下落、輸入減少、爲替相場の騰貴の大勢を持ち來すことも同じく事業界を壓迫し、より以上の不景氣と多數の失業者を生ずる惧ありとして舊平價解禁を否認して、新平價によりて解禁せんとするものである。即ち先達の如く爲替相場が一割下落して居る場合に元の相場の四十九弗五十仙に囘復せしめては、財界に打擊を與ふるから二十匁百圓の日本の金貨を一割程切り下げて、十八匁百圓として金の解禁をしやうと云ふのである。余は此の說に付て卑見を述べんに、先づ第一に現今の如き貨幣經濟時代に於て、貨幣の平價を改定すると云ふこ

改造社發行
定價各冊
郵税各冊

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

とは、一種の經濟革命であつて、國家の信用、國民經濟及、國民精神の全般に及ぼす影響實に多大なるものがある、斯の如き非常措置は他に方法なき絶對の必要あるにあらざれば、之を採用す可らざることは當然である。新平價論者は我國の爲替相場が自然に平價に囘復する見込なしと云ふ前提から出發して居るのであるが、余は全然其見解を異にし、政府及國民の決心次第で平價恢復は決して難事でないと思ふ。今日迄は政府も國民も此の眞劍の決心が付いて居らなかつたから、如何にも困難の様に感ぜられたのである。然るに今や政府は財政の整理緊縮を斷行し、其の決意の存する所を示し、同時に財界の整理、國民の消費節約を促して居る。此の公私の節約運動が經濟的精神的に其の效果を奏することとなると、我財政經濟に對する內外の信用は高まり、爲替相場は漸次恢復の機運に向ひ、左程無理をせずに平價解禁を實行し得るに至ることは、毫も疑なき所である。

次に獨逸、佛蘭西、伊太利、白耳義の諸國が平價切下に依り、解禁問題を解決し得たる前例に倣ひ、我國も新平價制定に依つて解禁の影響を緩和することを唱ふるも、平價切下を行つた此等諸國の事情は、我國と全く異り、平價切下以外に絶對に方法がなかつたと云ふことと、是等の諸國も平價切下のみに依つて、解禁を實行したのでなく、其外にも必要なる準備を整へて解禁を行つたのであると云ふ、二つの事實を忘れてはならぬのである。歐洲諸國の解禁實行の最大の障害は、戰時戰後に亘り豫算の均衡を失ひ、毎年巨額の歲入缺陷を生じ、之を補塡する爲公債を發行し、又は中央銀行より借入を爲し、其爲に通貨膨脹し正貨準備高との比率全く破れ、到底金兌換の如き思もよらざる狀況に立ち至りたるの事實に在るのである。例ば獨逸の如きは、戰後第一年の一九一九年度を見ると歲出五百四十八億麻に對し、歲入百六十九億に過ぎず、其差額は公債又は借入に依つたのである。其後は此傾向益著しく、遂に財政及幣制を破壞に等しき狀態に陷れたのであつて、紙幣流通高は連年激增し、一九二三年六月末には十七兆三千四百億麻の驚くべき巨額に上り、物價は騰貴せりと云はんよりは、寧ろ紙幣は購買力を失へるに等しき狀態となつた。當時の獨逸國の金保有高は、僅に七億一千六百萬麻に過ぎないのであつて、何人が考へても平價兌換の如き想像し難き所である。故に一九二四年法律を以て、舊紙幣一兆麻を以て新「ライヒスマルク」一と引換ふるの非常手段を講じ、以て幣制の根本を建直したのは何人も首肯し得る所である。佛國は一九一九年度に於て、歲入百十五億法に對し、歲出五百四十二億法、其後五年を經て一九二四年度に至るも、歲入三百十一億法に對し歲出四百二億法であつて、依然歲入缺陷を示し一九二六年ポアンカレー內閣成立後、一方には極力行政財政の整理を行ふと共に、他方增稅を斷行するに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

響を緩和することを唱ふるも、平價切下を行つた此等諸國の事情は、我國と全く異り、平價切下以外に絕對に方法がなかつたと云ふことと、是等の諸國も平價切下のみに依つて、解禁を實行したのでなく、其外にも必要なる準備を整へて解禁を行つたのであると云ふ、二つの事實

衡の根本を建直したのは何人も首肯し得る所である。佛國は一九一九年度に於て、歳入百十五億法に對し、歳出五百四十二億法、其後五年を經て一九二四年度に至るも、歳入三百十一億法に對し歳出四百二億法であつて、依然歳入缺陷を示し一九二六年ボアンカレー内閣成立後、一方には極力行政財政の整理を行ふと共に、他方增稅を斷行するに及び、初めて歳計の均衡を見るに至つたのである。銀行券の流通高は、一九一九年末に三百七十二億法なりしもの、一九二五年末には五百十億法に增加し、之に對する金準備は僅に五十五億法内外に過ぎないのであつて、殆ど一割見當に過ぎぬ。又物價も一九一九年平均三五六のもの一九二五年には五〇〇、一九二六年には七〇三となり、外國爲替相場も對英相場平價二五法二二であるものが、一九二五年には最高一三四法一九二六年には二三八まで上つたのであり、斯の如き金準備率及爲替相場の狀況から考へて、平價解禁の到底實行不可能なるは常識上當然の歸結である。故にボアンカレー氏が、一九二八年六月當時の爲替相場を標準として、平價の切下を行ひ、法の金の分量を從來の約五分の一として金解禁を行へるは、四圍の事情から見て他に方法なき最後の手段であつたのである。

伊太利も亦一九一九年に於ける歳入は百五十二億利、歳出は二百三十億利であつて、七十八億利の歳入缺陷である。其後も大體同樣の趨勢で歳計の大體均衡を得るに至つたのは、一九二三年以降のことである。紙幣の流通高は一九一九年末に於て百八十五億利、之に對する金準備は十六億利で、割合は八分强に過ぎぬ。此割合は其後尚幾分低下を見たのであつて、物價指數は一九一九年に於て三六四、一九二六年に於て最高七一六を示し、外國爲替相場も一磅に對する平價二五利二二であるものが、一九一九年の最高は五〇利、一九二六年の最高一五三利を算するに至つた。一九二七年以來「ムッソリニー」政府は極力爲替の調節策を講じたけれども、九〇利内外程度に止まり、夫れ以上に伊貨の價値を回復することが出來なかつた。同國政府が一九二七年十二月一磅に對し九二利四六を平價とする新單位を創設し、金解禁を斷行するに至つたのは蓋し當然の措置であつたと思ふ。

然るに我國の事情は、是等の平價切下を行つた諸國とは全く異るものがある。政府の財政は戰後に於て却て益々膨脹を見たけれども、歳入歳出は歐洲諸國に比すれば大體均衡を維持し得たと云つて宜しく、一般會計の歳入として繰入たる公債の額は、昭和二年三年共六千數百萬圓程度に過ぎない。而も其の内容は震災關係のものであつて、今回の如く政府が財政緊縮の方針を以てするときは、新規公債の發行を避け、歳計の均衡を圖ることが決して難事でないのである。又日本銀行の兌換券の發行狀況を見るに、近時に於ても通常の月に於ては、十二三億圓程度に止まり、之に對し同行の正貨保有高は今尚十億六千萬圓を算し、同行預金の現狀を考慮に入るるとしても、其準備率は極めて鞏固なるものがあり解禁の後兌換の請求が起つて之に應ずることが決して困難でない。又對外爲替相場の下落と云ふも概して一割以内の現象に外ならぬ。此程度の低落は政府及國民の努力次第で容易に恢復

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

得ること既に述べたる通りである。

されば歐洲諸國の先例を引用する人々に對しては、敢て借問して見たい。獨、佛、伊、白其他の諸國の財政及通貨の狀態並びに爲替相場低落の程度が、我國の今日の程度であつたとして、歐洲諸國は果して平價解禁を斷念し平價切下の方法を撰んだであらうか。余は斷じて左樣のことなく、寧ろ問題にすらもならなかつたことと思ふ。現に戰前の平價にて解禁したる英國の如きも、爲替相場の低落最も甚しかりし一九二〇年に於ては、對米相場一磅に付き三弗三十二仙まで低落し、平價に比し三割以上の低落を示したに係らず、國民の努力に依り平價解禁を行つたのである。我國は震災後の異例的現象たる、大正十三年の暴落相場三十八弗半を以てしても、尚且二割強の低落に過ぎぬ。通常一割以内の低落に過ぎぬ。斯の如き事情の區別あることを考ふるときは、徒に大陸諸國の先例に倣はんとするの誤れるを知ることであろう。

次に平價切下を行つた歐洲諸國も解禁の準備としては、單に切下のみに没頭したのではないのである。平價切下と共に政府も財政の整理をして、歳計の均衡を圖り、國民も勤儉節約を行ひ、其結果物價も調整せられ、貿易は振興し、國際貸借の基礎を改善するに至つたのである。我國の平價切下論者と雖、平價切下さへ行へば財政の緊縮も必要なし、財界の整理も必要なし、國民の消費節約も必要なし、物價の引下も必要なしと考へて居るのではあるまいと思ふ。然し平價切下論者の多數は解禁に依る財界の影響を避くることを眼目として居る。即ち事業界の不振に陷るのを忌むのである。又物價の低下を極力避けやうとして居る。寧ろ是等の結果を避くるが爲に、平價切下と云ふ現狀維持主義を撰ばんとするのであるから、此點に於て我々と非常に考方の異る點があるのは事實である。然し平價切下論者の期待には非常に無理がある。玆に例へば多數論者の想定する如く、四十五弗と云ふ相場が比較的長い期間續いたとして、之を標準として平價を切下げて見た所で、決して問題の根本解決にはならぬ。貿易の入超はなくならぬと思ふ。四十五弗と云ふ相場が我國力を正確に反映する妥當のものなりや否と云ふことは、別としても、從來四十五弗と云ふ相場の時も決して國際貸借の均衡はとれて居らぬ、矢張り何億と云ふ入超があつたのである。然らば何程迄相場を下げたならば貿易の均衡がとれるか、之は我國としては未だ實驗の濟まぬ問題である。或は購買力平價と云ふ樣な觀念で合理的標準を算定せむとする者もあるけれども、此購買力平價の理論も、要するに歐洲諸國間に於ける如く、國情も似て居り國民性も似て居り、日常同じ樣な品物を使用して居り、大多數の品物が僅少の價格の相違で自由に國境を越えて動くと云ふ樣な場合に適

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大に平價切下を行つた歐洲諸國も解禁の準備としては、單に切下のみに沒頭したのではないのである。平價切下と共に政府も財政の整理をして、議計の均衡を圖り、國民も勤儉節約を行ひ、其結果物價も調整せられ、貿易は振興し、國際貸借の基礎を改善するに至つたのである。我國の平價切下論者と雖、平價切下さへ行へば財政の緊縮も必要

之は我國としては未だ實驗の濟まぬ問題である。或は購買力平價とふ樣な觀念で合理的標準を算定せむとする者もあるけれども、此の買力平價の理論も、要するに歐洲諸國間に於ける如く、國情も似て居り國民性も似て居り、日常同じ樣な品物を使用して居り、大多數の品物が僅少の價格の相違で自由に國境を越えて動くと云ふ樣な場合に適用するならば、大體其通りかも知れないが、我國の如く特異の國情多く、主要物資中國際的ならざるもの多く、而も世界の中心市場と隔離せる我國に於て、貨幣の對外價値、對內價値の關係を理論通りに有機的に働かすことか頗る至難ではないかと思ふ。故に假りに理論上貿易の均衡を得べき筈の爲替相場が見付かり、夫を標準として新平價を定めた所で、夫のみに依て金本位制は完全に維持さるべきでない。只解禁に依る爲替及物價の一時的變動を避くると云ふ消極的目的を達するに過ぎないのであつて、財政狀態が依然放慢であり、財界の整理も行はれず、國民の消費節約も行はれぬと云ふことであれば、新平價の下に於ても、再入超の現象は繰返さるるに過ぎないのであつて、結局財政の緊縮、財界の整理と云ふ過程を一度は經ねばならぬことを發見するに過ぎぬであろう。然らば何れにしても同じ苦痛を免れぬとしたならば、此際奮勵一番、必要なる準備を備へ、多少の犧牲は之を覺悟して、從來の平價に依る解禁と云ふ常道を選び、之に向て一路邁進するのが最賢明であり、妥當であると云はねばならぬのである。

尙終に一言したきは、解禁の態樣如何の國民精神に及ぼす影響である。平價切下の目的は財界の現狀維持と云ふことに歸着するが故に、目前の利害に捉はれ、永遠の理想を忘れたる、姑息の手段であるとの評を免れぬであろう。現在我國の經濟上社會上に於ける百弊の基は、我國が大戰中好況時代の惰性として、奢侈放縱の風尙去らず、公私經濟の收支其の均衡を得ざる點にある。而して大戰約十年にして、尙此餘風去らざるは、金輸出禁止を繼續し、之に依て虛僞の財政、虛僞の事業經營、虛僞の私生活に對し一種の保護を與へて居つたことが、其の主因の一であると云はねばならぬ。

然るに今平價切下に依り一時を糊塗するときは、從來の虛僞を其儘永續すべしと云ふことになり、財政の緊縮も出來ぬ、財界の整理も中斷し、信用の膨脹、物價の騰貴を來し、國民をして我經濟界の難境を自覺せしむる能はず、消費の節約も出來ぬ、經濟更生への努力心を消滅せしむるものであつて、解禁問題解決の一半の目的を沒却する結果となるのである。繰返して謂ふ、金の解禁は單に爲替相場の安定のみが全目的ではない。之に依て國民一般の緊縮的氣分を喚起し、公私經濟の面目を一新し、産業の經營を合理化し、經濟の根本建直しを行はんとする理想を其內に包藏して居るのであつて、此目的達成の爲には、從來の平價への合理的復歸を目標として進むの外ないのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

算術の社會性

算術書を通じて見たる十六世紀の英國の社會經濟狀態

小倉金之助

これは小さな、併しながら野心的な、一つの試みである。それは資本主義成立の前夜に於ける英國の社會經濟狀態を、その當時の一算術書を通じて窺はんとするのであるが、之を頭から無謀の擧と非難される方々には、時に終りまで何卒、丁寧に通讀してから、嚴正なる御批判を頂きたいと思ふ。

時代は學術の上に反映する。殊に初等算術なるものは決して、超社會的なりと自稱する數學上の單なる一分科ではなく、それは一種の綜合科學に外ならぬ。其處には日常生活上の諸問題が多分に採り入れられて居るから、算術書の著者が意識すると否とに拘はらず、吾々は其の中から社會科學的資料を汲み取り得る。この意味に於て、私は十六世紀の中葉から十七世紀の初頭に亘る英國——農業革命、國民的意識の發達、海外商業勃興の初期時代の英國——の事情を、數學史上有名なるレコードの算術書から學ばんとするのである。

勿論それが爲めには、社會經濟史との十分なる比較研究を必須とするが、それは斯方面の一門外漢の僅かに企及し得る所でない。殊に吾吾が考察の時代は、宛も英國に於ける物價騰貴の過渡期に屬するが故に、數量的比較研究は一層困難とならざるを得ないのである。私はただ手許にある二、三の參考書によつて、多少の比較を試みるに止め[1]、餘は識者の垂教に待つことにした。

(1) 改造社版「經濟學全集」の内、高橋誠一郎氏、野村兼太郎氏、山川均氏、石濱知行氏の執筆に係れる經濟史及び經濟學史の外に、アシュレー「英國經濟史」、野村兼太郎氏「英國資本主義成立史」などを參考したが、特に

Thorold Rogers, Six centuries of work and wages. 15 ed. 1923

に負ふ所甚だ多い。以上の諸家に感謝の意を表する。商業算術の歴史は次の書に詳しいが、立場が違ふ。

D. E. Smith, History of mathematics. Vol. II. 1925

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

著者ロバート・レコード Robert Recorde (1510?-1558) は有產階級に生れ、オックスフォード及びケムブリッヂに學び、數學と醫學とに秀でた。初めオックスフォードで算術を教授したが、餘り歡迎されなかつた。後にエドワード六世及びメリー女王の侍醫となつたが、十分に報ゐられなかつた。晩年（理由は今日餘り判然しないが）獄舍に幽閉されて、其處に「英國數學の創立者、コペルニクスの學說に關する英國最初の著者、英國醫學界に於ける大貢獻者」としての一生を終へたのである。（數學上の貢獻に就いては、井出彌門君と小生との共譯「カジョリ、初等數學史」參照）。

彼の算術書は「技術の礎」(Grounde of Artes) と呼ばれ、一五四〇年と一五四二年との間に、ロンドンで出版された。英文で書かれた算術書の最初のものゝ一なるのみならず、當時歐洲大陸の算術書の水平線を超え、英國第一の名著だつた。それは低級なる商業算術書でなかつたにも拘はらず、廣く普及し、今日殘存するもののみでも、殆んど三十版に達する。尤も一五八二年以後の諸版はジョン・メリス——英國最初（？）の複式簿記書（一五八八年出版）の著者——の校訂に成つた。私藏の書は、不幸にしてタイトル・ページを欠くが、一六三〇年版と推定される。

私藏の書は三部より成る。レコードの手に係れる最初の二部（本文三四二頁で、普通の意味の算術を、教師と生徒の問答による對話體で書かれて居る）に、メリスの筆に成れる第三部（三四三頁から五二九頁迄、商業算術を主體とし、對話體ではない）を添へたものである。今この小篇に於ては主として最初の二部（之を「本文」と呼ぼう）を、研究の對象とするが、時に第三部を指す場合には、之を「增補」と呼ぶことにしよう。(1)

(1) 後の編者が「本文」中にも手を加へたことは、後に示す通りに明白なことであるが、併しその變更の個所も程度も、微力之を判定するに苦しむ。實はレコードの算術書は、私藏のもの以外に、日本には何處にも無からうかと思はれるのである。

一、農業、牧羊

英國では、吾々の考へつゝある時代に、耕作が漸々廢れて、牧羊が隆盛となりつゝあつた。斯る現象は如何樣に算術の上に反映したか？吾々は本書の「本文」中に

「小麥三十ブッシエルを蒔いて、三百六十ブッシエルを收穫する」（一五七頁）

「六人の草苅夫が五日間に四十五エーカーの草を苅る」（一五九頁）

「土地一エーカーの價一磅九志」（二〇九頁）

の如き問題を見出すけれども、農作物の賣買に關するもの一題をも認め得ない。之に反して、羊及び羊仔の賣買に關するものは五題もある。それ等によれば、羊一頭の價は二志又は四志となつてゐる（一七二頁、二〇五頁）。又「四人で合資して羊二千頭を買入れる」問題もある（

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

七一頁)。特に興味あるは次の例である。

「次の法律が設けられたものと假定せよ。

羊を所有する者は、一頭に對して土地一エーカーを耕作地とし、四頭に對して一エーカーを牧場とすべし。

今七千エーカーの土地を有する富裕なる羊親方 (Sheep-master) が、喜んで出來る丈け多くの羊を飼はんと欲する。上の法律によれば、何頭まで許さるべきか。」(三二五頁。答は二萬頭である)。

この問題は、假令架空の事實にせよ、所謂圍墻運動を暗示し、農業革命を語つて餘あると思ふ。事實、一五三三年の法令によつて見るも、羊二萬四千頭の所有者數名あつた事が知れるのである。(ロージャース、前掲書、三四〇頁參照)。

羊毛の價格に就いては、本書の本文中には見出せぬが、「増補」(四四六頁、四四七頁)中に二題ある。それは商人が羊毛を販賣する問題で、それから計算すると一トッドに就き、

羊毛　三〇志、西班牙羊毛　二〇志

となる。これは當時代の平均價格よりは高過ぎるが、一方エドワード六世時代に、二〇志を超えて居た(ロージャース、四四四—四四五頁參照)ことを考へれば、驚くにも當らないかと思はれる。

二、物價、賃銀、生活費

次には生活費に移らう。標準の物價や賃銀などを、一算術書たる本書の上に求めることは、勿論無理に相違ないが、それは兎に角、本書に見える所を述べよう。

毛織物は「一エルで十志」(一四九頁、その他數ヶ所)、「和蘭毛織物一エル八志六片」(四〇七頁)、「毛織物一エルに就き八志八片で買ひ後に之を十一志に賣る」(四〇八頁)。贅澤品が遙に高價なことは、「ビロード、一ヤード一磅三志」(三一九頁)、「繻子一ヤード十六志」(一四〇頁)などから知れる。之に反して、「木綿一ヤード八片四分ノ一」(三九六頁)とある。

酒の直段としては

「四種の葡萄酒、即ち一ガロンに就き夫々六片、八片、十一片、十五片のものを混合して、一ガロンに就き九片の酒を造る」(二九六頁)

なる問題がある。

運賃に關しては

「百十二磅の荷物を三十哩の間、車で運搬するときの運賃は十二片」

(一五六頁)

とある。

次に一般的な賃銀に關して、吾々は唯一つの記事を見出すのみである。即ち

「勞働者の賃銀は一日六片」(二〇三頁)。

今之を基にして計算すれば、一週三志、一月約十二志となる。然る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

にロージャース（前掲書三八八—三九〇頁）に從へば、次表に示すが如くであるから、本書の示す所と餘り大差がないのである。

	一四九五年	一五三三年	一五六三年
田舍の工匠（artizan）	一週平均 三志	一週平均 四志	一日分（夏 九片、冬 八片）
農業の日雇勞働者	一週平均 二志	一週平均 二志	一日分（收穫時 八片—一〇片、收穫時以外の夏 七片、冬 六片）

本書には、一日の勞働時間數に就いて、何等の記載を見ないが、唯一ヶ所に

「一日十二時間働くと見做して」（一五五頁）

計算する場合がある。

また

「兵士の賃銀は一月八志六片」（二〇七頁）

とあるが、之は食料附きの賃銀なのであらう。

以上の外にも、生活費に關して

「私は一週五志かゝつた」（一四七頁）

「十二週間旅行して十四佛クラウンかゝつた。但し一佛クラウンは六志である」（一四六頁、これ即ち一週七志の割である）。

最後に僧侶の生活費に關する問題を掲げよう。

「二十人の Canon と三十人の vicar が居る或中央寺院の經費は、一年二六〇〇磅である。カノン一人の經費が、ヴイカー五人分に當るものとせば、各人一年の經費各幾何か」（一七八頁。カノン百磅、ヴイカー二十磅）

當時の英國は宗教改革以後に屬し、僧侶の生活は低下せしめられた筈であるのに、而も尚は此問題の示すが如くである。

三、パン條令

生活費に關聯して、私は茲に麪包條令の記事を附加したい。一二六六年ヘンリー三世の條令第五十一條によつて、パンの賣價が制限され

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

小麥1クオーターの價格		條令書による1フアーシングの白パンの目方			修正した目方		
志	片	磅	志	片	磅	志	片
1	0	6	16	0	6	16	0
1	6	4	10	8	4	10	8
2	0	3	8	0	3	8	0
2	6	2	14	$4\frac{1}{5}$	2	14	$4\frac{4}{5}$
3	0	2	8	0	2	5	4
3	6	2	2	0	1	18	$10\frac{2}{7}$
4	0	1	16	0	1	14	0
4	6	1	10	0	1	10	$2\frac{2}{3}$
5	0	1	8	$2\frac{1}{2}$	1	7	$2\frac{2}{5}$
5	6	1	4	$8\frac{1}{4}$	1	4	$8\frac{8}{11}$
6	0	1	2	8	1	2	8
6	6	1	0	11	1	0	$11\frac{1}{13}$
7	0	0	19	1	0	19	$5\frac{1}{7}$
7	6	0	18	$1\frac{1}{2}$	0	18	$1\frac{3}{5}$
8	0	0	17	0	0	17	0
8	6	0	16	0	0	16	0
9	0	0	15	$\frac{3}{4}$	0	15	$1\frac{1}{3}$
9	6	0	14	$\frac{1}{4}$	0	14	$3\frac{15}{19}$
10	0	0	13	$7\frac{1}{2}$	0	13	$7\frac{1}{5}$
10	6	0	12	$11\frac{1}{2}$	0	12	$11\frac{3}{7}$
11	0	0	12	$4\frac{1}{4}$	0	12	$4\frac{4}{11}$
11	6	0	11	10	0	11	$9\frac{21}{23}$
12	0	0	11	4	0	11	4

原表の中で確に誤植と思はれる數字は訂正したが、併し三百年以前の古い活字であるから甚だ不明確で、上の表の中に誤記がないとも限らない。私は一々檢算した譯でないから、その點御許容を乞ふ。分數を用ひて小數を用ひないのは、原著者の時代には、未だ小數も其の記號も發明されて居なかつたからである。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ラテン文、佛文及び英文の三通のものが公にされた。然るに此條令書は、議會の承認を經た表なるに拘はらず、その中に多大なる計算の誤謬があつたのである。原著者は此書の中で、一々之を訂正して居る。こゝにその表（二六五頁）の全部を採錄して置く。

この表に於て見る通りに、「11志 $9\frac{3}{4}$片」を「11志 10片」とした様なことは、敢て誤謬とも言ひ得まいが、「2磅5志4片」を「2磅8志」としたり、「1磅18志 $10\frac{3}{4}$片」を「2磅2志」とした事などは、實に亂暴極まる條令書と云はねばならぬ。併し一市民として、條令の修正書を公にするが如きは、餘程の決心を要した事に相違ない。それ故に著者は、對話中の教師をして、「斯様な訂正を施すことが、陛下の條令の眞意にかなふ」所以であることを力說せしめ、更に

「斯ういふ譯だから、どんな紳士も、また法律の學生も皆、算術を不必要のものとして輕侮してはならない。……條令書の誤は餘りに多大であるから、私は敢て失禮をも顧みず、この私書に於て其れを訂正したのである。……斯様な事は多くの人々の反對を受けるに相違ないが、併し自分は、より善良な性質の人々に信頼する」（二六三頁以下）

と語らせて居る。

さて此表は、小麥一クオーターの價一志の時から十二志の時迄に亘るが、原著者は之を二十志の時まで擴張し、更に「この表を永久に有効のもの」たらしめる様にとて、一六三〇年（？）版の本書には、二磅六片の時までの表を添へて居る。事實、當時の小麥の價を本書中に見出し得ないのは遺憾であるが、之をロージャースの研究に徴するに（前揭書、二一五頁、三三〇頁、三九〇頁）、小麥一クオーターの價は

一二六〇年—　四〇〇年間の平均　五志十片四分の三

一四〇一年—一五四〇年間の平均　五志十一片四分の三

で、平作の年には大抵四志六片から六志六片の間にあつた。最も極端に低廉な年（一二八七年）には二志十片半、極端に高い年（一三一六年）には十六志に昇つたこともあつたが、要するに本書の初版時代には、十二志までの表によつて、大抵は間に合つたのである。然るに一五六三年頃から小麥の價は急に騰貴し出し、一五六三—六四年には十九志九片四分の三、一五九三年には十八志四片半、一六一〇年には四十志四片となるに至つた。これ即ち一六三〇年（？）版たる本書に二磅六片までの表を見るに到つた理由であると思ふ。

四、貨幣

次には貨幣に移らう（一〇二頁以下）。本書の此部分は、後の編輯者の手に成つたこと明白であるが、其處には當時流用せる英國金貨名と、その重さ及び價格（本年即ち一六三〇年の）の表を載せて居る。その一端は上表に示す如くであるが、玆には三十二種の金貨が揭げられた。その次には流用される英國銀貨の表、外國金貨の表が來たる。更に一六一二年の法令によつて、造幣所（Mint）で買上ぐべき外國貨

小麥1クオーターの價格	
志	片
1	0
1	6
2	0
2	6
3	0
3	6
4	0
4	6
5	0
5	6
6	0
6	6
7	0
7	6
8	0
8	6
9	0
9	6
10	0
10	6
11	0
11	6
12	0

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

幣に就いての說明があるが、試みに其の一、二を擧げると、一オンスに就き

佛蘭西クラウン金貨　三磅六志、

西班牙セヴイル銀貨　五志、

メキシコ銀貨　四志一〇片

の類である。

外國貨幣の換算(一〇八頁以下)は、たゞ最も重要視された五つのもの、即ち

金貨名	重サ		價格	
	ペンス	グレーン	志	片
Great Soverain	10	0	33	0
Royall	4	23	16	6
Old Noble	4	6	14	8
Elizabeth Crown	1	9	5	9

French coynes, Flanders coynes, Danks money, Spanish money, Venice money のみに止めて居る。その中で、フランス貨幣に就いては、單に十二 Dernier は一 Soulx, 二十 Soulx は一 Frank. 但し一 Dernier は英ペンニーの九分の一に當ると說明し、他國の貨幣に就いても、同樣の說明振りに止まるが、獨りフランドル貨幣に就いては、時に次の注意がある。

「フランドル貨幣に就いては、變化烈しく、時々變るのであるから、確實には我國の貨幣と換算するを得ない」(一〇八頁)。

思ふに、當時歐洲商業の中心は和蘭にあつた。一五二〇年英國の二十志がフランドルの三十二志に相當したものが、惡貨鑄造の結果、一五五一年には半減して十六志となつた。エリザベスの改鑄も容易に信用を回復し得なかつたが、漸次回復の途に上りつゝあつた。現に本書の「增補」では、「英國の六志をフランドルの七志に相當する」として換算して居る(四五五頁)。それで本書に述べた上の注意は、過渡期に屬することを示したものと思はれる。

五、度量衡

當時の度量衡、特に重さと容量の測り方は、實に複雜を極めたものであつた。最初便宜に應じて民衆自身が選んだ單位は、餘りにも不統一だつた。本書の初版と殆んど同時代に顯はれた測量書(リチヤード・ベニーズの著)から暗示を得て、數學史家ドモルガンは次の如く述べて居る。

「一エーカーは四 roods で、一 rood は十日仕事(daye-workes——daye-worke は面積の單位の名である!)一 daye-worke は四 perches である。即ち一エーカーは各々が四 perches なる四十 daye-workes から成る。同樣に、一マルクは各々が四ペンスなる四十グロートから成つて居る。それで土地の貴族と金錢の貴族とが、お互に容易く諒解し得たのである。」

さて本書に(一一一頁以下)從へば、其時代には比較的に廣く用ひられた Troy weight, Haberdupoise weight, Hundred weight の外に羊毛、牛酪、藥品等に對しては、夫々異つた目方が用ひられた。而も羊毛の目方の名には、地方によつて異るものがあつて、殆んど一致し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て居なかつた。牛酪の目方の單位はバレルであつたが、サッフォク牛酪の一バレルは二五六磅、エセックス牛酪の一バレルは一三六磅であつた。同じバレルなる名稱でも、鮮の一バレルは二六磅、鮭の一バレルはまた全然異つたものであつた。容量に就いても、或る地方の一ブッシエルは他の地方の二ブッシエルに相當した。

度量衡の混亂時代に不正商人の出現は、當然の事に屬する。永い年月の間、酒の輸入者は、稅金を拂ふ際には二六二立方吋から二八二立方吋の桝目のガロンを用ひ、それを二二四立方吋から二三一立方吋の桝目のガロンで賣つて居たことが、一六八〇年代に報告されて居る。されば本書の中で、教師は言ふ。

「私は諸君に、測り方が如何にあるべきかを語つた。併し事實、如何にあるとは言はない。如何に其等が正しい測り方から違つて居るかは、私よりもゴージエー氏が良く諸君に語り得る。」

かゝる時代に於て、度量衡の條令書の不備なる事も、亦想像するに難くはない。土地の測定に關する當時の條令によれば、「丸くて乾いた大麥の粒三個で一インチとし、十二インチで一フート、三フートで一ヤード、五ヤード半を一パーチとする。そして長さ四〇パーチ、幅四パーチを一エーカーとする。」この粗雜な基準による面積一エーカーの土地の幅が變化するとき、之に應ずる長さを計算した表が、條令書として刊行されて居た。而も著者は、この「尊い陛下及び價値ある議員各位が承認せる」條令書に、著しい誤算あることを指摘し、その訂正表(二七八頁)を掲げて曰く、「玆に於て、どんな人でも、算術が法律の學生に取つて、如何に必要なるかを認めるだらう」。

六、商品

さて商品たるべきもので、本書に顯はれた物品を列擧すれば、次の如くである。

石炭、石油、食鹽、石灰、煉瓦。

鐵砲、彈丸、火藥。

醫藥、石鹼、香料(丁香、サフラン、肉桂、胡椒、薑、肉桂皮)。

絹、毛織物、帽子、ビロード、緞子。

羊毛、羊、馬、蹄鐵。

大麥、小麥、パン、牛酪、乾酪、麥酒、エール、葡萄酒。

鮭、鮮、鰻。

金、銀、眞珠。

以上の物品中には、東洋からの輸入品の多いことも注目に値する。鐵と石炭の賣買又は消費に關する問題が全然見えないのは、吾々をして未だ產業革命の遠いことを想はせる。魚類が擧げられて獸肉の見えないのも氣になるが、獸肉の販賣されて居たことは、一五三二年ヘンリー八世の條令から明かである。卽ち「牛肉、豚肉、羊肉及び仔牛の肉は、Haverdupois と稱する目方によつて賣らねばならぬ」。

その他本書の「增補」の中には、葡萄の如き菓物や、砂糖、鉛な

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の賣買に關する問題があるが、要するに、本書全部を通じて最も數多く遭遇する問題は、實に毛織物の賣買に關する事項であることを、特筆して置かう。

七、利子

本書の時代は、金錢貸借の利率上、時に急變の甚だしい過渡期に屬する。ヘンリー七世(一四八五—一五〇九年)の時代に一切の利息を禁止した事あるが、事實としては實際上の要求に讓歩して居たのである。ヘンリー八世は一五四五年に一割までの利子を許し、エドワード六世の時に一度一切の利子を禁止した事があり、エリザベスの一五七一年また利子を許すことになつて、一割以上の利子に對する契約と其れ以下のものとの間に區劃を設けたが、一六二四年には最高利率を八分に減じたといふ(高橋誠一郎氏「經濟學前史」六五七頁六六四頁)。

然るに本書本文に見える利率は、孰れも皆年八分である(一六四頁、一六五頁)。恐らくは八分の利子が、實際に最も廣く行はれたのではあるまいか。(現に野村兼太郎氏「イギリス經濟史」一四二頁には、和蘭の金利は、英國の八分に對して、僅か三分に過ぎなかつたとある)。尤もメリスの「增補」には、利率として年六分、八分、一割の三つを擧げ、夫々其れに對する利息表(四九四、五〇六、五三〇頁)を揭げて居るが、これは本文よりも後に書かれたものである。

八、合資

これより本書に於て、時に一章を割いてゐる合資算から、當時の事情を擧げようと思ふ。當時は少數の商人が資本を集めて會社を作つたが、或る一時期每に、その社員も投資額も變化したのである。Question of a bank として揭げられた次の例題は、よく會社の性質を明にして居る。

「四人の商人が共同で資本を出した。甲は六六九磅を十ヶ月、乙は八一〇磅を八ヶ月、丙は九〇〇磅を七ヶ月、丁は一〇四〇磅を十一ヶ月投資した。斯くて一年の終りに三五一四五磅を獲得したとせば、如何に之を各人に分つべきか」(一七四頁)

この問題の示す所は、實に莫大な利益であるが、而も斯くの如きは決して單なる空想ではなかつたのであらう。マーチヤント・アドヴエンチユラス會社(一四〇六年設立)、ロシヤ會社(一五五三年設立)、英國東印度會社(一六〇〇年設立)等の如きは、その貿易から非常な利益を擧げる爲めには、危險を冒すを辭さなかつたのである。それ故に本書の中にも、

「四人が合資して三千クラウンの家屋を建築する」(一八四頁)如き例もあるけれども、その大部分は冒險を試みて一攫千金を夢みる種類のものである。それで

「三人合資して商業を營み、甲は二百磅を十ヶ月、乙は三百五十磅

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を四ヶ月、丙は百磅を六ヶ月投資したが、或る冒險から百六十磅の損をした。」(一七七頁)

「三人の商人が夫々二百磅、三百磅、五百磅の商品を一つの船に積み、合同して貿易を試みたが、暴風に逢つて百磅の商品が海に沈んだ」(一七〇頁)

などの事が起り、遂には

「四人が戰つて獲得した八一九〇磅の分捕品を、身分に應じて分配する」(二八〇頁)

様な、掠奪暴露の問題さへある。

九、戰爭

斯くて吾々は遂に戰爭の問題に到達した。當時殊に十六世紀の後半以來は、歐洲諸國の戰亂があり、それが本書の上にも反映して居る。吾々は

「百三十六人の工夫が、敵から兵士を護る爲めに、一ヶ月間に一つの堡砦を築く」(一五四頁)

「堡砦を砲撃するに七百磅の火藥を使用する」(九八頁)

「四萬の兵が敵に包圍された時の食糧」の問題(一五三頁)

を見るも、敢て怪しむに足らぬと思ふ。而も此等の問題を提出する時に、教師は生徒に向つて、次の意味の事を述べてゐる。

「私はこゝに、吾が庶民たると紳士たるとに拘はらず、如何なる人にも必要な事を附加しよう。それは海戰のみでなく、陸戰をも含めるのであるが、この優れた技術(算術を指す)は、戰爭に必須なものである。」(一五三頁)

玆に教師はディッゲスの著「ストラチオチコス」を引用して居るが、この引用は後の校訂者が附加したものであらう。何故なら、この有名なる戰爭算術書

Leonard and Thomas Digges, An arithmeticall militare treatise, named Stratioticos. London, 1572

は、レコードの死後に刊行されたのであるから。

最後に、此書の中から極めて興味ある一挿話を轉載しよう(一六〇頁)。それは工兵の作業に關する稍困難な問題を提出された時に、生徒は悲觀して

「私にはどうして良いか判りません。それに私は身體がサッパリ伸びませんから、迚も偉い人になれ様とは思ひません。」

と云ふ。その時教師は教訓する。

「君は、君が陛下の爲め國家の爲めに盡す様にと、神がどんなにか智識によつて君を高めて下さるのを知らないのか? サー・フランシス・ドレークを見るがよい。彼は背の高い人ではなかつたが、而も彼は陛下並びに國家の名譽の爲めに、大なる冒險をやつた。我が英國人は總て斯くあるべきである。」

「先生! 御激勵下さつて有難う存じます」と生徒は答へる。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「私の謎は小さいけれども、私のそれは智識を要求することに於て、他人に譲るものではありません。では、開始をやりませう……。」

國民的自覺と海外貿易への情熱に燃ゆる當時の英人の氣魄が、まざまざと茲に見せ付けられる。海賊を讃美する數學教師も、時代精神を發揮せる、立派な人の師であつたらう！

上の挿話は、原著者レコードの書いたものではない。何故なら、彼は海賊ドレークの活躍以前に死んだから。けれども彼が新鮮な思想の持主であつたことは、彼がロシヤ會社に、彼の代數學（一五五七年出版）――英國最初の代數書――を獻じたことから、推察し得られると思ふ。また彼の數學者ライトは、「尊敬すべく崇拜すべき」東印度會社に、「現在及び未來の幸福繁榮を祈りつゝ」、その對數書（一六一六年出版）を捧げて居る。

吾々は遂にゲーテの所謂「商業、戰爭、海賊の三位一體」に到達して、茲に此の小さき試みを終る。

唯一篇の書に基づいて斷定を下すことの危險なるは、私と雖ども良く之を知つて居る。然しながら私はマルクスの所謂「イギリス國民經濟學の父」、ウイリアム・ペチーよりも一世紀以前の數學者が、恐らくは無意識に書き流した唯一卷の算術書中の例題が、如何に全面的に、如何に雄辯に、當時の英國民の社會經濟生活を、繪卷物の如く展開して居るかを顧みて、算術乃至は一般科學の社會性に就いての、深刻なる反究省研とを促したいと思ふ。（一九二九・六・六）

野村兼太郎著――新刊――

英國資本主義成立史

現代社會の諸機構を正しく理解する上に、近代產業革命の發祥地である英國の資本主義成立過程の解剖が如何に重要であるかは敢へて多言を要しないであらう。現に慶大の教職にあり、英國經濟史に造詣深き著者が多年の蘊蓄を傾倒して成つた本書は、正に斯學のために一大指標を掲ぐるものである。

定價四圓五十錢（送料廿七錢）

改造社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

東支鐵道回收問題の必然性

長谷川如是閑

一

今回の東支鐵道の問題は、近代國家形態の矛盾の、自家撞着の、具體的な說明に新らたな一例を加へたに過ぎない。

近代資本主義國家の植民地鐵道政策と古代軍國々家の道路政策――たとへばローマ大道のやうな――とは、ある點で一致の性質をもつが他の點では大なる相違がある。その同じ性質は卽ちそれの經濟的効果である。古代的道路政策による交通狀態の變化は、必然に國家的範疇を超越した國際的經濟生活圈をそれの經濟的生活條件に從つて成立せしめるものである。軍國的目的によつて建造された古代の道路は、いはゞ『軍隊の通路』が、自然又當然に領土の擴大を意味してゐたのであつた。ローマの大道といへども、たゞそれの完全したものに外ならなかつたのだが、それの交通に對する効果は、何よりも先づ經濟的生活圈の擴大となり、その組織的變化を持ち來し、たとへば、ローマ帝國崩壞後の地中海を中心とする世界經濟の成立となつたやうなものである。かゝる國際的生活圈は、當時の封建國家の分裂とは沒交渉にそれ自體の發展過程をとり中世的繁榮をもち來したものであつた。

近代國家の植民地鐵道も亦それと同じくつひに超國家的資本主義への橋梁となつたものであつた。然し、近代的植民地鐵道は、第一次的に近代國家の生活條件たる資本主義的運動の直接の對象であつても、資本主義的產業の、而して後には資本輸入の交通路としての發達その事の外に、鐵道自身が、資本主義組織自身の目的物としてその資本的努力は、レールそのものによつて八方に傳播されるのであつた。近代軍國々家の道路は古代國家の軍隊そのものではなかつたが、今の植民地鐵道は、近代國家の資本そのものである。近代國家形態は、その鐵道のレールによつて、植民地を貫通して延長されるのであつた。さればレールの延長はそれの資本的背景を爲す國家の延長であるといふ點では、ローマの道路と同じやうな性質のものであるが、そのレールの表現するものは、資本組織そのものであつて、國家組織そのものではない。イギリスがレールによつて支那大陸に延長させやうとする

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は、その國家的支配形式ではなく、資本的獨占形式である。植民地鐵道を國家的侵略の領土的意味と意識した歷史は、支那についていへば阿片戰爭當時を一段落として終了したのであつた。今日さういふ目的をもつ侵略は、資本主義國家の協同の勢力で排除される運命にあることは、殊に支那大陸に於て顯著に見うけられることである。

二

支那に對するヨーロッパ列國の鐵道政策は、既にこの投資時代の完成と共に始まつたもので、英佛が領土的侵略を敢てした當時とは、その植民政策の根本的性質を異にする時代に入つてからのことであつた。列國は自己の勢力による鐵道を支那大陸に延長せしめることに應じて、支那に『自己』を建設せしめんとするものではなく、精々の處そこにただ資本の安全と利益とに對する保證を得んとするものであることはその聲明に、たいした僞りのことではないと認めていゝ。

然るにこの原則に反する勢力の支那大陸に植つけられたものが二つある。一つはロシヤのそれで、他の一つは日本のそれである。この二つの勢力は帝國主義が、まだアジヤ的諸現象に伴つて前代的形態を保つてゐる時期に於て產まれたものであつた。即ちロシヤは農業國家として領土の大なることをその第一條件とする狀態に應じて、サイベリアの擴大な地域を支那から奪取した歷史の延長からいまだ解放されない時期に在り、サイベリアの大領土を更らに南方に擴大せしめる自然の衝動をもつてゐたのであつた。――それは意識的には、不凍港の獲得といふ近代的交通政策の意味に於て表現されてゐたが、實は農業國家特有の大領土主義の延長であつたのだ。――さればロシヤの鐵道政策は、古代帝國の道路政策の意味を多分に包含せしめたものであつた。而して日本の滿洲政策も、南支那方面に對するそれとは大に異つた意味をもつたもので、ロシヤの前代的軍國主義に脅威を感じたのも、支那大陸のこの方面に於ける日本の利害を、主として人口政策と理解してゐたことによつても察しられる通り、やはり領土主義的の立場に在つたことは拒まれない。されば日本の滿州に於ける鐵道政策も亦、古代帝國の道路政策と多分にその意味を同うするもので、レールの赴く所、領土的權力の赴く所であつた。そのことは、現に滿洲に於て鐵道事業に關與してゐる多くの人々の意識狀態に照らしても疑はれない事實である。

これだけの事情によつても、南滿洲鐵道と東支鐵道とは、現代の列國家の支那大陸に於ける鐵道、の近代的意義以上の性質をもち、從つて常に列强によつて問題とされる性質のものであることは拒まれない。然るに事情はロシヤのソヴエット化によつて更らに進展することを免れなかつた。

三

ソヴエット・ロシヤは、その國家的意識目的からいへば、東支鐵道

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を直ちに還附せねばならぬ地位に在るものだが、然し、ロシヤをしてそれを敢てせしめない正當の理由は無數に在る。直ちに東支鐵道を支那の手に渡すことは、支那がいかなる國家的形態をとるか明かでない時期に於ては到底なし得ないことであつた。ロシヤはその意味から支那の國家形態を、近代國家の歷史過程によらしめないで、それを飛び越して共產主義國家たらしめる希望をもつて盛に實行的手段をとり、支那も亦革命のある時期に於ては、それの援助をかりることによつて舊國家形態からの離脫の過程をより迅速にする利益のあることを知つてゐた。然るに、支那革命は、ロシヤの希望に反して、やはり資本主義國家への歷史を踏襲して、その近代國家的形態を曲りなりにも成立せしめる結果となつた。かゝる過程の間に、ロシヤが東支鐵道の共同管理を承認したのは、決してロシヤ自身の國家意識の自發的行動ではなかつたので、やはりそれは、他の列國が、支那の近代國家化の過程に於て必然に起る『國家的自主權の回復』の運動の犧牲となつたのと全く同じ事情によつたものに外ならなかつた。支那を、勞働者農民の共產國家たらしめんとして實行的に企圖したロシヤは、勞働者農民の搾取者たる支那國家のために、それの搾取機關の重大なるものゝ一つである東支鐵道に關して何の讓步をする政策上の必要も、道德上の必要をも感ずるものでないことは云ふまでもない。

されぱソヴエット・ロシヤも、支那の近代國家化の過程に於ける『被害者』たる點に於ては、他の諸國と何等異る地位に在るものではない。殊に支那をしてロシヤの國家形態に興味を起さしめた以上は、支那は、その近代國家化の過程に於て、方法的にもロシヤを學ぶことは當然のことである。支那自身は、その國家形態を、初めの革命意識とは似ても似つかぬ資本主義國家のそれとして成立せしめた今日に於ても、彼れ自身方法的にだけ充分『革命的』であることを利益とすることを知つてゐる。近代國家の勝手氣儘の合法主義などを踏みにじる場合に、以前は、曖昧の、又は知らぬ顏の態度をとつた支那も、今日ではそれを宣傳に利用する利益をさへも充分に悟らせられたのであつた。而してこのために損害をうけた列國も、一々の場合についていへば、大抵他國の事なので、默過するを常とし、私かに痛快がるとも、それを問題とすることはなく、租借地奪還でも、借款否認の宣傳でも、公使館の侵害でも、當の被害者の尻押しをするやうな物好きの國は一つも無くなつてしまつた。

支那は常にかゝる形勢を利用する衝動を感じてゐるので、東支鐵道の回收事件も、もしこの時機に於てそれが行はれなかつたら寧ろ不思議なことゝいはねばならぬ。

四

殊に南京政府は、まるで自分から獨立してゐるやうな、東三省方面に自分の統一的勢力を及ぼさうとする場合には、全く諸外國と同じやうに、鐵道政策によることを最も有利且つ有力とするのであつて、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れは張作霖が、滿鐵のそれの代りに自己の鐵道網を布くことをその勢力の實際的根據としたのと同じである。

東支鐵道に對する南京政府の勢力の擴大は、その上に、日本の南滿鐵道に對する支那の政策の準備的行動としても、必然的に要求される性質のものであることは誰れもいふ通りである。且つ支那が鐵道經營に於て無能力であるといふ過去の評判は、現在もなほ多少の事實上の根據があるにしても、赤子も三年たてば三歳になるので、支那自身が鐵道經營に於て如何に『成人』したかを示す機關としても、滿鐵と殆んど同じ條件の下に在る東支鐵道に於て、獨立管理の能力を示す好機會を捉へんとすることは、直接の利益以外に、その行動の重大な動機を爲して居るに相違ない。而して沿道の行政、警察、衞生、教育その他の國家的施設に於て支那がもし相當水準に達してゐることを示したならば、、、、、、、、、、を固守する重大な理由――同地域の生活の安全と保障が支那自身に於ては覺束ないといふ――は消滅する譯で、華府會議その他、國際會議毎に襲ひかゝる支那側の理論的攻擊に對する、、、、、は甚だ困難を感ずるに至るわけである。各國は、支那側が列國の投資に對して、その事業の安全を保障する國家的實力を東支鐵道沿線に樹立するに至れば、ロシヤや日本が支那に代つてそれをしてゐる以上に歡迎することは當然であるから、滿洲に於ける鐵道及びその沿線の外國管理を排除する支那の運動に協力するのは當然である。

されば東支鐵道が、事實上ロシヤの手に管理されつゝある間は日本は比較的自己の地位の安全を感じてゐていゝわけである。反之、東支鐵道が全然支那側の手に歸する場合は、、、、、、、、、、、、、、を支持する唯一の近代國家となり、純資本主義國家の近代的侵略に對する當面の敵としては、唯一の國家となるので、その立場は全く困難に陷らねばならぬ。幸にして、今日支那に對する列國の立場は、南京政府の今回の行動そのものには內々痛快を感じても、方法的にそれが危險極まるものであることを感ぜねばならぬ關係に在るものばかりなので、何づれも多少の程度で日本のそれと同じ、痛たし痒ゆし地位に在り、決して支那を積極的に支持する意識はもち得ないのである。

五

然しアメリカだけはさういふ關係の比較的薄い上に、過去に於て、傳統的に滿洲大陸に於けるロシヤ及び日本の政策の前代的性質を排する地位に在つたので、――資本主義的國家として、最も前代的國家形態から離れてゐるので――支那に對する裏面からの支持を敢てし得る唯一の國である。殊に世界的債權者としてのアメリカは、世界的交通路の一國的獨占を否定すべき地位にあり、多くの債務國が、借金に困しみつゝ、他國の領土にさういふ幹線的鐵道を敷くが如きは、アメリカの純資本家的立場から見れば、不埒千萬の侵略的行動であると觀ねばならぬ。さういふ植民地の世界的交通線は寧ろ自分のやうな債權

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

者を加へての共同管理に屬すべきものであるといふのは、アメリカの國家道德による『理想』からではなくして、一種の高利貸心理からしても正にさう主張すべき理由をもつものである。

のみならず、アメリカの滿洲大陸の鐵道に對する政策の根柢には、太平洋における軍國的勢力社會の問題を含んでゐる。アメリカが、滿洲から日露の勢力を驅除しやうとする支那の主張を傳統的に支持するも、抽象的のアメリカ的國家意識――近代國家的産業主義による門戸解放、機會均等主義等の――にのみによつてゐるのではなく、太西洋に於けるイギリスの勢力が常にその軍國的角度から見られねばならぬ性質のものであると同時に、太平洋に於ける日本の勢力に對しても、アメリカは――イギリスもその點では五十歩百歩で、シンガポール要塞問題もそれを動機としてゐるのだが――それを軍國的角度から見ることを忘れるわけには行かない。海軍縮少の問題が、常にアメリカ、イギリスを中心として起り、而かもそれの目標が常に日本に在るのもその理由である。今日の帝國主義的形態の國家は、何時その投資關係が、列國間の戰爭を誘發するか知れないことを覺悟する必要があるので、國家間の勢力を觀察する角度が常に軍事的であらねばならぬことは、中世紀の國家間のそれと殆んど變りはない。而して、支那大陸は、その諸國家の資本主義的對象として、今日の世界で最も重大にして、實的にも覺的にも第一位を占める地域である故に、戰爭の危險を内藏するものとして、此の方面を最も危險率の多い領域とせねばならぬ。

太平洋における勢力の均衡問題から、フイリツピン獨立の約束を取り消したアメリカは、支那大陸に於ける日本の勢力を現在いかなる角度から見てゐるかは明瞭である。東支鐵道の支那側に屬することは、日本に對する限りに於ては、アメリカのみならず各國にとつて寧ろ賛同を値する事實であるが、殊にアメリカは日本との帝國主義的競合の特殊例外からさういふ地位に在るものである。

六

アメリカの共同管理説は、然しながら、支那の近代國家化の過程に於て採用の餘地のないことは、すべての近代國家に於て、自己を通過する世界的交通線を他國の共同管理に委ねることを諾し得ないのと同じである。然しアメリカはその共同管理説の行はれると否とに拘らず、滿洲の鐵道に對する勢力への割込みに躊躇するものではないから、滿鐵に對して屢々それを企てたと同じやうに、東支線の支那側の管理は、資本的に同鐵道を占領する可能性を自國に與へるものとしても、支那を支持すべき地位にあるわけである。

日本の地位は、反之、支那の回收に對しては危險をのみ感じてゐるのであるが、然り、支那は、かゝる際には、常習として、日本に對する態度を一時的に緩和せしめるのであるから、今回も恐らく滿洲に於ける日支間の最も重大なる懸案について幾分讓歩の態度をほのめかすのではないかと思はれる。行詰つてゐる會寧鐵道や商租權問題その他

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

について此際何ほどかの打開の道を與へられゝば、それでなくても好意的中立以上に出づる方法を知らない日本は、支那の政策を妨げる地位には到底なりはしないのである。

から觀察すれば、東支鐵道は、滿洲に於ける日本の勢力と共に、常に近代國家化の過程に於ける支那資本主義プラス外國資本主義の勢力のために排除されんとする傾向にあることは止むを得ない。今度は支那側は毫も回收の意志のなかつたことを公言してゐるが、然し今回の問題が何う解決されやうとも、以上の形勢には何の變りもない。

ロシヤが寧ろ、期間前の回收を承認することによつて、滿洲に於ける現狀に急激の變化を與へる方法をとろうとする誘惑を感ずる時期が、案外早く來るのではないことも思はれる。

吉田英雄著　―新刊―

日本社會經濟編年史

……我國の社會經濟史を研究せんとする人々の爲めに二千五百餘年間の事蹟を一目の下に瞭然たらしめ、冗長煩雜なる歷史記錄の類を一々檢討搜索するの勞を省くの便を與へられたるは、其の功、洵に偉大なりと云はねばならない。……

（瀧本法學博士序文の一節）

神代より大正に至る社會事象を洩れなく年表體に記述編纂し、各項一々其の出典を明示す。研究者座右必備の良書。

定價八圓（內地送料廿七錢）

改造社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第二貧乏物語

河上肇

改造社

第五回

八、唯物史觀（その2——社會形態の推移の主要段階）

（十五字削除）如何なる言葉をもつてしても到底形容しつくされない程度の戰慄に値するものたらざるをえない。一九一四—一八年の第一次世界戰爭においては、戰死者（負傷後死亡せしものをも含めて）約九百萬人、廢人となりしもの約三百五十萬人、負傷者約千九百萬人であつた。また主要なる交戰諸國の出費は、直接の戰費だけでも、約二千五百億ドル（五千億圓）に達した。これら諸國の國富は總計五千六百七十億ドルであり、その年々の國民所得は總計五百七十億ドルであるといふ事實に徵して、如何にそれが莫大なる物質的損害を意味したかを知るべきである。しかるに最近十年の間、帝國主義列强の武裝は、其的にも質的にも、、、、、、、みつゝある。試みに陸軍の具へてゐる近代的な、、および、、の機關について見るに、第一次世界戰爭勃發當時ヨーロッパ各國の陸軍が有した機關銃は、一箇師團につき僅に二十四個にすぎなかつたが、一九二九年の現在では、一箇師團の有する砲架づき機關銃は、戰時編成のもとでは、フランスは百七十二、イギリスは百九十二、アメリカ合衆國は百五十五である。一九一四年には、いづれの國の陸軍も輕機關銃を有してゐなかつたが、現在における戰時編成のもとでは、一箇師團につき、フランスは三百四十、イギリス

は三百五十、アメリカ合衆國は七百九十の輕機關銃を準備してゐる。かくて現代の陸軍における鉄砲の射撃能力は、一九一四年と比較して、少くとも二倍半乃至三倍の增加をなしてゐる。タンクはすばらしく發達した。その速度は、第一次世界大戰の終末期に比較して、五倍から六倍くらゐ增加してをり、それは陸軍にとつて次第に缺くべからざる機動部隊となりつゝある。例へばフランスの工場では、第一次世界大戰の全期間を通じて、僅か三千二百個のタンクが製造されたにすぎなかつたが、今一九二九年における同國の軍隊は、平時武裝においてすでに千九百三十八個のタンクを具へてゐる實狀である。化學的兵器に至つては、その威力の增大は益々甚しい。現代の戰爭技術は、化學的な毒藥を飛行機から發散さす方法に成効した。もしかやうな發射機を用ひるならば、僅に三百リツトル（約一石七斗）だけの有毒化學品によつて、縱八百メートル（七町二十間）、横三十メートル（十六間五）の面積にわたり、そこにゐる人間の總てをみなごろしにすることができる。これと關係ある飛行機の發達も極めて著しい。フランス・イギリス・アメリカ・イタリー・、、、、大强國が有する飛行機數は、一九一四年度に比し、一九二八―二九年度は、十倍乃至十二倍に激增してをり、これらの諸國は、戰爭が始まると直ぐに、一萬三千乃至一萬五千の飛行機を戰場へ動員しうるはずである。かゝる大まかな若干の數字からだけでも、來るべき（十字削除）が遙に世人の想像以上に上ぼるであらうことが豫期される。このことは、（二十四字削除）とするものが、なんとしても最大の關心を寄せざるをえざるところのものである。それゆゑに私もまた圖らずこの物語の第四回目の末尾において、、、、、、、、、。だがそのために、前回の終りの部分約三頁は、あまねく讀者の知られる通り、發賣頒布以前に引き裂かれてしまつた。七月および八月の兩月とも、この物語の續きを公けにすることができなかつたのは、かゝる出來事のための餘波にもとづくのである。

私は、人類全體の禍福が殆どその上に懸つてゐると思はれる現代の最大問題について、讀者に訴へねばならぬ强き義務を感じながら、その、、、、、、、、されたまゝに、この物語を續けゆくことを、おもくるしき心持のもとにしか實現しえない。――引き破られたる三頁は今筆を執りつゝある私の心を尙ほ强く牽きつける。せめて私は次ぎの事實に言及することを許されねばならない。

周知の如く、去る七月二十四日に『不戰條約』なるものが『有効』となつた。それについて『大阪毎日』はワシントン特電として

「一九二九年七月二十四日は、平和に對する最も有効なる世界的大示威運動の日として、永遠に人類史上に記念せられるであら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

う』

といふ言葉を掲げ、『大阪朝日』もまた、―

『世界史上に永久に記念さるべき國際不戰條約の効力發生が宣布された意義深き七月二十四日』

といふ言葉を用ひてゐる。だが此の如き類の一切の饒舌は、、、、、、、、、、の外の何物でもない。かやうな饒舌は、（四十七字削除）を、、、の間に植ゑつけ、彼等の注意を他にそらさせんがための目的を追求してゐるに過ぎない。周知の如く、この條約の第一條には、『締約國は……その相互關係において國家の政策の手段としての戰爭を抛棄することを……嚴肅に宣言す』とある。だがそれが如何に可能なかぎりにおいて嚴肅に宣言されたとしても、此の如き單なる、、の、、や、、の宣言やによつて、戰爭の勃發を必然的なものたらしめてゐるところの・客觀的物質的諸條件が取り去られるはずはない。列強の政治家や軍部の當事者はもちろんのこと、ブルヂョア新聞の記者自身も。誰一人として、かゝる條約の成立が『永遠に人類史上に記念』さるべきものと思つてゐるのではない。世界經濟の埒内における客觀的物質的狀勢は、ブルヂョアジーをして（十四字削除）『なぜなれば、（十九字削除）、新しい帝國主義〔例へばアメリカ合衆國〕は、より舊い且つ力のより少い帝國主義列強〔例へばフランス、イギリス〕が恣まにしてゐる[illegible]を[illegible]することができないからである。』かゝる物質的な不可避性が單なる言葉によつて解消されうるものでないといふことを、、、、、、、が、、、、、してゐることは、平和に對する『最も有効な』條約――『永遠に人類史上に記念』さるべき條約――が成立したにも拘らず、かゝる條約を締結した何れの國も、他國との約合ひを顧みることなしには、僅かばかりの軍備すらも決して實行しないといふ眼前の事實が、これを證明してゐる。レーニンはいふ、『平和同盟は、、、、、し、またそれ自身が、、から生まれる。それらは相互に制約し、世界經濟と世界政策との帝國主義的な連絡および相互關係の同じ基礎の上における平和的および非平和的な、、、、、、、、、を實現してゐるのである。』ブルヂョア新聞が『世界平和の基礎定まる』と宣傳してゐる『不戰條約』の締結そのものが、一の異なつた形態における、、、、であり、その締結に至るまでに行はれた外交上の作戰そのものが、一の平和的形態における、、に外ならぬといふことを、吾々は明瞭に理解してゐねばならぬ。フーヴァア大統領が、『今や本條約の効力發生によつて、輝かしき機會が吾人の前に開かれた』といふとき、その輝かしき機會とは何であるかは、米國のブルヂョアジーはもちろんのこと、全世界のブルヂョアジーが皆な知つてゐる。それを知らないものは、たゞ、、、、のみである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だから見よ、ブルヂョアジー自身による世界平和のための『最も有効なる世界的大示威運動』の聲明は、米國の白堊館の東の間に特設されたマイクロホンによつて、『全世界に向つて放送され、また活動寫眞班、新聞寫眞班は、この歴史的光景（一）をカメラに收めた。』ワシントン特電は此の如くに報道してゐるのである。（五十二字削除）。現にこの物語も（三十五字削除）何故にこの不戰運動は、ブルジョアジー自身の手で行はるれば、そのための『最も有効な世界的大示威運動』の日が、人類史上永遠に記念さるべきものとされ、しかもその同じ運動が、一たびプロレタリアの創意のもとに行はるれば、忽ちにして『、、、、』を、、するものとなるのであるか？　その答へは明瞭である。前者は、、、、、、を大衆の眼から覆ふための・あるひは一層好都合なる條件のもとに、、、、、をなすための・（十一字削除）であり、本質的には、、、、の一形態たるにすぎないが、後者こそは、資本主義的體系に（十四字削除）生じる、、、、、を、×××××××××することによつて、眞實に『人類史上永遠に記念さるべき』、、、、を、人類史の上にもたらさんとする努力の一構成分であり、兩者はその本質において全く相對立する運動であるから。

七、八の兩月この物語を休んでゐたうちに、今一つの出來事が起つた。田中內閣の崩壞――濱口內閣の成立が、すなはちそれである。それにつき、この物語との關聯において、私が一言したく思ふことは、井上新藏相の經濟界行き詰り論である。氏が八月五日以後の『讀賣』に連載した『全日本に叫ぶ』の一文を見ると、氏は日本の資本主義的經濟の絶對的行き詰りを感づいてをり、それを日本開闢（ビャク）以來の最大國難であるとしてゐる。私はこれによつて、（十四字削除）の刻々に於ける增大は、今では（二十四字削除）な姿をもつて反映されざるをえざるに至つてゐることを看取した。氏自身の言葉によれば、氏は『死を賭して』『この難局を打開する』覺悟であるといふ。しかし氏が如何に死を賭しても、氏が×××××の永久的存續を絶對的條件として前提してゐるかぎり、その視野は必然的に狹隘なる限界內に局限されるのであり、しかるかぎりにおいて（二十一字削除）氏は『日本國民の擧國一致的協力を心から切望』しつゝ、『擧國一致の緊縮節約』と『金解禁問題の解決』とを叫んでゐる。氏はこれによつて『我國の經濟的不安を深刻ならしめてゐる最大の原因』を除かうといふのであり、除きうると考へてゐるのである。（十五字削除）氏の謂はゆる日本開闢以來の最大國難の原因として、、、、、、、、を把握することから、嚴重に氏を妨げてゐる。私は嘗てレーニンがロイド・ジョウヂの意見を批評して、『この議論は、如何に、、、、、、、の最も怜悧な者

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

七、入の兩月この物語を休んでゐたうちに、今一つの出來事が起つ

ら、嚴重に氏を妨げてゐる。私は嘗てレーニンがロイド・ヂョウヂの意見を批評して、『この議論は、如何に、、、、、、の最も怜悧な者

ですらが、、、のために最大の愚劣を犯さざるをえない狀態にあるかを、明白に示してゐる。このために、、、、、、も亦××してゆくのである』と言つたことを思ひ出す。資本主義的體系に內在する、、、、、から生じる難局は、××××××そのものの××××××を動かすことのできない絕對的條件として前提されてゐる者にとつては、如何にしても根本的に解決されうるはずはない。かくて例へば、緊縮節約は不景氣と失業とを生むことにおいて、一の、、の解決は同時に絕えず他の、、の發生原因となつてゆくであらう。濱口內閣が如何に努力するとも、彼等の謂はゆる國難を、、、、、、、、、、あらうことは、吾々より見れば、もちろん、、、、、、、、、、、。如何に、、、、、、、の最も怜悧な代表者たちであつても、彼等は到底、、、、、策を見出すことができないのである。彼等は、、、、、、、問題を問題としてゐるのであり、その點において一切のブルヂョア學者とその軌を一にする。（十字削除）における最も怜悧な學者たちも、今日の段階にあつては、如何に最大の愚劣を犯さざるをえざる狀態におかれてゐるかは、私が機會ある每に證明し來つたところである。彼等もまた解決すべからざる問題を問題としてゐるのであり、正にそのゆゑに最も怜悧な者すらが最大の愚劣を犯すに至るのである。

だが人類は――すでにこの物語の第一回目で述べたやうに――つねに解決しうる問題をのみ問題とする。現代における吾々の物質的・經濟的・社會的存在の上に起れる（十字削除）、結局のところ資本主義的體系のなかで發展して來た生產諸力が、その外被たる資本主義的體系（資本主義的生產諸關係）と、、、、、、、、ことのうちに橫たはるのである。すでに述べたやうに、『一定の衣服は小供の生活のために缺くべからざるものであつたとしても、それは小供の成長につれて次第に窮屈になり、そして小供の成長がある點以上に達すると、それを無理やりに着せておくことが小供の發育に對する桎梏となる。かくして成長しゆく小供のからだと着物との間に矛盾撞着が起る。』これが謂はゆる行き詰りの根本原因である。だから、その際飽くまでも舊衣を棄て去ることを欲せざるものは、何等かの方面・何等かの仕方においてからだの成長を、、、することの外には、この矛盾を解決するための方策を見出しえない。すなはち彼等は、からだの成長を、、、、することから生ずる困難を、結局のところまた同じやうに、何等かの仕方においてからだの成長を、、、することによつて解決せんとするのであり、それはどこまで行つても、困難を――（十八字削除）――一の場面から他の場面へ移すものたるにすぎない。かゝる困難を根本的に徹底的に解決する方策は、たゞ舊衣を脫ぎ棄てゝ新衣を纏ふにある。しかも、、、、、、、新衣を纏ひうる程度にまで成長

してゐるのであり、問題はそのためにこそ生じてゐるのである。この新衣は小供にはとても着せられなかつたものであるけれども、今はその小供が大人となつてゐるがゆゑに、——その小供が大人となつたればこそ當面の困難が生じたのであるがゆゑに、——よく觀察して見るど、問題はその解決の手段と共に發生したのである。だから、それは本來解決しえられる問題であり、たゞ（十字削除）においてのみ解決されえざる問題である。（二十字削除）唯一の可能なる方法において——二十字削除——これを解決して來た。大まかにいへば、古代共產制から奴隷制へ・奴隷制から農奴制へ・農奴制から現在の貨幣勞働者制（すなはち資本家的社會組織）へ・の社會形態の推移は、斯かる、、の、、、、、である。吾々はこゝで一應、過去におけるこれら發展過程の大體の運動を一瞥しよう。レーニンの言へる如く、『社會科學の問題を、、に考察し、多くの枝葉の問題や・驚くべきほど多種多様な反對意見や・のなかにあつて、自己の立場を喪失しないだけの技術を實際に達成するために、必要にして且つ最も確實なことは、——すなはち問題を科學的立場から研究するために最も重要なことは、——根本的な、、、、、を忘却しないことであり、あらゆる問題をば、ある現象は如何にして、、發生したか・その現象はその發展において如何なる主要段階を經過してきたか・の見地に立つて觀察し、更にこの發展の見地から、そのものが現在どうなつてゐるかを觀察することである」から。

＊　＊　＊　＊

人間による人間の搾取の最初の形態は奴隷制である。そこでは社會が、奴隷の勞働を搾取してゐる奴隷所有者の階級と・奴隷所有者により自己の勞働を搾取されてゐる奴隷の階級と・かゝる二つの階級に分裂してゐる。だが斯かる階級社會が成立する以前に、人間による人間の搾取の全く行はれえざりし時代が、永く存續してゐたであらうことは、單なる推理によつても想像しえられる。

一人の人間が他の人間の勞働を搾取することが可能であるためには人間の勞働の生產力（生產能力）が或る程度以上の發展段階に達してゐなければならない。もし勞働の生產力の發展程度がまだ幼稚であつて、例へば一人の人間の勞働によつて當人の生活を辛うじて支持してゆくだけの生活資料しか生產されえない場合には、一人の人間の勞働またはその勞働の生產物）が他の人間によつて、、、、、奪られるといふことは、繼續的な制度としては——それを可能ならしめる物質的條件が欠けてゐるのだから——到底存立しえない。だからこそ斯かる時代には、或る氏族と他の氏族とが武力的衝突に當つて敵の捕虜となつたものは、そのまゝ殺されて食用に供されたのである。（序ながら言ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る現[illegible]は[illegible]何にして、、、[illegible]生したか・その[illegible]はその[illegible]において
如何なる主要段階を經過してきたか・の見地に立つて觀察し、更にこ

[illegible]
ものは、そのまゝ[illegible]されて食卓に供されたのである。（事實から言へ）

[illegible]し いくら大昔のことだとて、人間が人間を食ふといふが如きことは、行はれはしなかつたであらう。斯様な疑問を起される讀者のために、今から約百五十年前の天明三年十一月十一日の日づけで、奥州三戸郡南部内藤領分八戸にゐた農民須藤善六なるものから、江戸田所町角にある本店の井筒屋三郎兵衛に送つた書面の一節を掲げておかう。有名な天明の飢饉當時のことではあるが、それには次ぎの如く誌してある。

『死にかゝり候人々の、、、はなし、格別、、、なるよし申候、言語道斷、かゝる時節にあひ中候こと、いかなることに御座候やと奉存候。』

奴隷制がまだ成立するに至らなかつた時代は、社會がまだ階級に分裂するに至らなかつた時代であり、從つて一の階級による他の階級の階級の××の××としての××的装置――すなはち××なるもの――の未だ存在するに至らなかつた時代である。吾々はかゝる社會を、自然發生的な・血族的な・原始的な・共産制の社會と名づける。いふまでもなく、人間が共同して勞働し共同して生活するためには、そこに一定の規律・秩序が存在してゐなければならぬ。これらの規律・秩序は、原始共産制のもとにあつては、慣習や傳統やによつて、または種族の年長者（時としては婦人）が享受してゐた權威や尊敬やによつて、維持されてゐたのである。だが、これらの人々は、一の階級が他の階級を××するための××的装置の一部を構成するものとして特別の範疇に屬するものではなかつた。それは、例へば、オーケストラにおけるコンダクタアの如き機能をもつたものに過ぎなかつた。

勞働の生産力が發展してきて、一人の人間が勞働すれば、その勞働の生産物によつて、たゞに勞働に從事してゐる當人の生活のみでなく、更に他の人々の生活をも支持しえられるやうになると、はじめて人間による人間の搾取が可能になる。すなはち或る人間は、他人の勞働（または勞働の生産物）を搾取することにより、自分自身は何等の勞働に從事することなしに、生活してゆけるやうになる。かくて社會は搾取するものと搾取されるものとに・搾取階級と被搾取階級とに・分かたれる。社會は階級的分裂をなす。無階級的社會は階級的社會に轉化する。

最初に行はれた社會の階級的大分裂は、奴隷所有者と奴隷とへの社會の對立的分裂である。すべて他の場合における搾取階級と被搾取階級との關係と同じやうに、奴隷がゐなくなれば奴隷所有者もまた生存ができなくなるといふ點において、奴隷所有者は奴隷と共通の利害を有する。すなはち奴隷を離れては奴隷所有者なるものが存在しえないといふ點においては、これら二つの階級は、本來不可分離的な連絡を有するものなのである。だがそれと同時に、一方は他方のものを

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

する階級であり、他方は一方のものにより搾取される階級であるといふ點においては、これら二つの階級は、絶對に利害の相容れない・到底、、することのできない・對立的な階級である。

無階級的社會から斯かる階級的社會への轉化は、嘗て地球上すべての所において行はれたものである。『近代的文明の全ヨーロッパにおいても、二千年前には、奴隷制が全然支配的であつた。世界の他の部分の國民の殆ど大多數のものも、この時代を經過した。發展の最もおくれてゐる諸國民の間には、現在なほ奴隷制の形態が存在してゐるものもある。〔琉球には明治年間の末期にも尙ほ斯かる奴隷制の形態が殘存してゐた。〕人々は、この奴隷制を、今日なほ、例へばアフリカにおいて發見するであらう。』

社會的外皮（生產諸關係）の一形態としての斯かる奴隷制が、勞働の生產力の・從つてまた社會の生產諸力の・發展程度に適應して、その成立・發展・ならびに沒落の過程を辿つたものであることは、言ふまでもない。すでに述べたやうに、奴隷制が成立するためには、これを奴隷の側からいへば、彼れの勞働の生產力が、彼れ自身の生活を維持するに足る以上の剩餘生產物を生產しうる程度にまで、發展してゐねばならぬが、これを奴隷所有者の側からいへば、彼れは奴隷の勞働に要する道具と原料と、奴隷の生活に要する生活資料とを、あらかじめ所有してゐねばならぬ。だから奴隷制の成立そのものが、すでに勞働の生產力が一定の段階にまで發展してをり、またそのために生ずる生產物の剩餘によつて、社會にある程度以上の分配上の不平等が生じてゐることを、その前提とするのであるが、更にかゝる奴隷勞働が進んで社會全體にとつての支配的なものとなるためには、勞働の生產力ならびに富の集積が、なほ遙にそれ以上の發展を遂げることを必要とした。だが、社會の生產諸力が此の如くにして發展しつゝ遂に或る發展段階に達すると、今度はこの奴隷制といふ强制的勞働の仕組が、生產諸力の更にそれ以上の發展に對する桎梏となつてくる。奴隷制はかくして農奴制にその席を讓るのである。

吾々が無階級的社會たる原始共產社會から一の階級社會たる奴隷制の社會に移りゆくに際し、吾々の看過すべからざる重大なる事實は、かゝる階級の形成と共に、すなはち社會が對立的階級に分裂すると共に、一の階級が他の階級を×××に××するための装置としての××なるものが成立する、といふことである。

ペルシア戰爭の當時には、奴隷の數は、コリントにおいて四十六萬、エギナにおいて四十七萬に達し、かくて自由人一人につき奴隷の方は平均十人の割合であつた。エンゲルスが『反デューリング論』において詳しく論じてゐるやうに、かゝる[illegible]

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

・によつて說明されべきものではない。だがまた、搾取者一人につき被搾取者十人の割合で成り立つてゐるやうな社會が、何等の××なしに、、されてゆくはずもない。だから斯かる社會には、一の例外もなしに、一の階級が他の階級を××するための一定の××××が存在するのである。

通常吾々はかゝる裝置を人類の社會的生活と不可分離的なものであるかの如くに思ひ込んでゐるのであり、また多くの學者は吾々のかゝる幻想を維持し强化するために、種々の理屈を列べてゐる。だが吾々が一たび局限されてゐる眼界の外に拔け出て、辯證法的に——すなはち全面的に——人類の發展過程の全體を見渡すならば、人間が他の人間を××するための特殊なる裝置としての××なるものは、人間が他の人間を搾取するといふ生產關係が存在する時と處とにのみ發生するものであり、それはまた、より僅かな人間がより多くの人間をより强く搾取するに至れば至るほど、益々、、、するものであることを、極めて明瞭に看取しうるであらう。

歷史的に奴隷制に續く社會形態は封建制である。社會の基礎的分裂は、こゝでは封建的地主と農奴とである。むかし日本で、百姓・作人・田堵などといひ、唐で庄客・寄庄戶・客戶などといひ、イギリスでヴイラニといつたものは、みな農奴の一種である。これを十二世紀頃のイギリスについていへば、村の耕地の五分の二または三分の一は、デミーンといつて、領主の自用地に屬し、その殘りが村のヴイラニたちに分配されてゐた。普通のヴイラニは約三十エーカアの土地を受け、これを自分のために耕作することを許されてゐたのである。だが彼等は、一週日のうち三日は、領主の自用地たるデミーンで無償の勞働に服さねばならなかつたのみならず、その他に種々の賦役を負擔してゐた。それが最も長く維持され最も慘忍な形態をとつたロシアにあつては、實際において奴隷制と殆ど異なるところがないくらゐであつた。（『資本論』、第一卷、第三篇、第八章の二、『剩餘勞働に對する熱求、工場主とボヤール』と題する部分、參照）。

だが、奴隷制と農奴制との間には、少くとも次ぎの如き異同が存在するのである。奴隷は彼れ自身が奴隷所有者の所有財產であるから、彼れの勞働（または勞働の生產物）はその全部が奴隷所有者に奪はれるやうに見えてゐる。けれども、奴隷も生きてゆかねばならぬのだから、實際のところは、彼れもまた彼れ自身の生產物の一部分を自分の生活のために消費するのである。從つて彼れの勞働もまた、必然的に、彼れ自身の生活上の必要のために行ふ勞働（假にこれを必要勞働と名づける）と、それ以上餘分に奴隷主のために行ふ勞働（假にこれを剩餘

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

勞働と名づける）とに、分割されてゐるのである。しかるに農奴にあつては、一週日のうち例へば三日を、領主から借りてゐる土地の耕作のために費し、且つその土地から生ずる生產物をば自分および家族の生活資料に宛て、そして殘りの三日は、無償で領主の土地を耕作し、且つその土地の生產物は悉く領主に取られてしまふのであるから、彼れの勞働が、自分のための勞働（彼れの立場から見ての必要勞働）と、他人のための勞働（彼れの立場から見ての剩餘勞働）とに、分割されてゐるといふことが、この場合には、時間の上から見ても、場所（耕作する土地）の上から見ても。外形的に明瞭になつてゐるのである。

農奴制は更に賃勞働者制に轉化した。社會の基礎的分裂は、こゝでは、資本家と賃勞働者とである。そして言ふまでもなく、吾々の住む今の社會は、かゝる賃勞働者制——すなはち資本家制——が支配的勢力を得てゐる社會なのである。この制度のもとにおける搾取者は資本家であり、被搾取者は賃勞働者である。從つて賃勞働者の勞働が、彼れ自身の生活のために必要とされる勞働（必要勞働）と、それ以上に他人のために提出する餘分の勞働（剩餘勞働）とに、分割されてゐるといふ點においては、（二十四字削除）。だが、賃勞働者の場合には、例へば彼れが十時間分の勞働に服するとき、資本家から彼れに向つて勞支はれる二圓の勞賃は、（三十四字削除）——（六十七字削除）——彼れの勞働が資本家によつて搾取されてゐるといふ事實が、全く表面から隱蔽されてゐる。（百六十三字削除）今かゝる現象形態のもとに隱蔽されてゐる事態の本質を明確に暴露したものは、すなはちマルクスの剩餘價値論であるが、今はそれについて立ち入るべき場合ではない。こゝでは、搾取の仕方の相違にもとづく現象形態のあらゆる差異を通して共通に存在してゐるところの・一の階級による他の階級の搾取といふ基礎的な本質上の同一性を看取することが、さしあたり問題なのである。

吾々は先きに、××は社會の階級的分裂と共に成立したものであるといふこと、詳しく言へば、一の階級による他の階級の搾取といふ經濟的構造の土臺の上には、必ずまた一の階級による他の階級の××のための機關としての××的上層建築が成立するものであるといふことを、述べた。今、過去における社會の經濟的構造の推移を見るに、古代共產制の時代を除いては、奴隷制・農奴制・賃勞働者制を通して、社會はつねに階級に分裂してゐたがゆゑに、何れの時代においても、そこにはまた必ず××が成立してゐた。たゞ異なるところは、社會の階級的構造の變化につれて、その××的構造の形態が變化して來たと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いふだけである。

私は今かゝる××的構造の差異や變化について述べてゐる暇をもたない。たゞ私がこゝに一言したく思ふことは、それが如何なる現象形態をとらうとも、その本質は――それが一の階級による他の階級の××のための特別な××的裝置に外ならぬといふ點に至つては――同一である、といふことである。

古代史に關して基礎的なことは、『奴隷が人間と看做されなかつたこと、たゞに市民として取扱はれなかつたのみならず、人間としても取扱はれなかつたことである。ローマ法は奴隷を物と看做した。人身保護のための他の法律については言はずもがな、殺人に關する法律すら奴隷には適用されず。それは專ら、完全な權利を有する市民と認められてゐたところの・奴隷所有者のみを、保護したものである。……奴隷所有者は總ての權利を享受してゐるにも拘らず、奴隷は法律に從へば物であつたのだ。そのために、奴隷に對するあらゆる暴行はもちろんのこと、奴隷を×すことすら、何等の犯罪ともならなかつたのである。』(二十一字削除)。何故なれば、その現象形態は如何に多種多樣であらうとも、××は常に一の階級による他の階級の××のための××的裝置であり、それは結局においては例外なく搾取階級の××のみを××することを目的としてゐるものであるといふことが、(四十一字削除)。

・　・　・　・　・

以上吾々は、過去における社會形態の主要段階を追跡しつゝ、その間において、階級・××・階級と××との關係・××の本質等の諸問題に觸れた。これらの智識は、吾々が現在の事態を理解する上に、少からず導きの絲となるであらう。

生産諸力の絶えざる發展は、人類の發展の基礎的條件である。だから、發展しゆく生産諸力が現存の生産諸關係と、、することになれば、(三十八字削除)――すなはち舊衣を棄てゝ新衣を纏ふことによつてのみ――解決されるの外ない。現に人類は過去において斯かる、、に出會ふ毎に、常にかゝる唯一の可能なる方法においてこれを解決して來た。古代共産制から奴隷制へ・奴隷制から農奴制へ・農奴制から現在の賃勞働者制(すなはち資本家的社會組織)への・社會形態の推移はすなはち人類が過去において行つた斯かる解決の主なる足跡である。(二十七字削除)。そしてこの仕事――、、、、、、、――の、、のために、新たに政治鬪爭の舞臺に登場した階級が、(十七字削除)。(八字削除)政府の一員たる井上新藏相は、(二十五字削除)、死を賭してこの未曾有の國難に處せんことを宣言してゐる。だが、それと同時に、(九十二字削除)。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

官吏の交迭と行政の能率

末弘嚴太郎

政變のかはれる度毎に吾々の最も注目を惹く事柄は行政官吏の大交迭である。それは政黨政治の發達に伴ふ必然の現象であつて、或程度までは事實已むを得ない事柄に違ひないけれども、國民の現實的利害に直接關係する行政の能率如何を考へ合はせて見ると、從來行はれ來たつた行政官の交迭の內に幾多の不合理を發見せざるを得ないのである。

一體何人の手に政權があるかは吾々國民の利害に關係する所の大なることを素より言ふを俟たないけれども、具體的の行政が何人の手によつて行はれるかも亦それに劣らず重要な事柄である。吾々國民は公正にして勤勉なるそうして當該の事務に通達した官吏によつて行政せらるることに緊密な利害關係をもつてゐる。然るに從來官吏の交迭する幾多の事例を見てゐると、此最も重要な點が多く考慮せられずして、或は單なる政黨的利害關係の爲めに、又或は官吏その人の個人的利益を標準として、交迭が行はれてゐるやうに思はれる場合が非常に多い。それを私は心より遺憾とするのであつて、前者の事例は——政黨政治との關係上——ともかくとして、後者の如く單に現行官吏制度の事務的運用上發生してゐるに過ぎない現象は制度の改正によつて一日も速に之を絕滅せしめねばならないと考へるのである。

從來吾國の官吏交迭は——少くとも局外者から見ると——行政の能率を標準とせずして專ら官吏本人の利害を標準として行はれてゐるやうに思はれる。そうして現行の官吏制度は實にかくの如き標準によつて官吏の交迭の行はるべきことを强要して居るやうに思はれる。例へば或官吏は社會問題に深い造詣と興味とをもつて居り、從つてその方面の官吏として最も適任であると思はれるにも拘らず、現在の官等制度と俸給制度とは事實その官吏をして永く社會行政に止まることを不可能ならしめつゝある。司法官にしても或人は少年審判の問題に深い興味をもつて居り、從つてその人個人の希望から言ふと少年審判の事務を畢生の仕事にしたいと考へてゐるにしても、その事務に止まつてゐる限り官等は制度上必然或程度以上に昇ることを得ず、俸給も亦必然或限度以上に昇ることを得ない。官等と俸給とを昇らしむるが爲めには制度上已むを得ず彼をして少年審判の職を去らしめねばならないやうに出來て居る。又例へば借地借家の調停、小作調停の如き特殊の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

[illegible]る場合が非常に多い。それを私は心より遺憾とする[illegible]政治との關係上——ともかくとして、後者の如く單に現行官

然或限度以上に昇ることを得ない。官等と俸給とを昇らしむるが爲め[illegible]やうに出來て居る。又例へば借地借家の調停、小作調停の如き特の

事務は或種の裁判官のみ能く之に適應することが出來る、決して何人でも出來る事柄ではない。大審院判事に適する人も決して常に調停判事として適任者ではない。然るに現在の制度は彼が一定以上の昇進を希望する限り永く其地位に止まることを許さない。其結果永年調停に從事して其仕事に熟達した者も單にその人本人の個人的物質的幸福の爲めに地位を變へしめられると言ふ極めて不合理なる現象を生ずるのである。

人事の變動について一々官吏本人の同意を必要とする判事についてすら事は實にかくの如くである。一般の行政官吏に至つては更に一層不合理な標準によつて頻々と交迭せしめられる。學務部長は制度上內務部長より地位低きが故に先づ地方官に任ぜられる若い行政官はその適否に拘らず必ず學務部長に任ぜられる。そうして全く教育事務に經驗なき若き「法學士」が老練なる中學小學の諸「先生」に對して「訓示」を與へたり、永年縣下に根を張つて居る縣視學等を「監督」しやうとする。常識的に考へて地方教育行政事務の實値が擧がる筈はどうしてもあり得ないのである。又社會行政事務殊に勞働保險事務の如き

吏制度殊に其官等並に俸給に關する制度が一官吏をして永く同一地位に止まることを不可能ならしめてゐる點に存するのである。尙も官吏本人が出世を希望する限り自ら特殊行政の專門家となつて長く其地位に止まることは不可能である。其結果現在官吏は一般に力めて專門家にならないやう、少くとも外部から專門家らしく見えないやうに努めてゐる。何故なれば特殊事務の專門家になり終つて他に融通がきかないやうな外觀を呈するに至つた以上、全く彼の昇進の途は塞がれて仕舞ふからである。かくの如くにして各種の行政事務は常に素人官吏によつて行はれつゝあり、そうして個々の官吏が多少其事務に熟達した頃には再び他に「榮轉」せしめられるのが從來の實情である。其結果行政事務の實質は終始其事務に從事してゐる屬僚之を司り、所謂局長部長課長等は單に名義上の首長たるに過ぎないやうな實例を隨所に見ることが出來るのであつて、現在各地方に行はれて最も惡しき意味に於ける屬僚行政は實にかくの如き原因から發生してゐるのである。

試みに外國の事例を考へて見るがいゝ。「私は此事務に二十年此方從事してゐる」と言ふやうな專門的高級官吏をいくらでも發見出來るで

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

的取扱に從事してゐた官吏を突然農務局長に任じて特殊複雜なる農業の諸問題を取扱はしめるやうなことをするによつて、眞に實質的に其等諸問題の取扱を良好ならしめ得る筈がないではないか。如何に錬達有能の士と雖もかくの如き任用方法の存する限り決して自己の特長を發揮して全力を適所に傾倒するの不可能なることを言はんと欲するのである。

以上の不合理は現在の官吏の地位移動については頻々として常にかはれつゝある。然らば此の不合理を除去すべき手段如何。曰く、現在の官等制度及び俸給制度を改正すること、それこそは實に唯一にして而かも極めて實現容易な方法である。例へば或る判事は少年審判の事務について到底何人も企て及ばない手腕と經驗とをもつてゐる、そうして判事本人も終生其地位にありたいと希望してゐる。而かも現在の官等並に俸給制度は實際上彼をして長く其地位に止まることを不可能ならしめてある。彼が強ひて其地位に止まらむとする限り物質上多大の犠牲を拂はねばならないのが現在の實情である。此故に私は主張したい。「官等制度を廢止せよ」「官職の種類によつて俸給の最高額を限定する制度を廢止せよ」。かくしてこそ實に適材をして適所に止まらしめ、以て國民の爲めに善き行政を行はしめることが出來るのである。

此事は誰しも氣付く平凡な事柄である。而かも其弊害の深刻さが比較的一般に氣付かれてゐない事柄である。萬事について能率と善政とを標榜してゐる現内閣諸公が此問題を考慮されむことを心より希望する次第である。

末弘嚴太郎著	農村法律問題	定價二・五〇 送料・二〇
末弘嚴太郎著	噓の效用	定價二・六〇 送料・二〇
末弘嚴太郎著	法窓閑話	定價二・五〇 送料・二〇
末弘嚴太郎著	勞働法研究	定價三・〇〇 送料・二四
堀江歸一著	國際經濟總論	定價三・三〇 送料・二六
堀江歸一著	貨幣・銀行・外國爲替(上卷)	定價四・〇〇 送料・二六
堀江歸一著	貨幣・銀行・外國爲替(下卷)	定價四・〇〇 送料・三〇
高橋龜吉著	資本主義末期の研究	定價二・五〇 送料・二四
渡邊一郎著	勞働問題原理	定價二・〇〇 送料・二〇
小泉信三著	改訂價値論と社會主義	定價三・二〇 送料・二八
福田德三著	社會運動と勞銀制度	定價二・五〇 送料・二〇

發行所　東京市芝區愛宕下町 振替東京八四〇二番　改造社

時評

「緊縮」「緊縮」と鳴く油蟬

山川均

政友會の內閣は緊縮々々と鳴き、民政黨の政府は緊縮々々と鳴く。その鳴き聲は甚だ異なるといへども、共に現存經濟秩序の維持と擁護とのために鳴くものであつて、その相異は、畢竟、油蟬とツクツク法師との相異以上の相異ではなく、一般大衆にとつては、夏をして一そう暑からしめるものに外ならぬ。

世界戰爭の五ケ年間に、日本の資本主義經濟は急速に膨脹した。しかるに戰爭の終了と、戰爭の終了に續づく資本主義の世界的な動搖と、その動搖の波を切り拔けた各國の經濟力の恢復とは、わが國の僅か造りの尨大な經濟的建築物の下から、その乘つかつてゐる土臺を俄然として縮小した。建物は傾覆せざるを得ぬ。傾覆しないまでも、動搖せざるを得ぬ。まさに資本主義經濟の地震であつて、大正十二年の大地震に見舞はれるまでもなく、わが國の資本主義經濟はこの大地震のために、その根柢から震撼せられてゐた。

そこでわが國の資本主義經濟が、この『國難』――これが國難の眞髓である――のうちに生き延びる唯一の道は、いふまでもなく、過大となつてその重心を失つた經濟上の裝置と建物とを、この新たな土臺の上に再整調することにほかならぬ。この整調は、二つの方向を取つて行はれる。第一には、過大となつた經濟上の建物を、その容積において縮小することであり、第二には、たゞに縮小するばかりでなく、一そう當業的にすること。言葉を換へて云へば、資本主義的な意味において、合理的にすることである。第一の過程は、新環境に對する消極的な再整理であつて、第二の過程は、この新環境の下における

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

資本主義の新たな進出、資本主義的發展の新たな段階を意味してゐる。

ところがこの第二の過程は、第一の過程を通じて、或る程度までは自働的に行はれる。謂ゆる經濟界の整理によつて、新たな資本主義の體系に取つての過剩部分、厄介な手足纒ひたる『不健全な』部分と、より非合理的な中小の事業は破滅沒落する。とは云へ、これらの小資本と小企業とが、大資本主義の體系にとつて悉く不用なわけではない。如何なる處にも、純粹な形において大資本主義なるものはない。そして大資本主義の體系がそれを必要とする限りにおいては、小資本と小企業との存在と活動とが許される。けれども現實な破滅と沒落とを免かれた中小の資本と企業とは、この整理の過程において、完全に大資本、特に少數の大中心に集中された大金融資本の統制と支配に從屬させられる。それは完全に、大資本主義の體系の一部分、その末梢、ないしはその尻尾となることによつて、僅かに存續を許される。獨り中小の資本と企業ばかりでなく、謂ゆる大企業といへども、『健全』であるためには、大金融資本の網の目に編み込まれねばならぬ。

かように資本主義經濟再建の第二の過程を促進する最も主要な動力は、第一の過程であつて、この第一の過程の進行を早やめ、その歩調を整へる行進曲は、『緊縮』『緊縮』の疊句にほかならぬ。そこで緊縮政策は、資本主義の最も根幹的な必要を代表する政策であつて、從つて資本主義の立場から最も合理な政策、最も本筋的な政策であり、何人がブルジョア政權の運用を擔當しようとも、苟も資本主義的秩序の維持と擁護とに忠實である限り、究極においてはこれに訴へなければならない根本政策だと云ふことができる。

しかしながら『緊縮』の旗の下に進行する經濟界の整理の行程は、決して苦痛を伴はぬものではない。整理は犧牲を意味する。たゞこの犧牲によつて生き延びる立場にある者のみが、よく『國家的見地』に立つて、敢然としてこの犧牲を甘受しようとする勇氣がある。そこでこの整理の進行を回避することも、たしかに現實なブルジョア的必要であつて、ブルジョア的必要である限りにおいては、それはブルジョア的合理である。ことに政治上の問題として見る時には、即ちブルジョア政權の維持と確保といふ見地からするならば、資本主義經濟の第一義的な合理を、その第二義的な合理と妥協することが、却つて政治的には第一義的な合理となる。

かくて戰後から今日にいたるわが國のブルジョア二大政黨は、おの〳〵、この二つのブルジョア的必要のそれ〴〵を代表して對立し、二大政黨間の謂ゆる政權の盥廻はしは、この二つのブルジョア的必要の妥協と調節との政治的形態であると云つてよい。政變の直接の動力となつたものが、或は元老であつたり、或は貴族院であつたり、又はしば〳〵樞密院であつたりしたことは、これらの政變の眞實の性質を、多かれ少かれ曖昧にする。けれども眞の問題は、政變が直接、ブルジョア議會を動力として起つたか、樞密院を動力として起つたかにあるの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

でなくて、樞密院を動かしてゐる動力が何であるかに存してゐる。今日、樞密院や貴族院の行動の少くとも限界となつてゐるものは、（八字削除）にほかならぬ。

かような二つの、一見、相背馳するところの必要が、同じくブルジョア的必要であり、從つてブルジョア的合理であることは、この二つの必要を代表した緊縮政策と積極政策とが、二大ブルジョア分派の標語となつてゐることにより、そしてそれにも拘らず、今日にいたるまで、民政黨の內閣がその緊縮政策を徹底的に追求することができなかつたように、政友會の政府がその積極政策を徹底的に遂行し得なかつたことによつても知ることができる。大正十四年十五年の加藤、若槻兩內閣が緊縮政策のために成立したにも拘らず、その緊縮は極めて不徹底的なものであつた。そして緊縮政策のために生ずる犧牲は、今日よりも遙かに大きく、その苦痛は遙かに激烈であつた。そこで早くも創あとに萬金膏を貼る要求が、その權利を主張し始めた。かうして昭和二年には、田中內閣は謂ゆる積極政策のために生まれたが、この政友會內閣の積極政策もまた、何ら徹底的に追求せられたと云ふことはできぬ。いなこの積極政策は、二ケ年の後には、『積極政策のための緊縮政策』に變質せざるを得なかつた。政友會の積極政策が何ら徹底的な積極政策たることが出來ないで、その實踐においては、最も日和見的な、最もその日暮し的な放漫な施政とならざるを得なかつたことは、謂ゆる積極政策が代表するところのブルジョア的必要が、資本主義經濟の第一義的な必要の前には第二義的な必要に過ぎないこと、より根本的な、より本筋的なブルジョア的必要、從つて、より合理的なブルジョア的政策たる緊縮政策の前には、より當面的な、より脇道的な、從つて、より非合理的なブルジョア政策に過ぎないこと、それは切開手術に對する局所麻醉の手當——時としては、萬金膏の貼布——に過ぎないことを物語つてゐる。

かういふ意味では、政友會の代表したブルジョア的必要は、究極において、とうてい滿たされざる欲望であつた。これに反して、資本主義經濟の再建が命令するところの必要は——資本主義經濟が再建せられる限り——何者の積極政策をも打破しつゝ進行する。かように政友會の代表した謂ゆる積極政策は、支配的なブルジョアジーの追求する本筋の政策ではなくて、寧ろこの政策を追求する行程において避けがたい創痍と苦痛とに對する、慰撫と鎭痛との政策にほかならぬ。

そこで若し、田中內閣に尙ほ二ケ年の任期を與へたとしたならば？積極政策の名において緊縮政策が行はれ、若しくは、少くとも積極政策の糊水をした緊縮政策が行はれてゐたに違ひない。けれども、これは憲政の『常道』に反してゐる！二つの役割は、異つた裝束と假面とを着けた、異つたブルジョア分派によつて演ぜられなければならぬ。憲政の『常道』は斯く命令する。そしてブルジョアジーの階級的平和は、斯く要求する。この憲政の『常道』の車の後押しを手傳つたものが、貴族院であつたか、西園寺侯であつたか、樞密院であつたか、蹴

派の壯士であつたか、それとも張作霖の亡靈であつたか、何のなにがしの暗殺事件であつたかは、固より第二義的な重要である。

緊縮政策が、資本主義の根本要求を代表し、資本主義的發展の主要方向に沿うてゐるといふ意味においては、民政黨はブルジョアジーの――然り、帝國主義的、ブルジョア的意味においての――進歩的傾向を代表し、積極政策は、多かれ少かれこの方向への速度を緩るめ、若くは緩るめようとするものだといふ意味においては、政友會はブルジョアジーの反動的傾向を代表する。

けれども民政黨の政策が、帝國主義的資本主義の時代においての進歩的であるといふことは、必ずしも、ブルジョア民主主義的だといふことを意味するものではない。いな反對に、民政黨の緊縮政策が帝國主義ブルジョア的意味において進歩的だといふことは――即ち、資本主義的發展の根本要求と主要方向を代表するといふことは――民政黨が懸値のない帝國主義的ブルジョア黨だといふことを意味してゐる。

かように民政黨は、帝國主義的資本主義の根本要求を代表し、主要努力の方向を代表した。しかるに政友會の積極政策は、二ケ年中の經驗によつて、約束した何物をも齎らさなかつた。この間にも、經濟界の整理と調整の作用は、依然として進行しつゝあつた。ことに目星い魚は、整理の網の目を潜つて生き殘る準備のために、充分な猶豫と時間を得た。積極政策の麻醉のうちに慢性的に廣まり深まつた不景氣は、緊縮政策の犧牲と苦痛とを、それだけ緩和したともいふことが出來る。そこで政變の拍子木が鳴つて舞臺は回轉する。

□

吾々は、緊縮政策のブルジョア的意義を見た。この背景のうちに於いて、無産大衆に取つての緊縮政策の意義が明かになる。

資本主義が存續する限り、無産大衆は、苟も資本主義の發展が促進せられることに對して、反對すべき理由はない。なぜならば、この發展のみが、資本主義の內的矛盾を發展せしめるものだからである。けれども之は決して、無産大衆は資本主義的發展の作用に對して、、、、でなければならぬことを意味しない。大衆は、資本主義的發展のために缺くべからざる、、、、、、、する當然の權利がある。そこで資本主義的發展の行程には、ブルジョアジーの內部における摩擦(緊縮政策の必要と積極政策の必要)があるばかりでなく、無産大衆との間の階級間の摩擦がある。そしてこの摩擦――、、――が或る程度(二十二字削除)することはできぬ。

かように無産大衆に取つては、緊縮政策に反對する何らの理由もない。問題は、この資本主義再建の、、を、、が、、するかにある。いふまでもなく支配的ブルジョアジーは、一般大衆の、、によつて――少くともその出費の一大部分を、一般大衆に、、せしめることによつて――最も廉價にこの再建を買入れようとする。金の輸出解禁は、經濟的再建の根本條件だと云はれてゐる。解禁の第一の條件は、いふまでもなく爲替相場の恢復と安定である。緊縮內閣は、本年度の國債か

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ら七八千萬圓を『緊縮』するといふ。これは僅かに成功に違ひない。けれども八千萬圓によつて、圓價の恢復と安定とを買ふわけにはゆかぬ。それが爲めには、輸出を増大しなければならぬ。そこで――と支配的ブルジョアジーは云ふ――一切の問題の中心點は、生産費の低減にある。緊縮せよ！ 緊縮せよ！ こゝで行進曲の疊句が歌ひ返へされる。緊縮せよ！ 政府が八千萬圓の支出を緊縮したやうに、傭主は給料の支出を緊縮せよ、工場主は賃銀の支拂を緊縮せよ。その代りに(!)緊縮すべき何らの支出もない勞働者と、俸給生活者と、農民とその他の小市民とは、、、、、、、、、緊縮せよ。緊縮内閣が、僧侶と、神官と、牧師と、教育者と、靑年團と、消防隊と、在郷軍人と、御用學者と、その他の有りと有ゆるものを動員して、緊縮の行進曲を合奏する『一大國民的精神運動』を起すといふ事によつても、緊縮の出費を、究極において、、、、、、、せしめようとしてゐるかを知ることができる。

大衆は、積極政策が何を與へるかを經驗した。『積極』『積極』と鳴くツクツク法師が大衆の頭に小便を仕掛けて飛び起つた同じ樹上から『緊縮』『緊縮』と鳴き立てる油蟬の聲を聞く。どちらが一般大衆に取つて暑苦しいだらうか？

賀川氏の社會局入り

近頃の官界における人物の起用について、多少とも常套を破つたと見られたものが、三つある。第一は、田中内閣がその終末期において、長岡氏を警視總監に据えたことである。田中内閣の何處かに幾らか不調和な局部があつたとするならば、それが社會局であつたといふばかりでなく、若し今日のブルジョア政治に、多少ともリベラリズムの臭ひのする部分があるとしたならば、それは政黨ではなくて内務省の社會局だつたといふことは、何人も認めるに違ひない。その社會局の主腦者長岡氏が、反動的な傳統で固まつた政府部門の長官に据えられたことは、一般世間の興味を惹いた。惜しいかな。田中内閣の瓦解によつて、この興味は中斷された。

第二には、東京市がよく〳〵困つた揚句の人選とは云ひながら、役人の廢物にあらざれば政黨政治家の退役者を市長に擔ぎ上げる多年の不文律に違反して、とにもかくにも働き盛りの現役者を市長に迎へたことであつた。

そして第三には、この新市長によつて、賀川豊彦氏が東京市の社會局に迎へ入れられたことである。

この三つの事實を繋ぎ合せてみると、わが國の政治機關の何處かに、幾らかリベラリスティックな、謂ゆる『新淸な』空氣が吹き出したのではないかといふ感がないでもない。けれども實際には、これは一つの傾向と見るよりも、寧ろ三つの事實と見るのが當つてゐる。若しこれを一つの傾向として見るべきなら、吾々はそのうちにリベラリズムへの新たな傾向を見るよりも、寧ろその所どころに於いて、常套を破

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つて——と云ふよりも、申譯ばかりの小孔を明けて——幾分かの『新清な』空氣を通ずることが餘儀なき必要となつたほどに、それ程わが國の政治機關は、保守的反動的な傳統の上に硬化した事實の反映を見なければならぬ。

人事行政において『定評』のあつた田中內閣が、長岡氏の起用によつて一新生面を開いたのは、前總監の罪亡ぼしといふだけではない。警視廳をこの上不評判にすることは、田中內閣にとつても一種の危險であつたに違ひない。東京市會が働かぬ人、ないしは働けぬ人を探し出して市長に祭り上げる代りに、ともかく働らく市長の下に服從する覺悟をきめたのは、東京市の市政が、よく／＼行き詰つた證左にほかならぬ。東京市長が賀川氏を起用した動機が何であらうとも、現に市會議員の間において、賀川氏の抱懷する思想を理由として、その起用に反對する人々のあることを考へたなら、この起用が一つの『英斷』であつたことは爭はれぬ。それと同時に、大都市における社會問題の解決が、今や少くともこの程度の英斷を餘儀なくするほどに、切迫したものであることも、爭ふことができぬ。たゞこの英斷によつて、社會問題の結び目が果して斷ち切られるか否かは、自づから別個の問題として。

恐らく吾々は、社會問題に對する多くの根本的な見解において、賀川氏と一致しないだらう。それにも拘らず、吾々は何らの躊躇もなく、賀川氏の社會局入りを歡迎する。社會問題に對する賀川氏の根本的な見解がどうあらうとも、兎にも角にも何らかの見解を持つた人が、何らの根本的な見解をも持たぬ役人の代りに、大都市の社會問題の上に、その見解を實驗に移す機會を得ることは、一つの進歩と云つてよい。賀川氏の起用は、先づ第一には、お役所的傳統を破つたといふ讃辭に値ひする。

大都市の社會事業が、これに對する一定の見解を持ち、所信を持ち、抱負を持ち、そして經驗を持つ賀川氏によつて指導せられることは、少くとも、何らの見解も所信も抱負も經驗もない、一屬吏によつて指導せられるよりも、より効果的であることは疑ひがない。最後に吾々は、その所信と抱負とを、大都市の規模において組織的に現實する機會を得られたことを、賀川氏自身のために慶賀しなければならぬ。

それと同時に、吾々は賀川氏の社會局入りによつて、賀川氏の抱負の實現に對してさへも、東京市政そのもの丶本質が、如何に究屈に界限を置いてゐるかを實驗するに違ひない。そしてこれは亦、賀川氏と吾々との間の、社會問題の根本的な見解の相異についても、若干の暗示的な光を投ずることを疑はぬ。

植民地長官の旋毛曲り

かつては上山臺灣總督が旋毛を曲げて、田中內閣を手古摺らせたことがある。そしてその尻押しは、民政黨だと云はれてゐた。その返禮

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

……自から別個の問題

恐らく吾々は、社會問題に對

川氏と一致しないだらう。それにも拘らず、吾々は何らの躊躇もなく

賀川氏の社會局入りを歡迎する。社會問題に對する賀川氏の根本的な

植民地長官の旋毛曲り

とがある。そしてその尻押しは、民政黨だと云はれてゐた。その反逆

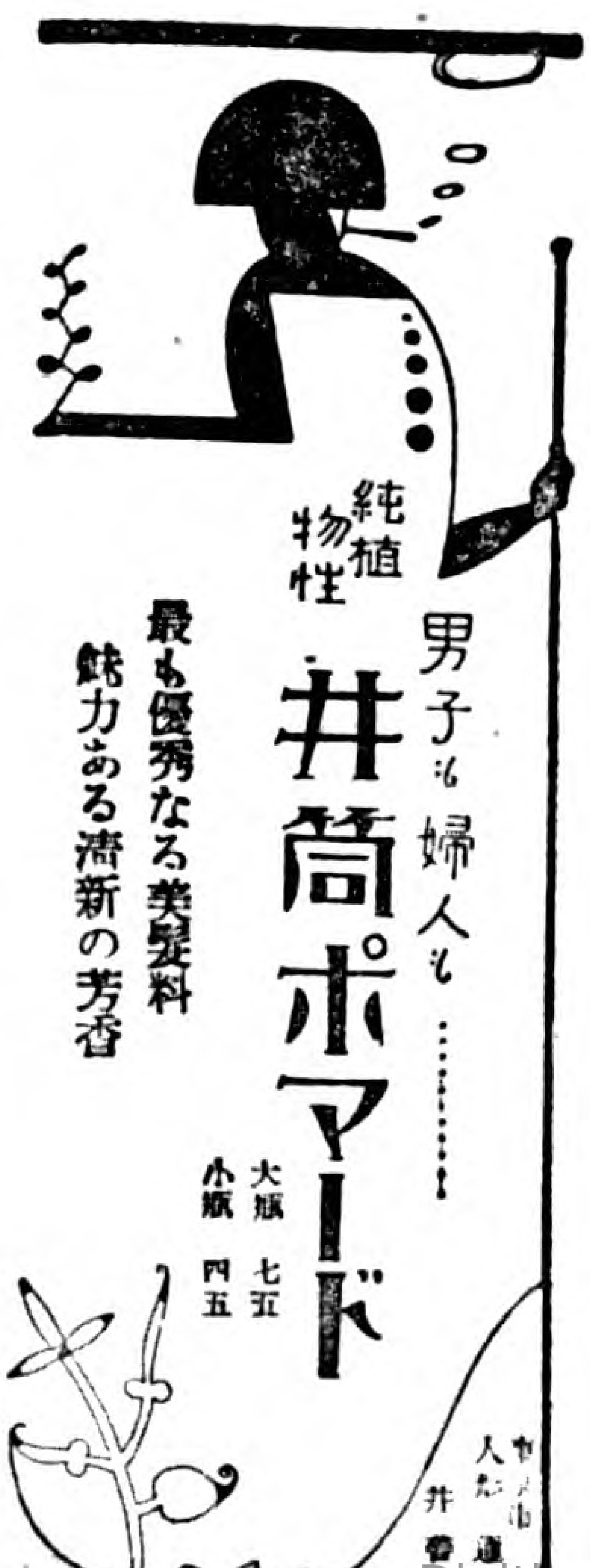
總督の辭職を當然とするからである。

山梨總督に對して、政府が滯京命令を發したことは、ちよいと痛快のようでもあつた。民政黨の内閣に、若し山梨總督の免官を奏請する勇氣があつたなら、もつと痛快であつたらう。初めは脫兎の如くであつた内閣は、京城指して脫兎の如く逃げ出す總督を、少くともその場で取り押へることができなかつた。けれども、初めは何時でも脫兎の如く、そして反對勢力の前には、何時でも處女の如くにおとなしくなることが、民政黨の傳統であり特質であるから仕方がない。

といふ譯か、今度は山梨朝鮮總督が旋毛を曲げ、民政黨の内閣を手古摺らす。そしてこの横車の後押しは、政友會だと云はれてゐる。政權を浚はれた腹いせに、植民地長官が居据りを極め込んで新内閣を手古摺らすことも、どうやら憲政の常道の一部分となるらしい。

由來植民地は、ひとり、、、、、に取つての寶庫であるばかりでなく、ブルジョア政黨に取つても、無くてならぬ寶庫であると云はれてゐる。先きの政友會内閣にしても今度の民政黨内閣にしても、總選擧の豫想を前にして、尙さら、寶庫は無くてはならぬものである。況んや植民地長官は、大臣の籤を引き損ねた大臣的失業者を救濟するためにも、絕好の收容機關である。そこで内閣の更迭と共に、植民地長官の更迭を見ることは、地方長官の更迭を見ることよりも、或る意味では一層合理であるとも云ふことができる。植民地長官のかういふブルジョア政黨的重要性を充分にのみ込んだ上で、これを反對黨に對する嫌やがらせや不貞腐れに利用する最近の政治的流行は、ブルジョア分派の政爭が、ます〱低調化して來たことを物語る。

尤も今度の山梨總督の場合は、單なる嫌やがらせ不貞腐れ以外、もつと實質的な何ものかゞあるとも傳へられてゐる。朝鮮總督府をめぐつて重大な疑獄が起つてゐる。この疑ひの圈内に、或は圈外に、或はその境界線上に立つと云はれる山梨總督が、ひたすらに京城から離れまいとすることは、道理であると云へば道理でもあるし、無理だと云へば無理でもある。たゞこの疑惑のためにも、普通の政治道德は、山梨



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

經濟時評

内閣の運命を決する豫算の編成

杉山幹

一

愚かなる親の盲目の愛に、その子の心身がそこなはれ、遂に救ふべからざる運命にたちいたるが如く、今やわが國民は、歐戰以來の歷代内閣、殊に政友會内閣の失政によつて、正にあはねばならぬ大窮境に直面した。親の愛は盲目にしても、なほ誠意の發露である。政權をねらふ既成政黨者の眼中には、黨利黨益あつて、國利民福がなかつたと云はれても致し方があるまい。殷鑑遠からず、田中政友會内閣に見る。

田中内閣の失政は、文字通りの百出で、今更數えたてるのいとまがない。けれども、不戰條約、滿洲某重大事件等を初めとし、累積した失敗の責任を無視し、假りに田中内閣が例の横車を押し通し得たとしても、いづれは自滅の運命を免れ得なかつた、財政經濟政策上の大失政については、いまだ國民一般に徹底して居らぬ様である。

今日の經濟國難は、もとより一朝一夕に起つたものではない。歐洲開戰後の四ヶ年間は非常の好景氣であつた。即ち大正四年から七年迄の四ヶ年間に、わが國は貿易の出超十四億、貿易外の受取勘定十四億併せて廿八億圓の儲けがあつたがために、在外正貨として國外においた金高だけでも一時十三億圓の多額に上つた。この不時の儲けを貯蓄して、有益に使用するの方法をたてゝ居つたならば、國家も國民も今日の窮境に陥らず、大いに對外的發展も出來た筈であるが、事實は全くこれに反し、官民共に、有る丈け勝負で儲けた金を湯水の如く浪費したばかりでなく、大正八、九年の熱狂時代には、國民的の大賭博を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

うつて戰時利益を蕩盡し、殘つたものは贅澤の習慣、一攫千金の射倖心、ボロ會社の株券と返濟の見込ない借金ばかりである。

されば、タトヒ關東の大震火災の損害や、金融恐慌の打擊はなくとも、わが國の不景氣は深刻な筈である。況んや大震火災によつて百億の財貨を失ひ、金融恐慌によつて信用組織は破壞されたのだから、今日の不景氣の根底は實に深く且つ强い事は明かである。されば今日の不景氣に處するの策は、タトヒ金解禁の問題がなくとも、公私經濟の緊縮整理を斷行するの他に途なく、しかも金の解禁を行ふにあらざれば、眞の景氣回復に絕望であつて、金の解禁は公私經濟の緊縮整理を先づ斷行せねば、これを實行し難いことは識者の殆んど一致した見解である。

二

歐米においては、既にこの常道に卽して、早く戰後經營に努力し、殊に米國の如きは、戰時利得は、遙かにわが國より大であつたにも拘らず、政府も國民も戰時の好況時代からこれを蕩盡するを抑制するの政策をとつたばかりでなく、戰後は政府まづ財政の大緊縮方針をとり昭和二年度の米國政府の豫算は、戰時最膨脹時の四分の一に縮少し、英國と雖も同じく三分の一に縮減されてゐる。かくして英米兩國の國債は着々整理の步を進め、國民の負擔は減ぜられ、物價は下落し、生產費は低減し、產業は順調に振興し、貿易は增加し、景氣は回復の途上にある。かくして、今日經濟國難に遭遇し居る國は、歐洲において勞農ロシア、東洋においてわが日本あるのみである。しかして今日金の輸出禁止を繼續し、自繩自縛の苦しみをなして居る國に至つては、名も知られね二三の極小國の他には、わが大日本帝國あるのみである。

民政黨は、その憲政會時代から、政友會のいはゆる積極政策に反對して、常に野にあつて緊縮整理の消極政策を主張した。しかして、その單獨政權を握るや、最初はこれが實行の意があつた樣であつたが、政局不安に陷り、議會解散の止むなき形勢となるや、國民に對する公約を弊履の如く捨てゝ、地方選擧民の甘心をかはんがために、不急無用の事業に經費を計上して、當時における空前の大膨張豫算を組み、これがために若槻內閣の信望は地におち、內閣瓦壞の一因をなしたことは國民の記憶に新たなるところである。

次に政權をとつた大將田中に、財政經濟上の經綸を期待するは、望む方が無理だとしても、閣僚にして少しく時勢の變化を省察して、國策を決するの誠意あらば、田中內閣もあんな悲慘な最後をとげずに濟んだかも知れぬ。けれども、いかんせん、その閣僚の中には久原、中橋、山本等の事業家出身者が勢力を張り、傳統政策たる積極政策の放棄と利害相容れざるものあり、當面の責任者たる三土藏相は、樂觀、放漫の本家本元たる高橋是淸氏の推挽によつて、その地位をかち得たのであるから、多年利權によつて養はれた黨員の反對を制して、緊縮

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

整理を斷行するの勇氣なく、見る〳〵暗礁にのりあげるに至つたのである。

三

田中內閣の財政經濟政策の無謀放漫を如實に示すものは、昭和四年度の豫算である。永年の不景氣で、歲入の自然增加は望み難き今日において、一億三千萬圓の新規事業計畫をたて、しかもこれを賄ふに既定經費への節約によるの方法をとらず、その節約は僅かに二千萬圓以下に止めたから、收支の均衡を計るに非常なる無理を生じた。卽ち剩餘金の繰入額を增加したので、これによる公債償還を前年度の約半額に減じたるのみならず、追加豫算財源を涸渴せしめ、田中內閣にして永續したら、剩餘金不足の爲めに恐らく借り入れ金で一時を糊塗するの失敗を演出したことであらう。更に官有物拂下による收入を多く見積つて、いはゆる賣り食ひの財政策をとつた。又獨逸の賠償金の如き財政理論上どうしても定收入に計上すべからざるものを計上した。それでも歲入が足らぬので結局國債の新規發行額を一億九千餘萬圓に增加するなど、あらゆる無理をして收支の辻褄を合せたのである。四年度豫算の編成にして、なほ且つかゝる無理があつた。その後不景氣がますます深刻となりつゝあるから、政友會はその積極政策を放棄せぬ限り、豫算編成について行はるべきことは明かであつた。

田中內閣の放漫財政策の弊害は、各方面に現はれて、內外の信用を失墜し、この上政權に噛りつかうとしても、早晩なげ出さなければならぬ運命にあつた。田中內閣の下において、昨三年度內にわが國債の增加したもの實に四億圓の巨額に上り、本年度內にはその總額六十億圓を突破せんとしてゐる。これがために國債の市價は暴落して、財界に一大打擊を與へ、さすがの政友會內閣も國債整理に手を染むるの止むなきに至つた。前記の如く公債財源によつて、僅かに財政收支の辻褄を合せ來つた田中內閣が、國債整理をなさねばならぬことになつたのは、實に活路をたゝれたに等しいのである。

國際貸借の改善をはかり、爲替の低落を防がんがためには、まづ政府自ら國外に對する支拂を節約せねばならぬ。殊に今日金の禁輸を持續し、正貨の現送も行はぬと聲明した田中內閣にとつては最もその必要があつたのである。しかるに、田中內閣の下において政府の海外拂は却つて激增し、昭和元年度までは一億三千餘萬圓なりしもの昭和二年度には一億五千六百餘萬圓に上つて居る。しかも、この政府の海外拂をなすべき在外正貨は、漸減して今や僅かに八千萬圓內外を有するに過ぎぬ。これをもつてすれば、四年度中の政府の海外拂をなすにすら不足する程であつて、五年度以降の政府の海外拂の方策は、全然立たぬことになる事は勿論、ひいてわが對外爲替に非常なる惡影響を及ぼすことゝなる。殊に昭和六年一月一日に償還期限の迫つてゐる英貨公債二億三千餘萬圓の始末を如何にするかは焦眉の急に迫れる大問題である。これ等の問題解決の使命をおびて、田中內閣の下に歐米に派遣さ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れた、大藏省の津島財務官は最近歸朝して報告せるところなりといふを聞くに、歐米におけるわが政府の信用は全く失墜し、現狀のまゝにして外債を起さんとしても應ずるものなく、恐らくは震災後の屈辱公債の條件をもつてするも成立困難であつて、歐米の資本家は、いづれも日本政府の財政緊縮整理の急務なるを知悉し、金解禁の速行を希望して居つたとのことである。

四

かゝる事情で、何人が田中内閣に代つて政權を握つても、も早や從來の如き積極方針を持續することの出來ない狀況になつて居る。況んや民政黨が内閣を組織した上は、その從來の主張の手前、この際斷乎として公私經濟の緊縮整理に邁進せねばならぬ事は理の當然である。濱口内閣は、この意味からみて天下の果報者である。從來民政黨の消極方針はとかく世間で不人氣であつた。けれども今日は緊縮整理の急務なることは、一般識者の認むるところで、これが爲に濱口内閣の聲明した新政策は一般輿論の支持を受くるにいたつた。濱口内閣が成立の頭初、中央地方財政の緊縮整理、公債の整理、消費節約の獎勵を斷行して金の解禁を促進せんことを聲明したのは、もとより當然の處置であるけれども、今日の經濟國難に處するの常道を常道として踏みはづさなかつたのは我等の愉快とするところである。

濱口内閣は、昭和四年の實行豫算に、緊縮を加へ、一般會計において九千萬圓、特別會計において五千七百餘萬圓の節約繰延を斷行した。これを豫算總額に比すれば僅かに四分餘の減縮であるけれども、既に本年度豫算は實施して四ヶ月を經過し、一部の經費は支出されたものもあり、又支出の契約を終つたものもあるばかりでなく、經費の約半額は、いはゆる義務費であつて、現内閣の勝手に左右すべからざるものであるから、まづこの程度の實行豫算の節約組替をなし得たのは成功といふてもよからう。けれども明年度豫算の編成は、現内閣がその主義政策を實現すべく自由無碍に編成し得るものであるから、濱口内閣の眞の評價は、今後の豫算編成の實績に徴して決せらるゝのである。現内閣の聲明によれば、從來節約の至難とされておつた陸海軍費に對しても、節約を加へ、よつて得たる財政の餘裕をもつて、主として公債の整理に振り向けんとする計畫のやうである。公債整理の急務なるは、何人もこれを認むる。けれども公債の整理によつて、利益を蒙るものは、主として資本家階級である。而して、我が稅制の現狀をみれば、戰時非常の際に已むを得ず課したところの庶民階級に重き負擔を負はしめつゝある消費稅、その他の諸稅は、平時に至つても改廢せらるゝことなく、今日に至つておる。これがために、中流以下の生活を脅かし、ひいては生產費の低減を妨げてゐることは甚だしい。されば、社會政策的見地から見れば勿論、經濟政策上からみても、緊縮整理によつて生じたところの財政上の餘裕の一部をさいて、社會政策的に稅制を整理するの資に充つるの急務なるは明かである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

五

民政黨は、從來政友會の兩稅委讓に對し、義務教育費の國庫負擔額の增加を主張し、來つたので、明年度豫算の編成に際しても、その實現を政府に要求することであらう。けれども、社會政策的見地からみれば、緊縮整理によつて生ずる財政上の餘裕は、何を置いても先づ前記の稅制整理に振り向けるのは當然の處置である。されば、我等は公債整理に、總額六十億を越えざる程度に止めても、社會政策的の稅制整理を斷行せんことを希望する。

濱口首相の施政方針に關する聲明中に、「財政の整理を實現するに當り、陸海軍の經費に關しても國防に支障を來たさゞる範圍に於て大いに整理節約の途を講ずるところあらんとす。」と云ふたのは、もとより當然のことであるけれども、從來この當然のことすら、いつも軍部の反對によつて行はれなかつたのであるから、今度こそこれが實現を期待して止まぬ。昭和四年度の成立豫算中、軍事費は總額の約三割を占め、一ケ年五億圓の巨費に上つてゐる。今日民力を涸渇せしめ、軍事費にのみ多額の費用を投ずるは、眞の國防策にあらざることは、何人も認むるところであるから、他日財政に餘裕を生ずれば、更に軍事費に國費をさくとしても、今日の經濟國難匡救の爲に、軍事費の一大節約を行ふのは、むしろ、永遠の國防策といはねばならぬ。幸に、現內閣の宇垣陸相並に財部海相は、軍部に於て勢力ある人々であるから、よく時勢の推移に鑑みて、國軍の改造を行ひ、軍事費の大節約を行はん事は、國民一般の期待するところである。

要するに、濱口內閣の運命は、明年度豫算が如何に編成さるゝやに依つて決せらるゝのであるから、若槻內閣の末期に於るが如く、選擧民の向背に懸念し、國民に公約したる聲明を裏切るが如きことの無からんことを熱望すると共に、一般國民も、今日の經濟國難を打開するの策は、公私經濟の緊縮整理を行ひ、速かに金解禁を斷行するのほかに道なきことを覺つて、一地方の利害に跼蹐することなく、國家の大局より見て、時局に善處するの覺悟を持たねばならぬ。（四、八、九）

金解禁が農村に及ぼす影響

石橋湛山

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

濱口内閣が、なぜ金解禁に急るのかの理由を皮肉に解釋して、それは某大金融資本閥の差金に依るのだと說く者がある。併し私は、濱口首相が、まさか、そんな人ではないと思ふ。それは全く根も葉も無い惡口であらう。

けれども現内閣の金解禁策が、或特定の大金融資本閥の請託に基いてをると云ふことは嘘にしても、一般に大金融資本團の要求を代表してをるものなるは、疑ひを容れる餘地がない。と云つて、之亦、其等大金融資本家から一々頼まれて、さうなつたと云ふわけではない。現内閣の思想が、知らず識らずの間に大金融資本家かぶれがし、それに動かされてゐるのである。

一體何れの國でも同樣であるが、近頃の經濟界の輿論と云ふものを仔細に觀察すると、其多くは大金融資本家閥に依つて作られてをることを發見する。我國の金解禁問題にしても其通りで、大金融資本の手先であり、代表である東京及大阪の大きな銀行が動き出すまでは、政府も一向此問題に氣を留めず、新聞や雜誌も騷がない。然るに例へば昨年十月の東西手形交換所銀行の決議の如く、實は四五の大銀行が、手形交換所の名をかりて、金解禁即行すべしと政府に建議すると、それが全國千何百の銀行の一致した意見であり、財界全體の輿論でもあるように、世人は受取る。敢て大銀行が、左樣に受取つて吳れと世に強制するわけではなくても、彼等の經濟界に於ける勢力が、自ら斯樣な結果を齎すのである。我國の新聞雜誌の大多數が舊平價金解禁速行論を主張してゐるのも、つまり斯うした關係から、自ら識らずして、記者の頭が大金融資本に同化され、彼等の代辯を務めてゐるのである。正直な、併し經濟問題に就ては全く素人とも云ふて宜い濱口首相が、大金融資本家の意見即經濟界の輿論即國利民福を增進する第一策と思ひ込んだも、實は無理でない。井上藏相に至つては、もとより初めより大金融資本閥内に遊泳せる人で、其思想が一歩も他に出で得ないことは問ふまでもない。

以上の如き次第で、現内閣の(及現内閣を取卷ける所謂輿論の)金解禁策及其準備として實行せられつゝある緊縮政策は全然大金融資本閥の要求を代表せるものであるから、自然、其政策の結果が大金融資本家以外の者に如何なる利害を與ふるかに就ては殆ど全く考へられてゐない。前にも述べた如く、銀行の中でも四五の大銀行乃至其背後の大金融資本閥には金解禁は隨分都合の好い結果を豫想し得ようが、多數の中小銀行には實は甚だ迷惑だ。然らば彼等は何故金解禁に反對せぬかと云へば、下手に反對意見でも出したら、それこそ彼の銀行は内容が怪しいから、金解禁を恐るゝのだなぞ、飛んでもない疑ひを世間から受ける危險があるからである。そこで昨年の十月も東西手形交換所銀行の決議として、彼等は大銀行のお伴をし金解禁即行を政府に建議しながら、其或者は、こつそり政府に手を廻はし、あれは三菱や三井の決議で、私共のではないなどと取消を申込んだものである。況や大金融資本には餘りにも緣の遠い農業者の如きは、金解禁問題の前に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は、全然政府にも、又所謂輿論にも、其存在を忘れられてをる。

併し金解禁の影響は、苟も日本に於て業を營み或は生活する者の、大なり小なり必然受くるを免れ得ない所である。農業者も勿論其中に入る。然らば金解禁は如何なる影響を農業者に及ぼすかと云ふて、私は大體二つに分つて考へることが出來ようと思ふ。

第一は、我國內に於て消費せられ、且つ外國農産物の競爭を受くることの少ない作物の生産に從事する農業者である。想像するに斯様な農業者に對する金解禁の影響は比較的緩慢であらう。蓋し金解禁が經濟界に、從つて國民の生活に與ふる影響の最も根本的のものは物價の下落であるが、併し其下落は海外に對する輸出品及び海外よりの輸入品に於て最も直接急激であり、內地が消費し且つ外國品の競爭の無き內地生産品に於ては、左様に直接急激の價格低下を必要としない。然るに我國で消費せられる農産物は、米をはじめとし、其多くは高率の關稅の保護があり、國外農産物の競爭を受くることが少ない。であるから金解禁をしても、爲替相場の回復の爲め直ちに安い農産物が輸入せらるゝ憂ひも僅かだし、又平常輸出もしてをらないのだから、輸出を維持する爲めに價格を引下ぐる必要もない。近頃米の値が甚だ安いが、之は多少人氣的に金解禁や其準備としての緊縮政策も手傳つてをるか知れぬが、大體は米そのものゝ需給關係から起つてゐることである。米が安いからとて、罪を濱口內閣に歸するは少々無理である。

第二は外國に輸出する農産物の生産に從事する農業者である。が我國に於ては外國に輸出する農産物と云ふては、生絲に製造して輸出する繭、之に次いでは茶ぐらゐのものであつて、其他には特殊の品が極く僅かにあるばかりである。併し其繭は、我農業者に取つては、非常に大きな生産物であつて、數量に於て九千萬貫以上、今春あたりの價額にして先づ六億圓以上のものであらう。ところが之は生絲にして外國に輸出するのを主たる目的としてゐる生産物であるから、金の解禁で、爲替相場が騰貴すれば、直ちに其影響を受ける。今年の春繭は比較的値が高く、一貫目平均七圓五十五錢ほどに上つた様子であるが、之で生絲の相場を計算すると百斤千四百圓になる。然るに近來の實際の生絲相場は千二百七十圓程度であるから、既に之でも製絲業者は損失である。云ひ換へれば繭相場は、ざつと一割高すぎる。從つて若し此上更に爲替相場が騰貴し、生絲相場が下るとしたら、繭相場は平均少なく一割以上の下落を要するわけで、養蠶家は直ちにそれだけの收入減を來すのである。

斯様に農業者の受くる金解禁の影響には、比較的緩慢な部分と、急激な部分とがあるが、併し其緩慢な部分と雖も、勿論結局は、他の部分と同様の影響を蒙るのである。此邊に就ては、井上藏相の如き大分誤解をしてゐる様子で、例へば金解禁が工業に及ぼす影響を藏相は、諸製造業者の手持製品及原料の値下りだけが問題だと云ふ風に考へてをるらしい。從つて近頃の株の暴落がわけがわからぬなど云ふ說が出て來るのである。併し金解禁は、今日の我國の實際に就て云へば、先

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

づ爲替相場を円十三弗なにがしから、舊平價四十九弗八十五仙近くに引上げ、我通貨價値を騰貴せしむる結果になるのだから、此爲め値の下る物は、單に會社商店の有する原料や製品だけではない。土地でも建物でも、機械でも、何でも彼でも、あらゆる資産の評價が下るのである。農業中、金解禁の影響を比較的緩慢に受くる部分の生産物に於ても同樣で、唯だ其等は、輸出入關係品の如く、卽座に急激に價格の下落を起さぬだらうと云ふに過ぎぬ。結局は矢張下落せざるを得ない。のみならず田畑の値も下る。大きな農業者で機械や建物を多く所有する向は、其等の資産の値下りの打擊も大きい。それでも幸にして田畑や其他の資産を自分の資本で所有してゐる者は、差當つて左迄不便も感せぬが、若し借金で其等を買つてをるとすれば、財産の評價は減る、生産物の値は下るで、早速元利拂ひに困難を生じようと云ふわけである。此等の點に於ては、農業者も工業者も、金解禁から受くる影響には少しの相違もないのである。

ところで現內閣は、此金解禁を、先づ財政の緊縮及國民の消費節約で、十分の準備を整へ、而して後初めて決行するのであると發表してゐる。又井上藏相は、斯樣に十分の準備を行ひ、而して金解禁をすれば、經濟界に及ぼす金解禁の惡影響は防げるに違ひないと、屢々說いてをる。若し此の通りなら、現內閣の所謂緊縮政策は、金解禁のお呪ひとも申すべく、農業者も大に安心してゐて好いわけである。が此政府の發表及井上藏相の說明は、若し作爲の虛言でなければ、政府及藏相の研究不十分から生じた誤りである。所謂緊縮政策が若し金解禁の準備になるとすれば、それは其政策に通貨を縮少し、物價を引下ぐる力があるからである。其力があればこそ、緊縮政策は金解禁の定石とも云はるゝのである。されば政府の發表する如く、緊縮政策を豫め十分に強行し、然る上金解禁をするとせば、物價は金解禁の際までに、最早下らねばならぬだけ下つてゐるわけになるので、其上に更に金解禁の惡影響が現るゝことは、成る程、ない筈であらう。併しそれは、さうとしても、唯だ其惡影響を、形式上金解禁をまだ決行せぬ前に豫め出し盡させてしまうからの話しであつて、決して金解禁の惡影響が無くなるのではない。何んな妙策を施しても、舊平價金解禁（卽ち明治三十年の貨幣法に依る法定平價で行ふ金解禁）を今日の我國に實施して、物價下落の惡影響を經濟界に及ぼすことを免れしむる工夫はない。而して農業者も、政府が眞實其聲明通りに實行するとせば、形式上の金解禁前に於て、早く前記した通りの影響を蒙るであらう。

併し私の推察する所では、政府は事實に於て、右の如き十分の準備の成るを待ち得ず、卽ち豫め十分に物價を低落せしむることをなさずして、金解禁を實行するのではないかと思ふ。民政黨の有力者の中には、今年中にせよと說く者もある。が、それは如何にも亂暴な議論であるので、政府も受付けまいが、明春總選擧（それは多分あるであらう）に若し民政黨が勝てば、恐らく五六月には解禁を實行するであらう。そして政府は其つもりで爲替相場を次第に上げて行くであらう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

どすると私は或は經濟界に、何れ程かわからぬが、又相當の混亂が起りはせぬか、そして地方の銀行などには再び困難に陷る者を生じはせぬかと心配する。然れば農業者も、自然其煽りを受けねばならぬ。而して斯樣な混雜が經濟界に起れば、其都度事業を併合し、勢力を增して行くは、所謂大金融資本閥だけである。

私は、斯樣に金解禁が、我産業の各方面に面白からぬ結果を生ずることを避ける爲め、多年新平價金解禁と云ふことを唱へてをる。之は大體現在の物價貸借其他の經濟關係を動搖せしめる程度の新たな平價を制定し、それに依つて金解禁を行ふ方法である。近來大分有力な同論者を生じたが、併し殘念ながら、まだ輿論となるに至らない。而して政府も、國民の多數者も、金解禁と云へば、舊平價解禁の外なきものと思ひ込んでをるのである。來春の總選擧（それがあるとすれば）には、いづれ金解禁問題も一の論點となるであらうが、私は我國民の殆ど半數を占むる農業者が、此問題の論議を都市の金融資本家にのみに委せず、十分の批判を遂げんことを希望して已まぬ者である。

孫田秀春著　勞働法總論　價二・六〇　送料・二六

野村兼太郎著　近世商業史　價三・〇〇　送料・二六

本庄榮治郎著　日本社會史　價二・五〇　送料・二四

本庄榮治郎著　日本財政史　價二・五〇　送料・二四

本庄榮治郎著　近世農村問題史論　價二・三〇　送料・二〇

河田嗣郎著　農村問題と對策　價二・〇〇　送料・二〇

河田嗣郎著　社會問題綱要　價四・五〇　送料・二七

小野武夫著　農村研究講話　價一・五〇　送料・一八

高田保馬著　階級及第三史觀　價二・八〇　送料・二四

發行所　東京市芝區愛宕下町　振替東京八四〇二番　改造社

失業問題の批判と對策

失業の必然・不必然と失業對策の可能・不可能

福田德三

(一)

勞働權、勞働全收權、生存權てふ三大主張は、嘗つては、學究者のブレーン・ウオークに過ぎなかつた。今日は左樣ではない。世界を支配する三つの大きな原則のスローガンとなつて居る。

私がアントン・メンガーの說を執つて、これら三大社會權主張の要旨を紹介したのは、すでに二十年近くの昔しに屬する。然るに、其後に於ける世界の實際運動と此の運動を支持する思想の展開とは此の三大主張の其れ〴〵を以つて、明かに、若くは暗に、其の旗印とする三つの大きな社會體系の實現を促成した。

英國に於て今政權を握る勞働黨は、明かに勞働權の原則の上に其の政綱を立てゝ居る。其の反對極に於いて勞農露國の社會政治的綱領は、要するところ、生存權の原則の上に築かれたものである。無論此の兩國に於ける二原則の展開は、アントン・メンガーの示した歷史的背景に必ずしも拘泥するものでなく、又た其の生存權は、彼の主張する『社會主義的勞働國』の理想を其儘に認めるものではない。其れと同時に此二つの國に於ける二大原則展開の出立點は、メンガーのいとも明瞭に說き示した史的發展の行程の上に置かれてあることは、これを疑ふことは

高田保馬著 階級及第三史觀
發行所 東京市芝區愛宕下町 振替東京八四〇二番 改造社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

出來ない。而して、更らに第三の一例として、私は獨逸其他の社會民主主義諸國をあげ得ると思ふ。これら諸國に於いては、其の所依の原則は、英露兩國に於けるほどは、明瞭ではない。乍併、大體に於いて、今日受取られる意味に於ける社會民主々義は、其根本主張を、勞働全收權の原則の上に置くものであるとは、爭を容れる餘地はないものと思ふ。

かくて、メンガーが說き、私がこれを祖述した三大社會基礎權の主張は、今や我れら學究者の書齋裡のものでなく、端的に世界の思想と世界の社會運動とを支配する三大原則となり、若くは、ならんとしつゝありと言はざるを得ざることとなつた。

勞働全收權の主張は、給付原則の徹底化に外ならぬ。從つて其れはまた交換原則に據り、勞働原則の上に立つものである『各人よりは其能力に應じて、各人へは、其給付に應じて』なる要求を、遺憾なく貫徹せしめんとするものである。其の反對に、生存權の主張は、『各人へは、其の所要――需要、欲望――に應じて』なる共產原則を、實現せんとするものである。

以上の二者に對照するとき、勞働權の主張は、原則として、甚だ不鮮明なるを免れない。其れは、或る場合には、勞働全收權主張の一過程たることもあり、また、他の場合には、生存權主張の一手段たることもある。其れは、社會基礎權の要求と個人・自由主義との混血兒と見らる可きものである。語を強くしてこれを云へば、其れは、社會主義と自由主義、共產主義と資本主義との間に生れたる一私生兒である。更らに、今日の實狀について云へば、其れは、一の主張にして、其實何等の主張たらざる『新資本主義』、『產業合理化主義』（コールの新著『英國の社會並經濟政策に於ける次ぎの十ケ年』一九二九年刊、第五章八十八頁以下を見よ）一の主義にして、其實何等の主義たらざる『新自由主義』（ケーンズ等の唱ふる其れ、若くは、其れほどの『原理値』（プリンチピエン・ヴェルト）すら有せざる我邦某々名士等の唱ふるところの其れ、其れら一切を一括して）と、一の慣れ合ひを演じつゝある[illegible]的思潮であると云ふべきである。

（二）

失業必然・不必然。失業對策可能・不可能の討究は、勞働權認承の原則の上に立つ社會に於いては、初めから、明瞭なる解答を與へられてゐるものである。何となれば、勞働權の要求なるものは、一の乞索原理の上に立つもので、『各人には、其の適能とする勞働を與ふ可し』と云ふは、其の主張を認承する社會では（一）各人に必ず適能なる勞働の存在すること（二）其社會の體系其儘にして、斯く存在する勞働を與ふるの可能なること　の二條件を、初めから認承するものであるから。

此の乞索原理は、決して、英國勞働黨によつて、創案せられたもので はない。之れは、一方には、封建社會から資本主義社會へ引繼れたインヴエントリーの一であり、而して、他方には、亦た實に、正統派經

濟學の根本命題であつたのである。

封建社會には、今日謂ふ意味にての失業は、全く存在して居らなかつた。資本主義社會のアドヴエントと共に、『失業』の現象は起つた。此の端的なる事實は、多くの誤見を産み出した。其れら誤見は、今日も猶甚だ大なる勢力を有つ。資本主義社會と失業とを不可分的なものと見る失業必然論は、茲に恵まれたる土壤を見出した。

封建社會には、元より今日謂ふ意味にての失業は存在せぬ。何となれば、其れは當然であるから。今日謂ふところの失業とは、英語の『アン・エムプロイメント』が最もよく示してゐる通り『無雇傭機會』のことである。從つて、其れは雇傭社會を前提するは言ふまでもない。(ドイツ語の『アルバイツ・ロージヒカート』は沒理的な綴語である。アルバイト(勞働)の存在せざることなどと云ふノンセンスはあり得ない。他のドイツ語『エルヴエルブス・ロージヒカイト』は、聊かこれに勝る。乍去英語の『アン・エムプロイメント』ほど理義明晰ではない)社會の大衆が、雇傭勞働者でない封建社會に於いて、雇傭の機會を見出し得ぬと云ふ意味にての『失業』なる現象の存在せざることは、當然過ぎる當然事ではないか。其反對に社會の大衆が、雇傭者たるより外に糊口の道エルヴエルブ・トレードを有せざる『雇傭社會』たる資本主義社會に於いて、初めて、雇傭の機會の缺陷としての失業の現象の起るのも、亦當然過ぎる當然事でなくて、何であらうぞ。

乍去、若し『エルヴエルブス・ロージヒカイト』を說く且つ其文字通りに解釋して、『糊口の道の缺如』とするときは、封建社會に於いても、此の『エルヴエルブス・ロージヒカイト』は全く存在せなかつたのではない。否々、大いに存在してゐたのである。農業國に於ける凶作これに伴ふ饑饉は、其最も殘酷なる適例であつた。(今から二十數年前故山路愛山氏主宰の『獨立雜誌』に、當時の東北四縣大饑饉見聞の印象記として寄稿した拙稿『社會問題としての飢饉』に、今茲に開陳する考へ方の一端を述べて置いた。其文今收めて拙著『經濟學全集』中にあり。)武士國に於ける『浪人』は、亦他の一例であらう。

而して、更らに、現在の雇傭社會にありても、『雇傭機會の缺如』の意味に於てゞない廣い意味の『失業』の例は、數限りなく存する。殊に『二大政黨の對立』を『憲政の常道』だなどゝ見る虛僞の政治社會に於いては、尠くとも、政府の官吏の主要なるものは、得職者と同數の失職者の必然的存在を前提する。內閣の更迭の度毎に、何人かの大臣、何人かの次官、何十人かの知事、其他何百人かの大小の官吏は、失職者となつて、次の政變を待たざるを得ぬ。これらの失職大臣、次官、知事等の『政治豫備軍』の存在することが、今日所謂『憲政の常道』の必然的前提であるのである。幸にして、銀行、會社、取引所、組合にも、學校、教會、寺院其他の社會にも、此の『常道』の存せざるが爲めに、我々は無用なる『社會豫備軍』を有つことを、幾分か免れ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

てゐるのである。更らにまた、封建社會に、此の『常道』が存してゐたとするなれば、其社會は、何十人か何百人か何千人かの殿樣や家老や侍やの、『封建豫備軍』を有して居らねばならぬので、其の厄介は更らに倍加したに相違ない。否、其の『常道』は存在しなかつたが、所謂『御家騷動』の或ものは、『豫備軍』の『常備軍』に對する『倒閣運動』に勵して居たのであらう。

失業が社會の重大事となるは、それが被雇傭者の問題であるからである。封建社會に於ける、又現社會に於ける、廣い意味の失業、失職は、未だ社會の重大事とはならない。此意味に於いて、問題は『失業』（アンエムプロイメント）であつて、『失業者』（アンエムプロイド）でないと、ウリアム・ベヴェリッヂ氏の主張したのは、名言と云はざるを得ぬ。『失業者』は常にある。何故に『失業』が必然であらねばならぬかのみが、中心の問題を成すのである。

今日の資本主義社會に於いて、『充用の機會の缺如』は、決してひとり、雇傭勞働のみについて存するのではない。否雇傭勞働の失業は、同時にまた、多くの場合に於て、他の生産要素の『失業』（充用機會の缺如の意味で）を伴はざるを得ないものである。伴ふと云ふは或は、當を得て居らぬ。何となれば、雇傭勞働の雇傭機會の缺如は、他の生産要素充用機會の缺如に先つことあり、これに追從することあり、或はまた同時的に起ることもあるから。

即ち、今日失業問題を論ずるものゝ最大多數は、失業を以つて、經濟界の景氣の變動と密接の關係を有つて居るとするものである。景氣の變動を測知する他のインデッキスは、或は當るとあり、或は當らざることあり、今日に於いても、誰人も一樣に認承するバロメーターは見出されてゐない。獨逸に於いて、『ヴヰルトシアフツ・ヂースト』誌を中心とするシユピートホフ及其門弟のシンガーのインデッキスと、伯林の景氣變動研究所に栖籠るワーゲマン一派のインデッキスと、互に其優劣を爭ひ、兩者の間に絶へざる論爭の交されつゝある一事を見ても察知すべきである。年去、何れの國に於いても、失業が景氣變動のインデッキスとして、他の何れのものにも優る說明力を有することを爭ふものはない。

失業の增加するときは、即ちまた、多くの場合に於いて、資本に對する需要の減退するときである。而してまた同時に、企業の縮少するときである。言葉を換へて云へば、雇傭勞働に對する充用機會の減少は、資本及企業に對する充用機會の減少と、或は同時に、或は前後して、相提携するのである。――其度合は必ずしも、同一ではない――故に失業の語を、汎く解して、『充用機會の缺如』（ベシエフチグングスロージヒカイト）とするならば、勞働の失業は、また、資本の失

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

り、雇傭勞働のみについて存するのではない。否雇傭勞働の失業は、同時にまた、多くの場合に於て、他の生產要素の『失業』（充用機會の缺如の意味で）を伴はざるを得ないものである。伴ふと云ふは或は、當を得て居らぬ。何となれば、雇傭勞働の雇傭機會の缺如は、他の生產要素の失業、資本及企業に對する充用機會の減少と、或は同時に、或は前後して、相提携するのである。――其度合は必ずしも、同一ではない――故に失業の語を、汎く解して、『充用機會の缺如』（ベシエフチグングス・ロージヒカイト）とするならば、勞働の失業は、また、資本の失業、企業の失業と、相伴ふものなのである。但し、これには、無論幾多の留保を當さねばならぬ。讀者願くば、速斷することなくして待て。

然るに、雇傭勞働の失業のみが、失業問題として取扱はれ、而して重大視せらるゝ所以は、其れが、失業の問題であつて、失業者の問題でないことを明示するのである。失業者の問題は、元より存する。而して、其は重大な問題である。然し、其れは、一の統一原理を以て、釋くこと能はざるものである。殊に、私が今問題とする必然、不必然の考察を、全く不可能ならしめるものである。否、其の考察は、全然無用なりとも言ひ得るのである。何となれば、其は恰も、二大政黨對立を『憲政の常道』とする――私から見れば、全く沒理的な――一のコンヴエンションから來る大臣、次官、知事豫備軍の存在、若くは、封建社會に於ける諸々の『營利若くは糊口機會の缺如』と同性質に屬するものをも含むから。

これに反し、失業其もの、雇傭社會に於ける雇傭機會の缺如其ことこそは、一の原理的取扱を許し、其必然、不必然に關する考察を充分に容れるものである。

（三）

勞働權の要求は、一の乞乘論理に立脚するものであつて、其は封建社會から現資本主義社會が引繼いだ一のインヴエントリーに屬すると、私は言つた。今此意味を說明して見よう。

封建社會とは、實物搾取り原則の上に築かれた社會の謂である。此意味に於いて、其れに先つ社會を承繼したものであると共に、此の實物搾取りを最も巧妙な形態に於いて徹底せしめた一の社會である。私は『共產宣言』の『人類の歷史は、階級鬪爭の歷史である』を言ひ換へて、『人類の歷史は、搾取りの歷史である』と、屢々主張した。封建社會の經濟組織を凝視すればするほど、其の實物搾取り原則の如何にも巧妙に運營されてゐたことに驚かざるを得ないのである。『百姓は死なぬ樣に生かして置く可し』と云つたといふ本多佐渡守と

Thou shalt not kill, but needst not strive,
officiously to keep alive.

と言つたといふクラウ（コール前揭書一九〇頁）とは、此消息を道破したものであらう。搾取りが、資本主義社會に於いて初めて起つたと考へるは、一の錯覺である。許すべからざる速斷である。

搾取り社會として、資本主義社會が封建社會と異るところは、其れが、貨幣――今日に於いては、金融信用――搾取り社會であることに存する。一は搾取り社會で、他は非搾取り社會であるなどとの差異は、寸毫も存するものではない。其れと同時に、實物搾取りと貨幣搾取りとは、搾取り形式を異にするのみと速斷してはならぬ。其インテンシテートも亦た甚だ異ることを知らねばならぬ。實物搾取りの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

テンシテートには限度がある。貨幣搾取には限度が存せぬ。アリストテレースの無限の經濟と有限の經濟との區別は、玆にも發動する。貨幣搾取り社會に於いては、資本主義經濟が、無限の經濟であるが如く――であることを最も有力に支持すべく――其中に行はるゝ搾取りは、無限であり得る。實物搾取り社會たる封建經濟が、有限經濟である如く――所あることを原則的に餘儀なからしむべく――其中に行はるゝ搾取りは、有限たらざるを得ないのである。卽ち『死なぬ樣に』『shalt not kill』てふ限度が存する。瀧本誠一博士は本佐錄中の此一言の眞意を曲解するものなりと、或農政學者が主張したことを傳聞した。其意味は恐らく此事に在るのであらう。百姓の收穫は、其全部を奪ひ取ることは出來ない、少くとも其生活の最低限だけは殘し與へねばならぬ。これは、封建經濟が、奴隷經濟社會から受け繼いだ一のインヴエントリーである。奴隷は何ほどにても酷使するを得る。乍去、賢き奴隷所有者は、無限の酷使は、自家の損たることを知つて居る。奴隷病めば、其生產力は減ずる、奴隷死せば、恰かも、家畜の斃れたと同樣の損を被むる。奴隷主は、奴隷を病ましめず、死なしめざることに、大なる利害關係を有つ。其の酷使は、病ましめず、死なしめざるを以て限度とせねばならぬ。封建時代の百姓に於ける亦同一である。

資本主義社會は、此のインヴエントリーを封建社會から――更らに溯つては、奴隷社會から――引き繼いだのである。トコロで、奴隷社會に於いては、一の素朴的用意であり、封建社會に於いては、周到に計慮せられた原則たる、此の『限度』の認承は、貨幣搾取り社會たる資本主義社會に入りては、一の乞案原理とならざるを得なかつたのである。何となれば、封建社會に於いては、(一) 各人に必ず適能なる勞働の存在すること(二) 其社會の體系其儘にして、斯く存在する勞働を與ふるの可能なることの二條件は、當然に、其社會の成立條件を形くつて居たに反し、資本主義は、其の成立條件を撤回することによりて、初めて、雇傭關係に立脚する貨幣搾取りを徹底的に行ふを得るに至つたものであるから。貨幣搾取りの特徵は、其が無限の搾取りにあること、資本主義經濟の特徵は、アリストテレースによつて、無限の經濟なりとせられた營利經濟の中、其の最も徹底的――今日までに知られてゐる限りに於いて――なものたることに存する。其の無限性は、『限度』の撤廢を、必然に前提する。『限度』の撤廢は、封建社會存立の二大要件たる(一)各人に必ず適能なる勞働の存在すること(二)其社會の體系其儘にして、斯く存在する勞働を與ふるの可能なることの二條件の撤廢を意味するに外ならないのである。

元より封建社會にも、貨幣經濟は存してゐた。而して、其の限りに於いて、或度までの貨幣搾取りは行はれたことは勿論である。乍併、封建社會の搾取階級の中堅を爲す知行主は、實物搾取りの殿樣であつて、貨幣搾取りの資本主ではなかつた。貨幣搾取りの上から見れば、甚だ多くの場合、此れらの殿樣は、むしろ被搾取者であつたのであ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る。私は更らに進んで云はんと欲する。封建經濟の普及は、すでに其以前に存在してゐたところの貨幣搾取りの進出を、幾世紀かに亘つて防止するの一大機能を有してゐたものであると。

貨幣の人類社會への『アドヴェント』は、貨幣學者の普通に教へる如くに、流通交換の用の爲めに、起つたものでは、決してないことは、私が既に二十年近くの昔から主張しつゝあるところである。貨幣は最も巧妙なる搾取り道具として、發生し、また發達普及したものである。羅馬の『デナリ』を見て『カイザルのものはカイザルに返し、神のものは、神に返すべし』と教へた基督は、いとも明瞭に此の消息を道破したのである。之れに反し、『貨幣のヴェール』を引剝したりとするマルクスの洞察は、引剝しを半途にして止めたものである。資本が勞働の搾取り道具たることを看破したとは、半途的引剝したるに止る。貨幣が即ち其れであることまで引剝さゞれば、其仕事は完いものではない。ジョン・ロックは、むしろ、遙かによく、此間の消息を看破した『經濟學全集』所收の私のジョン・ロック論を參照。アリストテレースに至つては、其の無限經濟の論を以つて、更らに一頭地を拔いてゐる。否プラトーンすらも、其『ソフキスト』に於いて、優に、此の理解を示してゐる。

封建社會は、『死なぬ樣に、生かし』置いて貰ふ權利の意味に於いての勞働權または生存權の一小片の認承の上に立つ一の社會であつた。其れは、元より、今日云ふ意味にての勞働權でもなければ、また、生存權でもないことは云ふまでもない。むしろ『殺されざるの恩典』であつた。しかし、此の恩典の認承は、前にあげた若干の取除けの場合を別にして、(一)各人に必ず適能なる勞働あり、(二)其勞働は必ず與へられ得ることとの二事實を可能ならしめてゐたのである。

資本主義社會は、此の『恩典』を一のインヴェントリーとして認承し、而して、此れに個人主義の洗禮を施して、權利化せんとした。此の努力を學問上に於いて代表したものは、實に我が正統經濟學であつたのである。

(四)

正統派經濟學は、自由競爭の完全に行はるゝ社會を前提とする。而して、其の前提の下に於いて、勞働の自由の完全なる實現を主張する。アダム・スミスが、ギルドを攻撃し、株式會社を非難し、あらゆる勞働團結を否認したのは、それらを勞働の自由の實現を碍ぐるものと見たからである。これらの人爲的制限の存在せざる『自然的自由社會』に於いては、『各人よりは、其能力に應じて』なる原則は、單なる要求たるに止まらず、端的現成の事實となると主張したのである。何となれば、此の社會に於いては、(一)各生産物に對しては、唯一つの價格のみが成立つ、(二)其價格は生産費と一致する、(三)各生産要因に對

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しても、亦た唯一の價格のみが成立つ。而して、一方に於いては、すべての有效需要——價格を支拂ひ得る需要——は必ず充され、他方に於いては、亦た、すべての生産給付は、悉く所要せらるゝ様に、生産は誘導せられる所謂『費用原則』に支配せられ、かくて、需要——供給、供給——需要、價格——費用、費用——價格てふ均衡が成立する（改造七月號掲文六頁）ものであるから。從つて、資本についても、土地についても、勞働についても、供給——需要であり、需要——供給であらねばならぬ。各人は其適能する勞働を必ず見出し、其勞働の供給は、必ず需要によつて迎へられる。需要せられざる供給なるものなく、供給せられざる需要なるものは存し得ない。兩者の間には、嚴として紊すを得ざる自然的均衡が存在するといふのである。

而して、これと共に、また生産——消費、消費——生産の自然的均衡も、疑ふ可からざる存在を有つとせられる。すべての生産せらるゝものは必ず消費せられる、すべての消費せらるべきものは、必ず生産せられる。從つて、過超生産、過超貯蓄の現象は起ることなく、而して、市場の過狹も過大も共に存し得ないとせられる。（ホートレー『商業と信用』一九二八年刊八四頁。並に、ジエー・エー・ホブソン『失業の經濟學』一九二二年刊五一頁。）

此の均衡は、二つの自動的制限の發動によつて實現せられる。（一）過超貯蓄は不可能である。何となれば、此の傾向一度起るときは、資本の過剩を惹起す、資本の過剩は、直ちに利子率の低下を招來し、それによつて、自動的に喰ひ止められる。（二）過超生産は不可能である。何となれば、其傾向の起るとき、其處に直ちに、價格の下落が追從する。而して、價格の下落は、消費の増大を招來して、生産の過超と相殺すると。

此の自動調節論は、今日猶未だ失業並に景氣變動の理論に於いて、過超生産、過超貯蓄を原因とする諸々の理論を撃破するに方つて、屢ゝ——換骨奪胎されて——應用せられるところである。然る限りに於いて、其れら駁論が、殆んど一顧の値なきものであることは、言ふまでもないところであるが、其の反對に、資本主義社會が、貨幣搾取り社會であることを知らざる過超生産論は、如何に周到なる修正を加へられた上であつても、此の一顧の値なき自然調節論に對抗すること能はざることも確かな事實である。英國現代の大家たるピグー教授が同じく一流の學者たるホートレー氏に對して今日にまで繼續して挑みつゝある論戰は、私を以て見れば、確かに此の評を免れ難いものである。私は元より、ホートレー氏の信用一點張論に加擔するものではない。しかし、ピグー教授との論戰に於けるホートレー氏、（就中前掲書第六、第八の兩章並に第五章に於ける）の立論は、如何なるケムブリッヂ派と雖も、讃歎せざるを得ざるほど、水際立つて優越の地位を確保するものなることを認めざるを得ぬものである。

これに對抗すべくピグー教授が、其の四百頁に近い大册『産業變動

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

論』一九二七年刊の全篇を捧げて提出した答案は、『樂觀の誤謬、悲觀の誤謬』てふプソイド心理學の外に何ものもないのである。——一九二四年刊『失業は不可避的なりや』に同様の趣意を簡潔に述べたピグー氏の一短文がのせてあるが、其一二四―五頁にのせた數學式は一の數理遊戯に屬するものである——此の素朴なる命題をマーシアル張りの累重加減論法を以つて、縷々として說き、自家の玩具たる "distorting Veil of money"（貨幣の人を迷はせるヴエール）の引剝してふスローガンを縱橫に葛藤せしめた。

（五）

正統學派が封建社會からのインヴエントリーを個人主義化し、自由主義化し、權利化したことは、永く我經濟理論に一の大なる乞素原理の纏綿を胎したものである。個人主義化せられ、自由主義化せられ、權利化せられたる勞働權は、自由競爭の前提あつて、初めて意味を有つ。然るに、其の自由競爭は、更らに、自由に競爭し得る適能、經濟力が各競爭人に存することを前提せねばならぬ。此の適能なく、此の經濟力なきものに取つては、勞働權は空名である。權利は、これを行使し得ることを意味する。適能なく、經濟力なきものは、自由競爭が如何に完全に行はるゝ社會にあつても、抑も競爭人たることが出來ないのである。

封建社會にあつては、此の適能、此の經濟力は、勞働力の所有と同一義であつた。元より百姓は土地なくしては、耕作を營むことは出來ない。乍去其土地は必ず與へられると云ふのが、『殺されざる賦與』の內容を形作くつてゐた。勞働力は、普通の心力、體力を有するものは、皆これを有つ。從つて、此の勞働力は、與へられた恩典と何時にても結び付くことを得るのであつた。——元より例外の存在はこれを認めねばならぬが——されば封建社會の實物搾取りは、すべての人に對して、一樣に向けられるを原則とする。搾取らるべき運命は、人の存在と同延的であつた。

これに反し、資本主義社會にあつては、勞働力の行使は、先づ雇傭關係の成立によつて先立られねばならぬといふことを以つて、特徴とする。雇傭關係は、實物搾取りと兩立せぬ。何となれば、其の關係は、初めから、一切の實物は被雇傭者の手に歸せず、雇傭者のみに專屬することを前提とするものであるから。雇傭關係の成立は、貨幣搾取の可能を待つて、初めて可能となるのである。而して、また、貨幣搾取りは、雇傭關係の成立を待つて發動する。雇傭とは貨幣搾取りを『アイン・ゲーエン』することである。實物搾取りが、人の存在と同延的なるに反し、貨幣搾取りは、雇傭關係と同延的であるのである。

自由競爭の前提は、被傭者に取つて空名であると同時に、雇傭者に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

取つては、完全なる事實である。雇傭するとせざるとは、一に雇傭者の自由に屬する。彼れは、封建時代の知行主を束縛した制限から全く解放せられたものである。雇傭者の勞働權は、全く其の對象なきものとなつた。ブレンタノ先生が、今より四十年も昔著された『現在の社會的窮乏の原因』は、此般の消息を說いて極めて明晰なものであつた。

勞働權の全然存在せさると云ふことが、資本主義企業存立の條件なのである。存するものは、雇傭者の自由雇傭權これのみ。被傭者は、形式的には雇傭を拒みこれを許せざるの權ありと云ふけれども、彼が人間として生活する必要を有つ限り、其は空名にすぎないものである。

乍去、若し資本主義の實情が、需要——供給、供給——需要、生產——消費、消費——生產てふ公式を、如實に體化してゐるものならは、其の實情の中に、勞働權の對象は含まれてゐると云ふべきであらう。從つて、問題は、勞働權の承認其ものに存せずして、右の二つの公式の體化されたりや否やに繫ることとならざるを得ない。

私は、今理論の糸を手繰りゆくことを無用と見る。現實に存する失業問題は、一切の理論的葛藤を一蹴する。私は今、ベヴエリッヂ氏から、次の表を借りて揭げる。

英國に於ける一八九四年より一九〇七年に至る失業率（全年の中數のみを揭ぐ）

（失業報告を提出せる勞働組合の全部）

年	組合員數の百分率		
一八九四	六・九	一九〇一	三・八
一八九五	五・八	一九〇二	四・四
一八九六	三・四	一九〇三	五・一
一八九七	三・五	一九〇四	六・五
一八九八	三・〇	一九〇五	五・四
一八九九	二・四	一九〇六	四・一
一九〇〇	二・九	一九〇七	四・二

（此時代については、實數の知り得られざること、他の國と同じ）

雇傭主の自由競爭に一任する資本主義社會が、すべての雇傭機會需要者に、其機械を確保する能はざるの事實が、漸く明瞭となつたとき、英國に於ては、此缺陷に應ずべく先づ動員されたものは、地方公共團體であつた。即ち一八八六年（明治十九年）時の地方局總裁チアムレーン氏は地方官憲に移牒して、不景氣の甚しき時に於いて、失業者に職を與ふることに盡力せよと勸慫した其主義を改めて、一九〇五年（明治三十八年）此の地方救濟の原則を引揚げて、國家的救濟の原則とし

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た有名な『失業勞働者條例』が、法令として發布された。一九〇八年(明治四十一年)には、更らに、明かに、勞働黨の主張にかかる一般國民の勞働權を認承する法案が多數を以つて議會を通過した。曰く、英國臣民は、公けの官憲によつて、職を與へらるべき權利を有すと。革命獨逸の帝國憲法が、獨逸臣民は適當の勞働の機會を紹介し得られざるとき、國によつて扶養を確保せらるべき權利を有すと規定したのは、玆に先例を有つ。但し、其はむしろ、生存權の原則の上に立つ。(コーエン『失業に對する保險特に英米の事情に照らして』一九二一年第三篇一五九頁以下に詳しき記述あり。)

國家が、臣民の勞働權を認承し、これに適當なる勞働の機會を與ふべき義務を荷ふべしとすることは、明かに、正統經濟學の乞索原理を暴露した所以に外ならない。即ち、之れは、自由競爭の下に於ける自由企業の產業が、すべての雇傭需要を充たし能はざることを、公認する所以である。而して、之れは、形式的には、勞働權の原則を、これにまつはる乞索原理から解放することになるのである。他の言葉を以て云へば、自由產業社會は、少くとも、勞働については、需要＝供給、供給＝需要てふ公式を、實現し得ざることを確認するものである。其れは、取りも直さず、資本主義社會に於ける失業の必然性の法令的公認を意味するに外ならないと共に、資本的產業以外の力を借るにあらざれば、失業の絕滅の不可能なることを、國家の法令によつて、確認するものである。勞働權の對象にかくして、資本的自由企業でなく、國家其ものであることが、認められる。此一事は、一般の勞働保護法制と、根本的に異なる立場に立つものであることを忘れてはならぬ。

繰返していふ。失業問題は、勞働權の原則を執る限り、永久に消滅するを得ざる運命を有つ一の問題である。其の必然、不必然の討究は、勞働權認承の原則の上に立つ社會に於いては、初めから明瞭なる解答を與へられてゐるものである。何となれば、勞働權の要求なるものは、一の乞索原理の上に立つものであるからと。此の乞索原理を撤廢せんとするものは、英國勞働黨の一九〇八年の『失業勞働者條例』これである。其れは、資本主義企業が——少くとも、英國に於いては、また、遙かに小なる程度に於いて、獨逸に於ても——『失業の輸出』によりて、問題の——一部的ではあるが——解決を付けんとするに對して、——國家——並びに地方公共團體——を以て失業の販賣先とせんとするものである。

『失業の輸出』とは、極めて奇抜な言ひ前である。私はこれをジエ・エー・ホブソン氏(『失業の經濟學』二〇頁)から借用する。其れは『保護關稅論』の肺腑をえぐつた苦言である。曰く、世界的不景氣は世界的失業を作ふ、乍去、保護關稅論者はいふ、保護關稅の作用によつて、自國の產業を人爲的に振興せしめて、其の失業を尠くすることが出來ると。これ、自國の失業を、他の競爭外國に輸出せんとする企てに外ならぬと。私はホブソンの此の危言を更らに擴充して、多くの海外移民論、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

海外企業論に及すべきものと思ふ。而して、更らにまた、『失業の輸入』の場合を考へ得ると思ふ。我邦現在に於いて行はるゝ六大都市に於ける失業救濟事業は、事實に於いて、一の大なる失業輸入事業である。此の失業救濟の惠に浴するものゝ大部分——例へば私の親しく見聞した名古屋市に於いては、九割以上——は朝鮮人であつて、而して、其の作用は、多々益々失業、又は無業朝鮮人の招來を促がしつゝある。これ、失業に苦しむ我が日本が、自ら求めて、失業を遞加すべく、朝鮮から、失業を輸入しつゝある所以に外ならない。

(六)

英國に於ける勞働權の認承、獨逸憲法に於ける勞働機會の確保は、失業を競爭國へ輸出するに代へて、國家自らがこれを引受けるてふ原則を公認するものである。かくして、封建社會よりインヴエントリーとして繼承した乞衆原理は、形式的には、撤廢せられ得る。

然り、乞衆原理は撤廢せられ得る。しかし乍ら、其れによつて、資本的産業の寄生虫的性質は端的に暴露せらるゝものなることを忘れてはならぬ。グスタフ・カッセルは、自由競爭の前提の下に於いては、『すべての物皆其價を受取る』『すべてのものは、皆其價を支拂ふ』てふアダム・スミスの公式は、タトへ、自由競爭を前提とするも、猶維持し得ざる所以を、『寄生虫的産業』Parasitic trades てふシドニー・ウエップの造語を借り來つて、有力なる一適例として評論した。七月號掘文所用の論文に於て曰く、自由競爭が完全に行はるゝとして、企業者は、其雇傭勞働に、必ずしも、生活最低限を保障するに足る賃銀を支拂ふものではない。殊に所謂『再生産費』即ち家族の扶養の費用を支拂ふものではない。支拂はずとも永續し行き得る産業は存する。何となれば、現に雇傭する勞働者が雇傭に堪へざるに至るとき、雇傭主は解雇の自由を有する。若しも、雇傭勞働者の供給に限あるなれば、彼は永久には其れを爲し能はぬわけである。然るに、雇傭勞働者は、他の産業より之れを取る可能なしとするも、農村から、又は無職者の群から、容易にこれを取り得る。農村又は廣く云へば社會全體は、マルクスの所謂産業豫備軍以外にも、雇傭勞働者を供給する。これを採る産業は、其の被傭者の教育費は負擔せず、また其の再生産費を負擔せず、唯だ雇傭期間のみの賃銀を支拂ふ。即ちこれらの産業は、農村又は社會全體の費用によつて、費用——價格の公式を充たしつゝあるところの寄生虫的存在を營むものであると。

私は、今此のウエップ並にカッセルの考へ方を更らに擴充して云はんと欲す。其の失業の所置を國家に——而して、其實は、國家を通して、社會全體に——轉嫁するところの資本的企業は、彼れ是れの區別なく、一體としての寄生虫的存在を營むものに外ならないと。國家による勞働權の確保は、實に事實に於いて、社會に課するに、此の寄生

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

虫的資本主義企業の支持を以てするものである。これ實に、重大なる變革である。單なる失業救濟云々の技術的問題ではない。かくして、國家の存立と、資本主義企業の家族とは、切つても切り得ざる腐れ縁を結ぶこととなる。

永井亨博士の『日本國體論』また近刊の『日本思想論』は、國家の支持と資本主義社會の支持との混同すべきものにあらざることについて甚だ暗示に富める思索を我らの前に呈示してゐる。讀者の往見を希望する。

ウヰリアム・ベヴエリッヂは、一九〇八年の勞働黨提出の諸案を、其翌一九〇九年に著はした一世の名著『失業。産業の一問題』中に論評して云つた。各個人に失業に對する國家の保障を與ふることは、疑ひもなく、劣性を庇護し、而して勤勉への刺戟を弱からしむるものである。これは、國家又は其他の力によつて、雇傭（勞働の機會）を調節す可く努むることと、混同すべきではない。……兎に角、失業に對する國家の疑ふ可からざる責任は、公共の厚生に對する其の一般的責任の一部分として取扱はるべきものであつて、個人に對する一の義務として取扱はる可きものではないと。（一九一〇年再版本一九四—五頁脚註。）而して、氏は、實際の施設として、國家の雇傭によつて、産業界の景氣變動に對應すべく、勞働豫備軍を設置する案に對し、次の三點をあげてこれを難じてゐる。（一）此くの如き雇傭は、甚だ大なる度に於いて、救濟的・恩惠的雇傭となるを免れず、從つて、勞働者は其當然受く可きより以上の賃銀を支拂はるゝこととなる。（二）國家的雇傭の如何なる組織も、通常的勞働市場に對する貯水槽として作用することは、實際上には不可能である。勞働者は、其の貯水槽に流れ込むであらう。」然し一度流れ込むだ者は、國家的雇傭が、普通の雇傭よりも、牽引力乏しきものでない限り、再び流れ出づることはないであらう。（三）國費を以て、勞働の貯水槽を設くることは、産業の組織缺陷——失業の續出——を永久化する所以である。……此方法は、現産業組織を其缺陷を有する儘に受け取り、唯だ其外側に聊か觸れるにすぎない。失業の經濟的諸原因は、毫も觸れられることなく殘ると。（前掲書一九五—六頁）

戰後に於ける獨逸の『エルヴエルプスローゼン・フユルゾルゲ』は、此のべ氏の言を實證すべき、最も有力なる實例であつた。我邦に於ける所謂失業救濟事業は、其規模は遙かに小なるものであるに拘らず、其不成績さは、彼れに比して遜色なきを誇り得べきものである。我が新内容が企てんとしつゝある失業救濟事業なるものが、其歷史を再演し、更らに、幾多の不應爲例を提供するであらうことは、殆んど自明の一事である。尠くとも、其れは、失業の原則的對策として、何等の價値をも有たず、唯だ一内閣の壽命を若干永くし得るの作用を爲すに止ることは、些の疑を容れない。而して、其價を支拂ふものは、我々國民に外ならぬのである。

英國勞働黨の勞働權原則の公認とは、唯だ一つの宣言的妥當性を有するに止る。實際に於いて、英獨をはじめ、諸文明國に於いて施設せらるる失業對策は、決して、此原則の一貫的體現を示してゐるもので

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

はない。私から見れば正しき原則も、まに其間に混合的存在を見出しつゝあるのである。唯だ其よつて立つ基調が、勞働權の原則に存する限り、所謂失業對策は、今日現在に於いては、何れの國に於いても、支離滅裂の狀態にあり、失業論者の大多數を支配する思想的環境は、實に混沌を極めたものであるのである。

其れと共に、私は、此の混沌場裡に、猶一條の赤き糸の如く、正しき原則の漸次に擡頭しつゝあることを認めざるを得ない。而して、私は、これを以て『資本主義社會に於ける共產原則展開』（七月號改造所揭拙文）の、更らに一つの例と見ざるを得ぬものである。就中、私は英國の新內閣を形つた勞働黨中の或る人々について、其の著しい展開を認める。此內閣が向後如何なることを爲すか、今よりこれを逆賭することは出來ない。乍併、其の『經濟參謀本部』の企畫は、尠からず私の注意を惹くものである。（七月號改造拙文附記）私は、嘗つてはギルト社會主義者たりしコールの新著『英國の社會及經濟政策に於ける大ぎの十年』（一九二九年刊）を、其の說明書として、有力なるものと見る。恐らく、新內閣の思想的臺帳は、此書に於いて見出されるであらう。而して、其の强みも其弱みも、其の長所も、其短所も、此書に於いて、やゝ十分に披瀝せられてあるかと思ふ。私の斷く云ふは、實際施設の上についてよりも、むしろ、其の學問的思向の上についてである。米國の智識界を傾け盡くして出來上つた一九二三年刊の『產業景氣循環と失業』てふ力作をこれと對比して見るとき我々は、僅か五六年の日子が如何に大なる變化を齎らし來りつゝあるかを認めざるを得ぬ。

（七）

景氣の循環的變動と失業とを不可分的關係にあるものと見ての失業論は、我々の聞き飽きるほど聞かされたところである。其れは、嘗ては、たしかに一の天來的發見であつた。併し乍ら、歐洲大戰後の世界は、單に失業問題との關係に於てのみでなく、一般的に所謂景氣循環變動論の眞價値を暴露した。私は今其の一般的暴露に論及する暇を有たぬ。（我邦の讀者は、近刊の景氣變動論の一二册に往見して、其れらが多く語つて、實は殆んど何ものをも語らざるを看取し得るの便を有つ。之れに反し、勝田貞次氏の諸々の論文また著作は、少くとも歐米に於ける最新の思索の如何なる傾向を取りつゝあるかを——必ずしも十分とは云ひ能はざるも——示してゐる。）其の失業問題に關する限りに於いては、コールの新著附錄にかゝげられてある左の一表を一瞥すれば足りやう。

一九二一年（大正十年）より一九二八（昭和三年）に至る英國及北愛蘭に於ける失業保險勞働者の失業實數並に其の百分率

	單位千 總人員	百分率
一九二一年 十二月	二、〇三八	一七・九
一九二二年 三月	一、八二七	一六・〇
六月	一、五六三	一三・七

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

九月	一、四四九	一二・七
十二月	一、四六四	一二・八
一九二三年		
三月	一、三三六	一一・七
六月	一、二九八	一一・三
九月	一、三四七	一一・七
十二月	一、二二九	一〇・六
一九二四年		
三月	一、一四一	九・八
六月	一、〇八七	九・三
九月	一、二四二	一〇・六
十二月	一、二六三	一〇・七
一九二五年		
三月	一、三一〇	一一・一
六月	一、四〇九	一一・九
九月	一、四二六	一二・〇
十二月	一、二四三	一〇・四
一九二六年		
三月	一、一七一	九・八
六月	一、七五一	一四・六
九月	一、六四八	一三・七
十二月	一、四三一	一一・九
一九二七年		
三月	一、一八八	九・八
六月	一、〇六九	八・八
九月	一、一二六	九・三
十二月	一、一九四	九・八
一九二八年		
三月	一、〇七一	九・五
六月	一、二三九	一〇・七
九月	一、三八四	一一・四
十二月	一、三一二	一一・二

此の莫大な失業者數は、決して、英國のすべての産業に一樣に分布せられてゐるのでなく、若干の代表的産業に集中せられてゐるのである。コール氏によれば、本年一月二十一日に於ける全失業數の約三分の一は、（一）鑛業及金屬工業に屬し、而して（二）纖維工業を之れに加算すれば、全數の約二分の一に屬する。これに次ぐものは、建築業である。其總人員數は、（一）四十九萬三千人、（二）二十三萬五千人、合計七十二萬八千人であり、建築業は、二十一萬八千人である。

（ベ氏の時は、人員數の決定は不可能事であつた。幸にも、英國には其後（一九一一年十二月十六日發布、一九一二年七月十五日實施）失業保險の制が布かれた爲めに、我々は實數を有つ。此制なき國に就いては、百分率は或は見出し得る、實數は知り能はぬ。

大正九年は、我邦に於ける如く、英國に於いても、好景氣の絶

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

遂し而して大瓦落の來つた年である。其翌大正十年から本年に至る七ヶ年、英國は常に百何十萬人の失業者を有し、其百分率は、最高一割七分九厘から、最低八分八厘の間を往來してゐるのである。戰前に於いては、二分二厘が、所謂『不減的失業率』であり、七分二厘が最高率であり、四分二厘が平均率であつた英國に於いて、失業率の増大は斯くも著大なのである。『失業は不可避的なりや』一九二四年刊に據る。此の顯著なる事實の前には、景氣循環相關論は、著しく其影を薄くせざるを得ぬ。

失業必然、不必然の問題は、此の顯著なる事實の前に、其取扱を一變せざるを得ぬ。景氣變動と不可分的に結び付けて考へられてゐた間は、此問題は、廣い景氣變動論、並に景氣變動調節論の一部——其代表的なる部分ではあつたが——を形づくるに止つた。然る限りに於いては、ベヴエリッヂ氏の失業理論は爭ふ可からざる而して最高の權威であつた。失業問題は、本來的には、勞働の問題ではない、其は主として、賃銀の問題であると云つたのは、一の指導原理と做された。而して、失業の問題は、其大部分をあげて産業豫備軍の取扱に集中す可きものであり、昔しの勞働者は、勞働の需要に從ふを以て足れりとしたが、失業の起つた後の時代の勞働者は(一)需要に從ふ(二)需要を待つ 前掲書二三五—二三七頁 と云ふ二つの條件の下に立つとせられ、失業の對策は、此の(二)の需要起るを待つ爲めの、而して待つ間の對策に集中すべきものなりとせられたのである。私は、これら對策を一括して、帆待ち的對策と呼ぶ。ベ氏は此の帆待ち的對策を以て、十分に可能なるものとした。從つて、然る限りに於いて、失業の必然性は、これを肯定するを要さないものである。唯だ氏の名けて、失業の不減的最低限 irreducible minimum of unemployment だけは、帆待ち的對策を以てしては、除去すること能はざるものであり、而して然るが故に、また、然る限りに於いて、其必然性は肯定せられねばならぬものとせられてゐた。他の語を以て、これを云へば、失業の必然・不必然と失業對策の可能、不可能の問題とは、此の不減的最低限にまで押詰められたのである。從つて、其の産業豫備軍論は、名はマルクスの其れと同じであるけれども、其の意味は著しく異るものである。

景氣循環相關論は、かくて、失業問題の危險性を著しく緩和するの結果を産み出したと云ひ得よう。即ちベ氏が、勞働に對する需要は資本及土地に對する需要と相關關係に立つ、然るに英國に於いては、土地の供給は不足せず、資本の供給も不足せざることは、地代、利子率の騰貴せざることを以て立證し得。また、勞働が機械によつて換位せらるゝことなく、勞働に對する需要は減退せざることは、賃銀が漸次騰貴する傾向あるを見て知る可し、かくて、人口過超の現象は全然存在せず、また一般的生産過超——生産要其の過超生産——なる事實もまた認む可からず、失業の對策は、一に『デガジュアリゼーション』(機會性の取去り)に集中すべきものであるとする斷案は、多くの論

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

者の追從するところとなつたのである。

英國勞働黨の主張する勞働標原則の支持し難いことは、ベヴェリッヂ卿の所謂『失業の不滅的最低限』の消滅によつて、いとも明瞭に示されてゐる。英國今日の失業問題は、此の限局内に押詰められた失業の問題ではない。百五十萬人に近い失業者の不滅的實在の問題である。而して、其れはベ卿によつて、緩和せられた失業必然、不必然の問題と、失業對策可能・不可能の問題とを、其限局から解放し、これを國民的死活の大問題となすに至つたのである。

一九二五年モスクワ計劃經濟省(ゴスプラン)に於ける討論に於いて、私はケーンズ氏を難じて云つた。氏は、『チアーチル卿の經濟的結果』に於いて、英國現在の失業の激增の一半はチ卿の平價金輸解禁にありとした。これは、傳統的失業理論に囚はれた考へ方である。英國今日の莫大なる失業の最大原因は、外國市場の搾取りの漸次不可能になつた結果である。此失業は、季節的でもなく、周期的でもない。景氣の變動と必ずしも相關するものでなくして、英國に於ける資本主義產業の世界的地位の變遷(產業機構變動)から來るものであると。

ケーンズ氏は、私の論を容れず、私は再びやゝ、激しく氏を難じた。傍聽せる勞農政府の官吏諸君中には、私の論に賛するものも、たしかにあつた。今一九二九年コール氏の新著を見るに、其論當時の私の言と全く符節を合すが如きものがある。前掲書第二章『英國の貿易と其將來』を見よ。

右の意味にては、英國の失業問題は、英國だけの問題であつて、世界の問題ではない。況してや、我日本の問題でもない。唯我邦には、ケーンズ、カッセル兩氏の盲目的信仰者尠からず、我邦當面の問題たる金輸解禁についても、ケーンズ氏の右小冊子またカッセル教授の購買力平價說を、殆んど『一つ覺へ』的に尊奉して、平價切下げ解禁論の根據とする論者あり、而してケーンズ氏が一の戰術として、勞働階級の利益が平價解禁による失業の激增によつて、痛く害せられたと主張した其言を鵜呑みにして、プロレタリア政黨は、平價切下げ解禁論を主張せざる可からずとする人士のあるを見出す。此の限りに於いては英國の問題は即ち我日本の問題であるのである。

更らに、英國の問題が日本の問題となるべき一の點がある。其れは、コールが其著に於いて極めて婉曲に、(乍併其眞意を掩ひ能はずして)說いて居る次の一事である。英國現在の失業は、其の勞働條件の高度なることも一の原因である。これを支持するの道は、(一)帝國主義の擴張か、(二)自由通商主義の世界化かの二つを措いて外にない。帝國主義の擴張は勞働黨内閣の主義と兩立せぬ、自由通商主義の世界化のみが其採るべきところである。乍併、國際經濟會議の自由通商協議には、英國は、毒にもならず藥にもならざる第二三流の人物を以つて代表せられたに止る。註。其れは、ひとり英國のみのことではない。其れは、國際經濟會議が果して實行力あるものなりや否やの判然せざる今日、英國として不即不離の態度を採るが至當なりとの見解が支配してゐたから

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る。唯だ諸外國、殊に現に英國と競爭の地位に在る歐米諸國、若くは、近き將來に於いて、英國の競爭者として恐るべきものとなるかも知れぬアジア諸國が、國際經濟會議を重視し、其自由通商協定を忠實に遵奉せんことは、最も希しいことである。これと共に、我々は是非國際勞働會議を善用して、これら競爭國就中新興諸國に於ける勞働條件の向上によつて、其の競爭力を控制するに努力せねばならぬと。

これは、精製された『失業輸出』論に外ならぬことは、慧眼なる讀者の看破するところであらう。私は、自由通商其ものに何の異議を持つものではない。殊に國際勞働會議によつて、外來的に、我邦の勞働立法と勞働保護の完成を刺戟するの歡迎すべきことなるを認むるものである。乍併、其れが、英國『失業難の輸出』の目的の爲めに利用せられる虞あることを知るものなるが故に、一知半解の自由通商運動に雷同すること能はず、また國際勞働會議を唯一の庇護者と仰ぐ或る勞働運動者らの所爲に與みし得ざるものである。遮莫、英國の失業問題が、また我邦の問題となり得る他の一點は、實に、玆に在るのである。

(八)

ベヴエリッヂ卿は、其失業論を要約していふ。失業は、產業の範圍大小の問題ではない、其れは、產業の組織の問題である。失業は、勞働に對する需要の分拉の問題ではない。其の變化と變動との問題である。……此の結論は、從來提案せられた失業對策の多くのものが、他の點に於ける價値は如何あらうとも、失業問題其ものに取つては、何等直接の關係を有たざるものなることを指示する。其一つは、新產業の創造これである。……此れらには、國の繁榮を招來したものもあらうし、又た然らざるものもあらう。勞働に對する需要の增加を持ち來したものもあらうし、また然らざるものもあらう。乍去すべての歷史は、勞働に對する需要の增大は、失業に對しては、何等の治療ともならないものである。勞働供給の減少若くは其の能率の減少も、又何等の治療とならない者であることを示す。出產制限、海外移民、勞働時間の永久的短縮等何れも問題の核心に毫も觸るゝ所なきものである。これらの方策は、何れも著しい範圍に於いて試みられたが、毫も失業を除去する効を爲さなかつたものである。我々は、次きのパラドックスに當面するものである。曰く、仕事の(勞働機會の)創造は、失業に對して何等救濟の用を爲さぬ。其れは當面の困難を緩和することはあり得る。其れは、一般的に、國の繁榮を增すことはあり得る。其れは、一時的に、失業の存在を忘れしむることは出來よう。乍去、其れは、一國家から失業てふ現象を消滅し去らしむるものではないと。(前揭書一九二頁以下)

べ卿の此の論は、元より景氣の變動と不可分的關係に立つものと見

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が、また我邦の問題となり得る他の一點は、實に、茲に在るのである。

（八）

ベヴエリッヂ卿は、其失業論を要約していふ。失業は、産業の範圍大小の問題ではない、其れは、産業の組織の問題である。失業は、勞

得る。其れは、一般的に、國の繁榮を増すことはあり得る。其れは、一時的に、失業の存在を忘れしむることは出來よう。乍去、其れは、一國家から失業てふ現象を消滅し去らしむるものではないと。前掲書 一九二… 頁以下

ベ卿の此の論は、元より景氣の變動と不可分的關係に立つものと見

ての失業について立てられたものであつて、其れは近頃米國の學者の謂ふ『トレンド』、若くはドイツの學者の唱へ、私のモスクヴァに於いて主張した『機構變化』（ストルクトウーア・ヴアンデル又は、ヴエクセル）を、全然考慮の外に置くものである。一九二六年、親しくベ卿に面接するの光榮を有したとき、卿は、私に向つて、或度まで此點を肯定せられた。從つて、コールが取扱つた、英國外國貿易の趨勢の根本的變化より來る英國經濟機構の變化てふ當面の大現象の前には、當然に、幾多修正を加られなければならぬものである。其の變化は、實に隔世的のものである。從つて、其修正も、或點に於いては、隔世的のものであらねばならぬ。

乍去、ベ卿の論を以つて、マルクスの『産業豫備軍』の說に對照するとき、更らに、其反對極に立つ我邦論客の人口問題即産業振興問題云々の愚論に對照するとき、我々は、未だ學ぶべき多くのものを見出さずして已む能はざるものである。

失業問題は、雇傭勞働の問題である。其以外の何ものでもない。ジヨン、スチアート・ミルが『貨物に對する需要は、勞働に對する需要にあらず』と喝破したのは、他の點に於いて如何あらうとも、此點に於いては、雇傭勞働の需給關係の眞相を道ひ得たものである。アダム・スミスを讀まず、リカルドを讀まず、ミルを讀まず、若くは、讀んでも、これを會得し能はざるヂレタントの徒が、僅かに近刊の若干文獻を亂讀して、幾多の論策を濫發するは、我々の迷惑此上なきことであるが、人口の問題は、産業振興せば、即ち解決す可しと市場に叫ぶ聲を聞くとき、我々は、教科書的訓練の決して忽かにすべからざるを痛感せざるを得ぬ、資本主義産業は、如何に、これを振興せしめ、如何に、これを擴大するとも、其は、必ずしも、雇傭勞働に對する增加を意味するものではない。否、雇傭勞働に對する需要如何に增大するとも、其は、決して失業の必然性を一掃するものではない。其の他方に於いて、失業問題は、即ち人口問題なり、人口問題は、即ち失業問題なりとするマルキシストの一派の議論も、また、失業問題をも、人口問題をも、釋き得るものではない。茲に、再び永井亨博士の『日本人口論』への往見を希望して置く。

雇傭勞働に對する需要は、勞働に對する需要ではない。被搾取者に對する需要である。搾取り機會の缺如は、即ち、雇傭勞働に對する需要の縮少を意味し、其機會の增大は、其の需要の擴張を意味する。此點に於いて、ピグー教授が其の『産業變動論』に於いて、産業の變動とは、一社會の『所得獲得力』の量に於ける變化、殊に、仕事──雇傭仕事の意に取る──に充用せらるゝ所得獲得力の割合に於ける變化より來るものなりとし、其書十頁以下 更らに『景氣の變動を支配する原因的要因は、動的資源供給の側に存せず、利潤期待の側にある。』同上二九頁 とし、また、更らに、此の利潤の期待とは、即ち『産業へ動的資源を向けんとする願望』と同意義であるとしたのに、以上の意味を道ふもの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と見ることが出來よう。何となれば、『產業へ動的資源を向けんとする願望』、『利潤の期待』とは、雇傭勞働によつて、生產を營む外ない今日の資本的企業者に取つては、『雇傭勞働搾取りの可能の期待』に外ならず、而して、其れは、『雇傭勞働を、產業へ——自家の企業へ——向けんとする願望』に外ならないから。（但し、教授は、此關係を、毫も明瞭ならしめず、而して、幾多の(私を以て見れば)無用なる論辨を重ねてゐる。ホートレーの『商業と信用』一四四頁以下の鋭き批評參考。）

ピグーの所謂『利潤の期待』私のいふところの『雇傭勞働搾取りの可能の期待』は、勞働其ものに對する需要を喚起すものではない。況んや、過剩人口に對する需要を喚起すものではない。其れは、唯だ『所得獲得力』の配分の變化を喚起すに過ぎない。其は、利潤獲得機會の增大、被搾取り雇傭機會の增大を意味するに外ならない。失業人口の數量、『產業豫備軍』の範圍は、其れが爲めに影響せられることもあらう。影響せられぬことも、またあらう。二者の間には、何等の有機的關係は存在せざるものである。。

(九)

利潤獲得の可能は、雇傭勞働者の數と、必ずしも、同延的なものではない。マルクスの餘剩價値論は、これを必然的に同延的と見る。利潤獲得力の運用は、あらゆる生產並に販賣——並に其他の流通要素——の利用と其組み合せとに存する。ひとり、マルクスの所謂『資本の有機的組み合せ』のみに存するものではない。而して其利用、其組み合せに、『定石』の存せぬと云ふことが、資本的企業の特徵なのである。（シュムペーター『經濟發展の理論』に於ける『新組み合せ』の說參照）一の業に於いて、最も有利なりし組み合せは、必ずしも、他の業に於いて、有利であるとは限らない。否、一の業に於いて、或時、有利なりし組み合せも、他の時に於ては、却つて、不利なる組み合せたることが、屢〻存する。また、其利用、其組み合せは、ひとり、生產行程の上にのみ存するのではない。生產行程の上に於いて、全く同一の組み合せを採るものも、其販賣行程其他の流通行程に於いて、異なれる組み合せを採るによつて、利潤獲得の可能性は、或は大となり、或は小となり得る。玆に、企業者間に、『利潤期待』場裡に於ける競爭が起る。其の競爭は、マルクスが、資本論第三卷に說いた樣に、期待せられた利潤を平均化するものでは、決してない。

企業者間に於ける此の競爭は、利潤獲得の上から見れば、誰人よりも、より多く、而して大抵の場合に於いては、より先に、利益獲得の機會をつかみ、誰人よりも、より多く、而して、大抵の場合に於いては、より早く、利益減少若くは、損失負擔の機會を逃れんとする競爭となつて現はれる。所謂『早く賣拔く』『早く買占め』んとする競爭はこれである。景氣變動の兆候の見へ初むるとき、此の競爭は激成せられる。價格騰貴の兆候の看取せられるときは、誰人よりも先きに買占

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

め、誰人よりも先きに生產し、誰人よりも先きに供給を確保せんとする。其反對に、價格下落の兆候の見へ初むるときは、誰人よりも、先きに、『賣拔き』誰人よりも、先きに、需要を確保せんとする。雇傭勞働に對する需要は、此競爭の一手段として取扱はれる。

此の競爭は、決して、ピグー教授の主張する『樂觀の誤謬』『悲觀の誤謬』に基くものではない。其れは、決して、『需要の過大期待』又は其の『過小期待』の過を犯すものではない。競爭する諸企業者の『期待』『見込み』は或は完全に、或は不完全に、合致することは、幾らもあり得る。例へば、船舶の需要の俄かに增大することありとする。其增大の程度は、例へば、三十萬噸、二百艘なることは、當業者の間に、粗ぼ熟知せられてゐるとする。而も造船業者は競爭する。其れは、此の總噸數、總艘數の中、成る可く多くの部分を、自己の手に取らんとする競爭である。從來僅かに一萬噸を製造しつゝあつた造船業者は、たしかに二萬噸を供給し得と見込む。從來十萬噸を製造しつゝあつたものは、十五萬噸を供給し得と見込む。かくて、必要の設備を增設し、必要の材料を買入れ、必要の雇傭勞働者を雇入れる。然るに、これら競爭造船業者各個の期待噸數の合計は、三十萬噸とならず、八十萬噸となるとする。ソコデ、供給の過剩が起り、船價の下落が起り、或ものは破產し、或ものは、大損を招く。需要の俄かに減少するとき、又其反對が起る。三十萬噸の需要減少は、粗ぼ豫知せられてある。而も、各造船業者の手控へ噸數の總計は、五十萬噸であつて、其處に、二十萬噸の供給不足が起る。船價は騰貴する。

施された設備、買入れられた材料は、供給過多の事實判明するに至るも、『失業』に陷ることはない。註文は、或は取消される。米國の景氣、及び失業調節對策中註文の取消し、『キアンセレーション』の禁止若くは、嚴重なる制裁が、一の重要なる事として取扱はれてゐることについては、前揭『產業の周期と失業』の隨所、就中第二篇第十一章モンテーグ氏の論文を見よ。ひとり、雇傭勞働は然らず、其れは、直ちに解雇せられる。解雇せられたものは、即ち失業者となる。曩きに、船舶需要增加の『ライオンス・シエーア』を獲得して、利潤獲得を擴大せんが爲めに、相競つて雇入れられた勞働者は、また、相競つて、驅逐せられる。其れは、決して、雇傭企業者が、『樂觀の誤謬』に陷つた爲めではない。現實に而して多かれ少かれ、正確に見積られたる需要の增大の成る可く多くの分け前を、自家の手に獲得せんとする競爭の結果である。此の意味に於いては、『生產の過剩』とも云ひ得る。然し、其れは、誰人もこれを期したことではない。反對の場合は、『生產の過少』とも云ひ得る。其れも、また、誰人によつても欲せられたところではない。生產の『過剩』も『過少』も、決して誤算されたのではない。產業が、生產か、競爭し合ふ多數の企業單位の集合によつて營まれる結果の累積である。『生產の過剩』以前に、買入れ、借入れの過剩がある。勞働者雇入れの過剩がある。反對の場合には、其れらの過少がある。自由競爭の前提と、勞働權の資本的企業による確保との、到底兩立すべきものでないことは、これを以て、明瞭であらう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ピグー教授が、これを心理的原因に歸せんとするは、明かに、大なる誤謬である。（教授の所謂『現實的諸原因』なるものは、教科書ならざる此論文に於いては、これを取扱ふ暇がない。タトヘ、取扱つても、近刊某教授の經濟教科書に於ける様に、結局、景氣の變動は經濟學に於いては、これを取扱ふこと不可能なる由を、數十、數百頁を費して、說明することとなる。）

ピグー教授の誤謬は、ひとり右の一事に止まらない。教授は、『貨幣の人を迷はせるヴェール』の引剝しに熱中するの餘り、貨幣的諸原因を、『自動的』として、これを輕視、否殆んど無視せんとする。これ、他の大なる誤謬である。斯くいふも、私は決して、其の反對論者たるホートレー氏に追從するものではない。ホートレー氏は、貨幣的原因就中、信用創造を唯一原因の神壇に祭る。これも亦た明なる誤謬である。乍併、それが、貨幣——信用——搾取りの眞相を、語ること詐なるは、私の推服を禁じ得ざるところである。

ホートレー氏立論の極端さは、其の『公共支出と勞働に對する需要』論（前揭書第六章一〇四頁以下）に於いて、いとも、鮮かに展開されてゐる。氏は公共（國家、公共團體）事業の緊急調節による勞働需要の統制を論じてゐる。公共事業を失業緩和の爲めに擴大するには、其の資金が必要である。此資金は、資本勘定に於いて具へられねばならぬ。換言すれば、其れは、起債、借入金か、又は、公債償却の繰延べ、中止か、其何れかによつて、調達せられねばならぬ。これに二つの場合を想定し得る、（一）は國民の現實なる貯蓄から借入れる場合（二）は、單に銀行信用の創造による場合、これである。（一）の場合には、其れは、朝三暮四に外ならぬ。國民の手によりて、使用せられるに代へて、國家の手によつて、使用せられるだけの違ひにすぎぬ。政府の失業緩和事業の支出額に該當するだけ一般の消費者支出（氏の云ふは、單に所謂消費のみでない、生產的消費をも包含してゐる。）は減少せざるを得ぬ。從つて其結果は自明的である。政府の增加支出は何の用をも爲さず。失業の量は依然として同一である。更らに（二）の場合、銀行信用の創造によつて、公共事業を營むときは、雇傭の量は增加する。然し乍ら、此場合、雇傭の量の增加を支ふるものは、創造せられた銀行信用であつて、新たに起された公共事業ではない。雇傭機會を增加して、失業を減ぜんとするは、寧所にある豚を、ロースト、ピッグにする爲めに、其全家を燒却するが如き擧である——公共事業を起す必要は、毫もない、唯だ銀行信用を作り出さへすれば、事は足りる。何となれば、失業者に對する支拂を可能ならしめるものは、公共事業でなく、作り出された銀行信用であるから。唯だ其借入れが、國內よりせられず、外國からせられる場合は異る。此場合には、端的に、雇傭機會を增加する。然るに、公共事業論者が、外資輸入に嘗つて論及したことなきは、一奇とすべきである。故に曰く、公共事業によつて、雇傭機會を增し得可しとの

ある。雇傭機會の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ホートレー氏立論の極端さは、其の『公共支出と勞働に對する需要』論（前掲書第六章一〇四頁以下）に於いて、いとも、鮮かに展開されてゐる。氏は公共（國家、公共團體）事業の緩急調節による勞働需要の統制を論じていふ。公共事業を失業緩和の爲めに擴大するには、其の資金が必要である。此資金は、資本勘定に於いて具へられねばならぬ。換言すれば、其れは、起債、借入金か、又は、公債償却の繰延べ、中止か、其何れかによつて、調達せられねばならぬ。これに二つの場合を想定し

する何らかの反作用の結果である。失業に對する眞の治療法は、健全なる方針に立脚する信用の直接統制を措いて外にないと。（前掲書一〇四―一〇六頁の要略）

（十）

ペヴエリッヂ卿の競爭說、ピグー教授の心理的誤謬論、ホートレー氏の信用の無統制論、更らにこれに加へて、ホブソン氏の過少消費論、其他失業原因論を列擧すれば、殆んど無數である。私は今教科書的にこれを並べ立てる遑を有たず、又其の要を認めない。何となれば、其れらは、必竟するに、失業の必然性を肯定するといふ一事に於いては何れも一致して居るのであるから。而してまた、同時に其れらの原因論に立脚する失業對策可能、不可能の解答は、何れも不徹底を極めたものであるから。陳列は、唯だ陳列たるに止る。我々の認識は、これが爲めに一歩をだも進出する能はざるのである。況んや當面應急の失業論、臨機應變の失業對策に於いをや。

貨幣攫取りを『常道』とする資本主義企業に對して、失業の除却を望むことは、更らに一の新たなる而してより大なる乞索原理を創造することである。勞働權の原則は論ずるまでもなく、勞働全收權の原則の上に立つと雖も、此の乞索原理は滅ぼされ得るものではない。失業の必然性は、それらの原則の如何なる展開を以てしても、これを取り

は、公共事業でなく、作り出された銀行信用であるから。唯だ其入れが、國內よりせられず、外國からせられる場合は異る。此場合は、端的に、雇傭機會を增加する。然るに、公共事業論者が、外資輸入に奢つて論及したことなきは、一奇とすべきである。故に曰く、公共事業によつて、雇傭機會を增し得可しとの主張は、根本的に誤謬である。雇傭機會の改善せられることありとすれば、其れは、信用に對

去ることは出來ないのである。從つてまた、失業對策は、其何れを以てするも、當面應急若くは部分的の可能性を有するに止る。英國に於ける大規模なる國營の職業紹介機關、これと關連する失業保險、同じく最新時の產物たる一九二七年七月十六日のドイツの『勞働紹介及失業保險法』、其何れも、失業對策としては、部分的解案たるに止ることは、豫言者たらずとも、これを逆睹するに苦まざるのである。況んや公共事業による統制、企業者の自制的調節、生產のスタビリゼーション諸案、勞働組合の自治的扶助、信用の統制、など、などに於てをや。更らに所謂應急的失業救濟の諸計劃に於てをや。

乍去、讀者願くは、速斷すること勿れ。私は、これら諸々の對策を以て、無用なり、無効なりとするものでは、決してない。唯だ其れ[illegible]が、失業の必然性と其對策の原則的可能とを如何ともすること能はざる所以を明瞭ならしめんと欲するに外ならないのである。其然る所以は、給付原則、價格原則に基く自然均衡主義の專制にある。之れに反し、私の所謂『資本主義社會に於ける共產原則の展開』の一例として生存權確保の原則に立つ諸々の現象の進出するとき、（ポッパー・リンコイス『一般扶養の義務』一九一二年刊參照）其處に、私は失業必然性の取り除け、若くは、著しい縮少と、失業對策の原則的可能性の擴大とを認め得可しと信ずるものである。此意味に於いて、英國の職業紹介機關、これと關連せる失業保險制度、ドイツの新『勞働紹介及失業保險法』は、最も重大にして、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

最も顯著なる『アドヴェント』たることを疑はないものである。更らにまた、コール氏の主張する『ファミー・アラウワンス』の制度と、『ナショナル、レーバー・コール』制度との原則的意義を其處に、認め得ると信ずるものである。

生存權に立脚する新原則は、『價格中心』の經濟觀の到底容るゝ態はざるものたるは、言ふまでもない。之れに反し、私の主張する『所謂中心』の經濟觀は、優にこれと兩立すると信ずる。ピグー教授の云ふ如く、景氣變動は——而して失業の必然性は——必竟するに、所得獲得力の相互比例の變動に歸着する。其取扱は、價格の取扱であることは能はず、所得の取扱でなければならぬものである。今日の社會は資本主義企業の指導の下に立つことは勿論である。乍併、其れと同時に、其れは、所得獲得の社會である、『エルヴェルブス、ゲゼルシャフト』である。所有社會ではない。『ベジッツ・ゲゼルシアフト』ではない。價格は、唯だ其の一手段たるにすぎない。所有は唯だ其の方便たるにすぎない。眞の支配者は、所得である。此の所得社會の中核の問題を今日に於いて成すところの失業の問題は、價格の問題ではない。所得の問題である。ベ卿が、『失業問題は、勞働の問題にあらず、賃銀の問題なり』と喝破したは、千古の名言である。然るが故に、失業問題の原則的取扱は、必竟するに、一の所得の問題としての取扱でなければならない。詳しく云へば、其れは、所得の統制の一事に盡きてゐるのである。所得の原則的統制、原則的調節を外にして、失業必然の取り除けはない、失業對策の原則的可能性の樹立は望み得られない。これが、私の所論の總歸結である。其の理論的展開と、其れに基く失業對策各論、就中、職業紹介制度と失業保險制度並に其他の根本的・恒久的對策に關する考察とは、自ら他日再論の機會あるを待つ。(四・七・二八)

——四・八・九)

附記。此頃三土前藏相は、新內容の緊縮政策を難じて、『元來消費と生產とは密接不可分のものである。消費が減少すれば、生產も共に減少し、國民全體の所得減退となつて、經濟界を萎微縮少せしむる結果を見るにすぎない。從つて、消費節約が、國際貸借の改善になるといふことは、經濟界觀測の錯覺である。』と云つたといふ。時事新報(八月七日)はこれに題記して、『自ら失業者を作つて何の救濟』としてゐる。此れに對し、小川次官らは『若し我邦の經濟が、國內のみに局限されるものならば、生產と消費とは不可分かも知れぬが(!?)、今日の如く對外貿易が盛んに行はれ、經濟が對外的に、發展してゐる時代に於いては、國內の消費節約は、却つて、生產を對外的に發展せしめる基因となるものである。現に、綿絲の如きは、國內の消費節約と共に、益々輸出が增加してゐる』と辨駁したといふ。八月七日の諸新聞による。三土氏の議論は、さながらに、河上博士が、其昔し私の論を痛擊するに用られたマルクスの論法を襲踏するが如きものであつて、然る限りに於いて、一應は正しい。之れに反し、小川次官等の駁論は、コールの『失業輸出論』を變還した樣なものであつて、然る限りに於いて、甚だ窮せりと云はざるを得ぬ。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

乍併、三土氏の所謂消費は、普通にいふ消費の意味であるならば——十の八九左樣であらう——其れは、全然正鵠を失した論である。所謂消費を節約するも、生産的消費にして增大する限り、生産は、必ずしも、其れだけ減退するものでないことは言ふまでもないことである。唯だ、マルクスのいふ樣に、結局に於いて、——イン、ゼ、ロング、ラン——生産は、つひに過超するといふのならば、其れは、河上博士と私との間に於ける樣に、未だ決定して居らぬ事である。(河上博士は、疾くに決定して居ると主張せられるであらうが)三土氏の恐らく意味するであらう樣の意味に於いては、其論が正鵠を失して居ることは、明である。乍併、生産的消費と狹い意味に於ける消費との割合の問題は、其樣に簡單に片付けるわけにはゆかぬ。私が本文に於いて主張する『所得の統制』とは、此問題の取扱を意味するのである。

他方に於いて、國民の消費の節約は、輸出を促進すと小川博士等の論駁したのは、極めて限られた意味をしか有たぬ。國民の節約するものが、何れも皆輸出貿易の對象たり、また、たり得るなどとは、實情に迂なるも甚しい議論である。國民の節約とは、貨幣經濟の今日に於いては、貨幣支出の節約の形ちを取るものである。言葉を換へて、云へば、國民の貨幣所得の留保である。購買力の控制である。或る貨物については、此の控制は、其の價格の下落を招來し、從つて、其輸出能性は增大し、輸入能性は減少するであらう。然る限り、國際貸借の改善に資する。しかし、控制せられたもの全部が此作用の下に立つのでは決してない。從つて、其れらの生産に從事する雇傭勞働機會の減少(失業)を招來することあるべきは、これを期待せねばならぬ。況んや、政府、公共團體、並に民間事業の中止又は繰延に於てをや。此意味に於いて、『自ら失業を作り出して、何の救濟で』と反問するは、當を得て居る。要は、其節約せられ、控制せられた所得の配分、其の充用如何にある。

私は、新內閣の緊縮政策を正しと見る。其れは、金輸解禁は、如何なる方法によつて、これを行ふも、多かれ少かれ『クライシス』を持ち來すことを免れない。此の『クライシス』に二種ある。一は、『調節のクライシス』である、他は『安定のクライシス』である。今直ちに、法定平價を以て、解禁すれば、其れは、僅かに、貨幣價値を引上げることとなる。其處に起るものは『安定の爲めのクライシス』である。此れに反し、解禁に先つて豫め、國民消費を緊縮する場合に起るものは『調節の爲めのクライシス』である。此の『クライシス』の苦を嘗めて後——其間に物價は下落し、爲替相場は騰貴し、貨幣の對內、對外價値は引上げられて——平價で解禁すれば、『安定の爲めのクライシスはこれを免れ得る。 グレゴリー氏『金への復歸』ホートレー氏『理論と實際とに於ける金本位制』參照

新內閣は、『調節の爲めのクライシス』を經過する方が、『安定の爲めのクライシス』を經過するに勝れりとするものであらう。而して、其の『調節の爲めのクライシス』の强度を、成る可く緩和するが爲めに財政、經濟の緊縮を斷行すべしと爲すものと私は見る。私は、今の我邦としては、これが唯一の正しき方法なりと信ずるが故に、其意味に於いて——其意味に於いてのみ——新內閣の方針に、贊同せざるを得ぬものである。彼の一部論客の間に有力なる平價切下げ解禁論は、これに比すれば、遙かに劣れる方法と云はねばならぬ。其れは、當然經

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

可き苦痛を回避して、唯だ解禁の一事實現せんとするものである。(松崎大阪商大教授の有力なる批評參照) 經可き苦痛は何らかの形に於いて、必ず經ねばならぬ。これを回避することは、他日に禍根を胎すこととなる。要は、其苦痛を、我らの堪へ得る限度に、稀薄化し、一般化し、漸次化するにある。緊縮主義は、今の處其の稀薄化、漸次化の最も妥當なる方法であると信ずる。而して、其取扱如何によつては、必ずしも、失業の激増を來すことなくして濟み得ると思ふ。其詳述は、これを、他の機會に讓る。(四・八・十)

失業對策は何んでもない

武藤山治

失業！　失業の叫びは之を證驗したるものには最も強く響く。私が學校を出た明治十八年頃は學校卒業生の數も尠なかつたが、それ丈社會に其需要も尠なかつた。從つて學校を卒業して職を得ない惱みは當時も今日と均しく存在して居つた。勿論今日のように問題となるほどではなかつた。私は學校を卒業して直ちに苦學生として米國に渡つて勞働しつゝ勉強した。當時の米國は別して勞働者の樂園であつたが、それでも時々失業の惱みは日本より渡つた多くのスクール、ボーイを苦しめた。私はかゝる經驗を持つが故に智識肉體双方の勞働者の失業に向つては時に敏感である。大正五、六年頃擧世世界大戰爭より起つた好景氣に醉ふの時、私は態々時の寺內內閣の內務大臣たりし故後藤伯を其官邸に訪ねた。そして戰爭の終熄と共に來る反動時に對する失業準備として、戰時好景氣の間を限り雇主に利益金より一定の割合を戰爭終了後事業縮少の爲め解雇する使用人及職工の特別手當金として積立てしめると同時に、被雇者側にも好景氣の時期に於て受くる賃銀其他報酬中より幾分を積立てしむる簡單なる臨時の法律案を議會に提案せんことを求めたところ、故後藤伯は贊意を表せられたが、不幸にして寺內內閣は久しからずして總辭職をしたため實現しなかつた。斯くの如く私は常に智識及肉體勞働者の失業に對しては最も同情し、私が三十餘年間經營に當つて居る鐘淵紡績株式會社に於ては、規律を犯すものの外は如何なる場合に於ても、本人の意志に反して從業員を解雇しないことに定めて居る。私からそんなことを言ふと生意氣のように取られるかも知れぬが、若し私が世界大戰爭中、我國の政治經濟の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

指導者であつたならば、我國をして米國に重ぐ富み榮へる國たらしめ、決して今日のような所謂經濟國難は起らしめなかつただろうと信んじて居る。然しながら、吾々は過去を餘り多く語るべきでない。第一戰に破れた吾々は現在及將來に向つて陣立を改めねばならぬ、人間の智惠は無限である。神は如何なる難關に際しても吾々をして之を突破し得る力を與へ玉ふ。私は本誌の讀者が失業對策や昨今世上の大問題たる金解禁問題に就き暫く私の語るところに耳傾けられんことを望む。頃日民政黨內閣が出來て濱口首相初め井上藏相まで盛んに消費節約を宣傳せらるが、日本の政局に立つて吾々を指導する人々の餘りに智惠の足らないのに驚かざるを得ない。今日唯さへ不景氣失業に惱む我經濟界に向つて一國の總理大臣ともあろうものが、國民に向つて聲高く消費節約を叫ぶが如きは、病人の枕元へ來てお經を讀むのと同じく常識の存在を疑はざるを得ない。斯くの如き輕卒なる行動に出られるのは、全く濱口首相にしろ、井上藏相にしろ、嘗て一度も不景氣や失業の苦痛を體驗されたことがないからである。

濱口首相や、井上藏相の財政經財策は以前故井上馨侯爵が常に叫ばれた消極的節約政策であつて幸ひに井上侯は政府に立たれなかつた。從つて侯の意見は在野元老の一人として近親者の間に說き廻わられるに止まつて居つて大した害はなかつたが、今日濱口君や、井上君が臺閣に立つて斯んな馬鹿氣た故井上侯專賣の舊式消極的節約政策を勿體らしく宣傳し實行されてはたまらない。濱口君や井上君は一國の財政經濟を料理するに當り一家の經濟や、一銀行の整理のように手輕るく考へて居らるるようである、一家の經濟なら百圓の月給取りが百十圓の暮しをして居る場合に、十圓丈家計を縮少すれば直ちに辻褄は合ふ、一銀行の整理なら不良貸は切捨てる其穴埋めに限行の常經費は勿論配當も減ずるようにすれば直ちに整理は出來るわけであるが、一國民の經濟となると其影響の波及するところ廣汎にして、そう簡單には行かぬ。故に苟くも一國財政の局に當るものは、經濟界の實情を深く究めたる後其財政策に着手せねばならぬ。數年前に於て可なりしことが今日に於て可ならざることがある。恰かも病人で或時期に於ては或る程度の手術に堪へ得たものが其後衰弱して之に堪へ得ないことがあると同じである。濱口君は正直で眞面目な人格者であることは何人も異論はないが、其財政經濟に對する考へ方は故井上馨侯のそれに酷似して居る。井上準之助君に至つては唯銀行のことばかりが目先きにちらつくようである、それも良いとして今後井上藏相の採らるゝ財政策を察するに銀行の爲めを第一に考へて居らるゝようであるが、此政策を行つた結果、眞先きに最もヒドイ目にあわされるものは銀行家であろふ。曾て井上藏相は原、高橋政友會內閣の放漫なる財政策の支持者であつた如く今は濱口民政黨內閣の藏相となつて濱口君の極端なる消極的節約政策の實行者たらんとして居らるゝが、前回にはせめて相場師からでも賞められたが、今回は誰一人喜ぶものはなく、結局我國の經濟界に幾多の犧牲者をこしらへる丈けで、其結果經濟界に何等益す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るところなく、却て其進展を無益に遲延せしむるに止まるであろふ。斯く言へばとて、私は決して政友會の所謂積極政策なるものにも賛成するものでない。私の主張するところは積極的節約政策であつて、政友會の積極政策とも又民政黨の消極的節約政策とも大なる隔りがある。然しながら、日本現時の經濟界に於て、政友民政の兩極端政策が行はれて何れがより多く有害の結果を惹起するやと言へば、私は民政黨内閣の濱口首相の高唱せらるゝ幕府時代の水野越前守の行つた政治に類する消極的節約政策が遙かに有害なる結果を招來すると信ずるものである、

古い世界の歴史を讀むと其時代に於て政權を握り社會を支配する高き地位にあつた人々が、國の經濟や産業の實情に通じて、世に言ふ經國濟民の責務を全ふし得た場合が少なくない。古代埃及の如き西暦紀元前四千年、即ち今を去ること大凡六千年前の昔から、政治家は此國に一ヶ年を十二ヶ月とし、之を三百六十五日の日數に分つ曆道を採用し度量衡の如きも極めて正確緻密のものを用ひて居たほどで、國の政治に經濟に其規矩整然たるものがあつた。埃及には今も殘る「太陽神の殿堂」といふ大きな石造殿の遺跡がある。神殿を後部にしつらへ西面して石壁石疊の長い門道が設けてある、そして奇妙なことには年の内に唯一度日の光りが此神殿には入る、それは年中一番日の長い六月の二十日、日輪が沈む頃である。太陽の光線が此長い石疊の通路を射通して奥の神殿へとは入るのである。それを待受けて居る白髪長鬚の神官は神殿から丘の中腹へ出で來たり、其麓に待つて居る埃及の民衆に告げる。

「ナイルの河は唯今から水嵩を增す」埃及は人も知るナイル河の三角洲の廣汎なる流域にまたがる國である。毎年六月になると上流の山々に大雨が降る爲にナイルの河は夥だしく增して其流域に氾濫し出すと同時に、その廣い原野の灌漑を充分にする。此神官の布告を聽くと民衆は其原野に種子蒔を始める、夏の太陽の強い熱と土壤の充分な水分は埃及千里の廣野に忽ちにして穣々たる五穀を實らせる、斯ういふ規則正しい年中行事の裡に埃及の民衆は生活上大なる安定を得て偉大なる文化を築き上げたのである。

埃及には他國にないピラミッドやオベリスク尖塔の如き大建造物がある。その一を造り上げるさへ多年の日子を要する巨大な石造である。何故にかゝる世界無比な大築造が古代埃及で行われたのであるか、その理由を調べて見ると實に賢明なる理由がある。雨期に入つて他方に於ては其流沿によつて大洪水を起しその爲め失業する者が夥しい數に達する。けれども曆數に依つて、かゝる失業期の迫らんとするを知る當時の埃及政府は、六千年前の昔に於て今日の社會政策も及ばぬほど進歩した失業防止策を行つたのである。政府は逐年起工を要する公共用土木建築事業を豫定し置き、失業期の近きに迫る時、期を見て工を起すのであつた。斯かる政策の下に勞働者は常に失業苦に陷

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ることなく、一方の勞働より他の勞働に移り得て生活の安定を得て居たのである。

斯かる公共用土木建築事業には短期に竣工する、實用を主とする道路、運河、橋梁等を始めとし、或は都中の美觀を添へ都市の誇りとなる裝飾的建築や記念碑の類、さては壯大偉觀を旨とする國王の墳墓ピラミツトやオベリスタの如き多年の日子を要したものもある。如何に古代埃及の政治家達が獨り政治經濟の要諦に通じて居たばかりでなく、また社會政策の眞髓にまで觸れた行政をしたかが以上の實例に徴して知ることが出來る。

勿論私は古代埃及の政治家の財政經濟策を必らずしも全然可なりと言ふわけでない。今日の進歩した經濟智識から見れば幾多修正を要する點が多いであらうが、私が玆に之を引用したのは、政治なるものは唯一部の人々の爲めの政治でないことを示さんがためである。如何に良いことでも國民の大多數を犧牲にする政治は之を行つてはならぬ。濱口首相や井上藏相の實行せんとする消極的節約政策は實に我國に於て古來往々專制政治家が採つた急激な不經濟政策であつて幾多失敗の跡を殘して居るもので、其用意は六千年前の埃及政治家にも及ばぬことを示すものである。思ふに濱口首相や井上藏相の高く叫ばるゝところは眞に之を實行する勇氣や確信があるわけでなく結局徒らに世を騷がし財界に動搖を與へ、いやが上に不景氣を促進し失業者を增加するに止まつて何の效果も發生せず、一時の雷雨の如く消へ行くであろふ。

政治家が今日に於て第一に考へねばならぬことは社會全體を眺めて政治を行はねばならぬことである。井上藏相は銀行家あるを知つて國民あるを知らないようである。苟くも世の中を公平に富み榮へしめようとする者は眞先きに社會に失業者を生ぜしめぬよう工夫せねばならぬ。社會の總ての人々を立働かしむる機會を與へる方策を案出せねばならぬ。現代の要求する政治家は實に斯如く考へ之を實行する智識經驗を有するものである。昔彼の有名なる米國のベンヂヤミン・フランクリンが英國の產業視察に出掛けたことがある。其時彼は從僕とし一人の黒奴を伴ひ各都市を歷訪し到る處の工場や職場にも此黒人を伴ひ詳さに方々の視察を濟ましてロンドンの宿屋に共に歸つた。その翌日フランクリンが黒奴に向つて「何にか面白いことがあつたか」と質ねると黒奴は呆氣にとられたといふ目付きをして「全く驚き入つた國で御座ります、此國では何一つ活動せぬものはありませぬ、水も働らけば、煙も働らき馬も牛も犬までも働らく、男も女も子供も働らいて居る、たゞ働かぬは豚丈けです、豚は何の働きもせず唯飲み食ひしてゐる。英國の有閑階級とは此豚のことを申すのでありましよう」と答へたと傳へられて居る。失業對策は世に失業者なからしめん爲に出立せねばならぬ。失業者を生む財政經濟政策は之を實行する前に他に之を避くる方法なきやを考へて見ねばならぬ。私を以て見れば今日我國官民の頭を惱ますものは洵に些細なことである、此些細な事が或

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る人々には何か急に起つた一大事件の如くに錯覺せられてゐる。それは金解禁問題である。金解禁問題が左程重大視せらるゝのは、國際貸借上我國が壹億圓乃至壹億五千萬圓每年外國に對し借勘定になるからである。そこで、之を神經過敏に考へて何等對策を練る餘裕のない人々は、濱口首相や井上藏相のように騷ぎ立てるのである。濱口首相や井上君のような考へ方なら、何んの智惠も要しない、恰かも會社が利益が減つた使用人の給料や職工の賃錢を減らせ、重役も自働車を止めて電車に乘れと專ら消極的節約を强行する會社經營者のようなもので現代では經營能力ある會社の重役はこんな風に考へない、利益が減れば直ちに機械の改善に着手する、使用人や職工の勞働能率を高める工夫を廻らす、そして手もなく失はれんとする損失を恢復するのである。私は私に與へられたる紙面に限りがあるから、充分なる說明は與へられぬが、國際貸借の壹億や壹億五千萬圓借りになるからとて我國民は引込思案に捉らわれてはならぬ。況んや政局に立つものは經營能力ある會社の重役の如く此國際貸借の不足を相殺するため國民の間に多くの失業者を出したり又は無數の人々に死に近い苦しみを與へるような消極的節約政策に出てはならぬ。若し私が今日の政局に立つならば濱口君や井上君の行方と全然違つた途を步む。私は第一には國民に向つて次のやうに聲明する。私は國民に何等の苦痛なく金解禁する方策を立てた、それは數年間に壹億五千萬圓丈輸出を增進して對外貸替を自然に恢復せしめる考案である。私の案出せる方法とは蠶糸業の改善及發展である。今外國に輸出する生絲は七億二、三千萬圓であるが、私は其生産高を最初の五年間に壹億五千萬圓增加する、次の五ケ年間に又壹億五千萬圓增加する、我蠶糸業は幾多改良進步の途があるが、第一に蠶を年四回より取らぬ、是れは誤つた古い因習である私は之を年八回に增加することをスヽメる、此事は我官民が協力すれば容易に其目的を達し得ることである、我國には未だ充分に耕作されぬ荒野が幾萬町步も橫わつて居る。大隅一國丈けでも壹萬町步以上もある。假りに參萬町步の原野を桑畑として蠶を年八回取り之を生糸に製造すれば壹億五千萬圓の生糸が出來る、而して其資本は四、五十萬圓もあれば充分だ。更らに壹億圓の生糸を絹織物にすると壹億五千萬圓に賣れる、壹億圓の生糸を絹織物にする織物の工場を建設する資本金は五千萬圓あれば充分だ。私は農林、商工兩大臣に命じて直ちに其準備に着手せしめた。私は更に鐵道大臣に命じて國有鐵道七千五百拾八哩の線路の兩側に桑樹を植ゑることの取調べを命じた。又宮內省に桑の栽培に適する御料地の拂下げを御願ひした。斯くて、此目的を達するため全國生糸及絹織物業者諸君は勿論其他全國民の熱心なる協力を望むと一々細かに數字や事實を基礎として國民に私の計畫を信賴せしめ政府の提案を共鳴援助せしむれば、恐らく今日我官民の頭を惱まして居る金解禁問題の如き夢と消へるであらう。吾々は年々百五十萬人づゝ人口が增加する此國に於て、濱口君や井上君などに國民經濟、國民生活にまで立入られ消極的節約を强ひられては、たまつたもので

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ない。私は我國民の生活を維持し尙大に進めるには、一に積極的經濟政策に出でねばならぬと主張する。私は政友會内閣の不經濟なる積極政策も非とするが、民政黨内閣の好んで貧乏になる消極的節約政策も排するものである。私は失業の根本對策として民政黨の消極政策を斥け積極經濟的一大活動を我國民に勸告するものである。若し幸ひに私の勸告する如く我官民が擧つて國際貸借改善の爲め蠶糸業の改良發展に着手すれば全國の農村は直ちに工業化する。一度農村が工業化して各地に蠶糸業が發展すれば農村が富むのみならず、今日僅かばかりの都會の失業者は一擧にして之に吸收され猶不足を告ぐるだらふ、壹億圓や貳億圓の國際貸借問題の如きは過去の昔話となるであらふ。

猶最後に學校卒業生や智識勤勞者諸君に向つて私の經驗を述べ一言注意したい。是等の人々の多くは皆其就職口を事務所に限るように考へて居るところに大なる弱味がある。私はアメリカから歸つて直ちに東京の銀座で廣告取扱所の看板をかけた、それは米國で廣告取次が一つの仕事となつて居るのを見たからである。最初は微々たるものであつたが、それでも當時月五十圓の收入はあつた。今日廣告取次業は一大事業となつたが、蓋私が我國で廣告取次業を創めた元祖であらう。學校を出でて事務所をねらふなどは小さい途へ進むので、事務所以外の廣大なる仕事は卒業生や智識勤勞者を待つて居る。私は時々智識があつて就職口に困る人々に助言して同志會出版の私の著書を賣り步るくことをすゝめる、そうすると、初めは贊成して一日に二圓や三圓を稼ぐことは六かしくないが一ヶ月か二ヶ月すると、事務所入りをねらつて之を辭めるものが殆んど全部である。そこに學校卒業生や智識勤勞者の失業する原因がある。月給取は樂で立派な事務所の中で仕事をすると何んだか權威があるように思ふようであるが、よく考へて見ると、其事務所は他人のものである、それを悟れば、事務所なくして稼ぎ廻るも何んの恥づるところはないのみならず、他日屹度自力で事務所を建てる位の自信を持たねばならぬ。昨今不況で銀行會社へ採用せられぬのを幸ひ、學校卒業生や智識勤勞者は街頭に突進すべきである、神は自ら助くるものを助ける、私は智識階級の失業は一度心掛を轉ずれば容易に突破し得ると信んずる。

無代進呈
無努力簡易　禁煙法
煙草さへ癈めれば胃腸は强健、體重が二三貫目も增し不眠症神經衰弱等はケロリと治るが、仲々煙草は癈め難いものである。然るに今回東京市京橋區常盤町二、グランド社では無努力簡易の禁煙法を發見して無料で敎へるから希望者は雜誌名記入同社宛て申込むがよい。

るような消極的節約政策に出てはならぬ。若し私が今日の政局に立つならば濱口君や井上君の行方と全然違つた途を歩む。私は第一には國民に向つて次のやうに聲明する。私は國民に何等の苦痛なく金解禁する方策を立てた、それは數年間に壹億五千萬圓丈輸出を增進して對外債權を自然に恢復せしめる考案である。私の案出せる方法とは蠶糸業を望むと一々細かに數字や事實を基礎として國民に私の計畫を信賴しめ政府の提案を共鳴援助せしむれば、恐らく今日我官民の頭を惱まして居る金解禁問題の如き夢と消へるであらう。吾々は年々百五十萬人づゝ人口が增加する此國に於て、濱口君や井上君などに國民經濟、國民生活にまで立入られ消極的節約を强ひられてはたまつたもので

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

失業者問題の對策

鈴木文治

一

最近――特に濱口內閣の成立と共に、失業問題は朝野各方面に異常の注意を喚起し、新聞に雜誌に、稀に見る熱心と眞面目とを以て論議せられ始めた。

今や失業問題は我國最大の社會問題であると共に、政界隨一の中心問題となつた。

併しながら、失業問題は最近に重大化したのでもなく、亦民政黨の緊縮政策の結果初めて發生する底のものでもない。すでに玆數年來、失業問題は非常に重大化し、差迫つた問題となつて居たのである。然るに我國の政治家、資本家階級は知つてか、知らずしてか、殊更に目を覆ふて問題を正視しなかつた。我等は普選第一回の總選擧に帝國議會に議席を占むるや、直ちに西尾末廣君を壇上に送つて政友會內閣の失業對策を糺したのであつたが、時の內務大臣鈴木喜三郎氏は、全國に職業紹介所を設けて失業解決に當らしめて居るとのみ答ふるのであつた。これは全く答辯になつて居ないのみならず、その無知無策到底局に當る資格なき事を暴露したに過ぎない。

然るに英國の如きは、大正十二年保守黨が倒れて勞働黨內閣の成立の使命は失業對策問題であつた。又今春の英國總選擧の選擧題目は正に失業對策であつた。我等は我國の政變の動機、選擧題目と比較して、實に何時の日か我國の政治も本調子となり、眞面目に、國民生活の根幹に觸れる政策問題を中心として動く樣にならうか私かに嘆じて居たのであるが、今や我國にも、漸くにして、その時が廻つて來た樣である。失業問題が今程眞劍に論議せられた事は未だ曾てない。此の分で行けば、――若し民政、政友が眞に本氣で政治を取扱ふ決心をするならは――失業問題を中心として來議會の解散があり又は、民政黨內閣が倒れたりするやうな本調子の政治が見られるかも知れぬ。失業問題の深刻化は憂ふべき事なれども、政治の生活化は慶すべき事である。

二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

會に議席を占むるや、直ちに西尾末廣君を壇上に送つて政友會内閣の失業對策を糺したのであつたが、時の内務大臣鈴木喜三郎氏は、全國に職業紹介所を設けて失業解決に當らしめて居るとのみ答ふるのである

の深刻化は憂ふべき事なれども、政治の生活化に隨ふべき事である。

二

私は本小論文に於て『現下の時局に處する失業對策』を論究する積りだが、それに至る迄に、先づ、觸れて置くべき二つの問題がある。一つは『現下の失業問題を如何に認識するか』と云ふ事であり、他の一つは、出來心的對策を排するために、『失業問題の一般方略中、如何なる方策を適用すべきや』と云ふ事である。若し問題の認識を誤らば適切なる解決法の生ずる訣がなく、若し又系統的考察になる對策を講ずるに非ざればそれは場當り的であつて、目先の問題の解決を困難ならしむるのみならず、延いて將來の對策をさへ紛亂せしめる恐がある。

序に一言すべきは失業計畫の點である。失業計畫は全く困難なる事業である。然かも我國には殆ど全く、失業統計と稱すべきものは見當らない。或は曰く、失業統計がないから對策の立てようがない。對策樹立の前に先づ失業計畫であると。然し、論者は如何にして失業計畫を行はむとするのであらうか。失業計畫の最良機關たる失業保險の實施がなく、國立職業紹介所の全國網がなく、勞働組合の公認さへも行はれて居ないではないか。問題は反轉せらるべきである。先づ失業保險を實施せよ、然らば失業は計畫せられむ。先づ對策を樹てよ、統計は從つて生れむ。我等は斯く叫ぶものである。

三

現在の失業問題は極めて複雜して居るが、普通失業の原因として擧げられる經濟的變動、季節的變動、期限付事業の終了、經營管理法の變遷、產業政策の影響、等の諸原因は殆ど餘す處なく完備して居るといつてよい。從て其の失業の影響の及ぶ處は一部勞働者のみに止まるに非ずして、社會方面の勤勞階級に極めて深刻に喰入つて居る。換言すれば、全國的全面的失業であると云はねばならぬ。

然らば之れに對する對策の如きも決して單純なるものではあり得ない筈で、必ず全面的根本對策を必要とするや明かである。

大正九年春の反動以來、經濟界は周期的變動の不況期に入り茲に約十年に及ぶが、十二年の大震災、昭和二年の銀行動亂等を經て、財界は益々惡化し、好轉の曙光をさへ望み難い。之の經濟的不況のために如何なる產業も全面的に打擊を受け、失業は都市農村に溢れて居る。然るにこの狀態が長期に亘り漫性的になつて居るが故に、見識なき我國の支配階級は、之れを以て失業常態の如く見なし、殆ど何等の關心をも持たぬげである。さればこそ、現内閣の如きも、若し失業問題が重大化する曉には云々、と云ふ如き事を囈くのである。失業は今後に起り、又今後に重大化するのではなく、すでにすでに重大化せる事實に目醒めなければならない。

近年諸外國に於ては產業合理化が高唱せられ且つ實行せられて居るが、之れが我國に輸入せられては、合理化の眞精神を把握することなく、これを以て直に經營難脫出の具に供し、重役管理者の經營の拙劣を棚にあげ、その尻拭ひとして勞働者が馘首せられて居る。即ち產業

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

合理化による失業者問題が之れである。

毎年冬期には屋外工事が少くなるので自由勞働者が失業する。之れ即ち季節的變動による失業であるが、之れとてもすでに四ヶ月の後に迫つて居る。

尙明年三月限りで復興局は廢止せられ、約二千の從業者が失業界に抛出される。期限付事業の完成による失業とは之れである。

復興局は帝都失業界の安全瓣として、多くの自由勞働者に職を與へ或は此事業に對して材料工具等を供給する人々に生活資料を保證して居たのであるから、其の廢止による影響はただに官吏、定傭者の失業のみに止まらず相當廣汎圍に及ぶものと思はれる。

以上は田中内閣が存續しようが、濱口内閣の出現とならうが、そんな事には關係なく現はれる失業である。然も之れ丈けで問題は充分に複雜であり且つ重大化して居るのである。更に、濱口内閣の成るに及び、金解禁を中心とする緊縮政策が聲明せられ、すでに其實行に着手せられた。

金解禁の準備と云ふ點より見るも、緊縮財政と云ふ點より云ふも、期する處は通貨の收縮、物價の引き下げである。啻に國家公共團體のみならず、民間の整理緊縮をも、徹底的に斷行せむことを提唱して居るから、その必然の結果として極めて大がかりに失業者が續出するものと覺悟しなければならぬ。換言すればさらでだに重大化し複雜せる現時の失業問題に民政黨は更に拍車をかけて一層の危機に追ひやつて居るのである。現下の國勢上、どうしても金解禁、緊縮財政が必要ありとすれば同時に如何なる犧牲を拂つても失業問題は解決すると云ふ決意と準備とを持たねばならぬものと考へる。

上述の如く、今や失業の諸原因が完備して居るのであるから、常に最も失業しやすき自由勞働者は固より、一個の技術者と目すべき工場の熟練職工も、知識階級も、更に進んでは農民、小商人、小工場主の如き、謂はば小企業者である人々も全くの失業、又は失業的苦難に沈んで居るのである。純失業問題としてはその對照として賃銀勞働者を取扱ふのであるが、現下の時局に處する政治問題としては知識階級者の失業、乃至は中少數工業者の失業的破滅に迄も考へ及んで對策を講ずべきものと信ずる。

四

現下の失業問題を右の如く視る時は、その對策も亦、全面的に一切の方策を盡して、之れに當らねばならぬ事は明白であらう。

從來の内閣が施設したる處は、僅かに多期六大都市に於ける自由勞働者の失職を救ふ土木事業と二百四十の公認職業紹介所の設置に止まり、殆んど何等の對策なしとも云ふも可なりである。

前者は限定せられたる地域に於て、季節的變動による失業者それも少數の自由勞働者のみの一時的救濟策であつて[illegible]

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る上に連絡統一が極めて不十分であつて、從つて、能率が十分上つてをらぬ。失業對策としては、職業紹介所さへ設置すれば、能事了るかの如く考へて居る識者(?)もあるようであるが、職業紹介所は文字通り紹介所に過ず、仕事を作り出すことは出來ない。一方に仕事があつて人を求め、他方に職を求むる人のある時、その中間に立つて勞働の需給を調節し、その移動を圓滑からしむるが職業紹介所の任務である。然も現在の紹介所はよく十分にこの大役を果しつつありとは認め難い。

然らば濱口内閣は如何。公式の發表には未だ接せぬが、時折新聞紙に現はれる處を見れば、失業問題が重大化する曉には、昭和四年の實行豫算緊縮によつて捻出せる財源の一割、及純失業救濟のためにする地方債を財源として六大都市並にそれの屬する道府縣に限つて公營事業を起さしめ、勞銀の半額は國庫負担とすると云ふ。この策は確に歴代内閣より一歩を進めたものと云ひ得よう。しかしそれは掛値なく只の一歩である。若し此れのみが濱口内閣の失業に對する唯一最高の對策なりとすれば彼も亦時勢を知らざるもの、問題を解決する資格なきものと云はねばならぬ。

冬期に迫る季節的失業、緊縮政策、物價の低落に加速せられて續出する失業、復興的廢止に伴ふ失業、此等直ちに目前の急に應ずべき應急的手段が必要であると同時に、之の重大なる機會を何よりの機縁として、失業に對する根本方策を樹立して、將來に備へなければならないのである

五

我等は、全面的對策の必要を痛感するが故に一先づ失業の一般方略の考察より出發しよう。說明の必要はないから次に列記する。

一、失業者救濟策、
(イ) 失業中收入を補助して弊害を緩和するもの
　　失業保險、失業恩與金、解雇手當
(ロ) 失業者に仕事を與へるもの
　　公營事業、勞働殖民地、海外移殖民
(ハ) 勞働移動並に轉職に便するもの
　　職業紹介所、職業補導
二、失業防止策、
(イ) 勞働人口を縮少するもの
　　養老年金制、義務教育年限延長
(ロ) 勞働時間を短縮するもの
　　八時間勞働制、失業分配
(ハ) 經濟的變動を圓滑ならしむる策、
　　景氣抑制策、不景氣脫出策
三、失業根治策。
(イ) 社會主義の實行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

(ロ) 勞働權の確立

ざつと右に、目ぼしいものを列記して見たが、從來我國の爲政者が施設したのはその何れの部分であるか、濱口現內閣の企圖せるはその何れに屬するや、思ふてこゝに到れば其に失業問題に對しては何等見るべき施設の行はれなかつたことを知るであらう。

失業が人間社會に存在する如きは人類の最大恥辱である。之れを人間界より一日も早く驅逐せねばならぬ。然るに失業は資本主義生產組織の特產物であるから、資本主義の存續する限り、失業を根絕することは不可能である。我等は失業根治策の實行を誓ふものであるが、今直ちに之れが實行に着手しがたいとすれば、救濟策と防止策とが殘る。上來度々全面的對策と云ふのは、前表第一及第二の各項に亘りて、必要なる對策を並べて實行する事を意味するのである。

六

失業問題が現在程深刻化したることは曾てない、又失業問題が今程眞面目に論議せられて居る時はない。この時にあたり、濱口內閣は正に根本方策を樹てて失業に對すべきである。區々たる近視眼的糊塗策に終始して大局を誤つてはならないのである。

我等は現下の時局に際し、一日も早く實施すべき根本策として左の數項を提示する。

一、失業保險の實施

失業中の弊害を緩和する方策として失業保險にしくものはない。國營の强制保險とし、適用範圍を廣汎ならしめ、給付金額、給付期間を適正にして眞に時代の要求に適合せしむべきである。

二、失業基金制の確立、

失業者救濟には金を與へるよりも、仕事を與へる事の方が大切である。

失業者救濟の必要が起る時機は、卽ち經濟界の不況時代にして、整理緊縮財源涸渇と云ふのが常態である。之の時に當り事業を起して失業者を救濟せむとすれば、國家又は公共團體が自から之れに當る他はない。而してその經費は原則として國家が負擔すべきものである。我等は公營事業の財源として平日歲計剩餘金の中より一定率の金額を積立て、之れを特別會計として、その運用を特別委員會に附托する。特別委員會は、從來見る如き非實際的のものではなく政治家、學者、勞働團體、無產政黨等各方面の達識者を集めた極めて實際的なものとする。そしてただに基金の運用のみならず、事業の選擇、施工の監視にも當らしめる。かくすることによりて折角の失業救濟事業が一黨一派の黨利黨略に利用せらる事を防止する。

三、國營職業紹介所の全國網完成、

一國の隅から隅迄の勞働需給狀態を詳かにし、連絡統一の上に能率を上げ、勞働移動を圓滑ならしむるためには、國營にまさるものはない。せめて一日も早く全國主要の地には國營紹介所の全國網を完成し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なければならない。殊に失業保險を實施するとせば職業紹介所にその姉妹機關として必ず完備が必要である。

四、八時間勞働制の實施

勞働時間の短縮は失業防止の有力なる方策である。我國も何時迄も特殊國の恥を曝すことなく國際的に認められたる勞働時間——一日八時間一週四十八時間制を法定すべきである。若しこの勞働時間制を斷行するならば消化し得る勞働量は非常なる增加を示し、產業能率も亦伴ふて必ず向上するであらう。

八時間勞働制の强制は、時に知識階級の勞働量調節に有効にして彼等の失業防止に役立つことは疑を容れない。

五、養老年金制の確立、

仕事量と勞働人口とを調和せしむるために、勞働人口を縮少する事も極めて有力なる失業防止策である。老勞働者は人一倍失業の危險に瀕して居る。若し彼等に生活の保證があるならば、よろこんで勞働界より引退するであらう。彼等が引退すれば勞働人口は減少して失業は防止し得るであらう。然らば如何なる手段に依つて老勞働者を引退せしむべきか、それは國民養老年金制を措いて他にはない。

養老年金制は失業對策とは關係なくも、それ自身單獨にて重大なる意味を有する生活安定策であるが、我等は之れが實施を要望する。

六、義務教育年限延長、

これも前項同樣、單獨にて重大なる意味を有するものであるが、失業防止策としても少年少女の勞働界入りを遲らせ、從て勞働人口を減少せしむる効果あると同時に、少年少女に教養を深からしめ、職業補習の時間を與へ、他日彼等が勞働界に立つ時、熟練工たることを得せしめて失業の危險より彼等を保護する事となる。

七、產兒調節

說明する迄もない、全國民を擧げて適當に產兒の調節を計るべきである。このために爲政者は問題を正當に理解し親切に國民を指導すべき事が何よりも急務と確信して疑はぬ。

以上述ぶる處は根本方策である。然も永遠の將來に實現を望む理想案ではなくして、今日直に實行に入るべき諸案件である。現內閣にして若し、眞に失業問題解決に誠意あり、國民生活に忠ならば直に立案して來議會に提案し、その通過のために努力すべきが至當である。併しながら失業の怒濤は此等根本策確立の日を待たぬ。日一日と急迫は深かまさつて來るか故に、現下の時局に處すべき應急方策として次の手段を勸めたい。

七

一、昭和四年度實行豫算の編成がへによりて得たる節約額約九千萬圓を財源とし、責任支出の方法によつて純失業救濟のための公營事業を起すべし。六大都市及それが屬する道府縣等と地域を限定する必要なく、又豫算の款項目外の支出を云々する必要もない。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

事業の選擇も必ずしも土木建築植林とのみ限らず、官公署使用の機械器具物件等の註文を發して製造せしめる事も必要であらう。

公營事業は文字通り國家又は公共團體の直營とし、其間請負業者を介在せしめてはならぬ。

二、職業紹介所の組織及機能を改善し、連絡統一の最善を期して勞働移動を至便ならしむると同時に、勞働條件、勞働環境等に就いても立入つて保護の道を講じ、移動勞働者には旅費を支給し、船車の特別便宜を取計ふ必要がある。

三、緊縮政策の結果、經濟的不況が一層深刻化し、有用なる產業にして倒壞に瀕するものが出づる曉には、國家は進んで之れに援助を與へ或は國家管理に移してでも失業を防止するとに努むべきである。

四、中小商工業者に對する資金の融通は此際思ひ切つた便法を採るべきである。從前行はれたるものの如きは非實際的にして殆ど役に立たなかつた。若し、眞に効果ある方策を實行せむとするならば國家保證の手段に依り、特別融通を斷行し、彼等の失業的破滅を救ふべきである。

五、復興局廢止後、東京市は自らその事業を繼承し、燒失區域外にも區劃整理、都市計劃の案を立てて、假令へ小規模なりとも、絕へず事業を行ふべきである。

此等目前急に應すべき對策を講じつつ、他方上述せる根本對策を具體化して實行に移し、完全に失業に對する社會施設を整備すべきか、現下の局に當る爲政者當然の責務なりと信ずる。

八

此を要するに現下の失業問題は全國民的失業の問題である。區々たる應急策は遂に畢竟一糊塗策に過ぎない。根本的に失業對策を講ずると共に、全國民を繁榮に導くことを必要とする。これには產業政策、財政々策が時弊に適中すると云ふ事が絕對に必要である。此點に於て民政黨の政策は遙かに政友會のそれに優るものあるを認めるに吝かでない。だが併し、何れも資本主義組織の支持されたる事に於て何の相違もないから、根本的失業對策の實現は遂に不可能と諦めるしかない。

失業者にして、最も救濟しやすきは自由勞働者である。次に熟練工である。而して最後に知識階級である。彼等をその熟練、技能を充分に振ふ適所に置いて、彼等の失業を救濟せむとすることは殆んど不可能事である、

失業救濟と云ふことよりすれば、そこに必ず幾分の不自然現象がゐるを免がれない。腕のある仕上職工が道路掃除人夫となつたり、中學教師が寫字工となつたりすることのあるのもやむを得ざる現象である。夫は同時に失業救濟事業なるものが一時的救濟の性質を帶びるものなることを表明する。すべての人が其の適所に就き、安んじて業務にいそしむ事を得しむるはすでに失業問題の域を脫して常態に復することを意味する。

玆に於て思ひを廻らすべきは、失業を防止せずして失業者救濟に無駄骨を折ることは愚の骨頂であり、更に、失業を根絕する事をせずして失業防止に血眼となるは未だ策の至らぬものであると云ふ事之れである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

劍法の起原

直木三十五

一　流布本の價値

日本の劍法が、單なる鬪爭的技術から、一つの「道」にまで到達したといふ事は、世界に於ける武技史上の特異な事で、もう少し研究されていゝと思ふ。

流布されてゐる二三の書に於ける、劍法の起原と發達の徑路は、餘りに簡單でありすぎ且つ誤が多すぎる。唯一の信頼すべき書、山田次郎吉氏の「日本劍道史」さへ、この項目の爲めに九頁しか費してゐないし「武藝小傳」は、傳説そのまゝを採用し、擊劍叢談」も、この爲めに七八百字を使用してゐるのみである。

そうして各書共「甲陽軍鑑」をそのまゝに信じ、謙信流を疑はず、山本勘介を俗説のまゝに採用し「あいす陰流」の起原に定論無く、讀んでこれを疑へば、限りなく信じえられない物が現れてくる。

荻生徂徠は「鈐錄」に「當代諸家の軍法といふもの（略）多くは寬永末より寬文の頃迄の人の增補したる物なり（略）畢竟、信玄、謙信二流の外に不レ出、其二流といふも、實は小幡、北條、山鹿、朝倉が流儀にて二公の流には非ざる故」と、書いてゐるが、これは劍法書へも當て嵌めていゝ言葉である。

流布本の信用程度を試みるために假りに、山本勘介の例をとると、劍法史上、勘介は「京流」の達人といふ事になつてゐる。これの出所は「甲陽軍鑑」であるが、軍鑑以外に、勘介の武術者として名の出てくるのは「武功雜記」のみである。史家はこの書を軍鑑よりも信じて同書の一節

「川中島合戰の時、昌景より勘介を斥候につかはし、歸つて山縣に物の云ふ體を、信玄御覽、あれは何ものぞとありしに、あれは山本勘介とて、三河のものなり、口才あるものとて山縣扶持し置きたりとは申したりといふ」

を以て、山本勘介の正體なりとし、彼が根本史料に少しも出て來な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

い故を以つて「軍鑑」の勘介は、軍鑑の作者が作上げた人物と論じてゐる。これは「軍鑑」といふ書が、高阪彈正の名を籍りて、實は小幡景憲が、自分に都合のいゝやう書いたもので、その史料的價値は信じ得られないから、尤もな次第である。

然し乍ら「武功雜記」には、もう一つ勘介の話が出てゐる。それは、上泉信綱が、東國へ戻る時、三河國牧野氏の所で、勘介と試合して、大いにこれを破り、その爲め勘介は流浪して甲州の方へ赴いたといふ話である。

信綱が、京都を出たのは「言繼卿記」に、明記されてゐる如く、元龜二年の夏であつて、川中島一騎討戰は、永祿四年、丁度十年前に、戰爭が済んでしまつてゐるから、この勘介は別人か、或は戰爭當時は武田家にゐたが、その後三河へ戻つてきたのか？　同一書に、こういふ矛盾さへあるからこういふ傳記的人物の研究になると、専門史家さへ、考察の不足を示してゐる。

諭んや、文を知らない武人間に、云ひ傳へられたまゝを書かれた書が、何の程度に信用できるか？　往古は勿論、近世になつてさへ、眞相の判らない事が可成りに多い。從つて劍法の發生についても私は、まづ史料によらず、他の方法で考へて行つて、やゝ正確「らしき」結論を、示してみたいと思ふのである。

二　刀劍の變遷

人間が、刀をもつて、人間と爭つた翌日又は、その夜、或は二三年の後、多分、劍法らしきものは生れたであらう。と、こう想像してゐる事は、無理な推臆でない。從つて、刀が發明されて暫くの後に、刀法の原始的型式は生じたであらうと――。こういふ結論は、一體何らであらうか？

こう、結論して、では、刀のある所に必ず劍法ありやと、四方を觀みると、アイヌに、ネグロに、ホツテントツトに、生蕃に、刀はあるが、刀法があるか？　いや、こういふ未開人でなく隣邦の文明國、支那にさへ優れたる劍法があるか？　あつたか？

少くも、存在を示しうる程度の、劍法、即ち刀の組織的攻防法は、可成りの文明をなする人間でないと發明できないし、これを必要と感ぜしめる適度の狀態がなくては發生して來ない。こゝに於て、吾等は粹派、器物作者はまづ劍法を生むべき刀といふものを考察して日本の刀劍の變遷に、日本獨特の現象のある事を發見しなくてはならぬのである、

「片薙ぎ」「片刄」から出たといふ「刀」といふ言葉が、日本の純粹語である如く、刀が全く日本獨自の産物であるといふ事は、古くから許とされ、唐人もこれを稱めて詩に唄ひ、近くは京大の近藤博士によつて、科學的にも證明されてゐる。が、刀が其處までになつた事は、一朝一夕の業ではなかつた。

外國の始と、悉くは、古代より現在まで一門して、突く劍法一つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

で、片刄の劍を使用して、やゝ斬るにも使つたのは、スカンヂナビアの後海賊時代と、アングロサクソン歩兵の短劍位のものである。そうして、支那に於ても又、その變遷は極めて少なく、刀劍に對しての研究は到底日本と比較できない。

それが日本に於ては——津輕半島の鐵字で發見された石刀に内反りのがあり、それから神武天皇熊野平定の時の寶劍、現在大和國石上神宮の神體である「フツノミタマ」も内反りである。即ち、日本の古代には、明かに内反り劍があつたのである。これが何うして外反りになつたか？ こゝを考へて見やうといふのである。

この内反りが、直劍となり、直劍が何うして、片刄となり、片刄が何うして外反りになつたか？ この變遷は、明かに刀に對する研究の結果を示してゐるものであつて、この刀に對する研究の變遷に、多少の劍法が伴つてゐたであらうといふ想像は、必ずしも、無謀な臆說ではないと思へるのである。

現存してゐる奈良朝前後の刀劍を見ると、諸刄の中身で、裝の刀である作、刄端が直角になつてゐる物、刄端が槍の穗先の如く尖つてゐる品、それから後世の如く、鋒子尖になつてゐる物と、明かに作劍上の過渡期と、その變遷を物語つてゐて、こゝに刀工と、下命者との、刀に對する研究の存在を明かに物語つてゐるのである。

そうして、それ以後次第々々に、諸刄の直劍が壓倒され、片刄の刀が勢力を得てきてゐるが、これは明かに、斬るといふ研究が、日本獨自の修練を經た結果であつて、一切の文化が、支那の模倣であるに拘らず、刀のみが特種な歩みをしてゐるといふ事は、甚だ愉快とすべき現象にちがひない。

大寶年間の大和國天國の作には未だ反りがついて無いが、大同年間の伯耆安綱、同眞守の作には、反りが現れてゐる。この反りの有無は、刀工の趣味で無く、反りが斬味の上に於て有功であると認めた結果であるが故に、この刀の變遷と共に、劍の法は、刀の法となりつつ、こゝに、劍術の芽が生れつゝあつたといふ事は、否定できない。

三　古代武人

では、一體、その劍法は誰の手で起されたか？ これは何うも武人によつてといふより外は無い。

古代武人は知る如く、隼人族から出た久米部、大伴部である。然し、彼等が武人であつた頃は、主として劍であつて——と、同時に、彼等は、勇であるが故に兵士を勤めてゐたもので、必ずしも強いから——、劍法上手だからのみでは無かつた。從つて、この武人間には劍法が有つたとも云へるし、又無かつたと云つて何の否定すべき證據も無い。蘇我入鹿の護衞兵を「健人」と云つてゐるが、古代武人は恐らく單に力を主としてゐたもので爭鬪技巧などは餘り考へなかつたものであらう。これは後世に於てでさへ、專門武人の間に、力は尊ばれたが、劍法は蔑視されてゐたのであるから、謂んや、往古、石拋、

弓矢の戰のみの時代に於て、爽の間に、氣の利いた劍法など有らう筈は無いのである。――と云つていゝ。

しかも、この兵士の素質は次の時代にすぐ低下して、八位以上の人は、代人を兵に出す事を許され「名是兵士、實同二役夫一」とか「兵士の賤、无レ異二奴僕一、一人被レ點、一戶隨亡」とかいふ言葉が殘つてゐるやうに、一種の奴隷で、みじめな下層生活をしなくてはならなくなつた。從つて、こゝに武を練るといふやうな心懸けと、餘裕とがあつたとも思へないのである。

そうして、宮廷の人々は、たゞ裝飾として劍を帶びてゐるのみで、殆ど實力が無く、王朝時代になると、護衞者として、必ず、地方武人の從者を借りなくてはならぬやうになつたから、こゝにも又、劍法は甚だ疑はしい存在になつてくる。

然乍らかくの如き時代であるに拘らず「令義解」の「軍防篇」は、明かに劍法の存在を示してゐて、次の如くに云つてゐる。「凡衞士者、中分一日上、一日下、每二下日一、即令下於二當府一教中習弓馬上用レ刀、弄レ槍」。又「享祿本類聚三代格」には「禁下斷兵士差二科雜役一」――右奉レ勅、番上兵士集二國府一――兼擊レ劍、弄レ槍――」と。即ち「用刀」「擊劍」の文字が示されてゐて、劍法の存在は否定すべくも無い。

だが――である。「兵士に雜役を差科する事を禁ず」と云つてゐるやうに、當時の兵は「同役夫」、人夫、百姓にすぎなかつたから――兵士がそう成るまでに武術が衰へてゐたのであるから、從つてこの令も出た譯で果して、何らいふ修練を、誰が教へるのか？ そもそもこの「令」そのものが、唐制の模倣で、こういふ風に制度を完備すればよいといふ立案のみで、どの程度實行されたか？ 實行されたとしてこの教習がいつまで續いて、何う發達したか？ 史上に於ては、いよいよ武備衰へて「今昔物語」にある郎黨の如きものばかりになつたのであるから。單にこの「令」の用刀といふ文字の存在のみによつて、劍法があつたとは論斷できない。

私は、刀の變遷に於て劍法の存在を肯定しながら、武人間の事を考へて否定したが、これは矛盾のやうである。然し、これは、奈良朝以前の戰の經驗が現存の奈良朝前後の刀に現れた譯で、奈良朝前後の遺物と稱されてゐても、それ以前の作もある。と同時に奈良朝前後の兵の、日傭人夫であつた事も又事實である。

こうして、鎌倉期に至るまで、戰と云へば、莊園のエキストラを使用し、常備兵が無く僅かに、親兵、太宰府の取締兵、三關の番兵士が常設してあつた位で、この程度の兵士に、兵備に、大した武技の起りやうの無い事は、後世の戰爭と劍法の關係をみるとよく判る。

四　支那渡來

こゝで一考してみるべき事は、拳法が支那から渡來して柔道になつた如く、劍法も又そうでないかといふ事である。

「擊劍の術」などといふ言葉は「史記」に出てゐるし、劍俠、劍客傳の

説は古くから支那にはいくつもあつて、古代支那に劍法の存在してゐた事を十分に證明してゐる。然し、一體古くから文字のあつた支那人は、十分に昔を語つて多くを殘し得た。劍の話だけでも、干將莫耶の外數十の劍話がある。それに較べると、文字の輸入の遲かつた日本は、餘りに傳へる物に余裕が無く、劍法も大いに有るにはあつたが、宮廷記事のみで既に一杯になつて、武技の末まで書き殘す余地が無かつたのだらうと——これは都合のいゝ理屈であるが、云つて云へない理屈でも無い。

「止戈正要」に「刀百濟國博士王仁所レ傳、而所レ云、持レ短、乘レ長、倏忽從横之術也、稱二平法學一」と、あつて、いさゝか支那渡來らしい傾を見せてゐる。これが事實か、何の程度の術か、全然不明であるが、よしこれを事實としても、支那から渡來して起つたものでないと云ふ事は前章の刀劍の變遷から立派に推論できるし、逆に、劍法は日本より支那へ輸出した歴史があるから大したものである。

「三才圖會」には「案使レ用、無レ如二倭子之妙一」と稱讚してゐるが、倭寇、八幡船の人々が、支那沿岸を荒すに、三尺の刀をもつてするに及び支那人はすつかりその妙術に感嘆してしまつてゐる。

「武備志」に曰く「茅子曰（茅子とは茅元儀の事である）武經總要所載刀凡八種、而小異者猶不レ列焉、其習法皆不レ傳、今所レ習惟長刀、腰刀、腰刀非二團牌一不レ用、故載二於牌中一、長刀則倭奴所レ習、世宗時進犯二東南一、故始得レ之、戚小保於二辛酉陣上一（正親町天皇永錄四年である）得二其習法一。

戚氏は、倭寇を平定しに赴いた大將であつて「異稱日本傳」には、この時の劍法を、上泉氏の「神陰流」だとしてゐる。こういふのは、支那との戰の都度現れてくるもので「兩朝平攘錄」をみると刀長五尺余、用二双刀一則及二丈余地一、又加二手舞六尺一開レ鋒凡一丈八尺、舞動則上下四旁盡白、不レ見二其人一」と。支那人一流の云ふ事が大きいが、大きく云ふだけ、日本の劍法を恐れてゐた譯で、これは同時に、支那人の劍法とちがつた、そうして、遙により以上の術であつた事を物語つてゐる證據である。

そうして、小笠原源信齋などは、支那へ逃れて、日本の劍法を擴めなどしてゐる事もあつて、支那渡來説は全然成立しないものとしていい。

五　手がかりの言葉

で、又日本のみを考察するとして、今度は記錄を調べてみる順序である。想像でなく、何かの手がゝりが殘されてゐるか、居ないか。古書を探求してみると……。

第一には「日本書記」の記事で「崇神天皇四十八年正月戊子、天皇勅二豐城命、活目尊一曰、汝等二子、慈愛共濟、不レ知二曷爲レ嗣、各宜レ夢、朕以レ夢占レ之、二皇子於レ是被レ命、淨沐而祈寐、各得レ夢也、會明兄豐城命、以二夢辭一奏二于天皇一曰、自登二御諸山一向レ東而八廻弄レ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

槍、八廻レ撃刀、」と、あるものである。

こゝに「撃刀」即ち、たちかき、といふ言葉が出てゐて明かに刀を取扱つた様を形容してゐる。然しこれを後世の如き、劍法の型を演じたとゝるか、たゞ刀を振つたとするか、一寸斷定はできない。然し、漠然としながらも何かの存在を包はしてはゐる。それから次は「懐風藻」であるが、大津皇子のことを評した中に「及レ壯愛レ武、多力而能撃レ劍」といふ言葉が現れてゐる。これも、前のと同じく、どの程度か判らないが、とにかく、日本に於ける「撃劍」といふ文字の最初であつて、こゝに何かの法のあつた事が示されてゐる。

そうして、この二つの記事のまゝで、奈良朝から、鎌倉まで、外に何の劍法上の記錄も無い。そしてこれは兵制の變遷戰爭の有無とよく一致してゐる。かくて、戰の盛んな鎌倉期に入ると、又現れて「保元物語」はこう書いてゐる。

「八郎（鎭西八郎爲朝）は、今年十八に成と覺ゆ、背は大也とも、未だ身の力はつのるまじ、筑紫生立の者、遠矢は射學び、大刀遣ふ様は知りたらん（略）はやをの若者共、これを聞、すは〱我等をすかし合、殺さんとし給ふは、弓矢取つてこそ能あらめ、打物道ふ事は、筑紫に聞ゆる肥後國住人、おいての大太夫則高、九國一番のもの切也、それに習うて、師には遥かに超過しておはすなる者を――」

打物つかふ、大刀つかふ、物切り、と劍法の存在を示す三つの言葉が出てきた上に、劍法の師のあつた事をも書殘してゐる

然し乍ら、こゝで考へなくてならぬ事は、「弓矢の譽」「薙刀の上手」「豪力無双」といふやうな言葉は、その實例と共に、しば〱軍談へ現れてくるが、劍法上手の功名譚が殆ど、出て來ないといふ事である。頼政、義家、與一等の弓矢の譽、一來法師、辨慶、景清の薙刀話など、多少お伽話もあるが、夥しい數であるのに刀上手に關しては、義經の鞍馬山の稽古切りで、それも後世の假作であるから、この爲朝の事以外、殆ど無いと云つてよく、そうして、當時の戰法から見ても、大刀は使ふ場合が少なかつたのである。

使ふ場合の少ないといふ事は、發達しないと云ふ事と同じで、南北朝に入つても、戰法に變化がないから、鎌倉と同じく弓矢話が重で、僅かに「太平記」は二つしか、劍法の存在を示してゐない。即ち「大塔六品親王は――打物は子房が兵法を得給へば――」といふのと「赤松が扇一揆の中より、長七尺ばかりなる男の――是は淸和源氏の後胤に、秋山新藏人光政と申者に候、王氏を出、離レ不レ遠、已に武略の家に生れて、數代只弓箭を把て名を高くせん事を存ぜし間、幼稚の昔より、長年の今に至るまで、兵法を嗜む事、隙無し」といふのとである。即ち、こゝに「兵法」といふ文字が「武略」と同じ意味に使用されて出てくるが、劍法が、鎌倉、南北朝を通して僅にこの二三の記錄に止まつてゐるといふ事に、當時の戰の重要部位が、弓馬戰にあつて、劍になかつた事を證明してゐるのである。そして、戰爭と共に發達すべき劍法が未發達であつたといふ事は、三段論法によりすぐ結論

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しうるのである。

六　劍法以外の武技

劍法に關した文字が、以上の如く少ないに拘らず、弓、馬、力競べといふやうな言葉は、大いに優待されて、無數の記錄に現れてゐる。神代の、千引岩をさげて、「然欲二爲一力競一」といふのを手始めに、力競べといふ事は、相撲節といふ儀式にまでなつて殘つてゐるのに、劍法が天覽になつたのは、やう〳〵元龜二年になつてからである。

古書から詮議に入ると「武藝」といふ字の多い「日本紀略」には「延曆十五年三月庚戌、令下諸國一擧中武藝秀衆者上」とあるし「延喜式」には「凡、近衞武藝優長」とあるし「續日本後紀」には「最長二武藝一」とあるし、その外いろ〳〵と、この字は現れてくる。

で、劍法も、馬術も、槍術も、角力もこの武藝といふ文字の中へ入れてしまつて、獨立して使用されてゐないかと云ふと、劍法一つを繼子扱ひにして、獨立させない外、凡そ他の武藝は立派に、その名で諸書に載つてゐる。これは云ふまでもなく、明かに劍法の未發達を語るもので、認められてゐなかつた證據である。

試みに「日本紀略」をとると「內裏召二諸衞步射已上東宮帶刀一有二賭射事一」と出てゐるやうに、劍法上の術語は、前章の如く四五にすぎぬが、弓の事は「騎射」「まゆみ」「うまゆみ」と同じ事を三通に云つたり「一二の矢」「丸矢」「答矢」「遠射」「指矢」「縱矢」「勝蹉矢」と、いろ〳〵の言葉がある。

然も「延喜式」などには、步射の上手には土地を賜るといふやうな令や、「日本書紀」の諸國に、射を習ふ所を築かせるといふ令や「騎射式」や、全く、いかに優待されてゐるか？　正月十七日の射禮など、一册の本になるだけの記事さへ殘してゐる。

これは獨り弓のみでは無い。馬術も又その通りであつて、四月二十八日には御覽駒式といふのがあるし、五月五日、六日の兩日には、天皇武德殿に御出ましまして、馬を御覽になるし「凡左右馬寮騎士、每寮十人」と云ふ風に、大切に取扱はれてゐて、弓に劣らぬ記錄がある。

相撲もまた、七月には、例として宮庭で催され、古くからあつたらしく「續日本紀」は「天平六年七月丙寅、天皇觀二相撲戲一」としてあつて、宮中關係の記錄七月の部には必ず出てくるし「內裏式」には、立派な相撲節儀の事が書殘されてゐる。

それに、劍法は、前章の如く、僅かに四五だけで、宮廷關係になると何一つ無いのであるから、刀劍は裝飾として使用され、實用品でかつたと云つても決してまちがひではない。

然し、武家の天下になつてからは、中條長秀が、足利義滿の師になつたといふ事が「武家評林」にある。だから、相當に認められたと云へるが――だが、である。

足利の制度といふものはひどく繁雜で、御酒奉行、茶湯奉行、これはまだいゝとして、厠の奉行をお栖淨奉行と稱したといふのだから、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

劍術に師を置き、兵法所を置く位何んでも無い。型式整頓の一部分だけであつて、この故にすぐ中條長秀の劍法を云々する譯には行かない。既に、とつくから弓馬諸禮式には、武田、小笠原の兩家があつたのであるから、劍法も事のついでに置かれた足利特有の繁雜制度の賜物としておいても差支へ無い。

七　武家の記錄

然し、以上は餘りに、宮廷關係のみであるから、武家の間に、何かの記錄が無いか、調べてみなくてはならぬ。そこで、例を鎌倉期に取り、その代表的文書の「吾妻鏡」を見てみる。

「仁治二年、將軍家若君御前御乘馬始也」といふのがある。その次には「文治六年、被レ遣二御書於下河邊庄司行平一、有二其召一、是依レ可レ爲二若君御弓師一也、若君、漸御成人之間、令レ慣二弓馬之藝一」とあつて、又、弓と馬とがしきりに出てきて、若君がこれを習ふが、一向劍法を習つたとは書いてない。

もう少し行くと「手跡、弓馬、管絃」とあつて、その後へ「郢曲以下」として、劍法は匂もしない。「可レ有二御弓始之由」とか「又於二御前濱一有二千番小笠懸一」とあつて、流鏑馬の流行をかいてゐるが、とう〳〵劍術の事は一つも出て來ないのである。從つて、若君が劍術を學んだと思へないし、學ばぬ以上知らないし、學ぶ者が無ければ發達する筈はないし、何うも弓馬に較べて、物の數でなかつたらしいのである。

たゞ一つ「愚管抄」に「手だれ」といふ言葉があつて、これを腕利の稱め言葉に使つてゐるが、これも劍法といふより「武藝達者」と解した方が正しいとすれば、とう〳〵鎌倉時代に、劍法に關した記事は、おいての次郎太夫一つ切りである。而も「保元物語」は、必ずしも信用できないし、この記事のある「白河殿燒打」が、史家に云はせると、決して物語の如くでなかつた——この主人公爲朝は物語の如く奮闘しなかつたといふのであるから、すつかり劍術の影が薄くなる譯である。

だが、念のため、もう一つこゝで想像を加へると——。一體劍法上の記錄は、足利末期になつても、あれ程盛大になつてからでも、殘り少ないのであるから、謂んやそれ以前に於て、よし可成り盛であつたにせよ、何が殘るものか？ 殘つてゐなくても、盛でなかつたとは云ひ得ない、といふ理屈である。

この理屈も一應尤もで、室町當代に於ても、國主、大名が戰場に必要な故に發明したものでなく、民間の人々の創成であるから、よし鎌倉にあつたにしても、記錄などに殘る筈が無い。そうして、中條長秀、尾伊手則高を立派な存在として認める事である。そうすれば、從來の劍法史の一部を肯定する事になるが、私はどつちかと云へば、これは一理屈のみであつて、矢張り、記錄に無いものは發達してなかつたと斷じて、まちがひは無いと思つてゐる。それは、戰の方法に關し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ての考方と、武士の劍法觀と、刀槍併敎といふ事と、三つの理由から主張する事が出來る。

八　戰法の變化

江戸時代になつて分業行はれ、武士の生活が安定され、劍術さへ學んでゐたら日が送れるといふ制度と、室町以前の武士とは、丸でちがつたものであつた。

古代武人の所で云つた如く、常備兵といふものが無く「前九年」「後三年」「天慶の亂」によつて、兵の必要を感じるまでは、戰と云へば、急に地方から下級民を徵集したにすぎなかつた。そして、戰の必要に迫られて軍法を學ぶやうになり、戰法に從つて、武藝が起つたのである。從つて、鎌倉初期には、何の劍法も無かつたと云つてい丶位で、劍法は戰法と共に消長があるとみていゝ。

上杉、武田が戰法を一變して、密集兵の突擊、橫槍、槍衾を發明するまでは、鎌倉、南北朝とも、弓矢戰が主戰であつた。そうして、多くの戰に出てゐる東國の人々が、馬を巧に使用した關係上、馬は重要となり、從つて記錄にも、弓馬が多くなつた譯である。

當時の戰は、遠矢から次第々々に近づき、射立てゝ退かせるか、接戰となれば薙刀、或は大將同志の一騎討程度でけりになつたのであるし、第一に當時の刀は、高價で、品が少なく、一般化するまでに至らないものでもあつた。

それから、もう一つは、槍も、薙刀も、刀も、法の如く使ふのは、道場のみであつて、いよ〳〵戰となれば、叩き倒す方が多かつたから劍術など學ぶ必要は無いと考へられてゐた。薙刀の廢たれたのも、密集部隊發明後で、それの突擊戰の時などに、水車の如く振廻されては、密集の意義を傷けるからで、槍の採用はその爲であつた。

刀もまた白兵戰が多くなり、安價に一般化されて、戰場使用になつたのであるが、それでも、槍には到底及ばなかつた。從つて、槍程必要視されなかつたが、少しづつは戰法の變化と共に增加して行つたやうである。戰國時代の戰法は、第一に弓銃線が、敵を威嚇しつゝ、擾の内に、槍隊を進ましめ、十五間となつて、まづ長柄隊が突擊し、その模樣を見て士槍が繰出して勝負を決したもので、刀の使用は、それ以上の惡戰、矢つき、槍折れてからの予備武器であつた。從つて、鎌倉期には發達せず、密集隊の肉迫戰の起つた室町時代に隆興した譯である。

だから、刀を主要武器にしてゐる者は、特殊な人に限られてゐて、力に任せて叩き倒すべく、福間三郎の七尺三寸、篠塚伊賀守の四尺[illegible]寸、稲津小次郎の六尺三寸と、南北朝に三四人の記錄はあるが、戰國時代になると、眞柄十郎左衞門一人位で劍法といふ技巧を必要とせず、士も兵も悉く槍を使つてゐた。

從つて未だ劍術の發達せずに、一口に「兵法」と呼ばれ「刀槍術一と稱され「兵法」が劍法の別名になるまで、可成りの時間を費してゐ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る。そして、劍法の流祖とされてゐる飯篠家直、松本備前、塚原ト傳、上泉信綱、悉く戰場では槍を使用してゐる。

「松本備前守——槍を合すに十三度、はれなる高名の首數二十五、並の首七十六——ト傳も鎗九度、高名の首二十一」といふ風で、上泉信綱も、長野家十六槍の一人と稱され、後上野國一本槍といふ感狀をもらつたなどと傳はつてゐて、戰場での用は、到底劍は槍程でなかつたらしい。だから、鎌倉南北朝期に大して記事の無いのも尤もである。

で、戰場での必要もあつたが、他に理由があつて盛になつたもので、それが、戰國當時の武將の下に起らず、郷士の手にのみ起つた理由になるのであるが、次からそれを說明して行きたい。

九　技術の輕蔑

「戰場の武士は、武藝知らずとも事すむべし、木刀などにて稽古するは、太平の代にては切るべき物無きにより、其切形を覺ゆるまでの事なり、戰場へ出る時は、始めより切覺えに覺ゆれば、自然の修練となるなり」

と「甲陽軍鑑」にあるが「蔽園秘錄」の

「戰場にて名を得れる物師、覺の者と云者、一人も、槍大刀の業の上手もたく、槍も大刀も只棒の如くに覺えて敵を叩倒すことなり」も同じ事である。一方劍客、民間に劍術が大いに行はれ乍ら、專門武士の考はこれであつた。

黑田長政の家來の野口一成が、一人の劍客と立合つたが、いきなり對手の木刀を左手で受留めて、右手で一打くれたから、劍客がそんな亂暴な劍術は無いと云ふと、戰場ではいつもこうだ。と云つたと云ふ話がある。鎧兜で身を固めた代物を、そう／＼斬る譯には行かぬから、叩倒すか、突き倒すのが主で、技術などといふ事は要らなかつたのであつた。

だから、ある流の劍術は、背にざるを入れて、對手にそれをなくらせつゝ、專ら下から股を突上げる稽古のみをしたと云ふが、こういふ物具で固めてゐない所でも覗はないと、尋常一樣では切れぬし、第一道場の一人々々の稽古と、いざ戰となつた時とは丸でちがつたものでもあつた。

戰場往來のさる老人が、若者のせがむまゝに、では見せやうと、槍を持つて馬上に、いよ／＼戰つて、槍を左右に打振ると、そのたび馬が、たぢ／＼としたと云ふが、この位の勢で戰ふものであつたから、竹刀で、お面などは、戰場往來の人々には馬鹿／＼しくて見てをれなかつたにちがひ無い。

從つて、劍法が發達してからも、戰場派と、技巧派との二つに分れてゐて、元祿頃までは大太刀が矢張り流行してゐた。この劍法輕蔑の思想があるに拘らず、追々盛になつたのは、流祖と稱さるゝ人々が、中々の人物であつた事と、呼吸切れのしないといふ事の判つた事と、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

武將連中の保護、奬勵と、平民の勃興とその發達とからであつた。

近代劍術が、武士階級に起らず、寧ろ、鄕士、豪族の手によつて起り、それから武士の間へ流布して行き、鎌倉、南北朝に大いに起らず室町時代に入つて、突如として隆興したのは、室町時代といふものに特異な時代相があつての事である。

十　劍法發生と鄕士

以上――劍法は、時々その姿を現してゐるが、殆ど他の弓馬等の武器に較べて物の數でない。これは記錄に止める程重要視されず、發達してゐなかつたからである。それが、室町期に入り急激な勃興を見たのはこの時代が、劍法を起すべき、諸原因を揃へてゐたからであつた。

「偏下者」「僭上者」といふ室町時代の造語の生れた時、野心、功名心に燃えてゐる青年、庶民は何を考へたか？

日本中は戰爭である。名も知らぬ奴が、いつの間にか四海を征服して、一國一城の主となつてゐる。それをみた性來の力强いものは勿論、力の無い者は、力となるべき技術を考へるのは必然であらう。ここに劍法發生、發達の原子がある譯である。

だが、その志を達する爲めには、故鄕に居たまゝでは不便である。こゝに始めて武者修業が流行しかけた。「武將感狀記」に「水野勝成、武者修業を爲したる時、佐々成政の備を借て居れり」とあるが、大阪役の先陣をつとめた水野勝成、明智光秀等、代表的の人物である。

これ程の人で無くとも、志を立てゝ、刀を腰に四方を步く事は大いに流行したが、この流行に際して一番携帶に便利な武器と云へば刀である。そして、當時に至つて可成り安價となり、可成り普及されてきた刀は、一家に、一人一腰づつと、圓本の如く、護身用、自衞用として、使用、携帶の便の上から全國へ著しき加速度で、擴まつて行つたのである。

この普及力は前後無比のものであつて、天正十六年七月八日に布告された「刀狩」の文書をみるとよく判る。「溝口文書」に、加賀江沼郡一郡の狩上數の記事が殘つてゐるが「刀千七十三腰、脇差千五百四十腰、槍身百六十本、からがい五百本、小刀七百」としてある。一郡でこれだけの刀數があり、槍に比較して何れだけ多いか？　これを見ると、劍法の起るのは偶然でない。

數多いと云ふ事は、やがて刀法の發達を爲すもう一つの因子でなくてはならぬ。そうして、槍を重んじ、技術を輕蔑する武士よりも、鄕士に多くの劍豪を出した原因でもある。軍人でない一般人は、武士の如く從軍しえない戰國の人々は、野心から、自衞から戰ふ眞似を、修練しなくてはならぬ。多くの神に祈つて一流を立てたといふ傳說の存在はその裏書きで、武士が「切覺えに覺えるから、劍術など要らない」と云つてゐる間に大いに努力をした。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

それからもう一つ、職業的武士、半職業的「らつは」「足輕」の類は、餘りに死に忙がしく、從つて享樂の外に、武を錬るといふやうな暇をもたなかつた。これ、武士に起らず、郷士に起つたもう一つの原因である。「備前老人物語」に、博奕に負けた士が、紙の羽織に、板の鋸を腰にさし、眞先に進む話が出てゐるが、上は大將より、下足輕に至るまで、たゞ、酒と女と賭奕のみであつた。

中にも博奕は甚しく「塵塚物語」にも一郡卒帷幕の中の慰は、上は大將より、下つ方與力、足輕の者共にいたるまで、彼博奕を好み」とある如く、明日知れぬ命と知つて、劍術修業所か、暇さへあれば、刀も槍も賭け代として樂しんでゐたものである。

この間に、地方の郷士、豪族は心を、劍槍の業に潜めてゐたが、中にも、東國武士の本場である常總野に、そういふ人々は多かつた。上泉、塚原、飯篠、松本等悉く、この一角に起つた人である。この關係も、劍法の發生には重大因を爲してゐる。

十一　常總の流祖

傳說によると、鹿島、香取の神々は——中にも鹿島には「鹿島の太刀」といふものが、天津兒屋根命十代の孫、國摩大鹿島の子孫、國摩眞人によつて發明されて、代々神官によつて傳へられてゐたといふ事である。そうして、これを劍法の最初としてある。これと、流祖の多くが、此地方に起つた爲め結つけてゐるが、必ずしもそうは斷定できない。

この地方は阪東武者、東夷、東方俘從者の産地であつて且つ「個下者」には、もつて來いの所であつた。尾張の織田、甲州の武田、奥州の伊達などといふ領民の見て幽のたゝぬやうな領主は一人も無く、上野の上杉、上總の里見、下總の古河、常陸、佐竹、小田、下野の那須、宇都宮、小山、結城、悉く後に滅亡した人々で、この領主を頂く領民が、いかに手に唾して立たうと望んでゐたか？　と同時に、この領主を攻める多くの敵を防ぐ爲め、いかに忙がしく戰はねばならなかつたか。

即ち、時代思想、刀の普及、個人的武勇に富む人々の多い地方、そうしてその地方の模範的亂世相、この理由と、平民の自衞、及び野心が手傳つて、一時に劍術は輩出してきたのである。同じ戰つゞきであるのに鎌倉に起らず南北朝に起らず室町に入つて空前の發生をしたのは、この諸因が劍法が起らなければならなくしたからであつた。

もし「鹿島の太刀」が日本劍法の元祖で、いくらかでも、この[illegible]相以外に劍法發生を助けたとすれば、香取に住んでゐた飯篠家直が、これを學ばぬ筈はない。然るに、彼は自修したとも云ひ、鹿苑伏刑部を師としたとも云ふから、この鹿島の太刀は名のみであつて、劍法がこの地方に發生した原因にならない。それにもう一つ、鹿島の祝部、松岡兵庫が、卜傳からこの太刀を學んでゐるのも不思議である。何とならば、卜傳は、鹿島の神官松本備前から、この太刀を傳へられたとい

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

係も、劍法の發生には重大因を爲してゐる。

十一　常總の流祖

傳説によると、鹿島、香取の神々は——中にも鹿島には「鹿島の太刀」といふものが、天津兒屋根命十代の孫、國摩大鹿島の子孫、國摩眞人によつて發明されて、代々神官によつて傳へられてゐたといふ事である。そうして、これを劍法の最初としてある。これと、流祖の多くが、此地方に起つた事に結びつけてゐるが、必ずしもそうは斷定でき

あるのに鎌倉に起らず南北朝に起らず室町に入つて空前の發生をしたのは、この諸因が劍法が起らなければならなくしたからであつた。

もし「鹿島の太刀」が日本劍法の元祖で、いくらかでも、この時代相以外に劍法發生を助けたとすれば、香取に住んでゐた飯篠家直がこれを學ばぬ筈はない。然るに、彼は自修したとも云ひ、鹿菟伏刑部を師としたとも云ふから、この鹿島の太刀は名のみであつて、劍法がこの地方に發生した原因にはならない。それにもう一つ、鹿島の祝部、松本備前守が、卜傳からこの太刀を學んでゐるのも不思議である。何とならば、卜傳は、鹿島の神官卜部吉川家から、この太刀を傳へられたと

ふのだからである。

それからもう一つ、軍神は、獨り鹿島、香取のみでなく「梁塵秘抄」にある如く「諏訪の宮、又比良の宮、阿波の北瀧の口、熱田に八劍、伊勢には多度の宮」と、外いろ〳〵と有つたから、鹿島を中心に諸士輩出した以上、この軍神を祭つたどの一ヶ所からか、一人でも劍客が出なくてはならぬのに、一人も出してゐないから、主として、この地方の雰圍氣が、劍客養成に適してゐたゝめであつて暇のある、財のある人々の間に、殆ど時を同じうして勃興した原因は、以上の如く考へるより外に理由がみつからない。

この東方に於ける劍客の勃興に對し「京流」が、西に現れてゐるが、これの正體は甚だ怪しいものである。堀川鬼一より鞍馬の僧に傳へ「京八流」とも稱すと云ふが、恐らくは、東の人々が、東方の劍法以外の物を總稱して「京流」と云つてゐたのでは無からうかと思はれる。もし「京流」が一流儀の名なら、その流祖は多少とも傳へられてゐなくてはならぬ筈である。それに、京師にも一記錄なく、たゞ「甲陽軍鑑」「關八州古戰錄」位に漠然として「京流」とのみ書かれてゐるだけであるから、西の人々の使ふ劍法を總稱して云つた稱呼としておいていゝと思ふ。

十二　刀槍分派前

然し乍ら、この頃の劍法が、何の程度の物であつたか？　德川期に入つて、劍術の技巧が發達すると、劍は劍、槍は槍として、一人[illegible]道を極めるといふ事は容易でなかつた。それに、この發生當時の人々は悉く、刀槍二道から、卜傳の如きは弓にまで達してゐたのであるから、恐らくは、その技巧は型として數少なく、刀槍を兩用して、優に餘裕があつたと思へるのである。

一例をとると、卜傳の「一の太刀」といふ名であるが「右の太刀に、一つの位、一つの太刀、一つ太刀、如斯太刀一つを三段に見分候」とある如く、これはこの三つの型だけでなかつたか、と思へ無い事も無いのである。

背後へ引く業を教へるなど持つての外の事だ。戰場でそういふ事をしようものなら、と評してゐる言葉があるが、當時の戰場用劍術としては、後世の一人々々の素肌對手とちがつて、技巧は簡單でよかつたのであらう。

戰場のみでなく、平常の試合にしても、眞劍又は木刀で、死ぬか、傷つくかであつて、稽古も型のみで、間際まで木刀が行くと「よくつめた」と稱めた位で、後世の竹刀とは大ちがひであるから、いざなつての斬込みは烈しからうと、型は複雜でなかつたにちがひ無い。江戸期に入つても、空鈍流は「右の態一つにて、萬方に應じて勝利を得るといふ」としてゐるが、飯篠家直も、松本備前も、塚原卜傳も、太刀數は少なかつた。

これに理論を與へ、型を整へ、竹刀を發明したのは、上泉信綱であ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つて、新當流、天眞正傳神道流の二つながらが、神蔭流に押されたと云ふ事は、主として、この太刀數の如何んと、竹刀稽古によるのでは無かつたかとさへ思はれる。

然し、この太刀數の少ないといふ事は、劍術の拙いと云ふ事とは全然ちがふ。後の巧妙な人々と立合つて卜傳は三種の技巧で勝つかも知れぬ。たゞ、こゝに劍術が「道」にまで到る發足點として見逃せない人格を流祖に見出して、私は結論にしたいのである。

十三　流祖の人格と結論

劍術本來の使命は、殺人法の技巧である。もし、これがたゞ強勇のみの流祖によつて發明され、それを墨守する人々によつて流布されたとすれば、私は劍術を、角力、拳鬪と同視して、餘り尊敬しないかも知れぬ。

所が、劍法は、いかなる武術よりも「心がけ」を說く點に於て、深く、多い。書物としても、口碑としても、人物第一といふ事を主眼にしてゐる。これは後世の附加、漸進的發達でなく、流祖の播いた種の生育である。

塚原卜傳は、將軍義輝の師範として「大鷹三もとすゑさせ、のりかへ馬三疋ひかせ、上下八十人ばかり」を連れた生活をすてゝ、故郷に
[illegible]兵庫」などの、馬の尻を遠廻りした話、例の無手勝流
[illegible]く、卜傳の

謙遜した態度を物語つてゐる。

上泉信綱の書に曰く「兵法は進退谷まりて一生一度の用に立つる事なれば――上手と人には見らるゝとも、毛頭も心の奥に正しからざる所あれば、心のとはゞ如何せん――火炎の内に飛入、盤石の下に敷かれても、滅せぬ心こそ賴むあるじなれ」

と、彼も卜傳と同じやうに用心深く、一人の男を捕へるのに、頭を剃り、袈裟をまでつけてから捕へてゐる。所謂、匹夫の勇を少しも出さない點、その最後の教が悉く、心の修行にある點、この境地へ、この發生當時の劍客が悉く到着してゐたといふ事は、他の武術に較べて劍術の發生史上見逃せない點である。

彼等の修養と、その人物の高傑さは、戰國當時の人々の誰よりも上に位する物であつて、上泉信綱の如き、その學問よりみても、明智光秀に優つてゐると云つていゝ。それが、信玄の留めるを振切り、柳生[illegible]に客死するまでの精進、伊東景久の態度と晩年、澤庵と柳生宗矩、小田切一雲、鈴木正平、宮本武藏の晩年、數へて限りなく、一人物である事を物語つて居るが、その萌芽は、この劍法發生當時の人々の内に含まれてゐたのであつた。

以上、私は劍法發生の概觀を書いてきたが、結論として云へば、劍法はそれぐ\の時代に多少とも存在し發生してゐた。然し、それは、必ず其の時代に傳へられたもので無く、時代が不必要となれば、消失し、又必要によつて、發明されてゐたものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だが、室町時代以前の劍法は以上の如く、今これを求むるに術が無く、室町時代に於ける劍法發生の狀態より推すと、それは記錄に止めるまでもなく幼稚なものであつたらしく、劍法は室町時代になつて勃興し、連綿として傳へらるるだけの價値あるものを生じたのである。

その個々の發生と發達については他日、以下の如き項目の事と共に、又發表したい。この發生のみですら、これでその半を說明したに過ぎぬのに紙數がつきた。

發達に就て考へるべき事は、禪宗との交涉、流祖各傳、戰國武將の劍法獎勵と保護、武士階級の制度と、劍法上の二派、居合と小太刀の發明、泰平期に入りて後の技術と理論の發達と、時代にしては寛永前後まで——他日この通論によつてこの小論を完全にしたいと思ふ。

國枝史郎著

劍俠受難

（四六判並製）　定價壹圓　送料十八錢

大衆文藝作家の內我が國枝氏の存在は一つの奇蹟だ。「バアナアド・ショウの弟子を以て任じ、時代物と云ふ名の下に現代を縱橫に揶揄しよう」と宣言する著者の作風は、奇想天外、着想雄大にして、時代物に名を借りて巧に現代人を描き、皮肉つた諷時代的な作品である。本書は全篇を立體的に描き、「時」と「所」と「人物」とを終始一致させ、重要なる人物十數人を拉し來りて夫々性格づけて活敍し、從來の大衆物の格を破つて、新機軸を提唱した。

改造社發行（振替東京八四〇二）



初秋の星を語る

野尻抱影

唐の李白の名と字とは、その母太白太星懐に入ると夢みて生んだのに由來するとなつてゐる。これから推すと、彼が好んで詠じた自然の風物の中に屢々星の名を見い出すのは、――事實、同代の杜甫や、中唐の韓・白二家に比べるとこれが著しい――多少とも意識がより濃く動いてゐたのではないかと忖度される。

さういふ李白の詩をあさつてゐる間に、僕は、夏の南の星の「大火」を配してゐるものを數篇見た。これは廿八宿では心宿の主星で、單に火とも、火星とも言つてゐる。今の天文學では、蝎座のアンタレスといふ星に當る。李白の詩『汪氏の別業を過ぐ』二首の中に、

星火五月の中、景風南より來る。

數枝石榴發し、一丈荷花開く。

の句がある通り、陰暦五月の黃昏、この星が南に中する時を夏至としてゐた。これは遠く書の堯典にも「日永く、星火以て仲夏を正す」とある。今では、七月廿三日午後八時が、この星の南中時になつてゐて、同じく夏を代表する星であり、八月の夜が最も見頃である。これで、僕の話もこれから初めて、中に李白の詩の句を引いて行つてみたいと思ふ。

天の川は、八月の宵には、殆んど天頂を過つて、北から南へ流れる。それが煙幕の淡れたものゝ様に微茫と南の地平に懸る右に、三つの星が斜めに並んで、眞中の星が殊に大きく、前の詩に附會すれば石榴の花のやうに眞紅なのが、直ぐ目につく。この三星が漢名、心宿で、眞紅な星が即ち大火である。

大火とは、實にこの星の印象を強く生した名だと、僕は思つてゐる。如何にも單純な、プリミテイヴな、而も豪快な字で、そして音でもある。數百に餘らう支那の星の名でもこれは壓卷である。李白が好んでこの大火を詠じてゐるのも、こゝに理由があつたのではないかと思ふ。

支那でこゝの三星を心と名づけたのは、これと上下十數個の星との長い列が、誰の目にも長大な動物の形を想はせる、これを青龍の姿と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

見て、三星、特に大火を龍の心臓と見たのに由るのである。これは、大火が、古代の農事暦では、北斗星及び參――みつぼし――と共に重要な星であつて、所謂「辰」として尊崇されてゐた、それが――新城博士によれば――引いて星象全部に及んで、龍なる動物を創造せしめたので、時代は周初であらうと言ふ。

今の天文で、こゝの星座を蝎といふのも、龍と同巧異曲である。この最初の命名者は、古代のバビロン人である。彼等が深い鋼鐵色の空に、恐らくグロオテスクな姿に列なるこゝの星を見て、日ごろの脅威である蠍蟲の形を天上にも描いた氣持はよく分ると思ふ。それにその尾が左へくるりと卷いて銀河の中に入り、尖端に二つの星を煌かしてゐる技巧なども、蠍針の印象として無類だといへる。また、銀河を東に渡つた處に、弓を引き絞つて「蝎の心臟」――心宿に當る――を狙ふ半人半馬の巨人を想像した心理も、これも合點が行くことである。

支那でも心に次いで尾宿がある。そして尾端より左にぽつりと光つてゐる星――星圖ではG――を殷の賢相傅說の名で呼んで、彼が死後龍尾に跨つて、天上を飛行してゐる姿を見て來た。李白にも、『南陵を紀して五松山に題す』の中に、

當時版築の輩、豈知らむや傅說の情。
一朝殷人を和らげ、光氣列星となる。

の句がある。

蝎座の爪は、西に隣る天秤座の部分に捥ぎ取られて既に三千年にもなるが、今もその「南の爪」「北の爪」の二つの星に名を留めてゐる。支那の場合では、蒼龍の身體は更に西へ伸びてゐて、夕日の空にある乙女座のスピイカの漢名「角」と、牛飼座のアルクトウルスの「大角」とが、文字の如く角になつてゐる。

希臘神話では、この蝎が大地から跳り出て獵師オリオンを螫し殺した大蝎であるとして、この星座が西に沈み終るまでオリオン座が東から現はれぬ理由に結びつけてゐる。これに對しては、支那に「參商」の成語がある。參はオリオン、商は心の別名で、夏と冬とに相反いて昇ることを、朋友の久しく相逢はぬのに譬へてゐるのである。杜甫の『衞八處士に贈る』の冒頭に『人生相見ざること、動もすれば參と商との如し』の句は屢々引用される一例である。

又、この事實から、左傳の昭公元年の、高辛氏の二子が相鬪いで遂に干戈に訴へたので、遠く東西へ引き離され、兄の閼伯は商星の祭祀を主とり、弟實沈は參を主とることゝなつた云々といふ說話も生まれたのである。

大火の西名は、初めに言つたアンタレスである。これは希臘語の「火星の敵」の約つたもので、火星の赤い光に拮抗する意味である。天文學では嘗てこの星を滅び行く一太陽であると說いた。僕は少年の昔、ポール筒の望遠鏡にこれを覗つて、紫ばんだ紅焰に包まれて忙しげに喘いでゐる姿を見てから、いつも斷末魔にある巨人の印象を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

捨て得ない。が、近代の天文學では、これは超巨星で、星の一代としてはまだ嬰兒の時代にあるものと教へてゐる。それにしては、何といふ可愛氣のない、寧ろ禍々しい鬼つ子であることよ！

蝎座とこの東の射手座、及び蛇座の間の銀河を併せて、この南方の空は、冬のオリオン座附近に次ぐ賑かさである。東京の郊外に住んでゐる僕は、夏の玉川の花火を、暗い芝山から子供たちと遠望するが、大きな火の柳が、こゝの空のところで開いて、消えて、後に釣星が殘ると、度々ほん物の星と見分けがつかなくなるのである。

又、こゝの銀河は、正しく氾濫してゐて、洲があるし、黒い入江がある。殊に、雨あがりの空では、水滸傳で覺えた金沙灘といふ名が頻りに想ひ合される。それに星團が幾つもあつて、あちこちで茫と燐光を放つてゐる。僕が夏の晩に、四肘を向けて、客をもてなす銀河の部分は、いつもこゝである。

銀河を東へ渡つた處の射手座、これは前にも言つた蝎の心臓を射てゐる半人半馬であるが、この怪人の姿はなかなか發見しにくい。たゞ銀河の中に、矢をつがつた弓がはつきりと見える。

支那では、この矢から下の四つの星を箕の形と見て、箕宿と呼んでゐる。詩經に「月箕に麗り砂を揚ぐ矣」とあるのはこゝで、爾雅の註に

の風神は、天上のこの部分に棲んで雲行を眺めてゐるのである。

射手座から箕を除いた東に、六つの星が小い北斗の形を描いてゐる。これが斗宿で、南斗ともいふが、古くは、例へば室町時代の節用集にも、呉音で「なんじゆ」と讀ませて、「ほくと」に對せしめてゐる。

この斗に隣つて來る牛宿――又は牽牛――がある。支那の星圖では星を連ねて覺束ない牛の首を描いてゐる。こゝと斗とを併せたのが即ち「斗牛」である。李白の『汪氏の別業を過ぐ』の初めの詩にも、

霽嶺河漢を瞰り、連峰斗牛に横ふ。

の句があるが、久保天隨氏の註は、正しく「南斗と牽牛」になつてゐる。「北斗と牽牛」は、あれは久しい誤解である。

射手座の上には今、土星が金色の環を傾けて懸り、望遠鏡の向けられるのを待つてゐる。

銀河の裂目は、蝎座の近くから起つて上へ走り、天頂で、黒く深い淵に終つてゐる。こゝが謂ゆる石炭袋で、空の南極にあるものと相對して、無氣味な印象を與へてゐる。そして、自然の技巧は、こゝの黒淵に潜む虬を封ずるものゝ樣に、五つの輝星で大きな十字を切つてゐる。

この十字は、南極十字に對して、北十字の名があるが、歐米の美に於ては、寧ろ南方の十字を凌ぐとも言はれる。殊にこれが西へ廻つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て、地平に金の十字を植ゑる時は、南米のパンパスの果に沈むといふクルスをもあまり羨しいとさせない。嘗ては耶蘇教徒の間でも、これを「カルヴアリの十字架」と呼んだし、十七世紀の初めにシルラアの描いた耶蘇教天文圖では、聖女の抱いてゐる十字架になつてゐる。

今の天文學ではこゝは白鳥座である。古くからこの十字の形を、長い頸を伸べ雙翼を擴げた白鳥と見たのに因つたので、希臘神話ではユーピテルの化身と見た。この白鳥を抱くスパルタ王妃レーダの、一糸も纒はぬ姿は屢々アカデミイ派の畫題であつた。

古代埃及では、これを「牝鷄」と呼んだ。亞拉比亞では「空翔ける鷹」と呼んだし、カルデヤの遠い昔にも、「森の鳥」と言はれた文獻が殘つてゐる。

白鳥の嘴にあたる星はアルビレオである。美しい響の名であるが、原意は知れてゐない。そして小い望遠鏡には永久の魅惑である。肉眼では一つに見える黄玉色の星が、レンズの面では、サフアイヤ色の可愛い星と相抱くやうにして、まじまじと光つてゐる。で、不圖かいま見た戀人たちを祝福する、そして多少のときめきを禁じ得ぬといつた樣な氣持を、僕は、彼等から感じさせられる。

嘗て某大臣の刺客の罪を裁いて名判官の名が高かつた某氏は、一度この星を覗いてからは、星の話となると、『アルビレオは美しいですな』と熱心に言ふのである。僕は、星をあさり廻つた後や、中休みには、いつも彼等にレンズを向けて、ほッとした氣持を樂しむことにしてゐる。

銀河に浸る白鳥座は、更にその北の岸に織女を、南の岸に牽牛を輝かしてゐる。この二つの大きな星を結ぶ線は、銀河の面で殆んどアルビレオを過ぎてゐる。

織女はいふまでもなく漢名で、天文學では琴座の主星ヴェーガである。「全天第一のダイヤモンド」の名に負ふ燦爛たる光を放つてゐるが、何となく優しい、親しみのある印象である。僕は、白い浮雲が彼女を掠めた時その黄緣をほの明るませて、空へすべり出た瞬間の美しい光に、目を見張つたことがあつた。

それから、夏の日沒に郊外の電車を下りて、櫻並木の道を歸つて行く時に、まだ水淺黄色の東北の空に、織女が若々しく瞬いてゐるのを仰ぐと、頻りに少年の頃、横濱の堀川の木橋に立つて、この星を見覺えた夕暮のことが思ひ出される。それと同時に、何かの追憶を包む氣分だけが、微かに胸をくすぐつて過ぎる。これが十年二十年たつた後ではどうだらうと、さう思つて、僕はまた、織女を見なほすのである。

織女と牽牛の七夕傳說は、世界の東西にも無類の美しいものとなつてゐる。李白の『泰山に遊ぶ』の詩の句、

天を捫して匏瓜を摘み、恍惚として歸るを憶はず。
手を擧げて淸淺を弄し、誤まつて攀づ織女の機。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は、彼の絶唱の一つである。——瓠瓜は後にいふ海豚座の漢名である。

序でながら、李白は星に就いて、屢々この「捫す」を言つてゐる。有名な『峰頂寺に宿す』の詩にも「手を擧げて星辰を捫づ」があり、『蜀道難』にも「參を捫し井を經て仰いで脅息す」の句がある。これは、誇張にも思はれるが、大陸の夜の星の掴めさうな話は屢々聞くことで、濕潤な日本の星空を見る目から臆測してはいけないのだと思ふ。

天文學で、織女のある星座を琴といふのは、フェニキヤが初めのやうである。希臘神話では、ヘルメスが龜甲に絃を張つて作つた竪琴で、それが七絃であるのは、プレイアデス（昴）の七つ星の數に應じたのだと、オヴイツドは言つてゐる。音樂の名手オルフエウスは、この琴をアポロンから授けられた。彼がこれを奏でながら、亡い妻を慕つて黄泉の國へ下りて行つた時には、その哀切な音色に幽鬼の群も涙を流し、プルートオも胸を和らげられて、一度は妻を戻してくれたと傳へられてゐる。そして、彼の死後、琴はこゝの空に懸けられ、ヴエーガを鏤められたのである。

併し、こゝの星を連ねて竪琴の形を描き出すのは容易でない。これよりも古代の亞拉比亞で、ヴェーガと、その下の小い二星とが作る∧の形を「墜ち行く沙漠の鷲」と呼んで、牽牛のある鷲座の「空翔ける鷲」と、前に述べた白鳥座の「空翔ける鷲」と、三つの大鳥を並べた空想の方が、ずつと單純で面白いと思ふ。これは、紀元前六千年頃の埃及でも禿鷹と呼んでゐたと説く學者もある

天文學の定説では、織女即ちヴェーガは、一萬二千年前、及び一萬二千年後の北極星である。古代カルデヤで、これを「天の生命」と呼び、アッシリヤで「天の判官」と呼んだのも、この理由に因るといふ説がある。また、紀元前七千年の埃及デンデラーの最古の神殿では、スフインクスと大圓柱とが列なる奥深くまで、この星の光を導いて、その闇黒に默々と立つ神像の目に達せしめてゐたと言ふ學者もある。

牽牛は銀河を隔てゝ織女と相對してゐるが、二星並び懸るのは、何といつても陰暦七夕の頃である。左右に小い星を率ゐてゐる形は、蝎座のアンタレス、即ち大火を想はしめるものがある。牽牛の名は、この三星の舊稱で、既に古い時代に今の牛宿に移され、代りに河鼓三星と呼ばれて來たが、俗にはこの主星に昔ながらの名を用ひてゐるのである。又、時には河鼓の呉音が訛つた黄姑の名を用ひてもゐる。例へば、李白の『古に擬す』十二首の第一首にも、

黄姑織女と、相去ること尺に盈たず。
銀河に鵲橋なし、時に非ずして將に安くにか適かむとする。

の句がある。

今の天文學では牽牛は鷲座のアルタイルである。神話によれば、この鷲は、大神ユーピテルがトロヤの美童ガニメーデを饗宴の席へ攫み

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

去つた時の化身の姿であるといふ。

鷲座と白鳥座との間で、四つの星が小いダイヤ形を作つてゐるのが海豚座で、俗にこの形を「ヨブの柩」と呼んでゐる。漢名は、前に李白の詩にあつた匏瓜で、これも形から來た名である。

琴座の西に隣つてヘルクレス座がある。希臘神話に有名な力士の跪く姿であるが、輝星の稀な星座である。たゞ、その主星は支那で「帝座」といつたやかましい星である。後漢の嚴子陵が光武と臥して、足を帝腹に加へ、その夜「客星帝座を犯すこと急なり」と、天文博士を狼狽させたのもこの星である。

僕は庭に立つて、この餘り目立たない「帝座」を仰いでゐると、いつの間にか、自分が漢楚軍談や三國志などに出る軍師になつて、眉毛が白く垂れ下り、後ろに廻してゐる手に羽扇でも持つてゐるやうに空想し始めることがある。

西北の中空には今、北斗七星が斗柄を上にして直立してゐるのが、目を驚かす。斷れた雲梯とも喩へてみたい。李白の『長門怨』の、

天は北斗を廻らして西樓に挂く。
金屋人なく螢火流る。
月光到らんと欲す長門殿。
別に作す深宮一段の愁。

の第一句は、正に今の北斗の位置を示してゐるので、興が深い。

北斗の柄の、所謂破軍星に次ぐ第二の星は、それに密接して小い星を有つてゐる。支那では輔と呼んで宰相に象どつてゐた。三才圖會にも、「輔星明かにして斗明かならざれば、即ち臣强く君弱し。斗明かにして輔明かならざれば即ち君强く臣弱し。輔星若し明かに大にして斗と合ふ時は即ち國に兵暴かに起る』などゝあるし、北斗の圖には、屢々これが現されてゐるのを見かける。宮内省圖書寮にある後陽成天皇御宸翰星之圖を新城博士の『こよみと天文』の口繪で見ると、これに「スボシ」と和名が添へられてゐる。輔の亞拉比亞名はアルコルで「試驗」の意味である。昔、その國で徵兵檢査にこの星で視力を檢したのだと言ふ說がある。又主星と共に「馬とその乘手」とも呼ばれてゐた。

しかし、輔に小い望遠鏡を向けると、忽ちそれが飛び離れて、別にエメラルド色の小い星が主星の直ぐ傍に現れる。白鳥座のアルビレオの様な際立つた色の對照ではないが、如何にも目の覺めるやうな鮮かな印象である。そして、天上で秘密を守られてゐると三角關係に譬へずにはゐられなくなる。

北斗七星が今の天文學で大熊座に屬してゐると、その下端の二星を結んだ線の延長が北極星に達すること、及び、北極星の屬する星座も亦小い斗の形をなして小熊座の名があること等は改めて說くまでもなからう。

織女の場合に言つたやうに、この北極星は決して永遠の北極星では

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ない。これと、織女とを結んだ直徑で出來る圓周、又はこれに近い星が順次に北極星の光榮ある役割を承はるのである。

古代に於て小熊座を初めて航海の指針としたのはフエニキヤの海國民であつた。紀元前六百年の頃、ミレツスの哲學者タアレスが、これを希臘に傳へたと言ふ。それ以前の希臘人は、主として大熊即ち北斗七星によつてゐたもので、ホメーロスの『オデツセエ』では、オデツセウスは、プレイアデス（昴）と牛飼と大熊とを見戍りつゝ筏を行つてゐる。島の女神カリプソオは、「大熊を絶えず左に見て海を渡り給へ」と誨へてゐる。

その、今から約三千年前の希臘の詩聖の見えざる目に映つた北斗七星が、約千二百年前、支那盛唐の醉詩人が詠じたと同じ位置と象とで、今吾々の檐に掛つてゐるのである。

更に北斗の柄のカーヴの指すまゝに目をやれば、西の空に、牛飼座のアルタイルが親しげな金色に瞬いてゐるのを見る。それが舊約で名高い「ヨブの星」である。漢名は即ち大角で、これを挾む左右各三つの小い星は、「斗柄の南に直り、時節を建つることを主どる」として古くから崇められた左攝提、右攝提である。

牛飼座の金色の星は、春の宵の東に見つける一番星である。今そこの空には、際立つた星は見えてゐないが、天馬、アンドロメダなどもう初秋の星座が現れ始めて、天上には既に金氣が動いてゐることが分る。再び李白の詩を引けば、『雙松亭に族弟浮屠談皓に留別』の中の、

憶ふ我が初めて來る時、蒲萄景風を開く。
今茲大火落ちて、　秋葉梧桐黄なり。

の季節もやがて遠くないのである。

―四、七、二―

有島武郎著
最後の日記
（四六判背革布裝天金 光澤紙刷寫眞五十二葉入）

山莊の夜に痛ましい最後を遂げてより六星霜。この日記は氏の死後筐底より發見された手記である。あくまでも人道と藝術に淸く終始せん爲め、世襲財産抛棄決意の徑路。或は身邊を搖がすいくた女性よりの誘惑の煩ひ、それ等血みどろの闘ひの跡を丹念に書き綴る。

定價貳圓　送料廿錢

改造社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

湘南風景

—鎌倉—

菅忠雄

湘南を代表するのが鎌倉であるとは、僕、決して考へてはゐない。併し長年のなじみで鎌倉がその中心になるとは思つてゐる。葉山、逗子、片瀬、鵠沼、大磯、と數へて行つても、鎌倉がさまで小さくもなく、それで纒つてる事は、確かである。

震災後の鎌倉は、どう考へても良くなつてゐない。バタ〳〵と夏向きに立並んだ家だとてさうである。いつぞや田中純氏が僕の家を訪ねて來て、私の家の事を新聞に書いてゐたが、全で鎌倉に住んでゐる感にはなく、どうしたつて巣鴨邊りのゴミ〳〵した中であると云つてる。巣鴨邊りは少し當つてゐないが、兎に角、私の家からはあの鎌倉を包む丘の如き山が見えない。而して五六町先から來る潮鳴りが、周圍の家々で朝八時から一齊に鳴り出す和製蓄音器の狂音に、無慙にも吹き消されて仕舞ふ。是では正に東京郊外といはれても文句はいへないのである。

東京からの歸途、列車の中で早稻田のY氏にきいた話である。Y氏も鎌倉に住み、謹嚴な點、私など大いに固くなつて話をするY氏の話であるから意外なのだが、氏のとこへ遊びに來た佛蘭西歸りの辻潤氏が、その晩、フイと出掛けたまゝ歸らず翌朝になつて、氏のとこへ歸つて來て、彼は微笑して云つた相だ。

「いや、どうして鎌倉にも面白い處がある。あんな處、東京、横濱、フランスにだつてないぞ」といふ話である。勿論Y氏は鎌倉の地理は海岸と長谷通り位しか御存じない（と私は勝手に想像してる）。それで、「そんな處がありますか」と氏は私にきかれた。私なら知つてると氏が思はれる程に古い鎌倉人の私だが、正直のとこ私は知らなかつた。却つて氏以上に私は驚いた積りだ。甚だ殘念な極だが知らぬといふ事はどうにも仕方ない。いくら鎌倉が東京郊外式の發展をなさうとさうした處まで翼をのばさうとは知らなかつた。突然、訪ねて來た辻氏に見事擽はれたとすれば、顏色のない話である。が、その顏色のない處で、私は物好きにも土地の人にも又二三の人に當つてみた處、部

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

知らず、むしろ嘘だと、私を輕蔑した。かうなると私は斷然、辻氏を探して氏の口から事實を糺さねばならぬ程、事は難しくなつて行つてる。つまり鎌倉風景の色彩に關する事であるからだ。

鎌倉は今、正に夏である。電車の踏切番は今年は例年の三分の一程しか避暑客が入り混まぬと云つてる。そのせいでもあるまいが、貸家札の目につく事は夥しい。私が友人の爲めに海岸近くの家をきいてみた。五間位で一夏五百圓だといふ。私は默つて引下がつた。鎌倉が大磯のやうになる日も遠くはないと思つた。

併し何んといつても由井ヶ濱の風景は他に求め得られぬ。あの群がり立つ大きな砂日傘を見給ひ。ある新聞は濱へ上つた海月といひ、砂に生へた菌と云つて、大きな濱の寫眞を日曜毎に掲げた。私が一寸歩いて數へ上げただけでも六十近くある。それは各々異つた色彩と圖案で美しく砂を蓋つてゐる。その下には必ず男女の群が洋傘め柄を中心に頭を突合せて寢そべつてゐる。

女性の水着の流行は色彩に於てはもう頂點まできて了つた。是以上は彼女等の豐滿な肉體をどの邊まで裸出するかにある。海濱ホテルの脫衣場から現はれた一外人の女性が、殆ど彼女の脊中を全部現はして、僅かに二筋の紐で十文字に結んでゐた。是はあらゆる人間の眼を…たそれ程大膽になれる日本の女性は數…ひかせるだけとは、心細い。

勿論、その日も洋傘の下に私達はゐた。そして新聞の話をしてゐた。水着の仲間に、朝日、報知と云つた新聞社の連中もゐた爲めでもある。日曜日で各社のカメラマンが洋傘の間を縫つてゐた。「今日は殆ど各社、國民、讀賣、朝日………」と若いKが云つた時に、何時私達の周圍に來たか知らないが、一人の見知らぬ女が頭の上から口を開いた。

「新聞がどうかしたんですか」

とかう云つたんだが、唯斯う訊くとなんでもない。だが、その語氣には一同全く驚いて、身體を起した位である。嚙附くやうにカンカン云つたのである。一番驚いたのは、Kだが、彼がドギマギしてゐると、同じ口調で女は「國民がどうかしたんですか」と疊みかけてきた。彼は增々慌てた。而してその廿一歲（是は女の服裝からの判斷である。面貌からでは年齡の想像はつきにくい。それ程殺氣だつて少しく見當が違つてる）位の醜い女に恐々返事をした。

「國民とか報知とかの新聞の話をしてるんです」と女は急に面を壞した。そして「報知は好きですよ。あれには富士にたつ影が出てゐますからね」さういふとサッサと砂を踏んで、行つて了つた。呆然と取殘された私達は馬鹿〳〵しさに笑ひだした。振向くと、あの大衆小說を讀んでる時に氣が狂つたとしか思へぬ狂女は、四五間離れたところにゐる外人の群の前に、チヨコナンと坐つてゐる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

海濱ホテルの下の海岸。此處は街で云つたら山の手で、洋傘の下の人種も落着きを持つてゐる。所謂日歸りとか、此夏だけ來たといふのではなくて、毎年毎夏並ぶ顔觸である。而して中には十何年みる顔すらある。Oといふ辯護士の娘を私が知つた頃は一番上の娘だつた。處が時代は何時か三番目の娘になつてゐた。長女は來年位は小學校に行きさうな子供の手をひいて、濱を歩いてゐる。次女は三年程前に濱をどんなに風靡した事か。併し私は最近彼女が結婚したといふ話と、死んだといふ話を二つ聞いた。事實はいづれにしても前者の方にある可きだ。些かの縁故なきとはいへ麗人の爲めにさう信じたいが、今夏その姿を見ぬのは私だけかしら。三番目の娘の跳躍は蓋し來年まで保ちさうである。だが、私は彼女等の不自然な奔放さに全く好感を持つてゐない。

私等の砂日傘は四本位一列に並ぶのが常だ。それは遠く二町程離れた砂丘を下りてゆく誰の目にもすぐ見出される特徴を持つてゐる。此夏もその洋傘の下に集まる群は、殆ど去年と違はない。が、外遊の久米正雄夫妻の代りに中戸川吉二、犬養健、國木田虎雄。と此人達は新しき洋傘人だ。私は今作家だけを上げたが、此洋傘人はあらゆる階級の人によつてクラブを作つてる。醫者、畫家、辯護士、官吏、會社員、等々………。而して、各人の持つ話題に、賑かな事限りない。此私達のグルッペは強ち夏の季節だけでないのである。今夏だけ來た、今の犬養、中戸川、國木田は別として、鎌倉に殆ど永住的に住む樣々の職業人が、相集つて成した倶樂部である。鎌倉の如くかぎられた土地なればこそ、總ては簡單に、それでゐて仲々堅實に組織されてゐると聞けば、何か堅實だと頭から笑ひさうな連中ばかりなんだが。

攝氏三二度五などといふ殺人的灼熱の日が續く。第一日曜日に鎌倉の降客六萬、逗子四萬と新聞は報じてゐる。人で海水が汚水のやうに濁つてる。人と人に狹められた砂濱が僅かに見える位である。脫衣小屋は食料品を賣切らし、井戸の水はからして了つてる。茶店を謝絶られた人達は、砂濱に着物を脫ぎ捨てる。而して大膽にも若い女性達が海に向いて全裸體になつて水着と着換へてゐる。水着によつて、その女性の種類が大抵區別される。女給、女事務員、女學生、藝者、と明確に分るだけ、面白い。併し一度、私と犬養君とで、

「あの二人は女事務員に違ひない」と斷定を下した二人が、全く違つてゐたのは、二人の觀察の見當はづれを證據だてて可笑しかつた。その二人は各々のび〳〵と生長した肢體をもつて居り、着物も砂濱に脫いで、一つの紙の日傘の蔭に頭だけを入れてゐた。水着が身體についてゐない點と何んとなく周圍に氣を兼ねてゐる點が、私達にそんな想像をさせた。そして夕方もはやめに姿を消して了つた。翌日、私達はあの二人は今頃タイプライタアをたたいてゐるに違ひないと話した時、昨日の女性が、質樸な男達と一緒に海に入つてゆく姿を發見して

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

二人で苦笑した。

砂洋傘クラブの講座は兎に角愉快である。

中戸川君の闘犬の話——日本一といはれてゐる土佐犬と、新進で秋田から東京まで連戦連勝の秋田犬とがY市で相目見えて覇を争ひ、凄惨な争闘の上げく、矢張日本一の土佐犬の勝利となつて、最後にはその持主の人間同志の喧嘩にならうとした話など、砂濱で轉がりながらきくには、惜しい位である。

「中學の三年夏期休暇の宿題に斯う云ふ字句の解釋をせよといふのがあるんだが、誰か出來るかい」と、Rが砂を平らにして木片で「便施」といふ字を慣然として書いた。是が中學三年生への問題だがと、その提出者の頭の悪さを攻撃しながら、みんなに解釋を求めたが誰も出來るものがなかつた。翌日佐佐木君(茂索)が漢和大辭典をひいてきて

「第一の意味は便所にゆく事で、次の意味は轉じて散歩する事だ」と說明を與へてくれて便施の意味も判然した譯だが、その提出者への攻擊は何時までも續いた。

夏場だけのカフエーは海岸は勿論その附近にも隨分現はれた。その中に、「カフエー・コムラ」は濵田の小村欣一郞君が自身ボーイの役まで勤めて經營してゐる店だが、そこのバーテンダアーが酒友長岡義夫君だ[illegible]に飲んでくれると、ウンと儲かるんだが、是は虫のいい注文である。「私の店は十一時切になれば、駄目ですよ」と小村君が云つてる時に、

「冷いカルピスあつて!」と二人の女が勇敢にも飛びこんで來た。慌てて小村君が氷を長岡君にかいて貰つてコップに入れたと同時に、

「アラ、終電車が來たわ。失禮」と先の反動のやうに飛んで出て行つて仕舞つたのは、少し悲しい。

夜の由井ヶ濱はある一部分——余興場があり、飲食店、射的のある處意外は實に暗い。そして砂濱は松林まで續いてゐる。その爲め毎夜幾組かの男女が、私服に捕つてゆく。

射的の前の廣場に毎夜、背の高い外國人が大きな聲で怒鳴つて人を集めてゐる。それが非常に流暢な日本語なのだ。彼は大きな鼻を持つてゐ、錆びた聲で私達より達者な日本語を使ふ。東京辯は勿論、鹿兒島辯から關西辯、それから東北辯まで使ひわける見事さである。私の友人は彼を猶太人だらうと云つた。それは世界で語學の天才は、猶太人と支那人だからだ相だ。尤も彼は七歲の時から日本で育つてるらしい。それにしても巧すぎる。

彼はモダーンガール論を一通りやる。どんなに斷髮をやつて洋服がぴつたり身體に合はうと、英語の會話は、殆ど一言も饒舌る事は出來ぬではないか、横濱の車夫の方がどの位上手か分らぬと、たてつゞけに喋つてから、會話に練達したいと思ふならば、先づ此本を買ひ給へ

と、「實用英會話の秘訣」といふ一圓の定價の本を五十錢で賣るのである。そして一時間半、ぶつ通しで喋りまくると、横手のカフェーに飛び込んで行つて、ビールをダーと飲んで元氣を恢復して、又一時間半に向ふらしい。それで對手が外人だけに聽手も多く、又子供が買つてゐるから商賣になる。其實用英語なるものの發音が面白い。

――Do you think so――是に振假名をして、「ユテンソ」だから有難い。萬事至極簡單に片附けてゐる。余與場の掛合ひなどより、こつちの方が余程人氣がある。

「フランスへ歸國するにつき、フランスより持參の寢台、本箱、椅子その他安價に賣ります。午後おいで下さい。　レイ　―

斯う書いた紙が濱近い洋館の玄關に貼つてあつた。レイといふ人は確か外務省に勤めてゐる佛蘭西人だ。自宅から停車場まで雨が降らうと車を利用した事ない彼は、何時も前こごみに大股に歩いてゆく。新橋から外務省までも決して乘物にのらぬ。朝は細君と二人で必ず海岸を一廻りする。そうした子供のない夫妻は、一言の日本語もおぼえずに、本國に歸つてゆくのである。

私が午後、彼の玄關にたつた時、中から出てくる避暑客らしい浴衣掛に出會つた。もう見に來てゐる人達らしい。家政婦らしい女に案内されて入つた。外人の住居らしい香が鼻に直ぐ來る。本箱といふのは本棚だつた。そして何も知らぬ日本人がつけたらしい賣價は非常に高かつた。しかもそれはフランス製らしくなく、日本物らしかつた。欲しいと思ふものは何もなかつた。ただ客間の棚の上に、フランス製の美しいトランプと分厚い洋書があつた。洋書の方は、「カクテルの作り方」といふ本だつた。トランプとそれは一寸欲しかつた。

「是はお賣りになるんですか」

「それは……」

と云つて女の人は笑つて首を振つた。私は少し汗になりながら、靜かな家を出た。

濱で里見氏に誘はれ、氏の宅へ晩飯に犬養君と出掛けた。八幡の奥の西御門といふ處は鎌倉でも深い谷だ。食事中に有島生馬氏から電話があつて、佛蘭西から來てゐるキク・山田と云ふ女性が里見氏の新しい書齋（中二階の茶室で京都の大工が建築したものである）を見たいといふから是から連れて行くといふ。

「日本語が全然駄目だとは困つたね」

と里見氏は弱つた顏をしてゐる。二人は間もなく見えた。キク・山田はひどく小柄で、佛蘭西人を母にもつたひととは考へられない。或るブルジョアの夫人になつてる彼女の妹さんは非常な美人だが、キクは正に美しくない。なんとなく魚の感じがする。日本語の出來ない筈の彼女が、仲々立派な日本語を器用に使ふには、里見氏の心配を思ひ併せて可笑しくなる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「貴方は本統に日本趣味で家も日本かと思つたら、みんな西洋ですね」

「是は色々經濟の點などで人手をはぶく爲め洋室にしたが、書齋は純日本ですよ」

書齋はまだ竣工してないがもう建具を入れるばかりになつてゐる。實に手の込んだもので、斯うした大工（といふより一種の藝術家だ）の存在してゐる事は、不思議だ。

庭であげた花火がその中二階を明るく浮かせた。「まるで清水の舞台」とキクは感心した。

四人でもうおそい街に出た。ブルドツクが私達の方へ寄つて來た。

「あんな顔してゐても、あの犬は人懷つこい」

とキクが云つた。つづいて誰かが、「あなたも左うだ」と云つたがキクの耳には入らなかつたらしい。

八幡宮の石段の前まで行つた。何もかも眠りに落ちた靜かな中に、夜鷺が時々ないてゐる。石段の線をみんなが讃める。

「あちらでは色々の人に逢ひます。アンドレ・ジツドはいいお爺さんです。最近は女大學といふのを書きました。アラビア人か印度人の研究をしてゐます」

犬養君に話しながら先をゆくキクの姿が、闇の中に、小さく動いて行く。（四、八）

犬養健著

南京六月祭　定價貳圓　送料廿錢

（内容）南京六月祭、松吉の立場、Kamerad. アリストテレスと語學教師、正義と煙草、黄いろの花、硝子玉の存在牧歌（Cogito ergo sum）、女優、聖ピノチエツト、亞刺比亜人エルアフイ、後序。——

有島生馬著

海村（和本函入 上下二册）　價貳圓五十錢　送料廿錢

（内容）その海村、小さい死、橋の上と下、日暮、嘘らしい話、海の奥さん、怪我、霧の中、白豆の花、父の嘘言、弔花、彼女の讃文、砂上の老人、崩れる砂、外四篇

改造社

東支鐵道問題の經緯

長野朗

本年五月廿七日に支那官憲がハルビン露國總領事館を包圍捜索し、總領事以下多數の共產黨員を逮捕した事件が導火索となつて、今回の東支鐵道に對する支那側のクーデターとなり、露國の最後通牒、國交斷絶、兩國軍隊の國境集中。と局面は急速に展開して世間を驚かしたが、然し之れは今に起つた問題でなく、ロシヤ革命後から初まつた支那側の東支鐵道回收の連鎖劇の一節をなすもので、支那としては豫定の計畫を實行したに過ぎない。

所謂滿洲は日露支三國勢力の交錯地であつて、背後に於ける三國國力の消長によつて滿洲に於ける日露支の勢力消長を來し、それが鐵道を通じて現はれて居る。帝制ロシヤの東方經路は東支鐵道の敷設となり、各種附屬の特權を獲得し鐵道沿線に一つの勢力圈を造り上げ、嚴然として北滿に動かすべからざる地步を築いたが、ロシヤに革命起つて帝制滅び、ロシヤの極東に於ける勢力衰ふるや支那側の利權回收熱が起つて遂次回收の步を進むるに至つた。之の勢は東鐵が全部回收さるゝまで繼續するであらうし、それが如何に展開するかは露支兩國内部の情況と滿洲に於ける國際關係によつて定まるだらう。東支鐵道の利權は鐵道利權と之に附帶した利權との二つに分れて居るから、東鐵回收の運動も亦之の二方面に對して行はれて居る。

東支鐵道附屬權利の回收を述ぶるためには東鐵附屬權利の概要を說明する必要がある。第一には東鐵には鐵道用地や附屬建物の敷地の外に廣大な附屬地があつて、眞に鐵道に使はれて居るのは約二割、殘り八割は工業地及農業用地である。それから鐵道兩側各三十支里以内の炭鑛の採掘權、沿線に於ける森林伐採權がある。又松花江に於ける航行權を獲得してこゝに三個のロシヤ汽船會社が航路を開き政府の補助金を受けて活動した。次には警察の私設、軍隊の駐劄、ハルビンに於ける自治市の施設等があつた。之れに對し、支那側の回收運動は帝制壞れ勞農政府の勢力が未だ極東に及ばない機會に乘じて火蓋を切つた。

第一には一九二〇年三月東支鐵道從業員がホルワット長官排斥の同盟罷業を起すや、鮑督軍は疾風の勢を以て武力により罷業委員會本部を占領し、同時に露國兵營を襲ふて其武裝を解除し、一擧にホルワット將軍を失脚させ沿線一帶の警備行政權を其手に收めた。次で一九二〇年九月支那がロシヤ租界を回收し領事裁判權を撤廢するや、同時に東支鐵道の露國司法權も回收された。次には支那一流の方法を以て一九二四年東支鐵道治下の租借地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を全廢し、自ら土地局を設け、純鐵道用地を除く鐵道沿線附屬地全部を管理するに至つた。之に對しロシヤが其不法に抗議したのは勿論であるが、一九二六年になつて土地回收は實質的に成功した。然し鐵道用地と然らざるものとの識別困難で今日まで懸案になつて居る所が少くない。次には航行權の回收であつて、一九二三年一月二十二日張作霖は東支鐵道督辦王景春に電命し、露國汽船の松花江航行を禁止した。然しロシヤ側では之を承知せず、依然航行を繼續して居たが、一九二六年九月に至り、支那側は東支鐵道船舶を八區の倉庫、各事務所及各埠頭と共に沒收した。

次ハルビンは一九〇七年ロシヤ統治下に自治制が布かれ、外人課税問題から一九一四年英露間に協定成立し、露人は英人の市政參與權を認め、其他の外人又之に倣つたが、一九二六年三月行政長官張煥相は市會のクーデターを行ひ、市會を乘取つたので、其結果英露協定の廢止となるので、忽ち領事團の抗議となつたが、支那側は之に頓着することなく、十月には正式市會を成立させた。然し領事團と支那側との抗爭は今日に至るまで繼續して居る。其後東支鐵道經營の學校經費を支那教育管理局に引渡す問題も、勞農側はかなり强硬に抵抗を續けたが、結局讓歩の止むなきに至つた。かくて東支附屬利權は概ね支那側の手に回收さるゝに至つた。

東支鐵道は一八九六年九月八日支那と露亞銀行の間に結ばれた條約により敷設され、表面該銀行の名になつては居るが、露亞銀行は五百萬留を出資したるに過ぎず、其後露國政府の支出は前後通計三億四千五百萬留と云はれて居るから、實際は露國政府の經營である。然して該鐵道は運轉開始の日から三十六年後には支那に回收の權利があるが、完成は一九〇一年秋であるから、回收期は一九三七年になる。然し支那が一九三七年になつて回收を行ふためには、四億萬金留に近い鐵道建築總額を賠償しなければならぬ。それが出來なければ無償期間八十年、其後六十年に短縮されたから一九六一年まで俟たねばならないが、之れは双方共に支那の堪ふる所でない。そこで支那としては、機會を求めては逐次回收する方法に出で今日に至つて居る。

一九一八年帝制ロシヤが沒落し、列國の共同出兵から東鐵の共同管理となり、それが終ると支那は勞農勢力が未だ極東に及ばない機會に乘じて東鐵回收に一歩を進めんとしたが、恰も當時東支鐵道側では鐵道を勞農政府の手に奪はるゝを虞れ、フランスの三色旗を揭げたりして狼狽して居た時であつたから、こゝに露亞銀行と支那との間に假協定が出來て、東支鐵道は遂に露支共同經營となり、之を純然たる商業的のものとし、管理の最高機關として理事會を設け、双方五名の理事を出した。然るに一九二四年露支協定成り、露支協定も成立し、共同經營の原則を確認し、理事會を設くるの外、從業員は之を露支折半とし、又收益金は之を東三省とロシヤ側で均分することゝした。又同鐵道の營業事務を除き、司法、民政、軍務、警察、市政、税務、地上財産等は凡て支那官憲が之を管轄することゝ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

した。更に東鐵の無償回收期限は八十年から六十年に短縮された。

然し東支鐵道が共同經營に移されたとは云ふものゝ、それは名儀だけで實權は依然としてロシヤ側の手にあつた。理事會は露支各々五名づゝであるが、理事會の空氣はロシヤ側理事により左右されて居た。然して鐵道の實權を握つて居るのは東鐵管理局であつて、重要業務は露人の局長、副局長の手にあり、局内各處の處長は一二重要でないものを除き凡てロシヤ人であつて、支那人は副であつた。一九二八年には全員中支那人が百分の三十五を占めて居たが、其中通譯、書記、事務員や下級雜役夫の如きものが多く、高級職員は甚だ少かつた。そこで支那側では從業員は單に人數を均しくするだけでなく、各職務に就ても均等にすること、管理局長の權限を縮少して理事會の職權を大にすることに努めた。かくて最近に至つては支那側從業員の數は次第に增加し、且つ重要な職にも就くものが出來て來たし、又理事會では支那側が却て指導的な立場に立つに至つた。そこで今度は副局長に支那人を置き、露人局長を制肘せんとして其要求をなした所が、ロシヤ側で之を拒絕したために、赤化問題を撒き出してクーデターを行ひ、先づ通信機關を占領し、局長、副局長の椅子を始め、各處長を皆支那人で占領して事實上東支鐵道の管理權を奪ひ、且つ凡ゆる鐵道の機關から露人の勢力を一掃した。之れは一つは今後の交涉に於て自己の立場を有利にせんがための手段とも思はれる。

支那側が從來東支鐵道回收のため採つた手段を觀察すると、何等かの口實を求め、凡ゆる機會を利用して一步づゝ進めて來るもので、決して一擧に事を荒立てゝ相手に乘ぜしむるやうなことをしなかつたが、今回は從來と異つた荒仕事にかゝつたのは、そこに何等かの理由がなければならぬ。

今度のクーデターが行はれたのは七月十日であるが、既に六月十五日の東三省最高會議で東鐵全部の回收を決議して居るから、決して偶發的のものでなく、之の決議は北平に於ける蔣、閻、張の巨頭會議以前であつて、其時には既に決定され、たゞ國民政府に計劃の承認を求めた位のものであつたらう。そこで決行の動機とも見るべきものは、第一從來の經驗から見て、かなり手荒いことをしても、ロシヤは武力に訴ふることなく、泣寢入りに終るであらうと見たこと、第二は五月二十七日に行はれたハルビンに於けるロシヤ總領事館搜索事件は東鐵回收には甚だ好都合な材料であつて、萬一失敗した場合には單に赤化取締りのため採つた處置であつて、東鐵回收ではないと辯明し得ること、第三には張學良と馮玉祥との關係は好くないので、馮と關係ありと見らるるロシヤの勢力を北滿から驅逐することは、張學良に取つては必要であらう。第四には張學良が東支回收に成功して其地位を堅め、又最近營業良好に向ひつゝある東支鐵道の回收による收入を增加し、第五には日本が民政黨內閣となり幣原外交が復活した機會に乘じて日本の干涉を避けて東鐵回收を斷行し、南滿回收にも一步を進めんとしたもの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あると思はれる。

之に對しロシヤは始め全く不意を襲はれた形であつたが、次で支那側の豫想に反して強硬な態度に出で、最後通牒、斷交、武力の國境集中と矢繼早に支那を威嚇して其立場を有利にせんとしたのは、第一從來から氣懸りであつた日本の態度が、民政黨内閣の成立により安心し得るやうになり、第二には從來の經驗から見て、普通の方法では支那に乘ぜらるるのみで、之の際武力を以つて威嚇を加へる外には交渉を有利に運ぶ良法なしと見たからであらう。そこでロシヤとしては、ウラヂオとの緊要な交通路だから之を捨てる譯に行かず、露支共同經營の原則だけは確保し、多少は支那側に讓つて解決したいだらうが、支那は始め餘り強く出た關係から、こゝで急に折れるのは張學良から引いて南京首腦部の地位まで危くなるので、何んとか巧く瀰縫し、今回一擧に回收に成功しなくとも、出來るだけ[illegible]上、考へで、結局そこらで落

解決までには未だ種々の迂餘曲折を見せるだらう。然も之れは既に述べたやうに、東鐵回收運鎖劇の一齣であつて、結局支那の目的は東支鐵道全部の回收に在るから、問題は之れで解決した譯でなく、今後も度々之に類似した事件が繰返さるゝことであらう。(七月三十一日)

奥村眞次著 ——最新刊——

現代 英國經濟研究

四六判上製　定價壹圓五拾錢　(送料二十錢)

英國は經濟上、政治上、社會上、坦々たる常道を濶歩する老大國である。而して凡そ原則を知るは例外を察する所以なれば、各國の前途を思ふ者が等しく先づ同國情を顧るは蓋し當然である。殊に第二次勞働内閣が悠々政權を獲得した今日、此國の研究は愈々必要を加ふ。本書は滯英中の著者が英國の對内外經濟策を細大洩らさず檢討して故國に訴へたもの、資料は直接且精確、識見は高邁、叙述は平易。世界と日本の將來を知らんとする者にとりて必讀の好著である。

發行所　改造社　(振替東京八四〇二番)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

…との緊要な交通路だから之を捨てる譯に行かず、露支共同經營の原則だけは確保し、多少は支那側に讓つて解決したいだらうが、支那は始め餘り強く出た關係から、こゝで急に折れるのは張學良から引いて南京首腦部の地位まで危くなるので、何んとか巧く瀰縫し、今回一擧に回收に成功しなくとも、出來るだけ喰ひ込んで置きたい考へで、結局そこらで落着くだらうか、ロシヤと支那の角力だから、

……原則を知るは例外を察する所以なれば、各國の前途を思ふ者が等しく先づ同國情を……は蓋し當然である。殊に第二次勞働內閣が悠々政權を獲得した今日、此國の研究は愈々必要を加ふ。本書は滯英中の著者が英國の對內外經濟策を細大洩らさず檢討して故國に訴へたもの、資料は直接且精確、識見は高邁、叙述は平易。世界と日本の將來を知らんとする者にとりて必讀の好著である。

發行所　改造社（振替東京八四〇二二番）

藝術の社會的地位について

（游歐雜記の序）

阿部次郎

51

漢學者は洒落本に口火をつけた。併し漢學の影響が引續いてその內容を支配したといふわけではなかつた。「聖遊廓」で、人我を牛といふ時は我に牛の性ある事を知ると云つた老子大盡は、間もなく大阪から江戶に引越して、その後ほぼ十年に出た「遊子萬言」では、差合のある女郎を廻し部屋に待つ平大盡に變通してゐた。さうしてこれに配される者は、最早孔子や釋迦ではなくて、「どこでも吉野木〳〵、これ色男こつちへ來のめ田樂〳〵としやれをいふ」鼻持のならぬ通り者やその連の初心な息子などであつた。さうして洒落本の絶えざる流れは寧ろこの「遊子萬言」から始めて流れ出す。その後と雖も漢學書生がこの方面に手を出さぬことはないが、彼は最早唐天竺の遊客を案內する通事ではなかつた。彼は完全に俗文學の勢力に降參する。故に此處では彼等の創造的意義と云つても知れたものである。

併し讀本の方面ではさうではなかつた。讀本作者は長く漢學に源の補給を仰がなければならなかつた。其處には水滸傳や三國志のやうな稗史から鵬齋志異、剪燈新話のやうな奇事怪談異聞集まで無限の寶窟が橫はつてゐたからである。固より瓢水子松雲の伽婢子（寛文六年）のやうに剪燈新話を飜案したものが早くから行はれて、版を重ね、類作を喚び起してゐたとは云ふものゝ、それが一般的流行となるには、唐以後の俗文學の理解が廣まり、學者の注意が先づその方に向けられなければならなかつた。さうして徂徠學以後儒者の興味が純經學を離れて詩文に向ふ一面を生じ、長崎に於ける淸人との交通が漸く古典語以外の漢文學の理解を深めるに從つて、遂に其處には稗史小說戲曲の流れ込むべき水門が開かれた。長崎の譯官であつた岡島冠山（享保十三年）等が先驅の功を負うべきである。さうしてからいふ時

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

勢のうちに、大阪の都賀庭鐘が「古今奇譚英草紙」（寛延二年板）によつて讀本の鼻祖となつたのである。飜譯と飜案と換骨脫胎とが交互して、最後まで讀本作者の構想を支配してゐたといふことは、馬琴の日記や書柬を通してその樂屋を一瞥することによつても、容易に推想することが出來るであらう。建部綾足の「本朝水滸傳」（安永二年）は「後の才子是を見て、國字の稗史を作る者尠からずなりぬれば、今の戲作者の陳勝と稱するとも過たりとすべからず……其おもむき水滸傳を摸擬したれども、水滸の古轍を蹈ずして、別に一趣向を建たるは、當時の作者の及ばざる所也、實に今のよみ本の嚆矢也」といふ馬琴の稱讃を博する（江戶作者部類）。さうして上田秋成の「古今怪談雨月物語」（安永五年）は邦化の手腕に於いて更に數歩を進めてゐるが、その文辭的骨法は、國文の影響よりも寧ろ支那小說から得て來たと見るべきである。全篇を貫く鬼氣と、婦女子の「淫しき性」に對する觀相は、作者自身の性情に基くこと勿論であるが、それにしても支那怪奇譚の先蹤がなかつたら、この物語は決して生れることが出來なかつたであらう。併し雨月物語は作者自身のものを持つてゐる意味に於いて特異の位置を占める。讀本界の大王馬琴の作品も、人生に對する獨得の味覺を持つてゐる點に於いては遂に秋成にかなはない。

讀本の發生が古今奇譚に始まつてゐる事實は、それが當時の社會に如何なる役目を持つてゐたかを推察させる。榮螺の殼の奧へ奧へともぐり込んで行く大通文學、通變文學、半可通文學の流れは、單に娛樂を求める動機に對してすら十分の滿足を與へ得なかつたであらう。人は一二の庭に花木を植ゑ込む外に、名山大嶽を跋渉し、深山幽谷を探らむとする衝動を感ずる。もつと不思議なもの、珍らしいもの、怖ろしいもの、展望の廣濶な、波瀾曲折の多いものゝ中に遊はうとする要求がおのづから心の底に眼ざめる。娛樂が主動機となつてゐるために、人生に於ける第一義的なものゝ探究が構想や描寫の樞軸となることは出來ないまでも、珍奇や曲折や變化を求める構想の中に、眞面目な深い觀相や思想がおのづから織り込まれることは、從來の浮世草子洒落本の類に比して遙かに可能の度が多くなければならぬ。故に吾々は吾々の當面の問題に就いても、何等か注目すべき發展を此處に期待することが出來さうに思はれる。併し事實は果してどうであつたか。——實際それは人間の性格や運命や、人生觀相世界觀相等を取扱ふ權利を全然拋棄したのではなかつた。人生を全體として取扱ふ必要と自由は、おのづからその態度を洒落以上のものとした。讀本によつて文學が幾分人生の中心に近づけられたことは、何と云つてもその功績として認めなければならぬ。併し其處には自然と現實とに對する敬虔と信仰とがなかつた。それは人生の自然と現實とを探究してその深い意味を闡明することを文藝の本義とする信念の缺乏を意味するのみではない。藝術家の夢幻は人生の本質の象徵的表現であるといふ信念の缺乏を意味するのみではない。それは娛樂としての夢幻も亦自然と現實との觀照の上に築かれなければならぬといふ義務を忘却してゐることを

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

意味する。故に其處に描き出されるものは單純に空中樓閣である。その空中樓閣は時として設計と構造とに於いて壯大であるが、自然と現實とを輕視して、其處に基礎を築くことを怠つてゐるがために、讀者の現實生活との間に充分の接觸點を持つことが出來ない。故にそれは人の生活や思想に對して恒久的の影響を及ぼす力を缺いてゐるのである。面白く讀んだあとに殘る、生の高揚の味覺を缺いてゐるのである。

かういふとき私は主として馬琴の作品を眼中に置いてゐる。讀本の代表的作者として馬琴をあげることは何人にも異議がないであらう。それは讀本作者のうち最も尨大な作品を殘したのが彼であるからではない。その時代の讀本に對する要求が、最も多く彼によつて滿足させられたからである。私は敢て云ふ、その要求といふのは廣潤な波瀾の多い娛樂であつた。馬琴はこの娛樂を最も多く提供したが故にその時代に輝いた。彼の作品の中には當時の「士君子」に面を背けしむべき雜穢の目立つものが少かつたが故に彼の名聲は一般的であつた。併しそれは必ずしも彼の藝術の本質的偉大を證明するものではない。彼がその作品中に建立したものは、偉大な娛樂であつて、偉大な人生ではなかつた。故に戀愛文化に對する關係に於いても、彼の尨大な作品は、徹候的にも創造的にも、殆んど洒落本以下の價値しか持ち得ないのである。

彼が單なる娛樂以上、勸善懲惡の倫理的目的を以て筆を執つたことについては、私は何の疑を挾むべき必要をも見ない。彼の世界に前世の約束、因果應報の思想が橫流してゐることは、半ば支那小說の借用や結構上のトリックであるにしても、殘る半分が彼自身の信仰によつて裏附けられてゐることは、彼の「改過筆記」にあらはれた家相方角等に對する拘泥の程度から推して、信じてもよいと思ふ。彼の藝術の禍となつたものは、必ずしもかういふ倫理主義、かういふ運命觀ではなかつた。併し彼は此等の倫理的理想に對抗したり、受入れたりして、その實現の過程と交涉すべき人の天性、性格愛憎、利慾等を深く把握し個性的に描寫する點に於いて殆んど無力であつた。又彼の感ずる超自然的な因果の干涉を受くべき主體──その頑強な、測り難き必然の運行を容易にまげることなき自然の物理的並びに心理的因果律の力强さに對して殆んど盲目であつた。故に彼の道德律と前世の宿業とは、人性と自然とを蹂躪して恣に橫行し、彼等自身の勝手な世界を造り上げる。其處では關係する兩項の一方が零に近づくが故に、殘る二項の力も結局は零に歸する危險に臨まなければならぬ。──此處に彼の藝術の致命的な缺點がある。彼の藝術には、現實感を缺如する理想主義者の悲慘な弱點があらはれてゐるのである。彼の戀愛觀は佛教の戀愛觀を少くともその主張に於いては、殆んどそのまゝに受繼いでゐると云つてもよいであらうが、彼の作品によつて忠臣節婦がその立場を持こたへる力を與へられた例があるかどうかを私は疑ふ。それは彼の壯大な說敎が砂上に打たてられてゐるからである。人生の怒濤と戰ふものは海濱の砂上に久しく立どまつてゐることが出來ない。砂は足下から崩れて彼は間もなく足を浚はれるからである。現實と自然との蔑視

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は、彼の砂上樓閣を極めて脆弱なものとする。浮世草子や洒落本の讀者は他の遊蕩がこれによつて支持され奬勵されるといふ意味に於いて、兎に角に作品の力を感じ得たであらう。馬琴の愛讀者は、彼が自分の夢想を勝手に作品に投影する少年の時代を過ぎて後、洒落本がその讀者に對すると同じ程度の支持と奬勵とを彼の作品から受けることが出來たであらうか。

馬琴の作中、一人の女性がその運命のあらゆる局面を通して、最も詳しく、貫いて描かれてゐるものは、私の知つてゐる限りでは「近世說美少年錄」のお夏である。お夏は女歌舞伎の座頭を母として生れた京都の舞妓である。母は病歿する。彼女は彼女に入れあげた結果つひに破產した田舍大盡木偶介といふ醜男と彼の連兒小夏と三人、せうことなしの共棲を續けてゐる。一日野路の俄雨を避けて佇む辻堂の前で大內氏の臣陶瀨十郎と逢ひ、相合傘で彼を伴ひ歸つて、其處に一夕の奇緣が結ばれる。其後暫く打絕えてゐたが、公卿某の山莊に再びゆくりなく落合ふたとき、お夏は遂に瀨十郎の胤を宿し、產落した子を珠之介と名けて、お人よしの木偶介に眞實の子と思ひ込ませて置く。家主の息子、ならず者の鉋九郎がお夏に對する橫戀慕の成らぬ恨を報いるために瀨十郎を闇討する。事は鉋九郎の服罪によつて無事落着したが、そのために瀨十郎は周防の山口に歸さるゝ身となり、お夏は木偶[illegible]ることになつてしまふ。然るに斷

介が命を助けたさに遂に賊黨に伴はれて、二賊の一日交替の妻となる。其處に起居すること七年、一日好機を得て二賊を相殺せしめ、珠之介と共に山中を逃れて、偶然の機會から豪農福富太夫の家に身を寄せたが、瀨十郎のことを忘れ難く、暇乞して珠之介と共に遙々周防まで尋ね下る。併し瀨十郎は軍を督して境にあり、旅宿に滯留してその歸りを待つ間に、愛兒珠之介は不良兒に交つて旅費をくすね費し、剩へそれが盡きる頃瀨十郎陣歿の噂が傳へられる。彼女は窮して其處の旅亭に歌妓となつたが、偶然其家で舊知辛踏无四郎に逢つてその久戀の情をきき、寄る邊なき身を遂に彼に寄せてその妻となるのである。无四郎はお夏を伴つて一旦京に歸り、その主家敎賢卿に珠之介を托して、お夏と共に更にその鄉里陸奧國に歸住する。併し事によつて鄉を出で又近江に來て、其處で珠之介に邂逅するが、彼はその後の流離顚沛の生活によつて、益々邪智無賴の惡漢になつてしまつてゐる。彼は繼父の金を盜まうとしてこれに致命傷を負はしめる。お夏は復寡婦となつて遂に剃髮する――これが彼女の一生であつたのである。彼女は多くの男の間を轉々しつゝ深くこれを恥づる心もないが、寄る邊なき身の成行くまゝに決然としてこれに抵抗する意氣がなければこそ流れのままに流れ行くのであつて、その情を一貫して瀨十郎に寄せてゐるところを見れば、決して淫婦ではないのである。さうしてその子珠之介に對しても、彼女は賢母ならぬ慈母としてそのための勞苦を厭[illegible]其の美と心性の[illegible]と、頭腦の凡常と機智の薄弱と、

からいふ色々の性質を寄せ集めた一女性の性格を發見して、これを數奇な運命の中に投げ込む馬琴の着想は確かに面白い。さうして彼女に對する作者の取扱ひも、決して淫婦を笞つ道義的憤慨の態度ではなかつた。彼は寧ろ、全體として見れば、靜かな同情を以て彼女の運命をあとづける。故に讀者の心に殘る道義的印象は、勸善懲惡といふよりは藝術的に云つてもつと深いものである。それは善惡の詮議を超えて、不幸な、善良な、過失多き者に對する哀憐である。併し馬琴の効績に對する承認は此處まで來て行詰る。馬琴は藝術的自覺を以てこの哀憐の情の上に描寫の腰を落付けることを知らなかつた。「これを一期の別とは、知るやしらずやしら雪と、流るゝ水の定めなき、人さま〴〵の江湖上に、一世の夫婦ありといへども、なべて百年の情人なし、倘人情をもてこれを見ば、女貌郎才憐むべし、亦公道をもて論ずれば、淫德亂行、人にして、人にも似ずといはまくのみ。噫嘻」（第一輯第六回、「美婦子を携へて情人を送る」）――彼は「物の哀れ」の信念に徹することを知らない。彼の藝術的信念は寧ろその正反對の「教誡」にある。「儒者ごゝろ」にある。併し彼はこの儒者ごゝろを以て一貫することも出來なかつた。彼は事實上物の哀れの見方に掣肘を受ける。「情をもてこれを見」る見方が知らず識らず彼の教誡主義を裏切る。この態度の分裂と動搖との間に、時としてお夏のやうな性格と描寫とも生れて來るのである。たゞそれが根本態度の動搖から偶然に生じて來る現象であるが故に、同情そのものが淺薄にして不純である。それは對象の底に徹して其處から珍寶としたものを拾ひ出して來ることを知らない。この珍寶としたものを全體の背景として、お夏の性格と境遇とを――彼女の善良と、痴愚と、無操守と、戀と、慈愛とを――描き出すことを知らない。作者が一つのお夏を以て彼女の各方面の描寫を裏打する秘密を解せざるが故に、結局讀者はばら〳〵に描き放しにされたものを自ら繋ぎ合せて、お夏の性格と運命とに興味を寄せるより仕方がないことになるのである。凡そ如何なる教誡主義と雖も、それが物の哀れの上に附加されたものとしてのみ始めて藝術的存在を許される。先づ本居的信念を攫む前に、その儒者ごゝろの跋扈するに任せたのは、馬琴の藝術觀の――從つて又藝術的實行の致命傷と云はなければならぬ。作者の同情が、正に近松の認めた「年はも行かぬ娘をば」流の七五調の道行乃至さわりとなるところにのみ表現されるのはあまりにやすつぽい。お夏の性格と運命とは、物の哀れの立場から性格の全體を一つかみにすることの出來る頭腦が書きなほすことによつて、始めて藝術的な深さを獲得するであらう。

一度吾々の眼が馬琴の教誡主義の裏に――彼が實行上とりはづしたところに――及ぶとき、其處には更にいろ〳〵な者の姿が浮び出して來る。「人情をもてこれを見」るのは、恐らくそのうちで最良のものでなければならぬ。「美少年錄」の構想を導くものは決して勸善懲惡や物の哀れの見方のみではない、其處には殘虐、破倫、淫蕩等を喜ぶ趣味も亦參加してゐるのである。お夏が兩賊隔日の妻となる構想も既

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に頽廢趣味の感染を思はしめるものがあるが、更にこれを福富の孫女黄金に繰返させて、夫ある女がその義弟とその賓客とに隔夜の來訪を許すところを細叙するのはあまりに執拗であると云はなければならぬ。假令それは老蛇の再生であるといふ理由を以て作者のために辯疏するとするも、彼が緊張せる教訓や蛇性の淫の興味を主眼としてこれを描いてゐるのではないことは、行文の間に既に明白である。さうして「爾後は又何をかしけん、舟底形の木枕の、折々轢る音のみして」といふやうな文句（二十四回）を用ゐたり、怪賊の美人局に逢ふ福富老人の痴態を描いたりするところに、吾々は明かに黄表紙合巻の作者を――黄表紙よりも遙かに濃厚な描寫を欲するが故にこれに甘んずることを得なかつた黄表紙作者を――見るのである。私は寧ろかういふ方面に、時代の趨勢を示す徴候的價値を見る。說教者馬琴も亦その時代の子に相違なかつたのである。恐らく彼の讀本はかういふ反面に於いても亦時代の要求を充した。孔孟の說教には耳を傾けぬ者も、馬琴の說教には、特別の意味の面白さの故に、耳を傾けることを辭しなかつたであらう。さうして知らず識らずその面白さに感染して行つたであらう。この意味の面白さに感染することは、少くとも衞學的に云つて倫理的道德を意味するのである。

[illegible]いつは前に汝か、馬琴は現實[illegible]

多慾を以て生活することから必然に産れて來る現象ではないからである。又馬琴が諄々たる家父の如き老實を以てそれを說いてゐるやうに、處世上の智慧を多量に持合せることによつても、自然と現實との藝術的把握が行はれたとは云へないからである。それは自然と現實との底を流れる必然的な力を見拔くことである。この力に對して敬虔の感情を献げることである。如何に現實慾を持ち世間知に豐かなものでも、この力を無視した構成に堪へる者は現實感を持つてゐないのである。馬琴の藝術には正にこの意味の實感が缺けてゐた。故に彼は、彼の現實慾や世間智を多量に持込んだ老父の空中樓閣を建てることになつたのである。固よりロマンティックな夢幻の藝術もその夢の中に人生の秘奧を見せることによつてその現實感を裏書することは出來る。近松の時代物はその夢をする〱と柔かに現實から拔け出させる意味に於いて、又その夢の中にエッキスにした感情の深みを見せる意味に於いて、このロマンティックな文藝の長所を多量に持つてゐた。併し馬琴の空中樓閣は一方に於いて煩苦しい現實性を――特に歷史的現實性と處世的怜悧とを要求しながら、而も一方に於いて現實の理法を――彼自身の中に動いてゐる心理的事實の理法をも――輕視し踩躪して、其處に道德律と因果應報との手製の世界を建立するのである。故に其處には覺めむとして覺めかねる夢のやうな、夢に入らうとして入り兼ねる現のやうな、不快な矛盾のあと味が舌頭に殘される。この[illegible]よるやうな、ドン・キホーテ的

精主義の緊張によつても救はれることが出來たであらう。併し馬琴の現實感の缺乏はこの意味に出來上つてゐるのではなかつた。彼はその時代の子として、官能的な、並びに功利的な多量の現實慾を持つてゐた。さうしてこれをそのまゝ彼の空中樓閣に持込んで、彼の空中樓閣の教戒主義と兩立させることが出來るほど現實感を缺いてゐた。其處に世故に長けた理想主義者の、現實の根柢に對して盲目な弱點が暴露されるのである。

52

洒落本は寛政年中兩度の禁止以後、ただ時々のこぼれを出すに過ぎなかつたが、それは幕府の禁令を俟つまでもなく次第に衰微すべき内部的理由を持つてゐた。題材の範圍が局限されてゐるために、何か他の活路を見出さぬ限り、結局前作を繰返すほかなかつたからである。その上にもつと廣い世界と一貫した筋に對する欲求が既に十分に眼醒めてゐた。讀本が外から洒落本の領域を蠶食して、文化文政天保に於けるその最盛期を現出するとともに、もつと筋と甘さとを持つ人情本が新しく内から生れて、その老親の隱居のあと目を繼いだ。これに隣家の黄表紙も亦同樣の事情から産れて來た合卷にその代を讓つて、此處に化政から天保にかけての新なる向ふ三軒兩隣が出來た。すべてを通じて、もつと幅のある世界へのあこがれが流れてゐるのである。

然しこの幅のある世界の要求の根柢は、もつと廣さと深さとを持つい人生を見ようとするところにあるのではなかつた。讀者の側から云へばもつと喰ひ出のある娛樂を求め、作者の側から云へばもつと讀者を醉はしむべき媚藥を提供するのがその主眼であつた。故に藝術的純粹は益々損はれて、さらでも甚しかつた向上の意志との疎隔は層一層その度を增大する。洒落本の中、人情本の先驅をなすものと見るべき田螺金魚の「妓者呼子鳥」(安永六年刊)や梅暮里谷峨の「傾城買二筋道」(寛政十年刊)等を見れば、安價な筋を追ふために、洒落本の寫實的精神が如何に退化してゐるかを見るべきである。洒落本や黄表紙にはまだ作者の自樂を遊ばしむべき餘地が十分に殘されてゐた。黄表紙の作者が讀者と共に戲れる親睦會らしい氣分を持つてゐたことは暫く論外に置くにしても、洒落本の作者も亦舌なめずりしつゝその通の盃を啣む無邪氣さを失はなかつたことは、その序や跋によつても推察することが出來るであらう。これに反して人情本の序文は、喝采が──といふよりも寧ろ賣行が、彼等の主眼であることを極めて無恥に暴露する。彼等と雖も讀者を醉はしめるために案出した幾情景に自ら醉ふほどの樂みは持つてゐたに違ひないが、彼等は譬へば遊女の如く、原則としては讀者の機嫌を取結ぶ商賣意識を中心に据ゑて、頻りに人の顏色をのぞかうとするのである。今や作者は完全に讀者に、喝采に、利得に引ずり廻されて、自分の方から讀者に與へようとする流布(Mitteilung)の衝動を見失つてしまふ。作者の心術がどれほどさもしくなり得るかは、例へば爲永春水の「春色梅兒譽美」の本篇を讀め

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ば、あさましきまでに明かである。讀者を釣るための脚色の山、讀者に後篇を樂ましめるための說話の中絕の煩しさは言語に絕してゐる。さうしてこのさもしさに憤激することもなく、丹次郎米八の戀物語に醉ふことが出來た讀者の甘さを思へば、彼等の期待も亦向上の意志と全然きり離されて、だらしなき寢覺の夢の快さを貪ることにのみあつたことは、疑問の餘地を殘さないと云つてよからう。其處には最早これによつて通とならうといふ洒落本の讀者程度の向上心(か)さへない。黃表紙の讀者の、己れを離れた笑と諷との要求は、人情本の中に己れに媚びる夢を發見しようとする態度に變ることによつて、その純粹性を失ふ。かくて作者の心術や藝術的自覺や矜持の卑しさから云つても、讀者が期待するところの低さから云つても、德川時代の文藝は、人情本にいたつて墮落の極點に到達したのである。甘き夢の動機が戀を笑ふ動機に入替つたことも、この方面から見れば、藝術的自由の喪失の一徵候に過ぎぬといふべきである。

それにも拘らず人情本が今日の吾々にも猶訴へるところがあるのは何故であるか。見やうによつては最も小說の體をなしてゐるやうにさへ思はれるのみならず、又實際明治中期の小說に影響を與へることが出來たのは何故であるか。それは世話的戀愛描寫の强みである。消極…いつた讀本の怪奇不自然な趣向を以て吾々を反撥す…

永久な戀愛の俤を見せてゐるからである。さうして適度の長さを持ち、豐かに會話をとり入れた形態の進步が、作者の稟性と態度とによつては、相應に深入りした戀愛描寫の容器となることが出來るからである。人情本は適當に柱を動かすことによつて人間らしき調を彈ずべき多量の可能性を持つ箏のたぐゐである。それが事實上藝術的墮落の徵候となつたのは、社會と文藝との相關から來た歷史的必然の結果であつた。併しそれは同じ歷史的必然によつて、又小說的形態の進步を標識する位置にも立つてゐるのである。

同じ春水の作でも正篇の梅曆よりは續編の「春色辰巳園」の方がより多く人情本の長所を示してゐる。正編の成功によつて丹次郎米八仇吉等の名が人口に膾炙してゐるが故に、彼はもう見えすいた仕組に讀つて讀者の興味を惹く必要なく、その後のいきさつを聽かうとする世間の渴望に信賴して、まつすぐに、劇的集中を失はずに、米八仇吉兩妓のたて入れを描くことが出來た。故に所謂深川情調が素通しの眼鏡の向うに、深くはないが相應な鮮かさを以て浮び出して來る。固より龜本に於ける兩女のつかみ合ひから、仇吉の零落、兩女の和解など末尾にいたるに從つて、作者の筆は再び擦過的な、不自然な、あまつとろい運びに沈んでしまふが、兎に角描寫の自由が此處まで擴張されて來たのは、人情本が前期の浮世草子や洒落本の開拓に負うところであつて、同時に此等の先蹤が示すことを得なかつた長所である。

…比較的…驗で、浮ついたところの少い…

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

において、とり出して推奬して置くに價するものは、曲山人補綴の「假名文章娘節用」（天保元年乃至五年）である。この小説の原作者は曲山人自身であるか、補綴の言葉が示す通りに彼が他の無名者の作に手を入れたものであるか。前編の序文に「こゝにあらはす一部の册子は、いかなる人の筆に稿けむ、小三金五郎が一部の奇譚を、いと長い、い、い、い、い、やしく綴りたるを、書肆のもて來て、補ひてよと、需めにしたがひ、をこがましくも、いさゝかこれに筆を加へて、櫻木に壽くとはなりぬ」とあるのをそのまゝに信ずれば、其處には未知の原作者がかくれてゐて、私の承認しようとする長處は曲山人よりも寧ろその無名者に當るのかも知れない。天保八年同じ曲山人著の「娘太平記操之早引」の初編二編について見れば、彼の得意とするところは、キビ〱した會話、簡勁な劇的進行——並びに肉感的挑發性にあるらしく見えるが、娘節用は寧ろその初心らしい冗長な筆の運び、進行のたどたどしさ、全體の上に漂ふ、弱い、沈んだ感傷性を得色とする。時々思ひ出したやうに浮れ出す部分もないことはないが、それは原作者自身の發作であるか補綴者の挿入した賑かしであるかは問題になると思ふ。孰れにしてもこの小説は、外聞でもなく見えでもなく作者の拵へものでもない心の誠の悲劇として、確かに人情本中の一異彩である。母に後れた孤兒お龜は假名屋文字之進の養女となつて、實子金五郎と振分髪をならべて育てられる。金五郎が父の實家の養子として京都から鎌倉に下つたあと、彼女は義兄を慕ふあまりに家を出て、流れて大磯の廓の藝妓となり小三と名けられる。其處で二人はゆくりなくめぐりあつて、遂に子までである仲となるが、許嫁のお雪に對する義理にせまつて彼女は自双して死んでしまふ。筋はたゞこれだけである。小三の姉遊女賤名鶴がワキ役となるだけで、其處には挿話といふほどの挿話もない。作者はたゞひたすらに小三金五郎のあはれな戀を物語るに專心する。波瀾曲折の目を樂ましめるもののなきところが寧ろこの人情本の長所であつて、讀者は女々しいながらに眞摯な、弱い、温い同情を作者と共に主人公の上に注ぎつつ、更に角一つの人生を見たといふ感情を以て卷を閉づることが出來るのである。——小三「袖引たばこであなたのお足を、無理にとゞめた歌妓の時分は、眞のくろうも苦にならず、はやく身まゝになりたいと、樂みつきてかなしい今の身、おもへば夢のやうでございますねへ　金五郎「さうよこの子の出來ねへ時分が、ほんの色事後生樂むりなくぜつにすねたり妬たり、つらいと思ふは逢はねへ晩夕べの恨みは今夜の手くだ、おもしろい事もたのしい事も、かんげへて見るとむかしのやうだ、爺いじみたいひぐさだが、も、年はなんでも重らねへ事だ、あの時分のやうな身のうへに、もう一度なつて見てへものだ」——これは小三が金五郎によそながら最後の別れを告げるときの會話である。其處には人の心をしんとさせる或物がある。さうしてしんとすることは、眞正の悲劇的効果に屬する一つの體驗を意味してゐるのである。

併し娘節用は例外である。既に其處にあつても夾雜音となつて純粹

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の受用を妨げてゐる色々の要素が、他の人情本にあつては殆んど主旋律の位置に高まらうとする。前にあげた操の早引を一讀しただけでもその趣は十分に看取することが出來るであらう。作者が主なる興味を寄せて描寫の力瘤を入れてゐるのはお千代の「操」ではない。驕婦お玉と誘惑された繁兵衞の樣々な痴態である。さうして作者は、貞女のお千代をさへ、夢裡に、又假死の中に、惡漢傳吉の暴力を感じさせなければ承知しないのである。第七回の夜の後架のくだりなどを讀めば、單に繁兵衞の放射するものゝみならず、作者の描寫そのものが——さうしてその背後にある作者の魂の所在が芬々たる惡臭を放つてゐることは疑問の餘地を殘さぬ。この惡臭を共有するところに、この類の人情本と讀者との交感は始めて可能になるのである。固よりかういふ惡臭に享樂を發見しようとする者は、當時は勿論その後に亘つても、その數が決して少くないであらう。その限りに於いて人情本は社會的勢力であり得る。併しそれは如何なる意味に於いても洒落本と等しい意味に於いてすら、戀愛文化の進展に貢獻することが出來ないであらう。それは戀の魂を汚すのみである。さうして最良の場合に於いても、なまくらな無責任な善良さを持つ丹次郎的戀愛の型を代表するのみである。それはこの意味に於いては時代の一徴候を示すのみならず、又社會の中に積極的に作用して、今でも江戸ッ兒の（さうして恐らくは大都會に土着する大阪ッ兒、京ッ兒の末裔も亦同樣であらう）一部に色男と呼ばれる種族を創造しつゝあるであらうが、それは墮落の先驅であつて、新時代によつて滅ぼさるべきものに屬する。藝術意志のみならず生活意志の弛緩が、此處にその表現を見出してゐるのである。人情本の甘さに生活の休養を求める衝動を感ずるとき、吾々は吾々自身が墮落の淵に臨んでゐることを覺悟すべきである。

さうして合卷の世界が、人情本的戀愛と對照しつゝ而も調和する背景を描き出す。それは吾々が前に馬琴の讀本の裏面に、思ひがけず發見したものと共通の世界である。陰謀、詭計、怪奇、殘虐、慘殺——さうして戀愛に於いては無理往生の所謂手ごめ。手ごめの動機が如何に次第に喜ばれるやうになりつゝあつたか、これは重要な一つの研究題目であるが、私は、玆では、たゞその一般的趨勢を認めて置くに滿足しなければならぬ。それが人生の事實である以上に、當時の人の空想は、腦裡にこれを描き出すことを娯みとした。その衝動的な刺戟が麻痺して行く神經に快いからである。私は今合卷の考察に入ることを避けるが、上來引用した讀本や人情本をふりかへつても、吾吾は夥多の實例をあげることが出來るであらう。美少年錄に於ける兩山賊の暴虐は云ふまでもなく、操の早引にはお千代の夢があり、梅暦にも無住の荒寺に於けるお長の遭難があり——さうして娘節用に於いてすら、溺死から救はれた小三の懺悔があるのである。凡そ當時の小說中、全然この動機を缺くものをどれほど拾ひ出すことが出來るであらうか。それは相應に困難な仕事でなければならぬ。かういふ神經の疲勞と易刺戟性が人情本的甘さの背景となる。故にそれは益々一般的生

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

活弛緩の徴候と見られるのである。

併しこの背景にはもう一つ描き足さなければならぬものがある。それは道德意識の益々甚しき動脈硬化である。道德意識と感情生活との決定的な分裂である。それは一面に於いて感情生活の裏面に於ける放縱を誘發するとともに、一面に於いては又感情生活萎縮の現象を伴つて來る。道德が「重壓の靈」として感情にのしかかつて來てゐることは、合卷に於ける掉尾の人氣者、種彥の「偐紫田舍源氏」についても最もよく看取することが出來るであらう。それはずつと前にも(三十二節)云つたやうに、源氏の好色に道義的詭計の動機を與へなければ承知が出來ない點に於いても明かであるが、注目すべきは單にそればかりではない。藝術的に云つてもつと重大なのは、それが意志の散漫(Zerstreutheit)を作り出してゐることである。作者は如何なる情景に對しても、立とまつて、腰をすゑて、これを視すゑるだけの落付を持つことが出來ない。從つて其處には何等人の心に沁み込むものがない。この藝術的缺點が原作と田舍源氏との間に氣の毒なほどの對照を作り出す。さうしてこの藝術意志の弛緩と分裂とに、「旗下の士」種彥の上にのしかゝつてゐた道德意識の壓迫を讀むことは、決して私の廻り氣だけではないであらう。この時勢に生れて、誨淫の作者春水があはてゝ狂訓亭の弊衣を纏ふのは、滑稽といふよりも寧ろ憐むべしといふべきである。

かういふのが幕末の文學にあらはれた戀愛であつた。人生が再び健

全に息づくことが出來るために、其處に大地震と大津浪とが來なければならなかつたことは、單にその文藝を概觀しただけでも想像することが出來るであらう。(終)

阿部次郎著

學藝論鈔　定價貳圓廿錢　送料廿錢

○若きゴーホ ○ゴーホの藝術 ○フーゴー・ヲルフの傳 ○晩年のロダン○美の問題について等

北郊雜記　定價壹圓九十錢　送料拾八錢

○北郊雜記(十三項) ○思潮雜記(廿五項) ○雜纂(十一項)

高野辰之著

日本演劇の研究　定價四圓　送料卅錢

日本演劇の研究(第二集)　定價五圓　送料卅錢

(內容)前編歌舞伎以前。後編歌舞伎以後

發行所　改造社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

飛行機から眺めた風景印象

鈴木文史朗

一、始めて飛行機に乘る

飛行機にはじめて乘つた僕の經驗は恰度十年前に遡る。當時パリに朝日新聞の講和會議特派員として滯在してゐる時、ダヌンチオがローマから東京までの飛行を敢行するといふ報が傳へられたので、わざわざローマまで彼に會ひに行つた。ダヌンチオは快く會つて呉れ、その飛行計畫を思ひ立つた動機について――

『去る三月、雨が物憂く降る或る日のこと、自分は若い飛行將校等と、サン・ペラジオの飛行場にする事もなく無聊に苦んでゐた。當てもなく雨の霽れるのを待つ强ひられるやうな怠慢の苦痛――いはば無能な鵞鳥が大空を高翔する鷲に向つて待つやうな反感の氣持で、ぼんやり外を眺めてゐた。その時、自分の心の窓が急に美しい冒險に向つて開いた。……突然自分は、パイロットのナタレ・パリ(この飛行家は大戰中ダヌンチオの搭乘機の操縱者であつた有名な靑年名飛行家で、イタリー飛行隊のウインナ空中攻撃の時も指揮官のダヌンチオを乘せて九死に一生を得て歸り、講和會議の最中に、イタリーからアルプスを越えてフランスに飛行の際、雪の山中で死んだ)に向つて言つた――「我々は東京へ是非飛ばう。十回乃至十二回の中斷で是非飛ばう」と。すると、これを聞いた若い飛行將校達は、恰もめいめいも同じことを考へてゐて、自分は單にその推進者に過ぎなんだかの如く、一同同時に「是非飛ばう、直ぐにも飛ばう」と言ひ出した……譬へば、飛び翔けらうと待ち構へてゐた一群の渡り鳥が、先頭に立つ親鳥の命令で一度に飛び出すと同時に、空氣が一度にどつと同じ方面に動いた樣なものでしたらう……』

と、いかにも英雄的詩人らしい素晴らしい言葉を驅使して語つたものであつた。當時やつと三十歳の血氣であつた僕は、通譯を通して聽く彼のかうした言葉を一言一句ノートにとりながら、可成りな感激を覺え、飛行のロマンチック方向が眞先きに頭に入つて了つた。それか

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ら、この會見が濟むと、ダヌンチオは僕に向つて、

『あなたは、**飛行機に乘つた事がありますか？**』

と訊いた。

『一度もありません。』

といふと『そりや是非乘つて見る事だ。實に愉快なものだ。今からでも直ぐお乘りなさい。』

と言つて、その時の會見のためにわざ／＼開いて呉れた午餐會に列席してゐた日本へ飛ぶ飛行家の一人のフエラリン中尉の方を見た。フエラリン中尉は後でマシエロ中尉と二人で東京まで飛んで來、昨年はローマから南米ブラジルまでを一氣に六十時間餘の空前の大飛行を敢行した伊軍の空の勇士である。そのフエラリン中尉も同じ事を繰り返してすゝめ、

『私が操縱しませう。是非乘つて御覽なさい。』

と言つた。實際のところ、その頃僕は飛行機に全幅の信用は措いてゐ

ぐに、ローマ市郊外のチエント・チエリーの陸軍飛行場へ自動車で案内され、兩翼の長さ三間にも足りない小さな、しかし見るからに頑丈なスヴア戰闘機へ乘つけられた。——これが、僕がはじめて飛行機に乘つた理由である。

その後、イギリスに滯在してゐる間に、長岡將軍が飛行機見學に來た時、一緒にヴイカース會社はじめ三四の飛行機製作所を觀てあるいて、その都度水上機や陸上機に乘つた。ヴイツカース會社が特に我々のために飛ばして呉れたのは、當時のイギリスでは最大のアブロ旅客機で十數人を乘せ得る巨大なもので、六百馬力の發動機が三個ついてゐた。その會社の事務の話では、大戰の末期に、ベルリン市を攻擊して、一度に全市の大部分を破壞し得る爆彈を積載し得るものであつたが、製作が完了した時に、休戰になつたと笑つて話した。

それから、日本に歸つて昨年まで約九年か十年僕は飛行機に乘る機會がなかつたが、不圖思ひ立つて又乘り出した。大阪まで東海道を一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ないと僕は信じてゐる。そして、生活の單調に疲れた人や、今までに味つたことのない壯快味を得たい者、殊に自然の風景の新しい觀方を欲したり、鑑賞したい者等にとつて、最も簡易な方法は飛行機に乘ることだと思つてゐる。

二、最初の感覺と英伊機の試乘

何事でもさうに違ひなからうが、飛行機もはじめて第一回に乘る時の感覺が最も素晴らしい。それは地上から全く絶縁して地上を俯觀する快味である。僕にもローマではじめて飛行機に乘つて、ローマ全市の上を飛びながら眺めた時のすさまじい感覺は、後で乘つた飛行機では味へなかつた。第一に空中を飛ぶといふ人間の夢が、如實に自分の身の上にも實現された感激がある。それから、今まで生れ落ちるとから水平に見慣れた地上の景色を上から直下に眺める事により、物象の姿が一瞬にして變化して了ふ一種の怪奇さがある。

ローマの市街やその近郊は、地上から觀たのと空中から觀たのとでは全く別なものである事をはじめて知つた。例へばローマの市中は夏行つて見ると、日照りの結果乾ききつた白い埃が到るところに堆積して市全體がカサ〳〵して厭な氣持であるが、機上から眺めると綠樹が到るところに茂り、すが〳〵しい感じさへ與へる。橋の上から見たタイバー河は水がいつも黄色く濁つてゐて、これがあの有名な川かと、殺風景なのに失望させられるが、三千呎の高さから見下ろすと、白蛇が疾走してゐるやうに曲りくねつた流域の全體に近いものが見え、水面は銀色に輝いて美しい。カラカラ帝の大浴場の跡、サン・ピエートロ寺院のドーム、大闘技場の跡など、地上ではその巨大さに驚かされるものも、上からはたゞ子供の玩具の組合せ木や帽子のやうに可愛い目印に見えるだけである。

イギリスでは、ブリストルからサザンプトンの附近まで前記の大旅客機で約三十分ほど飛行したのが最も長かつたが、この時の景色そのものゝ印象は極めて平凡であつた。同乘した外史將軍が、「イギリスを西から東居ながらに、アプロのお蔭飛びにけるかな」といふやうな名吟(?)を、紙片に書きつけて僕に渡したのを覺えてゐる位である。それは、イングランドのこの邊は一帶の平地で、多少の丘陵はあつても、それはその時の高度と記憶する一千呎位の上空から見ても、全く扁平な地面となつて了ふからである。どこまで飛んでも、ゴルフリンクスのやうな綠草の野原の連續である。成程、イギリスはゴルフ發祥の地であるわいと、感心させられたのを記憶してゐる。

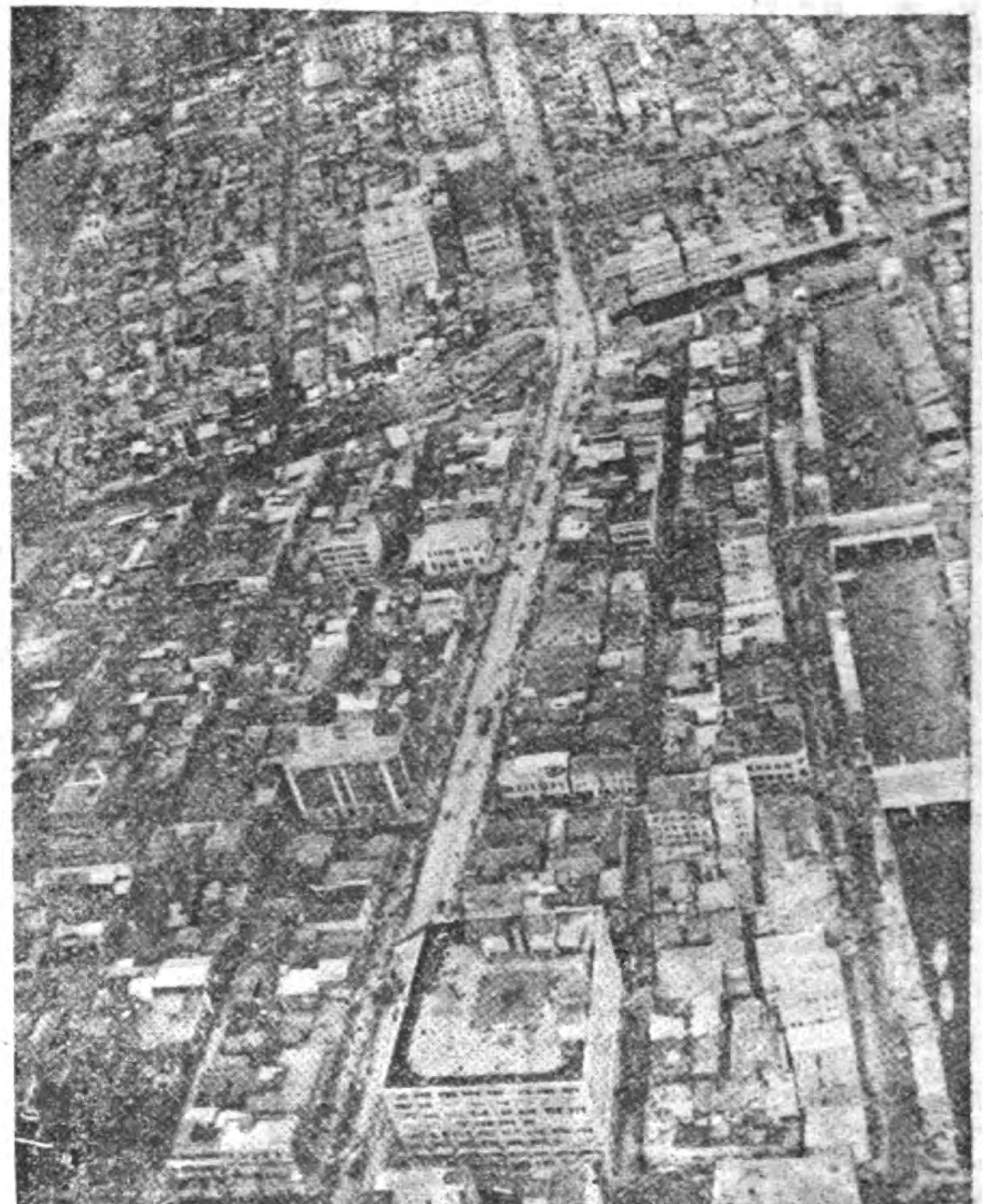
三、日本の大都市

それから、十年ほどしてはじめて日本で飛行機に乘つた時は、可成り新しい刺戟と感覺とを再び覺えた。殊に、空から見る日本の新風景を享樂した。東海道から大阪、それから東北地方の都市についていへば、さま〴〵な都市を全體的に觀察し得る愉快さである。立川の飛行場か

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ら飛び出して、東京の中心まで來て附近を一周し、更に品川あたりまで飛行して見ての最初の印象は、郊外に赤瓦の屋根の驚く程多いとである。無論これは赤といふ最も印象的な色にも因るに相違ないが、こんなにまで赤瓦が日本の近代住宅に使はれ出したかと感心させられる。十年前に、ヨーロッパを旅行して、オランダやドイツの田舍の屋根が皆赤いのを見て、いかにも外國に來たやうに感じたものであつたが、今やそれが東京の郊外の地方色となりすましてゐる！

立川から一千米以上の高空に登ると、もう小さた武藏野の展望でなくて、關東平野の展望である。南から西には箱根から甲州の山々、それに續いて秩父の連山、ちよぴり高い筑波山——古い形容だが屏風を立て廻はしたやうにこの大平野を圍んでゐる。この大外廓と大平野があつてこそ、はじめて江戸がこゝに建設され、それが大東京となつた事が合點される。平野と海と河が大都會の生れる三條件であることは社會地理學の一般的の通則であるが、それは、日本に於て殊によく當てはまる。なぜといふに、歐米ではこの通則の條件のどれかゞ缺けてゐる大都市が多く、例へばベルリン、パリー、ウインナ、シカゴ等を見れば、海か河か何れかゞ缺けてゐる。しかし日本では東京、大阪、名古屋等益々大きくなりつゝある大都會は、完全にこの條件を持つてゐる。



松屋上空より見た銀座と京橋

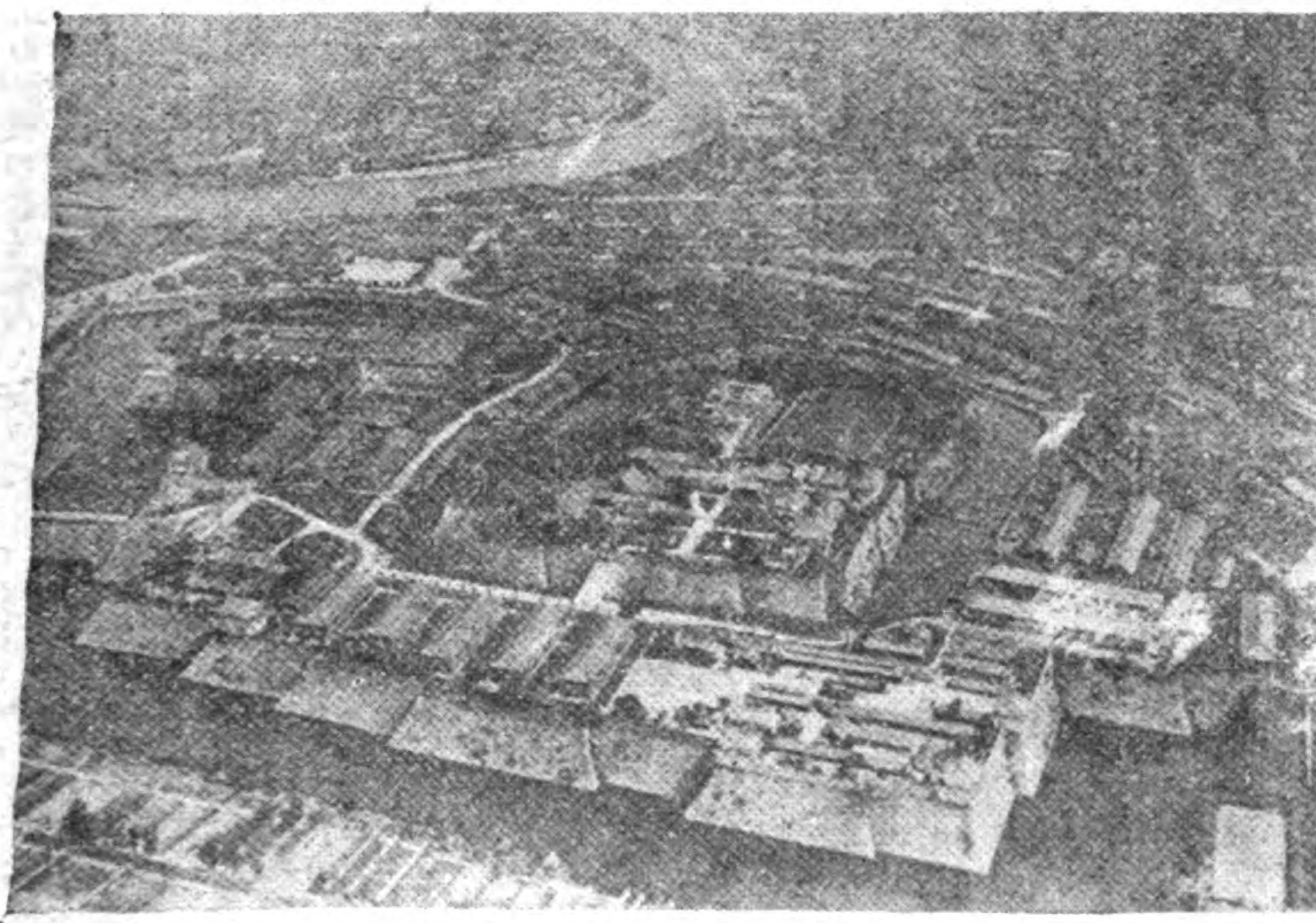
東京の空中鳥瞰圖は、その街上觀と同樣あまり見榮えのするものでない。山の手から丸の內一帶にかけて震火の災害から脫れた部分は樹木の間に街が見える程度に樹木が多く、或は家屋も近代的に整然として見えるが、その他の全市三分の二の廣さに見える大部分は今以てバラック街の集團である。一帶に黃色く、綠色がなく、震災の餘燼から煙が今にも立ちさうにさへ見える。東京の復興々々といふが、それは全體には道路と橋の復興であることが分る。どう見ても、活動寫眞撮影場のセット

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の家屋である。芝居の書割によくある遠見の町の屋根である。

これに比べると、さすがに大阪、名古屋、京都、静岡等の大都會は見るからに充實してゐる。遠江三河の山山を右手に眺めながら、知多半島の付け根を越えて、海のやうな濃尾平野に出た時の感じ、そして、そこに名古屋の淡黒い甍が、無數の木ノ葉が湖面にでも浮ぶやうに果しなく續くのを見た時の感じを忘れられない。それは、東京を大阪に向けて出發してはじめて觀た日本の大都會の空中觀であつた。名古屋城は空中から望見して、更に立派な規模のものである事を知つた。直線的な凹凸の外濠、濠から疊みあげた石壁の反り工合、その反りをその儘城廓の建築に接合させて見せた堅固な形。この下ひろがりの反りを帝國ホテルの設計技師ライト氏は、東洋式の強い形と呼んで、現にあのホテルの建物の兩翼にも應用してゐるが、その形と美を總體的に鑑賞し得たと思つた

東京や名古屋、大阪などの大都會になると、千米位の高度から見ると全體の觀望は六ヶしいが、京都は、それが比較的容易に出來る。京都の美は空から見ても、手近かな東山や比叡をはじめ四面遠近の山にかこまれた位置の美、整然たる碁盤目の街路の美である。それから諸方に突立つ高い寺の塔が、いかにもこの市を佛教の市と思はせる。加茂川は水が少いので全く榮えないが、一定の間隔を置いて架けられた多くの橋が、一種の群成美をなしてゐる。これは、東京の隅田川でも同じだ。隅田の幾つかの大鐵橋はギリシヤ型の大圓柱の群立を見るのと同じ感じの雄大さで、いかにも帝都の大河らしい偉容を示してゐる。



空から見た大阪城附近

大阪も亦市街として偉大である。僕の乘つた飛行機の發着場が城東練兵場であつた關係から、この市は二回とも低空飛行をやつたのであるが、林立する煙突に危險を感じたほどで、工業都市の感じは空から見て殊に適切である。中ノ島附近は川と堅牢な近代建築の美が、地上で見

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が、にょき／＼と建つてゐるのは、決して調和ある美しさではない。或は、醜いともいへる。

小都會は色々な形に見えるのが興味を惹く。たとへば、横濱は海鳥が翅をひろげた如く、長野は善光寺平を龜が歩む如く、關町の如きはむかでのはふ如くでもある。どの市や町も、よく見れば何ものか生物に見える。

四、山岳と山脈

日本アルプスの穂高の上から白馬にかけての上を、四千米突の高度で飛んだ時、僕は日本の代表山岳の全容とはいはぬまでも、その一部の眞髄を見たと思つた。日本アルプス中の北アルプスと稱せられる一帶の山岳の群、その中でも代表的なものとされてゐる穂高、槍、白馬などの一大連脈は、日本本土の上棟のやうなものであると豫ねて書物で讀んだが、いかさまその感じがする。穂高から槍、槍から更に白馬に貫く山岳の連續は力そのもの、象徴とでもいひ度い。殊に忘れ難いのは前穂高の筋骨隆々たる姿で、往年の力士常陸山を思はせるやうな強さがある。その前面遥か下に上高地の谿谷が淡はく見え、その上には、燒岳をはじめ幾多の山の走線が幾つもの入の字を左右から重なり合せて見える。

それから、槍を中心として、白雪を湛えた大小無數の溪谷。槍はたしかに北アルプスの王座の威嚴を持つてゐる。それは、「痛酷にして赤裸な威嚴」――Stern and naked dignity の名句以外に形容はない。


日本アルプス槍ケ岳

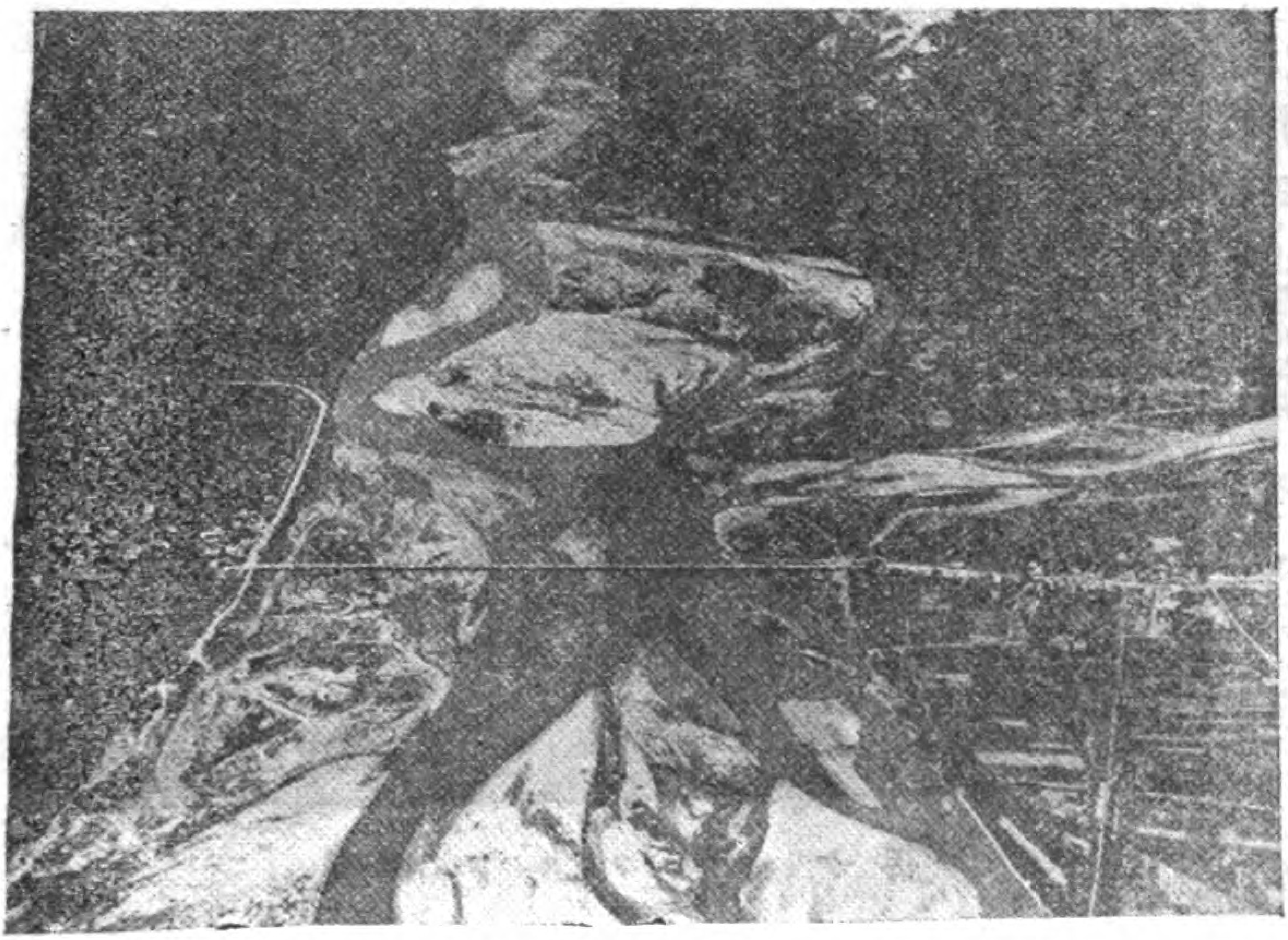
槍に率ゐられるやうに續く硫黄、湯の俣、それに併行する常念、東天井、大天井などの諸岳の線が折り重なつて、鯨の群でも見るやうである。更に野口五郎、赤牛、藥師等の山の脊は皆巨大な猛獸の脊筋だけが併列してゐるやうな印象である。白馬の大雪溪は、白布を一反空から落したのがそのまゝ曲りくねつて巨大な山塊の中腹に引つ懸つたやうな壯觀である。

總じて、日本アルプスは、日本の他の山岳に比べて著しく形が變

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つて居り、從つてそれから受ける感銘が全く別といひ度いほどである事は、空中から見て特に明確である。歐洲のアルプスはスヰスやフランスからイタリーを汽車で旅行して遠く觀ただけに過ぎないが、そのスケールを小さくしたのが日本アルプスで、而も日本アルプスの方が變化に富み、前者のやうに大味でなく、樹木の多いこと、溪谷や溪流の美しい事などは、遙かに優つてゐはしまいかと感ぜられる。日本アルプスは岩石の露出はあつても赭岩の生々しいのは少なく、全體に於て色は青か緑か黑で、到るところの雪谿や斑雪が山の線やひだを美事な浮彫りにして見せて吳れる。

東海道を二度飛びながら、機上からの富士を近くに見られなかつた事は遺憾であつたが、アルプスの上を飛ぶ時、雲表に女持ちの黑の扇子ほどの大きさに浮び出てゐるのを觀た。それは、眼前のアルプスの諸山の姿容と比べて、全然異國の山のやうにさへ思はれた。さ



川中島

ら、女性的である。たゞ淺間山の膚が赭黒く滑らかで、そしてその線が大入道の肩のあたりを思はせるやうな、また點在する岩石が入道の膚のいぼを思はせるやうな不氣味さを忘れる事が出來ない。

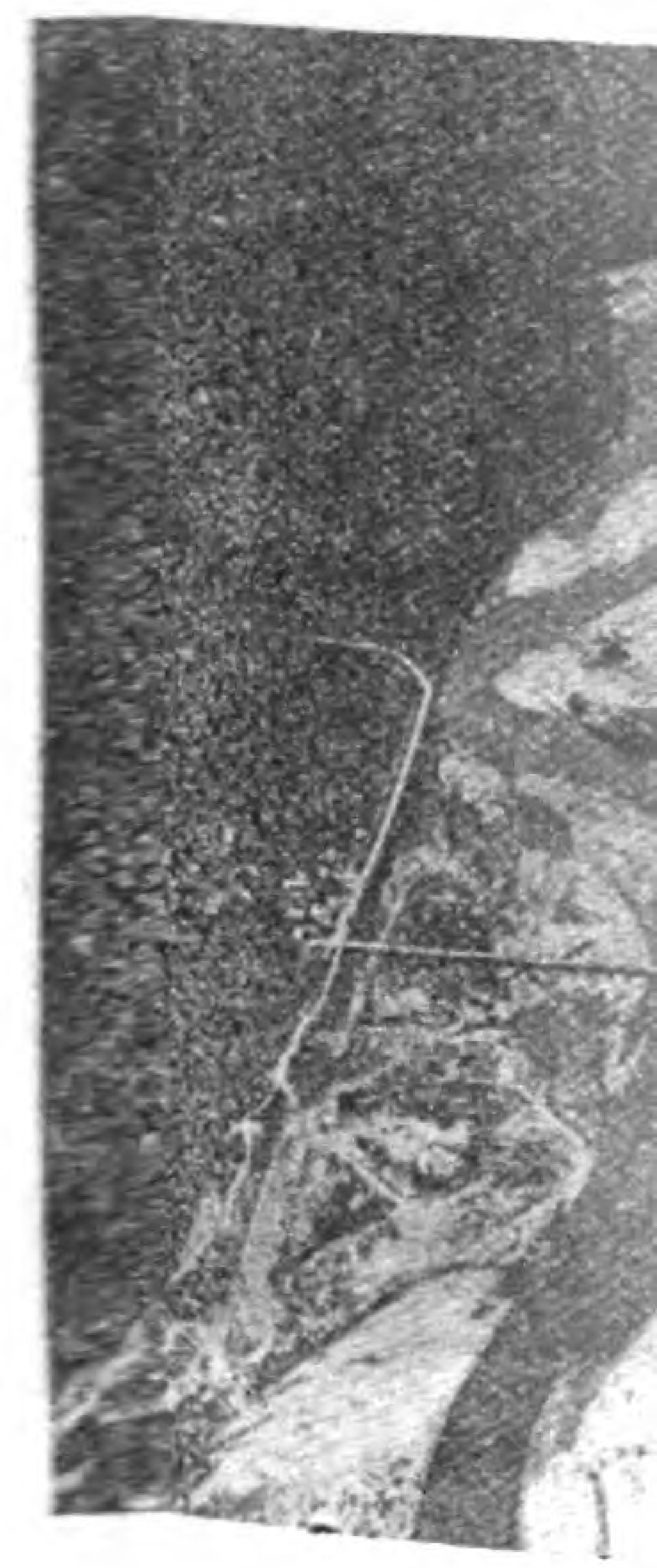
山脈では、僕の飛んだ範圍だけでは鈴鹿と秩父が優美である。立川から前橋市あたり目がけて飛行すること二十分でもう秩父連山につゞく山の波の中へ出る。それは大水盤の上へ何百尾かの鯉や鮒を放つたら、かうもあらうかと思はれるやうな形である。赭岩も土も雪も——夏の空であるから——一切なく、全連山は濃緑につゝまれてゐるが、全體は淡青く或は淡墨色にぬりつぶされてゐる。まさに、大觀の水墨繪である。

大阪から東京への午後の歸途、

鈴鹿に向つて行くと行手に

ところの雲や斑雪が山の線やひだを美事な浮彫りにして見せて呉れる。

東海道を二度飛びながら、機上からの富士を近くに見られなかつた事は遺憾であつたが、アルプスの上を飛ぶ時、雲表に女持ちの黒の扇子ほどの大きさに浮び出てゐるのを觀た。それは、眼前のアルプスの諸山の姿容と比べて、全然異國の山のやうにさへ思はれた。さうだ、日本アルプスの諸山を觀た眼には富士を[illegible]山です



はれるやうな形である。赭岩も土も雪も——夏の空であるから——一點なく、全連山は濃緑につゝまれてゐるが、全體は淡青く或は淡墨色にぬりつぶされてゐる。まさに、大觀の水墨畫である。

大阪から東京への午後の歸途、鈴鹿に向つて行くと行手に突兀た峰が聳つてゐた。鈴鹿山脈は醜で、[illegible]の上の雲[illegible]ともにこれに[illegible]してゐるのである。[illegible]

ある操縦家木下耶麿次君は機を虹の眞ん中目がけて進めた。やがて、豫期した通り篠突く大粒の雨がビシビシと機翼を打ち出した。その時眞下を見ると、虹の雨脚が左右に垂れ下つてゐた！　鈴鹿はなだらかな線の集合で、晴れた日にその上を低く通ると、機影がとんぼのやうな影をフイルムのコマの廻轉のやうに緑の山腹に落して行くのが、この上なく面白い。

箱根は、芦の湖を過ぎて、三島に拔ける時、湖水を圍む山の線が幾十條も沼津や三島の平原めがけて駈け脚で降るやうに見えるのが目立つ氣流は惡いが、飛行機の上からの箱根連山は大して印象的ではない。

五、海、河、湖

東海道を空の旅して眼を悅ばすのは、名だゝる海と灣と大河と湖水が錯綜連續して釀し出す風光の面白さである。東京灣は見當を間違へた五島鯨が岸へ向つて泳ぎ寄るやうな數個のお臺場で單調が破られてゐる。駿河灣は大きなハシリの松茸——いゝかさの開かない、頭のまんまるなやツが東海の岸にめりこんだやうな恰好をなしてゐる。赤人の田子の浦も樗牛の淸見寺も廣重の淸見寺も、二千米突以上の上空からは全く存在がない。三保の松原にしてからが、上から見ては關西人の所謂けつたいゝゝ極る形である。それは、さながら淸水港へ向つて海の幽靈がヒユードロ〳〵と芝居もどきの姿をして現はれ出たやうにしか見えぬ。しかし、駿河灣の中でも、沼津から灣入した七浦や三津のあたり殊にお椀をふせたやうな淡島あたりの眺めは、上から見ても優れた南工派の日本畫を見るやうだ。

遠江灘や伊勢灣も海岸傳ひに飛んで行けば、たゞ水の色、波の形のうるはしさに心を奪はれるだけである。これは、太平洋沿岸に限らず、荒波で有名な日本海でもさうであるが、機が難航でない限り日本の本土の海岸の上を飛ぶ位ゐ安易な氣持ちを與へることは、恐らく他にあるまい。潮流の工合により、海の水が岸近くと沖で靑と碧に變はり、風が吹けば、薄の穗のやうに靑海原に波頭が白く出揃ふ。

越後の親不知の斷涯から直江津にかけての海岸の俯瞰も亦忘れ難いものゝ一つである。冬の日は知らず、このあたりの夏の海は春の海といひたい程のおだやかさで、海岸の屈折と斷崖との趣がどの一片を切りとつても立派な風景畫だ。——セザンヌなどが好んで描きさうな明るい黃綠と靑の油繪だ。僕がこの邊を飛んだ日は、殊に靜かな朝であつたので、海面は油の如く平滑で、こゝでも機影が水鳥の如く水面に寫つた。沖には佐渡が水煙の中にぼんやりと浮んでゐた。

飛行機から見た僕の觀た河の中で、東海道では、木曾川、天龍川其の他二三の小河を除けば、富士、大井その他の大河は海近くなると實に美しいグロテスクな形相を示してゐる。河床が何尾かの鮫か平目がひつくり返へつて腹を出したやうとでもいはうか。或はその臟腑を取り出して捨てたやうといはうか。それともハムの切れを皿に盛つて出したやうといはうか。——かうした形容は何れにしても奇麗ではないが、

實際は飛行機から觀た地上の景色の中では最も美しいもの丶一つである。殊に、海岸近く淺瀬の川になると、水の中の綠の藻が洲のへりに集團をして生えてゐるのが、水瀨のせせらぎでゆら〳〵して、蓮の花かなんぞが風に搖られるやうな美觀である。川中島の空からの眺めは小大井川である。

湖は琵琶湖が優婉、濱名湖が明快長野の松原湖は一脈の凄味を持つてゐる。二千米突位ゐの高度では琵琶湖の二分の一も全觀出來なかつた。この大湖を取り卷く諸山は女人群像とでもいひたいほど物やさしい。僕はこの湖では大津の街が湖岸へこぼれ落ちるやうにひろがつてゐる景氣の好さが好きだ。いかにも、大湖が生んだ市といふ姿である。

濱名湖は端から端までその上を飛んで、小半島、小灣、小入江が多くて、まるでバルカンの縮圖でも見るやうなのに興味を持つた。海に接し、平地であるせいか、どこまでも明るく陽氣である。

松原湖は、芙蓉湖と、別名の



大津市と琵琶湖

づかれる。この湖の日本海寄りに黒姫、妙高など一癖ありげな山が聳立してゐるのが、自然凄味を與へてゐるのだらうが、一つはその三十數米突もあるといふ水深のせいもあるに違ひない。湖底にはこの湖水發生前の大森林がその儘白骨の林となつて、今でも天氣清澄の日は水面からのぞかれるといふが、僕の飛行した日は生憎、附近は薄曇りでそれは見えなかつた。それが見えたら、何よりの觀物であつたらうと思つてゐる。そして、そのためにも、もう一度あの附近を飛びたいと思つてゐる。

室生犀星著
庭を造る人（隨筆集）
定價貳圓
送料廿二圓
改造社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

左翼の具體的進出・新勞農黨の樹立へ

細迫兼光

一　提案の趣旨

親愛なる全國の同志諸君！　未曾有の狂暴なる嵐の中にも、一たび組み合せた腕は死すとも離さじと一心一體となつて戰ひ進んで來れた信頼すべき親愛なる全國の同志諸君！

（私が今、かく呼びかける以外の氣持ちを持ち得ないでゐることを讀者諸君は諒としていただき度い）

私等——大山郁夫、上村進、細迫兼光——は昨日（八月八日）突如として重大なる提案を、大膽にも個人責任に於て諸君の前に投げ出したのであります。その提案の趣旨は結局に於て、『新勞農黨』——

（一）勞働者・農民・無產市民その他一切の被壓迫民衆の利害を不斷に・強力に・現實的に・効果的に擁護伸張するために、大衆的日常鬪爭主義を全活動の基礎とする。

（二）かくて個々の場面に於ける鬪爭を、政治的要求にその必然的聯關に於て結び付け、全鬪爭を政治的自由獲得鬪爭に集中統一して強力に展開する。

（三）他方、かゝる立場に即して、戰鬪的戰線統一の決定的實現に努力する。

（四）以上の目的遂行のために

（イ）完全なる黨內デモクラシーの基礎の上に、

（ロ）獨自の指導部を持つところの、

（ハ）恒常的政治的組織を確立し、

（ニ）合法的左翼政黨として公然の舞臺に於ける活動に進出する。

——かゝる『新勞農黨』の樹立に在るのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

この提案が如何に重大なものであり、私等がこの擧に出でんがためには如何に愼重、冷靜、嚴肅なる考察と、斷乎たる決意とを必要としたかは、諸君が容易に想像することが出來ると確信するのである。何となれば其れは、昨年十二月、新黨結黨大會を前にして突如發表せられた彼の『戰旗附錄』以來ながく我が左翼陣營を理論的に風靡し盡してゐたところの『合法政黨不可論』に反逆する形をとつてゐるからである。

で我々のこの擧が、誠にのつぴきならぬ客觀的主體的條件によつて押し付けられたものであることも、諸君には容易に想像が出來ると確信する。

然り。我々は拔き差しならぬ條件に不可抗的に押し付けられたればこそ、斯る大膽なる決斷を敢て爲し得たのであるのだ。

二　鬪爭場裡からの必然的要求

私等は『諸君は新勞農黨の樹立を要求してゐる』と大膽にも斷言した。

然し、これは決して私等の單なる一片の臆測ではないのである。

私等は私等に對して『このまゝでは到底やつて行けない。このまゝでは手を拱いてわが陣營の潰滅を待つと同樣だ』と嘆息を漏らした多くの同志を知つてゐる。中には『背に腹はかへられぬ。僕等は地方政黨を作るぞ』と言ひ切つて踊つた同志もある。

だが、大多數の同志は、私等のこの無遠慮な斷言を見て立腹するかも知れぬ。『我々は合法政黨など要求しては居ないぞ』と。

だが諸君。諸君は政治的鬪爭を要求してゐないのか、と聞くならば諸君は『否、その正反對だ』と答へるに決つてゐる。諸君はこの引き續く未曾有の困難の中にも政治的鬪爭を他の如何なる無產政黨よりも果敢に敢行したその行動に於て既にそれを答へてゐる。

更に、諸君は諸君のその鬪爭の爲めの組織を要求しなかつたのか、と聞くならば、之れにも諸君は『否』と答へるに決つてゐる。諸君は選擧その他の鬪爭に於て、極めて不便な不完全な組織であるに拘らず、勞農同盟、勞働協議會、無產團體協議會、等々の組織を持つた事實を以て既にそれを答へてゐるのである。

更に、諸君は諸君のその政治的鬪爭組織自體の指導部を必要としなかつたのか、と聞くならば、之れにも諸君は『否』と答へるに決つてゐる。諸君は諸君のその鬪爭組織に於て、諸々の方針を決定する委員會を持ち、更らにその他の機關部門を持つた事實に依つて既にそれを答へてゐるのだ。

更らに私は諸君の前に一の極めて暗示に富む事實を紹介しよう。

それは大阪に於て進行した事實である。大阪の同志諸君は、過般の市會議員選擧を戰つた後引き續いて、市會議員小岩井淨君を先端として有効なる鬪爭を展開せんとして、かなり廣汎な無產團體と[illegible]

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

して常任委員會といふが如き決議、執行機關（これは方針を決定するのだから取りもなほさず指導部である）を持つた。尙ほその機關の活動部門として調査部、會計その他を持たうとした。

ところが此所に至つて大阪の同志諸君はハタと重大なヂイレンマに突き當たらざるを得なかつた。『かくの如き機關を完備せんとすればする程、よしその名稱は何であらうとも其れは地方政黨になるではないか。それでは困る。一寸待つて吳れ』といふので、部門なども當面必要な調査と會計だけを設けるに止めたのである。

然かも、諸地方のそれと同じく、大阪のそれ等の組織機關も合法的場面の合法的存在として待つ事が事實上必要とされた。

斯くの如く、鬪爭の展開のある處、ほとんど一の例外なく、その鬪爭の爲めの斯かる組織及び指導部を持つたのであるが、それはより正確に表現するならば『持つた』といふよりは『持たざるを得なかつた』といふべきである。然り、諸君は苟しくも鬪爭せんとする以上必然的に、不可抗的にそれを持たざるを得なかつたのだ。

然かも斯かる組織、形態が、理論上持たるべきものとして持たれたるに非ずして、鬪爭せんが爲めの、のつぴきならぬ、必然的な、不可抗的なものとして、實踐的鬪爭場裡に出現したものであるといふことは、決定的な重大意義を持たざるを得ないのである。

以上述ぶるが如き政治的鬪爭の爲めの組織形態は、よしその名稱が何であらうと、それは卽ち政黨そのものではないか。他の何ものであり得よう。

斯る事實は私等をして『諸君は新勞農黨を要求してゐる』と斷言するに何等の躊躇をも感ぜしめなかつたのである。

諸君は、諸君の主觀的な意識上に於ては、或ひは合法政黨なぞ要求してはゐないと思つてゐるかも知れないが、諸君の鬪爭の『必要』は諸君の意識の如何に拘らず合法政黨を要求してゐるのである。

卽ち『諸君は新勞農黨を要求してゐる』といふよりも『諸君の鬪爭は新勞農黨を要求してゐる』と表現した方がより正確であらう。

私等は確信する。諸君が鬪爭に忠實であればある程、そのことを一再ならず意識に上せざるを得なかつたであらうことを。

三　何がこの要求の主張を抑へたか

上述せるが如く、この要求は實踐的鬪爭から必然的に生じた根强き要求である。

然るに我々は、この要求の根强きものであるに比較しては、諸君の口からこの要求を聞き得る事は甚だ僅少であつたといはなければならぬ。我等にその要求を卒直に投げ付けた人々も、甚だ躊躇した態度に於て、或は之れを口にする事を恥づるが如き態度に於てそれを爲した。

何故であるか。

我々の認識に從へば、多くの人々は、自己の展開する鬪爭そのもの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

はその組織形態（實質上合法政黨）を要求し、又その組織形態をその鬪爭圏に與へながら、これを明確な形に於て意識に上すに至つて居なかつたが爲めであらう。

その他の人々は、その要求を意識しながらも、それを强く今日の場合主張することは全國的歩調を亂す虞があるといふ稱讃すべき階級的良心のために敢て强き主張をしなかつた。又一方に於ては、その要求は、かの『戰旗附錄』以來長く强く敎へ込まれたところの『プロレタリヤの黨は唯一つあるのみ』といふ原則的眞理に違背するが故に、無理にもその要求を自ら抑へ付けようとしたがために外ならぬ。

その要求を未だ明確に意識に上すに至つてゐなかつたことに就いては、此所では問題でない。此所での問題は、その要求を意識しながら何故それを主張する事を躊躇したかが問題である。

『全國的歩調を亂す虞がある』との階級的良心からの躊躇は、然しながら、一般が『プロレタリヤの黨は唯一つあるのみ』との原則的理論によつて風靡せられてゐて現在の形態をとつて動かないことから發してゐるのであるから、結局——我等の認識に從へば——『プロレタリヤの黨は唯一つあるのみ』との原則的理論のみが、この重要な要求の主張を抑へてゐたのである。

四　眞の指導的理論は何か

今や我等を周る客觀的狀勢——濱口內閣の對[illegible]金解禁問題に於て、まつしぐらに……………………の態度。それから必然に生起する勞働者・農民・無產市民の生活と自由の窮乏、……。爭議の續發。諸他無產政黨の資本家への御奉行、無氣力無能力。左翼組合の確立の急務。戰線統一の必要。右翼中間を問はざる大衆の左翼化。左翼陣營の擴大强化の必然等々——は我等のより一層の效果的鬪爭を要求して止まないのである。

他方その任務を今や双肩に荷うて立ち得るものはわが左翼陣營（勞農同盟及びその同系）をおいて他に何處にも求むべきものはないに拘らず、わが勞農同盟の今の如き組織形態——正式な組織上の決議機關乃至指導機關を有せざるが如き、單なる一個の精神的結合に過ぎざるが如き形態を以つてしては到底その任務を果し得ざる狀態——勞農同盟の運動の行き詰り——は我々に組織形態の大膽なる變改を强要して止まないのである。

斯くの如く現在の客觀的、主體的諸條件は吾等に今や合法政黨として立ち上る事を命令してゐるのである。即ち諸君の實踐的鬪爭が要求したところの合法政黨の要求は、誠に正しき要求であるのである。

何が故に我々は此の客觀的、主體的條件によつて迫られたところの要求を、一片の原則的理論によつて抑へ付けなければならないだらうか。否、今や我々は斷じて、この原則的理論に抑へられてはならないのだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ある一般的な原則的理論が、その瞬間に於て眞理であるか否かは、實にその瞬間の具體的條件が決定する。

今や、諸君の要求の率直なる主張を抑へてゐたであらうところの、この『プロレタリヤの黨は唯一つあるのみ』といふ一般的原則理論は、現在我等が當面せる瞬間に於ては、我等の服從を强要し得る實踐的眞理では斷じてあり得ない。今や、客觀的主體的狀勢の正確なる分析研討の上に打ち立てられたるところの、又我々の鬪爭の必要が必然的に不可抗的に我々にその組織形態を必要とさせたところの『我等は今や合法政黨として立ち上るべきである』といふことこそ、我々の現在の瞬間の實踐を指導すべき具體的眞理であるのである。

五　誤てる理論の强要の結果は如何

正しき理論は我等を正しき鬪爭に導く。然し現在適用すべからざる原則理論を實踐的鬪爭に適用せんとする時は飛んでもない間違つた結果を引き起こす。

諸君は諸君の鬪爭が必然的に、不可抗的に要求したところの組織形態を組織したから宜かつたやうなものゝ、もし諸君が、『政黨的形態をとつてはならぬ』との間違つた敎義を絶對的に實踐的鬪爭に適用し鬪爭團自體の指導部、機關を持たなかつたならば、必ずや諸君の選擧その他の鬪爭は不可能であつたであらう。かかる敎義を强要するものは、『鬪爭するな』と命令すると同樣である。又今われ等に、合法政黨になつてはならぬと命令することは、重要な鬪爭をより一層强力に展開せねばならぬ任務を前にして、『左翼陣營をこのまゝ立腐れにせよ』と命令することに外ならぬ。

なほ又、合法政黨への要求を、現在に適用すべからざる一般的原則によつて無理やりに抑へるならば、その要求は正しき必然の要求なるが故に、必ずこの無理な抑壓を蹴飛ばして進出し、各地に地方政黨の續出を見るであらう。而して現在、間違つては居るといひながら、階級的理論に忠實ならんとする人々は事實に於て優秀なる戰鬪的分子であるのであるから、これら續出する地方政黨は、それら優秀なる戰鬪的分子との對立に於て出現するであらう。これ戰鬪的分子がその後續部隊と切り離れることであり、又かゝる狀態に於て生れた地方政黨の行先は言はずして明かである。

斯くの如く、實踐に適用を强用する時は、かゝる重大なる階級的損失、階級的義務違反を招來するに決つてゐるところの一般的原則を、尙ほ强硬に强制するものは、徹底的觀念論者か、鬪爭を爲さざる者か、支配階級の廻し者か以外にはあり得ない。

六　無産者新聞はその實體を闡明せよ

今、われ等左翼陣營をかくの如くに窮狀に導き、今尙ほ誤てる一般的原則理論を强要して、結果に於ては左翼陣營を潰滅せしめんとしつつあるものに無産者新聞がある。斯くいふたからとて支配階級に向く

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

べき鉾を無產者新聞に向くるものといふなかれ。私は無產者新聞が光榮ある權威を以て我々に臨んでゐるからこそ、その責任を叫ぶのである。見よ、我々は支配階級に向くべき鉾を瞬時もゆるめた事はなく將來益々效果的に戰ふであらうことは實踐が證明する。そのために生命を賭すことをも敢て辭しないであらう。

我々の嚴格な認識に從へば×××××は徹底的に××せられ、その組織は潰滅せしめられたといつて差支ないであらう。これを、、、の宣傳にのるものといふ勿れ。私は或偶然の機會から、四・一六の後に遲れて××せられた指導部の人から直接それを聞いたし、又現在の諸事實はそれを裏書する。我々は、このとのみならず諸他の事實にしても、それが意に反するからといつて實在の事實を認識から覆ふてはならない。虚僞の事實を宣傳する事は正き戰術を不可能ならしめる。

無產者新聞は實に光榮ある傳統を有するものである。それは成る程幾多の過失も犯したであらう。然し當時はその編輯は、その光榮ある傳統にふさはしき人々によつてなされてゐた。然し現在は全然異る。

現在の無產者新聞は、私の認識に從へば、何等實踐上の經驗なき、我等の指導者たるの資格を有せざる人によつて主宰せられ、その關係者は大衆と切り離れたる一握のグループをなしてゐる。かゝる組織上の缺陷——民主的組織の上に立たず、從て下の大衆の意思の反映する途なき組織——は、たとへその人達が如何なる優秀の者であらうとも、それは必然に極て重大なる謬論を孕んでゐる

然かも無產者新聞の現在の狀態は前記の如くである。如何に努力するとも過失なき能はずである。無產者新聞が漸次その信賴を失へるは當然である。

然かも、重大なことは、編輯主體が前記の如くであるに拘らず、その名は依然として過去の光榮あるその傳統と權威の名に於て、むしろ之れを利用して大衆に號令しつゝあることである。この狀態はその過失の影響を甚大ならしめる。

無產者新聞は光榮ある傳統の遺物として發行を續くるもよからうが、然しながら無產者新聞は、宜しくその實體を大衆の前に闡明すべきである。これは誠に階級的義務である。

何となれば無產者新聞は、斯くすることによつて、その指導的論說の在りのまゝの價値に於て大衆により批判され、或ひは取り上げられ、誤謬に光榮ある權威の衣を着けることによる、不當なる惡影響を消滅させ、大衆を誤謬の淵に突き落とす階級的罪惡から自らを救ふことが出來るから。

今や無產者新聞の緊急當面の階級的義務は、その實體を在りのまゝに大衆の面前に闡明することに在る。

七　民主的組織確立の急務

然しながら、今無產者新聞が持つ決定的欠陥は、唯に無產者新聞の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ての組織が、多かれ少なかれ持つてゐるところの欠陷である。

他のとはいふまい。勞農同盟自身が正に保有してゐる欠陷であるのである。各地方に於ても恐らく同樣ではなからうかと思はれるが、殊に本部に於て然りである。誰が本部を形造つてゐるかさへ正式には判らない。（このことを卒直に記述することが如何に私の苦痛であるかを想像せよ）勿論正式な決議、指導の機關をも持たない。勞働農民新聞の編輯すらもが、極めて不完全、不合理を形式に於てなされつゝあつた。當然大衆や下の組織の意思が正確には反映せしめられない。かゝる狀態は無産者新聞と同じ樣に、極めて危險な狀態である。

我々はその危險を痛感すればこそ、公然な組織を主張する。公然な組織に於てでなければ現在完全なる黨内デモクラシーを確立せしめ、大衆の意思を正確に中央の、全體の組織に反映せしめる事が不可能である。完全なる黨内デモクラシーの確立があるならば、その指導部の人の能力が少し位不完全であらうとも、大なる誤謬に陷ることから救はれる。

現在、殆んど總ての左翼的組織が、ひとしく持つてゐる、又持たざるを得ない組織上の欠陷を持つてゐるのだから、尙ほ一層、左翼陣營の中心的組織をだけでも、此の欠陷から救出し、完全に下の意思を反映せしめ得べき組織が確立せられなければならぬ。これは公然な存在に於てゞなければ現在不可能だ。

この意味からだけでも、現在左翼の實踐的鬪爭は、我等の合法的政黨として立ち上るべきことを痛切に要求してゐる。

八　誰が反對する資格を有するか

我等の主張に對して最も有力なる反對說は『政黨の名を附けないで、勞農同盟として同じことをやるべきだ。又やれない筈はない』といふ主張である。

だが、私等がそれを考へなかつたとでも云ふのか。それこそは當事者たる私等の眞先に、最も自然的に考へ付くべき事柄であり、又考へ、又努力したのだ。だが努力し努力し盡して尙ほ且つ不可能であつたことが、私等に他の展開方策に考へ及ばしめたのである。殊に地方に於ける同志が最後の最後まで惡戰苦鬪した揚句の、眞に鬪爭の中から生れた不可抗的な結論であるのである。

されば、机上の策戰にのみ耽つてゐる人や、いゝ加減の鬪爭に滿足してゐる者は、この我等の主張に反對する資格を有せず、勞農同盟の組織の下に眞に巧妙なる策戰を以て實踐上、成功的に鬪爭を展開し得たものだけが、我等に敎へる資格がある。

政黨といふ名だけが惡いなどといふのは問題にならない觀念論に過ぎない。

又或は無産大衆黨系の人は『我等の一年前に云つたことだ』と先見の明を誇るかも知れぬが、われ等の主張は鬪爭の中から生れて來た點に於て、又彼等はこれから大いに意氣込みを以て進出しようとする際に分裂して戰線を攪亂したに對し、我等は最後まで鬪い、然る後に全體として更らに進出の方策として主張してゐる點に於て、彼等とは決定的に異るのである。（八月九日）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

總選擧と無産政黨の選擧費

三輪壽壯

一

既成政黨にあつては候補者一人當りの選擧費用平均三萬圓だと云はれてゐる。選擧法は選擧費用に關する煩瑣な規定を設けて選擧費の使途を帖簿に明確にする責任を負はせ、その總額を一萬圓内外に制限し、之に超過するときは當選者は無効ならしむると云ふ様な制裁さへ規定して居るのだが、それはほんの表面の體裁を整へたゞけで、可なり公然と支出さるゝ費用だけでも優に制限額を越え、選擧がすむと各候補者とも制限額の範圍內で辻褄を合せる事に苦心惨憺するのが常である。況んや公明ならざる買收費準買收費（選擧ブローカーの喰物になる金）を合するならば三萬は愚か五萬や十萬に及ぶ事必しも異數ではない。政友會や民政黨が其公認候補の爲に數百萬圓の選擧費を公認料として支給する事も公然の事實であり、その選擧費を中心とする黨費が資本家財閥と既成政黨との楔であり膠であることも、今は既に陳腐な曝露資料となつた程周知の事實である。

一方無産政黨にあつては黨費にしても選擧費にしても既成政黨とは比較にならぬ少額ながら、その醵出の爲めには並々ならぬ苦勞をしなければならぬ。而も危氣のない確實な財源は今日の處では正直なところ社會民衆黨でも日本大衆黨でもまだ見出されて居ないといつていゝ。議會行動を宣傳以上に評價しない黨でさへ選擧には多額の費用を注ぎ込むことを辭しない。況んや議會に於て多くの議席を獲得しやうとする限りに於て無産政黨と雖も分相應の選擧費だけは用意しなければならないにはきまつてゐる。それを如何にして作るべきかと云ふ問題に答ふる前に、前回の總選擧の時各無産政黨は如何にして選擧費を得たかを調べてみる必要がある。

二

昨年二月の總選擧に當り舊日勞黨本部の選擧費用は左の如くであつた。

支出

總額	一〇二六、八〇円
（內譯）	
通信費	一四七、三八
應援辯士旅費	三〇四、九〇
本部交通費	二〇、七八
消耗品費	四七、九七
印刷費	四九〇、〇〇

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

其他雜費　一五、七七

收入

總額　一〇二六、八〇

（内譯）

候補者寄附金　八〇〇、〇〇

一般寄附者　二二六、八〇

（備考――吾黨は一切の候補に對し保證金選擧費を支給或は貸與せず。候補者は寄附金を出し、その代りパンフレット、ポスター――を無代送附す）

社會民衆黨でも確か千圓か千五百圓位であつたと記憶するが、此程度の費用であれば、いくら無産政黨でも之を工面する事は大した難事ではない。だが一人一人の候補者の選擧費用となると中々並大抵ではない。東京府第五區日勞黨候補加藤勘十君の如きは費用を可なり切り詰めて使つた筈であるが總額四、五七五圓二七の内評價された二九二圓を差引いた四、二八三圓二七（制限額の約四分の一）を實費として費消してゐる。又農村方面では同じく日勞黨の須永好君（群馬縣第一區）の五、一六〇圓二三麻生久君（栃木縣第一區）の四、四二八圓五九は共に制限額の半額乃至それ以下であるが、當選を度外視しない限り此程度の費用は最少限度として必要だと見ねばならぬ。此外に供託金の二千圓が入る。兎に角供託金も含めて五千圓か六千圓の金を準備しなければならぬとすれば恒産なき者にとつて實に容易ならぬことである。農民組合の鞏固なる組織を有する所では、例へば前記の須永君が組合及黨支部關係の寄附金三千二百餘圓によつて費用の大半を得た如き例が他にも無いではないであらふ。又都市勞働者を背景として立つた加藤勘十君が殆んど全部の費用を大衆的醵金によつて充した如き、又安部社民黨首に選擧費以上の寄附金が集つたと云ふが如き惠まれた候補者はあるにはあつた。

然し次の總選擧を考へる時こゝ二年の間に府縣會の選擧、衆議院の選擧、市町村會の選擧が次々に展開されて、加ふるに餓死的不景氣に直面して、無産階級の陣營は「寄附金の雨を降らせよ！」などゝ云ふ掛聲ではさつぱり反響がない程疲弊してゐるのである。無産政黨としての財政確立が成し就げられてゐない限り、前回よりも苦しい資金難を夫々の候補者は經驗しなければならないのであらう。

三

昨年の總選擧の際當勞働農民黨は階級的鬪士就中勞働者農民出身の鬪士を候補者詮衡の第一標準とした。松浦啓一、山本懸藏、野田律太、唐澤清八、秋和松五郎等々選に入つた鬪士候補の御歷々は保證金の外數千圓が本部又は支部から出てゐる事になつてゐる相である。大山委員長、細迫書記長は其選擧費調達に並々ならぬ苦心をしたと云ふ話であるが、それはそれとして、、、。然し無産政黨が其黨是の忠實なる遂行者としての候補者を立て様とするならば、選擧費の支給によつて統制するより有効な方法は勿論他にない筈である。英國勞働黨の選擧費が地方勞働黨又は勞働組合の醵出による選

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

舉基金を土臺とし、選舉の際の寄附金を以てその足らざるを補ふと云ふ樣に我無產黨もそれまで黨費の重要性が黨員によつて自覺さるゝならば問題はないが、黨員から黨費が集らず黨本部が無理な金策をするならば黨を破滅に導くか墮落の淵に投ずるかに歸着する外ない。醜、、黨の、、幹事長のとつた對立候補主義の選舉戰術は既成政黨との間に臭いところがあると疑はれても致方ないのである。

然らば如何にして選舉費を調達すればよいか？　前にも云つた樣に黨財政を確立して、黨費殊に支部聯合會の黨費を以て選舉基金を作る樣な根本的解決策は理想案ではあるが目前に迫つた次の總選舉には事實上間に會ひかねる。又單に黨費といはず消費組合運動による黨財政の確立策も考へられるし、少くとも公明正大な金で黨公認の候補者の供託金だけは立替る丈の基金を集めておくと云ふ樣な事も强ち至難のわざではないと思ふが、これとても次の一戰に準備し得るや否や疑問であるといはざるを得ない。

かくて殘された實行可能な方策は何か？　それは至極平凡な卽候補者自辨主義に落ちつくより外はない。もとより支部又は支部聯合會で選舉費の醵出をするであらふ。それが候補者から見れば寄附となるであらう。更に候補者の爲めに寄附金が募らるゝであらう。併し要するに候補者を中心として集めらるゝ金に過ぎない。財政的基礎がない限りそれは餘儀ない方法ではある。而もそれは無產政黨としては確に將來に累を及ぼす危險性をはらんでゐることを看過してはならない。當選したものは自分の力で當選した樣に考へ、又運動員も候補者の爲めであるかの樣に思つて黨の爲め黨員大衆の爲めだとは考へなくなる處も充分ある。卽無產政黨の特色を失つて既成政黨のそれに近く樣な結果になつて來る。中には選舉費の故に既成政黨の魔の手を誘ひ込み、又は節を賣る輩が出ないとも限らない。危い哉といはざるを得ぬ。

私は選舉費を如何にして作るべきかの設問に答へなければならないのであるが、名案もないし又假令あつたにしても泥縄の譏があると思ふが故に、せめて各候補者に希望することは、無產階級の輿望を負ふて立候補する人人が各自自制して泥田の中に馬をいれない樣にして貰いたいことである。此一戰の後對立闘爭も形を變へて來るだらうし、無產政黨獨自の財政的確立策も計畫的に實行に移さるゝであらうし、それまで無產政黨としての純潔を損ひたくないといふのが私の願望である。

改造社發行書

松岡駒吉著
野田大勞働爭議　定價壹圓　送料十八錢

末川博著
ソヴイエトロシャの民法と勞働法　定價貳圓五十錢　送料廿二錢

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

自傳的に見た日本社會主義運動史（七）

堺利彦

――目次――

一　理想團の檄文

明治三十四年七月二日、『理想團』の組織計畫が萬朝報の紙上に發表された。それには『平和なる檄文』と題してあり、その表題の左脇には、『吾等と心を同じくする人は來れ、與に俱に社會救濟の爲めに理想團結を作らん』といふ副書があり、そして『（一）社會救濟の第一步、黑岩周六述』といふ第一章を以て始まつて居た。

書方は極めて平易通俗な、福澤式文體で、次のような書きだしになつて居た。『吾が住める家屋の腐れ傾くに於いて、之を修繕し、又は改築するは、異常非凡の事に非ず、住人たる者の當然に爲すべき所なり、住人若し之を爲さざれば何人か之を爲さんや』『此理は何人も之を知る、然れども社會の事は一人の力に及び難し』『唯だ其の救ふべき手段のなきが爲に徒らに餘所事の如く打捨て置けるならん』『然らば斯の如き人々相合して其力を第一にするは、社會を救ふべき第一步に非ざるか、吾等が玆に理想的の團集を作らんと謂ふものは、之が爲なり、先づ之を以て我が社會を善に還らしむる第一步とは爲さんとするなり』

第二章は『社會改善の力』『人々の胸の底に、如何ほど微弱にもせよ、社會を救ひたしとの念あらば、其社會は未だ必ずしも亡びざるべし、救ふに救はれぬ事は無き社會なるべし、火は一點の微と雖も之を育てるの方法を以てせば、頓ては天をも焦さんとする炎々の勢ひを生じ來らん。』

第三章以下、要點は凡そ次の如し。『之れ宗教的の團隊にも非

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

治の黨派にも非ず、又或る觸感すべき利益を目的とせる會社にも非ず、單に社會改良を以て合するコンムニテイ團集なればなり』『吾人は先づ此の萬朝報の社員中の有志を以て團結せん。』『同志を朝報の讀者中に求むるに在り』『第一には團員の名簿を作り加入者を記錄す』『志を同じくする人は今月今日より姓名を通知せよ』

『團員の爲す所は即ち團の運動なり』『歸する所は集會して社會に對する團の力を發揚するなり』『然れども人の社會に盡す所以は必ずしも斯の如き集會、斯の如き運動のみに非ず、人は其の平時に於いて、日常の言語動作に於いて、悉く幾許か社會の救濟者たるを得べし』『常に己れを以て社會總體を作り出す模型なりと信ぜよ』『斯の如き平凡普通の善は何人も爲すを得べし、之を爲さゞるは團員に非ず』

『殊に吾人は本來に於て、不肖と雖も社會の救濟を期すべき新聞紙の從業者なり』『吾人が團に盡すは、一に新聞紙を以てし、次に一身を以てせざるべからず』

『理想團の主として力を盡すべきは社會の何の部分なるか、曰く其の人心なり』

『今日、公の機關に公の心なく義の心なきは、仕人總體の落度なり』『仕人皆自ら奮ひ自ら勵みて公義の心を養はずんば、百年千年、社會の力に依りて改まる時は來る能はず、若し來るとせば、社會の亡[illegible]社會の仕人と爲れる時なる可け

『又云ふこと勿れ、社會の救濟は之を偉人に待つと』『理想團は個人相合して……自ら改むるの道を歩まんとするに他ならず、社會に公義心なからんか、理想團先づ公義の心を發せん、社會に制裁なからんか、理想團先づ其制裁を團以内より行ひて之を團以外に及ぼさん』

『今の社會に住みて社會人心の腐敗を認め、幾許か憂ひて之を救はんとする人は、來りて共に理想の團結を組織せよ』

この檄文、この宣言、この待ち設けられたる理想團の發表が、當時如何に一般の人心を刺激したる事よ。朝報社内の謂ゆる『清新分子』たる我々は、實に欣喜雀躍の感を禁じ得なかつた。黒岩君に對する信頼と評價は、頓に大なる上騰を示した。

二　理想團の成立まで

七月三日、萬朝報の『言論』は『危險を自覺せよ』と題し、『擧國民の目的希望が、一に私利に向つてのみ奔り、絶えて其他を顧みざる』事、『私利の前には總ての物を犧牲に供する』事を指摘した。そして一方には、『黒岩生』が『理想團に就て』語つている。曰く『世を以て同情を寄せらるゝ人、甚だ多し、公義の心、未だ必ずしも我社會に滅びざるなり、吾徒豈に勉めずして可ならんや。』

同時に萬朝報は、久津見蕨村氏の、左の意味の寄書を掲載した。曰く『足下先には……社會民主黨に聲援』し、『今此團の組織を告ぐ』世の曖昧なる徒は之を彼れの變生と見んも知る可からず、是れ固より取

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ろに足らざるの誤解謬見のみ。而も亦足下の團體の賛成者を躊躇せしめんも測る可らず。僕は實に社會主義の根本に一二の誤謬ありと說くもの』『其僕にして……足下の團體を賛成するは、蓋し彼の黨と此團と全く同じからざるを知らしむる所以ならん乎』

蕨村君は（前記の通り）餘り面白くない事情で朝報社を去つた人であり、そして又、後に漸く無政府主義的の傾向を明かにした人であるが、この寄書は、半分は親切でもあり、半分は自己の立場の吹聽でもあり、同時に又、多少の皮肉でもあると、我々には感ぜられた。然し黒岩君はそれを自己の便宜に利用した。

曰く『理想團は何の變生にも非ず、唯だ社會の人心を矯正して其の影響を社會凡百の方面に及ぼさんとの目的に出るのみ、君が如き達識の士の早くも賛成を表せらるゝは、愈よ吾人の未だ絶望すべからざるを知るに足る』と。

七月四日、萬朝報は再び『理想團に就て、周六』を載せた。曰く、理想團は『歡迎せらるゝを期せざりき。』『不歡迎の客と爲るを甘んじ、同伴者の極めて少き戰場に於て、努力を以て同伴者を作り出ださんと覺悟した』り。然るに『何ぞ計らん、其發意の當日、既に書を以て同情を寄せ團員たらんことを申込む人、無慮數十名に及ばんとは』

黒岩君は實際、意外でもあつたらう。同時に、當然といふ、豫期の實現の感じもあつたらう。そこで彼は深き自負心を以て語つた。理想團には『直接の利益は皆無なる也』『絶望する者は初より來らざるに如かず』『此團結は單に、誠實に社會改善の同伴者たるを期する者』『單に無報酬を以て社會に盡さんとする者』『歡迎の早きを見て、或は誤解に根せざるかを危む』と。

そして同日の萬朝報は既に『理想團加入者』數十人の姓名を報告した。

七月九日の萬朝報、『善を爲す勇氣、周六』には、次の意味の言葉がある。星亨の葬式に、島田三郎は柩を隱した。田口卯吉は巡査を隨として引連れて星亨の葬式に會した。『四面暗黑の社會に於いて、眞に躊躇せず善事を爲し得んには、一方ならぬ勇氣を要す』『理想團は『の黑闇々たる社會に一點の光明たらんとの意に出ず』『善を爲し幾と爲さんとする人をして……玆に道連ありとの事を自覺せしめんと欲するのみ』

同十一日『義務の念』に於いて、幸德秋水は『理想團の如きも第一着に之を以て心とせば、夫れ庶幾からん乎』と語つて居る。これは寧ろ秋水として平凡であるが、矢張りそれが當時の彼の眞實であつた。

十二日、河上翠陵は『人心一轉の機』を論じて居る。『我國民が……漸く宗教に歸依せんとする傾向を生じたる』を見る。『吾人理想團を組織せんと欲するに當り、斯の如く喜ぶべき現象に接す』『吾人が全力を有せざるは寧ろ幸福なり。』この弱き宗教癖も矢張り當時の河上君の眞實であつたらう。

内村鑑三さん（十二日、萬朝報）はさすがに痛烈だ。『我が理想の…

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

本はいまに來る、必ず來る』『百年の後か……千年の後か……それは吾等の知る所でない』『然れども其來るのは必然である』其時には戀彼は總理大臣夫人となつて國民の龜鑑となる事は出來ない、其時には一人の工業家が數人の妾を蓄へ、……××××の優遇する所となりつゝある間に、彼に富を供給する鑛山より流れ出る惡水の爲に頑是なき赤兒までが乳汁の不足の故を以て饑餓に泣く樣な悲慘な事は無くなるに相違ない、其時には山師に、、を××るの××もなくなる』『理想の日本、我はその來らんために働かんかな』『今は××と云はれても××と云はれても宜しい』『我等はたゞ理想的日本の來る時に、少しく其の民の記憶に留まつて居れば宜しい』

十三日『理想團發起集會』が發起人八名（内村鑑三、黑岩周六、山縣五十雄、幸徳傳次郎、圓城寺清、天城安政、堺利彥、斯波貞吉、いづれも朝報社員）から豫告された。

内村さんの名は黑岩さんの名の上に置かれてある。山縣君は帝大英文科中途退學の英文記者で、内村さんと親しく、その門人格であつた。圓城寺君は改進黨系の政治家で、財政通として知られて居た。天城君は高商出身の故參で、經濟部の主任であつた。斯波君は帝大英文選科の出身で、山縣君と親しかつた。堺はむしろまだ新參であつた。從つて堺はこの發起人中に名を列せられた事が、可なり大なる光榮であり、愉快であつた。

十九日『理想團發起會に就ての一つの希望』が『周六』の名で述べられた『豫定の刻限には必ず集るの習慣』を作りたき事、『大事を爲すの秘傳は即座に小事を爲すに在』るを示したき事、『理想的會合の範を示』したき事、『行狀も亦他の模範たるに足らしめた』き事、『無益に騷々しくせざること』『隣席の人に信切なること』『秩序を守らんと勉むること』『他人の發言を尊敬すること』『席上を世話する人の言葉に從はんと勉むること』『一切酒を用ひざること』『團員の會合には「醉はせる飲物」は一切用ひざること』

同日『理想團に就て』小泉三申君の寄書が載つて居る。大要、左の如し。（當時、三申君はまだそんなに有名でなかつた。）

『僕未だ黑岩君足下を知らず』『××は十年の莫逆』『理想團は未だ時流の濁りに染まざる思想清新の少壯者を以て其の基礎を作るを要す』『事若し成すべくんば急進以て有らゆる社會の病菌を殺倒せん、時尙ほ早ならざれば退いて團員と共にもろ／＼の迫害と戰はむ』『要は此の病社會を救治して、清新剛健の氣風を鼓吹し、以て世道人心に新たなる生命を與ふるのである』『千早の一城廓として……理想團の崛起を歡迎す』

二十日『理想團と政黨、周六』の要點、左の如し。『理想團は政黨に非ず。』『然し政治を度外に置くこと能はず。』『政治も商業も教育も總て理想團の範圍なり。』『若し原則を云へば、先づ人心を淸くし、其の自然の影響を以て範圍内一切の汚濁を消滅せしめんと期すべし。』『局部を具體的に矯正するをも勉』むべし』『殆んど政黨と同一の働分を爲

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

はざる可らざる場合もあるべきに依り、常に『李下の冠』を正すに注意せざる可らず、『形に於て政黨と背似する場合ありとも、精神に於て事業に於て政黨の如き狹隘淺薄の者あらざることを實蹟の上に證すれば可なり』

三　理想團の發會式

七月廿二日、神田錦町の基督教青年會館に於いて、理想團の發起會が執行された。

萬朝報の紙上に於ける、それの記事は、多分、伊藤銀月君の事と思はれるが、『滿身の愉快と感奮とを以て、我が理想團發會式の盛況を、滿天下の同志諸君に報ずるの榮譽を擔ふを得たり』とある。そして『七時二十分、一分一秒を違へず會場の入口を閉鎖し』た事を記し、『暑き夏の夜、五百人一堂に會し、七時より十時まで襟を正して容儀の亂れざることは、天晴紳士らしき紳士の態度』であつた事を強調した。

會の經過は大略、次の如し。先づ團員小林愛次郎氏が開會を報じた。小林君は朝報社第一の元老であつた。次に圓城寺君が座長席に就いた。風采、態度、音聲、總て見事であつた。次に黑岩君が簡單に、莊重に、發起の趣旨を述べた。次に宣言、誓約、團規が朗讀されて、直ちに可決された。即ち左の如し。（團規は略す）

理想團宣言

社會人心の腐敗墮落、年に月に甚だしきは、何人も認めて而して慨嘆する所なり、之を救ふの道は人々自ら正しくして以て人に及ぼすに在り、此理は何人も知る所なりと雖も、個々分立するが爲に、以て大勢に抗するに足らず、今日の急は先づ此の分立する者を合して一團の勢力となすに在り、是れ理想團の興る所以なり、時世を憂ふる者、來りて相共に社會救濟の原動力たるを期せよ

理想團誓約

吾等は信實を以て私に處し正義を以て公に對するを理想とし、至誠以て之を躬行し、弘く人に及ぼさん事を勉む

慈愛、勤勉、忍耐、剛勇、英邁等の美德は最も修養せんと欲する所なり

吾等は之が爲に理想團を作る、團の必要に應じ、團の決議に服するは、團員たるの義務として永く異議なき所なり

次に佐治實然君（ユニテリヤン協會長）が『遠き理想と近き實行』について『滔々媚々數千萬言』『長江の流れて際なきが如く』であつた。次に安部磯雄君が『此日の殿軍』として『天下の病根一つ『命と色』について語り、從來『朝報を誤解して居た』と、『萬丈の氣を吐いた』

最後に又黑岩君、『予は初より貶斥を省みずして猛進せり』『予の猛進が長く續くか、誤解が長く續くか、根比べなりき』『今夜の會合は予の精神をして無上に發奮興起せしめたり』『此の精神が場外に出でて涼風に觸るゝと均しく冷却するが如きことなきを祈る』『明治三十四年

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

七月廿二日は、實に日本社會史に特筆大書せらるべき紀念日となりぬ。』

猶ほ前後に會計。『出席五百餘名、入場料一人十錢、收入總額四百四十一人分、四十四圓十錢。』『少しく不都合なれども、匆卒の際の事とて止むを得ず』と報告された。

廿四日の萬朝報に、圓城寺天山君の『理想團發會式所感』がある。『五百の上に出づる群集の數は、在來政黨政派の集合を報ずるものにあつては、少くとも千五百以上、甚だしきは二千乃至三千の大衆を傳へらるべし。』理想團は則ち然らず、是れ既に『前途の一吉慶、一成功』なり。又會衆の『進退序あり、推讓の禮を重んずる』や、『警官も當日は單に一人（然り單に一人）入場口を警護せしを見たるに止まり』『多少の覺悟を以て推されて座長席に就きし余の如きも、後ち顧みて自ら其の迂濶を冷笑するの情に堪へざる程なりき』『來會者が既に社會人心の腐敗墮落に激し、鋭意之が救濟に任ぜん欲する熱情、内に滿つるの餘に出でたるを疑はず。』

四　予は理想團員として何を爲すか

八月十一日の萬朝報に、『予は理想團員として何を爲さんとするか』と題した、私の一文が載つて居る。當時に於ける私の眞實を見る爲め、こゝに全文を轉載させて貰ふ。

『理想團の事、一たび世に公にせられてより、知友諸君の書を寄せて予に問を試むる者が甚だ多い。曰く、理想團は何を爲さんとするか。曰く、足下は理想團員として何を爲さんとするか。前の問については、諸同人の言論が既に十分の答を爲してゐるが、後の問については、予自ら少しく答ふる所がなくては、知友に對する禮でないと考へる。勿論、予は理想團員であるが故に、理想團の爲さんとする所は即ち予の爲さんとする所で、理想團の爲さんとする所を知つた者は、即ち予の爲さんとする所を知つた者である。

『然しながら、理想團の爲し得る事は必ずしも予の爲し得る事ではない。理想團は多數團結の力で、予はその一小部分たるに過ぎぬ。故に理想團の爲さんとする事と予の爲さんとする事と、同質の者ではあるが、同量の者ではない。即ち、二者の間に大小廣狹の差がある。理想團としては、廣大なる範圍に於いて、幾多の善事美事を爲すべし、予一個人としては、狹小なる範圍に於いて、多少の善事を爲したい。

『然しながら又、予は必ずしも自ら劃して狹少なる範圍に居る事を好む者ではない。若し理想團が予を必要として、予の力が之に當るに足ると信ずる場合があつたならば、予は即ち理想團と同樣の廣大なる範圍を以て自己の範圍と爲すであらう。若し又、此の社會、此の國家が予を必要として、予の力が之に當るに足ると信ずる場合があつたならば、予は即ち社會國家と同樣の廣大なる範圍を以て自己の範圍と爲すであらう。只、人には能あり不能あり、適あり不適あ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ぬ、機會があり境遇があり、種々たる事情因緣があつて、必ずしも[redacted]しやう。こうしやう、大臣にならう、議員にならう、五十萬圓もうけやう、海外に雄飛しやう、驚天動地の大活劇を演じやう、などと血眼になつてあせるのは、謂ゆる意必固我の私に陷つたもので、決して大人君子の事ではない。是非にと思つた事が必ず成功するものでもなく、又思はぬ事に自然の機運が際會するものでもある。故に予の如き小丈夫が、何も廣を期し大を必する事はない。狹小なる範圍に於て多少の善事美事が爲したいと心がけてゐれば、それで善いのである。

『扨、然らば、狹小なる範圍における多少の善事美事とは何であるか。予に予の一身がある、家族がある、親族がある、友人がある、隣人がある。此の範圍に於いても、孔子の謂ゆる憤を發して食を忘るべき事も、樂しんで以て憂を忘るべき事も、澤山にある。予の一身は正しきか、予の一家は和らいでゐるか、予は予の親族と親しんでゐるか、予は予の友人隣人に忠實であるか、是等の間に對して、否と答へては憤を發し、然りと答へては自ら樂み、日を積み年を重ねて若し多少の進境を認むるならば、此上の滿足はあるまいと思ふ。

『理想團員として予の爲さんとする所は實に是れだけの事である。敢て知友諸君の問に答へる。』

五　理想團の内面觀

例に依り、こゝに少し私の日記を拔萃する。朝報社と理想團に關する點だけ。

『六月廿六日。朝報社に談話會が出來た、元は内村、山縣、斯波の三人の會であつたが、それに幸德が加はり、黒岩が引張り出され、予も其の數に入つて、やうやく面白さうな會となつた、毎月二度づゝやるのである、今のやうでは、此の會が朝報社新運動の動力となてゐる、ツマリは内村の勢力である、黒岩といふ人、始終そばから煖ためてゐれば火がもえる、火は元來あるのだけれども、燃料は外から持つて行かねばならぬ、角力の荒岩だの、五日の高橋だのいふ燃料では惡火がもえる、内村といふ燃料なら隨分善火がもえるであらう、然し内村だけでは材料があまり單純すぎる、そこをうまくやるのが我々の任であらう

『七月一日。黒岩周六、明日の萬朝報の紙上で理想團の宣言書を發表してゐる、至極おもしろい、黒岩と内村、兎に角おもしろい結である、只、多少黒岩の修飾する所と内村の強いて同ずる所とが氣に入らぬけれども仕方がない

『七月八日。今夜、朝報社の月曜會があつた。内村、山縣、斯波、幸德、松尾、及予、西洋料理三四、ラムネ一杯、場所は社の廣間、談論甚だ愉快であつた、黒岩は數日前、朝報紙上に理想團といふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

體の事を發表した、至極面白い、大いにやつて見たいものだ、これが續けば朝報社にも永くゐたくなる

『七月廿二日、理想團の發會式があつた、予も發起人の一人として出席した、發起人は内村、黒岩、山縣、幸德、圓城寺、天城、斯波、及び予、入會者の中、多少知名の士は安部、磯雄、佐治實然、片山潛、木下尚江、久津見息忠、小泉三申等

『黒岩は自繩自縛をしたのである。彼蓋し深く決する所があるであらう、予は之を背水の陣と評する、彼蓋し自ら好んで背水の陣を取つたのであらう、何にせよ面白くなつて來た、予は朝報社員たることを樂む

『社會民主黨の連中は、自分等のものにしようと思つて來り加はつてゐる、それもよい、或點までは兩方の主義も一致してゐる。』

十二月五日の項になると、私は既に理想團の事を危ぶみ、失望したり、憤慨したり、奔走したりして居る。その事は次回に委しく話す。

（本篇は色々の都合上、こゝまでで、本誌への續載を中止します。筆者の怠慢の爲、兎かく休みがちになつたりしたことを、讀者諸氏と改造社とにお詫びします。今年末、或は來年初ぐらゐには、大逆事件までの稿を終り、第一卷として發行したいものと考へて居ります。　堺生）

堺利彥著作集　改造社發行

當なし行脚　定價五十錢　送料十四錢

（内容）利根の水郷と醬油の町‖秩父の山水と人間‖ロシアの大使とアイヌの偉丈夫‖伊勢を中心の男女と貧富‖汽車と汽船の一等初乘‖讀者註文の木賃宿旅行。

樂天囚人　定價五十錢　送料十六錢

（内容）序‖一空々零記‖後の巣鴨‖白頭の戀‖赤旗事件の回顧‖貝塚より‖震災の獄中（其一）‖震災の獄中（其二）‖判檢事の文化的進歩‖豐多摩から巣鴨‖獄中問答‖入獄前後。

堺利彥自傳　定價一圓九十錢　送料二十錢

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新興短歌の主張

北島一

1

左翼歌誌の大同團結！ プロレタリア歌人同盟成立！ の吉報が今われわれを動かしてゐる。

新興短歌陣は、既にその發展の第一段階に於て先づ大同團結し、新興歌人聯盟をつくつたが、その解體後は分裂狀態をつゞけて來た。プロレタリア短歌運動を中核とし、激情性を端的に認めるのは、新興短歌陣共通の主張だが、個々の形相・主張は必ずしも同一ではない。大同團結後の期待を明かにする爲に、之ら各陣營の主張・傾向を一瞥しておかう。

最前衛たるべき『短歌戰線』一派（大塚金之助・伊澤信平・渡邊順三・淺野純一・坪野哲久諸氏——但し大塚氏は作も論も一度も見せぬから論外であらうか）は、藝術における政治的價値のヘゲモニーを僅に認める、やゝ機械的・公式的に。作品は多く一面的・觀念的である。（勿論例外を認める。例へば伊澤君の佳作の如き、細みで、たくましくはないが、一面的の反對だ）。

田邊駿一・一子氏の『黎明』は、プロレタリア意識獲得に猪突し、最近數步前進した。自己批判を主張するが、明確な把握の上に立つとはいひがたい。作品はむしろ散文的で觀念的だ。

石榑茂・前川佐美雄・五島美代子・栗原潔子・小池龍・森島弘諸氏の『尖端』は、プロレタリア解放運動の一翼たることは認めるが、同時に短歌運動の階級性をも認め、
[illegible]
端的な表現を主張する。作品は最近著しく前進したが、なほ主張と合致しないものを温存し、前衛的ではない。（但し石榑氏は合同を機として歌壇を退き同盟にも加はらない。）

以上の三歌誌を中心に、今次の大合同は成つたのだ。合同後の歩みが多難で、しかも興味あることを思ふべきであらう。如上の對立が今後いかに揚棄されて、全新興短歌陣を確立・進展さしてゆくかは、更に注目に値する。然らば筆者は合同を通じて何を期待し、何を主張するか。少しく述べやう。

2

「藝術は大衆のものだ。藝術はその深い根を、汎く勞働大衆の中へ食ひ込ませねばならない。藝術は此等大衆によつて理解され愛されなければならない。藝術は大衆の感情と思想と、意志とを統一し、高めなければならない。重要なことは、藝術家がこの大衆の中で生れ、此大衆の中で成長しなければなら

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いといふことだ。」

このレーニンの言葉をよむ時、われわれは直ちに『短歌』を武器としてとりあげることの正しさを思ひ、新興短歌＝＝プロレタリア短歌が、なぜ強力な運動をまきおこしたか、まきおこす必要があつたかを、言を要せずして、つかみ得るであらう。我國で最も大衆的な・日常的な・簡潔な短歌こそ如上の條件を具備してゐるからだ。事實、短歌は今や激情性をとりもどし、宗匠主義・封建主義・僧侶主義・超階級主義を驅逐し、現實的に・階級的に・鋭敏に變革されつつある。逞しき闘爭性をそのうちに結晶の光と輝かせ、單純平明でしかも暗示能力に富んだ、動態的な、テンポ早き短歌は、有効な『武器の藝術』たることを示しつつある。

3

新興短歌＝＝プロレタリア短歌運動は、明かにプロレタリア藝術運動の一部だ。しかもそこに劃一にはゆかぬ特殊性の嚴存を認めねばならぬ。從つて、プロレタリア藝術論一般を深く、とりいれつつ、しかも特殊な――その故に具體的な――新興短歌論＝＝プロレタリア短歌論確立の必要はあくまでも存する。狀勢もそれを要求してゐるのだ。

舊短歌（傳統・非傳統を通して）に蹉跌・去勢されたかと見えた歌壇は、今や堰を切つたやうに迸り出る新興短歌の奔流のなかに自己を見失つてゐる。しかも一方新興短歌は、作品行動の飛躍的發展にも拘らず、指導理論は今殆んどないといつていゝ。プロレタリア短歌運動創生史の第一段階はすでに過ぎた。その觀念論的抽象的な革命理論乃至プロレタリア藝術論一般の公式的應用は、適應性を失つたのだ。『具體化へ！』のスローガンはかゝげられた。『短歌的なるもの』への考慮も叫ばれた。併し執拗尖鋭な究明によつて、有力な指導的な、新興短歌理論が確立されたか？否！プロレタリア歌人は、現在に於てはおぼろげながら方向をつかみ、胸をゆりうごかす感動を無意識に組織してゐるに止まる、社會情勢に刺戟され煽情されながら。しかもどしどし強力な作品を生み出してゐるのだ。實踐と理論の辯證法的統一はプロレタリア短歌運動に於ても斷じて必須だ。われわれは『深刻な、、、醱酵』を内ににぎりしめた事のやうな作品をドンと突き出すと共に、方向を示し意識を高める『導きの星』たる理論をも生まねばならない。大同團結はおそらくその契機となるであらう。

4

ではプロレタリア短歌理論として考慮すべきものは何か。就中至要なものとして、筆者は左の二點を主張する。

第一に。短歌は本性として、生活と具體的な密接不可分の關聯をもつ、むしろ生活そのものから短歌が生れるとさへ極言し得るといふ事實だ。勿論一般藝術も社會的意識形態として直接間接現實的土台との深きつながりをもつが、短歌ではその關聯が生活を通して實に濃厚であり、ちかゝなのである。だからあくまで具體的であり、活動的であり、現實的なのだ。

短歌のこの特性は、前に引用したレーニン

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の言葉の一句一句に重要なことは、藝術家がこの大衆の中で生れ、此大衆の中で成長しなければならないといふことだ。(二)に深く照應する。眞のプロレタリア歌人はこの特性を生かしきらねばならない。眞に自覺した勞農大衆の前衛が、鬪爭のさなかに於て、大衆によびかけ、煽情し、同志を鼓舞し、朗かに或は暗鬱に、喜怒哀樂を、おしつめた・ちかの生きた言葉で歌ひあげる時、プロレタリア短歌は最も徹底した力を示し得るであらう。前衛に次ぐもの、更にその次の階層に屬する人々は、自らの所屬階層をぶちまけて表現し、その階層を、、さし、その意識水準を高めさすことに努むべきだ。かくてそれぞれの階層が打つて一丸となる時、工場農村いたるところに嵐をまきおこし得るであらう。かのプロレタリアの代辯をたすと稱して、自らの生活と遊離した、たゞ威勢のいい、表見的・機械的・一面的な作品を發表することにより、意識的無意識的に如上の短歌の特性を抹殺せんとするマルクスボーイ的俗流新興歌人連の社會民主主義的傾向は、この意味に於ても斷じて清除せねばならぬ。

第二に。短歌にその表現に於て、大能依從[illegible]氏の所謂「組織された言葉」の一脈通った完了體としての内面的均衡」を特性とする。併し筆者は、更に一歩進めて、かゝる均衡を内容形式の辯證法的統一としてつかむのだ。傳統短歌の内的矛盾として内容形式の矛盾が存することを指摘し、傳統短歌の自己批判を擔當せんとするプロレタリア短歌は、如上の矛盾を揚棄することによつて、より強力な、より、より、スケールの大なる均衡を克ちえる。積極的・求心的・尖端的・具體的表現はかくして可能だと主張して來た。今もさう思ふ。一方からいへばかうだ。社會的・階級的必要に根ざした感動内容を短歌に組織するとする。

その感動が強力である限り、自ら自分に最も快適な形式を要求するであらう。その要求は、定型的な從來の短歌形式によつて組織せんとする要求と對立する。

この對立は内容に如實にあらはれる社會情勢の進展につれて激化する。しかも對立は必然的に自らを揚棄せんとする傾向を持つ。かくして新たなる均衡が生ずるであらう。揚棄した瞬間のしづけさ、揚棄への自己運動的な力、それは蠢く、作品のリズムとなり感[illegible][illegible]力となつて再生產される。眞のプロレタリア短歌はかくあるべきだ。併しながらかゝる作品は今なほ乏しい。感動の膚淺・詩の貧困―(勿論反動歌人の所謂「詩がない」といふのとは違ふ、彼等反動家の致命的誤謬は詩を固定したものと思ひこんでゐる處にある。)―故意の攪亂、今や新興歌壇はそれらのもの洪水だ。攪亂した均衡を新らしき均衡に高め、徒らな怒號を求心的に尖端的に深めんとする努力、表現に際しての揚棄への努力こそ、局面展開への力ではあるまいか。

5

以上の二點はなほ詳述を要するであらう。併し今は走り書をしておくにすぎぬ。走り書さへ必要なのだ、轉形期の現歌壇には。大同團結機關誌『短歌前衛』は八月から出る。反動と結托した既成歌壇と斷然抗爭して激情の嵐をまきおこすと共に、執拗果敢な自己批判を重ねて前進し前進し前進しなければならぬ、意識水準に於て、技術的習熟に於て。かくて明日は彼らのものだ。(四・七・二)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

プロレタリア・スポーツ

佐々木孝丸

プロレタリア・スポーツを組織するといふことは、、、を、、する仕事の一つとして行なはれなければならぬ。、、を、、し、、するといふ點に於て、スポーツ組織の問題は、プロレタリア運動に於ける重要な意義と役割を有つのである。

今日、ブルジョア・スポーツは益々その（十一字削除）を増大せしめてゐる。各國に於けるブルジョア・スポーツ組織は、直接間接に、巨大な經濟的援助を資本家から受けてゐる。プロレタリア・スポーツ組織は、それらの諸組織、特に、、、、の見地から爲されてゐる諸組織に對して、斷然鬪爭するものでなければならない。

ブルジョアジーは、工場内に勞働者のスポーツ組織を作り、休憩時間を利用して、種々

ブルジョアジーの目的は、生産力を増大せしめること、勞働者階級を自己の影響下に置き、自己の協力者たらしめ、そして、所謂「産業平和」を確保すること、勞働者大衆を反動化せしめ罷業破りを養成すること、、、教育をより強力にすること、等であり、さらに重要なことは、かくして自己の隷屬の下に置いたスポーツ團體を（五字削除）及びその共鳴者達に對してケシかけることである。

かゝるものに對抗して、世界的規模を有ちつゝ鬪爭してゐる赤色スポーツ・インタナショナルは、最近數年間に著るしくその組織を強めることが出來た。そして、昨年の夏、アムステルダムのオリンピツクに對抗して行なはれたモスコオの第一回スパルタキアード大會には、ソヴエート聯邦を初め、獨逸、諾威、瑞西、希臘、勞閘等から多數のプロレタリア・スポーツ代表が參加した。

この大會に於て特に著るしく際立つて見えたのは、集團競技の素晴らしさと、ソヴエート婦人勞働者の目ざましい活躍ぶりであつた。

このスパルタキアード大會が如何なる意圖の下に行なはれたかは、左の如き大會のスロオガンが之をよく物語つてゐる。

曰く、勞働者スポーツ青年をブルジョアジイの影響下から切り離す爲に鬪へ（九字削字）と戰へ、青年の、、、に抗爭せよ、ソヴエート聯邦、、の爲に鬪へ、國際勞働者スポート統一實現の爲に鬪へ。

だが、殘念なことは、日本に於ては、未だプロレタリア・スポーツの組織が確立してゐない。青年コミンタン第五回大會もこのことを指摘してゐる。

日本の勞働者がとつつき易いスポーツ――野球、ラグビー、柔道、劍道、からて、等の組織をもつことは左程困難でもあるまいと思はれる。そしてこれ等のチームを組織するに當つて、必要な道具類は、資本家側に買はせ

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新刊批評

「日本金融資本論」

小島精一著

大森義太郎

わたしは今この書を月旦しようとして、幾分か躊躇せざるをえない。なぜなら、このやうに大なる努力の結晶を僅か數十行をもつて批評し去られることは、著者にとつて決して望ましくはないであらうから。それにもかゝはらず尙わたしの筆を取るのは、まだ氣付かずにゐる讀者にこの勞作が必讀に價することを告げ知らせたく思ふからである。それほどにこの小嶋氏の近業は大なる價値をもつ。それを、まづわたしは强調したい。

この書の內容は標題によつて充分明かに語られてゐるであらう。『金融資本論』といふ言葉は、かく題されたヒルフアデイングの劃期的な著作以來、帝國主義時代における資本主義の解剖を意味する慣しである。小嶋氏の勞作はかうした解剖を特殊的に日本について果さうとするにあること明かである。されば、著者はまづ第一章において、帝國主義——獨占資本主義の一般的性質を述べ、それが後進國日本にも現れ來つてゐることを『序說』した後に取り急いで、——然り確かに取り急いで、である。この『序說』はあまりに簡單すぎる。この章に述べられることは、本書全體の考察に對する實に根柢を爲すべきものであるにもかゝはらず、著者はそれにふさはしいだけの敍述を含まれてゐる。我々は金融資本の、獨占資本主義の、『國家資本主義』の明確な且つ充分な說明を聽くことができなかつた。しかも[illegible]ふやうに、このことは小嶋氏の近業に少らず禍してゐる。

が、それはしばらく措かう。著者は直ちに上のごとき獨占資本主義的傾向の展開を日本の各產業について仔細に吟味する。それは『金融業』に始まつて『製紙業』に終るまで實に十一の項目に亘つて、たゞひとつその研究を將來に約束された紡績業を除くほか、ほとんど我國における主要產業を盡してゐる。そして著者の業績は此處においてまさに光彩陸離たるものがある。多くの數字を擧げ、圖表を揭げて、その生產技術の考察から企業形態の討究まで、獨占形成の過程を頗に具體的に明かにしてゐる。その一產業の研究のみをもつてしても、人々の嘆賞を買ふに充分であらう。なかんづく、小嶋氏年來の研究の題目たる鐵工業のごとき、この書においても、何人も[illegible]を禁じ得ないであらう。

このやうに各產業部門の研究の見事であり、又著者の力をこめてゐることは、しか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しながら、逆說的に云へばそのために却つて、惡い結果を生まないではなかつた。あまりに部分に囚はれたために全體の有機的聯關が犧牲にされてゐる。このことは、例へば、著者が各產業部門が全體において占める重要さに從つてその考察の深さと廣さとを按配してゐないことによつても指摘されよう。そして、この缺點はさきの序說の不備と結んで、我々が『日本金融資本論』から帝國主義日本の全貌を描くことをはなはだ困難ならしめてゐる。

わたしはこの點をもう少し考へる。資本主義に對する—殊にその沒落期において、—眞に豐かな解剖は、これに向つて眞に批判的な態度を取りうるマルクシズムのみがひとり約束する。もとより小嶋氏の態度もまたマルクス主義的である。それはこの書の成功の有力な原因の少くとも一つであらう。けれども、小嶋氏の態度は果して充分であらうか？　氏はその理論的考察においてゾムバルトの後期資本主義者に據られるところ少なくないものゝごとくである。わたしはこの點を云ひたい。氏はなにゆゑに、沒落期資本主義に對するもつともよき考察を我々に供してゐるレーニン、ブハーリンをもつと顧ることをなされなかつたのであらうか。

最後に、わたしは、わたしの勝手な批評を心から氏に謝さねばならぬ。批評することは、殊にかうしたいはゆる實證的研究を批評することは極めて容易である。わたしですら、理論的な點は別として、その事實的な點についても二三の缺點を摘示できさうに思ふ。しかしみづからこれだけの勞作を果すことは容易でない。特に、小嶋氏が大學の研究室に在るのでなく、民間の研究所を利用しうるのでないことを思ふとき、わたしは一層この感に打たれる。しかも著者小嶋氏は——重ねて云へば——かくのごときよき著書をもつて我々を益された。我々は氏がその研究を進められて、さらに我々を益されることを期待する。わたしのこの批評も、その氏の研究にもし何等かの示唆となるならば、……(東京市京橋第一相互館内千倉書房發行・定價二圓五十錢)

大佛次郎氏著
「赤穗浪士」三卷を評す

千葉龜雄

大佛次郎君の「赤穗義士」の下卷が出た。大佛君もさぞほつとしたことであらう。讀者もほつとしたらうし、僕もいさゝかほつとした。大佛君が下卷をいかに終結させるかについて、隨分いらいらして居た事實を知つて居るからである。何分これだけの長編となると、お了ひを手際よくつけるのが一通りの苦勞でない。幸ひ赤穗浪士の史實なるものは、始めから都合よく纏まりがついて居る。しひてつむじ曲りに事件を歪曲しない限り、因果律の實物教訓で、讀者の期待を充分に滿足させ得る。これだけの筋

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

判的な態度を取りうるマルクシズムのみが
ひとり約束する。もとより小嶋氏の態度も
またマルクス主義的である。それはこの書
の成功の有力な原因の少くとも一つであら
う。けれども、小嶋氏の態度は果して充分
であらうか？　氏はその理論的考察にお
いてゾムバルトの後期資本主義者に據られ

大學の研究室に在るのでなく、民間の研究
所を利用しうるのでないことを思ふとき、
わたしは一層この點に打たれる。しかも著
者小嶋氏は——重ねて云へば——かくのご
ときよき著書をもつて我々を益された。我
々は氏がその研究を進められて、さらに我
々を益されることを期待する。わたしのこ

知つて居るからである。何分これだけの長
編となると、お了ひを手際よくつけるのが、
一通りの苦勞でない。幸ひ赤穗浪士の史實
なるものは、始めから都合よく纏まりがつ
いて居る。しひてつむじ曲りに事件を歪曲
しない限り、因果律の實物教訓で、讀者の
期待を充分に滿足させ得る。これだけの筋

がちやんと付いて居るのだ。それをどう片付けやうと、大佛君の手際で、縮尻る場合が萬一もありさうはない。それは安心だ。

面倒なのは、陣十郎や隼人の始末であつたらう。一體、陣十郎だの、隼人だの、お仙だのが、義士本傳に出て來はしないなどと、野暮を言ふのは止さう。誰だつて、大佛君の創作であるのは知つて居る。この三人が、「赤穗浪士」の長帳場を、出たり入つたりして變化をつけて與れた働らきは、どれほど感謝してもよい。實際この三人は、大石無人とは別の意味で、或はそれ以上の立役であり、讀者のひいき役者でもあつた。その代り、「赤穗浪士」全篇からいふと、どうも氣持ちがしつくりしない。時々は、變な邪魔物、餘計者のやうにも持扱はれたりした。これは、芝居で見た時、特に感じた印象である。大佛君の構成力を持つてしても、所詮どこか身につかない存在であつた——といつて、それは、赤穗浪士一般との關係だけの話で、陣十郎、お仙、隼人だけのトリオでは、相當以上うまくウマが合せられて居る——それで大佛君と逢つて、下卷の話が出た時も、この三人を、どう片付けるかに特に頭を惱まして居たやうであつた。下卷を讀んで、氏の苦惱の跡がありありと見える。

そこで感心したことには、上中卷で讀んだ時の隼人の身につかないやうな感銘が、ここで拭つたやうに消えて了つたのである。敵討に焦慮する義士を狙ふ隼人は、有りやう、自分でも、所在が無くて、でなくさへ邪魔になる虛無思想を、からだと一緒に持て扱つて居た。つまり隼人はここで始めて、隼人も身について來る。——浪士達が敵討後の——、空虛な氣分を適切に生す篇の役者として、最初から引き出されたのでは無いか。さう思ふほど、かうなると打つてつけの隼人になつた。敵討後は、內藏之助も、義士達も退屈だつたらう。けれども、元來の退屈屋である隼人の退屈は、一層深いか知れない。目的の無い辻斬りをして、果てが心中して了ふ。心中とはまた意想外だが、それでも隼人の心理は、氏が隨分打込んで書いて居る。

どうも隼人論ばかりをして濟みません。三卷を通じて、三卷の情調が、それぞれに違ふのは愉快である。上卷は、事件の過程がテンポが早いから、素直に、端的に、すらすらと筋が運んである。屈托がない。中卷になると、事件が横廣がりに、ひどく復雜して來る。もともとの史實が、そんな風に發展したのでもあるが、大佛君は、その上に創造力を勝手に、ふんだん發揮したのだから、人物も大勢なら、八方へ目も配られねばならぬ。だから、事件の發展には、ひどく興味を持つたれたにせよ、どこか浮足で、慌しい感じがないでもなかつた。その代り手が込んで居る。が、一番面倒なのは下卷であつたらう。それは終末だからといふ意味ばかりで無い。敵討だけで了ふなら、それは手がかからぬ。氏は、中心を敵討に置かず、敵討をしてから後の諸方面の狀勢を書

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いて見たいのか、恐らく氏の本願ではなかつたか。少くとも、そこに氏が興味を置いたのでは無かつたか。下卷を見て、どうもそう思ふ。それが萬遍なく行渡つて引き出されて居る。慾には、どの部分も、もつと頁を多くとつて欲しかつた。大野九郎兵衛を引き出したのは、少し御愛嬌だが、將監の氣持ちは、氏らしい自由屈撓性で、ユニアンスが氣持よく味はれた。それは宜しい。ただ、氏の趣味であらうか、それとも意識しての新局面への進出であらうか。心理描寫の深化が、無用と思はれるほどにくどい場合がある。事件と心理の説明を調子よく組み合せず、細かく細かく、心理の解説だけにうつとりして、與に入つて居るやうな傾きがある。それるだけ、筋全體を動かすテンポを、そこまで來て緩漫にし、もしくは獨合點に落ちる。「狂言」などにもその一例は見られなかつたか。敵討近い場面が、妙に平面化したのとはまた別な事情であらう。が、「赤穗浪士」は、これですつかり完成した。いろんな無禮は申したものの、こんな知られ渡つた史實を、これほど大膽に取さばいて、それで立派に纏まつた、こんな複雜した「赤穗浪士」を大佛君の外のどの作家が創作し得るといふのだ。(東京芝區愛宕下町四ノ六改造社發行・上中下各卷定價壹圓五拾錢)

山内得立氏の新業「現象學敍説」を讀みて

兒玉達童

此數日來、最近岩波書店からでた山内得立氏の新業「現象學敍説」を一讀するの機會を得た。四百六十頁に亘る巻然たる大努作であり、且つ論ぜらるゝ所は、一般に難解の故を以て鳴たる、學界の新潮流現象學の精緻な研究であるが故に、單なる一讀に依つて之を批評するが如きことは思ひもよらないが、若し斯る純學術的勞作に對しても單に讀後の感想だけを述べることが許されるならば、私は、何よりも先づ、此難解の哲學を斯程迄に、其全般に亘つて我がものとされた著者の理解と努力とに大なる敬意と感謝とを表せざるを得ない。固より、著書も斷つて居らるゝ通り、本書に於いては、主としてフッセールの現象學、特に其初期の思想が論ぜられてゐるから、若し此哲學の其後の開展、例へばハイデッガーの解釋學的現象學等に就いて知らんとせば、更に他に之を求めなければなるまい。併し乍ら、此等其後の開展が獨り其上にのみ行はれえた素地を成せるフッセールの現象學及び其淵源に就いては、恐らく、從來我國に於いて發表せられた總ての文獻に對し、其取扱ひの全面的なることに於いて、斷然一頭地を抜くものと言へよう。

著者は人類の歴史を貫いて哲學、否一般に思想の二つの型が對蹠的に對立して居ることを認める。一はプラトン型で二元的

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

乙に於いてはカントが前者、ライプニッツが後者を代表する。而して現象學はライプニッツの流を汲むボルツァーノ、アリストテレスを學んだブレンターノを源流とするから、カント及び彼より發する一切の哲學に對しては反對の立場に立つて居る。此意味に於いて、著者の論述は、先づ現象學の立場をカント哲學の立場に對比し、其と區別することから始り、次に現象學の直接の源泉たるブレンターノの精神現象の概念を分析し、さてそれから此概念から發展したフッセールの純粹意識の概念に說き及ぶ。第三章以下第八章迄がそれで、先づ純粹意識に就いての一般的觀念を與へ、之を成立せしめる對象、內容、作用の三要素の關係を說明したる後、對象の構造、本質學、純粹現象學、實在の問題、現象學的認識論の順序で論せられて居る。

現象學の立場に立つことを學ぶ爲に、哲學史の知識に依つて鍛えられざる一般の讀者が之に入る手がゝりとして先づ着目すべきは、彼等が普通物について考へる自然的立場から二重の還元に依つて此立場に立つに至るの過程であらう。二重の還元とは形相的還元と現象學的還元とである。自然的立場に於いては、人は個物を個物としてのみ卽ち事實としてのみ見るが、形相的還元に於いては個物の中に本質が見られる。又現象學的還元に於いては其本質が更に意識の本質として見直される。此等のことは第五章の末節本質直觀の節から第六章に亘つて說かれ、全篇の眼目となる所であらう。

事實と意識、對象と內容と作用との本質的關係を意識の本質として其意識に於いて見に行くところに現象學の立場があるとすれば、事實又は對象の意識性を說くことは現象學の根本主張であり、而して之はカントがコペルニクス的轉回に依つて事物の認識性を說くのと一致しはしないか。著者は必ずしも其接近を否定せず、殊にリッカートの所謂先驗心理學の意味に於いて解釋さるゝカントの一面に於いて之を認めるが、全體としては兩者を引き離すことに力を入れて居られる。其理由は一でない。フッセールに於いては對象の認識可能性は問題になつてゐないとか、本質は事實を離れて存在しえず、又本質同志の間に無限の階段があつて本質の本質といふやうなことが言へるのにカントの對象と認識とに於いては斯くの如きことはないとか等々である。併しラスクが形式の形式を說いたのを、ラスク自身がカントの原理の適用の擴張と考へてゐるのに、「既に純粹なる認識論的立場を去つて本質的立場に移つたもの」と評せらるゝが如きは如何であらうか。

斯樣な技葉な點では必ずしも直に承服し難い點があるにもせよ、全體として本書が前述の如く、我國に於ける從來の現象學文獻を遙に厭倒せるものなることは確かであり、又其が著者の希望せる如く、新しき問題の——恐らくは大なる端緒となることも單に著者自身に於いてのみならず、學界一般に於いて確かであらう。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

猶本書を通じて著者の周到なる用意に感謝しなければならぬのは、叙述の明快、譯語の選擇、引例の豐富、類似學說との比較等色々あるが、就中同一思想系統の學者との關係について、ブレンターノの內部知覺の說から本質直觀を基礎づけ、マイノングの假定の說と中和變樣の思想を連關せしめ、ブレンターノになくてフッセールに存する內容の概念の重要さを示し、對象と內容とを區別する理由を示す爲にトワルドウスキーの表象の二義より出發するなど、多くの苦心の存することを見逃してはならぬ。——私は此良書の刊行を學界のみならず廣く一般讀書界の爲に喜びたいと思ふ。（東京市神田區神保町岩波書店發行・定價參圓）

新刊紹介

◆**最近政治外交史續卷**（坪井九馬三著・既刊上中下卷に續く大著、世界大戰前に於ける列强の政治外交篇として先づ東洋に於ける日獨佛英等列國の暗鬪を細敍し轉じてモロッコ問題から土耳古の革命を描き巴爾幹諸國に觸れて大戰前の息詰る列强の對峙を彷彿せしむ。日露戰爭當時の外交や前獨逸皇帝の野望に充ちた活躍等興味津々・東京神田區表神保町冨山房發行・定價五圓）

◆**歌集氾青**（長澤美津子著・古泉千樫氏の門に入り靑垣同人・東京市外巢鴨町宮下一六九四・四海書房發行・定價壹圓五十錢）

◆**祭禮と風俗**（中山太郎著・民族藝術叢書中の一篇・東京神田南神保町一四地平社書房發行・定價壹圓）

◆**ソヴエート政權獲得史**（ピオントコフスキー著・萩原厚生、伊藤好道譯・東京京橋區尾張町三ノ二二・南蠻書房發行・定價壹圓）

◆**日本の眺望**（白戶郁之介著詩集・東京市外野方町上沼袋七三・詩集社發行・定價壹圓）

◆**或る農夫の家**（中西伊之助著・「或る農夫の家」「農夫喜兵衛の死」「武左衛門一揆」の三篇を集む、何れも勞農ロシヤに飜譯されて好評を受けし作である・東京牛込區山吹町八・共生閣發行・定價壹圓五十錢）

◆**世界食糧資源論**（ゼー・ラッセル・スミス著・賀川豐彥・藤田秀夫譯・原著者はコロンビヤ大學の經濟地理學教授で大戰當時食糧局技師をした人、本書は世界に於ける食物の生產供給分布狀態の研究より食糧問題の將來を暗示し其研究の廣範圍にして科學的なる此方面の權威書といってよからう・東京牛込矢來町新潮社發行・定價貳圓參拾錢）

改造社新刊豫告

饒舌錄　谷崎潤一郎著

經濟小言　武藤山治著

市町村法律必携　奈良正路著

日本交通史の研究　本庄榮治郎編

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

◆或る農夫の家（中西伊之助著）或る農夫

日本交通史の研究　大日本交通史編

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

全集

第九巻 北原白秋集
吉井勇集

第十巻 石川啄木集
土岐善麿集

第十八巻 若山喜志子・原阿佐緒・四賀光子集

第十九巻 口語歌集
新興短歌集

第一回配本開始（目下配本中）

別巻

明治天皇御製集
昭憲皇太后御歌集

平福百穗畫伯裝幀高雅無比

表紙絹ポプリン木版手刷天金函入特製本

全二十巻

一冊壹圓五拾錢

内容見本進呈

〆切九月卅日

□現代の『萬葉集』を各家庭に一部宛備へよ

□我國民の「雅び」と「愼み」の源泉は短歌道

□現代人のたしなみ嫁入道具の第一人者

□國民の全集、萬代に生命ある懷しい全集

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

千樫追善記

——隨緣抄後記

釋迢空

◇

「あらゝぎ」同人の中、私の最初に親しみを感じたのは、千樫の作物であつた。後、「馬鈴薯の花」時代の赤彦に離れる樣になつて行つた。其でも、尙千樫には、千樫として尊敬を持ち續けてゐた。けれども、かう言ふ點に考へ及ばないで居た事が、今は思はれる。千樫には、早期から晩年に至る作品を通じて、誰にでも味ひ得る、或普遍なものがあつた事である。「若さ」「みづ〴〵しさ」を感じさせる「潤ひ」「人なつこさ」や「すなほさ」とも言ふべき「善良」の發露があつた。さうして、其が誰よりも抒情氣分に充ちた調子と發想とを惹き出して居る。だが、この處が、或「甘さ」や、通俗質を含んで居る。描寫に早く見きりをつけて、氣分に身をかはす樣な傾向をも生じた。千樫に一等多い、最後の句の「を」の「感動どめ」が、よかれあしかれ、其癖をはつきりと見せてゐる。「て」「つゝ」に、何時も餘情を含めようとした舊式修辭法を、萬葉風に行つた傾きもあるのだ。この「甘さ」や「入り易さ」があり難迷惑な愛好者を作る。千樫の歌は、啄木に負けない位のひいきを持つべきはずであつた。啄木の概念や、論理や、朗吟・演說式の調子が、人々の若い心を捲き込んだ樣に、千樫のかうした傾向も、どうして、一つの時期を作らなかつたか、不思議な程である。發表機關の不便な時代にしては、稍上品で、少々ながら、共趣味に用意がいつたからである「すばる」盛行時代と、「あらゝぎ」流盛期とが、並行して居たら、啄木の御方のある部分は、千樫に來てゐたらうと思ふ。氣分と、生活と、題材と、感受性とに、異態を示した茂吉さんの方が、啄木時代を繼いで了うて、千樫は立ち遲れた形であつた。一つは、茂吉さんの世間的地位を、批評に持ち込んだ傾きも見える。白秋さんの花やかで白く澄んだ境地が、もてはやされたのも、異風好みの時代になつたからである。續いて、赤彦の「切火」の、その地盤を固

□現代の「萬葉集」を各家庭に一部宛備へよ
□我國民の「雅び」と「愼み」の源泉は短歌道
□現代人のたしなみ嫁入道具の第一人者
□國民の全集、萬代に生命ある懐しい全集
壹圓五拾錢
内容見本進呈
〆切九月卅日

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

めて來たのも、一種の示威を含んだ「歌くち」だつたからである。かうして千樫の氣分と「なだらかさ」は、親しみと尊びは受けて居ながら、流行の中心となるに、都合のわるい世間になつて來た。其に千樫は、歌集も持たず、その主宰する所として、世俗の心を牽制する雜誌も持たなかつた。「あらゝぎ」に於ける地位も、大切な同人でありながら、世間の思はくは、赤彦ほどに、重く見てゐなかつた。

赤彦の出京後「十年」の間に、あれだけ自分の時代を築いたのには、勿論才能も、勉強もあつたが、雜誌を持つた事が、大きな原因でないとは言へぬ。赤彦時代の後、最近まで世間は、不凡を愛する方に傾いてゐた。此が、千樫の時を導かうとして居たと見てよいと私は思ふ。でも、千樫は客分として優待せられて居ても、自分の物と言ふ雜誌を持たなかつた。其に、時流を牽きつけるだけの量の製作がなかつた。

千樫の時が來てゐても、くろうとや、一部分のひいきを感服させるだけの發表しかなかつた。時代を作る事と、よい作品を一つでも作るとする理想と、兩方ながら意義はある。だが、千樫の場合は、立派に兩立する理由があつたのだ。此時運は、千樫には見とほされなかつたらうが、其は問題でない。大きな努力と少々の健康とが、足らなかつたのであつた。千樫の作風や、態度は後世の知己でなくては訣らないと謂つたものではない。今の今まで、理會の深淺はあつても、多くの人々の作品の價値以外には、時の文運を進めた權威としては殘らなかつたのである。千樫の遺した門下諸氏の苦勞で出てゐる「青垣」が生前に出てゐたら、彼の製作欲を煽り立てる事になつたかも知れぬと思ふと、殘念でならない。

◇

千樫の運命が、かうした形をとつたのには、尚原因があつて、意力と努力とを挫いた樣である。元々、其野心を卑しむ文人としての趣味があつた。東京に出て、安んじて勉強して居られる職業を得ない中に、學間藝術に對する慾望は、享樂化して行つて了うたのである。學間なり藝術なりに努力せねばならぬ、又するに都合のよい地位は、――優秀な素質のあるに拘らず――學歷の不足から得られなかつた。實を言ふと、東京に出た動機からして、本式に學び、作る側へ向ふに不適當なものを交へてゐたらしい。蒸汽船で、大川尻に着いた當時の歌を見ると、純良で、謙德を知つた青年が、狹い世間の重荷を卸す爲の隱れがを求めて、やつと辿りついたと言つた都會の與へた印象が出てゐる。「野菊の墓」の少年から、「隣の嫁」・「春の潮」のもでるに近い青年になつた道筋は、自然である。上京後の生活は、古く交りのない私には、見當はつかない。でも、傳聞の綜合から來る輪廓の想像は、千樫の藝術の來由の說明には役に立つ樣である。

他から力を受けると、責任感が極度に發して、意力を持して行く性

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。善良で、思ひやり深く、道義心の強い人の、[illegible]の長老した時の心理である。私は千樫を義理がたい人であつたと思ふ。其が、負ひきれぬ脅迫觀を惑ふ時には、此を放擲して、心深く悔いつゝ、どうも出來ぬといふあり樣になつたのだらう。千樫にはだから、他人の遺稿を整理したり、年譜を作製したりする場合に、驚くほど立派な爲事をしてゐる。堪へられない程長い延べ時數を費して、完全と言うてもよい物をしあげる。此は、金錢を目においては、出來ぬ爲事である。

ところが、自身の爲事になると、大事をとり過ぎるから、他人のものゝ樣にあきらめがつかないでゐる間に、疲れたのだと人は考へた。私は必ずしも、さうばかりも思へない。自身の爲事に對しては、意力に強制するものがないからだ。自分に對して、義務觀念は起らない。努力せぬ替りに投げ出して了ふ事もない。さうした間に、少しづゝ長く、又は急激な昂奮から一時に、しあげる事もないではない。他人の爲には、義理はあつても、自身の作物に對しては、やはり、責任感を深く持ち難い。さうした心から、若い間には、譬へば、「最近十年間に於ける新派歌壇」などの類の、精力家らしく見える物さへつくり上げてゐるのだ。又、「萬葉短歌全集を讀む」の樣な緻密な抗議文を綴るだけの、暇を惜しまぬ爲事もした。其効果はすが〱しく受けいれられた。萬葉全集の編者は、彼の言ひ分を通して、其後の新版を改訂した。千樫の場合、文のなるよりも、歌の出來るのが、容易でなかつた。文は倘放任しても書けた。歌になると、自分の物ながら、作る時の習はしから、[illegible]として既に纏まりかゝつた最後の感じに[illegible]ぬのと、一つ氣分になるのであらう。此も、時に怠たるが起たの、感興を重んじるからだのとばかりでは說けないものがあるのである。でも、作るに適した心持ちが起ると、わりにすら〱と出來たらしいのは、事實である。千樫の歌は、晩年ほど製作に樂な樣になつた樣だが、若くからもわりに第一次發想を變形させてゐないものが多いと見える。其ゆゑ、其調子が氣分を其まゝに傳へてゐるのであらう。眞實に近づけるだけの技工は、千樫は勿論、閑却はして居なかつた。其は、後輩私如きに、いろ〱相談をかけてくれた——辛苦の窺はれる技工上の問題の——記憶からも謂へる。感激當時に近く生れた作物を疑ひ、すべて技工の階段に移して見て、はじめて客觀性の具るものとした赤彦以下の寫生論は、眞理である。が、情熱の技工突破の力を見はないのは、まだ物足らなさを殘してゐる。

千樫の態度は、寫生と言ふより、感激を重んじるものであつた。此事は、左千夫の態度を最正しく傳へた彼として、「叫び」の藝術を、論理なしに又、主張なしに守つてゐた事になる。感激派とは謂へ、彼は、氣分派であり、微動派であつた。其には、氣分ゝ持續が長かつた。だから、あゝした作風のものが、時を經ても、當時の印象を、わりあひによく傳へてゐるのだ。

◇

隨縁抄の原稿の蒐集・整理は、道家・西坂同人の方々の努力による。

めて來たのも、一種の示威を含んだ「歌くち」だつたからである。かうして千樫の氣分と「なだらかさ」は、親しみと尊びは受けて居ながら、流行の中心となるに、都合のわるい世間になつて來た。其に千樫は、歌集も持たず、その主宰する所として、世俗の心を牽掣する雜誌も持たなかつた。「あらゝぎ」に於ける地位も、大切な同人でありながら、世間の思はくは、赤彦ほどに、重く見てゐなかつた。

赤彦の出京後「十年」の間に、あれだけ自分の時代を築いたのには、勿論才能も、勉強もあつたが、雜誌を持つた事が、大きな原因でないとは言へぬ。赤彦時代の後、最近まで世間は、平凡を愛する方に傾いてゐた。此が、千樫の時を導かうとして居たと見てよいと私は思ふ。でも、千樫は客分として優待せられて居ても、自分の物と言ふ雜誌を持たなかつた。其に、時流を牽きつけるだけの量の製作がなかつた。

千樫の時が來てゐても、いゝくろうとや、一部分のひいきを感服させるだけの發表しかなかつた。時代を作る事と、よい作品を一つでも作るとする理想と、兩方ながら意義はある。だが、千樫の場合は、立派に兩立する理由があつたのだ。此時運は、千樫には見とほされなかつたらうが、其は問題でない。大きな努力と少々の健康とが、足らなかつたのであつた。千樫の作風や、態度は後世の知己でなくては訣らないと謂つたものではない。今の今まで、理會の深淺はあつても、多くの讀者を持つ事の出來るものである。意力と精力との不足から、惜しくも個々の作品の價値以外には、時の文運を進めた權威としては殘らなかつたのである。千樫の遺した門下諸氏の苦勞で出てゐる「靑垣」が生前に出てゐたら、彼の製作欲を煽り立てる事になつたかも知れぬと思ふと、殘念でならない。

◇

千樫の運命が、かうした形をとつたのには、尙原因があつて、意力と努力とを挫いた樣である。元々、其野心を卑しむ文人としての趣味があつた。東京に出て、安んじて勉強して居られる職業を得ない中に、學問藝術に對する慾望は、享樂化して行つて了うたのである。學問なり藝術なりに努力せねばならぬ、又するに都合のよい地位は、――優秀な素質のあるに拘らず――學歷の不足から得られなかつた。實を言ふと、東京に出た動機からして、本式に學び、作る側へ向ふに不適當なものを交へてゐたらしい。蒸汽船で、大川尻に着いた當時の歌を見ると、純良で、謙德を知つた靑年が、狹い世間の重荷を卸す爲の隱れがを求めて、やつと辿りついたと言つた都會の與へた印象が出てゐる。「野菊の墓」の少年から、「隣の嫁」・「春の潮」のものであるに近い靑年になつた道筋は、自然である。上京後の生活は、古く交りのない私には、見當はつかない。でも、傳聞の綜合から來る輪廓の想像は、千樫の藝術の來由の説明には役に立つ樣である。

他から力を受けると、責任感が極度に發して、意力を持して行く事が出來る。而も、其あまり過重感から、廢棄する樣にも後にはなつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。善良で、思ひやり深く、道義心の鋭い人の、神經の衰弱した時の心理である。私は千樫を義理がたい人であつたと思ふ。其が、負ひきれぬ脅迫觀を誘ふ時には、此を放擲して、心深く悔いつゝ、どうも出來ぬといふあり樣になつたのだらう。千樫にはだから、他人の遺稿を整理したり、年譜を作製したりする場合に、驚くほど立派な爲事をしてゐる。堪へられない程長い延べ時數を費して、完全と言うてもよい物をしあげる。此は、金錢を目においては、出來ぬ爲事である。

　ところが、自身の爲事になると、大事をとり過ぎるから、他人のものゝ樣にあきらめがつかないでゐる間に、疲れたのだと人は考へた。私は必ずしも、さうばかりも思へない。自身の爲事に對しては、意力に強制するものがないからだ。自分に對して、義務觀念は起らない。努力せぬ替りに投げ出して了ふ事もない。さうした間に、少しづゝ長く、又は急激な昂奮から一時に、しあげる事もないではない。他人の爲には、義理はあつても、自身の作物に對しては、やはり、責任感を深く持ち難い。さうした心から、若い間には、譬へば、「最近十年間に於ける新派歌壇」などの類の、精力家らしく見える物さへつくり上げてゐるのだ。又「萬葉短歌全集を讀む」の樣な緻密な抗議文を綴るだけの、暇を惜しまぬ爲事もした。其効果はすが〱しく受けいれられた。萬葉全集の編者は、彼の言ひ分を通して、其後の新版を改訂した。千樫の場合、文のなるよりも、歌の出來るのが、容易でなかつた。文は倘放任しても書けた。歌になると、自分の物ながら、作る時の習はしから、重荷として胸に凭れかゝつた。義理の過重に堪へられぬのと、一つ氣分になるのであらう。此も、藝に忠なるが故だの、感興を重んじるからだのとばかりでは說けないものがあるのである。でも、作るに適した心持ちが起ると、わりにすら〱と出來たらしいのは、事實である。千樫の歌は、晩年ほど製作に樂な樣になつた樣だが、若くからもわりに第一次發想を變形させてゐないものが多いと見える。其ゆゑ、其調子が氣分を其まゝに傳へてゐるのであらう。眞實に近づけるだけの技工は、千樫は勿論、閑却はして居なかつた。其は、後輩私如きに、いろ〱相談をかけてくれた——辛苦の窺はれる技工上の問題の——記憶からも謂へる。感激當時に近く生れた作物を疑ひ、すべて技工の階段に移して見て、はじめて客觀性の具るものとした赤彥以下の寫生論は、眞理である。が、情熱の技工突破の力を思はないのは、まだ物足らなさを殘してゐる。

　千樫の態度は、寫生と言ふより、感激を重んじるものであつた。此事は、左千夫の態度を最正しく傳へた彼として、「叫び」の藝術を、論理なしに又、主張なしに守つてゐた事になる。感激派とは謂へ、彼は、氣分派であり、微動派であつた。其には、氣分の持續が長かつた。だから、あゝした作風のものが、時を經ても、當時の印象を、わりあひによく傳へてゐるのだ。

◇

隨緣抄の原稿の蒐集・整理は、[illegible]靑垣同人の方々の勞力による。

私などは、此文を草するだけが、此良き友に表す唯一の努力に過ぎないのを、故人にも、その他の方々にもすまなく思うてゐる。これで、協同製作の評論・輪講の一部分及び、書簡の全部の外は、短歌以外、千樫の東京生活二十數年間の文章は、十分の九までは、網羅した譯である。

この本を瞥見しただけでも、如何に千樫の、自身はづんで、文を書く昻奮の尠かつたかゞわかる。早期の美文は別として、皆義理の心からか、人の催促によつて書かされたものばかりであると言うてよい程だ。前の例は、故人の上に關する記述や、書籍の長篇紹介文である。輪講・合評の類は、後者である。

あらゝぎ編輯者としての赤彦を最惱したのは、千樫並びに、私であつた。疎懶私の事は言はぬ、千樫の家は、小石川富坂や、雜司ケ谷龜原の編輯所から、青山長谷寺下までの遠い距離を控へてゐた。今のあらゝぎ中堅同人の方々は、其當時、月の中頃には、幾度となく、此間を往復させられた印象を忘れないで居られる筈である。鬱憤の持て行き所のない程、若い人々を怒らしたのは、度重なる千樫の違約であつた。

◇

隨縁抄の後記を書く私は、まづ此名の由來を書き止めて置かう。千樫が或時、あらゝぎ編輯所の集りの席上で、この頃隨筆を書く氣が向いて來た事を話した。さうして、其題を隨縁抄とつけたいと思うてゐる、と言うた。其時の氣分の記憶の誤りがなければ、千樫は、隨縁抄の言語情調に、まづ心を喜ばしてゐたらしい。さうして、此名を盛す爲には、歌論・隨筆・小研究が、澱みなく出來上ると謂つた自信を持つ程、嬉しさの豫想に緊張してゐたのであらう。其を聞いてゐて、此詞に愛着する氣持ちが、私に快かつた。千樫の隨筆的記述には、學究的精緻と、藝術家式敏感とを豫期する事が出來た。列座の人々は、皆喜んだ。赤彦は殊に、愉快さうであつた。あの人の一番美しい發露だつた、目を瞬り、額の皺を深め、手を膝に伸べ、脊をまろくする表出して居たやうな姿が今も浮ぶ。だが、この期待は、出鼻から裏切られた。千樫は、翌月も、その翌月も稿を起さなかつたのである。其後も起草の勸告が、絶えては續きして、同人會に出た。新年號の豫告などにも、待ちかひのない隨縁抄の名が、並んだ事もある。其後どうしたはずみか、隨縁抄が、あらゝぎの上に現れた。其は、何でもよほどたつた頃である。其なりに又とぎれて、とぎれ放しになつた。そのうち茂吉さんが、長崎に移り、又洋行して、千樫・赤彦の間の楔たつた人の留守が長びき過ぎた。故人唯一人の心友は、僻も容易にとゞかぬ處に住み離れた。性格は強くても、其を折つて、我強い相手の心を和す、心美しい若い學者であつた。千樫は、さうはいかなかつた。長い東京生活の辛勞が心のむきを頑に變へてゐた。氣稟・鄉土・藝術觀の違ひなどから來る融け難さを、愈深めて行くばかりであつた。

◇

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あらゝぎ中堅同人の方々は、其當時、月の中頃には
間を往復させられた印象を忘れないで居られる筈である。鬱懐の持つ
て行き所のない儘、若い人々を怒らしたのは、愼重なる千樫の違約で
あつた。

◇

民謠抄の後記を書く私は、まづ此名の由來を書き止めて置かう。千樫が或時、あらゝぎ編輯所の集りの席上で、この頃民謠を書く氣が向いて來た事を話した。さうして、其歌を民謠抄とつけたいと思うてゐ

茂吉さんが、長崎に移り、又洋行して
の留守が長びき過ぎた。故人唯一人の心友は、聲も容易にとゞかぬ
に住み離れた。性格は強くても、其を折つて、我強い相手の心を和す、心美しい若い學者であつた。千樫は、さうはいかなかつた。長い東京生活の辛勞が、心のむきを頑に變へてゐた。氣稟・鄕土・藝術觀の違ひなどから來る解け難さを、愈詰めて行くばかりであつた。

◇

今一人同人中の先輩で、世間に名の響いた教授の、一生さうした平安な生活の續きさうに見えた其の身の上に・非常な變改が來た。其が、世のもてなやみぐさになり初めた時、千樫も、或繫りがあつたとか、少數の人の口には噂せられた。やがて、教授・故人二人は、「あらゝぎ」の上に、名を列ねなくなつた。數ヶ月の後、偶然新しく雜誌「日光」を中心とする詩社が結ばれた。此二人の左千夫門の古參者も、其同人の中に入つた。主としては、製作の動機の弛む寂寥を感じた爲であらう。私を語るのははれまがしいが、私は既に二年前から、或事情の爲に、「あらゝぎ」から無言で遠のいてゐた。歌の製作も、自然忘れた樣になつてゐた。時に、此事を思ふと、寂しくなつた。が、其頃は無爲の氣樂に馴れかけても居た。

「あらゝぎ」の寄り合ひに出なくなつてから、二年目に、千樫の久しい顔を見たのは、澁谷の學校の應接間であつた。千樫けもう、健康も以前の樣ではなかつた。そのひらめな白い顔に潮した赤みも、不安な鮮やかさを持つてゐた。「日光」の快い投書家にならないか、と奬めに來たのであつた。白面の書生であつた私を、忽「あらゝぎ」同人の末座に加へてくれた知遇の感謝を忘れないが爲に、長い二年に亘つて言ひたい事の口をつぐみ、何れの派の歌人の顔をも見ないで居た。だが、直觀性の鈍つて來る年頃を痛感してゐた時だつた。これをもり返すには、少年時代からなぢんだ歌に縋る外はない。「あらゝぎ」へは、忍び難い氣もするが、今一度短い樣式の文學に戻りたくて堪らなくなつた。千樫の來訪の主旨は、そんな事ではなかつた。けれども、此機會に、千樫に申し入れようと決心した。かうして、「あらゝぎ」同人の中三人、脱走して「日光」に奔つた外貌を備へて了うた。あの前教授の顔を、「日光」の會などで見ると、さびしくなつた。分科や身分は違つても、學究どうしである。講座を棄て、反くがまゝに人を任せて、靜かに世間の外に住んで居る人である。お互ひに「あらゝぎ」に居た間は、つひぞ話らしい話も交した事のない人である。此前教授に對する時、私の心は輝いた。だが、千樫はさうでなかつた。千樫を見ると、心が昏くなつた。酬いられぬ歌人としての令名の外に何が、其生活をくつろがして居るか。豐かな詩人素質は素質として、尚閃く學才を、多少でも伸べさせ、複雜な文學青年以外の、若い心に觸れさせる方がつかぬものか。こんな憂鬱な老婆心切が起つて來にりした。人に關まれる事を嫌うた故人には、かう言ふ感傷を覺られてはならなかつた。千樫の學歷の聯想が、さう言ふ時には、きまつて腦に來た。かういふ同情は、尊敬にすぐ隣りして居た。でも、故人は、私の無力な心切を、何處か感じて居たらしい。遙かな後輩である事を、常に忘れたことのない私である。其私を年少い同門を遇する樣につきあうてくれた。「あらゝぎ」から脱走した一人であると言ふ親しみが、千樫の胸にもあつたのであらう。千樫門の橋本德壽氏かの追憶記に見えた大學講師ならうか、勤め人にならうかと言ふ相談のあつた根柢は、見當違ひでなくば、私及び私の知人の口から出た話である。新設

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

計畫中の女の學校の高等部に、國文の先生の一人として推擧出來る樣な好しい事情が向いて來てゐた。此話を携へて、千樫を訪うた時、幾分は、心をどりを感じてくれたであらう。其晴やかな心から、輪をかけて誇らかに門下の人に相談をかける氣が起つたのではないか。だが、私としての喜びは、間もなく糠喜びとなつた。其學校は、とうとう計畫中から、廢校せねばならなくなつた。無免許の敎員を快く迎へようとした唯一の學校も、なくなつて了うたのである。譬ひ暫くでも、徒らに千樫を娛ましたのであつたら、すまない事だと其當時も思うた。あの追憶記を讀んでも、すぐ其が來た。だが、もつと心を動されたのに、門下に對して相談せずともすむことを、如何にもせい〱した顏で、噓話をしかけた、千樫の心のはづみを思ふいたましさである。

◇

其少し前赤彥が亡くなつて、其百ケ日の法會が增上寺で修せられた其歸り途、道連れになつたのは、私ども二人の外に、山本實彥さんであつた。何でも、私たちは、赤彥の死から短歌の新しい傾向について話して居た。其筋をたぐつて、もつと深入りさせ、短歌滅亡論を導いたのは、聽き手であつた改造社長であつた。其時、山本さんと千樫との間に、美しい友情が展けた樣に思ふ。故人になつて後も、改造社がいろ〱と好意を示してくれるのは、其一度の談し合ひのよい印象から來てゐると思ふ。

其頃である。改造社の出版部長が、私の舊稿を纏めて、隨筆集を出さないかと奬めに來てくれた。私は自身辭退する代りに、隨縁抄出版の案を出した。もう出來てゐる未發表の分に新しく書き加へて、一册にすれば出來ようと思うたのだ。名高い「川のほとり」の歌人の一面に、かうした學者のある事を、知らぬ人がまだなか〱多かつたからである。

隨縁抄の著者は、此機會に一時、氣が向いてゐた樣である。だが、やがて、興味も薄らいで行つた。

◇

今にして思ふ。千樫が、若し「あらゝぎ」諸同人と交はる機會が薄かつたら、何派の歌人になつてゐたか、實は訣らぬと言ふことである。けれども、歌だけは大體においておなじ方向に向うてゐたと思ふ。其だけ、彼の內生活には、本質的に歌に趣くべきものがあつたのである。さうして、古來の作品の上に出來あがつた歌の概念を、新時代の文藝運動――主として、新派和歌の――の影響によつて、變改させたものになつてゐたはずである。其だけ、千樫は本質を感受する敏感があり、古典に對する同感が深く見られる。又、其を守る事に倦むあきつぽさと新し好みとがあつた。又「あらゝぎ」の先鋒中、誰よりもまつ先に、變化・分化を感じてゐたのも彼である。だが、其を、力を以て具體化するだけの努力は出來なかつた。又、其傾向を認識するに到るだけの論理は持たなかつた。唯感じて詠んだ。だから彼の歌の、その

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

當時新しかつた物には、其下積みになつた何かゞある。誰かの荒削りの作物の中に未完成な新しさを見る時、彼は完全な短歌の本質に叶ふ物に纏して表現をする。この意味の下積みには、思ひがけない牧水がある。啄木がある。更にもつと意外な人々が多い。形においては、新鮮味を失うても、内容としては、其暗示となつた作物を、完全にしてゐる。其處に、變つた匂ひが漂うて來る。王朝末から鎌倉初期へかけての、歌人の用語中最も屢現れるにほひなる評語が、完全にその作物に當る作者は、千樫ひとりであらう。彼は此にほひを以て、新しい表現法の圭角を包んで、歌らしく、さうして概念を情調に移して行つたのであつた。譬へば、目下、歌壇の焦燥の的になつてゐる社會運動意識を加味した作物の如きも、彼が生きて居れば、平然として從來の短歌の中に其全内容を活かす事が出來たであらう。唯、私はこの運動を以て、古典的な匂ひを脱脚した抒情小曲の形式を模索してゐる、時代的傾向だと見てゐる。此方面は、彼には望めないことである。新文明を、舊文明の範疇の中に攝取する事に長けてゐた、日本國民としての特性を、文學的に著しく具へてゐた彼である。

◇

若い時の彼は、新文學に對すると同じ程度で、舊文學からも、新しい興味と刺戟とを感じたらしい。古い素地の上に來た新しさでなくて、同時に彼の心に、新古の文學の感激が來たのである。此は、赤彦等の舊文學から出た者とも違ひ、茂吉さん等の新文學から出た者とも違ふ所以である。すべてが驚異であつた。さうして彼の心は、文學的には、一等なごやかであつた。

彼の文學の從順性と純粹性とは、その性格的本然以外に、茲に因してゐることが深いと思ふ。古歌謠からは、新しい境地を感得し、世間の作物からは、當季々々の表現法との妥協點を開いて行つた。

彼は左千夫翁に師事することにならなかつたら、「心の花」の歌人となつてゐたであらう。或は偶然、若い名譽心から投書した新聞の懸賞短歌が、與謝野氏の見出す所となつたら、新詩社派の作家として、後年「すばる」に雄飛した事であらう。柴舟派、薫園派いづれに落ちついても、彼は朋黨的色彩や、主義的表現法を脱した、彼自身らしい作風を見せたことであらう。順應し易い者ほど、さうして、情調的な作者ほど、根柢的に周圍に同化しない生活を保つものなのである。

◇

「心の花」は、新派短歌史において、一つの異風な地位を占めてゐる。學者である竹柏園博士は、後期王朝の歌學者がさうであつた如く、知識的には朋黨を超越して、各派を理會しようと努めてゐた。其爲に、一時は根岸派の機關雜誌の樣な姿にさへ見えた。此印象が可なり長く殘つてゐた。作風においては、全然別途を歩いた、情味の上にある融合點を持つてゐた樣に思はれる。左翁に昵近した人々の中、竹柏園系の歌人によつて、生活の保證を得た人々があつた。千樫も、其一人と言つてよいと思ふ。根岸派の歴史を見るには、「心の花」との

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

渉を目に置く必要がある。

竹柏園博士の在野の歌道師範家としての名聲や、其對象となつた階級に對する世間の惡意がなかつたとしたらどうだらう。「心の花」は、新舊短歌の合同機關となつたであらう。佐々木さんの最初の計畫も、さうした處にあつたのではないかと思ふ。其か自然に、竹柏園獨自のものとなつて來たのは、槇の屋派との對立關係が深く意識せられ出して、彼門下諸流との交渉を失ひ、後子規派と別れる事になつた爲である。かうした各派融合の理想が、前竹柏園―佐々木弘綱―以來の不文の家憲であつたのであらう。われ人ともに履呪うて來た其各流を調和した樣な、流行の表現法の普遍化を待つて採用すると言うた態度も、かう考へて來ると、歌壇的にある大きい意義はあつたのである。

千樫の場合は、他の同人たちよりも、最も多く「心の花」の歴史を考へに含めて見ねばならぬ。性格が、さうした傾向に協ひ、境遇が、此雜誌の態度や、作風に同情を持たねばならぬあり樣にあつたのだ。竹柏園派の石榑千亦さんの下に在つた御蔭で、缺勤の多かつた町の勤め人としての生活も、細々乍らも續けられた。

同僚であつて、彼の死病の本主であると稱せられる新井洸太郎―作名、洸―の歌の、千樫風なのを見れば、彼の指導の多かつた事が思はれる。ある時期において、「心の花」の中心的な歌風は、彼の幻が出てゐるのではないかとさへ思はれた事もある。

彼に左翁との因緣なく、斷ち難い茂吉との友情なく、所屬流派の誇りなく、赤彥との感情關係が、もつと早く紛亂してゐたのだつたら、「心の花」の人となつてゐるはずであつた。

◇

隨緣抄一卷、編纂の責任は、すべて私が負うて居ります。けれども、これが出來あがるまでの辛勞は、私が積んだのではありません。一から十まで、人の努力を、懷手して見てゐました。故人に對して、すまない事だと思ひます。

全く故人門下の強い報謝の志から出た成績であります。材料の蒐集から、其淨寫、印刷にかゝつてからの心盡し、かうした爲事に、御苦勞かけた方々は、大熊長次郎・橋本德壽・水野京子さんその外であります。故人の遺族の爲にも、深く感謝の意を表します。

千樫の亡くなつた時も、四國に居て、室戸崎に向ふ自働車の中で見た高知の新聞で知つた。多くの花輪にとりまかれて目をつぶつてゐるはずの故人の俤は、却つて遠く離れて考へるほど、安らかに思ひ浮べられる樣であつた。

私は、東京での葬式のすんだ幾日か後、土佐、伊豫の國境の山道を歩いてゐた。

なき人の　けふは、七日になりぬらし。あふ人もなく　みな旅びと
たまさかに　我を追ひこす巡禮の　あのとにあらし。とほくなりつゝ

まつ黑な國有林と、青々とした溪川。其間に白くうねつてゐる道。私は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は、時々立ち止つて、大きく〱目を瞬らかずには居られなかつたのである。なんだか、現實と夢とが、一しよに寄つて來さうな氣がするのであつた。

巡禮のだか、千樫の聲音だか、どうかすれば、わかちがつかなくなりさうになる氣がした。

◇

かつぷくから見れば、近來殊に幅が加つて來てゐた。まさの下駄をふんで歩く姿などは、逞しく感じないでは居られなかつた。すまふの年より見たいだなあ、と言つて笑はせたこともあつた程である。

それに、あのものあきらめのよい調子が、つい〱重病をすら輕く見せがちであつた。私などもこんな點で、故人の健康をかひかぶつて居た樣な氣がする。

私にとつては、ずゐぶんの先輩であつた。「川のほとり」そのほかの舊作を讀み返してゐると、なるほど久しいものだと言ふ氣が深くする。千樫の歌の味を知りそめて、其に傾倒し出したのは、昨日今日の事ではなかつた。此先輩と一しよに「あら〻ぎ」の同人として、時々相談會などに、顏を合せる樣になつた。其當時の氣持ちを、その後後先に「あら〻ぎ」から出るやうになつた際、殊に深く、くり返して思ひ出した。何だか、勿體ない樣な感激なのであつた。年齡はかはらぬにしても、作物から受けた影響は、ある時期の私の上に、明らかに殘つてゐる。故人の歌風は、一番日本在來の短歌の本質を、まつすぐに伸して行つたものと言ふことの出來るものなのであつた。年若くして古典になづんだ私どもが囚はれないで居られぬ譯である。

左千夫の歌がらを一番正しく傳へたのは、此人なのである。茂吉さんになると、先生にばかり縋つて居られなくなつて、自由な處へ出よう〱として居た。外には、三井さんが旗あげをしたり、内には、かうした從順でゐて、段々變りかけた茂吉さんや、信州諏訪から別の風格ある作物を示し出した赤彦などがあつた。根岸派の歌も、轉機に臨んでゐたのである。此時分、しんから先生の慰めになつたのは、千樫一人であつた事を思ふ。茂吉さんは、純で感激し易くとも、その激昂の程度違ひが、左千夫自身にも、ひけめを感じないでは居られなかつたのであらう。家も目と鼻との間に居り、萬事自分によりかゝつてゐる青年の一面も故郷も近し、話す語も、おなじ語感を起させると言つたよい青年に對する親しみが、何と言つても寂しい左千夫の心を、揉みほぐすのに叶うてゐたらしく思はれる。

其に、あの頃の千樫の顏である。如何にも若々しい、うぶな美しさに輝いてゐた。私は子規庵での歌會に二度まで、左千夫の周圍の、まだ若かつた歌人たちを見た。稍堅い感じを與へるところはあつたけれど、色の白い、やは〱とした青年の顏を見て、いきなり古泉さんは、此だと悟つた。此人がすなほに、先生の道をわが道として、一向きについて來てゐると言ふ事は、左千夫の荒み易かつた晩年の心の潤ひだつたには違ひないのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

千樫の歌を左千夫正統だ、と私は言うた。此は「あらゝぎ」の人々なども認められるはずの事である。寫生道なども、子規の主張が、茂吉さんに理論化せられ、赤彦に標語化せられて行つた。だが實の處、左千夫はあまり、寫生を主張しなかつたのである。だから、「あらゝぎ」同人の中、寫生主義に反對せぬまでも、十分すきまでは同感を持ち得ない人ゝして、千樫の居たのは、順當な理くつなのである。かう言ふ點では、故人はなか〳〵頑固であつた。おつとおし黙つて居て、ある部分は一人勝手の道を歩いてゐる、と言ふ處が目についた。

「あらゝぎ」にいつか、茂吉さんの書いた故人の性格評などは、此點によくふれてゐると考へた。うはべは喧嘩屋の様でゐて根のおとなしい茂吉さんには、此自信力を寂しまずにはゐられなかつたであらう。かうした朋黨の氣分に同じないと言ふところが、人から妙に見られる纏きさへも作り出して居た。長い友だちとして、さすがに茂吉さんは十分、故人をいたはつてやつてくれた。だが赤彦などになると、友誼は友誼、議論は議論と言つた風になりがちだつたのは、無理もない事である。

其に、千樫の性分は、負けぎらひを通り越して、負けた時の寂しさを豫期し過ぎたのである。此は、茂吉さんが大學出。赤彦はともかくも、郡視學までやつて來た人。石原さんが若い科學者。人々に對しても、あるひけめを感じ續けて來たところからも來たのであらう。普通の疎なゝ若者なら、反抗的に出る時代の故人は、唯寂しい笑ひですます、と言ふ癖で進み〳〵して居たのである。此を思ふと氣の毒である。

畦の草にほの陰などに休みながら、嶺岡山を仰いで、ため息を洩してゐた—だらう—時代の故人を想像する毎に、私はいたましくなる。もう暫らく競爭のない田舍に、のんびりした若い感傷に耽して置けないものだつたらうか。私は又、隣りの嫁の主人公が、白いめりやすのしやつを着て畑の中に働いて居る様子を、俤に浮へずには居られない。

おなじ様な事だが、今一度くり返したい。負けて後のくやしさの情ない事を知つてゐる人は、どうしてもひつこみ思案になつてゆく。千樫は、此内訌した負けぎらひの爲に、自分へ向いて來た機運を、とり逃して了うた人なのである。第一に、茂吉さんに負けた。此は自然かも知れない。第二に、赤彦に負けて行つた。此は故人の怠け性からとばかりは言へない。千樫は、競爭意識を持つ、と言ふ事に堪へられなかつた人なのである。何にしても、千樫の作るはずのえぼつくは、何時の間にか、赤彦の手に移つて居た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Onoto the Pen

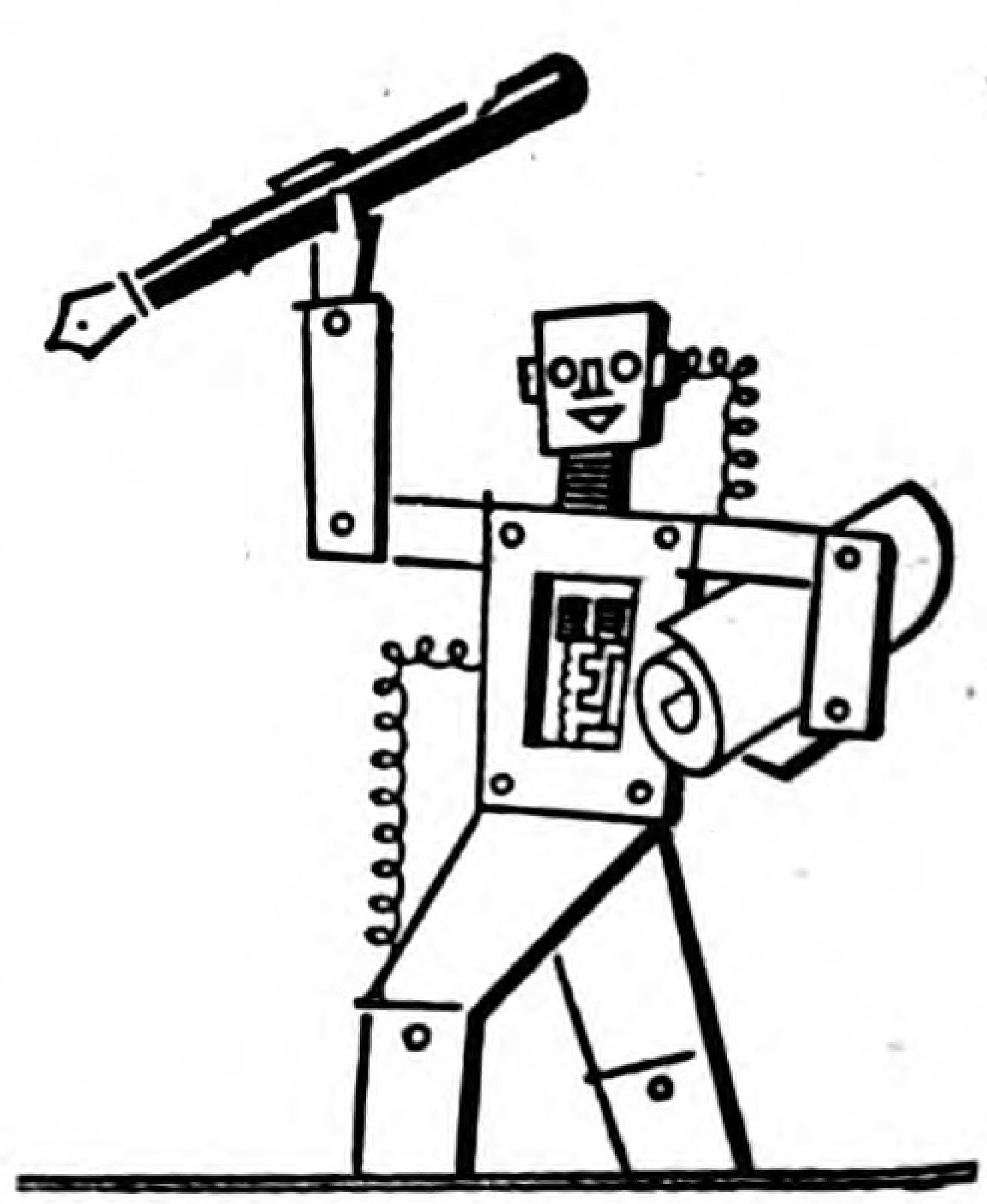
機械人（テレボックス）がオノトを使ふ

時代が聽て來ます。機械人が電氣工學の驚異であるやうにオノトも亦萬年筆界の驚異！ 共に微妙な生命があるやうに自由自在に活動します

使へば使ふ程書きよくなる

オノト萬年筆 七圓五十錢以上
アテナ萬年筆 參圓五拾錢以上
萬年筆用アテナインキ 參拾五錢

送料各十八錢（カタログ進呈）



¥1.50

"VALET" AutoStrop Safety Razor

バレー・レビユー

研ぐ——剃る——綺麗になる、其間幕なし五分間この整容術の新演出が近頃バレー・レビユーと言はれて盛に流行してゐます。

剃刀で研器を兼ね一枚の刄が半年使へる

バレー自働研安全剃刀

B型 一三・五〇以上各種（各刄一打革砥一付）
C型 一・五〇 二・〇〇 三・三〇 四・八〇（各刄三枚革砥一付）
替刄利用ナイフ（刄一枚付）・九〇

送料各・一八

販賣所 大百貨店著名洋物雜貨金物店等
取次所 改造社代理部



（カタログ進呈）

東京日本橋通二丁目
丸善株式會社
大阪 神戸 京都 名古屋
横濱 福岡 仙臺 札幌
東京＝神田・芝三田・早稻田・丸ビル

…學者。赤彦はともかくも、…學までやつて來た人。そのほかの
人々に…しても、…
あらう。普通の…

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

怪談

大佛次郎

手首

その家は牛込の通寺町にあつた。その時分は——はつきり云へば慶應二年の五月だが——まだ、すぐ裏が畑になつてゐてそれを通り拔けると、赤城さまの境内へ、生垣の破れ目を拔けて入ることが出來た。表通りはすぐ隣りの塀と並んでゐるのだし、道について行くと、赤城さまの門前の町家が並んでゐる明るいところへ出られるのだから、夜だつて、さう淋しいことはなかつた。それに何と云つても、世間の目をのがれて二人だけの世界を作らうとしてゐる人たちには庭木は多い[illegible]庭で、外からまつたく隔離されたやうな心持でゐられさうなのが、[illegible]こつた。[illegible]ふやあるし、

は面皮のものを使つてあるし、建具も丹念な仕事で、仙臺松の廊下などはよく拭き込んで永く閉め込んであつたにしてはつや〳〵としてゐた。

清兵衞もお村もこの家にきめるのに異存はなかつた。案内して來た三味線屋の手代を大家へやつて家賃を聞かせると、これも世間並の値段だつた。

引越の晩は、お村のゐた家の女將から朋輩の女や、清兵衞の取卷連が賑やかに集つて料理は鯛清から駕籠で運ばせて、夜遲くまで祝宴を張つた。いゝ家だと、ほめない者はない。女たちは口々にこんなところに好きな旦那と住むやうになれたお村が羨ましいと云ふのだつた。

しかし、清兵衞とお村が一番幸福を感じたのは、この連中が駕籠を揃へて引揚げて行つて、灯影の映つてゐる庭の繁みの暗さに二人だけ[illegible]の[illegible]靜かな[illegible]けた時だつた。その時ほど、二つの心が寄り合つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ゐるのを感じたことはなかつた。遥い道中をして、やつと落着くところへ着いたと云ふやうな、ほつとした心持だつた。

『片附けるのは明日の朝でいゝよ。』

と、下女にも云つた。

淸兵衞はお村と床を並べて二階の八疊で寢てゐた。まつたく初めてのものゝやうな心持で、二人だけの宵を過して、その儘うと〱睡つてゐたのである。

搔卷から外へ伸してゐた腕を、お村がそつと握つたやうに感じた。お村の手が、冷たかつたので、淸兵衞は淺く醒めた。うつゝな心持の中にも、あまり冷たいので、氣がかりで、寢返りを打つて、その手を胸のところへ引寄せた。

はつきり目がさめてゐた。

ずつと撫でゝ行くと、その氷のやうな手は、手首だけで、肱までなかつた。切口は平らで、何かねばつてゐた。眞暗な中に淸兵衞は、はね起きてゐた。じんじん耳鳴がして、胸は早鐘のやうに動悸を打つてゐた。氣丈な人間だつたので、聲だけは立てなかつた。が、隣りの床に寢てゐるお村の寢息に耳を傾けた。それが、微かに規則正しく聞こえてゐたので、ほつとした。

夢だつたらうと思ふ傍から、自分が確かに目を醒してゐたやうにも感じられるのだつた。ぞく〱と背中が寒かつた。

灯を消してあつた行燈をさぐつて手を伸すと、お村の寢息が歇んだ。

『灯をつけてくれ。』

と、云つた。

お村は起きなほつた。

『お煙草？』

『むゝ。』

淸兵衞は、右の手の指を、今握られてゐた右の手首へやつてゐた。お村がつけた行燈の灯影は、大きな夕顏の花のやうに天井にひろがつた。

『夢を見たんだ。』

と、淸兵衞は、お村がこちらの顏色に氣が付いたやうなので、笑ひながら、云つた。

『夢？　どんな。』

『なアに、つまらない……』

と、云ひ濁らした。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

それから、催しもしてゐないのに廁へ降りて行つた。

氣になつたのは、照降町の本宅にゐる本妻のことだつた。お村はすぐまた睡つたが、淸兵衞は朝まで天井の灯影を見て起きてゐて、お村の手前は工合惡かつたが、午後になつたら來るからと云つて、朝飯もとらずに外へ出てゐた。

白々と明けて來た往來には、河岸歸りの肴屋に遇ふだけだつた。本宅では、まだ戶を閉めてあつた。小僧を起してあけさせて、女房の寢間へ入つて見るまでは氣が氣でなかつた。

夕方になつて、新宅へ引返して來た淸兵衞は、鮒金の佃煮の折などを手土産にして、

『世帶染みたらう。』

と、冗談まで云ふ好い旦那だつた。

『お内の方、宜しいんですか？』

と、お村が云ふと

『あけるのが每日だから、不思議には思つてゐなからうさ。』

と笑つて、附加へた。

『知れるくらゐにした方が、いつそ、兩方の爲だらうと思つてゐる。』

女は、旦那の、深い心持を感じて、俯向いた。淸兵衞が茶屋遊びに向く氣性でもないのに、自分に溺れて來たことだけにも、男の眞實を感じ、本妻の方には濟まないと、つくづくと感じてゐたから、自分も引かれて來た女だつた。かうして家まで持つて見ると、旦那が一層頼もしく、はなれにくいひとに思はれるのである。淸兵衞は、またつまらない夢をすぐと本妻に結び付けて考へたのも、自分が、生れて初めての戀の冒險にまだ臆病に後足をひいてゐるせゐだと感じた。萬一の場合は世間の義理も捨てられようと信じて來たのだ。

『當分、こつちにゐるよ。』

と云つた。

その夕方は、女中に留守をさせ、まだ足りない道具の類を二人で買ひに出た。女は、世帶の、小さい品物にも、あこがれを持つてゐるやうだつた。

淸兵衞がふと前夜のことを思ひ出したのは、赤城さまの脇から道が暗くなつてからだつた。

握られた手首に、氷のやうな指の感觸がまだ殘つてゐるやうにまざまざとした記憶だつた、夢としても、あまり、はつきりしてゐたからだらうと考へた。

その晚も、同じ二階に寢た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いつの間にか、それが、決して夢ではなかつたやうに思はれて來た。確かに、あの時は目が醒めてゐたと思ふのである。前夜よく睡れなかつたところへ、その晩はまた、妙に冴えて一睡も出來ないで寢返りばかり打つてゐた。

お村は、もう、すやく優しい寢息を聞かせてゐた。行燈はつけたまゝになつてゐて、薩摩杉の天井に、ぼんやりした灯影の輪を描いてゐた。

清兵衞は商人として堅いと見られてゐたほかに、子供の時分から剛膽だと云はれて來たし、自分でもさう信じてゐた。

布團の裾の方に階段が降りてゐる。下の襖をあけると、茶の間で、許されて、下女がそこに寢てゐる。それでゐて、清兵衞は、その階段に詰まつてゐる闇を、妙に意識に置いてゐた。誰れか、その暗がりにそッと影のやうに蹲つてゐるやうな氣がするのである。

幾たびか寢返りを打つたが、やはり氣になる。睡れないのが、そのせいだと思ふと、急に立つて行つて覗いて見ることにした。無論、誰れもゐない。そのまゝ、その梯子段を降りて厠へ行つた。

『見ろ、何がある。』

と、思ふのだつた。

雨戸をあけて、暗い庭を見ながら、手を洗つて、引返して來た。お村がそれも氣がつかずにゐるのを見て、搔卷を引寄せながら、また橫になつて、瞼を閉ぢた。

その目を急にあいた時、清兵衞は顏色を變へてゐた。

梯子段のある裾の方から搔卷の上に手を突いたものがあるのだ。その重みが清兵衞の膝のところにかかつてゐた。

清兵衞は、必死に起きなほつた。

目の前には何の變化もないやうだつた。たつた今自分が足をひいた搔卷の上に、誰れか人が覗き込んで片手を突いてゐるやうに綿がくぼんで、周圍から皺を寄せてゐるのが目についた。

清兵衞は、その箇所へ手を伸して見た。その指の端に、昨夜と同じ氷のやうなものがさはつて全身につたはつた。人間の皮膚に違ひなかつた。目には見えなかつたが、その手は、階段の方へ、すーつと引きさがつたのである。搔卷に加はつてゐた重みがとれて、深くついてゐた皺が消えてゐた。

清兵衞は、立上つた。

行燈をさげて何も見えない梯子段を、上から凝と見詰めたのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

お村も下女も、何も知らないでゐるのだつた。清兵衛もこのことに就ては何も話さなかつた。ひとりで重苦しい氣持になつて、不吉なことをいろ〳〵に考へるのだつた。

家主を訪ねたのは、三日ばかり後のことだつた。

『前に、あの家には、どなたがお住みになつてゐらしつたのですね？』

と、それとなく話の中に尋ねてみた。

『土州様の御家中で、勤番でいらしつてた方でしてね。』

家主だつた頭は、でつぷりした爺さんだつた。

『さう云へば、綺麗な御新造さんがおいででしたよ。こちらで引越していらしつたので、きれいな方に御縁があると見えるつて、内の奴とお噂してゐたところですよ。』

『いつ頃、その方はお移りになつたので。』

『半月になりますかなあ。急にお國表へお歸りになることに成つたんでしてね。』

『さうですか……』

清兵衛も愛想[illegible]の笑顔を作つてゐられなくなつた。

家主は、おかしな間だと感じたらしく清兵衛の目を見詰めた

『左様……あしかけ、二年、お貸ししたのですが……何かありましたかね？』

『さうなんです。』

清兵衛はから答へた。

『狸のすることか知れませんが……』

家主にとつて愉快な話でなかつたことは事實だつた。清兵衛の話を聞くと、急に機嫌が惡くなつて

『そんな筈はありません。あの家は建てゝ直ぐ、前の白鳥さまにお貸ししたので、そんなお話はこれまで、これつぽつちも聞かなかつたんですから……何かお間違ひぢやアありませんか？　よ御座んすよ。私も一度伺つてよく見てみませう。』

と、云つた。

『赤城さまに野良犬があんなに遊んでゐるんですし、狸なんてこともありませんや。』

次の日の夕方、清兵衛とお村は、市ヶ谷谷町に、古い家だつたが貸家があるのを見付けてそこ〳〵にこれへ引越した。荷物は捨てゝもいくらゐに思つたのだが、もとの家主がまとめて次の朝届けてくれた。

清兵衛には、一晩の出來事が忘れられなかつた。家にけちをつけら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れたやうに突慳貪にしてゐた家主も、梯子段の下に作つてあつた戸棚の隅に白い蛆が澤山うごめいてゐるのを見た時は顔色を變へたのだ。前に住んでゐた白鳥庄左衞門の妾の、變死體が床下から發掘された。死體の右手に手首がないのを最初に見付けたのは清兵衞だつた。

谷町の住居は、一と月と續かなかつた。お村と清兵衞の關係は、もとのやうに圓滿に行かなかつた。それとはつきりと云へないでゐて、最初の家で遭つた不吉な事件が、あれほど堅く結びつけられてゐた二人の因縁を、多少の未練はあつて別れさせた間接の原因になつた。あのことがあつてから、お互ひの關係が變に重苦しく暗くなつた。清兵衞が用にかこつけて本宅で泊ることが頻繁になるし、お村はもう一度棲を取つてもいゝと、訪ねて來た昔の朋輩に云ふやうになつた。最後に、言葉の上のつまらない爭ひが別れ話をはつきりさせる直接の原因になつた。

清兵衞の不幸は、これだけではなかつた。その年の梅雨時分から、左の手首が變に痛み出した。二寸ばかりの幅で、何か巻いたやうにひとまはり痛むのである。そこが、あの最初の不思議に遭つた晩に、つめたい指で掴られたところなのも、神經を刺戟した痛みの種類も、氷を永く皮膚にあてゝゐて、人が感じる、燃えるやうなものだつた。何のために、自分だけが、こんな祟りを受けたのかと、呪ひたくなるのだつた。醫者の手當も、祈禱も何の驗もなかつた。

氣丈だつたので、命にさへ別狀がなければいゝさと、自分でも、ふて〴〵しく構えてゐた。痛みは、その箇所だけのものだつたし、さう、しよつ中痛むものではなく、いつもは手首に何かついてゐるやうな鈍く重い感じがするだけだつた。見た目には、その部分の皮膚も、ほかと、すこしも違ひなかつた。さうかうしてゐる内に、親戚の女が二つになる赤ん坊を連れて、遊びに來た。

女は清兵衞が庭へ降りて朝顔の鉢を見廻つてゐるところへ挨拶に來た。夏だつたので、障子を簀戸にかへてある緣側へ出て、漸く立てる子供を片手で抱いて、片手を突いて、無沙汰の詫びを云つた。その間子供は立つたまゝ稚ない熱心な目付で清兵衞を見詰めてゐた。母親に似て、よく肥つた可愛らしい子供だつた。

『大きくなつたね。』

『さあ、小父ちゃんに御挨拶おし。』

子供は二人の注目を集めた。清兵衞は、子供らしく一杯に瞠つた小さい目に氣がついた。急に子供は、物におびえたやうに母親の胸に顔を押しあてた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『こはいよう。こはいよう。』

と、けたたましく叫んで、身をふるはした。

『何が……』

母親は、義理のある清兵衛の手前、二重に驚いて

『御挨拶もしないで、なんだよ。』

と云つた。

子供は、何か確かめるような目付で、おそる〳〵清兵衛の方を覗いて、また、一層おびえて、顔を埋めた。

『こはいよう。手がこはいよう。』

『手が……』

清兵衛は思はず、から口走つて、例の左の手首を見た。

『何を云ふことですやら。』

氣違ひのやうに泣いてゐる子に、母親は急に心配を感じたのだつた。

『おい、坊や、何がこはい？』

清兵衛は、笑顏を作つた。

それは、無駄だつた。子供は一層おびえたやうに泣き立てるばかりだつた。

と、泣き聲の中に、云つた。

清兵衛には子供の目に見えたものがわかつてゐた。自分たちには何も見えないが、自分の手首に女の死人の手がついて垂下つてゐることを初めて知つたのだつた。最初の晩の恐しい經驗がはつきりと胸に泛んで來た。肱の手前でぷつつり切れてゐる氷のやうにひやつこい手だつた。切り口は濡れて、ねば〳〵した感觸を持つてゐる手だつた。

その時から、清兵衛は、物事の全部に對する氣力を失つた。

清兵衛は塔の澤でも珍らしい長逗留の客になつた。その間に箱根の戰爭があつて、湯治客はどんな重病人でも附添に扶けられて避難したのに清兵衛だけは宿の者と一緒に殘つて、戰の日は、この連中と一日山の中で暮した。三枚橋の方角で絶えず鐵砲の音がしてゐた。火事も起つた。その騷ぎが濟むと、こゝいらは、まるで火が消えたやうにさびれた。この時世に呑氣に湯治に來る者などはないのである。時折、東海道を上り下りする旅びとが道をそれて入つて來て、一泊して行くぐらゐのものであつた。こゝはこんなに閑靜すぎたが、世間は彰

一體[illegible]

かり射ちに出てゐた。

六月七日の晩だつた。

清兵衛は、日課にしてゐた夕食前の一風呂をあびて、浴室を出た。空は水色に明るかつたが、母屋にはもう灯がともつてゐた。庭づたひに歩いて來ると、宿の入口の方で人の話聲が聞こえた。若い楓の下に、腹掛をかけた馬の腹が覗いてゐた。

客が來たなと思つて、緣側からあがると、その男が二階から降りて來た。大きな武士で浴衣に着替へて手拭をさげてゐた。狹い廊下だつたし、清兵衛は腰をかゞめて、その男のために道をあけた。男は、ぢろりと清兵衛を見て通り過ぎた。供の仲間らしい爺さんが後を追つて來た。二人は、浴室の方へ降りて行つた。暗い庭に、白地の浴衣の後姿がかすれて行つた。

清兵衛は、帳場に顏を出した。

『お客さまですね？』

亭主は、顏をあげた。

『へえ。………さう〳〵、旦那、今夜は珍らしいものを御馳走しますよ。』

『へえ、なんでせうね。』

『鴨ですよ。』

亭主は、帳場格子の中で得意で、鐵砲で狙ふ手付をして見せた。

『見事なもんです。』

『やれ〳〵。』

清兵衛は、亭主の殺生癖にあまり同感を持つてゐないのだつた。

『どこにゐました？』

『ずつと、上へのぼつたところです。どこから來たもんですか。』

その叫び聲は、突然に、かうした多愛のない會話の腰を折つたものだつた。

二人は、同時に、窓から外を見た。山の中だから、庭はもうすつかり暮れて眞暗だつた。竹の繁みが動いてゐた。

その聲が起つたのは、確かに武士の主從が降りて行つた風呂の方角だつた。

亭主も清兵衛も顏を見合せた。

そこへ、仲間の爺さんの聲で

『來てくれ……來てくれ。』

と、呼ぶのが、庭で聞こへた。

『どうしたんだ？』、

と、亭主は立上つて、出て行つた。

『湯氣におあたりになつたんだよ。きつと。』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と、土間に、釜の火をたきつけてゐた下女が云つた。

自分が、清兵衞の口から、その時の話を聞いたのは、明治も三十年だつた。日清戦爭のあとで、その頃から市中に流行し出した點燈屋のの元締をしてゐて、濱町の小ぢんまりした隱居所で萬年青の世話などして日を暮らしてゐる、枯れた好いお爺さんになつてゐた。

『そのお武士さんが死んだんだと聞いて、私も吃驚して降りて行つて見ました。

その晩、湯氣のむつと八間の灯を曇らしてゐる流し場で、見たものは、今でも、かう、目をつぶるとぢつと浮いて來るんです。背の高い大きなひとで五尺六七寸もあつたやうに思ふんですが、そのお武士さんが流し場一杯に、そつくりかへつて、硬くなつてゐるのでした。兩手も喉のところへ、かう、持つて行つたまゝです。その喉にくびつたあとが、紫色に、ついてゐたんです。紐をしめて來た手をつかんで振りほどかうとして、その儘になつたんだと、一目でわかつたんです。

どうも、やかましい話になりましてねえ。とにかく、あの御時世で、お屆けしてお役人がすぐ來てくれやしません。それまで死體に手をつけるわけに行かないし、宿屋こそ、とんだ目にあつたものでした。

仲間の爺さんの話だと、御主人が先へ裸になつて降りていらしつたと思ふと、すぐだつたと云ふのです。

『あ！』

と云つたかと思ふと、どたりと恐しい音がして流し場へ仆れたやうなので、吃驚して、覗いたんださうです。

すると、御主人は、足を投げ出して背中を見せて、頭をひいて、宙に何かゐるのを防いでゐる恰好で、兩手でもがいてゐらつしやる。腕の筋の一つ一つが白く浮き上つて、懸命に動いてゐたのが、目についてゐると云ふことでした。

『どうなさいました。旦那さま。』

と、飛び降りて行くと、

『手、手……』

と、これが、最後だつたと云ひます。兩脚を蹴るやうに突張ると、そのまゝ、顏全體がぐつたりと伸びて、動かなくなつたんですね。まつたく、それきりなんでした。

目をくわつと剝いて見るもの凄い顏でした。

窓はすこしあいてゐましたが、これはすぐ下が崖になつてゐて楓が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あとが、茶色に、ついてゐたんです。[illegible]をしめて來た手をつかんで振りほどかうとして、その[illegible]になつたんだと、一目でわかつたんです。

どうも、やかましい話になりましてねえ。とにかく、あの御時世で、お屆けしてお役人がすぐ來てくれやしません。それ[illegible]階に手

と、これが、最後だつたと云ひます。兩脚を蹴るやうに突張る

そのまゝ、[illegible]全體がぐつたりと伸びて、動かなくなつたんですね。

つたく、それきりなんでした。

目をくわつと剝いて見るも物凄い顏でした。

室はすこしあいてゐましたが、これはすぐ下お階になつてゐる[illegible]

かうひよろ／＼と枝を出して下は早川の激流ですし、入口の方は縁やさんが入つてから、きちんと杉戸を閉めたんで、ほかに人間の這入りやうがないわけでした。實際……

私の立場こそ變なものでした。自分では誰れよりも、よく、わかつてゐるやうな氣がしてゐたんですが、そのお侍さんの名は、甚州さまで新納鶴右衞門つて方だつて云ふんですし、赤城さまの横の、一件のお侍さんかどうか、はつきりしなかつたんです。赤城さまの方の白鳥と云ふのが假名だつたのでせうから幽靈の手がこの人に會ふ時まで、私にとりついてゐて恨みをはらしたのか、それとも、私と同じやうに死んだ女にはまつたく無關係なそのお侍さんに、廊下ですれ違つた途端に、急に私からはなれて、その方に移つたものなんでせうか？——さう思ふと、すれ違つた時に私の方を振返つて御覽になつた樣子が、あとで考へてそんな風に取れたのかも知れませんが、私が手を出して袖でもつかんだのでお咎めになつたやうな、工合だつたんです。

とにかく、その時から、私の、手の痛みがすつかり、とれたわけなのです。開化の學問をなさつた貴方なんか、こんな話は馬鹿げてゐるとお考へになるか知れませんが……』

北原白秋著　—新刊—

綠の觸角　四六判極美本　恩地孝四郎裝幀

定價貳圓五十錢（送料廿二錢）

童謠について、自由詩について、また藝術教育について、著者が多年の熱實をこめて成つた論文・提唱・解註の集大成。童謠、自由詩に關心を持つ人は勿論、詩の愛好者、若き教育家諸氏の必讀を俟つ。

室生犀星著　—新刊—

天馬の脚

定價貳圓五十錢（送料廿二錢）

氏最近の隨筆感想論集で、天上の梯子、月光的文獻、井泉雜稿詩について、文藝時評、人物と印象、澄江堂雜記、書籍と批評、喫煙雜筆、自畫像等、味讀飽くことを知らぬ名編のめ。

改　造　社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

樣々なる意匠

（文藝評論二等當選）

小林秀雄

懷疑は、恐らくは叡智の始かも知れない、然し、叡智の始まる處に藝術は終るのだ。

アンドレ・ジイド

一

吾々にとつて幸福な事か不幸な事か知らないが、世に一つとして簡單に片付く問題はない。遠い昔、人間が意識と共に與へられた言葉といふ吾々思索の唯一の武器は、依然として昔乍らの魔術を止めない。劣惡を指嗾しない如何なる崇高な言葉もなく、崇高を指嗾しない如何なる劣惡な言葉もない。而も、若し言葉がその眩惑の魔術を捨てたら恐らく影に過ぎまい。

私は、こゝで如何なる問題も解決仕樣とは思はぬ、如何なる問題も提出仕樣とは思はぬ。私はたゞ世の騒然たる文藝批評家等が、騒然と行動する必要の爲に見ぬ振りをした種々な事實を拾ひ上げ度いと思ふ許りである。私はたゞ、彼等が何故にあらゆる意匠を凝して登場しなければならぬかを、少々不審に思ふ許りである。私には常に舞臺より樂屋の方が面白い。この樣な私にも、やつぱり軍略は必要だとするなら、「搦手から」、これが私には最も人性論的法則に適つた軍略に見えるのだ。

二

文學の世界に詩人が棲み、小說家が棲んでゐる樣に、文藝批評家といふものが棲んでゐる。詩人にとつては詩を創る事が希ひであり、小說家にとつては小說を創る事が希ひである。では、文藝批評家にとつては文藝批評を書く事が希ひであるか？ 恐らくこの事實は多くの逆說を孕んでゐる。

「自分の嗜好に從つて人を評するのは容易な事だ」と、人は言ふ。然し、尺度に從つて人を評する事も等しく苦もない業である。常に生々たる嗜好を有し、常に潑溂たる尺度を持つといふ事だけが容易ではないのである。人々は人の嗜好といふものと尺度といふものとを別々に考へてみる、だが別々に考へてみるだけだ、精神と肉體とを別々に考へてみる樣に。例へば月の世界に住むとは人間の空想となる事は出來るが、人間の欲望となる事は出來ない。守錢奴は金を蓄める、だから彼は金を欲しがるのである。人に可能なものしか眞に望まぬものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

これが恰も嗜好と尺度との論理關係である。生々たる嗜好なくて如何にして溌溂たる尺度を持ち得よう。だが、これは極めて單純な事實に過ぎない。論理家等の忘れがちな事實はその先にある。つまり、批評といふ純一な精神活動を嗜好と尺度とに區別して考へてみても何等不都合はない以上、吾々は批評の方法を如何に精密に論理付けても差支へはない。だが、批評の方法が如何に精密に點檢され樣が、その批評が人を動かすか動かさないかといふ問題とは何の關係もないといふ事である。例へば、人は戀文の修辭學を檢討する事によつて己れの戀愛の實現を期するかも知れない、然し斯くして實現した戀愛を戀文研究の成果と信ずるなら彼は馬鹿である。或は、彼は何か別の事を實現してしまつたに相違ない。

嘗つて主觀批評或は印象批評の弊害といふ事が色々と論じられた事があつた。然し結局「好き嫌ひで人をとやかく言ふな」といふ常識道徳の或は禮儀作法の一法則の周りをうろついたに過ぎなかつた。或は攻撃されたものは主觀批評でも印象批評でもなかつたかも知れない、「批評になつてゐない批評」といふものだつたかも知れない。「批評になつてゐない批評の弊害」では話が解りすぎて議論にならないから、といふ筋合のものだつたかも知れない、兎も角私には印象批評といふ文學史家の一術語が何を語るか全く明瞭でない。だが、次の事實は大變明瞭だ。所謂印象批評の御手本、例へばボオドレエルの文藝批評を前にして、舟が波に掬はれる樣に、私は彼の精緻な解析と溌溂たる感受性の運動に浚はれて了ふといふ事である。この時、彼の魔術に憑かれつゝも、私が正しく眺めるものは、嗜好の形式でもなく尺度の形式でもなく無双の情熱の形式をとつた彼の夢だ。それは正しく批評ではあるが又正しく彼の獨白だ。かゝる時、人は如何にして批評といふものと自意識といふものとを區別し得よう。彼の批評の魔力は彼が批評するとは自意識する事である事を明瞭に悟つた點に存する。批評の對象が己れであると他人であるとは一つの事であつて二つの事でない。批評とは竟に己れの懷疑的夢を語る事ではないのか、己れの夢を懷疑的に語る事ではないのか！

こゝで私はだらしの無い言葉が乙に構へてゐるのに突き當る、批評の普遍性、と。だが、古來如何なる藝術家が普遍性などといふ怪物を狙つたか？彼等は例外なく個體を狙つたのである。あらゆる世にあらゆる場所に通ずる眞實を語らうと希つたのではない、たゞ個々の眞實を出來るだけ誠實に出來るだけ完全に語らうと希つただけである。ゲーテが普遍的な所以は彼がすぐれて國民的であつたが爲だ、彼が國民的であつた所以は彼がすぐれて個性的であつたが爲だ。範疇的先驗的眞實ではない限り、あらゆる人間的眞實の保證を、それが人間的であるといふ事實以外に、諸君は何處に求め樣とするのか？文藝批評とても同じ事だ、批評はそれとは別だといふ根據は何處にもないのである。最上の批評は常に最も個性的である。そして獨斷的といふ概念と個性的といふ概念とは似ても似つかぬものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

私は方向を轉換させよう。人は樣々な可能性を抱いてこの世に生れて來る。彼は科學者にもなれたらう、軍人にもなれたらう、小說家にもなれたらう、然し彼は彼以外のものにはなれなかつた。これは驚く可き事實である。この事實を換言すれば、人は種々な眞實を發見する事は出來るが、發見した眞實をすべて所有する事は出來ない、或る人の大腦皮質には種々の眞實が觀念として棲息するであらうが、彼の全身を血球と共に循る眞實は唯一つあるのみだといふ事である。雲が雨を作り雨が雲を作る樣に、環境は人を作り人は環境を作る、斯く言はば辨證法的に統一された事實に、世の所謂宿命の眞の意味があるとすれば、血球と共に循る一眞實とはその人の宿命の異名に過ぎぬ。或る人の眞の性格といひ、藝術家の獨創性といひ又異つたものを指すのではないのである。この人間存在の嚴然たる眞實は、あらゆる最上藝術家は身を以て制作するといふ單純な强力な一理由によつて、彼の作品に移入され、彼の作品の性格を拵へてゐるのである。

一體最上藝術家達の仕事で、科學者が純粹な水と呼ぶ意味で純粹なものは一つもない。彼等の仕事は常に、種々の色彩、種々の陰翳を擁して豐富である。この豐富性の爲に、私は、彼等の作品から思ふ處を抽象する事が出來るのだ、と言ふ事は又何物を抽象しても何物かが殘るといふ事だ。この豐富性の裡を彷徨して、私は、その作家の思想を…度から、新しい思想が…ではない、忽ち擴大して、今定著した私の思想を呑んで了ふ。この彷徨は正に解析によつて己れの姿を捕へんとする彷徨に等しい。かくして私は、私の解析の眩暈の末、傑作の豐富性の底を流れる、作者の宿命の主調低音をきくのである。この時私の騷然たる夢はやみ、私の心が私の言葉を語り始める、この時私は私の批評の可能を悟るのである。

私には文藝批評家達が種々な思想の制度をもつて武裝してゐることを兎や角いふ權利はない、たゞ鎧といふものは安全ではあらうが、ずゐ分重たいものだらうと思ふ許りだ。然し、彼等が如何んな性格を持つてゐようとも、批評の對象がその宿命を明かす時まで待つてゐられないといふ短氣は、私には常に不審な事である。

扨て今は最期の逆說を語る時だ。若し私が所謂文學界の獨身者文藝批評家たる事を希ひ、而も最も素晴しい獨身者となる事を生涯の希ひとするならば、今私が長々と語つた處の結論として、次の樣な英雄的であると同程度に馬鹿馬鹿しい格言を信じなければなるまい。「私は、バルザックが「人間喜劇」を書いた樣に、あらゆる天才等の喜劇を書かねばならない」と。

三

マルクス主義文學、——恐らく今日の批評壇に最も活躍するこの意匠の構造は、それが政策論的意匠であるが爲に、他の樣々な藝術論的…同樣なものに見えるのであるが、あらゆる人

間精神の意匠は、人間たる刻印を捺されてゐるが爲に、樣々な論議を卷き起し得るのである。

希臘の昔、詩人はプラトンの「共和國」から追放された、今日、マルクスは詩人を、その「資本論」から追放した。これは決して今日マルクスのおけら達の文藝批評中で、政治といふ偶像と藝術といふ偶像とが、價値の對立に就いて鼬鼠ごつこをする態の問題ではないのである。一つの情熱が一つの情熱を追放した問題なのだ。或る情熱は或る情熱を追放する、然し如何なる形態の情熱もこの地球の外に追はれる事はないのだ。そして地球の外には追はれないといふ事を保證してくれるものは、又この無力にして全能なる地球以外にはないのである。

私は「プロレタリヤの爲に藝術せよ」といふ言葉を好かない、又、「藝術の爲に藝術せよ」といふ言葉も好かない。かゝる言葉は修辭として樣々な陰翳を含むであらうが、竟に何物も語らないからである。國家の爲に戰ふのと已れの爲に戰ふのとどちらが苦しい事であるか？絕對に同じ事だ。人に「プロレタリヤの爲に藝術せよ」と敎へるのは「藝術の爲に藝術せよ」と敎へるのと等しく容易な事であるが、敎へられた藝術家にとつては、どちらにしても等しく困難な事である。

凡そあらゆる觀念學は人間の意識に決してその基礎を置くものではない。マルクスが言つた樣に、「意識とは意識された存在以外の何物でもあり得ない」のである。或る人の觀念學は常にその人の全存在にかかつてゐる、その人の宿命にかゝつてゐる。怠惰も人間のある種の權利であるから、或る小說家が觀念學に無關心でゐる事は何等差支へない。然し、觀念學を支持するものは、常に理論ではなく人間の生活の意力である限りそれは一つの現實である。或る現實に無關心でゐる事は許されるが、現實を嘲笑する事は誰にも許されてはゐないのだ。

若し、卓れたプロレタリヤ作者の作品の有するプロレタリヤの觀念學が、人を動かすとすれば、それはあらゆる卓れた作品が有する觀念學と同樣に、作品と絕對關係に於てあるからだ、作者の血液をもつて染色されてゐるからだ。若しもこの血液を洗ひ去つたものに動かされるものがあるとすれば、それは「粉飾した心のみが粉飾に動かされる」といふ自然の狡猾なる理法に依るのである。

卓れた藝術は、常に或る人の眸が心を貫くが如き現實性を持つてゐるものだ。人間を現實への情熱に導かないあらゆる表象の建築は便覽に過ぎない。人は便覽をもつて右に曲れば街へ出ると敎へる事は出來る、然し、坐つた人間を立たせる事は出來ぬのだ。人は便覽によつて動きはしない、事件によつて動かされるのだ。强力な觀念學は事件である、强力な藝術も亦事件である。かゝる時、「プロレタリヤ運動の爲に藝術を利用せよ」と、社會運動家達が、その運動の爲に藝術といふ事件を利用せんとするのは利口である。彼等は藝術家に「プロレタリヤ社會實現の目的意識を持て」と命令する。何等かの意味で宗敎を持たぬ人間がない樣に、藝術家で目的意識を持たぬものはないものである。目的がなければ生活の展開を規定するものがない、然し、目

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

的を眼指して進んでも目的は生活の把握であるといふ理由から、目的は生活に歸つて來る。藝術家にとつて目的意識とは、彼の創造の理論に外ならない。創造の理論とは彼の宿命の理論以外の何物でもない。そして、藝術家等が各自各樣の宿命の理論に忠實である事を如何とも爲難いのである。この外に若し目的意識なるものがあるとすれば、毒にも藥にもならぬものである、毒にも藥にもならぬものを、吾々は亡靈とさへ呼ぶ勞はいらない。

「時代意識を持て」といふこともマルクス主義文學の論議と共に屢々言はれる言葉である。如何なる時代もその時代特有の色彩をもち音調をもつものだ。だがそれは飽く迄も色彩であり音調であつて、吾々が明瞭に眺め得る風景ではない。吾々の眼前に明瞭なものは、その時代の色彩その時代の音調の澱んだ樣々な表象の建築のみである。世紀がその最も生々しい神話を語るのは、吾々がその世紀の渦中にあつて最も無意識に最も潑溂と行動してゐる時に限る。私はアルマン・リボオの言葉を想ひ出す。「人體の內部感覺といふものは、明瞭には、局部麻痺によつて逆說的に知り得るのみだ」と。恐らく十九世紀文學の最大の情熱の一つである自意識といふものをもつて實現し、又これによつて斃死したボオドレエルは、正にリボオの言を敢行した天才であつた。

同じくするといふ事は明瞭な事である。時代意識は自意識より大き過ぎもしなければ小さすぎもしないとは明瞭な事である。

扨て又は「藝術の爲の藝術」といふ古風な意匠である。古風といつても矢鱈に古風なものではない、ギリシャの藝術家等が、或はルネサンスの藝術家等が、こんな言葉を理解した筈はないからである。

「自然は藝術を模倣する」といふ信心(キユルト)は、恐らくスタンダアルが、その「赤と黑」によつて多くのソレリアンの出現を豫期したが如く、藝術家の正しい信心(キユルト)ではあらうが、藝術が自然を模倣しない限り自然は藝術を模倣しない。スタンダアルはこの世から借用したものをこの世に返却したに過ぎぬのだ。彼は己れの仕事が世を動かすと信ずる前に、己れが世に烈しく動かされる事を希つたのだ。故に、「藝術の爲の藝術」とは、自然は藝術を模倣するといふが如き積極的陶醉の形式を示すものではなく、寧ろ自然が或は社會が藝術を捨てたといふ衰弱の形式を示すのみだ。人はこの世に動かされつゝこの世を捨てる事は出來ない。この世を捨て樣と希ふ事は出來ない。世捨て人とは世を捨てた人ではない、世が捨てた人である。ある世紀が有機體として潑溂たる神話を有する時、その世紀の藝術家達に、「藝術の爲の藝術」とは了解し難い愚劣であらう。ある世紀が極度に解體し衰弱して何等の要望も持つ事がないとしたら又藝術も存在しない。それとも頹廢の神話を持

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

宿命の人間學をもつて其作品を血塗らんとしてゐるといふ事をあんまり信用してゐない、又、若い知的エピキュリアン達が自ら眩惑する程の神速な懷疑の夢を抱いてゐるといふ事もあんまり信用してはゐない。

諸君の精神が、如何に焦燥に夢みんとしても、如何に緩漫に夢みんとしても、諸君の心臟は早くも遲くも鼓動しない。否、諸君の腦髓の最重要部は、自然と同じ速度で夢みてゐるであらう。この人間性格の本質を、諸君が輕蔑する限り、例へば井原西鶴の如きアントロポロジイの達人が、諸君を描いて「當世何々氣質」と呼ばうとも諸君に文句はないのである。

四

藝術の最も驚く可き性格は、この世を離れた美の國を、この世を離れた眞の世界を、吾々に見せて吳れる事には斷じてない、そこには常に人間情熱が最も明瞭な記號として存するといふ點にあるのである。藝術の有する永遠の觀念といふが如きは美學者等の發明にかゝる妖怪に過ぎない。作品が神來を現はさうと、非情を現はさうと、氣魄を現はさうと、人間臭を離るべくもない。藝術は常に最も人間的な遊戲であり、人間臭の最も逆說的な表現である。例へば天平の彫刻は、人の言ふが如く非性格的である。だが非性格的といふ事は非人間的といふ事にはならない。天平人等は、己れの作品を、この世から決定的に獨立したものと仕樣と企圖したのではない、唯、個性といふが如き觀念的な近代人の有する怪物を、彼等は知らなかつたに過ぎぬのだ。吾々が彼等の造型に動かされる所以は、彼等の造型を彼等の心として感ずるからである。

人は藝術といふものを對象化して眺める時、或る表象の喚起するある感動として考へるか、或る感動を喚起するある表象として考へるか二途しかない。こゝに恐らくあらゆる學術中の月たらず美學といふ學問が、少くとも藝術家にとつては無用の長物である所以が存する。觀念的美學者は、藝術の構造を如何樣にも精密に說明する事が出來る、なぜなら彼等にとつて結局藝術とは樣々な藝術的感動の總和以外の何物も意味してはゐないからだ。實證的美學者等(勿論マルクス的實證美學者等を含むのだ)は、藝術がこの世に出現する法則に就いて如何樣にも正確な圖式を作る事が出來る、何故なら、彼等にとつて藝術とは人間歷史が産む樣々な表象中の一種に他ならない爲である。然し藝術家にとつて藝術とは感動の對象でもなければ思索の對象でもない、正に實踐の形態をとるのである。作品とは彼にとつて己れのたてた里程標に過ぎない、彼に重要なのは步く事である。この里程標を見る人々が、その効果によつて何を感じ何處へ行くかは、作者の與り知らぬ處である。詩人が詩の最後の行を書き了つた時、戰の記念碑が一つ出來るのみである。記念碑は竟に記念碑に過ぎない、かゝる死物が永遠に生きるとするなら、それは生きた人が世々を通じてそれに交涉するからに過ぎない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人の世に水が存在した瞬間に、人は恐らく水といふものを了解した。然し水をH_2Oをもつて再現した事は新しい事に相違ない。藝術家は常に新しい形を創造しなければならない。だが、彼に重要なのは新しい形ではなく、新しい形を創る過程である。そして、この過程は各人の秘密を抱いて闇黒である。然し、私は少くとも、かゝる闇黒を命とする者にとつて、世を貨幣の如く、商品の如く横行する、例へば「寫實主義」或は「象徴主義」なる言葉が凡そ一般と逕庭ある意味を持つといふ事は示し得るだらう。

神が人間に自然を與へるに際し、これを命名しつゝ人間に明したといふ事は、恐らく神の叡智であらう。又、人間が火を發明した樣に人類といふ言葉を發明した事も尊敬すべき事であらう。然し人々は、その各自の内面論理を捨てゝ、言葉本來のすばらしい社會的實踐性の海に投身して了つた。人々はこの報酬として生々たる社會關係を獲得したが、又、罰として、言葉はさまざまなる意匠として、彼等の法則をもつて、彼等の魔術をもつて人々を支配するに至つたのである。そこで言葉の魔術を行はんとする詩人は、先づ言葉の魔術を覺得する事を强ひられるのである。

子供は母親から海は青いものだと教へられる。この子供が品川の海を寫生しようとして、眼前の海の色を見た時、それが青くもない赤くもない事を感じて、愕然としてその青色の色鉛筆を投げだしたとしたら彼は天才だ、然し嘗つて世にかゝる怪物は生れなかつただけだ。それなら子供は「海は青い」といふ概念を持つてゐるのであるか？だが品川灣の傍に住む子供は、品川灣なくして海を考へ得まい。かくの如く子供にとつて言葉は概念を指すのでもなく對象を指すのでもない。言葉がこの中間を彷徨する事は、子供がこの世に成長する爲の必須な條件である。そして人間は生涯を通じて半分は子供である。では子供を大人とするあとの半分は何か？人はこれを論理と稱するのである。つまり言葉の實踐的公共性に論理の公共性を附加する事によつて子供は大人となるのである。この言葉の二重の公共性を拒絶する事が詩人の實踐の前提となるのである。中天にかゝつた滿月は五寸に見える、理論はこの外觀の虛僞を明かすが、五寸に見えるといふ現象自身は何等の錯誤も含んではゐないのである。人は目覺めて夢の愚を笑ふ、だが、夢はその森然たる影像をもつて眞實だ。フロオベルはモオパッサンに「世に一つとして同じ樹はない石はない」と教へた。これは自然の無限な豐富な外貌を尊敬せよといふ事である。然しこの言葉は又一つの眞實を語つてゐるのだ。それは、世の中に、一つとして同じ「世に一つとして同じ木はない石はない」といふ言葉もないといふ事實である。言葉も亦各自の陰影を有する各自の外貌をもつて無限である。嘘言も嘘言たる現象に於て何等の錯誤も含んではゐないのだ。「人間喜劇」を書かんとしたバルザックの眼に、恐らく最も驚く可きものと見えた事は、人の世が各々異つた無限なる外貌をもつて、あるが儘であるといふ事實であつたのだ。かゝる時、あらゆるものが神秘であると

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いふ事と、あらゆるものが明瞭であるといふ事とは二つの事ではないのである。かゝる時、如何なる理論も自然の皮膚に最も瑣細な傷すらつける事は不可能であるし、又、彼の眼にとつて、自然の皮膚の下に何物かを探らんとする事は最劣な事であつたのだ。かゝる時「寫實主義」なる朦朧たる意匠の裸形は明瞭に狂詩人ジェラル・ド・ネルヴァルの言葉の裡に存するではないか、「この世のものであらうがなからうが私は斯くも明瞭に見た處を、私は疑ふ事は出來ぬ」と。かゝる時「寫實主義」とは、藝術家にとつては、彼の存在の根本的規定を指すではないか、彼等が各自の資質に從つて、各自の夢を築かんとする地盤を指すではないか。

扨て、私はもう少し解析を進めよう。吾々の心の裡のものであらうが、心の外のものであらうが、あらゆる現象を、現實として具體として受け入れる謙譲は、最上藝術家の實踐の前提ではあらうが、實踐ではない。彼の困難は、この上に如何なる夢を築かんとするかに存するのであつて、恐らく或る藝術的稟質には自明とも見えるかゝる實踐の前提といふが如き安易なる境域には存しない。「寫實主義」といふ言葉に凡そ對蹠的に使はれてゐる「象徴主義」なる言葉がある。

一體美學者等の使用する象徴といふ言葉程曖昧朦朧たる言葉も少ない。例へば比喩と象徴と、或は記號と象徴との相違を明かにする如何なる理論があるか？ 美學者等の能辯は、比喩は影像による概念の表現で、象徴は影像による概念の印象の表現である等々を語る。では、ポオの有名な「鐘樓の惡魔」は比喩でもなければ象徴でもないだらう。又、象徴は存在と意味とが合致した内的必然性をもつた記號である等々を語る。だが結局象徴とは上等な記號である、といふ以上を語り得ない。而もある記號を上等にするか下等にするかはこれを見る人々の勝手に屬する。

一八四九年、エドガア・ポオの死と共に、その無類の冒險、詩歌からあらゆる夾雜物を除き去り、その本質を決定的に孤立させんとした意圖は、ボオドレエルによつて繼承されマラルメの祕教に至つてその頂點に達した。人はこの文學運動を、「象徴主義」と呼んだのである。然し、この運動は、絶望的に精密な理智達によつて戰はれた最も知的な、言はば言語上の唯物主義の運動であつて、恐らく彼等にとつては「象徴主義」などといふ名稱は凡そ安價な氣のないものに見える態のものだつたのである。浪漫派音樂家ワグネル、ベルリオ等が音によつて文學的効果を狙つた事を彼等は逆用し、文字を音の如き實質あるものとなし、これを蒐集して音樂の効果を出さんとした。もう少し精密に言へば、彼等が捉へた、或は捉へ得たと信じた心の一狀態は、音樂の如く律動して確定した言葉をもつては表現出來ないものであつた。各自獨立した言葉の諸影像が、互に錯交して初めて喚起され得るが如き態のものであつた。然し音樂は、最も嚴正に規定された樂器を通じて現はれる、而も吾々の耳は樂音と雜音とを截然と區別する構造を持

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つてゐる。音の純粹は、言葉の猥雜曖昧たる無限の變貌に較ぶべくもない。然もなほ、彼等が言葉の形像のみによつて表現さるべき音樂的心境があると信じた處に、彼等の悲慘があり、彼等の榮光があつた。

そこで、彼等の心情に冷淡な人々には、作品の効果が朦朧としてゐるといふ理由で、譯もなく「象徵主義」と呼ばれたのである。然し、彼等は、唯、己れの擺脫たる心境を出來るだけ直接に、忠實に、寫し出さうと努めたに過ぎぬのだ。マラルメの十四行詩(ソンネ)は最も鮮明な彼の心の形態そのものである。それが朦朧たる姿をとるのは、吾々がそれから何物かを抽象せんと努めるが爲である。マラルメは、決して象徵的存在を求めて新しい國を馳けたのではないのだ、マラルメ自身が新しい國であつたのだ、新しい肉體であつたのだ。かゝる時、彼等の問題は正しく最も精妙なる「寫實主義(レアリスム)」の問題ではないか!

故に、象徵とは藝術作品の効果に關して起る問題であつて作者の實踐に關して起る問題ではないのである。そこで、私は、作品の効果中の生む作品の象徵的價値なるものの役割も結局大したものではない所以を點檢しよう。だがこの事實の發見には何等の洞見も必要としない。人々はたゞ生意氣な顏をして作品を讀まなければいゝのである。がその裡に如何なる問題を藏するか判別出來ぬ程燦然と生動してゐればゐる程、この可能性は豐富なのである。作品の有する象徵的價値なるものは、かゝる可能性の一形式に過ぎないのだ。「ドン・キホオテ」は人間性といふ象徵的眞理の豪奢なる衣を纏つて星の世界までも飛んで行くだらう。然し私には、檻に入れられたドン・キホオテと、悲し氣に從つて行くサンチョとの會話が如何にすばらしい生々しさをもつて描かれてゐるかを見るだけで充分だ。「神曲」が如何に生身なるダンテの閑靜な或は兇暴な現實の夢に貫かれてゐるかを見るだけで充分である。

× × ×

靈感といふが如きものは、あらゆる誠實な藝術家の拒絶する處であらう。彼等の仕事は飽く迄も意識的な活動であらう。詩人は己れの詩作を觀察しつゝ詩作しなければなるまい。だが弱少な人間にとつて悲しい事には、彼の詩作過程といふ現實と、その成果たる作品の効果といふ現實とは截然と區別された二つの世界だ。詩人は如何にして、己れの表現せんと意識した効果を完全に表現し得ようか、己れの作品の思ひも掛けぬ効果の出現を、如何にして己れの詩作過程の裡に辿り得ようか。では、藝術の制作とは意圖と効果とをへだてた深淵上の拔も

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

私は私の技巧の祕密を誰に明し得よう。

五

私はマルキシズムの認識論を讀んだ時、グウルモンの言葉を想ひ出した。「ニイチエといふ男は奇體な男だ。氣狂ひの樣になつて常識を讃へただけだ」と。私はこの單純ないや味を好かないが、私はたゞ丈の平凡な事を言ひたかつたに過ぎぬのだ。

腦細胞から意識を引き出す唯物論も、精神から存在を引き出す觀念論も等しく否定したマルクスの唯物史觀に於ける「物」とは、精神ではない事は勿論だが、又物質でもない。人間理解の一概念の名稱である。彼の唯物史觀は現代に於ける恐らく最も渾然たる人間存在の根本的理解の形式ではあらうが、彼の如き理解をもつ事は人々の常識生活を少しも便利にはしない。換言すれば常識は、マルクス的理解を自明であるといふ口實で巧みに回避する。或は常識にとつて、マルクスの理解の根本規定は、美しすぎる眞理である。或は飛躍して高所より見れば、大衆にとつてかゝる根本規定を理解するといふ事は、ブルジョアの生活とプロレタリヤの生活とを問はず、精神の生活であると肉體の生活であるとを問はず、彼等が日日生活する事に他ならないのである。かゝる時現代人の意識とマルクス唯物論との不離を說くが如きは形而上學的醉狂に過ぎない。現代を支配するものはマルクス唯物史觀に於ける「物」ではない、彼が明瞭に指定した商品といふ物である。

バルザックが、この世が渾然としてあるが儘だと觀ずる時、あるが儘とは彼にとつて人間存在の根本的理解の形式である。だが彼の理解を獲得する事は人々の生活にとつては最も不便な事に相違ないのである。更に一歩を進めて、バルザックが「人間喜劇」を書く時、これを己れの認識論から眺めたら、己れが「人間喜劇」を書く事も亦あるが儘なる人の世のあるが儘なる一形態に過ぎまい。而も亦、己れが「人間喜劇」を書く事から眺めたら、己れの人間理解の根本規定は蒼然として光を失ふ概念に過ぎまい。このバルザック個人に於ける理論と實踐との論理關係はまたマルクス個人にとつても同樣でなければならない。更に一歩を進めて、この二人は各自が生きた時代の根本性格を寫さんとして、己れの仕事の前提として、眼前に生々たる現實以外には何物も欲しなかつたといふ點で、何等異る處はない。二人はたゞ異つた各自の宿命を持つてゐただけである。

世のマルクス主義文藝批評家等は、かゝる事實を、かゝる論理を、最も單純なものとして笑ふかも知れない。然し、諸君の腦中に於てマルクス觀念學なるものは、理論に貫かれた實踐でもなく、實踐に貫かれた理論でもなくなつてゐるではないか。正に商品の一形態となつて商品の魔術をふるつてゐるではないか。商品は世を支配するとマルクス主義は語る、だが、このマルクス主義が一意匠として人間の腦中を横行する時、それは立派な商品である。そして、この變貌は、人に商品は世を支配するといふ平凡な事實を忘れさせる力をもつものである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

私は、最後に、私の觸れなかつた、二つの意匠に就いて、看過された二つの事實を拾ひ上げよう。「新感覺派文學」と「大衆文藝」といふものである。

私は、プルジョア文學理論の如何なるものかを知らない、又プロレタリヤ文學理論の如何なるものかを知らない。かゝる怪物の面貌を明かにするが如き能力は人間に缺けてゐても一向差支へのないものと信じてゐる。だが、人間の精神を絶滅し得ぬ以上、言葉を絶滅する事は出來ない、言葉を絶滅し得ない以上觀念を絶滅し得ない、觀念を絶滅し得ない以上文學を絶滅し得ない事は確實である。現代に於ける觀念の崩壞は、マルクスのもつ明瞭な觀念によつて捕へられた。所謂「新感覺派文學運動」なるものは、觀念の崩壞によつて現はれたのであつて、崩壞を捕へた事によつて現はれたのではない。故に、それは何等積極的な文學運動ではない、文學の衰弱として世に現はれたに過ぎぬ。これは一種の文學に於ける形式主義の運動とも言へるが、又、一種の形式主義の運動十九世紀の所謂象徴派の運動とは全くその本質を異にするものである。彼等象徴派詩人等を動かした浪漫派音樂は、彼等に最も精妙な文學的觀念を與へた。そこで彼等は己れの文學的觀念の弱少を嘆き、その精錬を斷行した時、己れの觀念に比して文字の如何にも貧弱なる事を見たのである。今日「新感覺派文學者等」を動かすアメリカ派音樂は、彼等に何等文學的觀念を與へない、否、凡そ觀念と名づく可きものは何物も與へない。映畫が人間に視覺的存在となる事を强請する樣に、音樂は人に全身耳となれと命ずる。そこで彼等は凡そ觀念なるものの弱少を嘆いて、これを捨てんとした。この時、己れの觀念の弱少に比べて、文字は如何に燦然と見えたか！

これと凡そ反對な方向をもつと少くとも私に思はれるものは「大衆文藝」といふものである。「大衆文藝」とは人間の娛樂を取扱ふ文學ではない、人間の娛樂として取扱はれる文學である。文學を娛樂の一形式と仕樣と企圖するなら、今日の如く直接な生理的娛樂の充滿する世に、人間感情を一たん文字に回收して後、文字によつて人間感情の錯覺を起させんとするが如き方法は、最も拙劣だ。而も今日「大衆文藝」が繁榮する所以は、人々は如何にしても文學的錯覺から離れ得ぬ事を語るものである。私は、遠い昔から、人々が繼承した「千一夜物語」の如く夜々了る事を知らない物語といふ最も素樸な文學的觀念の現代に於ける最大の支持者たる「大衆文藝」に敬禮しよう。

六

私は、今日日本文壇のさまざまな意匠の、少くとも重要とみえるものの間は、散歩したと信ずる。私は、何物かを求めようとしてこれらの意匠を輕蔑しようとしたのでは決してない。たゞ、一つの意匠をあまり信用し過ぎない爲に、あらゆる意匠を信用しようと努めたに過ぎない。そして、次のデカルトの言葉だけは人間精神の圖式として信用し過ぎてもかまはないと思つたに過ぎない。

「人が、もつてあらゆる現象を演繹出來る樣々な根據が、よもや嘘ではあるまいといふ事。——然し、私は、私が提出する樣々な根據を安心して本當であるとは言ひたくないといふ事。——のみならず、私は此處で、私が嘘だと信じてゐるいくつかの根據を必要とするであらうといふ事」と。(終り)　一九二九・四・廿八

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

蘇峰自叙傳（追憶記）

蘇峰　德富猪一郎

第二十　新島先生と與に木曾道中をなす

予は明治十三年の初冬に、東京より熊本に歸り、明治十九年冬、家を携へて東京に出る間、熊本を本據として、第一自分の學問を專務とした。傍ら新聞などにも關係し、又た演説、講演等もなし、政治上にも多少奔走したが、專ら從事したのは、前にも記したる如く大江義塾に於て、生徒を教育すると云はんよりも、寧ろ生徒と共に勉強した事であつた。

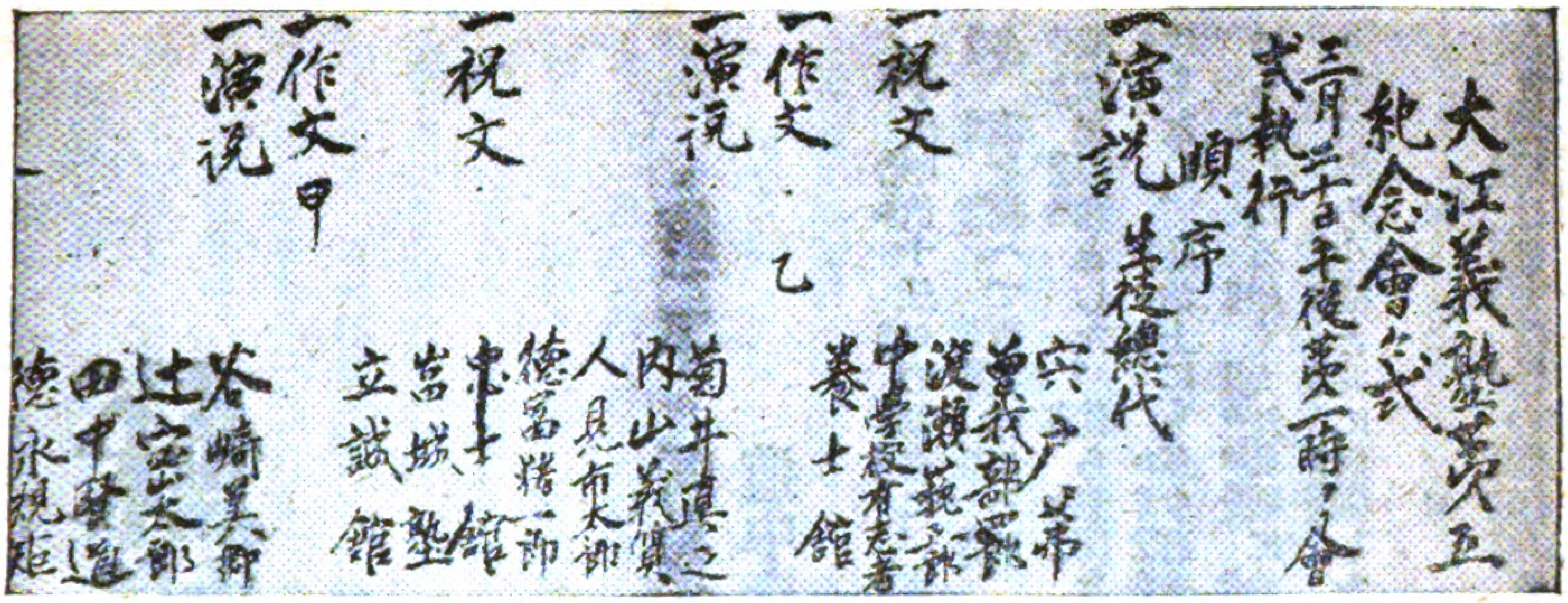
×　×　×

この塾は最初は予の聽講生五六人より初つたが、後には六七十人、その盛時には百人を超えてゐた。熊本縣下は固より、鹿兒島縣よりも常に數十人と云はざるも、十數人は來り、其他、他府縣からの來學者も尠くなかつた。又た臨時に當時天下行脚の有志家が來りて宿泊したる者も尠くなかつた。その中には可成り知名の士もあつた。而して予は學課の餘暇、年末年始、春季若くは夏季の休業中には、時としては一人、しかも概ねは數人の生徒と共に旅行を試みた。縣内は勿論、鹿兒島縣とか土佐とか又た京阪地方、東京等に往來した。その中にて一二記憶したる事を語るであらう。

×　×　×

明治十五年の夏休みには、予は先づ東京に出づる目的を以て、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



大江義塾第五記念會々

大阪に赴き、大阪に於ける重なる新聞記者、政客等を訪問した。その中には今の大毎社長本山彦一翁も大阪新報記者として、盛んに自由民權論を說く際にて、予はその社に君を訪問した事を記憶してゐる。而して予は京都に至り、新島先生の家に宿した。予は明治十三年歸鄕の折に京都に先生を訪うたが、先生は九州下りにて面會を得ず。予が熊本に歸宅したる際は、先生は既に出發した後であつたが、風波の爲又た引返し、それが仕合せとなつて、先生と一夕快談し、これが爲に兩者の間に於ける蟠りも解け、爾來先生とは常に文通してゐたから、予が先生の家に投宿したのも、何等不思議は無かつた。

或夜予が先生の二階の一室に眠つてゐるに、夜半蚊帳を排して入り來る者あり。驚いてこれを見れば先生であつた。先生は一卷の聖書を手にし、聲を震はして、『是非この所を一讀して、然る後床に就いて貰ひ度い』と云はれた。これには予も聊か閉口した。予は先生の信者ではあつたが、基督教の信者でもなく、又た殊更ら聖書の信者でもなかつた。

× × ×

幸ひ先生も東北方面に赴くとのことにて、夫人は汽船から赴かるゝ樣になつたから、予は先生と同行し、木曾路を行いた。同行者は橫井時雄、湯淺吉郎、外一兩人の同志社學生であつた。當時先生も頗る元氣であつて、孰れも膝栗毛で中仙道を步いた。唯だ橫井氏が蒲柳の質にて、時としては先生と共に馬に乘つた。予等は孰れ莫蓙を着て、全く道者の姿であつた。而して前と後には小さなる行李を風呂敷に包み、それを紐にしばつて前後の肩に掛けた。所謂る『胸に一物肩には荷物』と云ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



大江義塾印（實物二寸三分角）



式順序書

わけであつた。

別段この旅行には、苦情や面倒もなかつたが、恰も雨期であつて、景色を賞するよりも、寧ろ道路の險惡なるには聊か困つた。それよりも困つた事は、寄れば觸れば新島先生が予に向つて說教せらるゝ事であつた。鳥居峠を登る頃などは、日は已に暮れて、險しき山坂を先生の說教を聞きつゝ夢中になつて過ぎた。

當時横井氏は、その夫人が先生夫人の姪であつた爲でもあらうが、先生より特別取扱ひを受け、先生も横井氏の爲には、始終夫々氣を配ばられた樣だが、予に向つてはそれよりも唯だ如何にして予を再び悔改めて、基督教に復歸せしめんかと云ふ事を、始終焦慮せられた樣であつた。

× × ×

當時の木曾街道は芭蕉翁が、『かけ橋や命をからむ蔦かづら』と云つた時代よりも、若干進步してゐたかも知れぬが、しかも何れかと云へば宿屋の食事等も極めて原始的のものであつた。偶ゝ福島に泊つて何やら魚らしきものを食べた時には、先生初め一同その珍味に驚いた。恰もその晩は土曜日であつて、明日は日曜であるから、一日此處に逗留しようと云ふ事になつた。一日の逗留は結構だが、その爲に予は尠からず先生の說教に惱まされた。つまりその一日にて予をせめ落す積りであつたではあるまいかと思はれた。予は固より基督教を嫌ふ者ではない。唯だ予には信仰せらるゝ部分と、せられない部分とあつて、新島先生の赤心からの祈でも、予の心を動かす譯には參らなかつた。併し先生の厚意には寔に感激した。

× × ×

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

先生は食物には頗る趣味があつた。殊に蕎麥となれば命さへ打込む程であつた。偶〻寢覺めの床にて、予と先生と名物蕎麥の賭喰ひをした。予はなか／＼先生に敵すべくもなかつたが、一生懸命にて先生が九杯の時に、更に半杯を加へた爲に予の勝となつて、蕎麥代を先生に拂はしめた。併し輕井澤の追分に於て、再び試みた時には双方共競爭の益なきを悟つて、互に大抵の所にて切上げて、勝負はつけなかつた。

當時予は詩に熱心と云ふではないが、聊か興味を持つてゐたから道中では專ら詩を作つた。今只二三を記憶してゐるが、その中に、

仰看萬嶽壓二前頭一。蘇水如レ雷劈レ石流。
行客不レ堪衣褐冷。連レ天綠雨信濃州。

又た淺間山の詩に、

突兀奇峰衝二碧蒼一。群山以外勢飛揚。
問レ君有二何不平事一。吐二出焰烟一萬丈長。

又た碓氷嶺の作に曰く、

平遠茫茫望北收。八州之野眼中開。

とある。別に取るべき程の價値もないが、當時の氣分は之れでわかる。

× × ×

斯くて吾等は碓氷嶺を越え、上州安中に到り、此處にて新島先生夫人に出會し、先生と別れて予と横井氏は高崎から千里軒の馬車にて夜通しにて東京神田萬世橋に到着し、それから予は如何なる緣があつた歟麻布の善福寺の塔頭に下宿した。

第二十一　板垣自由黨總理と會見

當時東京は自由民權論の中心地であつた。板垣伯は自由黨總理として同年四月岐阜に於て刺客の難に罹り、その傷漸く癒えたる時であつて、自由黨は恰も旭日昇天の勢をもつてゐた。予の上京は勿論板垣伯に面會する事が、九分九厘迄の目的であつた。

當時自由黨の本部は寧靜館と稱へ、銀座裏の三十間堀にあり。其處には河野廣中、鈴木舍定、宮部襄等の幹部連が居た。予は新島先生の添書を持つて板垣伯に面會すべく赴いた

から覺悟をしてゐた。案の如く板垣伯は面會せず。河野其他の諸氏が面會したが、予は一切諸氏を相手とせず、

『予が今回の上京は、諸氏に面會する爲でない。唯だ板垣伯に面會せんが爲であつて、諸氏には固より何等の用事もないから、此方から面會をお斷り申す』と云ひ放つた。

爾後數十年の後河野廣中翁が此の事を記憶して、

『その節の德富さんには困り拔いた。』と云つた。

斯くて予の熱心は、遂に板垣伯と會見する事となつた。それは駿河臺なる岩崎邸で、當時板垣伯は其處に寓居して居た。併し刺客の難後であれば、生面の客に面會する事は、板垣伯は兎も角も、その周圍の人々が餘程懸念したと見えて、壯士連が一度ならず、二度ならず、予を檢問し、而して後予は漸く板垣伯の室に導かれた。

× × ×

板垣伯は寫眞で見たよりも逢つて見れば、如何にも人間味のありさうな人にて、その音吐も朗かにて、何となく人を惹き付ける樣な感がした。予は如何なる事を申した歟、自分では一切記憶してゐないが、兎も角も予の云つた事は、伯に多少の印象を與へたものと見え、板垣伯は、

『近日から箱根に赴くから、話を聞き度ければ、其處まで來ても差支へない。』と云つたから、

『然らば左樣致すで御座らう』と云ふ事に取極めた。

予はやがて倶々箱根迄赴く友人と同行し、神奈川から圓太郎馬車にて小田原に赴き、それから友人と共に堂ヶ島に到り、予一人其處から芦の湯に赴き、板垣伯の宿——紀伊國屋か松坂屋か、孰れかの一——に赴き、その旨を通じたれば、『差支へなし』との事にて、更に又た堂ヶ島に赴き、携へたる小荷物を肩にし、再び芦の湯に來り、炎天の下、草いきれのする茅の中の小徑を、芦の湯、堂ヶ島間、三回程、膝栗毛を飛ばし、板垣伯と同宿する事となつた。

最初は宿の入口の側しかも便所に近き薄暗き室に打込まれたが、やがて許されて板垣伯と同室する事になつた。板垣伯の室は大なる二階の二間打拔きにて、その一間が板垣伯の室であり、次の一間が隨行者の室であつた。隨行者の重なる者は、伯の秘書とも云ふべき栗原亮一氏、及び伯の聟なる宮地茂春氏その他數人の護衛とも云ふべき壯士であつた。予もその室に同居

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

する事が出來て、初めて彼等の仲間に投じ、頗る愉快を覺えた。 であつた。

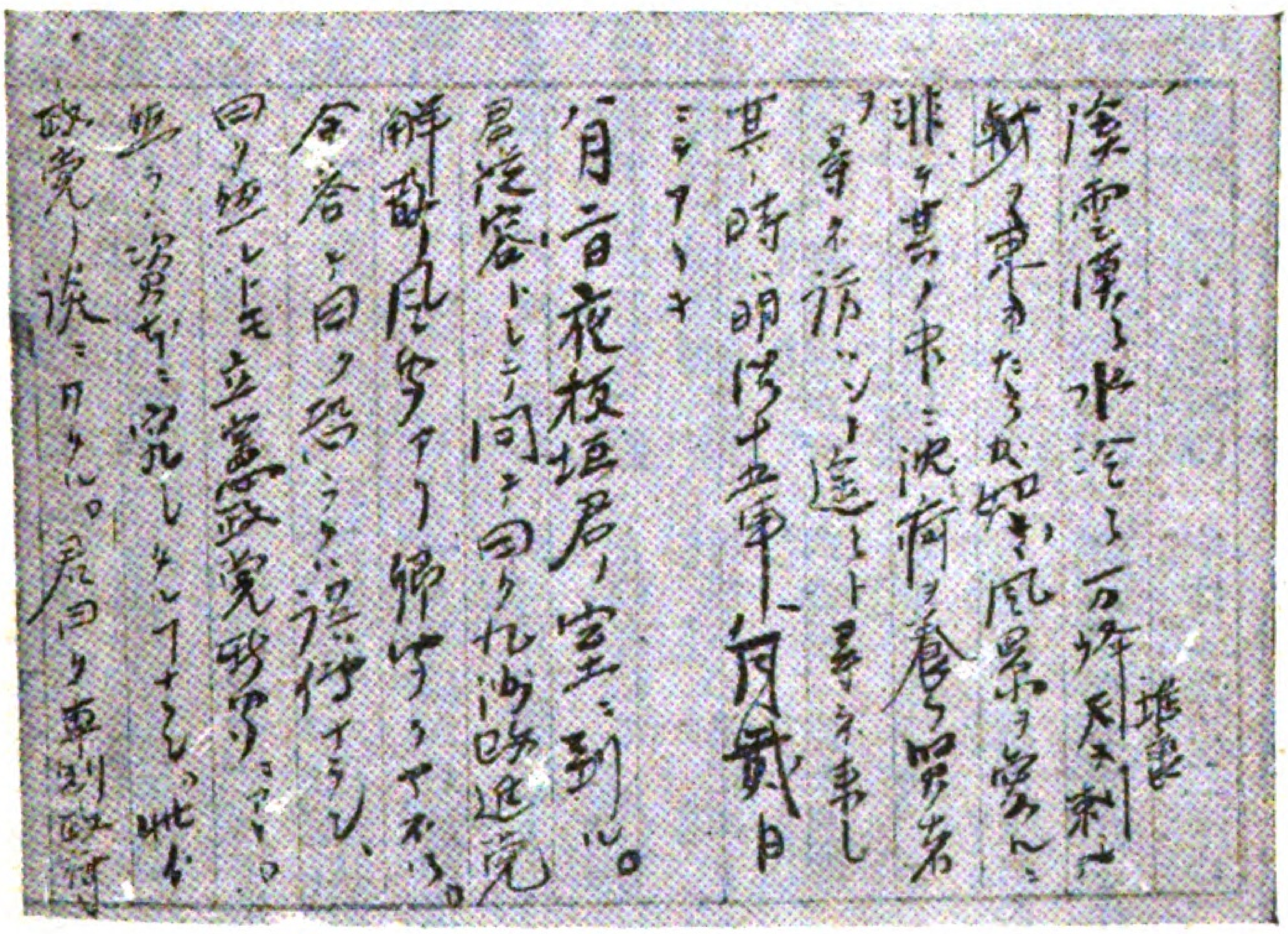
×　×　×　×

板垣伯は只だ一介の武弁と思うてゐたが、逢うて見ればなかなかの論客であり、記憶力も確かであり、殊に孫子十三篇等は暗記してゐる程であつた。暇ある毎に種々の昔語りなどをせられたが、殊に會津戰爭の一齣などは、最もその得意とする所であつて、よくこれを聞かされたのみならず、容堂公の事、後藤象二郎伯の事、谷將軍の事など種々聞かされた。

又た土佐立志社の諸人物の評など、よく伯の口から聞かされた。

×　×　×

板垣伯は狩りが好きで、當時は禁獵……伯に伴ひ勢子の役目をつと……曰く、



板垣伯と會見手記

×　×

左に掲ぐるは、當時の記錄で、予が聽くに從ひ、その日々に筆記したものである。

溪雲漠々水冷々、萬峰坤裏の風景を愛るに非で、其の中に沈痾を養ふ賢者を尋ね訪はんと、遙々と尋ね來し其の時は、明治十五年八月貳日にてありき。

八月二日夜、板垣君の室に到る。君從容として問て曰く、

『九州改進黨解散の風聞あり、卿聞くや否。』

余答て曰く、

『恐らくは誤傳ならん。』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『然らば資本に窮したる事ならん』此より政黨の談にわたる。君曰く、

『專制政府の下政黨の成立するは實に六ケ敷事なり。我が自由黨の如きも早晩解散せらるゝ事ある可し。此等の事は覺悟せざるに非ざれども、正大なる手段を以て公然と政黨を組み立つるは、是れ退助が政府に向ての親切なり。且つ我國人の輕擧事を誤るが如き、又土地偏着心抔の如き、色々の惡風を洗濯するには、是非政黨の形體上に成立せられねばならぬ必用もあるにぞかくは成すものゝ、去りとて解散せられしならば、彌其の時に存るものこそ鐵石心のものにて、却て吾人の試金石とも申す可きか』是より一般の主義論に渉る。君曰く、

『凡政事社會に立つものゝ土地偏着心は愚か、偏頗なる心にては行ぬ事なり。實に四海兄弟の公平寛大なる心を以て標準とせざる可らず。』

余曰く、

『實に尊命の如し。我が九州の如き其の有爲の氣に富は恰も火山の焰を吐くが如しと雖ども、惜哉千古の大道理を見破し、之を基礎として總ての事を所置し、之を主眼として、之を保障とし、之と死生存亡を共にするが如き人に乏しきは、實に遺憾の至にて候。』

君曰く、

『然り。實に我が國の時處位より考るに、今日は決して武を以て國を立る時に非ず。正に今日西洋諸國に匱乏したる正理公道を以て、萬國に鳴るが如き國柄とは致したし。是れ殊に單純なる道理上よりするのみならず、我が國の利益上に考るも、亦之を以て斷案とせざる可らず。』

余曰く、

『實に尊命の如し。彼の愛國心は偏頗心と云ふが如きは實に道理の見合の附ぬ物の考と存じ候。曾て福澤氏と斯々の話を致せり。』と申す。(中略)。

君曰く、

『一二を知ねば三を知る事能はず。如何ぞ一身一家を愛するを知らずして國家を愛する事を知らんや。予をして假りに政權を取らしめば、干渉主義は愚か、强兵とて漫に兵士を養ふと云ふ事を止めにして、飽迄道理を以て立つ國となさしめんと欲す。』云々略す。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

君曰く

『世人の讒誣も亦甚しい哉。熊本抔に於ても、既にしかく〱の事を鳴し候と云は無論、予は未だ共和論を主張せし事なく、亦た其の論を主張せんとするものでも無いが、然れども英國政體に於ても何が第一多きと申さば、先づ平民的分子が第一餘計ならん』と申さる。余取り敢ず、

『然り。凡そ代議の政府を作るには、尤も平民的分子あらさる可らず。然るに是を好んで彼を悪むは心得難き事なり。』と申す。

八月三日の朝。

余曰く、

『時勢の變化は後來如何成り行く御考なる哉。』

君曰く

『然り、大凡時勢は大人豪傑の利導する所ならば、如此せんとすれば如此なり。左樣にせんとすれば、左樣になるものなり。若し一個の定見なくして、漫に世の先達者の意見を聞て奔走するものは、到底時勢を知らず。亦時勢に後るるものぞかし。馬車の乘客が馬の騰揚奔逸するを見れ

て掛念切なりと雖ども、御者に至りては悠々寛々、意に介せざる如き由縁のものは、他なし。唯其の負擔の心重く、之を御するの經綸あればなり。卿等亦國事に仰天するの乘客とならずして、國事を駕御するの御者たらん事を。余に於ても國勢を利導し如此とす可し。如斯せざる可らず。思ふ事多しと雖ども、固より岐阜遭難の如き、孰れの日死するやを知らざれば、到底余が思ふ如くなるや、否やを知らず。然れども民權自由の議論の如きは、決して磨滅する能はさる可し。且又政府の都合を見れば、全く平和之主義を捨、飽迄輿論に抗敵せんとするの勢あり。此の有樣なれば廿三年迄、假令千百彌縫すと雖ども、とても其の時にならば國家は一大壞亂を來す可し。是所謂深渓の下には激湍あり。則ち自然の勢也。然れども斯る勢に至せぬこそ、朝野有志の責任なれ。』

余曰く、

『某の見込にては到底一義人の血を流さずして改革の行るるは夢にも想はぬ所にて候。されば民權の

必死の覺悟

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『然り。大丈夫一旦目的を定め、事を行はんとする、固より一死の覺悟あらざる可らず。されど吾より事を始む、是固より事の已を得ざるに出るに非ず。亦固より條理の正しきものとなす可らず。唯條理に條理を盡し、事の止に止れぬ大和魂と云ふ結局に至らば、所詮致し方なき事なり。九州地方の如きは、未だ主義を重ずるの心薄き故に、他の後に附くを恥て未だ大主義の爲めに、大局に注目するを知らず、早晩斯る陋見は飛び去たらんと待居るなり。』嘗て馬場辰猪余に問て曰く、

「死に處する難し。如何せば則ち死に處するの正を得ん」と、余答て曰く「人或は馬場美濃に問て曰く、公は如何にして武勇拔群たるや。馬場曰く余強を避け弱を擣く。此の事に付き四ヶ條あり」一に曰く敵を見るよりも味方の鋭氣を見て槍をさし入れよ。さる時は己れ獨りで犬死する樣た事なく、二番三番と驟雨の如く必らず敵を推崩す可し、」と、時に森脇直樹君東京より到る。余辭して座を立つ。

八月三日の夜。

余曰く、

一願くは左に陳する所の順序を以て高意を承る可きや。曰く、

第一反對黨及び政黨自然の傾向なり。第二自由黨運動の都合なり。第三憲法及び施政上の事。第四如何なる所以を以て我が日本國は道義によりて國を立ねばならぬと申す思想の順序は出來たるや。總て右等の個條なり。』

君曰く、

『今よりして政黨の模樣は如何なる可きや。大凡物不平均を終せざるはなし。亞細亞の歐羅巴に於ける、民權自由の壓抑專制に於ける、其の不平均を求むる力は、其の不平均の度に從て彌厚きを加るものなれば、我國に於て反動の勢ある亦あやしむに足らず。唯恐る我が自由黨の如き、今日に於ては既に政府よりも民間の一部分に於ても、過激粗暴の悪評を被ると雖ども、是他日猶一層の激烈單純なる黨派興起せば、我黨は陳腐因循の譏を免るゝ能はざるを。而して之を例するに幕末の時に於て、容堂、春嶽の二公の如き、幕府の終に觸れ幽閉せられたる時勢の止を得ざるにより、急に政府に登用せられたるも、既に激徒を制し、人心を滿足せしむる事能はざりき。彼の佐久間の如き公平正大なる議論を主張し居たるも、端なく殺され、亦西郷、木戸等の如きに於て時勢を

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

し、身を躍して風潮の中に入り、而して風潮を制せんとせり。他日に於ても亦如此事あらん。而して其の所置如何は豫め定む可きに非ざるも、若し此の時風潮の中に入り、風潮を制する人なくんば我黨は甚恐矣。』

余曰く、

『帝政黨後來の命脈は如何』

君曰く、

『是れ私黨なり。必ず他日爲にする事の、滅すれば從て滅す可し。彼の三人は――福地源一郎、丸山作樂、水野寅次郎――何人ぞや。皆節操なき僻邪の小人と云はざる可らず。所謂余が眼を以てするときは、眞成の守舊黨は彼の改進黨にあり。試に觀よ。彼黨の綱領は皆老人富者の好む所を求めて作爲したるものにして、其の心事察するに餘りあり。況んや此の老人富者を驅て俗吏輩の事を行はんとするは、豈亦難らずや。今後の事猶鐵壁の未だ攀ぢざる可らざる所あり。』云々。

曰く、

『然らば尊王黨なるものは生ぜざるか』

曰く、

『今日の所にて誰も□□の黨を結ぶものもなければ、之に反對するが爲めに、格別に尊王黨を結ぶ事もあるまじき筈なり。』

曰く、

『嚶鳴社の貴黨に合せざるは、抑も主義によるか、將た情實によるか。』

曰く

『情實なり。第一沼間守一が予と河野（敏鎌）を和解せんと欲する中、大坂立憲政黨より予及び中島（信行）に總理の任を乞たるも、共に辭したれば、該委員小島忠里は詮方なく河野敏鎌に向て其の任に當らん事を乞たるに、彼曰く「諾、然れども余板垣君と異論あり。夫に差支なければ余は諾せん」と其の中終に中島が行く都合になりたれば、其の事止矣。是一原因なり。次に沼間曰く「君の尤も信用する七八名を組織して内閣を做さんと欲す」と。是れ余が尤も諾せざる所にして、第二原因。彼曰く「余輩社の人を愛して學士を愛せず」と。第三原因。是より終に模糊の中になりける

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

八月四日の朝。今朝より板垣君の室に移る。

憲法及び施政の事。

『憲法の事は込み入りたる事多し。固より一朝に云ひ盡す可きにも非ずと雖ども、先づ一局議院にて普通選擧する事を宜敷事とす。併し是等の事は全國の輿論によりて左右するものなれば、余は飽迄も意見を立通すと云ふ積りには無之。但し若し貴族院（上院）にするならば、余は飽迄不同意を唱へざる可らず。何となれば人間に階級抔を設るは、決してある間敷筈なればなり。』

余曰く、

『高論の如しと雖ども、二局議院抔の論の如きは、到底利益はなきものと信ずれば、飽迄もつまらぬ物を作り、我々のみか、後世迄の迷惑を殘さぬ樣に致度存ず。』

君曰く、

『成程余の考にては、政事家となる程うるさきものはなし。何となれば政事家は常に一般愚人の仲間入をせねばならず。是程困る事はなけれども、今日の危急實に見るに忍ぬ事故、此の如く塵世に奔走するなり。余が畢世の願は無邊の境界に逍遙し、神心の知識を聰明にし、書を著し、道を論じ、百世子孫を益する事こそ本意なれ。』

余曰く、

『然り。然れども此の事たる何れの日に全く望を達し給ふや敢て知る可らず。唯願くは政黨の首領たる資格と、一個人たるの資格を以て暫く此の世に立ち給はん事を。先生の全く政事社會に墮落し給ふは、實に生の欲する所に非ず』と云ふ。君頷く。

是より九州と自由黨と親和す可き事に附て、段々と陳述せり。

× × ×

當時は隨分來客もあつた樣であるが、予の記憶に留るのは、何か朝鮮に事變が起つた爲に、大石正巳氏が急ぎの駕籠に打乗つて、伯を訪問した事だ。大きなる漢が小さき山駕籠にはみ出すばかりであつたから、よくそれを覺えてゐる。

× × ×

併し當時の板垣伯は民權論一點張りであつて、國權論には左程多くの興味も持たなかつた樣だ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第二十二　東京に於ける交遊

當時自由黨は自由新聞なるものを發行してゐた。これは全く素人のつくつた新聞であつて、新聞としては價値が無かつたであらうが、予は板垣伯を尊信する餘りに、初號からの購讀者であつた。

當時自由新聞の社説は、田口卯吉、馬場辰猪、中江篤介、末廣重恭、土居光華、植木枝盛その他諸氏の筆になると云ふ事であつたが、その大部分は殆んど田口卯吉君が書いてゐた。

田口君は嚶鳴社出身であつて、島田三郎氏等と親友であり、當然大隈伯の改進黨に赴くべき人であつたが、君は大隈伯が保護貿易者であり、自らが自由貿易者である爲に、從來大隈伯の政策に屢ゝ反對したる行掛り上、その傘下に趨くを屑しとせず。さりとて自由黨に加入する程にもすゝます、客員として筆をとつてゐた。予はかねて田口君の經濟雜誌を愛讀して、尠からずその文章と議論とに感服したが、今この論説を讀んで、是非會見して見度いと希望してゐたが、板垣伯などは、予が論く買ふ程には田口君を買つてゐなかつたものと

を勸めもしなかつた。

× × ×

田口君以外に予が交際したのは中江篤介君であつた。君は當時青山墓地の傍に大なる長屋門のある家に住し、一方には番町に佛學塾などを開きて、門戸を張つてゐた。この人は顏に痘痕があり、雀斑があり、瘦ぎすの小柄にて、何等風采の人を動かすものはなかつたが、その額は案外に廣く、その眼は小さかつたが、キラリと光つて居、その唇は薄かつたが、寧ろ才氣を示して輕薄を示さなかつた。

當時既に中江氏は奇行家として世に認識せられてゐた。板垣伯も中江氏に對しては何事も諦めて居た。極めて潔癖家で、手を洗ふ際にも殆んど手桶一杯の水を要し、旅行する時には箸や、茶碗を持參せねばならぬと云ふ樣なる板垣伯も、中江君が極めて不潔なる肉體の部分に接觸せしめたる酒杯を、その取つて、呑み干さねばならぬ始末にてあらうが、

ウソーの『民約論』の宣傳者であり、自由黨に向つて恰も黨師の如き位置を占めてゐる事を看過し能はなかつた。

或日友人と共に中江氏の青山宅を訪うた。午前であつたらう。明治十五年の夏は、東京は虎列刺が大流行であつたが、中江氏は何やら琥珀色の液體をコップに注ぎ、

『これはコレラ除けの藥である。德富さん一杯如何です』と差出した。予も聊か躊躇したが、中江氏は固より、同伴の者もこれを飲んだから、予も安心して一杯呑み干した。やがて予は予の腦中には千軍萬馬の往來するが如き心持を覺え、その以後は殆んど萬事を忘却し去つた。

偶ゝ目覺れば予は中江氏の鐵のベッドの上に横はり、日影は既に庭に落ちてゐる。最早や午後三四時頃でもあらう。全く中江氏に一杯食はされたのではなく、飲まされたのだ。併し中江氏はその申譯でもあつた歟、その書棚の中にある多くの佛蘭西書の中から、英文のロックの『ヒュウマン・アンダースタンデング』と、チャールス・デッケンスの『少年用英國史』とを抽き出して予に與へた。予は哲學には興味を持たなかつたから、それを友人元良勇次郎君に呈した。デッケンスの『少年英國史』も誰にか贈つたものと思ふ。

そは兎も角も、予は爾來中江氏の死に至る迄、親友と云ふ能はずんば、少くともそれに近き者の一人であつた。

× × ×

予の當時面會して、最も啓發されたのは馬場辰猪君であつた。當時『共存同衆』なるものが日吉町にあり、その傍に會館があつた。即ち演說堂である。その堂がやがては國民新聞社の所在の家である。予は屢ゝ其處に傍聽に出掛けた。其處は演說者も知識階級であり、傍聽者も知識階級であつた。

× × ×

馬場辰猪、小野梓等と云ふ人がその中でも最も錚々たる人であつた。當時雄辯家と云へば、先づ馬場氏を推さぬ者はなかつた。土佐人には本來雄辯家が多いが、馬場氏は土佐人の中にても、最も秀いでたる一人であつた。

當時馬場氏の表面は兎も角も、裏面は獨身生活にて、共存同衆演說館の裏手なる三等煉瓦——舊國民新聞社の裏通り——の二階屋に下宿してゐた。予はその所に馬場氏を訪うたが、予の從來見た所では、君程の好男子はあるまいと思ふ。さりとて別

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に厭味はなく、唯だ綺麗さつぱりで、何等田舍臭き所もなく、去りとて江戸兒の强がりもなく、紳士の風采とは斯くもある可きものかと思はしめた。

× × ×

併し君は本來の熱血男兒で、喧嘩は何よりも好物であつたらしい。予は約束の時間に君を訪ねたが、君は未だ歸つて來なかつたから、予は暫時待ち受けてゐた。君はその申譯に、何處とかの演説會に赴きたる歸途、巡査が不都合であつたから、それを聊かこらしめた爲に覺えず時間が遲れたと斷つた。

君の言論は別に餘韵はなかつたが、必ず是を是とし、非を非とし、極めて明白であつた。且つ頗る獨自性の强き人であつたと見え、誰の事を訊いても、餘り感心しなかつた樣である。板垣伯などの事も殊更尊敬してゐる樣にも見えなかつた。

君はその自ら著したる英文の『日本條約改正論』や『日本文法論』を予に與へて曰く、

『森有禮氏は日本には文法らしき文法はない。故に日本文は規則立つて綴るわけにはゆかぬと云つたから、予はそれを事實の上に辯駁すべく、殊更此に日本文法論を著したのだ』

と。馬場氏は少年の時から倫敦に留學し、國漢學の方は果して幾何の造詣あつた乎知らぬが、自ら信ずる事に忠なる事は、全くその通りであつた。

それから更に予に語つて云ふには、

『政治の事を知るには、憲法とか、法律とか、歴史とか種々あるが、併し眞に政治の運用を知るには、政治家の傳記を讀まねばならぬ。それには先づ斯る本を一讀あれ』

とて、予にはその讀みさらしの本を出して與へた。その一はモルレー卿のコブデン傳を民衆版として出版したもの。他は又た米國アップルトン書肆に於いて、叢書の一として、民衆相手に刊行したるビーコンスフィールドの評傳であつた。

この二書は予にとつて天啓であつた。予はこれに依つて初めて、ロード・モルレーを知り、コブデンを知り、ブライトを知り、——固よりコブデン、ブライトの名は、同志社にて經濟學を、ラーネッド氏に授かつた時に聞いたとは云へ——マンチェスター・スクールを知る事が出來た。元來予の政治思想は、横井小楠から發足し、新島先生の基督教の感化を受けたものであつて、マンチェスター・スクールの論旨が予に感應したるは、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

恰も水乳抱合したる趣があつた。

予は又たビーコンスフィールド卿の傳によつて、更に同人の著書エンデミオン、コニングスビー其他を讀む事が出來、始めてマンチェスター・スクール以外に、又た一種の政治的雰圍氣のある事をも知つた。

兎に角予の馬場君を見る事は、僅か數回であつて、恐らくは馬場君は予を記憶しなかつたかも知れぬが、予にとつては實に大なる啓發であつた。

×　　×　　×

要するに明治十五年の夏期の上京は、予にとつては多大の得物があつた。然るに同年の秋の末、冬になつて板垣伯洋行の問題が起り、自由黨内には異論紛出した。これは第一、當時洋行の時期に非ずと云ふ事と、第二、その洋行費の出所が甚だ明瞭を缺くと云ふ、この二點であつた。而してこの反對者の最も主なる者は、馬場、大石、末廣三氏にて、彼等は自由黨から分離して、獨立黨を組織した。而して田口卯吉君抔も、その問題に就ては如何であつたか知らぬが、氣を腐らして自由新聞を去り、從つて自由新聞は全く古澤滋氏によつてその筆政を司らるゝ事となつた。古澤氏はこれ迄大阪に在て大阪に於る近畿自由黨の新聞——立憲政黨新聞——を主宰してゐたが、板垣伯其他の慫慂にて、愈よ東京に出で來て自由新聞の筆政を司る事となつた。

この騷ぎに就いて、本部から各地に向つて代表者を出すべく電報が來た。相愛社の方でも適當なる人がないから、予に上京して貰ひ度いとの事であつたから、歸來未だ幾何もならなかつたが、予は欣然としてこれに應じ、再び東京に赴いた。大江卓[illegible]の[illegible]務は、甚だ多端であつたに拘らず。

×　　×　　×

予は今板垣伯の洋行費の出所の何れからするかは、明言する必要は無い。板垣伯の側では、大和の富豪土倉庄三郎氏が出す事になつたと云つてゐる。或はこの通りであらう。併しこの洋行には板垣伯は知つて居る乎居ない乎。後藤象二郎伯が恐らくはその張本人乎、さなくも主なる張本人の一人であらう。而して其の背後に、一種の魂膽が存したとは間違あるまい。

當時板垣伯は病んで、高輪なる後藤象二郎伯の邸に寓してゐた。予は青山南町の中江氏宅から、二人乗りの人力車に中江氏と合乗し、高輪なる板垣伯を訪問した事を記憶してゐる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

贊成も不贊成も論外だ。事は既に決つてゐる。予は一通りの事情を聽いて、唯だこれを國許の政友に報告するだけの義務を盡せば足るのだ。唯だ世の中は實に『三日見ぬ間の櫻哉』と云つた通りで、自由新聞などは盛んに馬場、大石、末廣氏等に向つて、惡聲を放つてゐたのみならず、是迄さへも互に快くなかつた自由黨と改進黨とが、この一事からして表向きの喧嘩となり、自由新聞などは盛んに、改進黨中、就中河野敏鎌、沼間守一氏等の一派を攻擊してゐた。其の筆鋒の惡辣であつたことは、正しく古澤滋氏であると思はしめた。

民間兩黨の軋轢は、明治政府にとつては、此上なき仕合せであつて、この喧嘩の種は誰が播いた乎。それは知る人ぞ知るであらう。

(昭和四年四月二十六日民友社に於て)

第二十三　高知巡禮

明治十七年の夏期には、大江義塾の學生數名、及び鹿兒島宮

れも土佐を中心とせぬ者はなかつた。固より當時は既に大隈侯を中心とする改進黨なるものが出で來り、民間黨派自ら二派に分れてゐたが、然も自由黨が本家本元であり、その自由黨の本家本元が又た土佐であるかの如き觀をなしたから、吾等が土佐に巡禮を企てたのも、良に當然の事であつた。宮之城の青年には寧ろ予と同年、若くは年長の者が多く、中には十年の役に從軍したる者もあつた樣だ。それは當時宮之城に居た阿部充家氏が誘うて來た。

兎も角も肥薩の青少年は孰れも相率ゐて勇ましく、阿蘇山の外輪山を越えて別府に到り、それより四國に渡る事となつた。然るに此で一つの議論が湧き出した。それは薩摩連は和船にて渡らんと云ひ、熊本連は汽船にて渡らんと云つた。熊本連が、『和船では危險である。』と云へば、『それでは神功皇后の三韓征伐には、如何なる船にて出かけたのである乎』等と隨分議論も盛んであつたが、遂に汽船に乘り、三津ケ濱に上陸し、松山を經て高知に入る事になつた。

予は今治に横井時雄氏が居たから、予の叔母に面會旁々立寄

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

今治に到り、それより和船に乘りて新居濱に上陸し、西條から別子銅山を經て高知に入つた。元來此の道は兼ねて嶮岨を以て世に聞えたる四國横斷道路中、最も嶮岨にして、別子銅山から先は車は愚か馬も牛も通はぬ程の嶮岨にて、吾等は漸く何とか云ふ一軒の山小屋に到着し、そこに一夜を明したが、同行の戸波氏は足を胝して歩行甚だ惱み、別に藥等もないから、杣人の教に從ひ咒ひとて、何やら呪文を唱へ、小豆三粒を水に浮して一口に呑み下した。咒が利いたか如何乎はわからぬが、兎に角翌日は出立し、山又た山、坂又た坂を越えて漸く手の平程の平地を見出したる時には、何となく新天地を發見したるかの如き心持がした。

斯くて一行は孰れも高知にて相合した。吾等が高知に行く以前、高知の壯年志士板垣伯の愛壻宮地茂春氏外數氏は、九州を遍歷し、吾が大江義塾をも訪問し、互に交驩してゐたのみならず、予は前にも記したる通り、板垣伯及び土佐の重なる人々とも交際があつたから、吾等は分不相應に高知人士から待遇せられた。斯くて吾等は彼等の社にそれ〳〵到宿した。

當時高知の壯年、青年團體は、その方角々々に社を結び、そこを本部とし、集會所とし、互に演說討論をなし、若くは擊劍、柔道をなしてゐた。或は發揚社と云ひ、或は嶽洋社と云ひ、或は修立社と云ひ、その他まだ幾何もあつたであらう。

予は當時高知の先輩諸氏を訪うて、種々その意見を聽いた。その中には片岡健吉、西山志澄、谷重喜氏等があつた。その中でも谷重喜氏は谷干城將軍の同姓にて、しかも板垣伯の說に依れば、干城將軍よりも實戰は上手であつたと云ふ事であつたが、當時は專ら吸江に小舟を浮べて釣を樂んでゐた。板垣伯は海外から歸つて東京に居り、土佐には居なかつた。

×　　×　　×

予等は專ら壯年の諸君と交際したが、彼等は別に讀書をするでもなく、學問をするでもなく、唯だ悲憤慷慨して酒を飲んでゐた。予はその情態を見て、今日では土佐の勢力が猶ほ天下を制せんとしつゝあるが、二十三年國會開設の後に於ては、如何ある可き乎と、聊か懸念せざるを得なかつた。而して土佐の先輩がその後輩を導くに於て、或はその方法を誤りはしまい乎と憂慮した。

そは兎も角吾等は新地の得月樓といふ處で宴會に招かれた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が、吾等が會場に至る頃には、壯士の面々は既に醉うて、踊り出さんとする者さへあつた。吾等は又た川狩り等にも案內せられた。予は同行の阿部充家氏と瀨江の宮地茂春氏の家に寓する事となり、阿部氏は唯一の身に着くる浴衣を盜まれたから、宮地氏の夫人、即ち板垣伯の令孃から新らしき浴衣を縫うて貰ひ之を著けた。

第二十四　東京から熊本

斯くて予は諸氏に別れて高知より大阪に赴き、京都に至り、それから東海道を四日市に、四日市から乘船して東京に赴いた。東京には明治十五年夏、秋二回の滯在中、新たに得たる友人も多かつたからそれ等の者と交際した。

猶ほ當時自由黨には築地に唯一館と稱し、壯士の本部があつた。其處にも遊びに行つたが、これと云ふ目ぼしき人物をも發見しなかつた。只だ當時予の記憶に殘つたのは、福澤諭吉翁に面會したる事である。

×　×　×

これは予の從兄江口高廉に伴はれて赴い

愛弟子の一人にて、その東京府會議員に選擧せられた時には、翁の財產を借りてその資格を作つた程であると聞いてゐる。されば予が彼に伴はれて福澤翁と相見る事を得たのは、當然の事である。

予は平生福澤翁の立言に餘り多く感心せず。殊に當時翁が官民調和論を唱へ、姑息の妥協論を主張するかの如く考へられて、頗る不滿であつたから、予は出會ひ頭に、

『先生は學者として世に立たれる積り乎、政治家として世に立たれる積り乎。學者ならば千古の眞理を探明するが目的であり、政治家ならば當今の務に應するが當然であらうか、先生の所論は何れとも予には判斷しかねる』

と云つたら、福澤翁はその質問に答へず、

『貴君は書物を讀む乎』と訊いたから、

『勿論讀んでゐる』と答へた。翁は、

『孰れ貴君が書物を讀めば、追つて判るであらう』との事で、話はそれで濟んだが、歸途に江口は予に向つて、

『[illegible]の先生に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

爾來予は福澤翁と相見るの機會がなかつたが、明治二十幾年かであらう。予が芝浦の海水浴旅館に、金玉均氏と對話の節、一人の田舍爺がつかくくと入り來り、造作もなげに金玉均氏と話すを見れば、紛らひもなき福澤翁であつた。それで予は自ら名乘る必要もなく、唯だ一通りの禮をした。予が親しく福澤翁と相見たのは、此の二回であり、三回目には翁の死後、翁の宅を訪ひ、その靈に向つて一抹の香を焚いた。(再考するに福澤翁と予が會見したのは、明治十五年の夏であつた。當時予は此事を、箱根蘆の湯に於て板垣伯に語りてゐるから。)

× × ×

予は自由黨が兎角空論に流れ易く、偶ま實行に取掛るものがあれば、それは所謂直接行動にて、所謂武力に訴ふるの行動となり、改進黨が智識、財産を誇りとして、英國流の改革論を唱ふるも、何となく因循姑息。正直のところ佛蘭西流の自由黨にも、英國流の改進黨にも、何となく慊らぬ所があり、此上は只だ自分は自分だけで勉強するの外なしと考へ、一生懸命に大江義塾に在つて、講學を勉めた。

× × ×

固より予の學問と云ふものは、別段系統もなかつたが、予は學生には普通學課の外、吉田松陰の幽室文稿や、戰國策、史記などを講じ、又た英國憲法史、經濟學等は種々予が讀んだる本を種本としてそれを講義した。而して予は出來得る程度に於て專ら歴史、政治、社會、經濟、文學等、手當り次第の本を讀んだ。その中に於て最も予を益したのは、マコレーの英國史、プルタークの英雄傳と、ピートリブウィルの『デモクラシー、イン、アメリカ(Democracy in America)』趙翼の二十二史劄記等であつた。

× × ×

大江義塾の設立當初は、東萊博議を講義したが、後にはそれが何となく鼻について、あまり用ひなかつた。二十二史劄記は明治十五年田口卯吉氏に面會の頃、氏からその好書である事を聞き、書中に於て、三國志中の玄德、曹操、孫權に關する人物論などを語り聞かされ、歸途京都の竹苞樓に於て購ひ歸つた。而して正しく田口氏の言吾を欺かざるを知つた。

その外にも予を益したのは、京都同志社教授ラーネッド氏に依つて、米國からネーション、及びライブラリー・マガジンなどを購讀したる事だ。ネーションは當時が最も盛んなる時で、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

その中の特別寄書は、殊に予が愛讀する所であつた。特別寄書は、米國以外の諸大家から寄するものにて、その中にはブライス、ダイシーその他英國、佛國の有名なる大家が揃うてゐた。又たその新聞の社說及び評論は、ゴッドキン、若くはギヤリソンの手になつたものらしく、頗る卓越してゐた。ライブラリー・マガジンは、凡有る雜誌から面白く、且つ有益なる文を轉載したるものにて、田舍にある書生には最も調寶であつた。

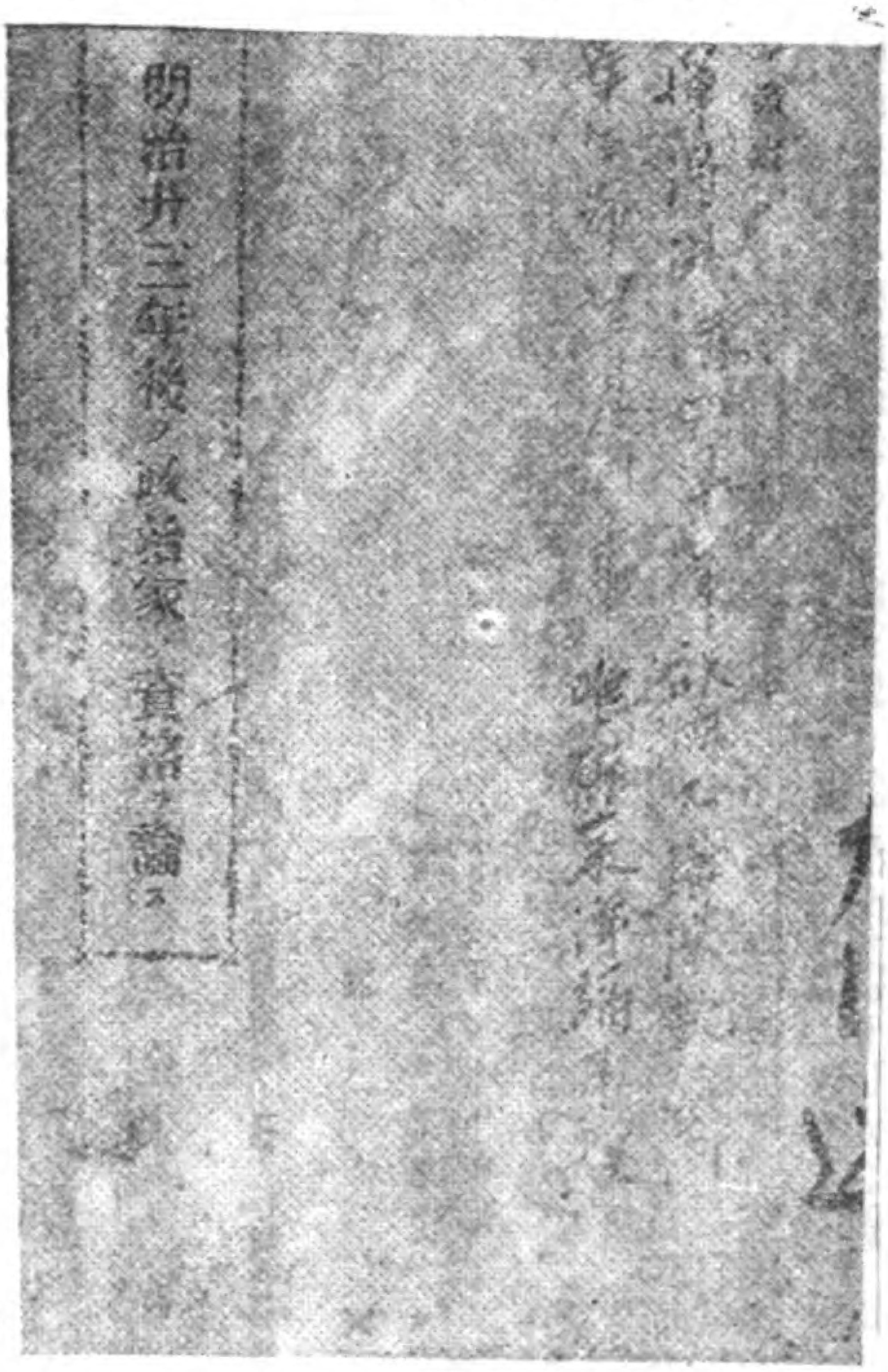
第廿五　最初の著述

予が大江義塾生活中成したる、幾多の著述は、皆なこれ等の讀書及び默想の中より出で來つたものと云ふも差支へあるまい。この間に於て予が熊本に歸つて、最初に筆をとつた東肥新

投書したが、その投書が祟をなして、遂に毎週新報は發行停止を申付けられた。毎週新報は要するに、基督教を主とする雜誌であつたが、それに激烈なる政治論を、しかも幾回となく重ねたから遂に此に至つたのであらう。

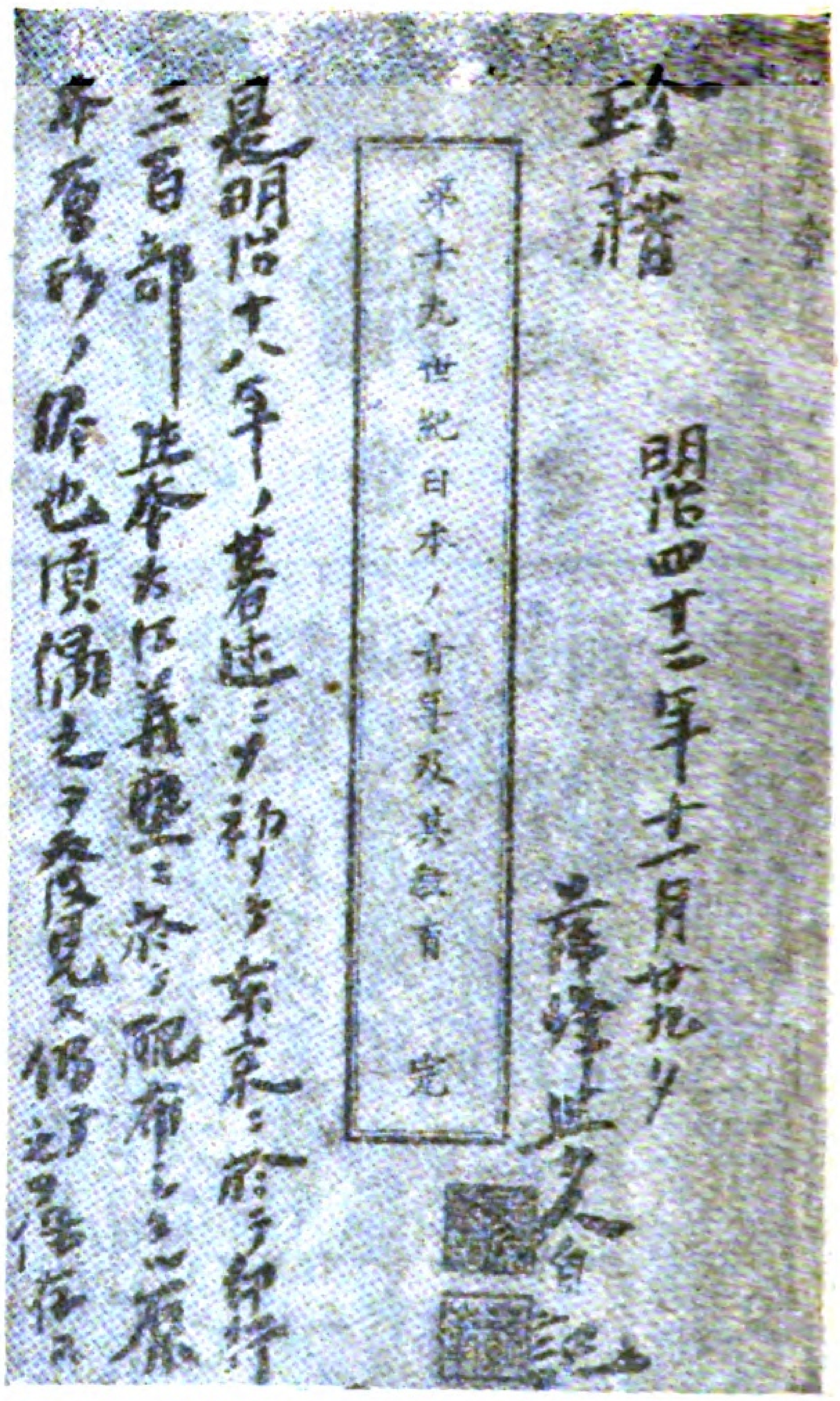
×　×　×

その他可成り予の製作もあつた。その中でも小冊子として密に刊行し、これを有志に配つたもの丶中で、その最初に出來たのが『明治二十三年後の政治家の資格を論ず』と云ふものである。今予が筆をとつて私刊したる此の小冊子



最初の著書の表紙

の空白に記したるものを見れば、『明治十五年十月の上旬、余中江氏と共に板垣君を高輪の後藤邸に訪ふ。君病んで蓐にあり。余に語て曰く、德富君よ之を一讀せられよ。是れ余が近日の議論なりと。乃ち自由新聞一



第十九世紀日本の青年及其教育の表紙

來居就之を思ひ之を思ひ、益熱矣。而して馬高禮氏英國史を讀み、愈よ大に感奮する所あり。之を筆せんと欲して不果、本年一月の初め僅少なる時間を偸み、日南――日奈久温泉――に赴き微恙を養ふを得、是に於て孤枕半夜聽風潮聲の際吟哢夕陽對江山景の時、略ぼ腹稿を構へ、歸來匆々之を成せり。』と。卽ちこの書は實に明治十七年一月に成りたるもの。然るに此書は頗る好評を博し、田口卯吉君は左の如き書を寄せ來つた。

『拜啓。此程は尊文を拜讀し轉た爽快の情を覺ゆ。嘗て拜顏を得たりしときは、唯だ思らく政治に熱心なる人のみと。何ぞ料らん又た文壇の巨擘ならんとは。維新以來文章の見る可きもの少し。尊文の如きは其比を見る能はざる也。僕嘗て徂徠の文を讀み、往日肥後に水秀才ありしを知る。水秀才早く死す。貴下請ふ自愛せよ。二十三年以後の事財政尤も注意すべきか。豫め尊慮を勞せられん事を希望する也。匆々頓首。

田口卯吉

徳富秀才机下』

×　×　×　×

斯る次第にて、最初の私刊は、乍ち配布し切つたから再びこれを印刷し、配布する事とした。予は田口氏の此の書簡に依つて、尠からざる自信力を獲得した。これは長く田口氏に向つて徳とすべきであらう。

その外明治十七年十二月には、『自由、道德、及儒教主義』なる一冊を成した。而して十八年六月には、『第十九世紀日本の青年及其教育』を成した。これが他日『新日本の青年』と改題して、世間に出で來つたるものである。これ等の著述は今日から見れば殆んど一笑にも價せぬが、當時に於ては讀者に多少の刺戟を與へたる事は、予が慚惶止む能はざる所である。

（昭和四年四月三十日民友社にて）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

臺本‖勞農國立出版所最新刊行の全集
飜譯‖吾國露文學界の最高權威廿數氏

豫約募集

ゴーリキイ全集

東京・芝・愛宕下町

改造社

振替東京八四〇二番

◆全廿四卷（四六判上製）一册壹圓廿錢◆

マキシム・ゴーリキイは革命時代を經て益その偉大さを認められた。目下執筆中の三部作「四十年」の如き其藝術的天禀と雄渾の筆力とを以て正に世界的驚歎の的となつてゐる。文壇生活三十有餘年、長篇短篇、戲曲、評論、隨筆、凡て之れ彼の燃ゆる情熱と其の數奇な運命の反映であり、各篇悉く珠玉の如き藝術品である。※

「ゴーリキイはプロレタリア藝術の最も偉大なる代表者である。彼はプロレタリア藝術のために既に多くの事を爲したが、更にもつと大きな事を仕遂げることが出來る。」

――レーニン――

※今や新氣運を孕めるわが社會、わが文壇に本全集が多大の貢獻を齎らすべきは信じて疑はず。吾社は文豪の藝術の眞を移植すべく、勞農國立出版所最新刊行の全

見よ‼ 眞に翁の藝術を傳ふべき

ゴーリキイ全集　全廿四巻總内容

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

マトヴェイ・コゼミャーキンの生涯（下）。小市民（戯曲）

第十一卷（長篇、隨筆）　湯淺芳子

幼年時代（長篇）。隨筆
（小さな町○火事○ア・エヌ・シュミット○他人○女呪師○蜘蛛○墓堀人○ユヌ・ア・ブグロフ○絞殺刑吏○試錬○習字の先生○失敗の作家○獸醫○牧者○ドーラ○内密の人々○日記より○可笑しな事○英雄○戰爭と革命に就いて○庭師○法律通○帝國主義者○ペテルブルグ型○空想○仕上げられた田地○實生活○手紙より○ミーチャ・パヴロフ○ア・ア・ブローク○序文の代りに）

第十二卷（長篇）　高野孤龍

人々の中。主人。

第十三卷（短篇集）　金田常三郎

人の誕生。流氷。グビン。ニールシカ。墓地。汽船。女。峽谷。カリーニン。彼等行く。死者。遊び事。シャモフ邸の夕。パナシュキン邸の夕。スホミャーツキン邸の夕。空色と淡灰色。書物。如何に歌を綴つたか。鳥の罪。十錢銀貨。幸福。勇士。道化者。觀客。チームカ。敏捷な男。「ストラスチ・モルダスチ」。チャングール。陽氣な男。少女と死。エルレン・デ・クールシ伯爵夫人の歌。

第十四卷（短篇集）　高橋晩成

ロマンチック。モルダワの女。少女。火事。竊盜。無頼漢。アメリカ印象記（黄色い惡魔の町○退屈の王國○「モッブ」）。イタリー物語。ロシヤのお伽噺。哀訴。物語。

第十五卷（戯曲）　熊澤復六

別莊の人々。太陽の兒等。ワッサ・ゼレズノヴア。最後のもの。

第十六卷（戯曲）　八住利雄

野蠻人。敵。奇人。ズイコフ。子供。老人。

第十七卷（短篇、回想錄）　藏原惟人

私の大學。番人。コロレンコ時代。哲學の害。初戀について。ウラヂミール・コロレンコ。カロニン・ペトロパウローフスキイ。アントン・チェーホフ。レフ・トルストイ。エム・コチュビンスキイ。レオニード・アンドレーエフ。

第十八卷（短篇集）　外村史郎

隱遁家。無責任な戀に就ての話。勇士についての話。或る小說に就ての話。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

カラモフ。逸話。稽古。空色の生活。異常なことに就ての話。

第十九卷（長篇）　米川正夫

アルタモノフ一家。（附）ゴーリキイ評傳（昇曙夢）。

第廿卷（回想錄、短篇、隨筆）　石田喜與司

ヴェ・イ・レーニン。エス・ア・トルストイ夫人に就いて。レオニード・クラシン。セルゲイ・エシェーニン。エヌ・エフ・アンネンスキイ。ガーリン・ミハーイローフスキイのこと。車掌。ケムスキイ達の母親。殺人者。標章。油蟲の事に就いて。贋造紙幣。讀者の覺書。訪問錄（ロシヤ皇帝○共和國々王の人○道德の祭司○生活の女主人○美しきフランス）。

第廿一卷
第廿二卷（長篇）　黑田乙吉

クリム・サムギンの一生（上）三部作「四十年」の第一部。

第廿三卷（長篇）　井田孝平

「四十年」第二部（上）。

第廿四卷（長篇）　上脇進

「四十年」第二部（下）。

豫約規定

□體裁　本文四六判（八ポイント二段組）一冊紙數平均約四百頁、裝幀高雅無比。

□頒布方法　全二十四卷豫約者にのみ頒つ、締切期日迄に最寄り書店又は本社へ御申込下さい。

□刊行期日　昭和四年九月第一回を刊行し爾後毎月一冊づゝ刊行し昭和六年八月を以て完結す。

□申込方法　先づ御申込みの際申込金として金八拾錢を御拂込み下さい。これは最後の月の會費にあてるのでありますから、最初の月の會費は別に御拂込みを願ひます。尙申込金は中途御解約の方へは御拂戾し致しません。（前金一時拂の方は申込金を要しません。）

□會費　（一）毎月拂壹冊に付壹圓貳拾錢、（二）一時拂全廿四卷廿八圓。

□送本料　會費の外に送本料を申受けます。壹册に付十四錢。尙書留送付を希望せらるゝ向は別に書留料十錢を御增し下さい。東京市內六錢。書留六錢。

□拂込方法　振替貯金又は郵便爲替でその月の一日迄に着金するやう御拂込み下さい。但し郵便切手代用は一割增に願ひます。

□御注意　特に遠隔の地に限り書店に申込まれたる方は其書店から運賃實費を御請求する事がありませうから宜しく願ひます。

〆切十月五日

發行所　東京芝愛宕下町　改造社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

改造社版 經濟學全集（第十一回配本）第四十一卷

現代日本經濟の研究（上）

如何なる理論・法則・學說・史實も現代日本經濟の研究とは不可分だ。本卷は經濟・財政・金融・關稅の諸問題、並に世界資本主義の一環としての日本を究明し、併せて隣邦支那との經濟關係を鮮明した現代日本のあざや

―内容―

◇戰時並に戰後に於ける我國經濟　河津暹
◇日本經濟の行詰　高橋龜吉
◇日本の財界整理　勝田貞次
◇日本の關稅問題　太田正孝
◇國際經濟と日本資本主義の現段階　鈴木茂三郎
◇支那問題の經濟的

配本濟一覽表

第一回 經濟學原理	第六回 經營經濟學
第二回 經濟學大綱	第七回 經濟學前史
第三回 日本社會經濟史	第八回 マルクス經濟學說の發展（上）
第四回 唯物史觀經濟史	第九回 商業學（上）
第五回 各國經濟史	第十回 租稅論

發行所 東京芝區愛宕下町 改造社 振替東京八四〇

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

日本探偵小説全集

全二十巻

第四回配本（二冊）

10 横溝正史集

11 長谷川伸集 山本禾太郎集

内容

横溝正史集

山名耕作の不思議な生活
ネクタイ綺譚
富籤紳士
飾窓の中の戀人
悲しき郵便屋
斷髪流行
素敵なステッキの話
鈴木と川越の話
夫婦書簡文
歸れるお類
廣告人形
川越雄作の不思議な旅館
双生児
裏切る時計
執念
路傍の人
畫室の犯罪

長谷川伸集

日本巾着切
舶來巾着切
旅に行く幽靈
掏摸の家
二本松心中
親分病
異人屋の女

山本禾太郎集

窓
童貞
小坂町事件
長襦袢
當選美人の死
ポンプの箱
閉館を命ぜられた妖怪館

配本済

第一回 谷崎潤一郎集・大下宇陀兒集
第二回 佐藤春夫集・芥川龍之介集・保篠龍緒集
第三回 江戸川亂歩集・岡本綺堂集

發行所 東京芝區愛宕下町 改造社 振替東京八四〇二

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

世界大衆文學全

第十九回配本（九月）二

幻島ロマンス

ゲール作◇野口米次郎譯（各册五十錢）

幻島それは名が語るやうに、此島民以外には誰も其存在を知らない秘密國である。物語は謎のやうな殺人事件から始まる。島の寶物箱を攫つて蒙塵したといふ王樣の行方、殺人鬼女土人が握る不思議な紙片、戀と陰謀の兩道に獰惡飽くことを知らぬ伯爵、青白い月光を浴びて王城の謎に微笑みかける老狂人、潜水艇に乘つて自ら事件の渦中に跳り入る艷麗の佳人、ヨットの快足をかりて萬難を冒し眞相探査に向ふ青年成金及び勇壯なる新聞記者、等々が經となり緯となつて、この怪奇なロマンチックな物語に更に探偵的變化を加味して稀に見る愉快な物語を織り出してゐる。

世界怪奇探偵事實物語集

本篇は歐米各國に渡つて最も怪奇な物語や、探偵苦心談等の世界的大事件を三十種精撰收錄した眞に生きた興味豐かな事實譚である。筆者は總て事件に直接關係ある人々であるから、事件の眞相や、近代人が產んだ人生の種々相を、大膽に深刻に赤裸々に鋭犀な筆刀で浮彫してゐる。

（帽子のバンド。逮捕するまで。林中の白骨。美少女の怪死體。三發の彈丸。裁斷の手。三枚の白銅。竹馬
…プ具手…。奇怪なる脫獄事件。オーキン・ムリエッタの復讐。金鎚事件。稀代の殺人鬼。アードラモン
…人毒殺事件。床下の死體。ペンジ謀殺事件。堀屋敷の殺人事
…件。妖婦。女の犯罪。

發行所　東京芝區愛宕下町　改造社　振替東京八四〇二…

四六判總絹裝（一冊四百頁乃至五百頁）◇一册壹圓（一時拂五圓八十錢）

厨川白村全集

全六巻完結す

一世を風靡せる文藝批評家、白村、厨川辰夫の現代に遺せる足跡の如何に大なるかを思へ。而も彼猶幽冥にありて不斷に現代文明の方向を指示す。その透徹せる理論、その豊かなる文藻は現代に生くる人を文化の先導者たらしめずばやまず。げに「文は人なり」とは、白村、に至りて完全に表現せらる。本社今、彼の全集を滿腔の熱意を以て現代の人士に贈る。來つて此の文藝指導の全集を繙け。

第六回配本＝第六巻 英詩選釋

本巻に收められた『英詩選釋』と『現代抒情詩選』は、今日、唯一無二の英文學鑑賞の指針として、英詩解釋の實典として、文學に志すもの、文學を愛するものによつて、此の上もなく重んぜられてゐる。（附錄＝略年譜）

既刊配本濟

第一巻 文學論（上） 近代文學十講

第二巻 文學論（下） 文藝思潮論、苦悶の象徴、最近英詩概論

第三巻 文學評論 象牙の塔を出て、十字街頭を往く

第四巻 文學評論及印象記 小泉先生そのほか、印象記

第五巻 戀愛觀及雜纂 近代の戀愛觀、雜纂

發行所 東京芝區愛宕下町 改造社 振替東京八四〇二

正宗白鳥著

現代文藝評論

四六判 總クロース 上製美本 ◇定價貳圓五十錢（送料二十四錢）

（最新刊）

冷徹白眼假借することなく何處までも嚴正に眞實を尊んだ態度は常人の取ることの出來ないもので、先づ漱石を俎上に乘せ紅葉、露伴、泡鳴、二葉亭より現代流行中堅作家まで犀利に剔抉し併せて演劇の眞髓を述べる一代の名論集である。

武者小路實篤著（最新刊）

日蓮

裝幀中川一政 四六判上製美本 ◇定價壹圓廿錢 送料十八錢

あらゆる迫害、あらゆる危險に身を曝しつゝ、眞言亡國、律國賊、念佛無間、禪天魔の大獅子吼を以て、宗教改革を絶叫した大日蓮の雄々しき姿を見よ！武者小路氏の戯曲二篇、日蓮の偉大なる信仰の力、其の終局の勝利を描いて、眞に珠玉の作、發表當時文壇に大きな……茲に新裝の下に世の

發行所 東京芝區愛宕下町 改造社 振替東京八四〇二〇番

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

前田河廣一郎著

悪漢と風景

四六判上製

定價壹圓廿錢 送料二十錢

最新刊

今や世界の視聴が金融資本の覇者米國と新興支那とに注がれつゝある時、日本のシンクレヤたる著者は二大陸に旅して、コスモポリタンの眼光に捉へし處を椽大の筆もて縦横に描き、滿腔の熱罵と皮肉の中に、生動する天地の姿を傳統日本の前に捧げた。近代都市の典型紐育を剝製にした著者のシニシズムは、一轉すれば上海の大街に響く行人の沓音に眼醒め行く大衆の跫音を想ふ。見よこの嚴正なるマルクシズムに解剖されたる新世界の態姿動向を！

内容

日本そこかしこ。不思議な殺人。脱獄囚の研究。剝製の紐育。ロビンフッド傳。近世大盜女盜傳。大きく動く支那。

正宗白鳥著
文藝評論（六版）
價一・八〇 税・二〇

勝本正晃著
文藝と法律（新刊）
價二・八〇 税・二四

谷譲次著
もだん・でかめろん
價一・二〇 税・二〇

谷譲次著
テキサス無宿
價一・五〇 税・二〇

發行所 東京芝區愛宕下町 **改造社** 振替東京八四〇二

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

改造文庫

百頁十錢（恒川義雅裝幀）

（數字(1)は拾錢(2)は貳拾錢以下之に倣ふ）
（送料(1)二錢(2)四錢(3)六錢以下之に倣ふ）

第一部

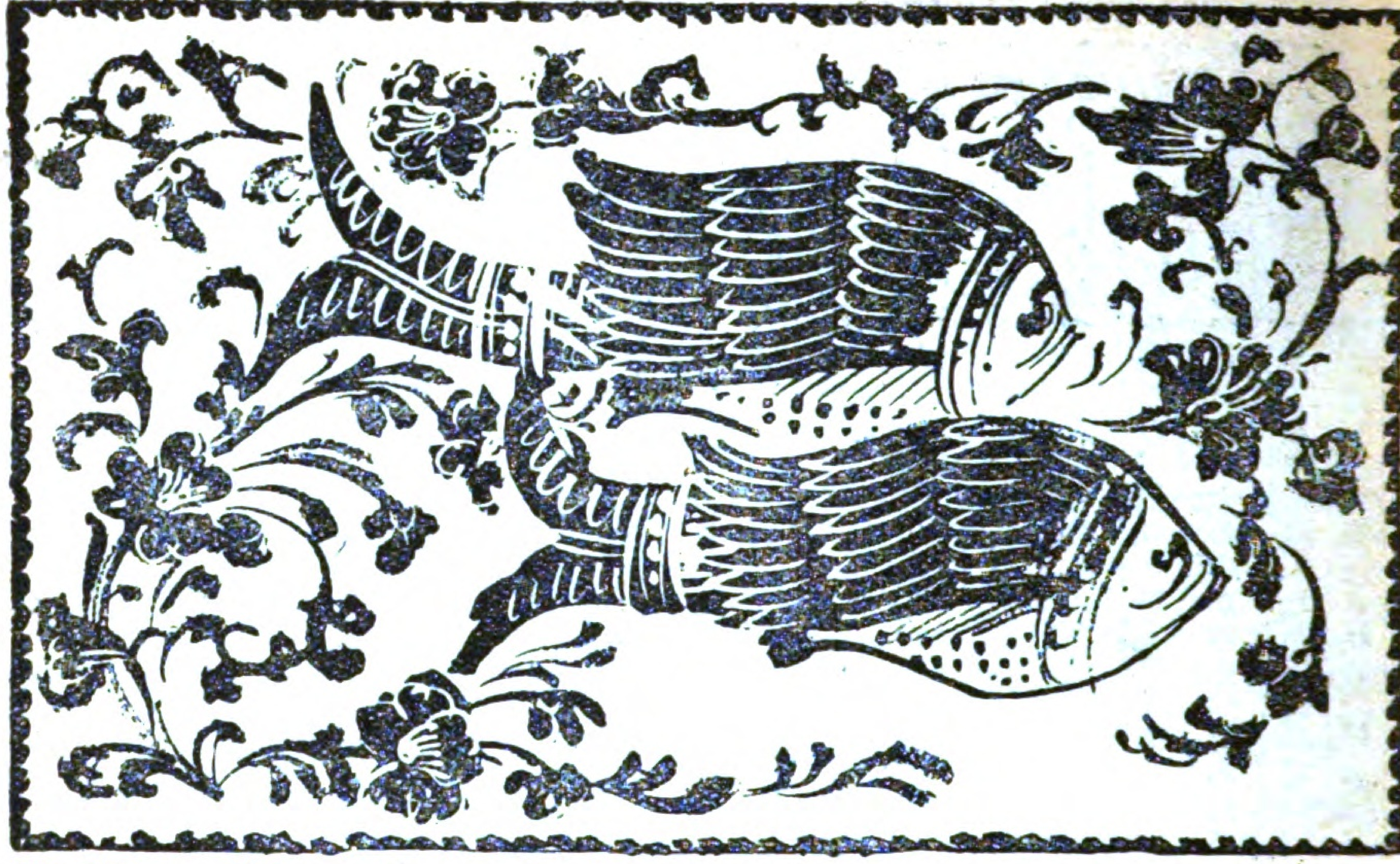
- 第十篇 社會主義の發展 エンゲルス著 堺利彥譯 (1)
- 第十一篇 マルキシズム認識論 デイツゲン著 石川準十郎譯 (1)
- 第十二篇 辯證法的唯物觀 デイツゲン著 山川均譯 (2)
- 第十三篇 哲學の實果 デイツゲン著 山川均譯 (1)
- 第十四篇 神と國家 バクーニン著 本莊可宗譯 (1)
- 第十五篇 婦人論 ベーベル著 山川菊榮譯 (6)
- 第十八篇 エミール(上卷) ルソー著 內山賢次譯 (4)
- 第十九篇 エミール(下卷) ルソー著 內山賢次譯 (4)
- 第二十篇 國家論 オツペンハイマー著 廣島定吉譯 (2)
- 第二十一篇 金融資本論 猪俣津南雄著 (4)
- 第二十二篇 日本開化小史 田口卯吉著 (1)
- 第二十三篇 日本經濟論 田口卯吉著 (1)
- 第二十四篇 日本經濟學說の要領 經濟的帝國論 瀧本誠一著 (2)
- 第二十五篇 日本商業史 橫井時冬著 (4)
- 第二十六篇 日本工業史 橫井時冬著 (4)
- 第二十七篇 經濟學の實際知識 高橋龜吉著 (2)
- 第二十八篇 リツケルト論文集 リツケルト著 (2)
- 第三十篇 女工哀史 細井和喜藏著 (4)
- 第三十二篇 社會進化と婦人の地位 ラツパポート著 山川菊榮譯 (2)
- 第三十六篇 幸德秋水集 幸德秋水著 (2)
- 第三十七篇 中江兆民集 中江兆民著 (2)
- 第三十八篇 財產起原論 レヴィンスキー著 貴島克己譯 (1)
- 第三十九篇 組織論 レーニン著 鈴木厚譯 (3)
- 第四十篇 三民主義 孫中山著 金井寬三譯 (3)
- 第四十一篇 唯一者とその所有 スティルネル著 辻潤譯 (6)
- 第四十八篇 マルキシズム國家觀 マツクス・アドラー著 山木琴譯 (5)

第二部

- 第十三篇 俳諧七部集 萩原蘿月校 (3)
- 第十四篇 蕪村七部集 萩原蘿月校訂 (2)
- 第十六篇 神皇正統記 宮地直一校註 (3)
- 第十七篇 奧の細道 芭蕉翁文集 萩原蘿月校訂 (3)
- 第三十五篇 北村透谷選集 島崎藤村編 (1)
- 第三十六篇 樋口一葉選集 樋口一葉著 (1)
- 第三十七篇 平凡 二葉亭主人著 (1)
- 第三十八篇 子規俳話 正岡子規著 (3)
- 第四十篇 坊つちやん 夏目漱石著 (2)
- 第四十一篇 草枕 夏目漱石著 (2)
- 第四十二篇 それから 夏目漱石著 (3)
- 第四十三篇 一握の砂 悲しき玩具 石川啄木著 (2)
- 第四十四篇 我等の一團と彼 雲は天才である 石川啄木著 (1)
- 第四十五篇 山陰土產その他 島崎藤村著 (2)
- 第四十六篇 作曲白秋民謠集 北原白秋著 (2)
- 第四十七篇 獄中記 オスカア・ワイルド著 神近市子譯 (2)
- 第四十八篇 厭世家の誕生日 佐藤春夫著 (1)
- 第四十九篇 日輪 橫光利一著 (1)
- 第五十篇 勞働者の居ない船 葉山嘉樹著 (1)
- 第五十一篇 海に生くる人々 葉山嘉樹著 (2)
- 第五十二篇 小公子 バアネツト著 若松賤子譯 (2)
- 第五十三篇 ホワイトファング ジヤツク・ロンドン著 堺利彥譯 (3)
- 第五十五篇 （自選歌集）朝の螢 齋藤茂吉著 (2)
- 第五十七篇 （自選歌集）川のほとり 小泉千樫著 (2)
- 第五十八篇 （自選歌集）松の芽 中村憲吉著 (2)
- 第五十九篇 （自選歌集）海山のあひだ 釋迢空著 (4)
- 第六十篇 （自選歌集）立春 木下利玄著 (2)
- 第六十二篇 （自選歌集）人間往來 與謝野晶子著 (2)
- 第六十三篇 （自選歌集）槻の木 窪田空穗著 (2)
- 第六十四篇 （自選歌集）野原の郭公 若山牧水著 (2)
- 第六十五篇 （自選歌集）原生林 前田夕暮著 (3)
- 第六十六篇 （自選歌集）空を仰ぐ 土岐善麿著 (2)
- 第六十七篇 （作曲白秋）童謠集 北原白秋著 (2)
- 第六十八篇 （作曲白秋）國民歌謠集 北原白秋著 (2)
- 第六十九篇 （作曲白秋）舞謠曲集 北原白秋著 (2)
- 第七十篇 背德者 アンドレ・ジツド著 石川淳譯 (2)
- 第七十一篇 チエホフ書簡集 內山賢次譯 (5)
- 第八十八篇 寡婦マルタ エリイザ・オルゼシユコ著 清見陸郞譯 (3)
- 第九十篇 井泉水句集 荻原井泉水著 (5)

發行所 東京芝區愛宕下町 **改造社** 振替東京八四〇二

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



持病と彈丸

横光利一

一

河へ向つて貧民窟の出口が崩れてゐた。その出口の周圍には、堆積された汚物が波のやうに續いてゐた。參木の家へ出かけたお杉は彼の歸りを見計らつて歩いて來た。影の消えた夕闇の中で、お杉の化粧は青ざめてゐた。霧が泥の上を流れて來た。眞黒な長い棺が汚物の窪みの間を動いていつた。河岸の地べたに敷かれた古靴の店の傍で、賣られる赤兒が暗い靴の底を覗いてゐた。

揚荷を渡す苦力達の油ぎつた塊りの中から、お杉は參木の歸る姿を見つけ出した。と、彼女はくるりと向き返へると、逆に狼狽て歩き出した。が、何も狼狽へることはない。彼女は彼の家を出てから十日の間に、早くも男の秘密を讀み破る鑑識を拾つて來た筈だ。それに、——彼女は夕闇の中で呼吸が俄に激しくなつた。此の次逢へば冷い參木の胸を叩き得る手腕を感じて昂然として來た筈だのに、——お杉の背中は乳房の後ろで張り始めた。彼女は數々の、、、を今は忘れて逆上した。舞ひ疲れた猿廻しの猿は泥溝の上のバナナの皮を眺めてゐた。虫歯抜きの老婆は貧民窟から虫歯を抜いて出て來る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と、舟縁に腰を降ろして銅貨の面を舐め始めた。

参木は河岸に添つてお杉の後まで近づいた。しかし、彼は前を行くお杉には氣附かなかつた。二人は平行した。お杉は意志とは反對に銅の降りた河を見た。河にはいつぱいに滿ちた舟の中で、整へられた排泄物が露出したまゝ靜に水平を保つてゐた。参木はお杉の前になつた。彼女は彼の後から彼の家まで歩かうと思つた。と、十日間の過去が、参木の知らない彼女の淫らな過去が、彼女の優しさを犯し出した。お杉は彼との肉體の間隔に、威嚇を感じた。化粧した顏が、重くなつた。希望が歩く時間に擦られていつた。愛は彼の後姿に縋つたま、沈み出した。と、お杉は通りかかつた黄包車を呼びとめると、参木の面前を驅け拔けた。

参木は車體の上で歔欷しながら搖れていくお杉を見た。瞬間、彼は新鮮な空氣の斷面を感じて直立した。彼は黄包車を呼んだ。彼は彼女の後を驅けさせた。しかし、彼はお杉を追はねばならぬ原因がどこにあるのか分らなかつた。ただ夕暮れの疲勞の上に、不意に輝いた郷愁に打たれた自分を感じると、彼は再び凋れて來た。泥溝の岸邊で、朽い、すに船がぼんやりと黑い泡の中から立つてゐた。古い街角の壁が

りかかつた支那人の肩を叩いて云つた。

「あなた、いらつしやいな、ね、ね。」

湯を賣る店頭の竈の口から、湯氣が馬車屋の馬の鬣へ流れてゐた。吊り下つた鯖のやうな乾物の谷底で、水々しい白魚の一群が、盛り上つたまま光つてゐた。

二

参木は割れた鏡の前で食事を取つた。壁には人蹟の長らく觸れぬ電話がかかり、剝ぎ忘れたカレンダーが遠い日數を曝してゐた。参木は花瓶にへし折れたまま枯れてゐる菖蒲の花の下で、芳秋蘭の記憶を忘れやうとして努力した。彼はだらりと椅子の兩側へ腕を垂れ、眼を瞑り、ただ階段の口から搖れて來る食物の匂ひに蘇く生活を感じてゐた。希望は——彼が芳秋蘭を見て以來、再び、彼の一切の希望は消えて了つた。彼は水を見詰めるやうに、彼の周圍の靜けさの中から自分の死顏を探り出した。

日本人の給仕女が退屈まぎれに貴婦人の眞似をしながら昇つて來た。窓から見える舖道の上で、豚の骨を舐めた少女の口の周圍に、背

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を燒きつける火に照らされながら、壜の中を破つて來た。ふと參木は、薄暗い面前の圓卓の隅で、瓶の中の水面を狙つてひそかに馳け昇つてゐるサイダの泡に、氣がついた。

——これは、と彼は思つた。彼は再び、芳秋蘭と一緒に揺れ上つて來た彼の會社の罷業の狀態を思ひ出した。それは單なる罷業ではなかつた。それは芳秋蘭の言葉のやうに、、、された、、の、、、する、、に對する鬪爭の一歩であつた。それは確に前進するにちがひない。それは擴大するにちがひない。それは、、と、、との、、にまで馳け上る危機を孕んで廻轉する。——彼は瓶を摑んで振つてみた。泡は、泡とは、壓迫する水の壓力を突き破つて昇騰する氣力である。參木は芳秋蘭の率ゐる支那工人の團結力が、彼の會社の末端から發生し、高重の占める組長會議を突破し、主任會議を突き拔け、部長會議を粉碎して重役會議にまで馳け上つた縱斷面を、頭に描いた。工人達の要求は、その重役會議で否決された。外部の總工會が活動した。その指令のままに動く工人達の操業は、停止された。さうして、大罷業が始つたのだ。此の海港にある邦人紡績會社の殆ど全部の工場は、今は飛び火のために苦しみ出した。やがて、日貨の排斥が行はれるであらう。英米會社は自國の販賣市場の擴張のため、その網目のやうに張られた無數の教會と合體して、支那人の團結力を煽動するにちがひない。

——しかし、ロシアは、と彼は考へた。

ロシアは英米の後から、彼らの獲得したその販賣市場に火を放つていくにちがひない。參木はやがて此の海港の租界を中心に、巻き起こされるであらう未曾有の混亂を想像した。もし芳秋蘭が殺されるなら、そのときだ。×英米三國の資本の糸で躍る支那軍閥の手のために、彼女は生命を落すであらう——

しかし參木には此の茫大な東亞の渦巻きが、茫大な姿には見えなかつた。それは彼には、頭の中に疊み込まれた地圖に等しい。彼は指に挾んだ葉巻の葉つぱが、指の間で枯れた環を弛めてゐるのを眺めながら、現實とは自分にとつて、此の枯れた葉巻の葉つぱであらうか、頭の中の地圖であらうか、と考へ出した。

三

甲谷が來ると、參木は昨夜から襲はれ續けた芳秋蘭の幻想から、漸く逃れたやうに自由になつた。參木は云つた。

「君の顏は明るい。まるで、獸だ。」

甲谷はステッキを振り上げた。が、彼は笑ひ出すと、參木を打つた。

「これでも、獸か。獸か。所が、僕は夕べからまだ人間にはなれな

いんだ。あらゆる惡事をやつて除けやうと企らんでゐるのだが、惡事をやるには、何より、先づ人間にならねば駄目だ。」
　甲谷は溜息をつきながら、參木の身體に凭りかかつた。
「どうした、參木、俺の友達は、馬鹿に萎れてゐるぢやないか。」
「萎れた、參木も駄目だ。マルキシズムの虫がついた。」
　甲谷は參木から飛び除くと、眉を立てた。
「虫か。」
「虫だ。どいてくれ。」
「君も獸より憐れな奴だね。君は人間の不幸ばかりを狙つてゐるんだ。人間が不幸になつて、どうするんだ。」
「君に不幸が分れば、マルキシズムは存在しない。マルキシズムと云ふものは、つまり人間を幸福にする機械なんだ。」
「馬鹿を云へ。人間の幸福と云ふものは、不幸な奴がゐるからこそ、幸福なんだ。われわれは不幸な奴まで幸福にしてやる資格なんて、どこにあるんだ。人間は人を苦しめてをれば、それで良ろし。俺が俺のことを考へずに、誰が俺のことを考へてくれるのだ。行かう。今夜は神さまのゐる所へ、行くんだよ。しつかり頼む。」
　二人は階段を降りた。狹い壁と壁との間の敷石に血痕が落ちてゐた。と、人氣のない庭の出口の土間の上に、支那人が殺されたまま仆れてゐた。二人は立ち停つた。轉げた西班牙ナイフの青い彫刻の周圍で血がまだ靜かな流動を續けてゐた。甲谷は死體を跨いで外へ出ると、參木に云つた。
「どうも、飛んだ邪魔物だね。問題はどこだつたのかな。マルキシズムの。」
　參木は今は甲谷の虚榮心の強さに快感を感じ出した。
「君はその手でマルキシズムをやつつけやうと云ふんだな。」
「さうだ。あんな死人を問題にしてゐちや、マルキシズムに食はれるだけさ。われわれは資本の利潤が購買力を減少させるなんて考へる單純な頭の者とは、少々人種が違ふんだ。マルクス主義者は、いつでも機械が機械を造つていくと云ふ辯證法だけは、忘れてゐるんだ。そんな原始的な機械ぢや、折角ですが、資本主義は滅びませんわ。所で、おい、あの人殺しの犯人は、俺達だと思はれやしないかい。逃げやう。」
　甲谷は黄包車を呼びとめると、參木を殘してひとり勝手に馳け出した。
「君、トルコ風呂だよ。失敬。」
　參木はひとりになると、死人を跨いだ股の下から、不意に人影が立ち上つて來さうな幻覺に襲はれた。彼は砂糖黍が綱のやうに積み上つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た街傍から露地へ折れた。ロシア人の裸身踊りの見世物が暗い暗い建物の隙間で揺れてゐた。彼は死人の血色の記憶から逃れるために、切符を買ふと部屋の隅へ蹲つた。彼の眼前で落ち込んだ舊ロシアの貴族の裸形の團塊が、豪華な幕のやうに伸縮した。三方に嵌つた鏡面の彼方では、無數の皮膚の工場が、洸々として展けてゐた。獅子の口に、啣へたゲラニヤの花が、皮膚の中から咲き出しながら、廻る襞の間を眞紅になつて流れていつた。

——參木は今は薄暗い此の街底の一隅で没落の新しい展開面を見たのである。彼らは最早や、色情を感じない。彼らは、やがて後から陸續として墜落して來るであらう人間の、新鮮な生活の訓練のために、意氣揚々として笑つてゐた。皮膚の建築、ニヒリズムの舞踏、われらの先達——參木は思はず乾杯しようとしてグラスを持つた。と、皮膚の工場は急激に屈伸すると、突然、アーチのトンネルに變化した。油を濁つた丸坊主の支那人が、舌を出しながら、そのトンネルの中を駱駝のやうに匂ひ始めた。油のために輝いた青い頭蓋の皮膚の上に、無花果の滿ちた花園が傾きながら映つていつた。上を仰ほがねばフイルムの美しさが失はれ出したのだ——再び、トンネルが崩れ出すと、參木は後を振り返つた。と、塊つた觀客の一群の顔の上に、べつたり吸ひついた吸盤のやうな動物を、彼は見た。彼は、その巨大な動物を浮き上らせた衣服の襞の中から、逆に野蠻な文明の建築を感じ出した。

四

トルコ風呂の蒸氣の中で、甲谷の身體は蒸されて來た。次のマッサージをすませたお柳の身體から、石鹸の泡が滴ると、虎斑に染つた蜘蛛の刺青が浮き出て來た。甲谷は片手で蜘蛛の足に磨きを入れながら、彼女に云つた。

「奥さん、あなたはお杉をどうして首にしたんです。」

「ああ、あの娘、あの娘は駄目なの。あなたはまだあの娘の出てゐる所も御存知ないの？」

「出てると仰言ると、つまり、出るべき所へですか。」

「ええ、さうなの。」

「おや、あなたにも、責任はあるわけですね。」

「そりや、一人前にしてやつたんだから、お禮ぐらゐはされてもいいわ。」

此の賊婦、と甲谷は思ふと、俄にお柳の刺青が生彩を放つて來た。と、ふと、彼は彼女と、どちらが誰の洗濯機かと考へた。彼は云つた。

「奥さん、あなたは、僕の身體を洗ふんですか、あなたの蜘蛛を洗ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

んですか。」

「まア、失禮ね。あたしはあなたから、お禮なんか頂いたことがありまして。」

「だから、お訊きしてるんです。これぢや、僕があなたのタヲルみたいで。」

甲谷は頰を、平手でいきなり叩かれた。彼は飛び上ると、お柳を突いた。蒸氣が音を立てて吹き出す中で、二人のいつもの爭ひが始り出した。

「奥さま、旦那さまでございます。」

ドアの外で、湯女の周章てる聲がした。お柳はシャワーを捻ると、甲谷の頭の上から、雨が降つた。

「奥さま、旦那さまが。」

「ああ、いいのよ。」

「いいんですか。」と甲谷は訊いた。

「ええ、あの人はかう云ふ所が見たくつて、それであたしにこんなことをさせてるの。ここは萬事があたしに持つて來いと云ふ所。あなたのことだつて、ちやんとあたしは主人に話してあるの。ああ、さうさう、あのね、主人が一度あなたに逢ひたいつて云つてたわ。ね、今夜これから逢つてやつて下さらない。シンガポールの話が聞きたいつて云つてるの。」お柳が出て行くと、甲谷は間もなく主人の部屋の樓上へ呼び出された。彼は階段を昇つていつた。彼を包む廊下の壁には乾隆の獻壽模樣が象嵌の中から浮き出てゐた。

甲谷は豪商のお柳の主人の錢石山に材木を賣りつける方法を考へながら、女中の指差した奥を見た。

「月明の良夜、慇懃に接す。」

ふと房前の柱にかかつた對子を讀むと、甲谷はお柳の背中の蜘蛛の色を思ひ出した。お柳は正面の八仙卓の彫刻の上で、西瓜の種を割りながら、傴僂の男と笑つてゐた。側壁に沿つて竝んだ紫檀の十景椅子の上では、重さうな大輪の牡丹の花が、匂ひを失つたまま崩れてゐた。

「さア、どうぞ、あなたはシンガポールのお方ださうで。わたしは此の通り此國の方が何より好きなもんですから、此の年になつても損ばかりしてをります。」

錢石山の傴僂の背中が、牡丹の花の上で搖れながら、笑ひ出した。甲谷は云つた。

「いや、どうも、奥さまは僕を馬鹿になさる癖がお有りですので、つひ敷居が高くなつて了ひます。」

すると、いきなり、お柳は彼に西瓜の種を投げつけると、主人の顔

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を覗き込んだ。

「あなた、お聞きになつて、この人は、かう云ふ人なんですから、御用心なさるといいわ。」

「うむ、うむ、わしも昔はさう云ふときがあつたものさ。いやなかなか若いときは面白い。シンガポールはお暑いことでございませうな。あちらのお國の方の御繁昌なことは、かねがねから受け給はつてをりますが、此の頃は？」

「いや、もう、何と云つても歐人の資本には敵ひません。それに、あちらは中國商人の張りつめた土地ですから、僅かな資本では割り込む隙がございません。」

「いや、なかなか此の頃のお國の方の御活動は、生きてをります。あなたの方はゴム園で？」

「いえ、僕の方は材木です。しかし、ゴム園にしましても、例へば歐人園は資本を社債か株式か、とにかく低利で運用してをりますが、日本の方は原價も高く、それに流通資金まで高利です。殊に配當保留の運用法にいたつては全く歐人園とは比較にはなりません。あれでは今に、開墾費用の充當さへ怪しくなつて了ひます。」

「ふむ、ふむ、しかし、お國も中國の日貨排斥でお困りのやうですから、南洋へでも喰ひ込まねば、獅の咽みたいに内臓が腐るだけでございます。ああ、さうさう、今日はまた日本紡が四つほど罷業で沈沒しましたな。いよいよこれは。」と主人は云ふと、八仙卓の角を持つたま、急にぶるぶると慄へ出した。

お柳は主人の後から立ち上ると、佝僂を抱いて寢臺の上へ連れていつた。

「一寸暫く、御免なされ。時間がやつて來ましてな。」

主人は甲谷に會釋しながら横になると、お柳の與へた煙管を銜へて眼を細めた。彼の唇が魚のやうに動き出すと、阿片がじーじー鳴り始めた。お柳は云つた。

「あなたはいかが。」

「いや、僕は駄目です。どうぞ奥さんは御遠慮なく。」

お柳は主人の傍で煙管の口を燒き始めた。甲谷は、ふと、彼ら二人が自分の視線を樂しむために、此の樓上へ呼び出したにちがひないと判斷した。すると、俄に腹が立ち始めた。何が流通資金だ、何が配當保留だ、――彼は今迄眞面目に饒舌つてゐた自分の顔に、急に穢れを感じ出した。と、二人は間もなく、恍惚とした虫のやうに、眼を細めた。お柳の豐かな髮が、青貝をちり鏤めた螺鈿の阿片盆へ、崩れ出した。佝僂の鼻が、並んだ琥珀や漢玉の隙間で黝がつた。――「月明の良夜、慇懃に接す。」甲谷の頭の中で、對子の詩文が生き生きとして來

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ると、やがて、二人の、、、、、な男女の禮節に變化し始めた。甲谷は今は、お柳との無錢の逸樂に耽つた代償を、完全に支拂はされてゐる自身に氣附かねばならなかつた。

五

宮子の踊る踊場では、宮子を圍む外人達が、邦人紡績會社の罷業について語り出した。宮子は一踊りして來ると、早や醉ひの廻り始めた彼らのテーブルに凭れながら、獨逸人の話に耳を傾けた。彼は云つた。

「いや、今度の罷業は、、の方がいけません、、、は支那工人を、るからです。いつたい、、れて、、ないのは、昔から、、方だけなんです。第一、、にとつても、外人を、、やうな人物を海外へ送り出して、それでわれわれの販賣力を獨占しようとすることからして、損失の第一歩です。これでは、、本國からの輸出品と、こちらの、、會社の製品とが衝突するだけぢやすみません。支那の工業界を刺戟して、、、製品を、追放する能力をますます培養さしていくにちがひないんです。お蔭で、幸福を感じるのは僕たちですが、いやわれわれはミセス宮子のために、諸君と共に悲しみます。」

つた。

「あなたは、僕が獨逸人だと云ふことを、御存知ないと見えますね。僕達は戰前まで、東洋に販賣市場を持つてゐたものです。所が、それを奪つたのは各國です。われわれは各國貨物が支那から排斥せられると云ふことに、興味を持つのは、これは平凡なことぢやないですか。」

「だつて、それは日本だけが惡いんぢやありませんわ。お國だつて惡いんです。」

「さう、それは獨逸だつて、充分に後悔しなければなりません。僕はアメリカ人ですが、獨逸の超人的な勢力は、最早やわれわれの會社まで壓迫しつつあるんです。」

獨逸人の眼鏡は、急にアメリカ人の方へ光り出した。

「失禮ですが、あなたはどちらの會社に御關係でゐられます。」

「僕はゼネラル・エレクトリック・コムパニーの社員ですが、あなたの方は？」

「いや、これは失禮しました。僕はアルゲマイネ・エレクトリチテート・ゲゼルシャフトの支店詰です。どうもこれは、甚だ心外な所で、敵手と乘り合せたものですね。」

二人は握手をすると、獨逸人はボーイに云つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「まア、あなた方お二人は敵同士の會社でゐらしたの。ぢや、あたしは、これからどちらへ味方したらいゝのかしら。」と宮子は云つた。

「勿論、あなたは、ヂー・イーです。」

アメリカ人の言葉を壓えるやうに、獨逸人は反對した。

「いや、そりや、是非とも僕の方でなくちやいけません。僕達獨逸人にあなたが反對すれば、第一、日本への賠償金が返りませんよ。勿論、アメリカへだつて返りません。今の所、獨逸だけは何をしたつて、いゝんです。大戰で負けた慈善が、かう云ふ所で實るのです。」

すると、アメリカ人は飲みかけたカクテルを下に置いて云ひ始めた。

「僕はあなたの仰言るやうに、獨逸へは同情を感じます。しかし、だからと云つて、あなたの會社のアー・エー・ゲーには同情を感じません。あなたの會社の此の頃のシンヂケートの發展は、寧ろわれわれにとつては憎むべき存在です。」

「いや、それは恐縮ですが、實はそれはわれわれの申上げねばならぬ苦情です。あなた方のヂー・イーこそ、マルコニー無電を買收し、ロツキー・ポイントを占領しただけで納まらず、フエデラル無電會社を支配して支那全土への放送權まで握らうとしてゐらつしやるぢやありませんか。いかゞです。」

するとアメリカ人は苦笑した。

「いや、なかなか、あなたの方の精細な御調査には滿足を感じますが、しかし、それは何かのお間違ひだと幸福です。われわれのフエデラル無電は、今は日本の三井に支那放送權を奪はれてゐるのです。もつとも、かう申し上げるのは、あなたがたアー・エー・ゲー・シンヂケートの強力さを羨望するわけではありませんが、とにかく、近來のアー・エー・ゲーの進出振りのお盛んなことは、敵ながら、天晴れだと思ひます。リンケ・ホフマン工場とは株式を交換し、ラウハンマー會社との合同出資は勿論、ラインメタル工場を併合した上、アー・エー・ゲー・リンケ・ホフマン・コンチエルンをお築きになつたのは、流石獨逸人だと常々から感動させられてゐる次第ですが、しかし、われわれはお互に、もうどちらも第二の世界大戰だけは、儉約しやうぢやありませんか。」

宮子は急に立ち上ると、二人を制して云つた。

「もう澤山。シヤンパンが來ましてよ。此の上、あたし達、ドイツとアメリカのシンヂケートで攻められては、踊ることも出來ないわ。」

「さう、さう、われわれは、闘ひよりも踊るべしだ。」

アメリカ人は抜かれたシヤンパンを高く上げると云つた。

「われらの敵、アルゲマイネ・エレクトリチテート・ゲゼルシヤフト(

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

隆盛のために。」

　獨逸人は立ち上つた。

「われらの尊敬の的、ゼネラル・エレクトリツク・コムパニー、萬歳。」

が、ふと彼は、頭の上の電球を仰ぐと云つた。

「これは、僕の會社の電球だ。萬歳。」

　アメリカ人は暫く彼と同様に天井を仰いでゐた。が、忽ち、上げてゐる獨逸人の手を引き降ろした。

「君、これは、ヂー・イーだ。われわれの會社の電球だ。ゼネラル・エレクトリツク・コンパニー、萬歳。」

「何に、これは、アー・エー・ゲーだ。エミール・ラテナウの白熱球だ。」

「いや、これは、」

「これは、日本のマツダ、ランプよ。」と宮子は云つた。

　二人は上げかけた兩手をそのまゝに、天井を見詰めたまゝ默つてゐた。と、突然、アメリカ人は叫び出した。

「さうだ、これは、三井のマツダだ。われらゼネラル・エレクトリツ
日本代理店、マツダ・ランプ、萬歳。」
出した踊りの環

延び出しながら、呟いた。

「日本代理店、ふむ、日本代理店はアー・エー・ゲーにだつて、ひかへてゐるんだ。大倉コムパニーを知らんのか。大倉コムパニーは、ロンドンで、ロンドンで、調印したんだ。」

　が、宮子の視線は、俄にアメリカ人の肩の上で、動搖した。と、棕櫚の陰で、憂欝な參木の顏が沈んでゐた。

六

踊りがすむと、宮子は參木の傍へ腰を降ろして彼に云つた。

「あなた、どうしてこんな所へいらしつたの。お踊りなさいな。ここは、あなたなんかのいらつしやる所ちやなくつてよ。」

「そこを、どいてくれ給へ。」と參木は云つた。

「だつて、ここをどいたら、あたしの戀人の顏が見られるわ。」

「僕はあの女を見てるんです。」

「ああ、容子さん。刺されてよ。危いから、こつちを向いてらつしやい。あの人はあたしのやうに、開けてやしないわよ。」

「もう默つて向うへいつてくれ給へ。今夜は僕は考へごとをしてるん
から、煙草をとつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「だつて、あたしだつて、あなたのお傍にゐたいんだわ。もう暫くここにかうしてゐさせて頂戴。」

「もう直ぐここへ、甲谷がやつて來るでせう。そしたら、またここへ來てくれ給へ。あの男と君が結婚するまでは僕は君とは、話さないことにしてるんです。」

「まア、御苦勞なことだわね。あたしはあなたと結婚するまでは、甲谷さんとは話さないことにしてゐたの。どうぞ、甲谷さんには、あなたから宜敷く仰言つといて。」

「僕は冗談を聞きに來たんぢやありませんよ。僕は今夜は、死ぬ前に、一つ良いことをしとかうと思つて來たんだから、君に、頼む、僕の云ふことを聞いといてくれ給へ。」

「そりや、あたしからのお願ひよ。甲谷さんとは、あたし、死んだつていやなんですから、あなたにくれぐれもお願ひするわ。あたし、あの方と結婚して、シンガポールなんかへいつたつて、色が眞黑になるだけだわ。」

「ぢや、もう、甲谷はあなたには駄目ですね。僕の願ひも。」

「ええ、もうそれは初めつから。あたし、甲谷さんの好きな所は、御自分のフランス語の間違ひも、御存知にならない所だけなの。あれならきつと、奥さんにおなりになる方だつて、お幸せにちがひないわ。」

參木は宮子の皮肉が不快になると、横を見た。並んだ踊子達の膝の上を、一握りのチョコレートが華やかな騒ぎを立てて走つていつた。

「あなた、今夜はあたしと踊つて頂戴。あたし、つくづく此の頃、生きてるのがいやになつたの。あたし、どうして踊子なんかになつたんでせう。あたし、死ぬ前にあなたと一度、結婚がしてみたいの。それも一度よ。」

「君も、もうすることがなくなつたと見えますね。僕を掴まへてそんなことを云ふやうぢや、そりや危ない。」

「さう、危ないわ。あたしは自分と同じやうな人を見つけると、恐ろしくつて慄へて來るの。あなたももうお氣をつけてらつしやらないと、危くつてよ。顔に出てるわ。」

參木は急所を刺されたやうにますます不快になると、眉を顰めた。

「もう、向うへいつてくれ給へ。同じ人間が二人ゐちや、辷るだけだ。」

「だつて、もうかうなれば、同じことだわ。あなた、おかしくなつたら、あたしに云つて、ね、あたし、いつでもあなたのお相手してよ。嘘ぢやないわ。あたしひとりなら、まだまだぶらぶらしてるに定つてゐるの。だけど、もう、どうぶらぶらしたつて、ソーセーヂみたいで長くなつてゐるだけなの。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

参木は沁み込んで來る危險な境界線を見るやうに、宮子の顔を見詰め出した。と、彼は競子の顔を思ひ出した。だが、もう彼女は處女ではない。彼は秋蘭の顔を思ひ出した。が、彼女を見ることは死ぬことと同樣だ。いや、それより俺には何の希望の芽があるか。——

「あたし、何んだか、だんだん氷と氷の間へ辷り込んでいくやうな氣がするの。これはきつと、あんまり人の身體の間へ挾まつてばかりゐるからね。他人なんて、まるで泥みたいに見えるのよ。」

参木は舐められるやうに溶け出す自分の體を感じた。彼は云つた。

「僕は死ぬのが、何より恐いんだ。君、ひと踊りやつて來てくれ給へ。僕は見てゐる。」

「さうね、踊つたつていゝんだけど、あなた一度、あたしと踊つてよ。」

「駄目だ、踊りは。」

「だつて、ただぶらぶら足踏みさへしてゐれば、いいんぢやないの。こんな所で上手に踊つたりするものは、きつとどつか馬鹿なのよ。」

「いや、もう、君は早く何とかして來たまへ。ここにゐちや、一緒に落ち込むだけだ。あつちがいい。あつちは君の飾り場らしい。」

宮子は参木の差した外人達の塊りを振り向くと、笑出した。

「まあ、道理で、さきからぷんぷんしてらつしやつたのね。あたし、ぷんぷんされると、靴まで出なくなつて了ふたちなのよ。ぢや、さやうなら、あちらへ行くわ。ああ、さうさう、あそこに塊つてる外人達ね、あれはあなたが、此ないだ踏んだアルバムの中にゐた人たちよ。覺えといて、一番右のがマイスター・ルチウス・ウント・ブルユニング染料會社のブレーマン、それから、ほら、こちらを向いたでせう。あれはパーマースシツプビルデング・アイロン會社のルースさん。その次のは、インターナショナル・マーカンタイル・マリン・コムパニーのパースウヰツタ、その前のは、」

「もう澤山です。いづれ甲谷が可哀想になるだけです。」

「あら、だつて、あたし、ほんとに甲谷さんとは、初めから何んでもないわ。それだけは覺えといて、ね、ね。」と宮子は云ふと、獨語のパスの渦巻いた會話の中へ、背中に笑ひを立てながら歩いていつた。

と、急に、参木は芳秋蘭に逢ひたくなつた。

七

高重の工場では、暴徒の襲つた夜以來、殆ど操業は停止された。しかし、、、派の工人達は、機械を守護して動かなかつた。彼らは、、、派の指令が來ると、袋叩きにして河へ投げた。工場の内外では、、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

、、、派の宣傳ビラと、、、派の宣傳ビラとが、風の中で闘つてゐた。

高重は暴徒の夜から參木の顏を見なかつた。もし參木が無事なら、顏だけは見せるにちがひないと思つてゐた。が、それも見せぬ。——參木は工場の中を廻つてみた。運轉を休止した機械は、昨夜一夜の南風のために錆びついてゐた。工人達は默々とした機械の間で、やがて襲つて來るであらう暴徒の響のために、耳をさめてゐた。彼らは列を作つた機械の間へ鳥のやうに挾まつたまま、錆びを落した。機械を磨く金剛砂が濕氣のために、ばらばらに紙から落ちた。すると、工人達は口口にその、、派のペーパーを罵りながら、靜つたベルトの掛け返へを練習した。棉は彼らの周圍で、今は始末のつかぬ吐瀉物のやうに濕りながら、いたる所に塊つてゐた。

高重は階上から工場の周圍を見廻した。驅逐艦から閃めく探海燈が、騷亂を浮き出しながら、廻つてゐた。黑く續いた炭層の切れ目には、重なつた起重機の群れが刺さつてゐた。密輸入船の破れた帆が、眞黑な翼のやうに傾いて登つていつた。と、そのとき、炭層の表面で、檣櫓の群れが運びながら、滲み出るやうに黑々と蹲かり出した。探海燈がそれらの背中の上を疾走すると、檣櫓の波は扁平に、べたりと炭層へへばりついた。

來た——

高重は背を低めて階下へ降りやうとした。すると、倉庫と倉庫の間から、腰を潜めて駈けてゐる黑い一團が、發電所のガラスの中へ辷つてゐた。それは逞しい兇器のやうに、急所を狙つて進行してゐる恐るべき一團にちがひないのだ。

高重はそれらの一團の背後に、芳秋蘭の潜んでゐることを、既に感づいた。彼は彼らの計畫の裏へ廻つて出沒したい欲望を感じ出した。彼らは何を欲してゐるのか。ただ今は、工場を占領したいだけなのだ。——

高重は電鈴のボタンを押した。と、見渡す全工場は、眞暗になつた。喚聲が内外二ケ所の門の傍から、湧き起つた。石炭が工場を狙つて、飛び始めた。探海燈の光鋩が廻つて來ると、塀を攀ぢ登つてゐる群衆の背中が鱗のやうに浮き上つた。

高重は彼らを工場内に導き入れることの、寧ろ得策であることを考へた。這入れば袋の鼠と同樣である。外から逆に彼らを閉塞すれば、それで良いのだ。もし彼らが機械を破壞するなら、損失はやがて彼らの上に廻るだらう。——彼は階段を降りていつた。すると、早や場内へ雪崩れて來た一團の先端は、機械を守る一團と、衝突を始めてゐた。

「、、、を倒せ。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「、、、を倒せ。」

彼らは叫びながら、胸を垣のやうに連ねて機械の間を押して來た。場内の工人達は、押され出した。印度人の警官隊は、銃の臺尻を振り上げて、押し返した。格闘の群れが、連つた機械を浸食しながら、奥へ奥へと進んでいつた。と、豫備品室の錠前が、引きち切られた。場外の一團は、その中へ殺到すると、棍棒形のピッキングステッキを奪ひ取つた。彼らは再びその中から溢れ出すと、手に手に、その鐵の棍棒を振り上げて新しく襲つて來た。

「、、、を倒せ。」

「、、、を倒せ。」

彼らは精紡機の上から、格闘する人の頭の上へ、飛び降りた。木管が、投げつけられる人の中を、飛び廻つた。ハンク・メーターのガラスの破片が、飛散しながら、裸體の肉塊へ突き刺さつた。打ち合ふラッブボートの音響と叫喚に攻め寄せられて、次第に、、、派の工人達は崩れて來た。

高重は電話室へ馳け込むと、工部局の警官隊へ今一隊の増員を要求[illegible]た工場内の電燈が明るくなつ[illegible]頭の上で唸る礫を防ぎながら、叫び出した。

「警官隊だ。ふん張れ、機關銃だ。」

しかし、それと同時に、周圍の窓ガラスが、爆音を立てて崩壊した。と、その黒々とした巨大な穴の中から、一團の新しい敵群が、泡のやうに噴き上つた。彼らは見る間に機械の上へ飛び上ると、、、、、、、、、、。彼らの後から、陸續として飛び上る群衆は、間もなく機械の上で、盛り上つた。彼らは、、する目的物がなくなると、、、目がけて雪崩れて來た。

「、、、を、倒せ。」

「、、、を潰せ。」

團々と膨脹して來る群衆の勢力に、、、、派の工人達は卷き込まれた。彼らは群衆と一つになると、新らしく群衆の勢力に變りながら、逆に、、社員を襲ひ出した。、、社員は、今はいかなる抵抗も無駄であつた。彼らは印度人の警官隊と一團になりながら、群衆に追ひつめられて庭へ出た。すると、行手の西方の門から、また一團の工人の群れが、襲つて來た。彼らの押し詰つた團塊の肩は、見る間に塀を突き崩した。と、その倒れた塀の背後から、兇器を振り上げた新しい群衆が、忽然として現れた。彼らの怒つた口は、鬨の聲を張り上げると、[illegible]狼狽した。腹背に敵を受けた、、達は、最早や動く

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ことが出來なかつた。高重は仲間と共に、、、、を群衆に差し向けた。

——今に最後だ。

彼の、、にかゝつた理性の際限が群集と一緒に、バネのやうに伸縮した。と、、、の先端で、亂れた蓬髮の海が、速力を加へて殺倒した。と、同時に、印度人の警官隊から銃が鳴つた。續いて高重の、、、、が、——群集の先端の一角から、、、、、、。、、、、、。

群集は翼を折られたやうに、へたばつた。彼等は引き返へさうとした。と、後方の押し出す群れと、衝突した。彼らは圓弧を描いた二つの黑い潮流となつて、高重の眼前で動亂した。方向を失つた脊中の波と顏の波とが、廻り出した。逃げる頭が塊つた胴の中へ、潜り込んだ。倒れた塀に躓いて人が倒れると、その上に盛り上つて倒れた人垣が、暫く流動する人波の中で、黑々と停つてゐた。

、、、派の工人達は、此の敗北しかけた、、系の斷流を見てとると、再び爪牙を現はして彼らの背後から、飛びかかつた。轉がる人の上を越す足と、起き上る頭とが、同時に再び縮つて倒れると、這ひ廻つた。踏まれた蓬髮に傾いた頭が、疾風のやうに馳ける足先に蹴りつけられた。ラッピポートが、投槍のやうに飛び廻つた。不發が逃げる群集の背後から、投げつけられた。と、散大して散る群集の影が倉庫の角度に從つて變りながら、急速に塵の中から消えていつた。

工部局の機關銃隊が工場の門前に到着した時は、早や彼らの姿は一人として見えなかつた。たゞ探海燈の光鋩が空で廻る度毎に、、、が土の上から、薄黑く痣のやうに浮き上つて來るだけだつた。

八

海港からは、擴大する罷業につれて急激に棉製品が減少した。對比爲替が上り出した。金塊相場が續騰した。歐米人の爲替ブローカーの馬車の群團は、一層その速力に鞭をあてて銀行間を馳け廻つた。しかし、金塊の奔騰するに從つて、海港には銀貨が充滿し始めた。と市場に於ける棉布の購買力が上り出した。外品の拂底が續き出した。紐育とリバプールと大阪の棉製品が昻騰した。

參木は此の取引部の揭示板に表れた日本內地の好景氣の現象が、不思議であつた。、、、、、、、、、、、、逆に儲け出したのだ。それなら、支那では！支那に於ける參木の邦人紡績會社では、久しく倉庫に溜つた殘留品までが飛び始めた。

勿論、此の無氣味な好況に齊しく恐怖を感じたものは、取引部だけではなかつた。交易所では、俄に買氣が停ると、賣手がそれに代つて續出した。棉布が一齊に暴落し始めた。印度人の買占團が横行した。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しかし、海港からなほますます減少する棉製品の補充は、不可能であつた。さうして、罷業紡績會社の損失は、罷業時日と共に、漸く増進し始めた。然も、操業停止の期間内に於ける賃金支拂ひの承諾を、工人達に與へざる限り、なほ依然として罷業は續けられるにちがひないのだ――

この罷業影響としての棉製品の缺乏から、最も巨利を締めたのは、印度人の買占團と、支那人紡績の一團であつた。支那人紡績は、前から久しく邦人會社に壓迫せられてゐたのである。彼らは邦人紡績に罷業が勃發すると同時に、休業してゐた會社さへ、全力を上げて機械の運轉を開始し始めた。罷業職工内の熟練工が、續々彼らの工場へ奪られ出した。國貨の提唱が始つた。日貨の排斥が行はれた。さうして、支那人紡績會の集團は、今こそ支那に、初めて資本主義の勃興を企劃しなければならぬ機會に遭遇したのだ。彼ら集團は自國の國産を奨勵する手段として、彼らの資本の發展が、外資と平行し得るまで、ロシアをその胸中に蔽はねばならぬ運命に立ちいたつた。何ぜなら、支那資本は最早やロシアを食用となさざる限り、彼らを壓迫する外國資本の專政から脱出することは、不可能なことにちがひないのだ。支那では、かうして共産主義の背後から、此の時を機會として資本主義が馳け廻らなければならなかつた。

此の支那資本家の一團である總商會の一員に、お柳の主人の錢石山が混つてゐた。彼は日本人紡績會社に罷業が起ると、彼らの一團と共に策動し始めた。彼らは支那人紡に資金を増した。排日宣傳業者に費用を與へた。同時に罷業策源部たる總工會に秋波を用ふることさへ拒まなかつた。さうして、此の支那未曾有の大罷業が、どこからともなく押し寄せた風土病のやうに、その奇怪な翼を刻々に擴げ出したのだ。今や海港には失業者が滿ち始めた。無頼の徒が共産黨の假面を冠つて潜入した。秘密結社が活動した。

「、、、を倒せ。」

「、、を潰せ。」

「われら中國の幸福のために。」

街路の壁や、辻々の電柱や、露地の奥にまで宣單が貼られ出した。總工會の本部からは、彼らに應ぜしめる電報が、各國在留支那人に向けて飛び始めた。

此の騷ぎの中で、、ら一部の、、、、印度人警官の發砲した彈丸は、數人の支那工人の負傷者を出したのだ。その中の一人が死ぬと、海港の急進派は一層激しく暴れ出した。彼らは工部局の死體檢視所から死體を受けとると、四ヶ所の彈痕が盡く、、、、、、、の彈痕だと主張し始めた。總工會幹部と罷業工人三百人から成る一團

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

する手段として、彼らの資本の發展が、外資と平行し得るまで、ロシアをその胸中に養はねばならぬ運命に立ちいたつた。何ぜなら、支那資本は最早やロシアを食用となさざる限り、彼らを壓迫する外國資本の專政から脫出することは、不可能なことにちがひないのだ。支那では、かうして共產主義の背後から、此の時を機會として資本主義が騰らなければならなかつた。

總工會の本部からは、彼らに應ぜしめる電報が、各國在留支那人に向けて飛び始めた。

此の騷ぎの中で、、、ら一部の、、、、、印度人警官の發砲した彈丸は、數人の支那工人の負傷者を出したのだ。その中の一人が死ぬと、海港の急進派は一層激しく暴れ出した。彼らは工部局の死體檢所から死體を受けとると、四ケ所の彈痕が 書く……

が、棺を擔いで、殺人糺明のため工場へ押しかけたが、彼らはその門前で警官隊から追はれると、漸く棺は罷業本部の總工會に納められた。

、、は自身の作つた一つの死體が、次第に海港の中心となつて動き出したのを感じた。支那工人の團結心は、一個の死體のために、ますます强固に塊まり出したのだ。彼はその巧みな彼らの流動を見てゐると、それが盡く芳秋蘭の動きに見えてならなかつた。間もなく彼女は數千人の工人を引きつれて、八方に活動するにちがひない。——

しかし、見よ、と彼は思つた。

——今に、彼女が活動すればするほど、彼女に引き摺り廻される工人の群れは、餓死していくにちがひないのだ。——

總工會に置かれた死亡工人の葬儀は、附近の廣場で盛大に行はれた。參木の取引部へは、刻々視察隊から電話が來た。

——葬儀場には五百餘流の旗が立つた。

參加團體は三十有餘、無慮一萬人の會葬者あり。

この報告と同時に、別動隊からの報告も混つて來た。

——ムルメイン路三〇九、露人共產黨書記官、チエルカツソフ宅にて會合あり、集るもの、同志ボノマレンコ、宣傳部長クリウエンコ、地方共產黨員ペルソン、シプロフキー、ストヤノウイツチ、支人、クン・ヅー・ミン、及び、チヤイニーズ・メデイカル・スクールの學生多數あり。

參木に向けては、各國市場から電報が舞ひ込んだ。

——ワシントン丸、ハンブルグより出帆、棉品四百噸積込。

——リバプールよりリマ丸出發、貨物一千噸。

——ボンベイより博多丸、棉花二千八百噸、積出出帆。

——綿布三百俵、寧波學生團妨害のため、揚荷不能。

此れらの電報に混つて日本實業團體の應援電文が、續々と殺到した。

——大日本紡績聯合會。當會より數名上京。昨日外務省に交渉す——

日本工業倶樂部。外務、農商務省に警告の必要を認め、其の手

す。――

――大阪商業會議所。政府に對し、機宜の措置を執られ度き旨建議し、併せて貴地總務商會に本問解決の爲め斡旋方依賴せり――

――東京商業會議所。外務大臣に會見、政府に於ても斷乎たる措置決心にて、北京政府に對し、强硬なる抗議、その他適切なる手段を講ず。遠からず鎭壓する見込なる旨回答あり、――

參木は電文に現れた、、、、を感じると、今更ながら、芳秋蘭一派の進行に驚きを感じ出した。

九

襲撃された、、の噂が、日日市中を流れて來た。、、の貨物が掠奪されると、燒き捨てられた。、、を扱ふ支那商人が、先を爭つて共同租界へ逃げ込んだ。租界の旅館が滿員を續けて溢れ出した。租界の地價と家賃が暴騰した。、、派の支那人は檻に入れられ、獸のやうに市中を引き摺り廻された。何者とも知れぬ生首が所々の電柱にひつかけられると、鼻から先に腐つていつた。

參木は視察を命ぜられると、時々支那人に扮裝して市中を廻つた。彼は芳秋蘭を見たい欲望を堪へることに、だんだん困難を感じて來た。彼は危險區劃に近づくことによつて、急激な疲勞を感じると、彼は

めて鼻梁を壓られた獸のやうに生き生きと刺戟を感じるだけであつた。

その日は、參木はいつものやうにパーテルで甲谷と逢はねばならなかつた。彼の歩く道の上では、夏に近づく反射が激しく空氣の動搖を起してゐた。乞食の襤褸の群れを、房のやうに附着させた建物の間から、驅逐艦の鐵の尻尾が搖れてゐた。無軌道電車が黃包車の群れを追ひ廻しながら、街角に盛り上つた果物の中へ首を突つ込むと、動かなかつた。參木は街を曲つた。と、その眞直ぐに延びた街區の底で、喚く群集が詰りながら、旗を立てて流れてゐた。それは明らかに、、工場を襲つて追ひ散らされた群衆の一團であつた。彼らの長く延びた先頭は、、・の石の關門に嚙まれてゐた。

「われらの同胞を救へ。」

「檢束者を奪へ。」

群集のその長い列は、次第に嚙まれた頭の方向へ縮りながら押し寄せた。石の關門は鰐の口のやうに、群集をずるずると飲み込んだ。と、急に、群集は吐き出されると、逆に參木の方へ崩れて來た。關門からは、並んだホースの口から、水が一齊に吹き出したのだ。水に足を掬はれた旗持ちが、石の階段から轉がり落ちた。ホースの筒口が、街路の人波を掃き洗ひながら、進んで來た。停車した辻々

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の電車や建物の中から、街路へ人が溢れ出した。警官隊に追はれた群集は、それらの新たな群集に止められると、更に一段と膨脹した。一人の工人が窓へ飛び上つて叫び出した。

「諸君、團結せよ。同胞は殺されたのだ。われわれは、、、に向つて復讐しつつある。然も、われわれを壓迫するものは、×國官憲に變つて來た。彼らを倒せ。」

云ひ終ると、彼は脳貧血を起して石の上へ、卒倒した。群衆は動搖めき立つた。官憲が人人の肩の隙間を、激しい言葉のままで飛び歩いた。鞭が群衆の上で振り廻された。續いて一人の工人が建物の窓へ飛び上ると、叫び出した。

「諸君、中國を思へ。われわれは×國から、いかなる虐待をされ續けたか。彼らは中國の咽喉を締める。彼らはわれわれからパンを奪ひ、武器を奪つた。われわれ中國四億の民衆の顔を見よ。今や中國は彼らのために、餓死するであらう。然も、われらが中國のために立たんとするとき、常にわれらを妨害するものは、×國の官憲である。」

すると、近かづいた×國官憲が、彼の足を持つて引き摺り降ろした。群衆の先端で濡れてゐた鞭の群れが、官憲の身體に卷きついた。

「×國人を倒せ。」

群衆は口口に叫びながら、、、、へ向つて殺倒した。ホースの筒口から射られる水が、群衆を裂いて吹き倒した。人の波の中から街路の切石が一直線に現れた。と、礫の渦卷が、、、の頭の上で、唸り出した。高く並んだ建物の窓々から、河のやうなガラスの層が青く輝きながら、墜落した。

「×國人を倒せ、」

「外人を倒せ、」

群衆は喊聲を上げながら、再び、、、へ向つて肉迫した。爆ける水の中で、群衆の先端と、、とが、轉がつた。しかし、大廈の崩れるやうに四方から押し寄せた數萬の群衆は、忽ち格鬪する人の群れを押し流した。街區の空間は今や巨大な熱情のために、膨れ上つた。その澎湃とした群衆の膨張力は黒い街路のガラスを押し潰しながら、、、の關門へと馳け上らうとした。と、一齊に關門の銃口が、火蓋を切つた。群衆の上を、電流のやうな數條の戰慄が、馳け廻つた。瞬間、聲を潜めた群衆の頭は、突如として悲鳴を上げると、兩側の壁へ向つて捻ぢ込んだ。と、再び壁から跳ね返へされた。彼らは彈動する激流のやうに、卷き返しながら、關門めがけて襲ひかかつた。

「×國人を、倒せ。」

「×國人を。」

しかし彈丸は金屬であつた。銃聲の連續する度に、群衆の肉體は簡

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

潔に貫かれた。

参木は商店の凹んだ入口に押しつめられたまゝ、水平に高く開いた頭の上の廻轉窓より、見えなかつた。その窓のガラスには、動亂する群衆が總て逆様に映つてゐた。それは空を失つた海底のやうであつた。無數の頭が肩の下になり、肩が足の下にあつた。彼らは今にも墜落しさうな奇怪な懸垂形の天蓋を描きながら、流れては引き返し、引き返しては廻る海草のやうに、揺れてゐた。参木はそれらの廻りながら垂れ下つた群衆の中から、芳秋蘭の顔を捜し續けてゐたのである。と、彼は銃聲を聞きつけた。彼は震動を感じた。彼は跳ね起るやうに、地上の群衆の中へ延び上らうとした。が、ふと彼は、その外界の混亂に浮き上つた自身の重心を、輕蔑した。持病の外界との闘爭欲が、突然起り出したのだ。彼は逆に、落ちつきを奪ひ返す努力に緊張し始めた。彼は彈丸の飛ぶ速力を、見詰めやうとした。彼の前を、人波の川が疾走した。と、川と川との間で、飛沫のやうに跳ね上つた群衆が、衝突した。旗が人波の上へ、倒れかかつた。その旗の布切れが、流れる群衆の足にひつかかつたまま、建物の中へ吸ひ込まれやうとした。と、ふと彼は芳秋蘭を見た。彼女は旗の傍で工部局屬の支那、、に腕を持たれて引かれてゐた。と、忽ち流れる群衆は、参木の觀線を妨害した。彼はその波の中を突き抜けると、建物の傍へ馳け寄つた。秋蘭は、、の腕に身をまかせたまま、彼の眼前で靜に周圍の動亂を眺めてゐた。と、彼女は彼を見た。彼女は笑つた。彼は死を感じた。彼は冷たい一刀の双のやうに、躍り上ると、、、の腕の間へ身をぶち當てた。彼は倒れた。秋蘭の馳け出す足が――彼は襲ひかかつた、、、、を蹴りつけると、跳ね起きた。と、彼は銃の臺尻に突き衝つた。が、彼は新しく流れて來た群衆の中へ飛び込むと、再びその人波と一緒に流れていつた。――

それは殆ど鮮かな一閃の斷片にすぎなかつた。小銃の反響する街區では、群衆の巨大な渦巻きが分裂しながら、建物と建物の間を、交錯する彼のやうに馳けてゐた。

参木は自身が何をしたかを忘れてゐた。馳け廻る群衆を眺めながら、彼は秋蘭の笑顔の釘に打ちつけられてゐるのである。彼は激昂してゐるやうに茫然としてゐる自分を感じた。同時に彼は自身の無感動な洞穴を。――遠くの窓からガラスが瀧のやうに落ちてゐた。彼は足元で彈丸を拾ふ乞食の頭を跨いだ。と、彼は初めて、現實が視野の中で强烈な活動を續けてゐるのを感じ出した。しかし、依然として襲ふ淵のやうな空虚さがますます明瞭に彼の心を沈めていつた。彼は最早や冒すべき自身の何事もないのを感じた。と、幾度となく襲つては退いた死への魅力が、煌めくやうに彼の胸へ滿ち始めた。彼はうろうろ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

周圍を見廻すと、街路の眞中に立ち停つて放尿した。死人の靴を奪つてゐた乞食が、跳ね返る水に眼を打たれて飛び上つた。參木は銅貨を摑んで遠くの死骸の上へ投げつけた。乞食は敏捷な鼬のやうに、死骸や負傷者を飛び越えると、散らばつた銅貨の上を這ひ廻つた。彼は死と戯れてゐる二人の距離を眼で計つた。と、彼は外界に抵抗してゐる自身の力に、朗らかな勝利を感じ彼は死が錐のやうな鋭さをもつて迫るのをひしひし皮膚に感じると、再び銅貨を摑んで滅茶苦茶に投げ續けた。乞食は彼との距離を半徑にして廻り出した。彼は擴がる彼の意志の圓周を、跳躍する街路の、底から感じると、初めて斬られるやうな快感にしびれ出した。と、彼は今は自身の最後の瞬間へと辷り込みつつある速力を感じた。彼は眩惑する圓光の中で、次第にきりきり舞ひ上る透明な戰慄に打たれながら、にやにや笑ひ出した。すると、不意に彼の身體は、後ろの群衆の中へ引き摺られた。彼は振り返つた。と、

「ああ、」と彼は叫んだ。

彼は秋蘭の腕に引き摺られてゐたのである。

「さア、早く、お逃げになつて、」

參木は秋蘭の後に從つて駈け出した。彼女は建物の中へ彼を導くと、エレベーターで五階まで馳け昇つた。二人はボーイに示された一室へ這入つた。と、秋蘭は彼をかゝへると、いきなり激しい呼吸を迫らせて接吻した。

「ありがたうございましたわ。あたくし、あれから、もう一度あなたににお眼にかゝれるにちがひないと思つてをりましたの。でも、こんなに早く、お眼にかゝらうとは思ひませんでした。」

參木は次から次へと爆發する眼まぐるしい感情の音響を、たゞ茫然として聞いてゐたにすぎなかつた。秋蘭は忙しさうに窓を開けると下の街路を見降ろした。

「まア、あんなに×國の官憲が。御覽なさいまし、あたくし、あそこであなたにお助けしていたゞいたんでございますわ。あなたを狙つてゐた、、が發砲したのも、あそこですの。」

參木は秋蘭と並んで下を見た。壁を傳つて昇つて來る硝煙の匂ひの下で、群衆は最早や最後の一團を街の一角へ吸ひ込ませてゐた。寂寥な機關銃の眞中が、血痕やガラスの破片を踏みながら、その穴の開いた靜かな街區の底を辷つていつた。

參木は彼の鬪爭してゐたものが、たゞその眞下で冷然としてゐる街區にすぎなかつたことに氣がついた。と、彼は自身の痛ましい愚かさに打たれると、惡寒を感じて身が慄へた。

參木は彈力の消え盡した眼で秋蘭の顏を見た。それは蟻のやうであつた。彼は彼女が彼に與へた接吻の密度を思ひ出した。しかし、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

それは何かの間違ひのやうに空虚な感覺を投げ捨てゝ飛び去ると、彼は云つた。

「もう、どうぞ、僕にはかまはないで、あなたのお忙ぎになる所へいらつして下さい。」

「ええ、有りがたうこさいます。あたくし、今は忙がしくつてなりませんの。でも、もう、あたくしたちの集る所は、今日は定つてをります。それより、あなたは、今日はどうしてこんな所へお見えになつたんでございます。」

「いや、たゞ僕は、今日はぶらりと來てみたゞけです。しかし、あなたのお顔の見える所は、たいてい僕には想像が出來るんです。」

「まア、そんなことをなさいましては、お危うございますわ。これからは、なるだけどうぞ、お家にゐらして下さいまし。今はあたくしたちの仲間の者は、、、の方には何をするかしれません。でも、今日の工務局官憲の發砲は、、、の方にとつては、幸福だつたと思ひますの。明日からは、きつと中國人の反抗心が×國人に向つていくにちがひありません。それにもう直ぐ、工務局は納稅特別會議を召集するでございませう。工部局提案の關稅引上げの一項は、中國商人の死活問題と同樣です。あたくしたちは極力これを妨害して流會させなければなりませんの。」

「では、もう、、工場の方の問題は、このまゝになるんですか。」

「ええ、もうあたくしたちにとつては、罷業より×國の方が問題です。今日の工部局、、の發砲を默認してゐては、中國の國辱だと思ひますの。武器を持たない群集に發砲したといふことは、發砲理由がどんなに完全に作成されようとも、×國人の敗北に定つてゐます。御覽なさいまし、まア、あんなに血が流されたんでございますもの。今日は此の下で、幾人中國人が殺害されたか知れませんわ。」

秋蘭は窓そのものに憎しみを投げつけるやうに、窓を突くと部屋を歩いた。參木は秋蘭の切れ上つた眦から、遠く隔絶した激情を感じると、同時にますます冷たさの極北へ移動していく自身を感じた。と、急に秋蘭の興奮した顔が、屈折する爽やかなスポーツマンの皮膚のやうに美しく見え始めた。彼は今は秋蘭の猛々しい激情に感染ることを願ひ出した。彼は窓から下を覗いてみた。――なるほど、血は流れたまゝに溜つてゐた。しかし、誰が彼らを殺したのであらうか。彼は支那人を狙つた支那警官の銃口を思ひ出した。それは、確に×國工部局の命令したものに違ひなかつた。だが、それ故に支那を侮蔑した怪漢が、支那人でないと、どうして云ふことが出來るであらう。

參木は云つた。

「僕は、今日の中國の人々には御同情申し上げるより、仕方がありま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

せん。しかし、それにしましても、×國官憲の狡さには。」

彼は默つた。彼は支那人をして支那人を銃殺せしめた工部局の意志の深さを嗅ぎつけたのだ。

「さうです、×國工部局の老獪さは、今に始つたことぢやございませんわ。數へ立てれば、近代の東洋史は×國の罪惡の滿載で、動きがとれなくなつて了ひます。幾千萬と云ふ、、、に飢餓を與へて殺したのは、×國の經濟政策です。あたくしたち中國に阿片を流し込んで不具者にしたのも、×國です。ペルシヤも印度もアフガニスタンも馬來も、中國を毒殺するために×國に使用されてゐるのと同樣です。あたくしたち中國人は今日こそ×國に、、、しなければなりませんわ。」

憤激の頂點で、獨樂のやう廻につてゐる秋蘭を見てゐると、參木は自身の面上を撫で上げられる逆風を感じて、横を見た。が、ふと彼は、彼女をしてここでひそかに忿懣を爆發せしめてゐることが、やがて彼女に沈着な活動を與へるための、休息をさせつつあると云ふことに氣がついた。彼は云つた。

「僕は先日、中國新聞のある記者から聞いたのですが、ここの×國陸戰隊を弱めるために、最近ロシアからは數百人の最も有毒な春婦が輸送されたと云ふことです。此の話の眞僞はともかくとしましても、僕は老獪さの裏を流れる此の老猾さには敬意を表すべきだと思つてゐます。僕は中國の人々が、×國と鬪ふためには、先づ何よりも此れ以上の老獪さに對する鍛錬が、必要だと思ひます。勿論、僕がから申し上げるのは、今日行はれたこの流血の慘事に對するあなたの公憤を、妨害するためではありません。僕はただいかなる老獪なことと雖も、もしそれが老獪であればあるほど、その老獪さを無用ならしめるがごとき新しい科學的精神の進行を、自身の中に感じなければならないと思つてゐるだけです。しかし、これも實はただ僕がマルキシズムとどれほど鬪つたかと云ふことを證明するだけで、いや、つまり、僕の云ふことは皆出鱈目で、實の所、僕はただあなたを愛してゐるだけだと云ふことになるんですが、とにかく、何か云ふべきときには、少しは發音をしなければならないと云ふ習慣に從つたまでの話です。ここらあたりであなたはもう僕を饒舌らさずに歸つて下さるといいんですが、これ以上僕が饒舌れば、何を云ひ出すか知れない不安を感じます。どうぞ、もしあなたが僕に何にか好意らしいものを持つてゐて下さるなら、今ここで、歸つて下さい。僕があなたにお逢ひしてると、ますますあなたとは反對に死にたくなるだけです。いつたい、死んで何にになるんです。」

啞然としてゐる秋蘭の顏の中で、流れる秋波が分裂した。彼女の均衡を失つた唇の片端で、過去愛慾の片鱗が、痙攣しながら出沒し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。と、彼女は彼に近づくと、その睫に苦悶を伏せて接吻した。彼女は秋蘭の唇から、彼女の愛情よりも、輕蔑を感じた。彼は云つた。

「さア、もう、どうぞ、僕を憐れまずに、歸つて下さい。あなたは速力を愛しなければいけません。」

「あなたはニヒリストでいらつしやいます。あたくしたちが、もしあなたのやうなことに頭を用ひ出したら、ただ負かされることだけに興味を感じてゐなければなりませんわ。」

「いや、誤解なさらんやうに、僕はあなたを引き摺り降ろさうと企らんでゐるんぢやありません。ただどうしたことか、から云ふ所であなたと御一緒になつて了つたと云ふだけです。これはあなたにとつては御不幸ですが、僕にとつては幸福です。しかし、その幸福さへも追ひ出さうと企らんでゐる僕の苦心にまで、あなたが干渉なさるとは、斷じてあなたは出來ますまい。どうぞ、早く、歸つて下さい。」

參木はドアを開けた。

「では、今日はあたくし、このまま歸らせていただきます。でも、もう、これであなたとお逢ひ出來ないかと思ひますわ。……度お名前をお聞き言つて下すつたことがございませんわ。」

「いや、これは、」

參木は曇つた。が、彼は笑つて云つた。

「僕は甚だ失禮なことをしてゐましたが、しかし、それは僕の近頃の上出來です。名前なんかは、僕があなたのお名前さへ知つてゐれば、結構です。どうぞ、そのまま、」

「でも、それでは、あたくし、歸れませんわ。明日になれば、きつとまた市街戰が始まります。そのときになれば、あたくしたちはどんな眼に合はされるか知れません。あたくし、亡くなる前には、あなたのお名前を思ひ出してお禮をしたいと思ひますの。」

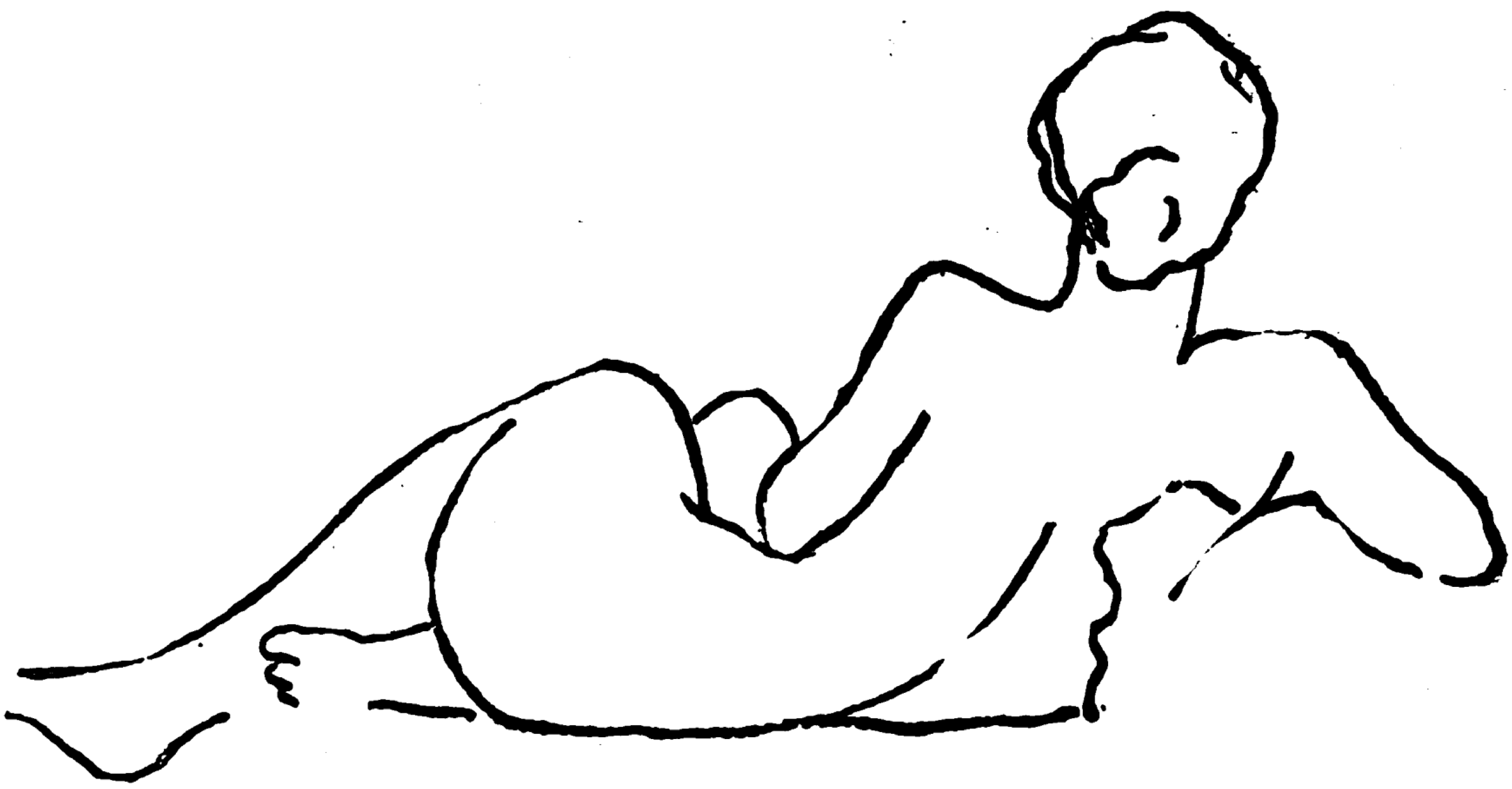
參木は突然襲つて來た悲しみを受けとめかねた。が、彼はぴしやりと跳ね返す扇子のやうに立ち直ると、默つて秋蘭の體をドアの外へ押し出した。

「では、さやうなら。」

部屋の中で、參木はいつ秋蘭の足音が遠のくかと耳を欹てゝゐる自身に氣がつくと、またまた持病の發作が起つて來た。

——或る長篇の第四篇——

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



卍（まんじ）

谷崎潤一郎

その二十一

「どうです、お姉さん、まだちよつとおよろしいですか？」「ええ、ええ、私やつたらかめしません。」「そしたら又もとの方い戻りまひよか」云うて北濱の通りから南の方い今歩いて來た道返りながら、「結局僕とお姉さんとは敵同士にさされてるのんですが、僕が負けるのんにきまつてます」云ひますよつて、「私はそない思へしません。女が男愛する云ふことは自然やけど、光ちやんと私とはなんぼ熱烈に愛し合うてたかて自然に背いてるさかい、もし孰方ぞが捨てられる云ふことになつたら私の方が捨てられます。光ちやんの家の方にしたかて、あんたには同情しやはりますやろけど、私に同情してくれる人誰もあれしません」云ひますと、「そらお姉さんのは不自然の愛ですが、その不自然と云ふ點に強味あると思ひます。何でや云うたら、異性の相手捜そ思たら僕以外にも何ぼでもあるけど、同性の相手やつたらお姉さんの代りになる人外にちよつとあれしません。そやさかい僕はいつでも捨てられるけどお姉さんは捨てること出來しません」云うて、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

――あ、さうさう、そればつかりやあれへん、同性の愛やつたらどんな男と結婚したかて、續けて行こ思たら續けて行かれる、男が何人戀つたかてそんなことちよつとも影響せえへん、そしたらお姉さんと光ちやんの愛は夫婦の愛よりも永久不變や云うて、「ああ、ああ、僕は何ちふ不仕合はせな男でせう」と、又しても例のセリフ繰り返すのんです。そいから暫く考へてて、「なあ、お姉さん」云うて、「僕、お姉さんに正直なとこ聞かして貰ひたいのんですが、光ちやんが僕を夫に持つのんと、外の男持つのんと、孰方の方お姉さんは望まれますか」云ひますよつて、そら私かてどうせ光子さん結婚しやはるのんやつたら、前から事情知つててくれる綿貫と一緒になりやはる方が都合ええのんにきまつてますさかい、そない云ひますと、「そしたら僕とお姉さんとは敵同士になる理由あれしませんやないか」云うて、もう此れからは同盟せう、そして燒き餅みたいなん燒くのん止めて、お互ひに助け合うて邪魔な目に遇は されんやうにせう。――なんせ今までは二人離れてゐたために光子さんの思ふままに利用された。そやさかい此れからはちよいちよいそうツと會ふやうにして連絡取つて行こやないか。尤もそないするのんには二人が完全に諒解し合うて、互ひの立ち場認めんといかん。光子さんの云ひぐさ眞似するのんやないけど、同性の愛と異性の愛とはまるきりたちが違ふ思たらなんにも嫉妬することあれへん。ぜんたいあんな綺麗な人たつた一人で愛そ云ふのんが間違うてる。五人も十人も崇拜する人あつたかて當り前やのんに、二人で占領する云ふのん勿體ない。それも男やつたら自分一人や、女やつたら私だけや云ふ工合に考へたら、世の中に自分等ほど幸福なもんあれへんやないか。二人ともそないに思て、その幸福をいつまでも自分等だけが握つてて外の人に取られんやうにしたらええのんや云うて、「とないです、お姉さん」云ひますよつて、「そらあんたさいその氣なら私かて約束守ります」云ひましてん。「僕、お姉さん味方になつてくれなんだら、同性愛のことばつと世間に知れ渡るやうにして、自分もあかんやうになる代り、お姉さんかてあかんやうにしてやろ思てたのんですけど、それ聞いてほんまに安心しました。光ちやんのお姉さんやつたら僕に取つてもお姉さんです。僕女きやうだい一人もないのんで、お姉さん親身の姉や思て大事にしますさかい、お姉さんもどうぞほんまの弟や思て、何でも思ひ餘ることあつたら遠慮なう打ち明けて下さいませんか。僕ちふ人間は、敵になつたらどんな恐いことでもする代り、味方になつたら命投げ出してもお姉さんのために盡します。お姉さんのお蔭で光ちやん嫁に持つこと出來たら、夫婦のことやかい後廻しにしてもお姉さんの仲取り持ちます。」「きつと、きつと、そないしてくれはる？」「きつとですとも。僕かて男です。一生お姉さ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

んの御恩忘れるやうなことせえしませんの。」――そんでとうとう、又「梅園」の前まで夢中で歩いて來てしもたのんで、そしたら今度、いつでも必要なこと出來たら「梅園」で待ち合はしまひよ云うて、堅い握手して別れましてん。

　私は一人で歸つて來る途々何や知らん胸がわくわくするぐらゐ嬉しいて、光子さんはそない私を愛しててくれる？　私の方が綿貫よりずつと愛されてる？　まあ、そんなこと、夢やないのんか？――つい昨日までは二人のために玩具にしられてる思ひ込んでたのんに、急に形勢變つてしもて、まるきり狐につままれたみたいな氣イしましてんけど、そいでも綿貫の云うたこといろいろ考へてみましたら、好きと違たらあんな騷動する筈ない云ふのんもほんまやし、そやなかつたらちやんとした男ありながら私と會ふ云ふ譯ないし、――それに、今になつてから初めごろのことだんだん思ひ出してみますと、あの觀音樣のモデルのことでやかましい噂立つた時分、光子さんかて私がどんな氣持ちでゐたか大方素振りでも察しついてたですやろし、道ですれちごた時やかいに「此の人うちに氣イあるねんなあ」思て、今に誘惑してやろと待ち設けてなさつたのんかも分れしませんねん。そない云うたら二人が始めて物云うたのんも、云ひ出したのんは私ですけど、いつでも濟ましてなさるのんにニッコリ笑ひなさつたのんで、つい釣り込まれて口きいたのんやし、裸體の姿見た時にしたかて、見せてくれ云うたのんは私ですけど、そない云はすやうに話持ちかけなさつたのんやし、――ぜんたい私、同性愛云ふ經驗今迄にあれしませんのんで、なんぼ光子さん崇拜する云うたかて、どんなことから今みたいな關係になつてしもたのんか、それにはいろいろ、夫と體質合はなんだりして生理的に不滿あつたとこい、學校であんな噂立てられたのんが反動的に作用したこともありますやろが、私にそんな可能性あること見拔いて、知らん間に暗示かけてなさつたのんかも分れしませんし、それ考へたらあのＭ家との緣談のことにしたかて口實みたいに思はれますし、――なんせ自分の仕掛けた罠い私おとしいれながら、うはべはいつも私の方から手ェ出した形にさされてた云ふ氣イしますねん。そら綿貫の云うたことかて一から十まで信用出來しませんし、あの着物取られた晩でもたしかに綿貫が指圖してたのんと違ふかしらん、○○病院から電話かかつた時にしたかて、あの男の腐綿貫でなうたら外にそんなこと頼まれる人あるかしらん云ふ工合に、疑がひ出したら腑に落ちんこともあるのんですけど、――第一子供生れる云ふこと、綿貫は知つてるのんに、なんで私に隱してなさるのんか、あんな心配さしときながら、そんな水臭いことするやなんて、やつぱり私の方が侮られてること知れたある、ひよッとしたらあないに秘密打ち明けて私と光子さ

んとの仲い水さそ云ふ氣やないのんか？　さうか今のうちは邪魔されんやうに味方につけといて、結婚したら放つてしまふつもりやないのんか？——そない思たらだんだん疑がひも濃うなつて來るのんですけど、そいから四五日たつた或日、又ろうぢの外で待ち受けてて、「ちよつと、ちよつと、……」云うて、「僕今日お姉さんに相談したいことあるのんですが、『梅園』まで來てくれませんか」云ひますよつて、一緒に附いて行きましたら、階下の腰掛の所やなしに、二階の座敷い上つて行つて、「ただ口でばつかりきやうだいの約束する云うても、お姉さんかてなかなか僕を信じる云ふ譯に行きますまいし、僕かてやつぱり何や心配ですさかい、お互ひに疑念殘らんやうに誓約書交さうやありませんか。實はそのつもりで此んなもん書いて來たのんですけど」云ひながら、懐ろから二通の證文みたいなもん取り出すのんです。……あ、さう、さう、ちよつと此れ見て下さいませ、此れがその時の誓約書ですねん。(作者註。彼女が提示した誓約書の内容は話の順序として玆に紹介する必要があるばかりでなく、こんな事件にこんな形式の書面を取り交すと云ふことが既に甚だ奇異であり、此の文案を作製した綿貫なる男の性格を想像せしむるに足るから、煩を厭はず原文のままを左に掲載するであらう。——)

誓約書

現住所　兵庫縣西宮市香櫨園××辯護士法學士柿内孝太郎妻
柿内園子
明治卅七年五月八日生

現住所　大阪市東區淡路町五丁目××番地會社員綿貫長三郎次男
綿貫榮次郎
明治卅四年十月廿一日生

右柿内園子ト綿貫榮次郎トハ其ノ各々ガ德光光子ニ對シテ有スル緊密ナル利害關係ヲ考慮シ昭和〇年七月拾八日以後左ノ條件ノ下ニ骨肉ト變リナキ兄弟ノ交リヲ締スベキコトヲ誓約シタリ

一　柿内園子ヲ以テ姉トシ、綿貫榮次郎ヲ以テ弟トス、榮次郎ハ年長ナレドモ園子ノ妹ノ夫タルベキ者ナレバナリ

二　姉ハ弟ガ德光光子ノ戀人タルノ地位ヲ承認シ弟ハ姉ト德光光子トノ、、、、ヲ承認シタリ

三　姉ト弟トハ德光光子ノ愛情ガ第三者ニ移ルコトナキヤウ常ニ結束シテ防禦シ、姉ハ弟ト光子トヲ正式ニ結婚セシムルタメニ努力シ、弟ハタトヒ結婚後トイヘドモ姉ト光子トノ既ニ確立セラ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

レタル關係ニ對シ何等異議ヲ申シ立ツルコトナシ

四　若シ兩人ノ孰レカガ光子ニ捨テラレタル場合ハ他ノ一人モソレト進退ヲ共ニスベシ、即チ弟ガ捨テラレタル時ハ姉ハ光子ト交リヲ絶チ、姉ガ捨テラレタル時ハ弟ハ光子トノ婚約ヲ破棄シ、結婚後ニ於テハ離別スベシ

五　兩人ハ他ノ一方ノ承諾ヲ經ズシテ無斷ニ光子ト逃亡シ、所在ヲ晦マシ、若シクハ情死スル等ノ行爲ヲナサズ

六　兩人ガ此ノ誓約ヲナセルコトハ光子ノ反感ヲ挑發スルコトアルベキヲ以テ發表ノ必要ニ迫ラルル迄ハ絶對ニ秘密ヲ嚴守スベシ、若シ兩人ノ孰レカガ光子ニ對シ、或ハ他ノ何人カニ對シ、發表セント欲スル時ハ豫メ他ノ一方ト協議スベキ義務アルモノトス

七　若シ兩人ノ一方ガ此ノ誓約ニ違背スル時ハ他ノ一方ヨリ有ラユル、、ヲ受クルコトアルベキヲ覺悟スベシ

八　此ノ誓約ハ兩人ノ孰レカガ任意ニ德光光子トノ關係ヲ放棄セザル限リ有効ナリトス

以　上

昭和〇年七月拾八日

姉　柿内園子㊞

弟　綿貫榮次郎㊞

（——此れだけの文句がかんぜよりで綴ぢた二枚の改良半紙へ、細い丹念な毛筆の細字で、せせこましい字配りで一點一劃の消しもなく書かれてゐるのである。二枚の半紙の四分の一以上も餘白が殘つてゐるのを見ると、こんなに細かく書く必要はないのであるが、蓋し平素からかう云ふコセコセした字を書く癖があるのであらう。書體は毛筆を使ひ馴れない現時の青年の筆蹟としては決して拙くないけれども、何處かに商店の番頭の字のやうな品の悪い達者さがある。最後の二人の署名だけは、梅園の二階で萬年筆で記したものだが、これも柿内未亡人の署名の方が不釣り合ひに字體が大きい。そして何よりも無氣味なのは、署名の下に小さな花瓣を押したやうにひろがつてゐる茶褐色の斑點であつて、同じものが半紙の綴ぢ目の割り印を捺すべき所にも二つ、、、ぽたぽたとにじんでゐる。それが、、、、以て捺された拇印であることは未亡人自らが語るであらう。——）「どうです、お姉さん、此の條件でよろしいですか？　よろしかつたら此處い名ア書いて判おしてくれませんか？　それとも何ぞ足らんとこあるお思ひになつたら、遠慮なう云うてみて下さい」云ひますよつて、「此れだけちやんときめてあつたら結構ですけど、そいでも子供生れた場合に、あんたも光ちやんも家庭が大事や云ふ氣になれしませんやろか。なんとか其處のとこもうちよつとよう考へて欲しい」云ひましたら、「それは第三に規定

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たある通り、「弟ハタトヒ結婚後トイヘドモ姉ト光子トノ旣ニ確立セラレタル關係ニ對シ何等異議ヲ申シ立ツルコトナシ」やさかい、家庭のためにお姉さん犧牲にするやうなこと絕對にあれしませんけど、子供生れる云ふことそない心配やつたら、どうでもお姉さんの氣イ濟むやうに此處い書き加へときますが、どないしたらええのんです？」云ひますのんで、「今光ちやんのお腹にある子は結婚するのんに必要やさかい、それはしやうがないとして、結婚してからは子供生まんやうにして頂戴」云ひましてん。そしたら暫く考へてて、「よろしいです、そないしませう」云うて、「どんな工合に書いときましよか、こないこないの場合もありますし、そいからこないこないの場合もありますし」と、いろいろ私の氣イつかなんだことまで考へてくれて、——その、二枚目の紙の裏のとこいペンで書いたあるのん見て下さいませ、それがその時の綿貫の書き入れた條件ですねん。（作者註。前揭の誓約書の最後の紙面に「追加條項」として下の文句が附記されてゐる。——「弟ハ德光光子ト結婚後ニ於イテハ常ニ、、ノ、、、、、、、、、、、、但シ、、、、、、、、セシムルコトアルベキヲ以テ、毎月妻ノ、、、、、、、、、、、、、、、ノ疑ヒアル時ハソノ處置ニ關スル、、、、、、、、姉ニ與フルモノトス、」——此の文句を記したあとで又ついたものらしく、更に次ぎの二箇條が規定ノ、、トイヘドモ、ソノ、、中ニ結婚シ、結婚後ナホ、、ガ可能ナル時ハ爲シ得ル限リノ手段ヲ取ルベシ、」「弟ハ妻ガ協力シテ此ノ追加條項ヲ忠實ニ履行スル保證ヲ得ルニアラザレバ、光子ト結婚スルコトヲ得ズ、」——さうして此處にも、、、、、、、、が點點と抹されてゐるのである。）——それ書いてしまふと、「こいだけ極めといたら安心です、これ讀んでみたらお姉さんの方が僕より餘つぽど有利なくらゐです、これで僕の誠意のあるとこお分りになつたでしよ」云うて、「さあ、サインして下さい」云ひますねん。そんで私、「サインするのはしてもええけど、判持つてエしません」云ひますと、「きやうだいの約束するのんに、、、では役に立てしません。お氣の毒ですけど、ちよつとば、、り、、のん辛抱してくれませんか」云うて、いやにニヤニヤ笑ひながら袂の中から、、、、、、出すのんです。

その二十二

「どうぞ此處のとこ、、して下さい、、、」云うてもほんま

です」云うてるうちにもうシッカリ

思こましたら、

だけと違ひます。きやうだいの約束する云うたら、お互ひに腕の、、、、、、、ふのんです」云うて、自分も同じやうに腕まくつて、、私の腕と一緒にそろへて、、、、、、、、、、、、、、「よろしですか、お姉さん、聲出したらいけませんで。……あれ云ふ間に濟んでしまひますよつて、眼ェつぶつてなさい」云ひますねん。「イヤや」云うたらどんな目に遭ふか分れしませんし、逃げよ思ても手頸握られてますし、、、、、、、物見たら氣が顚倒してしもて、眼ェつぶつてる間に、、、、、のんやないかと生きてる心地せえしませなんだけど、殺されたら殺された時思てあきらめてますと、肘の上のとこ、、、、、、、、、、、、、、、ぐらゐスルスルと皮の上、、、思たら、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、ぞうツとして腦貧血起しさうになりましたが、「しッかりしなさい、しッかりしなさい」云うて、自分の、、、、、、出して、兩方から、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、「さあ、お姉さんから先イ、、、下さい」云うてそれを、、、、、持つて來るのんです。そいから待つてる、、、、、、、、、、、、「此處と、此處と、此處い判おすのんです」云ひながら、自分で私の指つかんでペタペタ判おしてしまひましてん。

私は綿貫云ふ男がつくづく恐い氣イしましたのんで、正直に約束守るつもりで、その誓約書は大事に簞笥の抽き出しい鍵かけてしもといて、光子さんには濟まん思ひながら素振りにも悟られんやうにしてましてんけど、そいでも隱し事してると何處ぞヲドヲドした樣子出るのんか、明くる日不思議さうに私の顏見てなさつて、「姉ちやん何で、、、、、、したのん？」云ひなさるのんです。「ああ、此れどないして出來たのんか、ゆんべあんまり蚊ァに喰はれて、夢中で掻きむしッたんか知らん」云ひますと、「をかしいなあ、榮ちやんの、、もちやうどそれと同じもん出來てるねんわ」と、そない云はれたら、ああ、悪い事出來んもんやなあ思うて急に私の顏色變つて來ましたのんで、「姉ちやん何ぞあてに隱してるのんと違ふ？　その、、、どないして出來たのんか、ほんまのこと云うて頂戴」云ひなさつて、「隱したかて大概分つてる、姉ちやんはあてに内證で何ぞ榮ちやんと約束したことあるねんなあ？」――そら、光子さん云うたらさう云ふことには早う氣イ廻るのんで、そない圖星刺されたらもう惚けること出來しませんけど、そいでも眞つ青になりながら默つてますと、「きつとさうに違ひないやろ？　なんでそれ云うてくれへん」云うて、――だんだん聞いてみましたら、きのふ綿貫はあれから歸りに、、、、、、、、あつたところか、、、隱してたことまでコツソリ光子さんに見られてしもてて、その時から何ぞ譯あるのんやなあと思てた、そないに二人同じ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

同じとこへ、、、、あれへん云ひなさつて、「姉ちゃんはあてと柔ちゃんと孰方が大事や」とか、「隠す以上はあてに知れたらいかんことあるねんやろ」とか、しまひには私と綿貫との間にイヤなことでもあつたやうに「それ聞かんうちはどないしても歸せへん」云ひなさるのんですが、そんな時にも光子さんは一杯涙ためたなりじつと落ち着いてなさつて、恨めしさうに睨んでなさるだけですねんけど、その眼がえらい妖艶で、何とも云へんなまめかしい風情あつて、「なあ、姉ちゃん」云ひながら甘へるやうにその眼ェ使はれたら、なかなか魅力に逆らう云ふこと出來じません。それにそこまで感づかれたらいづれ一と騒ぎ持ち上ること極まつてますし、隠すだけ疑がはれること分つてますねんけど、綿貫に相談せんうちはウッカリ云ふ譯に行きませんのんで、「どうぞ明日まで待つてて頂戴」云ひますと、明日云はれることが何で今日云はれへん、人に相談して云ふぐらゐやつたら聞かいでもええ、自分にだけそうッと教せてくれたら迷惑かかるやうなことせえへん云うて、どないしても聴きなされしませんさかい、「光ちゃんそない云うけど、あんたかつてあてに隠してゐることあるやろ」云うてやりますと、「あてが何隠してる？何でも正直に云うたげるよつて、そない思ふことあつたら聞いて頂戴」云ひなさいますねん。「ふうん、きつと隠してることないなあ？」「きつとあれへん。そら隠すつもりやなうて云はなんだことあるかも知れんけど。」「あんたあてに、何ぞ體のことに就いて隠してることあるやろ？――」「何云うてるのん、姉ちゃん？」「あのなあ、いつやあんた家い來て、、出る云うて苦しかつたわなあ、あの時ほんまにお腹の中に子供あつたん？」「ああ、あの時のこと」云うて、さすがに極まり悪さうに赧い顔しなさつて、「そらあの時は姉ちゃんに會ひたうてわざとあんな眞似してん。……」「あてそんなこと聞いてるのんやあれへん。あの時はほんまに子供出來てたのんかどうか、それ知りたいねん。」「そら、出來てえへんなんだ。」「そんなら今でも出來てえへんの？」「そんなこと極まつてるやないか、なんで又それ疑がうてるのん？」「なんで云ふことないねんけど、疑がふだけの譯あるねん。」「ああ、姉ちゃん」と、その時光子さんは「もう分つてる」云ふ顔しなさつて、「姉ちゃんきつと、あて妊娠してる云ふこと柔ちゃんに云はれたのんやろなあ？ あの人きつとそんなこと云ふねん、ほんま云うたら子供生ます能力もないくせに、――」と、そない云ひなさるか思たら、一所懸命歯ア喰ひしばつて、眼に一杯たまつてた涙が急にポトポト頬べた傳てるのんです。

私はビックリしてしもつて、「何やて、光ちゃん？」云ひながら自分の耳疑がうてますと、そのあひだにもうさめざめ泣いてなさつて、實は今まで、自分のことに就いては何一つ隠してえへんけど、綿貫には

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人に云はれん秘密あつて、それ知られたら自分も恥かしいし、あの人も氣の毒な思て云はんといた。けど姉ちやんに蔭でいろいろな中傷したりするのんやつたら、もうあんな人、可哀さうなことも何んにもあれへん、自分が今みたいな女になつてしもたのんも元は云うたらあの人の罪や、自分の不仕合はせはみんなあの人の仕業や云うて、又えらい泣きなさつて、そいから綿貫ちふもん知つた時のことから始めて詳しいに話しなさつて、なんでも二年前の夏、濱寺の別莊へ行つてた時分お互ひに物云ふやうになつて、或る晩散歩に誘ひ出されて、海岸に置いたある漁船の蔭に連れて行かれて、、、、、、、、、、、。そいで夏過ぎてからも、大阪の家が近いとこにあつたさかい常時執方ぞから呼び出しては寶塚へ行つたりホテルへ行つたりしてましたら、或る時女學校時代のお友達から綿貫のことに就いて妙な噂あるのん聞いた。そのお友達云ふのんは、いつや二人が寶塚歩いてるとこ見たことあるのんで、そののち朝日會館の映畫の夕の時やつたかに、光子さんが一人で屋上庭園に出てなさつたら「徳光さん」云うて後ろから肩たたいて、「此なひだあんた綿貫さんと歩いてたなあ」と云ふのんで、「あんた綿貫さん知つてるのん？」云うたら、「うち直接には知らんけど、あの人えらいシャンや云はれて、みんなが騒ぐのんやてなあ、あんたみたいに綺麗かつたら一緒に歩いててもちやうどええけど」云うて意味ありげに笑てるさかい、そないに深い關係やない、あの時ちよつと歩いただけやと云ひ譯しなさつたら、「そない辯解せんかて、あの人やつたら誰も疑がふ筈あれへん、あんたあの人の渾名知つてる？」云ひますよつて、「知らん」云なさると、『百%安全なるステッキ・ボーイ』云ふねんし」云うてクスクス笑てるのんやさうです。それから光子さんには何の事やらさつぱり分れしませんのんで、根エ掘り葉ア掘り聞いてみましたら、綿貫云ふ人は性的に無能力者で、男性でも女性でもない中性の人間や云ふ噂ある、而もそれにはちやんとした證人あるのんや云ひますねん。

その二十三

なんでもそれ分つた云ふのんは、その光子さんのお友達の知つてる人が綿貫と相愛の仲になつてて、人頼んで結婚申し込んだところが、何んや向うの親たちがええ加減なこと云うてちよつともハッキリせえへんのんで、本人同志は眞面目に結婚望んでるさかい是非承知して下さい云うたら、榮次郎は實は譯あつて一生嫁持たさん積りです云ふのんで、だんだん調べたら、子供の時分にお多福風にかかつたのんが元で睾丸炎になつた、——私、そんなことよう知りませんけど、お醫者さんに聞きましたら、お多福風から睾丸炎になる云ふことかてある

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

やさうですなあ？ 尤もそない云ふてるだけで、ほんまは極道したのんかも分れしませんけど、兎に角そんで、、、、、、、、、、、、、、、、、、、そいからその娘さんえらい綿貫憎んでて、――そら考へたら可哀さうでもありますねんけど、そんなんやつたら人に交際求めたりイヤらしい手紙くれたりせなんだらええのんに「あんたは理想の妻や」とか何とか巧いこと云うてたばつかりやない、散歩云うたらきつと暗いとこい連れて行つて、、、したのんは、今から思たら自分がそんな性やさかいそないな事で、、、、してたのんで、つまり云うたら戀愛の假面被つて人玩具にしてたのんや。けど綿貫はさう云ふ時に「僕は結婚せん先に肉體的の關係結ぶ云ふのん罪惡や思ひます」云うて、、、、、の事せなんだのんで、しツかりした人や思て感心してたのんが向腹立つ。そいでその娘さん「どうぞ秘密にしてやつて下さい」云はれてましてんけど、口惜しまぎれにいろいろな人にしやべつたところが、外にもそんな目に遇うた人たあんとある云ふこと分つて來て、それが綿貫は、自分がえゝ男で異性に好かれる云ふことよう知つてますさかい、何處いでも女の集まりさうなとこいづうづうしいに出て行くのんで、誰でも一ぺんは引つかかりますねん。そやけどプラトニツク・ラヴや云うてどない熱烈に愛されても純潔守つてるのんで、大概のもんは人格者や云うてなほ崇拜して、何處迄でも釣られて行つて、際どいとこ迄引つ張られてから極まつてぽんと捨てられてしまふ。「ふーん、あんたかつてさうやつたのん？」「ふん、ふん、うちもそやつてん」と、そない云ふ人方方から出て來て、誰に聞いてみても同しやうに、、、、するとこ迄は行つたけどそれ以上危險になつたら妙にコソコソ逃げてしもて、そない云うたらその様子が何や知らんけつたいやつた、ほんまのプラトニツク・ラヴやつたら、、、するのんか矛盾してるのんに、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、あれやつたら何んにも純潔なことあれへん、みんな欺されてたあひだはそれに氣イつきませなんだんやか、分つてしもたら誰も彼もそない云ひ出して、その人らの捨てられた云ふのんが型に嵌まつたやうに「結婚申し込んだら、何やすうツと消えるやうに逃げられてしもた」云ひますねん。そいで中には同情する人もありましてんけど、本人はそない仰山に自分の秘密知られてる思はんと、そいから後も次ぎから次ぎい處女弄んでて、知らん人は今でも常時引つかけられてますのんで、「又ステッキさん、あんな人摑まへてるし、……」「あのステッキ・ボーイやつたら誰も羨ましいことないなあ」云うて、知つてるもんはええ笑ひ草にしてる。「うち此なひだ、徳光さんきつとまだ知らんのんやなあ思て、いつぞ云うたげよ思ててんし。うそや思ふのんやつたら誰それさんにかて誰それさんにかて聞いて御覧。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「へーえ、そんなけつたいな人！　うちまだ、、、されたことないねんけど、そしたらもう直きしられるやろか」と、光子さんはわざと空惚けて、その場アそいで濟ましてしもてから、「今日友達にこないこない云はれてんけど、ほんまやろか？」云うて、家い往んでからお梅どんに話しますと、「ほんまかうそかとうちやん知りやはれしまへんのんか？」云うて、あべこべにお梅どんから尋ねられた。――そらお梅どんにしたら、もしもそんな事あつたらそれ光子さん知らんとゐた譯ない思ふのんでせうけど、光子さんは異性に接觸する云ふこと始めての經驗ですし、それに綿貫はいつでもそんな時「子供生れたらいきませんから」云うて、、、、なことするのんで、成る程それもそやなあ思て、別に不審にもせんとゐた、そやさかい友達にそない云はれてもほんまかうそか自分には分らん、ただ自分だけは外の人と違て、、、、、、、、、、、、、何も彼も打ち明けて話なさつたのんで、お梅どんも始めてビックリして、「とうちやんとあのお方はんとやつたらあんまり揃ひ過ぎててお雛さんみたいやさかい、水さそ思てそんな惡口云ふのん違ひますやろか。誰ぞに調べて貰ふ譯に行きまへんか」云うて、そいから內證で秘密探偵に調べさしたら、性的に缺陷あるのんはやつぱり事實に違ひない云うて來たのんですねんて。尤もお多福風の結果かどうか分りませんねんけど、兎に角子供の時分からさうやつたらしいて、それがどないして探偵に知れた云うたら、光子さんとそないなる前南地で隱れ遊びしてた云ふこと突き止めて、その方面調べてみたら、くろとの女でも一ぺん綿貫に引つかかつたら大概なもん夢中になる、なんぼ男前ええとしたかてあんまりをかしい、何ぞ秘傳でもあるのんやないか云うて、一時はえらい評判になつて、「いつたい何處ええのんや」と關係あつた女たちに聞いてみても、誰も絕對に秘密しやべらん、物好きな女で「あてが探つて來てやる」云ふもんあつたにしたかて、そない云ひながら關係したらもう默つてる、そいで噂ひろがつて行つて、いろいろな方法で詮索するもん出來て來て、分つたとこでは、初めごろ綿貫は自分に缺陷ある云ふこと隱して遊んでましてんけど、そのうちに或る女が秘密嗅ぎつけた云ふのんは、その女がやつぱり同性愛の習慣あつたのんで、一人前の男やなうてもどないしたら女に愛されるか云ふこと綿貫に敎せ込んだらしい。そいから綿貫のこと「男女」やとか「女男」やとか云ふやうになつたのんやさうですが、そない云はれる時分にはぷッつり遊び止めてしもて、何處のお茶屋いも姿見せんやうになつた。――私、その探偵の報告書あとで見せて貰ひましたら、ずゐぶん細かいとこまでも行き屆いて調べられてて、そんなことが詳しいに書いてありましてん。

　そいで綿貫が隱れ遊びしてる間に、「自分かて何も悲觀すること

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

やさうですなあ？　尤もそない云ふてるだけで、ほんまは極道したのんかも分れしませんけど、兎に角そんで、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、そいからその娘さんえらい綿貫憎んでて、――そら考へたら可哀さうでもありますねんけど、そんなんやつたら人に交際求めたりイヤらしい手紙くれたりせなんだらええのんに「あんたは理想の妻や」とか何とか巧いこと云うてたばつかりやない、散歩云うたらきつと暗いとこい連れて行つて、、、したのんは、今から思たら自分がそんな時やさかいそないた事で、、、、、してたのんで、つまり云うたら戀愛の假面被つて人玩具にしてたのんや。けど綿貫はさう云ふ時に「僕は結婚せん先に肉體的の關係結ぶ云ふのん罪惡や思ひます」云うて、、、、、の事せなんだのんで、しッかりした人や思て感心してたのんが腹立つ。そいでその娘さん「どうぞ秘密にしてやつて下さい」云はれてましてんけど、口惜しまぎれにいろいろな人にしやべつたところが、外にもそんな目に遇うた人たあんとある云ふこと分つて來て、それが綿貫は、自分がええ男で異性に好かれる云ふことよう知つてますさかい、何處いでも女の集まりさうなとこいづうづうしいに出て行くのんで、誰でも一ぺんは引つかかりますねん。そやけどラトニック・ラヴや云うてどない熱烈に愛されて、大概のもんは人格者や云うてな

つて、際どいとこ迄引つ張られてから極まつてぽんと捨てられてしまふ。「ふーん、あんたかつてさうやつたのん？」「ふん、ふん、うちもそやつてん」と、そない云ふ人方方から出て來て、誰に聞いてみても同じやうに、、、するとこ迄は行つたけどそれ以上危險になつたら妙にコソコソ逃げてしもて、そない云うたらその樣子が何や知らんけつたいやつた、ほんまのプラトニック・ラヴやつたら、、、するのんか矛盾してるのんに、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、あれやつたら何んにも純潔なことあれへん、みんな騙されてたあひだはそれに氣イつきませなんだんやか、分つてしもたら誰も彼もそない云ひ出して、その人らの捨てられた云ふのんが型に嵌まつたやうに、「結婚申し込んだら、何やすうッと消えるやうに逃げられてしもた」云ひますねん。そいで中には同情する人もありましてんけど、本人はそない仰山に自分の秘密知られてる思はんと、そいから後も次ぎから次ぎい處女弄んでて、知らん人は今でも引つかけられてきますのんで、「又ステッキ

「あのステッキ

「へーえ、そんなけつたいな人！　うちまだ、、、されたことないねんけど、そしたらもう直きしられるやろか」と、光子さんはわざと空惚けて、その場アそいで濟ましてしもてから、「今日友達にこないこない云はれてんけど、ほんまやろか？」云うて、家い往んでからお梅どんに話しますと、「ほんまかうそかとうちやん知りやはれしまへんのんか？」云うて、あべこべにお梅どんから尋ンねられた。――そらお梅どんにしたら、もしもそんな事あつたらそれ光子さん知らんとゐた譯ない思ふのんでせうけど、光子さんは異性に接觸する云ふこと始めての經驗ですし、それに綿貫はいつでもそんな時「子供生れたらいきませんから」云うて、、、、なことするのんで、成る程それもそやなあ思て、別に不審にもせんとゐた、そやさかい友達にそない云はれてもほんまかうそか自分には分らん、ただ自分だけは外の人と違て、、、、、、、、、、、、、、何も彼も打ち明けて話なさつたのんで、お梅どんも始めてビックリして、「とうちやんとあのお方はんとやつたらあんまり揃ひ過ぎててお雛さんみたいやさかい、水さそ思てそんな惡口云ふのん違ひますやろか。誰ぞに調べて貰ふ譯に行きまへんか」云うて、そいから内證で秘密探偵に調べさしたら、性的に缺陥あるのんはやつぱり事實に違ひない云うて來たのんですねんて。尤もお多福風の結果かどうか分りませんねんけど、兎に角子供の時分からさうやつたらしいて、それがどないして探偵に知れた云うたら、君子さんとそないなる前南地で隱れ遊びしてた云ふこと突き止めて、その方面調べてみたら、くろとの女でも一ぺん綿貫に引つかかつたら大概なもん夢中になる、なんぼ男前ええとしたかてあんまりをかしい、何ぞ秘傳でもあるのんやないか云うて、一時はえらい評判になつて、「いつたい何處ええのんや」と關係あつた女たちに聞いてみても、誰も絶對に秘密しやべらん、物好きな女で「あてが探つて來てやる」云ふもんあつたにしたかて、そない云ひながら關係したらもう默つてる、そいで噂ひろがつて行つて、いろいろな方法で詮索するもん出來て來て、分つたとこでは、初めごろ綿貫は自分に缺陥ある云ふこと隱して遊んでましてんけど、そのうちに或る女が秘密嗅ぎつけた云ふのんは、その女がやつぱり同性愛の習慣あつたのんで、一人前の男やなうてもどないしたら女に愛されるか云ふこと綿貫に敎せ込んだらしい。そいから綿貫のこと「男女」やとか「女男」やとか云ふやうになつたのんやさうですが、そない云はれる時分にはぷッつり遊び止めてしもて、何處のお茶屋いも姿見せんやうになつた。――私、その探偵の報告書あとで見せて貰ひましたら、ずゐぶん細かいとこまでも行き屆いて調べられてて、そんなことが詳しいに書いてありましてん。

そいで綿貫が隱れ遊びしてる間に、「自分かて何も悲觀することな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

い」云ふ自信ついて、又しろとの女捜してるとこい光子さんが網に引つかかりなさつた、――これは想像ですねんけど、きつとさうに違ひないやろ云ふのんで、そんな淺ましい人間の玩具になつたこと思たら、もうもう生きてゐられん氣イして、ほんまにその時光子さんは死んでしまをか思ひなさつたさうですが、死ぬのんやつたら恨み云うてから死んでやろ云ふ覺悟しなさつて、今度目會うた時、そないいつ迄でも不自然な關係つづけてるのんイヤやさかい、正式に結婚してくれへんか、あんたさへよかつたら此方はちやんと親の許し得たあるねんし、と、そない云うたら何ちふか思て云ひなさると、「僕かて望むとこですけど今は都合惡い」とか、「もう一二年たつてから」とか、何の彼の云うて胡麻化すのんで、「あんたほんまは、何年たつても結婚出來へんのんやろ」云うてやりなさつた。そしたら急に顔の色かへて「何でです？」云ふよつて、「何でや知らん此ない此ないの譯ありますねんけど」云ひなさつて、かうなつたらうちもあんたを捨てる譯に行かんよつて、ほんまにうちを愛してるのんやつたら、一緒に死んで頂戴云ひなさつたら、そいでもまだ「そんな譯うそや」云うてましてんけど、病院の診斷書出して見せなさつたので、その時云うたら何とも云へん顔つきして、「惡かつたです、堪忍して下さい」云うて、「一緒に死にます」云ひましてんと。けどなかなか死ぬ勇氣に

ざん恨み云うてしもたら又可哀さうになつて來て、ついぐづぐづ會うてなさつた。それ云ふのんが、光子さんかて心の底ではやつぱり綿貫のええとこ忘れること出來んと、一日も長う一緒にゐてたい云ふ氣イあつたのんですやろが、綿貫の方でもそれを見て取つて、自分は今迄、自分の體の秘密知れたら、どない愛してくれてる人でもきつと自分を捨てるやろ思て隱してゐた、自分に缺陷ある云ふこと承知して愛してくれるのんやつたら、自分かて何で隱すもんか、もともと自分はこんな體になつたのんを不仕合はせやとは思ふけど、そないに重大な缺點やとも男子としての恥辱やとも思てえへん、何ぞ惡い病氣受けてこないなつた云ふのんでもなし、それで男子の資格ない云うたら、男子云ふもんのほんまの價値何處にあるのんや、男子ちふたら外に現はれた恰好ばつかりできめるのんか、そんたんやつたら男子でなうてもちよつともかめへん、深草の元政上人は男子の男子たる印あつたら邪魔になるのんで、灸すゑた云ふやないか、男子の中で一番えらい精神的な仕事した人は、お釋迦さんでも
やないか、そやさかい、
い云うた

だ愛する人に逃げられるのん心配して隠してたんや、ほんま云うたら、異性愛にしたかて子供生んだりするのん動物の愛で、精神的異性愛楽しむ人には性的缺陥やなんか問題やあれへん。……

その二十四

……はあ、そらもう綿貫ちふたら、そんな工合に議論し出したら論理間違うてる云ふこと自分にとんと分らんと、なんぼでも都合のええやうな理窟ならべて、つべこべつべこべ果てしないのんです。そいで云ひますのんに、光子さん死にやはるのんやつたら、自分かて一緒に死ぬのん躊躇せえへんねんけど、自分は死ぬだけの理由見つかれへん、ここで死んだら、ふん、あの男、性的不具者や云ふこと悲觀して死によつた云はれるのん口惜しい、自分はこれぐらゐのことで死ぬやうな意氣地なしやあれへん、なんぼでも生きてて、立派な仕事して、普通の人間よりずつと偉大な超人や云ふこと見せてやりたい、光子さんかて死ぬぐらゐな決心するのんやつたら、自分と結婚してくれたらええやないか、今も云ふ通り、自分みたいなもん夫にするのん恥や思ふのん間違うてるし、一層高尚な精神的結婚や云ふやうに考へたら、……尤もそない云うたとこで世間の奴等は理窟分らんと、いろいろな妨害するやろさかい、自分がこんな人間や云ふこと無理に此方から廣告して歩かいでもええ、一人や二人嗅ぎつける人あつたにしたかて、誰もちやんとした證據握つてるもんないねんよつて、もしもそんなこと尋ンねるもんあつたら、完全に一人前の男の役する人間や云うたて證明しい、——それが考へたらほんまに矛盾してますのんで、「ちよつとも悲觀することない、超人や」云ふぐらゐやつたら、何んにもそないに秘密にせんかて大手振つて歩いたらええのんに、何は措いても邪魔這入らんうちに無事に結婚してしまお、それが第一の目的やさかいその目的果たすためには世間欺す云ふことも已むを得ん、自分等は誰にも退け取らん云ふことお腹の中でさい承知してたら差し支へない云ひますねん。けど、世間はどうでも親たちさでそないあんじよう欺す譯に行けへん云ひなさつたら、自分の親は承知で嫁に來てくれる人あつたら、どないに結構や思ふか分れへん、反對するのんは光子さんの方の親たちだけやよつて、事情打ち明けても許してくれへんこと極まつてるのんなら、やつぱり隠しとかんといかん、光子さんさいその氣になつたら隠しとかれへん云ふことあれへん、「そんなことして分つた時どないするのん？」「分つたら分つた時のことやあれしませんか、そないなつたら堂堂と正義の立ち場說いて聽かして、絶對に外の人とは結婚せん云うて、それでも許してくれなんだら、その時こそ一人で駈落しても一緒に死んでもええことあれしませんか。」それが本人は、自分

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

い」云ふ自信ついて、又しろいとの女捜してるとこい光子さんが綱に引つかかりなさつた、——これは想像ですねんけど、きつとさうに違ひないやろ云ふのんで、そんな淺ましい人間の玩具になつたこと思たら、もうもう生きてゐられん氣イして、ほんまにその時光子さんは死んでしまをか思ひなさつたさうですが、死ぬのんやつたら恨み云うてから死んでやろ云ふ覺悟しなさつて、今度目舍うた時、そないいつ迄でも不自然な關係つづけてるのんイヤやさかい、正式に結婚してくれへんか、あんたさへよかつたら此方はちやんと親の許し得たあるねんし、と、そない云うたら何ちふか思て云ひなさると、「僕かて望むとこですけど今は都合惡い」とか、「もう一二年たつてから」とか、何の彼の云うて胡麻化すのんで、「あんたほんまは、何年たつても結婚出來へんのんやろ」云うてやりなさつた。そしたら急に顏の色かへて「何でです？」云ふよつて、「何でや知らん此ない此ないの噂ありますねんけど」云ひなさつて、かうなつたらうちもあんたを捨てる譯に行かんよつて、ほんまにうちを愛してるのんやつたら、一緒に死んで頂戴云ひなさつたら、そいでもまだ「そんな噂うそや」云うてましてんけど、[illegible]のこのんで、その時云うたら何とも云へ

ざん恨み云うてしもたら又可哀さうになつて來て、ついぐづぐづ會うてなさつた。それ云ふのんが、光子さんかて心の底ではやつぱり綿貫のええとこ忘れること出來んと、一日も長う一緒にゐてたい云ふ氣イあつたのんですやろが、綿貫の方でもそれを見て取つて、自分は今迄、自分の體の秘密知れたら、どない愛してくれてる人でもきつと自分を捨てるやろ思て隱してゐた、自分に缺陷ある云ふこと承知して愛してくれるのんやつたら、自分かて何で隱すもんか、もともと自分はこんな體になつたのんを不仕合はせやとは思ふけど、そないに重大な缺點やとも男子としての恥辱やとも思てえへん、何ぞ惡い病毒受けてこないなつた云ふのんでもなし、それで男子の資格ない云うたら、男子云ふもんのほんまの價値何處にあるのんや、男子ちふたら外に現はれた恰好ばつかりできめるのんか、そんたんやつたら男子でならうてもちよつともかめへん、深草の元政上人は男子の男子たる印あつたら邪魔になるのんで、灸すゑた云ふやないか、男子の中で一番えらい精神的な仕事した人は、お釋迦さんでもキリストでも中性に近かつた人やないか、そやさかい自分みたいなんは高尚な理想的な人間や、そない云うたらギリシヤの彫刻かて男性でも女性でもない中性の美現はし[illegible]

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ど」云ひなさつて、かうなつたらうちもあんたを捨てる譯に行かんよつて、ほんまにうちを愛してるのんやつたら、一緒に死んで頂戴云ひなさつたら、そいでもまだ「そんな嘘うそや」云うてましてんけど、探偵の報告書出して見せなさつたのんで、その時云うたら何とも云へん顔つきして、「悪かつたです、堪忍して下さい」云うて、「一緒に死にます」云ひましてんと。けどなかなか死ぬ譯に行けしませんし、さんだ愛する人に逃げられるのん心配して隱してたんや、ほんま云うたら、戀愛にしたかて子供生んだりするのん動物の愛で、精神的戀愛樂しむ人には性的缺陷やなんか問題やあれへん。……

その二十四

……はあ、そらもう綿貫ちふたら、そんな工合に議論し出したら論理間違うてる云ふこと自分にとんと分らんと、なんぼでも都合のええやうな理窟ならべて、つべこべつべこべ果てしないのんです。そいで云ひますのんに、光子さん死にやはるのんやつたら、自分かて一緒に死ぬのん躊躇せえへんねんけど、自分は死ぬだけの理由見つかれへん、ここで死んだら、ふん、あの男、性的不具者や云ふこと悲觀して死によつた云はれるのん口惜しい、自分はこれぐらゐのことで死ぬやうな意氣地なしやあれへん、なんぼでも生きてて、立派な仕事して、普通の人間よりずつと偉大な超人や云ふこと見せてやりたい、光子さんかて死ぬぐらゐな決心するのんやつたら、自分と結婚してくれたらええやないか、今も云ふ通り、自分みたいなもん夫にするのん恥や思ふのん間違うてるし、一層高尚な精神的結婚や云ふやうに考へたら、……尤もそない云うたとこで世間の奴等は理窟分らんと、いろいろな妨害するやろさかい、自分がこんな人間や云ふこと無理に此方から廣

魔になるのんで、[illegible]神的な仕事した人は、お釋迦さんでもキリストでも中性に近かつた人やないか、そやさかい自分みたいなんは高尚な理想的な人間や、そないに云うたらギリシヤの彫刻かて男性でも女性でもない中性の美現はしてあるのんやし、觀音さんや勢至菩薩の姿かてさうやし、それ考へても人間の中で一番高尚いのん中性や云ふことよう分つてる。告して歩かいでもええ、一人や二人察するもんあつたにしたかて、證もちやんとした證據握つてるもんないねんよつて、もしもそんなこと尋ンねるもんあつたら、完全に一人前の男の役する人間や云うて[illegible]しい、——それが考へたらほんまに矛盾してますのんで、「ちよつとも悲觀することない、超人や」云ふぐらゐやつたら、何んにもそないに秘密にせんかて大手振つて歩いたらええのんに、何は措いても邪魔這入らんうちに無事に結婚してしまお、それが第一の目的やさかいその目的果たすためには世間欺す云ふことも已むを得ん、自分等は誰にも退け取らん云ふこととお腹の中でさい承知してたら差し支へない云ひますねん。けど、世間はどうでも親たちまでそないあんじよう欺す譯に行けへん云ひなさつたら、自分の親は承知で嫁に來てくれる人あつたから、どないに結構や思ふか分れへん、反對するのんは光子さんの方の親たちだけやよつて、事情打ち明けても許してくれへんこと極まつてるのんなら、やつぱり隱しとかんといかん、光子さんさいその氣にならつたら隱しとかれへん云ふことあれへん、「そんなこととして分つた時どないするのん？」「分つたら分つた時のことやあれしませんか、そないなつたら堂堂と正義の立ち場說いて聽かして、絕對に外の人とは結婚せん云うて、それでも許してくれなんだら、その時こそ二人で姿隱しても一緒に死んでもええことあれしませんか。」それが本人は、自分

い」云ふ自信ついて、又しろとの女捜してるとこい光子さんが網に引つかかりなさつた、――これは想像ですねんけど、きつとさうに違ひないやろ云ふのんで、そんな淺ましい人間の玩具になつたこと思たら、もうもう生きてゐられん氣イして、ほんまにその時光子さんは死んでしまをか思ひなさつたさうですが、死ぬのんやつたら恨み云うてから死んでやろ云ふ覺悟しなさつて、今度目會うた時、そないいつ迄でも不自然な關係つづけてるのんイヤやさかい、正式に結婚してくれへんか、あんたさへよかつたら此方はちやんと親の許し得たあるねんし、と、そない云うたら何ちふか思て云ひなさると、「僕かて望むとこですけど今は都合悪い」とか、「もう一二年たつてから」とか、何の彼の云うて胡麻化すのんで、「あんたほんまは、何年たつても結婚出來へんのんやろ」云うてやりなさつた。そしたら急に顏の色かへて「何でです？」云ふよつて、「何でや知らん此ない此ないの噂ありますねんけど」云ひなさつて、かうなつたらうちもあんたを捨てる譯に行かんよつて、ほんまにうちを愛してるのんやつたら、一緒に死んで頂戴云ひなさつたら、そいでもまだ「そんな噂うそや」云うてましてんけど、

ざん恨み云うてしもたら又可哀さうになつて來て、ついぐづぐづ會うてなさつた。それ云ふのんが、光子さんかて心の底ではやつぱり綿貫のええとこ忘れること出來んと、一日も長う一緒にゐてたい云ふ氣イあつたのんですやろが、綿貫の方でもそれを見て取つて、自分は今迄、自分の體の秘密知れたら、どない愛してくれてる人でもきつと自分を捨てるやろ思て隱してゐた、自分に缺陷ある云ふこと承知して愛してくれるのんやつたら、自分かて何で隱すもんか、もともと自分はこんな體になつたのんを不仕合はせやとは思ふけど、そないに重大な缺點やとも男子としての恥辱やとも思てえへん、何ぞ悪い病毒受けてこないなつた云ふのんでもなし、それで男子の資格ない云うたら、男子云ふもんのほんまの價値何處にあるのんや、男子ちふたら外に現はれた恰好ばつかりできめるのんか、そんたんやつたら男子でならうてもちよつともかめへん、深草の元政上人は男子の男子たる印あつたら邪魔になるのんで、灸すゑた云ふやないか、男子の中で一番えらい精神的な仕事した人は、お釋迦さんでもキリストでも中性に近かつた人やないか、そやさかい自分みたいなんは高尚な理想的な人間や、そない云うたらギリシャの彫刻かて男性でも女性でもない中性の美現はし

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だ愛する人に逃げられるのん心配して隠してたんや、ほんま云うたら、戀愛にしたかて子供生んだりするのん動物の愛で、精神的戀愛樂しむ人には性的缺陷やなんか問題やあれへん。……

その二十四

……はあ、そらもう綿貫ちふたら、そんな工合に議論し出したら論理間違うてる云ふこと自分にとんと分らんと、なんぼでも都合のええやうな理窟ならべて、つべこべつべこべ果てしないのんです。そいで云ひますのんに、光子さん死にやはるのんやつたら、自分かて一緒に死ぬのん躊躇せえへんねんけど、自分は死ぬだけの理由見つかれへん、ここで死んだら、ふん、あの男、性的不具者や云ふこと悲觀して死によつた云はれるのん口惜しい、自分はこれぐらゐのことで死ぬやうな意氣地なしやあれへん、なんぼでも生きてて、立派な仕事して、普通の人間よりずつと偉大な超人や云ふこと見せてやりたい、光子さんかて死ぬぐらゐな決心するのんやつたら、自分と結婚してくれたらええやないか、今も云ふ通り、自分みたいなもん夫にするのん恥や思ふのん間違うてるし、一層高尙な精神的結婚や云ふやうに考へたら、……尤もそない云うたとこで世間の奴等は理窟分らんと、いろいろな邪推するやろさかい、自分がこんな人間や云ふこと無理に此方から廣告して歩かいでもええ、一人や二人瞞さうもんあつたにしたかて、誰もちやんとした證據握つてるもんないねんよつて、もしもそんなこと尋ンねるもんあつたら、完全に一人前の男の役する人間や云うて欲しい、——それが考へたらほんまに矛盾してますのんで、「ちよつとも悲觀することない、超人や」云ふぐらゐやつたら、何んにもそないに秘密にせんかて大手振つて歩いたらええのんに、何は措いても邪魔這入らんうちに無事に結婚してしまお、それが第一の目的やさかいその目的果たすためには世間欺す云ふことも已むを得ん、自分等は誰にも退け取らん云ふことお腹の中でさい承知してたら差し支へない云ひますねん。けど、世間はどうでも親たちまでそないあんじよう欺す譯に行けへん云ひなさつたら、自分の親は承知で嫁に來てくれる人あつたら、どないに結構や思ふか分れへん、反對するのんは光子さんの方の親たちだけやよつて、事情打ち明けても許してくれへんこと極まつてるのんなら、やつぱり隠しとかんといかん、光子さんさいその氣になつたら隠しとかれへん云ふことあれへん、「そんなことして分つた時どないするのん?」「分つたら分つた時のことやあれしませんか、そないなつたら堂堂と正義の立ち場說いて聽かして、絶對に外の人とは結婚せん云うて、それでも許してくれなんだら、その時こそ二人で駈落ちしても一緒に死んでもええことあれしませんか。それが本人は、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

い」云ふ自信ついて、又しろとの女捜してるとこい光子さんが綿貫に引つかかりなさつた、——これは想像ですねんけど、きつとさうに違ひないやろ云ふのんで、そんな淺ましい人間の玩具になつたこと思たら、もうもう生きてゐられん氣イして、ほんまにその時光子さんは死んでしまをか思ひなさつたさうですが、死ぬのんやつたら恨み云うてから死んでやろ云ふ覺悟しなさつて、今度目會うた時、そないいつ迄でも不自然な關係つづけてるのんイヤやさかい、正式に結婚してくれへんか、あんたさへよかつたら此方はちやんと親の許し得たあるねんし、と、そない云うたら何ちふか思て云ひなさると、「僕かて望むとこですけど今は都合惡い」とか、「もう一二年たつてから」とか、何の彼の云うて胡麻化すのんで、「あんたほんまは、何年たつても結婚出來へんのんやろ」云うてやりなさつた。そしたら急に顔の色かへて「何でです?」云ふよつて、「何でや知らん此ない此ないの證據ありますねんけど」云ひなさつて、かうなつたらうちもあんたを捨てる譯に行かんよつて、ほんまにうちを愛してるのんやつたら、一緒に死んで頂戴云ひなさつたら、そいでもまだ「そんな嘘うそや」云うてましてんけど、綿貫の診斷書出して見せなさつたのんで、その時云うたら何とも云へん顔つきして、「惡かつたです、堪忍して下さい」云うて、「一緒ます」云ひましてんと。けどなかなか死ぬ勢[illegible]

[illegible]

ざん恨み云うてしもたら又可哀さうになつて來て、ついぐづぐづ會うてなさつた。それ云ふのんが、光子さんかて心の底ではやつぱり綿貫のええとこ忘れること出來んと、一日も長う一緒にゐてたい云ふ氣イあつたのんですやろが、綿貫の方でもそれを見て取つて、自分は今迄、自分の體の秘密知れたら、どない愛してくれてる人でもきつと自分を捨てるやろ思て隱してゐた、自分に缺陷ある云ふこと承知して愛してくれるのんやつたら、自分かて何で隱すもんか、もともと自分はこんな體になつたのんを不仕合はせやとは思ふけど、そないに重大な缺點やとも男子としての恥辱やとも思てえへん、何ぞ惡い病毒受けてこないなつた云ふのんでもなし、それに男子の資格ない云うたら、男子云ふもんのほんまの價値何處にあるのんや、男子ちふたら外に現はれた恰好ばつかりできめるのんか、そんなんやつたら男子でなうてもちよつともかめへん、深草の元政上人は男子の男子たる印あつたら邪魔になるのんで、灸すゑた云ふやないか、男子の中で一番えらい精神的な仕事した人は、お釋迦さんでも[illegible]やないか、そやさかい、[illegible]い云[illegible]

ですか」云ふよつて、一向何や知らん[illegible]ないの聲ありますねんけど」云ひなさつて、かうなつたらうちもあんたを捨てる譯に行かんよつて、ほんまにうちを愛してるのんやつたら、一緒に死んで頂戴云ひなさつたら、そいでもまだ「そんな事云うそや」云うてましてんけど、探偵の報告書出して見せなさつたのんで、その時云うたら何とも云へん[illegible]つきして、[illegible]かつたです、[illegible]して下さい」云うて、一緒に死に[illegible]ます」云ひましてんと。けど[illegible]だ愛する人に逃げられるのん心配して隱してたんや、ほんま云うたら、戀愛にしたかて子供生んだりするのん動物の愛で、精神的戀愛樂しむ人には性的缺陷やなんか問題やあれへん。……

その二十四

……はあ、そらもう綿貫ちふたら、そんな工合に議論し出したら論理間違うてる云ふこと自分にとんと分らんと、なんぼでも都合のええやうな理窟ならべて、つべこべつべこべ果てしないのんです。そいで云ひますのんに、光子さん死にやはるのんやつたら、自分かて一緒に死ぬのん躊躇せえへんねんけど、自分は死ぬだけの理由見つかれへん、ここで死んだら、ふん、あの男、性的不具者や云ふこと悲觀して死によつた云はれるのん口惜しい、自分はこれぐらゐのことで死ぬやうな意氣地なしやあれへん、なんぼでも生きてて、立派な仕事して、普通の人間よりずつと偉大な超人や云ふこと見せてやりたい、光子さんかて死ぬぐらゐな決心するのんやつたら、自分と結婚してくれたらええやないか、今も云ふ通り、自分みたいなもん夫にするのん恥や思ふのん間違うてるし、一層高尚な精神的結婚や云ふやうに考へたら、……尤もそない云うたとこで世間の奴等は理窟分らんと、いろいろな妨害するやろさかい、自分がこんな人間や云ふこと無理に此方から廣

ちよつともかめへん、[illegible]の元政上人は男子の男子たる印あつたら[illegible]魔になるのんで、除ずゑた云ふやないか、男子の中で一番えらい精神的な仕事した人は、お釋迦さんでもキリストでも中性に近かつた人やないか、そやさかい自分みたいなんは高尚な理想的な人間や、そない云うたらギリシヤの彫刻か一男性でも女性でもない中性の[illegible]し[illegible]告して歩かいでもええ、一人や二人[illegible]もんあつたかて[illegible]もちやんとした證據握つてるもんないねんよつて、もしもそんな二と尋ンねるもんあつたら、完全に一人前の男の役する人間や云うて[illegible]しい、——それが考へたらほんまに矛盾してますのんで、「ちよつと悲觀することない、超人や」云ふぐらゐやつたら、何んにもそないに秘密にせんかて大手振つて歩いたらええのんに、何は措いても邪魔入らんうちに無事に結婚してしまお、それが第一の目的やさかいその目的果たすためには世間欺す云ふことも已むを得ん、自分等は誰にも退け取らん云ふことお腹の中でさい承知してたら差し支へない云ひますねん。けど、世間はどうでも親たちさへそないあんじよう[illegible]に行けへん云ひなさつたら、自分の親は承知で嫁に來てくれる人あつたら、どないに結構や思ふか分れへん、反對するのんは光子さんの[illegible]親たちだけやよつて、事情打ち明けても許してくれへんこと極まつてるのんなら、やつぱり隱しとかんといかん、光子さんさいその氣になつたら隱しとかれへん云ふことあれへん、「そんなことして分つた時どないするのん？」「分つたら分つた時のことやあれしませんか、そないなつたら堂堂と正義の立ち場說いて聽かして、絕對に外の人とは結婚せん云うて、それでも許してくれなんだら、その時こそ二人で[illegible]しても一緒に死んでもええことあれしませんか。」それが本人は、自分

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の秘密仰山の人に知られてて、渾名まで附けられてる云ふ風に思へしませんのんで、くろとの女別としたら、、、や何ぞで感づいてるもんちよびッとよりないやろ思てますさかい、巧いこと隠し通せる思てるらしいのんですが、そない都合よう親を欺して結婚する云ふこと、實際にはなかなか出來しません。綿貫の方には親云うてもお母あさんと、後見してる叔父さんとがあるだけやさかい、一ぺん光子さんが會うてくれて、「こないこないの譯ですよつて、いづれ家から表向きに申し込んで來たら默つて承知して下さい」云うたら、お母あさんはよう分つてくれる、叔父さんかてわざわざ人の缺點あばいて折角の縁談ワヤにするやうなことせえへん云ふのんですけど、光子さんの考へでは、結婚申し込む先に身元調べるに違ひないよつて、どないしたかて知れる、そんなことして平地に波瀾起すより當分内證で會うてる方ええやないか、ぜんたい綿貫の方には別に結婚せんならん理由ないのんで、そんな無理な相談や云ふこと自分かて分つてますねんけど、光子さんの方がそないいつ迄でも一人でゐられる筈ないさかい、こんなりでゐたらもうつい逃げられへんやろか、それが心配で仕方あれしませんねん。それに口で云ふのんとお腹の中とはまるきり反對で、出來るもんなら一人前の男と同じに奥様持つて暮らして行きたい、世間欺すばつかりやなうて、自分の心まで欺して、ちよつとも外の男と違たとこないやうに思てたい云ふ氣イあるばつかりか、光子さんみたいな人一倍綺麗な奥様持つて、世間の奴等をアッと云はしてやりたい云ふ虚榮心まであるのんで、せえだい焦つてて、「そんな一時逃れ云ふて、ええ縁談あつたら行くつもりやろ」云ふやうなイヤ味云ひますねん。そいで光子さんは、どない親に、、しられてもきつと餘所い嫁に行けへん、、、、、、、、こと云はれたらそらその時に考へるけど、今のとこ差し迫つた縁談あるのんでもなし、そのうち自分も二十五になつたら自由結婚出來るやうになるし、きつとええ折あるやろさかいまあまあもうちよつと辛抱してて、……そやなかつたら死ぬより外に道ない云うて、やうやう納得さしましてんと。

光子さんのその頃の氣持ち、「ほんまのとこ自分にも分らん」云うてなさるんですが、初めのうちはそない云うて宥めといて、どないぞして切れてしまひたい思てなさつたのんは確かですねん。なんせ、、、、、、、、、、、、云ふことがしようちゆう頭にありますのんで、會うたあとではいつでも後悔しなさつて、ああ、ああ、自分は仰山の女の中でも人に羨ましがられる器量持つてながら、あんな男に見込まれるやなんて何ちふ情ない身の上やろ、もうもうこんなこと止めてしまひたい思ひなさるのんですけど、そら不思議と、又二三日も立つうちに情ないことも、、、、、、、忘れて、自分の方から跡追ひ廻すやうになつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

てしまふ。さうか云うて、それほど綿貫戀ひしいのんか云つたら、精神的にはええ思ふとこ一つもない、ただ綿貫の・・・・・・・・・・・・・・・・に打ち克つこと出來へんのんで、それ考へたら醜見るのんさい胸がムカムカするやうな氣イして、卑しい奴ッちや、見下げ果てた奴ッちや。ちやうど、、みたいなやツちや云ふ風に、お腹の中では常時蔑しいに輕蔑してる、その輕蔑してるもんに自分の運命握られてる思つたら、なほ更腹立つて來ますさかい、しまひにはもう、彼奴は自分の戀人やなうて・・・・や、・・・・・・・・・・・・・・・・てるのんやと、そない思てなさつた。そいで毎日のやうに會うてることは會うてるけど、二人の氣持ちシックリすることめつたになうて、いつでも喧嘩ばつかりしてて、その喧嘩云ふのんが、自分の秘密人にしやべつたやろとか、いつまで待たす氣イやろとか、例の綿貫のキマリ文句で、塵にもつかんやうなこと取り上げては疑がひ深いにいやにちやにちやした口調で云ひますのんで、……光子さんかて、そない厭がること用らないのんに人に話したら綿貫だけの恥やあれしませんし、そんなくらゐなこと云はれいでも分つてましてんけど、さうかてお梅どんだけには云はんちふ譯に行かんので云ひなさつたのんを、「何で女子衆みたいなもんにしやべつた」云うて、その時ばつかりはえらい喧嘩になつて、光子さんもちよつとも負けてんと、「あんたは偽善者や、云ふことと爲ることとまるきり違てるうそつきや」「あて等のしてる事にほんまの戀愛らしいとこ此んだけもあれへん、あてには此れでもまだ人間の良心あるけど、あんたは、、たいな人や」と、思ひ切り云うてやりなさつたら、とうとう文句に詰まつてしもて、血相變へて「殺す」云ひますのんで、「殺すのんやつたら殺したらええ、あてはとうから死ぬ覺悟さめてる」云ひなさつて、じつと眼エつぶつたなり動こともしなされしませなんだ。そしたら綿貫の方が氣イ呑まれてしもて、「惡かつたよつて勘忍して下さい」云ひますのんで、「あてあんたみたいな恥知らず違ふよつて、こんなこと世間に知れたら、あんたよりあての方がどないな難儀するか分れへん、もうもういつでもそんな云ひ係り云はんといて頂戴」云ひなさつて、ぎゆうぎゆう云ふ目に逢はしなさつた。そいから綿貫だんだん頭上らんやうになりましてんけど、それだけ却つて陰險になつて、蔭では一層疑がひ深なりましてん。

ところがちやうどそないなつてる時にM家との縁談持ち上つた。—その時分光子さんがあの技藝學校い行つてなさつた云ふのんは、綿貫と會ふ機會作るためやつたんのですが、私との間に同性愛や云ふ噂立つたのんは實は誰の仕業でもない、光子さん自身がそない云ひ觸らしなさつて、匿名のハガキ投書しなさつたんですねんて。何でそんなこ

としなさつた云うたら、縁談のこと聞いてから云ふもん綿貫の燒き餅が激しいて激しいて、そんなことあつたら唯では置かん、今までの關係一切合財赤新聞へ素ッ葉拔いてやる云うて脅迫しますし、それでなうても競爭の形になつてる市會議員の家の方で手エ廻して、光子さんのアラ搜しして、此方の縁談滅茶滅茶にせうとかかつてるのんで、自分はもちろんM家へ行こ云ふ氣イないさかい競爭に負けるのんかめへんけど、そんなことから綿貫との秘密探り出されて、ぱつと知れ渡るやうになつたら、それが何より恐い。そいでつまるとこ、ほんまのこと知れんやうに、わざと同性愛の噂立てた。まあ云うてみたら、私ちふもん利用して世間の眼エくらましなさつた。光子さんとしたら、「ステッキ」やとか「男女」やとか云はれてるもんと噂立つより、同性愛や云はれる方が辛抱出來る、人に後ろ指さされたり物笑ひの種にならんと濟む思ひなさいましてん。そんな工合で初めはただ、私が光子さんモデルにして繪エ畫いてる云ふこと聞きなさつたり、道で擦れ違た時の素振りや何かから、ふつと思ひつきなさつただけですねんけど、私の方があんまり眞劍で熱烈でしたさかい、だんだん利用する心持ちからほんまの愛情に變つて行きなさつた。そら私かて全然純眞なとこばつかりやあれしませんけど、そいでも綿貫とは比べ物にならん[illegible]な氣持ちありま

それと一つには、綿貫みたいな誰にも相手にしられんやうな人間の慰め物にしられるのんと、同性の人から觀音樣の繪にまで畫かれて崇拜しられるのんとはえらい違ひですよつて、私と云ふもん出來てから持ち前の僭越な感じ、――自尊心戻つて來て、始めて世の中が明なつたやうな氣イした云ひなさいますねん。そいで綿貫にはこないこないの噂あるのん幸ひにこないな人道具に使てぶ、そないした方が家明けるのんにも工合ええさかい云うてなさつたのんですが、それをそんなり眞に受けるやうな綿貫と違ひますよつて、うはべは「さうですか、そらその方がええでせう」云ひながら心の中では嫉妬の刄研ぎすましてて、何ぞ事さいあつたら私との仲割いてやろ思てたのんに違ひない云ふのんは、あの笠屋町で着物盗まれた事件にしたかて、今考いたらどうも怪しい。あの時別の座敷で博奕打つてるもんあつたとか、刑事乘り込んで來たとか云ふのんはみんな根も葉もないことで、彼處の家の人に頼んで不意に光子さんビックリさして、逃げてる間に着物すつくり匿すやうに初めから段取り極めといた。――それが、あの日の晝、私のとこい來なさる前に三越い買ひ物に行きなさつたら偶然綿貫に會ひなさつたのんで、此いから柿内の姉さんとこ行

着物ないやうにしてやつたらどうしても私のとこい電話かけるやうになる、そしたら私かて愛憎盡かすやろ云ふやうに考へて、待つてる間にあの家のもん買收してこないこないせえ云うといた、——綿貫やつたらそのくらゐのこと企らまんとも限らんし、企らむだけの時間もあつた。そやなかつたら何ぼ何でも人の着物着て警察へ連れて行かれる云ふことあんまりをかしいし、光子さんとこいも綿貫とこいも、そんなり警察から何んにも云うて來なんだ云ふ譯あることない。けどその時はまさか計略にかかつたとは思ひなされしませんさかい、どないしてえのんか顛倒してしもてると、「こないなつたら柿内さんとこい電話かけて揃への着物取り寄せるよりしやうがないでしよ」と、綿貫の方から云ひ出した。——綿貫の話とはそこえらい違てて、光子さんはもう取られたのんが揃への着物やつた云ふことさい忘れてたくらゐ慌てなさつて、なかなかそんなこと考へ出せるどころやなかつた。綿貫にそない云はれてからも「どの面下げて姉ちやんに頼めるやろ」云ひなさいましてんけど、「それ厭やつたら僕と一緒に逃げてくれますか、それとも電話かけますか」云はれて、絶體絶命の場合になつて、こんな男の道連れになるのん死ぬよりイヤや思ひなさつたら、後先の分別もないよになつて夢中で電話口い走つて行つた。そいでもあの時、近所のカフエエい來て貰ふとか、綿貫先歸してしまふとか、あんなとこ私に見せんかて何んとかもうちよつとええ工夫あつたやろのんに、うろたへてたらそんなこと思ひつけしませんし、そこが綿貫の狙ひどこですよつて「早しなさい、早しなさい」云うて急きたてますし、そのうちに私に來られてしもて「合はす顔ない」云ひなさつたら「僕ええやうに云ひますさかい隱れてなさい」云うて、いかにも自分は光子さんの戀人や云ふ顔つきして、いろいろなこと私にカマかけて聞いてしもた。「ふん、そやねんし。ほんま云うたら、あの人あの時まで姉ちやんとのことそないよう知つてエへんなんでん」云ひなさいますねん。

（つゞく）

新選
谷崎潤一郎集
定價壹圓
送料廿錢
改造社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



大地

里見弴

四の一

一間うちのなかを見廻つて、薄暗い階下の茶の間におりて來てから、昌造は、なんとつかず、

「ふーん」

と鼻音で唸つた。心に滿足しきれないものゝある時の、それがいつもの癖だつた。が、この場合では、たゞ滿足しきれないといふより、もう少し、ちりゝと鋭く來る何かがあつた。強いてそれを言葉にしてみれば、

「この家に住んでゐる間に、なんか兇いことがなければいゝが……」

といふやうな、――樂天家の彼にはめつたにない、一種迷信じみた豫感が、ちらッと心の面を掠めすぎて行つたのだ……。

……ではなかつた。間どりや

どの本棚の、夥多しい書物の積みにも拘らず、さして震災の損所も見あたらなかつた。たゞ、北すべりの傾斜地の中段で、細い露次を隔て建つた南隣が、地面ごと四五尺も高い二階家だつたから、往來に面した窓々に、纔に名殘の西日が射し込むくらゐのことで、一つとして日あたりや風通しのいゝ部屋がなく、そのため、うちぢうが陰氣くさくじとついてゐる感じだつたけれど、それとて、殘暑の去りきらない今の氣候では、却つてひやついて凌ぎ易いくらゐのものだつた。だから、易者流の、家相とでもいふやうな言葉を持ち出して來ない限り、この不思議な豫感の誘因となるべき何物をも見出せないわけだつた。そして、昌造が、その「家相」といふやうなことに、何等の知識も、信用ももつてゐないことは、改めて斷るまでもないくらゐなのだが……。

夜具包の上に、勞れた腰を、ぽこんと落し込んで、そばのおしげに話しかけるともつかず、半ば、呟くやうに、

「小野田さん、なんだつてこんな陰氣くさい家に住んでるんだらう」

手傳に來てゐた千葉が引きとつて、

「やつぱり性分ですね。貴方には、ちよつとお氣に入りさうもないけれど、……でもまア、永い間のことぢアないんですから……」

「うーん」

先輩の文人、小野田にとつては、丁度一家を擧げて六甲山に暑を避けてゐた間の大地震だつたので、取敢ず自分一人だけ、中央線を廻つて、留守宅の樣子を見に歸つてゐたが、その間の或る日、新派の歌川とつれだつて、通りがゝりに、母の家に厄介になつてゐる昌造を尋ねて來た。居候の身の、而も手狹で、通す部屋もなかつたので、西日のあたるポーチの、堅い木のベンチに請じて、暫く雜話を交したなかに、小野田が、かういふ騷ぎの最中へ、困難な旅を侵してまで、慌ただしく女子供をつれて歸ることもなからうから、當分あつちに落ちつくつもりだ、といふやうな意嚮を洩したのに、ふと昌造の氣持が動いて、では、その間、留守を預りがてら、自分たち一家の者に住はしては貰へまいか、と、日頃の彼にはやゝ圖々しく感じられさうな申出をした。實際、いかに親子の間でも、八人といふ同勢で、いつまでもこゝに厄介になつてゐるのも氣がひけるし、自分たちとしても窮屈だつた。さうかと云つて、四五年前に麴町の乘換場ちかくに建てた自分の持家は、地震後まもなく借家人が立退いて行つたほどで、ちよつとやそつとの手入では住みかねるほど損んでもゐたし、急にさう適當な借家も見つかる筈のない今日この頃、而も鍋釜から揃へてひと世帶もち直すのも容易なことではないと思つてゐた矢先なので、この、偶然小野田からもち出された話は、誠に渡りに船の感じだつたのだ。根が親

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

切な小野田は、一議に及ばず、すぐ快諾を與えてくれて、

「たゞね、今ゐる留守居の者を、どつか親類にでも頼むとかなんとかいふ、その方の始末がつくまで待つてくれませんか。それだつて、なに、明日中にはなんとかしときますから、早速引越していらつしやいよ。ひよッとすると、僕は、明日の夜汽車で彼方へ歸ることになるかも知れませんが、さうしたら、留守居の者によくさう云つて置きますから、僕がゐないでも、構はずはいつちやつてください。臺所道具や、惡いんでよければ皿小鉢なんぞも一通りは揃つてる筈ですから、引越して行つてみた上で、足りないもんだけお買ひなすつたらいゝでせう」

「えゝ、有難う。さういふものは、遠慮なく使はせて頂きますが、その代り、大事なものゝはいつてるところは、きちんと錠をおろしていらしつてくださいませんか。何しろ、あたしはちよく〱出かけますし、留守中でも、可なりいろんな人間があがり込んで來るだらうと思ひますから……」

「なアに、そんな金目のものなんぞ、ありッこありアしませんがね……」

そんなわけで、なか一日おいた今日、四谷もぐッと北よりの、士官學校の丘と相對した傾斜地にある小野田の借家に、僅ばかりの荷物を運び込んで來た昌造一家だつた。可なり舊くからの知合でゐながら、不思議に、ついぞ尋ねて來たこともなかつたので、この引越は全くのみずてんだつた、——どういふ家か、想像もしずに、いきなり乘り込んで來て了つたのだ。

然し、引越して來たとは云ふじよう、階下の六疊には、奧様用の大きな簞笥など据えてあつたりして、やつぱり居候じみた、落ちつけない氣持だつた。そこへ行くと、子供たちは暢氣なもので、小野田がも子供部屋としてあてがつて置いたらしい西向の八疊間を、自分勝手に占領し、早速、船底型の曲木にとりつけた木馬などを押入のなかゝら引きずり出して來て、われが乘る、俺に乘せろの喧嘩を始めてゐた。

「おい〱、小野田さんとこの坊ッちやんたちの玩具を、さうやたらひッ張り出して來ちやア惡いぢやないか。その木馬くらゐはいゝけど細々したものを持ち出して、なくなしちやつたりするといけないぜ」

通りがゝりに、昌造は、さう聲をかけた。慌てゝ木馬から飛びおりた長男が、

「パパ！　こゝ、僕たちの部屋だらう？」

「うん。それアさうきめといてもいゝけど、むやみに、押入のなかなんぞ引ッ掻き廻しちア駄目だよ。自分たちの玩具がなかつたら、マヽにさう云つて買つて貰ふんだ。いゝね、わかつたね？」

そのまゝ昌造は、二階へあがつて行つた。北向の六疊が小野田の書

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

書齋らしく、窓際に机が据えてあつた。この宿屋の普請にかけては、當代の第一人者と云はれる文人の、讀んだり書いたりに用ゐられる机は、古ぼけて、而も至つてお粗末だつた。そのそばに、沖津の奥二階から持ち出して來た手提鞄を置いただけで、昌造の仕事の用意は整つて了つたも同然だつた。ほかに、何一つ、そこを自分の書齋らしくする品物とてはなかつた。用のない手持無沙汰に、本棚の前に立つて、和漢の書籍の背文字を、片ッぱしから讀んで行つた。その悉くが讀破し盡されたとは思はれなかつたが、主人の攻學心だけでも、昌造のやうな怠者には、敬畏の念を抱かせるに十分だつた。

子供たちが、どたばたと階段を中途まであがつて來て、我先に、

「パヽ、おやつ!」

と、聲をかけ、

「よーし、すぐ行くよー」

の返事を聞くと、そのまゝまた、階下へ、亂拍子の足音だつた。

「急がないで、急がないで! 階段が急だから氣をつけなさいよ!」

おりて行つてみると、手傳の千與や長谷部のほかに、滿津島といふ小料理の女將まで、大きな鮨皿の周りに車座に坐りこんでゐた。これは、もと屋臺のおでんやだつたのを、昌造の肝煎で、二三度大阪へ料理の修業にやつたりしたところ、熱心と才氣とで忽ち上達し、小さいながらも舟町の裏通りにとこ店をもとうとして、いま普請の最中だつたが、その間も、休みッきりには休まず、五疊一間の自宅で、ごく内輪の贔屓客だけには、三品四品うまいものを喰べさせる、といふやうなことをやつてゐた。が、それにしても普段よりはずッと體に暇があつた。

「こん日は。おめでたうございます」

女將は愛想のいゝ笑顔で、見迎へて、から挨拶した。

「や、……おやお、どうしたい?」

「今日は旦那ンとこのお引越やさかい、どうでもお手傳に伺はんならん云ふとりましたんですけど、なんや急に普請の方のことで、大工さんとつらつて、深川まで行て來んならんとか云ふて……」

「これ、滿津島の女將さんが、お祝だつて持つて來てくれたんです。」

おしげが、子供たちのために、小皿に鮨を取り分けながら、顏も振り向けずに云つた。

「なんだい、引越ッたつて、よそのうちの留守番に頼まれて來たやうなもんだぜ、お祝なんて、とんでもない話だ」

昌造も割り込んで、一張羅の半洋袴の、兩膝も露に胡座をかいて、

「だけど、まア、折角もつて來たもんだから、食つてやらうかなー」

「どうで四谷のお鮨で、大したこともありますまいけど、でも近所で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は、こゝが一番おいしいいふことになつとりますんですの」
上方と東京をまぜこぜの、この女獨特の言葉使ひで、「どうぞたんとめしやがつてくださいまし」
口先のから世辭にもせよ、旦那の御恩は一生忘れないの、逗子の方角へは足を向けて寢ないのと、こつちが氣恥しくなるやうなことを、平氣で面と向つて云ふ夫婦だつた。その無神經に對抗するには、こつちも、さも恩に着せてゐるやうに、心にもない大風を粧ふより術がなかつた。そのくせ、貰つたゞけのものは、きちんくと返して置かなければ、蔭でどんなことを云ふかわからない、――さういつた感じの夫婦の氣性は、いつも決して忘れるわけにいかなかつた。
「さア、あんたたちは、あつちイ行つて、自分の部屋でおたべなさいね」
おじげにさう云はれると、子供たちは、各自にうけとつた皿を胸へ抱え込むやうにし、女中につき添はれてそこを出て行つた。
あとは大人ばかりで、とりとめのないお喋りをしながら、鮨をつまみ、熱い番茶を啜つた。

四の二

ほどなく珠龍も、間宮家の養女たち、云ひ換へれば彼の姉妹三四人と、同じ四谷區内で、それもさして遠くない左門町の、或る邸の構内に、離れを一軒かり、合宿所めいた生活に變つたよしを知らせてよこした。自體、間宮といふのが、舊弊な事大主義の、厄介きはまる家風らしく聞いてゐるところへ、大して年齢の違はないそこの養女ばかり三四人一緒に暮すことになつたのでは、お互の目の光り口のうるさゝ、想像したゞけでもうんざりだつた。それでも、ナカヤの手で秘な手紙の往復は絶えなかつたし、強いて逢はふと思へば、沖津の空家で三四時間の對談も出來ないわけではなかつた。但し、それは、一緒にゐる連中の手前、且また座敷の修繕でうちぢうごたついてゐる利倉への遠慮から、よくくでなければつくれない機會だつたが、そのよくくの機會を、或る時、昌造は待ちぼけを喰はされた。――もうだいぶ空の色も秋めいて、緣側の日ざしの白ツぽい午後のことだつたが、塗りたての壁の磯くさい二階座敷で、昌造は一人ぼつねんと、約束の時刻を夙にすこしても姿を見せない珠龍を待つてゐた。時に適つた待遇といふより、氣を紛らせるためのものらしく、紅茶を淹れて、お民があがつて來た。
「どうしたんです

纏え込むやうにし、女中につき添はれてそこを出て行つた
あとは大人ばかりで、とりとめのないお喋りをしながら、鮨をつまみ、熱い番茶を啜つた。

四の二

ほどなく瑛龍も、間宮家の妻女たち、云ひ換えれば後の女の妻理の

た。時に適つた待遇といふ
淹れて、お民があがつて來た。

「どうしたんでせう、おそござんすわね」

肥つた體を、だろさうに、ぺたりと疊の上に据えて、さも何氣なく云ふのだけれど、昌造には、自分に氣を配つてゐる心構だ、とい

ふ感じは、鋭くぴりゝと來てゐた。――これは、三四年以前、いよいよ春江との最後の手紙を往復する前に、待合の奥座敷で、空しく一夜を待ち明したりした經驗から、ついいぢけ癖のついて了つた神經の作用だつた。その時分でも、たつた一人ほつて置かれる分には、何時間でもはたの見る目ほどへこたれてゐるわけではなかつたけれど、女將や女中が氣の毒がり、お愛想のつもりの顏出しをされると、暢氣らしい世間話に合槌などうつてゐる心の心の方から、だん／＼我が身で我が身が哀になつて來、仕舞には、どうにもかうにもゐたゝまれないほど尻がもじついて、つい歸りの自動車を云ひつけて了つたりしたものだ。有繋にお民は、さういふ氣の弱い客の心理も嚥み込んでゐるらしく、やがて、帶の間を索つて、二つ折りにした日本封筒の手紙を把り出しながら、

「二三日前に、こんなことを云つてよこしたんですのよ。――なんか、喧嘩でもなすつたんぢアない？」

と、荒療治に、かう、づけりと云つて退けた。

全くなんの覺えもなかつたけれど、然しさう云つて了つたあとで、手紙のなかの「こんなこと」に觸れて、遽に驚き慌てる自分は尚更みじめすぎる、といふ警戒心から、無言の苦笑ひで誤魔化し、手を差し伸べて、

「どれ」

一旦出したものを、ちよつと脊後に匿すやうにして、

「讀んぢやつたら燒いてくれつて書いてあるんですのよ」

「かまやアしないよ」

「それアどうせ、貴方とおこうさんとの間のこつてすもの、構はないと思へばこそ持つて來たんですけど……。だけど、一體、どうしたつてんですの？」

「別にどうつてこともないんだけど、……まア、見せたまい」

云ふまでもなく、瑛龍からお民に宛てゝの手紙だつたが、簡單な文面ながら、その要點は、昌造にとつて、全く寢耳に水の打明話だつた。

――今の自分として、昌造ほど好きな人がほかにないことは、貴方もわかつてくれるだらうけれど、大河内も決して嫌ひではない。嫌ひどころか、昌造とはまた別の氣持で、ずゐぶん好きでゐながら、かういふはめになつたことは、重々自分が惡いと思ひ、大河内には氣の毒でならない。來月あたり、大河内が洋行するといふ話を聞いて、何もそれは、自分のしたことゝなんの關係もないのだらうけれど、一層すまない氣がしてゐる。で、この地震を區切りに、昌造ときようだいになりたいと思ふ。大河内とは、だいぶ以前からさういふ關係だし、洋行でも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

すれば、尙更そこははつきりするのだから、昌造も、さういふ點で、またもとへ戻つて行くといふやうな氣持はもつまいと思ふ。兎も角、きようだいとしてなら、昌造と、一生涯、どんなに仲よくしてゐても、大河內に對してすまないといふ氣はしないけれど、これまでのやうでは、我ながら心苦しくていやだ。この氣持、貴方ならよくわかつてくれると思ふ。これは、この四五日、夜もろくに寢ずに考へたことだが、昌造にもまだ云つてないことゆゑ、貴方一人だけの心持で承知してゐてほしい。そのうち大河內と一緒に御飯をたべに行く約束をしたが、それはまた日がきまつた時あらためて知らせる。――大體かういふ意味合だつた。

昌造は、むか〳〵と腹がたつて來た。どこにひとつ非のうちどころもない考へだけれど、それだけに、そのくらゐは夙の昔にわかり切つてゐることだつた。昌造以前、既に鰕藏の事件で痛感してゐなければならない筈のことを今ごろになつて、いかにも尤もらしく持ち出す氣が知れなかつた。男女三人の間で、女を奪はれた者だけが辱をうけるのではない。女も傷き、奪つた者も、たゞ圖々しさだけで平氣でゐるのと、さうでない場合とがある。たゞ氣の毒だと思ふだけなら、むしろ大河內に對する侮辱で、いつでも來い、命を的に相手にな

ぞ、といふ氣持の

だ。たゞ氣持ばかりでなく、敢然と直接行動に出られた原始人、或ひ今の世でも野蕃未開の國民の方が、その點、どんなに羨しくあり得るか知れやしない。秩序安寧と稱して、要するに妥協を護る法治國に生れた紳士、淑女たちの、同情で侮辱し、誹謗で羨望し嫉妬する淺間しさだけには、せめては染りたくないものだ。そんなところは、云はず語らず、夙に卒業してゐる筈の自分たちではないか。それを、今さら氣の毒とはなんだ！すまないとはなんだ！きようだいのつきあひなんて、そんな青白い、ふにや〳〵した芋虫みたいな感じのものは、まツぴら御免かふむる……。

昌造の胸のうちは、この氣持で煮えくり返つてゐた。――が、結局彼もまた法治國に生れた紳士の一人だつた。讀み終つた手紙を、すまして捲き納めながら、

「なんか云つてやがら」

と、あくどくならないほどに、冗談めかして嘲笑つた。

「喧嘩なすたんでせう？」

「こつちには、そんな覺えはないけれど、……一體、君はどう思ふ？」

「あんたにはわるいけど、尤もだと思ふわ」
「いゝえさ、文句は兎も角、結局のところ、別れたいんだとは思はないかい？」
「そんなことないでせう」
「こんな氣持だとすると、今日はこれア來ないね」
「でも、來なければ來ないで、きつと使をよこすかなんかしますよ。默つてほつとける人ぢアありませんもの」
「それアさうだらうけれど、こつちだつて、いつまでもそんな、斷り手紙なんぞ待つてるところはないからね」
ちよつと、その劔幕が強すぎたか、お民は急にしよげ返つて、
「あたし、わるかつたかしら、——こんな手紙をお目にかけちまつて」
「わるいなんてこたアないさ」
「でも、默つてゝくださいね？」
「まアそのつもりだけど、場合によつちア云ふかも知れないよ」
「あら、それぢアあたし困つちやいますわ」
「成可くまア云はないやうにやアするがね……」
昌造には、憤怒のあとの、そろ〳〵寂しい氣持が芽ぐみかけてゐた。——秋空の、あくまで澄み透つてゐるのへ、あてなく、遠く目を放つたまゝ、
「ぢア、そろ〳〵歸らうかな」
「まア、もう少しお待ちなさいましなね、——使をよこすなりなんなり、なんとかきまりがつくまで」
「ぢア、君ア階下に行つてないか。一人の方がいゝ」
「わろかつたわねえ。あたし、そんなに貴方、お惱ンなさるとは思はなかつたもんだから」
「惱つてやしないよ。……あゝ、そいからね、階下に行く前に枕を貸してくれないか」
次の間の押入から出して來て、いち早くもう肘枕で寢そべつて了つた昌造の頭の下に支ひ、そのまゝまたそこに坐り込んで、
「あたし、なんだかわるいことしちやつたやうな氣がして仕方がないわ」
「そんなことないさ。あなたから聞かないでも、どうせいづれは自分から云ひだすつもりの話なんだらうから」
「でも、その時、貴方が知つていらしつたらわるいぢアないの」
「その時はまたその時のことさ」
うるさうにしてゐるので、お民もとりつく島がなく、跋詭のために出してあつた座布團を、もう一枚腰から下へ敷き足したり、あいた

紅茶々碗を片づけたりしてから、つまらない顔つきでおりて行つた。
一人になつて、ぢつと考へれば考へるほどわけがわからなくなつて來た。男と女との間で、末永くきようだいのやうな仲のよさを保たせやうといふのは、もと〳〵瑛龍好みのロマンティシズムで、今更それを兎や角云はうといふ氣はなかつたけれど、どういふ原因から、そんな青白い少女趣味が再發して來たか、どうもその原因に見當をつけかねた。この疑ひを昂じさせて了へば、遠くない將來に「さようなら」が來ることはわかり切つてゐたが、瑛龍が遠に意識の閾の下で、それを望むやうになつて來たとも思へず、されぱとて、原因もなくだしぬけにおこつて來る病があらう筈もなかつた。何かある、——それだけは慥だつた。そしてその「何か」には、まつたくあてがつかなかつた。手紙にある大河内などは、ほんのお飾りで、これほどの問題に原因となる力は、勿論認められなかつた。
考へあぐねて、晶造は、ぽかアんと天井を見詰めてゐた。と、急に悲しみがこみあげて來た。なんのことはない、「思案」といふ枕を手離すと同時に、他愛なく、ぐづ〳〵ぐづと崩折れて、地びたに突き轉げて了つた形で、さうなるともう、立ち直る氣力もなかつた。見るまに沈み込んで行くのだから、やがて堪らない悲しさへにじみ出して、煤けた天井の木目が渦をまき始めた。なまじ思ひ惱むより、とは云へその方が、樂には違ひなかつた——薄暗くなつて、瑛龍からの斷りの手紙が來るまで、晶造はそこにさうしてゐた。

四の三

横須賀線に、一日四五回、而も無蓋貨車の運輸が開けて間もなく、行く先々で多少の便宜が得られると聞いて、食べものを載せてゐた新聞社の腕章を貰つたりして、例の半洋袴にシャツ一枚の身裝で、久保と一緒に鎌倉まで行き、そこで別れて、ひとり逗子の妻が家へはいつて行つてみた。話には聞いてゐたが、玄關の表札が、ぴたりと土の上に据つてゐたり、二階の欄干がさう無理をしずにすぐ跨げるほどの高さまで傾いてゐるのを、目のあたりに見ては、流石にいゝ氣持はしなかつた。昨日の晩に、終列車で歸つてゐたら、恐らくはまだ寢てゐた時刻だらうが、などゝ思ひながら、一番ひどく潰れてゐる親部屋のそとを廻つてみたりした。別莊番の植木屋夫婦も出て來て、いろ〳〵當時の話をして聞かせてくれた。なかでも、そのとき子供たちと一緒に前の通りにゐたといふ上さんの話が、深く心に殘つ
つけられるやうに、ばたり〳〵と
生の毀

しげが、夕方になると、いくつかの神樣たちの前に切火をし、燈明をともし、また佛の囘向もしたり、いろ／＼信心らしい動作はするけれど、心持の上で、特に宗教的なものを、子供たちに植えつけて置かうと努めたりしたことはないのだけれど、それにも拘らず、昌一が、父親なり母親なりの名を呼ぶ代りに、「神樣」といふ言葉で現はされる何かに縋りつかうとした、といふことは、全く意外だつた。二日の晩、燒け迫つて來た火の手を、番町の玄關前から眺めてゐた時の自分自身も思ひ出された。舞ひ狂ふ火の子のなかから一つを擇び、女房や子供たちの、難を遁れやうと焦慮る姿になぞらへて、次々に、目を放たず見詰めてゐた間の、あの心の底からの呼びかけに對して、子供たちの方からも、パ、ちやーん、パ、ちやーんと救ひを覓める聲を聞いたのだが、事實は、そんなところは通り越して、いきなり「神樣」に縋つてゐたのだと知ると、父親としての寂しさも可なり強く胸へ來たが、更にまたいぢらしさは深かつた。考へてみれば、自分もそのあとで佛間にはいつて行き、跪座合掌して、念佛を稱へたのだから、同じことを、子供の方が、一足とびに飛びあがつて、お先に失敬して了つたやうなものだつたが……。

兎も角も小野田のうちに落ちついたのだし、鐵道も開通したので、當用の品だけでも運んで來たいが、どの程度の品がもち出せるものか、――それを調べて來やうといふのがその日の目的だつた。いゝ按配に、納戸代りに使つてゐた八疊か、二階を載せてゐない一番の奥だつたために、簞笥、長持の類はいつでも持ち出せるくらゐの、ほんの僅な歪ですんだ。二階下の、潰れ方のひどい箇所では、持ち出すと云ふより、堀り出すくらゐの大仕事で、おまけにさうしてみたところで、果してどれだけ使へる品が出るかわからなかつたし、またさうするには、一應家主の許可を得て、うち全體をばらしてかゝらなければならない。そんなことも見定め、別莊番とも相談の上、いろ／＼手順をつけて歸つた翌日、今度はおしげを宰領役に、この頃ではまるでうちの書生も同然に、足繁く出入りしてる千葉、長谷部、それに滿津島の夫婦と、都合五人づれで、手輕くつけられるだけのあと始末をつけて來るため、朝一番の汽車で出してやり、その代りに昌造は、一日うちで子供たちの相手になつて暮した。

子供たちが寢ついて間もなくだつた、堀部の使だといふ俥夫が、玄關まで出てくれと云つてゐると取次いで來た。それは、瑛龍が生れた家の姓だつたから、俥夫が案内するまゝについて行き、阪下の廣い往來の角に待つてゐる彼の女の前に立つた。二三日前の待ちぼうけ以來始めての對面で、昌造の氣持は、ちよつと強ばつてゐた。

「別に、差支なかつた？」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「うん」
禮を云ひながら、輕く會釋をあげ、士官學校の方へ歸つて行く伸夫とは反對に、二人は、市ヶ谷見附の方へぶら〱歩きだした。
「先達はすみません。早めに出て、表町のうちによつたら、珍しい人が來てたりして、たうとうあすこでとつつかまつちまつて……」
「さう」
「もつと早くにお使を出すとよかつたんですけど、もう行けるか、もう行けるか、と思つてたもんだから……。あの、お使が手紙を持つてくまで待つてらしつて？」
「うん」
「なにしてらしつたの？」
「枕を貸りて、横になつてた」
「お賤さん、話しに來てなかつたんですか？」
「ゐたり、ゐなくなつたり、……大抵一人だつた」
「さうお」
久振りに逢ひながら、なんとなく、白々しく言葉が杜切れた。
「昨日は逗子へ行つて來た」
「あら、さうお。どうでした？」
「どうつて、めちやくちやさア。……歸りにちよつと鎌倉によつたから、久保君と二人で、鈴香さんを見舞ひによつてやつた」
先達、久保と神津の控家へ行つた時、以前よく久保たちと一緒にあつた若い藝者の一人で、鈴香といふのが、鎌倉でお産をして、間もなくあの大地震だつたが今もつてなんのたよりもない、といふ話が出、別にどうといふ氣もなしに、凡その居所を聞いて置いたのが、ふと思ひ出されて、通りがゝりに立ちよつたのだが……。
「あら、さうお！　どうしてゝ？」
「えらいね、あゝみえて、あの人、なか〱度胸の据つたところがあるんだね」
「さうよ。それでゐて、それア、氣持に可愛いゝところもある人なのよ。……そいで、うちは潰れなかつたの？」
「うア、やつと立つてるといふだけのこつて、柱なんか、碌にこのくらゐにやア傾いでたな」
と、手で角度を示して、「そのなかで、障子から蚊帳を吊つてねてたけど、例の通りにやり〱して、ちつともしよげちアゐなかつたッけ。驚いたことにやア、誰一人東京からついて……
んだよ。百姓家の部屋を借りて、……
人種に似合……

うしたんでせう」
「訊いてやつたよ。――旦那様の安否は知れたのかつて。
「さうしたら？」
「それだけは、やつとわかつたんだつて。無論無事だつたんだらう。にこ〳〵してたから。でも、土地の様子なんぞ、まるで知らないんだよ。榮子さんの死んだことを話したら、初めは本氣にしなかつたくらゐだ」
「さうお。ぢアまだ旦那も行つてあげないんだとみえるわね？」
「さうらしいんだ。地震後、東京の人の顔を見るのは、あんた方が始めてだつて云つてた。いくら縁者だつて、あんなにまで、子供を生むことを内證にしなくつてもよかりさうなもんだがなア。それとも、旦那の子でないのかな？」
「まさか、そんなこともないでせうけど、……そいで、赤ちやんは？」
「元氣だつたよ。地震の五日前とかに生れたんだつていふから、まだほんのこれんばかりだつたけど……。何しろ、お産後五日目にあの地震をくらつて、血がのぼるとかなんとか、そんなこともなかつたんだから、なか〳〵あれで落ちついた女だね」
「さうね。えらいわねえ。あたしだつたらどうでせう」
「さア、あんたなら……」
「氣違になるかしら」
「ならないね」
「あら、どうして？」
「あんたはまた、鈴香以上だよ、へんに落ちついたところがあるよ」
云ひ方に、おのづと、褒めた感じよりも、むしろ非難の響きが罩つた。
「さうでせうか」
ちやんとそれを感じてゐながら、わざと當らずさはらずにすらりと答へて、「でも、いくら心細くつても、赤ちやんさへ達者なら、自分だけは、それでもうずゐぶん滿足でせうからね」
「うん」
昌造はもうほかのことを考へてゐた。――今夜こそ、きつと、きの、いゝ、いゝ、きようだいにならう、を持ち出す氣なのだらうけれど、さうしたら……、と、それに對する返答を、心のうちに用意しかけてゐた。
纏りのない沈默のうちに、本村町の停留所の方へ、だら〳〵阪をあがつてゐた。
「お民さん、なんか云つてた？」
ふと昌造のあたまに、普段の彼には珍しい邪推がふかさで、かう、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

考へが閃いて來た、——自分からは云ひ出しにくいために、前もつてお民にあゝいふ手紙を出して置き、そのあとで、昌造だけをそこにやるやうに仕向け、他人の口を藉りて話らせやうといふ工ではなかつたらうか……。無手勝流の昌造も、急に、油斷のない心の構へをとつた。

「なんかつて、何をさ」

「いゝえ、たゞなんか變つた話でもなかつたかつて云ふのよ」

「あつたな」

ちよつと區切つてから、「ちやぶさんが洋行するんだつて？」

「えゝ、急に會社の御用で、一年半ばかり行つて來なくつちアならなくなつたんですつて。それもずゐぶん急な話らしいんですのよ」

「たつのが？」

「えゝ、來月早々の船ですつて」

「ふーん」

それでまたちよつと言葉が杜切れた。昌造は、柄にない「構へ」が可厭になつて來た。相手はどうあらうと、こつちはこつちだけで、正面からのし〳〵と蹈み込んで行くのが、なんといつても一番氣持がよかつた。

「これを云ふと、お民さんがひど

れど、あんたからあの人にやつた手紙も見せて貰つたんだがね……」

（あら！）

芯からの驚きでなかつたなら、或はさういふ言葉も出したらうけれど、それを、たゞ無言でぢつとうけたのは、これこそほんとうの意外と怒りとを現すものと思はれた。昌造は、先刻の、自分の邪推を深く心に耻ぢながら、再び言葉を續けて、

「くれ〴〵も、これは、あんたには内證にしてくれと云はれてたんだし、またあんたの手紙に、すぐ燒いて了つてくれと書いてあるのも知つてるんだけれど、見て了つたものは見て了つたもんで今更どうも知らん顏をするのも可厭なんだ」

「お民さん、……やつぱり駄目ねえ」

その、低聲に呟いた獨言には投げだしたやうにみえて、底の方に、烈しい憤怒の潜んでゐることが感じられた。さうなると、今度は、飽までもお民のために辯護してやらなければすまないやうな氣になる昌造だつた。

「駄目なこたアないさ。少くも、あたしのためは思つてくれてるんだ……」

「

ら、どうにでもまた始末のつけやうもあるが、少しも構はず、皮肉に、「さうね」でうける陰性の腹立に追ひ込んで了つたが最後、——丁度[illegible]がぴたりと蓋を鎖したやうなもので、どこからどう手のつけやうもないことを知つてゐたから。

で、黙つてゐると、

「だけど、人つて、ずゐぶん信用のならないものね」

かういふ口の利き方が、自造は大嫌ひだつた。女子供に、さう手軽く、「人つてもの」がわかつてたまるものか、生意氣な！　といふ氣が先に立つて、どんな正しい結論でも聞くに堪えなかつた。然し、突嗟の言葉に尻をかけやうとしても、いよ〳〵奥へ、堅く身を縮め、引ッ込んで行くばかりだと默つて、返事をしずにゐた。

暫くして、

「ぢア、もうなんにも云はないでも、わかつてくだすつたのね？」

「きようだいになつて話かい？」

「えゝ」

「ところが、それがわからないんだ」

「どうして？」

「そんなこと、いつも云ふ通り、未練きしつこないにきまつてらアね。ないからこそ今からうなつてるんだ。もう一つ突ッ込んだことを云やア、大河内さんとの間がそんな風だつたから、自然あたしとかうなつたとう云へるんだ」

「それアさうね」

「さう簡單に同意されちまつちア堪るな。夜もろくに寝ないで考へた挙句の申出なら、なんとかあんたの方にも云ひ分がある筈ぢアないか」

「あたしは、いろ〳〵考へてみて、どうしてもその方がいゝと思つたんだけれど、あんたに、さうは出來ないつて云はれちまへばそれまでの話だわ」

「出來ないとは云はないさ。それア人間、かうしようと思つて、一生懸命になりさへすりやア、どんなことでも必ず出來ないつてことはない筈のもんだけれど、然しそんな不自然なことが、どうして今の関係よりいゝのか、それがあたしには腑に落ちないな」

いくら云つたところで、こんなことは、決局問題の中心とは、なんの係りもないのだ、とは承知してゐながらも、さて、その中心へ、うつかり觸れて行かれないやうな、弱いところがあつた。こんな風に、[illegible]地の點に落ち憊つて了つた時に、こつちから、ひと言でもその中心點へ觸れて行けば、「えゝ、さうよ」と、また例の簡單さで、平然として答へられるにきまつてゐた。そしてそれは、ほかの女なら恐らく

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

瑛龍では、殆ど取り返しのつけようあてのない、決定的な結果をもち來たすものと見なければならなかつた。事實、自分が、あとになつて、どれほど後悔し、嘆き悲しむとしても、そんな氣持は氣振りも見せないやうな、意地ッ張りをもつてゐる彼の女だといふことも、だんだんに知れて來てゐた。

で、昌造は、急に調子を變へて、

「然し、この話は、今夜はよさう。お民のことから、あんたは、すつかり氣持を惡くしちやつてるから、何を云つたつて、正面の返事をしてくれッこなささうだ。今度また機嫌のいゝ時ゆつくり話さうよ。その方が、お互のためにいゝ」

三河屋の角をはいり、ぐるりとひと周りして、丁度またうちのすぐ近くまで來てゐた。

「どう？　ちよつとうちイよつてかない？」

「駄目よ、そんなこと……」

「今日は逗子にあと片づけに行つて、ひよつとすると、今夜は歸つて來られないかも知れないと思つてるんだ。歸るとしても、まだなかなか終列車の時刻ぢアないから、ちよつとよつてつたらどうだい？」

「よすわ、あたし」

「まア、いゝぢアないか。歸るにしても、……り、さう云はすから」

云ふうちに、門の前まで來て了つたので、取敢ず昌造だけ先に、うちへはいつて行つてみた。と、女中部屋で滿津島夫婦の話聲がしてゐた。

「おい、歸つたのかい？」

茶の間から、聲をかけると、眞ッ先に亭主が飛び出して來て、

「お歸ンなさいまし」

「いや、どうも今日は御苦勞様。……どうしたんだい、みんなは？」

「鎌倉の安井さんとかいふお宅へお泊ンなさることになりましたんで、あたしども二人だけお先に歸つて參りました」

そこに女將も來て、

「旦那、まア／＼えらいこつてすなア。行つてみて、お話よりよつぽどひどいんで吃驚しましたわ」

たて續けに喋りまくらうとするのを待たして、昌造はおもてに出、瑛龍にさう云つて、ちよつとひと休みして行くやうに勸めた。

「でもなんだかへんだから、あたし歸りますわ」

「歸るにしてもさ、一人で歩いて行くわけにも、……云つてる……

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

めた。

「お隣りには、わたくしどもで、お宅の前までお送りいたしますから……」

「でも、もうおそいわ」

「いえ、わたくしどもも、もうさう永くはお邪魔はしておられませんのですから、まア、ちよつと、お茶だけでもめしやがつて……」

結局二階の書齋に通し、満津島夫婦と四人で、雜談に時を移した。と、云つても、今日の逗子行きが主な話題だつたが、事につけては、夫婦口を揃えて、千葉と長谷部の惡口だつた。

「どうもあれア、二人ともよくない人間ですよ。なんだつてまた、あんなものを旦那……」

「お前さん、何もそんなにむきンなつて云はなくつたつて……」

女將が、昌造の氣をかねて制めるのが、結果に於ては、却つて油をかけるやうなものだつた。

「そんなこと云ふけど、お前、……あんな、あんな、失禮な野郎つてえがあるもんぢやねえや……」

昌造は、二人の青年を、別にさう立派な人間とも思つてはゐなかつたが、兎に角千葉の方は、最初に逗子の家族を見舞ひ、一同無事の報知を齎してくれた、あの震災直後の勞苦に對してだけでも、一生恩に着てもいゝほどに有難く思つてゐたから、これといふほどの理由も擧げずに、たゞ惡い奴、惡い奴といふ満津島に對して、輕い反感を抱かされた。

「一體、然し、どんな惡いことをしたんだい」

聞いてみると、要するに、初めて顔を合せた今日のお伴が、自然二人づゝの二派に分れ、それ〴〵働きのほどを見せやうとする競り合ひから、互に反撥しだしたくらゐのことゝしか思へなかつた。而も、おしげとしては、年上で、何かにつけてひと理屈こねなければ氣のすまない満津島夫婦よりも、云ひつける通りはい〳〵と氣輕に動いてくれる青年たちの方が使ひいゝところから、ついそつちの肩をもつやうな傾きになつたらしく、今夜でも、お前たちはもういゝからと、先に追ひ歸されたあんばいで、そんなこんなから、實は、おしげに對しても面白くない氣持が十分あるらしいのだけれど、それはあからさまに云へず、結局何もかも一緒くたに、たゞあ二人の野郎どもはよくな奴とかうなつて了つたものと思はれた。

「然し、何も、あんな若い者を相手に、君たちが喧嘩をするところはないぢアないか」

「喧嘩なんぞしやアしませんけどさ、兎に角いけすかない奴等ですよ、まア、成可くなら、あんな者は、あんまりお宅へ出這入させたない

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

方がようござんすね」

あまり諄いので、昌造も、二人が、もと〳〵健吉の店の使用人であり、自分とは殆ど、震災以來のつき合で、どんな人間かもよくは知らないのだが、朔日の晩すぐたつて行つてから、これ〳〵かういふ働きをしてくれたことは、十分感謝に値すると思つてゐる、と、刻明に話して聞かせた。

「旦那がそんな風に思つてらつしやるんなら、どうもまア仕様のないこつたけれど……」

それで一段落ついて、今度は、前からそこへも出入りする大河内の家庭向きのことなどで、瑛龍の方へ話を向けて行つた。知らん顔をして聞いてはゐたが、昌造は、そこに居合せる人に對して、あんまり遠慮のなさすぎる話題と、決していゝ氣持はしなかつた。

「旦那の蔭ですけれど……」

と、ちらツと昌造の方へ横眼を走らせて、

「實にいゝ方ですなア。あたしア全く恐れ入つてます。」

「いゝ人よ。でも、なんにそんなに恐れ入つてるの？」

「いゝえ、何故つて、貴方、朔日の日ですよ、泥ぼッかりになつて、當な[illegible]お歩きなすつたんですぜ。現にあたア、世の中にやア、こんな親切な旦那もあるもんかと思つて、思はず涙がこぼれましたよ」

「あら、さう。そんな話、始て聞いたわ」

「さうでせう？　さういふ方なんですよ。貴方に逢つたつて、そんな話はこれから先もなさらない、――そこがまた床しいところでさアね。どうも、全く恐れ入つたものです」

「大へんな惚れ込み方ね」

「えゝ、惚れましたね。あの方なら、全く男惚れがしますよ」

「話の續き合が、どうしても、『それに引きかへ……』と來なくつちア納らなくなつて來さうだな」

昌造の冗談で、やつとその場が高笑ひで片づいた。

十一時近く、三人づれで歸つて行つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



彌太五郎源七

久保田万太郎

□

彌太五郎源七。

おなか。(源七の女房)

銀　次。(源七の子分)

入墨新三。

勝　奴。(新三の子分)

居酒屋の亭主。

おなじく女房。

外に、捕吏、使の男、通行人等

□

江戸時代

その一

源七の家。

夕方。

膳をひかへて源七。すこしはなれて銀次。

……外には、入梅どきの、ふりつゞく雨が止むけしきなくふりしきつてゐる。

銀次。親分。

源七。…………

銀次。親分。

源七。…………

銀次。親分。

源七。…………

源七、ちツと眼をふせ、石のやうにうごかない。――銀次、だまる。――とも〲眼をふせる……

間。

……雨の音。

源七。(急にくずをれるやうに)俺がわるかつた。

銀次。………?(おもはず顔を上げる)

源七。お前のいふ通りだ。――その通りだ……

銀次。…………

源七。飲みたくつて飲むんぢやアねえ。――さうなんだ、飲みたくつて俺ア飲むんぢやねえんだ。

銀次。…………

源七。それを――それを俺ア。――いゝえ、それが俺に分らなかつたんだ。――それにいまゝで氣がつかなかつたんだ。――手めえで、それに、いまゝで氣がつかなかつたんだ……

銀次。親分……

源七。(われとわが身を責めるやうに)さうなんだ、それに違えねえんだ……

銀次。けど……

源七。(それにはこたへず)かんにんしてくれ。――俺がわるかつた、堪忍してくれ……

銀次。…………

……接穗を失つた感じ。

源七、ぢッと眼をふせ、石のやうにうごかない。——銀次、

だまる。——ともぐ\眼をふせる……

間。

……雨の音。

た

銀次。けど……

源七。(それにはこたへず) かんにんしてくれ。——俺アさういつた、

堪忍してくれ……

銀次。…………

……[illegible]を知つた感じ。

間。

銀次。(おづ／＼した感じに) あッしも……あッしも、いゝえ、いひすぎたかも知れません。——いひすぎたかも知れませんけど……

源七。そんなこたアねえ。——そ、そんなこたアねえ。

銀次。でも……

源七。お前なればこそ。——お前なればこそさういつてくれるんだ。——親身にさういつてくれるんだ。——あだには思はねえ。——いいえ、恩にきる、俺ア……

銀次。そ、そんな……

源七。いゝえ、さうだ。——いくらこけたつて、まだ、そのくれえなめぐしはつくんだ。

銀次。…………

うまで人間てものゝ薄情だつてことをこの年になるまで俺ア知らなかつた。

銀次。…………

源七。義理の、人情の。——そんなことは榮耀にいふこつた、世にあるときに榮耀にいふだけだ。——一つ間違へば、一つ狂へば、一つ人間おちめになれば親分もなければ子分もねえ……

銀次。…………

源七。さういふ世せかいだ。——心細い世せかいだ……

銀次。…………

源七。と思ふと——さう思ふと、此奴……

銀次。…………

源七。(恥づるやうに膳の上の猪口を指し) これだ。——せめて酒でも飲まねえ分には……

銀次。…………

銀次。（遮るやうに）そ、それは。――それは、親分……

源七。いゝえ、飲まなくつたつて、――飲まなくつたつて俺ア……

銀次。そ、さうぢやア――さうぢやアねえんで。――さういふんぢやアねえんで……

源七。さういふんぢやアねえ？

銀次。えゝ、あッしのいふのはさうぢやアねえんで……

源七。………

銀次。飲んだつていゝんで。――飲んだつてちつとも構はねえんで。――いゝえ、飲まなくつちやア親分はいけねえんで……

源七。………

銀次。親分のやうな飲む口が……若えときから、飲さず、ずつと飲んで來てゐる人が急に止したりすると反つてよくねえつていひます。――だから飲むのは飲まなくつちやアいけません。

源七。だつて、お前、いま……

銀次。だから、いゝえ、あッしのいふのは深酒。――無理な深酒。――それをあッしは……

源七。………

銀次。朝飲んで晝飲む、晩にまた飲む。――好きでさう飲む分にはちッともかまひません。――が、朝から立續け、それこそのべたらに晝もなければ晩もねえ、飲みはじめたせうがにはつぶれるまで盃をはなさねえ。――それぢやア、親分、いくら強情はつても證がたまりません。

源七。…………

銀次。醉はねえ、いくら飲んでも醉はねえ、だから飲む。――親分のいふことはきまつてます。――すぐ親分はそれをいひます。――が、あッしにいはせると、醉はねえ、醉はねえといふときが親分の醉つたとき。――さういふのがそもそもの醉つた證據です。――いいえ、さう思ひます、あッしはさう思ひます……

源七。…………

銀次。といふのも、以前は親分、すこしすぎたとみれば、もういけねえ、もう飲めねえ。……器用にいつだつて切上げて、毛ほどもそんな嵩にかゝつたけしきなんぞみせなかつた。――どうしたら彌太五郎親分のやうに出來るだらう、どうしたら葺屋町さんのやうにあゝほどをよく行くだらう。――それにつけても、何につけても一事が萬事にたのもしがられた去年までの親分を思ふと――それをおもふと、あッしは……口惜しいんで、あッしは、親分……

源七。（打捨るやうに）それだけ年をとつたんだ。――年をとつていくぢがなくなつたんだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

銀次。そ、さうはいはせねえ。――あッしはさうはいはせねえ。
源七。なぜだ。
銀次。それならさうのやうに、年をとつたらとつたやうになぜしません？　いくぢがなくなつたらなくなつたやうになぜしないんです。
源七。してゐるぢやアねえか？――してゐればこそ。――さうしてゐればこそ……
銀次。ぢやア、親分、なぜさう愚痴になるんです？
源七。愚痴に？
銀次。えゝ、さうです。それだけ年をとつたんだ、年をとつていくぢがなくなつたんだ。……それほど分つたことをいふ人が、それほど悟つたことをいふ親分が、なぜさう修羅を、いつまでそんなえうもねえ修羅をもやしてゐるんです？
源七。(狼狽てゝ)そ、そんな……
銀次。いけません。――いけません。親分。――分つてるんだからいけません。(やゝ寂しく)
源七。………
銀次。親分のその酒浸しになつてる間の、醉はねえ／＼といつて醉つてる間のしだらつてものは。……こじれにこじれぬいたその捨鉢な蕩盪ふりつてものは、全く。――いゝえ、それより……つぶれてそれよりそのまんまぶッ倒れてしまつたときの親分の顔。……へと／＼になつて眠つたときの親分のその顔です。……むかしのそれが鬼だつたらいまのは鬼といつてもねえ。――人間、料簡のもちやう一つで、かうも寝顔までかはるものかと思ふと、あッしは――あッしは、親分……(泪を押へる)
源七。………
銀次。あッしどもに、親分、始終いまゝで何といつてゐました？――あせッちやアいけねえ、あがいちやアいけねえ、決して慾にこだはッちやアいけねえ。――人間、みきりが肝心だ、あきらめが大切だ。――およばねえとみたら逆ふな、何ごとも運と思つて必ず我なんぞ出しちやアいけねえ……
源七。………
銀次。こちとらにとつてこんな有難え教訓はありません。親分だからこそ、人一倍ものゝ理合のわかつた親分だからこそいへることゝ朝夕それを心にしめて來たおかげに、あッしのやうなもんでも、いまゝでこれといふ盆の上の間違ひ一つしねえで來られたんで。……しみ／＼それをうれしいと思ふにつけて……さう思ふにつけても、あッしは、……あッしは、親分……
源七。……………

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

銀次。それア、親分にしたら、氣に入らねえことだらけかも知れません、癪に障ることだらけかも知れません、腹の立つことだらけかも知れません。――あッしにもそれア分ります。――が、それもさういふ時世と思へば。……親分のいまいつたさういふ心細え世せかいと思つたら、此奴、氣に入らねえこともなければ癪に障ることも……腹の立つことなんぞ何にもねえわけだと思ひます。――どうせまはりもちの世の中なら、親分、いゝときもあれば惡いときもあります。いちくそれをトツコにとつていきり立つてゐた分には幾ついのちがあつたつてたまりません。……とまア、あッしなんぞにすれば思ひますけど……

源七。……………

銀次。いふ奴にはいはせて置けばいゝとおもひます。何とでも好きにいはせて置いてかまはねえと思ひます。――何といつたつて、そんなこと……よしんば今日このごろ駈出しの半人足がどんな毒を流したつてそんなことで親分の……勝太五郎源七の貫祿にヒヾ一つ入るこつちやアありません。……賣込んだ勝太五郎源七の看板のやすやすさうすたれる理窟がありません。……

源七。……すまねえ。――すまねえ、苦勞させて。(うめくやうにしみじみいつてホロリとする)

銀次。親分……

源七。どうして、かうも、俺ア氣が弱くなつたらう?――どうしてかうもしッこしがなくなつたらう?

銀次。……………

源七。銀次、俺ア、つくぐ世の中が怖くなつた。

銀次。……………

源七。といふのはそれだけ世の中が分らなくなつた。――それだけ俺に世の中つてものが分らなくなつた。

銀次。……………

源七。あせつちやアいけねえ、あがいちやアいけねえ、決してわるくこだはッちやアいけねえ。……さういつた俺だ。誰にでもさういつて說法した俺だ。――が、どうしたらそんなことがいへる?どうしたらそんな口幅ッてえことが俺にいへる?

銀次。……………

源七。いまとなつちやア、俺ア、面目ねえことばかりだ。

銀次。そ、そ、それがいけねえんだ、親分……

源七。……………

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

源七。さうぢやアねえ。
銀次。いゝえ、さうです。——さうなんです。——そんなことといふから、親分、敗けるんです。
源七。敗ける？
銀次。敗けるんです。世の中が分らなくなつた。……さういふのはつまりは親分がそれだけ世の中に敗けて來たんです。それだけ世の中に被壓されて來た證據です。……駄目です。……駄目です、親分、そんなこつちやア——……
源七。…………
銀次。……いまさら、親分、うろ〳〵することがどこにあります？入らざるそんな背はらをもむことがどこにあります？——彌太五郎源七はどこまで行つたつて彌太五郎源七。……手めえたちに何が分ると大きくかまへてさへゐれば……ぢつとさへしてゐればすぐまた親分の天下は來るんです。親分でなくつちやアならねえときが來るにきまつてゐるんです。……いゝえ、あツしども、來させずには置きません……
源七。…………
銀次。それまでの……それまでの辛抱です。……それまでの辛抱です、親分……

源七。(あくまで慘めな感じに)俺は俺をみ限つた奴らが憎いんだ。
銀次。そんなもの……そんなものみ返すなんぞわけはありません。そんなものみ返したければすぐにでもみ返せます。——そ、そんなつまらねえ……そんなつまらねえ意地なんぞ燒くことはそれだけ親分の……それだけ親分の箔をはがすことになります……
源七。…………
銀次。そんな奴らのことを心にかける手間で、親分、なぜあツしどもをたよつてくれません？——あツしども、何の役にも立たねえか知れねえ、何のたそくにもならねえか知れねえ。——が……が、あツしども、これでもあツしどもは恩を知つてゐます。いまゝで親分にかけて來た厄介はこれツばかりだつて忘れやアしません……
源七。…………(眼を閉づ。——感謝するものゝやうに)

間。

銀次。此奴アいけねえ、下らねえことをいつてるうちにすつかりもう暗くなつた。これぢやア話がみえねえ。(といつてことさらわらふ)……あかりをもつて來ませう……

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

源七、そのまゝ立つて奥へ行く。

間。——雨の音……。

……源七、石のやうにうごかない。

使の男。(戸外に來る) おいでですか？……

源七。…………

使の男。おいでですか？……

源七。…………

使の男。おいでですか、親分？……

源七、雨の音にまぎれるその聲をわづかに聞きつく。——顔を上げる。ほぼ

源七。誰だ？

使の男。あッしです……

源七。…………？

使の男。あッしです、繁です……

源七、立つ。——障子をあけて土間に下りる。——格子のしまりを外す……

使の男。毎日わるいお天氣で……

源七。こつちへ入んねえ。

使の男。へえ、有難う。——もつと早く上るつもりだつたんですけど、この降りで道がわるいもんで、つい。——すみません、遲くなつて……

源七。何か用か？

使の男。へえ、今夜石原の碩運寺に内會があるんでして。……みなさんお集りになりますから親分にも是非……

源七。誰がくる？

使の男。竹町の重助親分もみえればお厩河岸の捨親分もみえます。——割下水の六造親分もたしかだらうとおもひます……

源七。堂引きはだれだ？

使の男。新三あにいで。

源七。新三？

使の男。へえ、深川の……

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

間。

源七。……さうか。――一寸待つてくれ。

使の男。へえ。

　源七、膳のそばにかへる。長火鉢の抽斗よりなにがしかのもの出し、紙に包みすぐに引ッ返す……

源七。御苦勞だつた。(使の男にわたす)

使の男。すみません、いつも。――いたゞきます。

源七。生憎、今夜は、外に義理があつて行かれねえ。――竹町やお廐河岸のによろしくいつてくれ。

使の男。さうでござんすか？――其奴ア殘念で……

源七。ふるのに氣の毒だつたな。

使の男。どういたして。――お暇します、おやア。――どうぞ姐さんによろしく被仰つて……

源七。…………(うなづく)

　使の男、歸つて行く。

間。

　源七、あとを閉めて膳のそばにかへりかける。――銀次、そのとき、行燈をつけて奥から出る……

銀次。誰か來たんですか？

源七。繁だ。

銀次。あゝさうですか。

源七。石原の寺に内會のあるのを知らせて來たんだ。

銀次。いつで？

源七。今夜だ。

銀次。今夜？

源七。この天氣ぢやアどうにもならねえ。

　(このうち、行燈の火のかげに、源七、銀次、もと通りの位置をとる。)

銀次。親分、熱いのを一つ……(銚子を取上げる)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

源七。…………？

銀次。一本いまつけて來たんでよ。——あッしもお相伴します。——一つ……

源七。（やゝ躊躇して）止さう。

銀次。親分、ひぞつちやアいけません。（わらふ）

源七。さうぢやアねえ。

銀次。そんなら、親分……

源七。（うなづく）さうか。——ぢやアもらはう……

　源七、猪口を出す。——銀次、つぐ……

源七。お仲はどうしてゐる？

銀次。すや／＼、いま、寝んでゐます。

源七。眠つてゐるか？

銀次。えゝ。

源七。（半ば自分にいふやうに）何たつて、また、あいつまで、因果に眼なんぞわるくなつたんだ……

銀次。それは、親分、姐さんにしたつていろ／＼……

　源七、空にそのまゝ、猪口を手にもつたまゝ無言。——あんたんとした感じ……

　間。

銀次。（あやしんで呼ぶ）親分……

　源七、われに返る。——いそいでその手にもつた猪口を口に運ぶ。

　……雨の音。

その二

深川閻魔堂橋附近。

「その一」と同じ日。——夜、九つすぎ。

雨、なほ、止むけしきなくふりしきる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

……小田原提灯をもつた勝奴をさきに、新三、わるい道を用心してあるきながら出て來る。

……あたりあやめもわかぬ闇。

勝奴。大丈夫ですか、親分?

新三。大丈夫だ。

勝奴。何て道だらう、まア。――沼つてもねえ。――お竹藏が酷えと思つたらこゝはまたその上だ……

新三。この雨だ、たまるもんか。

勝奴。義理も人情もなく、また、此奴が(と空を見上げる)――いつまでビショ〱したら氣がすむんだ。――今日で、親分、まる五日つてものぶつこぬきにふつてゐるんですぜ。

新三。入梅だから仕方がねえ。

勝奴。いくら入梅だからつて、親分、大てい方圖つてものがあります。――たまには止むがいゝんだ。――それを氣休めにも雲切一つしてみせねえんだから(といひつゝ、うッかり、ぬかるみの深みへふみこむ)あ、いけねえ、やつた……

新三。どうした?

勝奴。まんまと下駄を……

新三。みろ、べら〱饒舌つてあるくから……

勝奴。待つておくんねえ、一寸……

新三。どうするんだ?

勝奴。こゝまで來れば家へ歸つたもおんなしです。――跣足になッちまひます。――一寸、すみません……

勝奴、提灯を新三に持たす。――下駄をぬいで跣足になる。――手拭を出して鼻緒に通し下げられるやうにする……

勝奴。へ、有難う。(手を出す)

新三。持てるか?

勝奴。持てます。

新三。いゝ、提灯は俺が持つて行く。

勝奴。さうですか?

新三。その代り、手めえ、跣足になつたんなら惜しげがねえ、ついでに多木までたのまれてくれ。

勝奴。多木まで?

新三。又んとこへだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

勝奴。何か用ですか？

新三。金をとゞけてやるんだ。――明日でもいゝんだが、昨日たのみに來て、さきぢやア吉左右を首を長くして待つてゐるんだ。――おんなしことならちッとでも早く金の顏をみせて喜ばしてやる方が功德だ。

勝奴。えゝ、よござんす、行づて來ます。

新三。待つてくれ、いま出すから。（傘を持つた手に提灯をもちそへ、ぎごッちなく片手を內ぶところへ入れて金を出す）さ、五兩……

勝奴。えゝ。（うけとる）

新三。これだけあれば當座の凌ぎはつくだらう。

勝奴。つきますとも。

新三。そのうちまたとゞけるといつて置きねえ。

勝奴。（それにはこたへず）怖いもんだなア、けど……

新三。何が？

勝奴。いゝえ、親分さ。――いつ親分にそんな後生氣が出たんです？

新三。（冷かに）ばかアいへ、後生氣ぢやアねえ、これからの俺に大切なのは味方だ。

勝奴。（やゝ皮肉に）うり出すにも樂は出來ねえつてね。

新三。あたりめえだ。

勝奴。ぢやア一ト足さきへ行きます。

新三。今夜は、けど、早く歸れよ。――それを置いたらすぐ歸れよ。遲いんだから……

勝奴。えゝ……

新三。すつぽぬけるなよ。

勝奴。大丈夫ですよ……

勝奴、さういひすてゝすた〳〵と去る。――新三、み送る……

……

間。

新三。（空をみ上げておもはずしふ）ほんとによく降りやアがる……」

新三、傘をもちかへて勝奴の去つたとは違つた方角へあるき出す。――と、そのとき、急に闇の中から白刃が閃く。――

あッと、新三、肩さきを切……

新三。(氣丈に) 誰だ。——誰だ、手めえ……

……相手はそれをふりはなさうとする。新三は離すまいとする。はげしくもみ合ふ。——と、相手は、無理にふりほどいてめッた無性に切りつける。新三、巧みにそれをかいくゞりつゝ七首をぬいてそれに應ず。——闇の中での怪奇な格闘つゞく。

やゝ長き間。

……ともすれば分がよく、いへば始めから、却つて攻勢をとりつゞけた新三、だん／＼そのうちにはじめうけた肩さきの傷のために弱つて來る。しどろもどろの感じになつて來る。——とゞあやまつて足のふみどを失つたせうがに、たま／＼そのとき暗雲にうち下ろされた刄さきが鋭くかれの上に落ちる。——新三、再びあッといつて倒れる。

間。

……相手、手さぐりに探りよつてとゞめをさす。——そのまゝ、ぐッたり、失神したやうになる。

間。

……急に立上ると同時、襲はれたやうに、一散に走り去る。

その三

深川佐賀町のとある居酒屋の内部。

「その二」と同じ夜の半刻ほどあと。

としよりの主人夫婦、一人は帳場に、一人は流しもとに、それ／″＼店をしまひかけてゐる。

……雨の音。

間。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

……源七、影のやうに入つて來る。

亭主。(ヒョイとみて驚く) おや、親分……

女房。(それを聞いてもぐ\ふり返る) まア、親分さん……

源七。(不安らしく) いゝか、まだ?

亭主。えゝ〳〵どうぞ。(いそいで土間へ下りる) いゝもわるいもあるもんぢやアございせん。──さア、どうぞ。──どうぞ、親分、こちらへ……

源七。あ、もう、かまつてくれなくつていゝんだ。一ぺえ飲ましてさへくれゝばそれでいゝんだ。

亭主。でも。──でも、まア、親分。──ちッとに、親分、こゝのはうが……こつちのはうが……

源七。どこだつていゝんだ。

……房。まア。……まア、さう被仰らず……

……氣かナに腰を下ろ

源七。(あたりをみ廻して) すまねえな、ほんとに、こんな時はづれに來て……

亭主。何の、親分。……どういたしたつて、毎晩、八つを聞かなくちやア寢めないわたくしどもなんで。……こんなお天氣つゞきでも、今夜でもいまゝで、お馴染のお客さま方がお一人お二人、早くから矢つ張あがつておいでになつたんで。……いまそのお客さま方がお歸りになつたばかりなんで……

源七。いつも繁昌で結構だ。

亭主。有難うぞんじます。──いゝえ、それと申すのも、つまりはこんなしがない店でも親分のやうな方が御贔屓強くいろ〳〵して下さる全くそのおかげなんで。──いつもばアさんとお噂をしちや蔭ながらお禮を申してゐるんでございます……

源七。飛んだこつた。──そんなこたアねえ……

亭主。それは、いゝえ、さうにそれは違ひないんで……

女房、そのとき、盆に猪口を載せちろりを持つて來る。

女房。お待ち遠さまで……

……お燗がお好きなんだ。──ついたか、よく?

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女房。どうでせう、この位で？

亭主。(ちろりをうけとつて觸つてみる)もッとだ。(返さうとする)

源七。あ、いゝぜ、おい、大ていで。――このごろはそんなもう贅澤はいはねえ。

亭主。さうでございますか？(女房に)ぢやアあとのは熱くしてな。

　女房、心えて去る。

亭主。親分、お酌いたしませう。

源七。すまねえが、父さん、何か大きなものをかしてくんねえ。

亭主。大きなもの？――ぢやア湯呑でも？

源七。うん、何でもかまはねえ。――雨の中をあるいて來た息つぎに――ぐッと一ぺえ息つぎにやりてえんだ。

　亭主、すぐに立つて棚から湯呑をもつて來る。

亭主。けど、今夜、こんなに遲くまで、親分、一たいどこへ行つておいでになつたんで？

源七。寺、寺町まで行つて來たんだ。

亭主。寺町？

源七。たのまれたことがあつて據ろなく。……こんなに遲くなるつもりはなかつたんだが、相手が坊主で、つい話が長くなつたもんだから……

　源七、さういひつゝちろりと湯呑とを手もとに取る。

亭主。お酌いたします、親分……

源七。なアに、手めえでつぐ……

　源七、自分で湯呑をみたす。――いそいで一氣に飲む。――あと、眼を閉ぢて無言……

亭主。(急に)親分、どうなさいました、それ？

源七。えゝ？(眼をあく)

亭主。いゝえ、胸。――その胸のところ……

源七。胸？

亭主。えゝ、血のやうなものが一ぱい……

源七。…………(何氣なく見てビックリする)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

亭主。どうなさいました？ まるで錆でもふいたやうに……

源七。あゝ、これは。——これは、先刻……

亭主。怪我でもなさいましたか？

源七。そ、そうぢやアねえ。——これはさうぢやアねえ。——これは先刻……先刻、これは、犬を叩ッ切つたんだ……

亭主。犬を？

源七。油堀で二三匹の野良犬に取ッかこまれたんだ。——いくら追つても逃げねえんだ。——追へば追ふほど嵩にかかつて吠えやアがる。——あんまり業腹だから、おどかしに引ッこ抜いて、さきへ立つた一匹をかまはずぶッた切つた。そ、その血だ。——その血がかゝつたんだ……

亭主。(しづかにうなづいて)あゝそうなんで……

源七。(たゞそれだけの意味で)そんな殺生しなくつてもよかつたんだが……

亭主。いゝえ、わたくしは、また、さうでもない、何か間違ひでもなすつたんぢやアないかと……

源七。えゝ？

亭主。いゝえ、御渡世柄、何かまた喧嘩でも……

源七。そ、そんなこたアねえ、そんなこたアしねえ。……いくら渡世だからつて、お前、若え時分ぢやアなし、そんな後先みずの、めッたな真似のむやみに出来るわけのものぢやアねえ。——そんなことをして、もしものことのあつたとき、あとに残つた奴らをどうするんだ。(上の空にうッかりこういつておもはず暗然とする)

亭主。(乗出すやうに)親分。……ほんとに、親分、あなたさういふおだやかな……

源七。(寂しく)俺も、お前、五十七だ。——六十にもう手がとゞいてゐるんだ。

亭主。そ、それなら申します。——それなら申しますが、親分、それだつたらなぜもう一トふんぎりして堅氣におなりになりません？

源七。堅氣に？

亭主。いまの、いゝえ、荒ッぽい御職業をすッぱりお止めになりませんか？

源七。……………

亭主。……わたくし風情がこんなことを……それこそ酸いも甘いも御存じの親分へ多寡が居酒屋風情のわたくしなんぞがこんなことを申したら、あいつ氣でも違つたか、さうお思ひになるかも知れません。いゝえ、お腹立になるかも知れません。——が、これは。……けど、これは、つまりはわたくしの愚痴……この三右衛門の愚痴な

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

んで……

源七。…………

亭主。と申すのは。……實は、親分、いつもお話し申してゐたせがれの居所が急にこゝへ來て分りましたんで……

源七。といふのは、ずッとまへに、家をあの飛出したつきりになつてゐた？

亭主。さうなんで。……子供の時分から勝負事ばかり好きで、始終はそれで身を果すだらうと酷しくしつけてゐるうち、なけなしの金をさらつて行方知れずになつたその野郎なんで。……何年にもどこにゐるといふたより一つしてよこさなかつた奴が、何と思つたか、今月のはじめ、不意に手紙をよこして、いまゝでの不孝は許してくれ、自分もだん／＼とる年で心細くなつた、親の顏がみたくなつた。この秋には江戸へ出る用があるから、必ずそのときたづねるからいまゝでのことは水に流して機嫌よく逢つてくれ。——さういつてまゐつたんで……

源七。で、そのせがれどの、どこにいる？

亭主。厚木にをりますんで。

源七。厚木に？——で、何をして？——百姓でもして？……

亭主。（ほと／＼と）それなんで。——おやぢの愚痴といふのはそれなんで。——どこをどう取附いたものか目明しをいたしてをりますんで……

源七。（ギョッとして）目明し？

亭主。いやぢやアござんせんか、親分？——十何年ぶりにやッと逢へたかと思へばそんなやくざな……

源七。…………

亭主。うそにもお上の御用をつとめてゐるものをそんなにいつちやア相濟みません。それは知つてをります。……知つてをりますが、けど、親の身とすれば好んでそんな、人にうらまれたり嫌はれたり、爪彈きをされたりするやうな稼業なんざさしたかアござんせん。そんなことをしてゐて末始終好いわけがござんせん。

源七。…………

亭主。ですから、わたくし、今度當人の江戸へ出て來るといふのを幸ひ、とッつかまへて意見をし、たとへにんじん牛蒡を賣らせるまでも正路のことをやらせるつもりでをります。……もしいやだといばそれつきり、逢はないむかしと思つて、改めて野郎を勘當してまひます。——なアに、あなた、疾うにもう死んだと思つた野郎です、さき〳〵行つてなまじッかの泣きをみるより、いまのうち緣を切つてしまつたはうがそれだけあとのあきらめもつきます。——ちや

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

膳をひかへて源七。すこしはなれて銀次。

……外には、入梅どきの、ふりつゞく雨が止むけしきたくふりしきつてゐる。

銀次。親分。

源七。…………

銀次。親分。

源七。…………

銀次。親分。

源七。…………

源七、ちツと眼をふせ、石のやうにうごかない。―銀次、だまる。―とかぐ眼をふせる……

間。

源七。(急にくづをれるやうに)俺がわるかつた。

銀次。…………?(おもはず顔を上げる)

源七。お前のいふ通りだ。―その通りだ……

銀次。…………

源七。飲みたくつて飲むんぢやアねえ。―さうなんだ、飲みたくつて俺ア飲むんぢやねえんだ。

銀次。…………

源七。それを―それを俺ア。―いゝえ、それが俺に分らなかつたんだ。―それにいまゝで氣がつかなかつたんだ。―手めえで、それに、いまゝで氣がつかなかつたんだ……

銀次。親分……

源七。(われとわが身を責めるやうに)さうなんだ、それに違えねえんだ……

銀次。けど……

源七。(それにはこたへず)かんにんしてくれ。―俺がわるかつた、堪忍してくれ……

銀次。…………

緊張を失つた感じ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

源七。義理の、附合の、意氣地の、——足さへ洗へばそんなことは塵のやうに消えるんだ。——世界の寶をおもちゃにする道樂の末のとげられるわけはねえ。

亭主。そ、そうなんで……

源七。なぜ、とつさん、もつと早くそれを俺にいつてくれなかつたんだ。もつと早くいつてくれゝば、こんな……

亭主。え？

源七。いゝえ、早ければ早いほど、それだけ苦患を一日でもすくなく貯かれたんだ。……そこへ早く氣がつけば何のこともなかつたんだ……

源七、ことごとく悔恨にみたされる……

亭主。みろ、親分は、何とも思つてをやアないぢやないか。

源七。それは、お前さん……

亭主。いゝから、早く、早く、あとのお燗をつけて來い。

女房。あいよ。

間。

亭主。……あゝさうだ、こゝにあつた。……これで……これが來たんで、野郎から……（内ぶところをさぐつて手紙を出す。——かくせない喜びと一しよに源七のまへに出す）

源七。あゝ、これが？

亭主。へえ。

源七。（とり上げてみる）いゝ手蹟ぢやアないか、とつさん……

亭主。さういふ奴ですから手習だつてろくに。……始終それでも小言をいつたもんですが。——矢つ張、御方便なもんで……（わらふ）

源七。いつてることだつてッつかりしてゐる。——幾つだね、今年？

亭主。へえ、丁度で。

源七。丁度？

亭主。三十で。

源七。感心なもんだ。

亭主。いづれ出てまゐりましたらお近附につれて上ります。……どうぞわたくしどうやら御贔屓に一つ……

源七。お目にかゝらうよ。——孫といへばすぐだ、もう……

亭主。素直に意見を聞いてくれゝばいゝと思ひますが……

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

間。――ふッとした虚ろな感じ……

女房、ちろりをもつて來る。

女房。お燗がつきました。

源七。あ、もう、たくさんだ。

亭主。まア親分……

源七。遅いんだ、今夜は。――そろ〱もう歸らう。

亭主。さうでございますか？

女房。折角おいで下さいましたのにろくなお下物もなくつて……

源七。何に、酒さへあればなんにも入らねえ。――おかげでいゝ心もちになつた。

亭主。ぢやア、まア、こゝについて來たゞけ……

源七。それを飲んでおいとまにしよう。

亭主、つぐ。――源七、ぐッと飲んで立上る。

源七。……やれ、御馳走さま……ぜ、勘定……

亭主。とんでもない、親分。――いつかのお預かりだつてまだたくさん殘つてをります。

源七。それはそれだ。――何よ、二三日うちにどうせまた來るから……
……

亭主。でも、こんなに。

源七。多ければ今夜の意見賃だ。

亭主。毎度相濟みません。

源七、錢を擲て門へ出る。

源七。（空をみて）飽きずによくふるこつた。

亭主。空の底が拔けたんぢやアないかと思ひます。

源七。（わらつて）さうかも知れねえ。――ぢやア、まア、お寢み……

亭主。お寢みなさいまし。

女房。御免下さいまし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

間。

……亭主、女房、戸じまりをし、そこを離れてそれ〴〵もとの位置に返る。

亭主。遲いから、今夜は、ざツとにしてあとは明日のことにしようぢやアないか。

女房。えゝ、さうしませう。

二人、それ〴〵汚れものを始末したりする……

間。――雨の音……

女房。(ふいと)おとつさん……

亭主。えゝ?(ふり返る)

女房。今夜、親分、どうかしておいでぢやアなかつたか?

亭主。お前でもさう思つたか?

女房。入つてみえたときから何だか、……わたしは、みたとき、さうは思つても親分ぢやアないやうな氣がしましたよ。

亭主。トボンとしていつもの親分のけしきはなかつた。――顏のいろもわるけれは髮もみだれてゐた。――それとあの胸にかゝつた血のしぶき……

女房。わたしは犬を切つたんぢやアないと思ひますよ。

亭主。さうぢやアないとも。……必となにか間違ひをしてみえたに違ひない……

女房。さう思ひますよわたしも……

亭主。油堀といふところがところだからことによつたら新三とでも……

女房。新三?

亭主。つい去年まで髮盥を下げてあるいてゐた富吉町のあの新三よ。

女房。あの男と親分と?……

亭主。あの男のために、親分、かゝなくつてもいゝ恥をかきなすつたことがあるんだ。――あの男の誘拐したさる大家の娘さんを、たのまれて親分が取戻しに行つたとき、親分のわざと音無しく出たのをいゝことに、けんもほろゝに親分の顏をつぶしたあげく、いくぢのないことの、燒がまはつたことのとあることないこといひ觸したものだ。――でも親分のはうにすれば、多寡がそんな髮結ふぜいの、ほんとのばくち打の附合さへ知らない奴を相手には出來ない。……

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

それにはあゝした堪忍強い親分のことだ、何といはれてもわらつて取合はなかつた……

女房。…………

亭主。けど、うるさいのは世間だ、それをみて彌太五郎源七もだらしがない、あんなものにこめられて唾も返せない。……さういふのと一しよに、新三といふ奴は大した奴だ、彌太五郎源七をむかふにまはしてビクともしない、いゝ度胸の奴だ。……尾ひれをつけて評判したものだ。――おかげで新三はうり出して、肩で風を切る今日のさまになつた。――何が、だから仕合になるか分らないのよ……

女房。まア、そんなことが……

亭主。親分にすれば飛んださいなんだよ。

女房。だからといつて、けど、親分が。……そんなものを相手にそんなことのまさか遺恨を……

亭主。もうわけはあるまいとはおもつてゐる。……けど、また、どんな表裏で。……このしやかいのことばかりは皆目ぢやア分らない……

……

女房。……

亭主。それには、新三といふ奴、わるくしつこい奴だ…

女房。ね……おとつさん……

亭主。……………?

女房。何事もなかつたら仕合、あつたにしても、今夜のことは、だれにも黙つてゐることにしませうね。

亭主。あたりまへだ、よけいなことといふこたアない。

女房。親分のみえたことでも、わたしは……

亭主。いはなくつてもすむことはいはないがいゝ。――さア、片附いたら早く寝るとしよう……

女房。すぐです、もう……

女房、もう一度流しもとへ返る。――亭主、源七にみせたかれからの手紙をもとへしまはうとしてそのまゝしまひかね、披げてそれをよみ返す喜びに一人ひそかに浸る……

間。――雨の音……

……外へだれか来る。――た

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女房。(耳をすまして)とつさん、とつさんといつてゐますよ。

亭主。とつさん、とつさんと?

　亭主、戸口へ行く。

亭主。どなた?——どなた?……

外の聲。俺だ。俺だ。……

亭主。(聞きおぼえのある聲なのに)俺?……

外の聲。俺だ、俺だ……

亭主。親分ですか?

外の聲。さうだ、俺だ……

亭主。(女房をふり返つて)親分だ。

女房。何かお忘れにでも?……

亭主。いまあけます。——たゞいま開けます……

　亭主、しまりを外してあける。源七、入つて來る。——と同時に、亭主、あッといつてのけぞる。——そのまゝ果敢なく事切れる……

女房。(それをみて驚く)親、親分……

　源七、返す刀で、すぐまた女房を斬る。——女房、聲もえ立てず倒れる。——すべて、ばた〳〵と、夢のやうな感じ……

間。——雨の音……

……源七、失神したやうに立つ。

その四

源七の家。(その一に同じ)

「その三」のあくる日。——雨、昨日とおなじにふつてゐる。

　膳をひかへて源七。すこしはなれて銀次。(「その一」の幕あきとすべて同じけしきのこと)

銀次。親分。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

源七。…………

銀次。親分。

源七。…………

銀次。親分。

源七。…………

……そのまゝともに無言。

間。

……銀次、つと立上る。——去らうとする。

源七。銀次……

銀次。何です？

源七。どこへ行く？

銀次。…………

源七。どこへ行く、お前？

銀次。…………

源七。み限るのか、お前も？

銀次。…………

源七。お前も俺をみ限るのか？

銀次。…………

ともに、また、そのまゝ無言。

銀次。（急にもとの位置に返る）親分、何故ぢやァいつてくれません？ なぜさういつまでかくすんです？

源七。…………

銀次。隠して、親分、かくし切れると思ふんですか？

源七。…………

銀次。なぜいへません？ あツしになぜいへないんです？

源七。…………

銀次。親分……

源七。…………

銀次。ねえ、親分……

源七。…………

間。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

銀次。……

源七。どこへ行く、お前?

銀次。……

源七。み嘆るのか、お前も?

源七。……

銀次。ねえ、親分……

源七。……

間

源七。(急に)分らねえ、俺には……

源七、われとわが頭を抱く。——銀次、おもはず體を固くする……

源七。(すぐに)俺だ。——新三を殺したのはいかにも俺だ……

銀次。…………

源七。昨日お前はいつてくれた。……えうもねえ修羅をなぜさうもやす?……いまさらうろ〳〵することがどこにある? 入らざる苦はらをもむことがどこにある?……俺はうれしかつた、うそにもさういつてもらつて俺アしみ〴〵うれしかつた。——さうだ、その通り

銀次。……

た。——決してもう飲まねえとなんぞいつた口の下で、お前の熱いのをつけて來たのをいゝことに、みツともねえ、性懲もなくすぐまた猪口に手を出したりした……

銀次。……

源七。が、それも。……それも、だが、お前が歸つて眼の悪い病人と二人つきりになるとすぐその縒はあとへもどつた。すぐまた眼のまへは暗くなつた。……ぼんやりした行燈のあかりの下でビショ〳〵ふる雨の音をきいてゐると、老いこんだ、もうろくした、だれにもゝう相手にされなくなつた俺といふ奴のみじめなすがたがさういつてもはツきり俺の眼のさきへにみえて來た。——俺は息がつまるやうな氣がした。——たまらなくなつて俺は家を飛出した……

銀次。…………………

源七。……えらもねえ修羅をなせもやす。………お前はさういつてくれる。……お前はさういつてくれるが俺の立つ瀬のつかなくなつたのはあいつからだ、あいつに去年けじめをくつてからだ。――いまゝで一度だつてそんなけちな目にあつたことのなかつた俺にすればどんなにそのため怯れが來たか分らねえ。……だん〳〵盆の上のいふ目だつて出て來なくなれば手許だつてつまつて來る。……三度に一度は義理にもことを缺くやうになればいまゝで一分出してゐた附合に二朱しか出せねえむめんもくも出來て來た。――あいそはつかすよりつかされる奴のはうがわるいんだ……

銀次。…………………

源七。……新三は出て來た。子分を一人つれてゐた。――俺はすぐそのあとをつけた。

銀次。…………

源七。殺るならお竹藏と思つた。――駄目だつた。……榛馬場と思つた。――駄目だつた。……六間堀と思つた。――駄目だつた……

銀次。…………

源七。とう〳〵閻魔堂橋まで來てしまつた。……こいつを越せばすぐもう富吉町だ、こゝでやらなければもう殺るところがねえ。――と、新三にすれば運の盡、そこで子分とわかれて一人になつた。――こゝぞと、すぐに俺は……

銀次。…………俺には

源七。……夢中だつた。――あとはもう夢中だつた。――氣がつくと俺は佐賀町の河岸へ來てゐた。――いつもよる三右衞門の店のあかりが眼に入つた。

銀次。…………

源七。俺は吸はれるやうになかへ入つた。

銀次。…………

源七。……ちろりの酒を湯呑にあけて飲んだ。――三右衞門にいはれて胸をみた。――血のしぶきが一ぱいかゝつてゐる。……吠えつかれてこまつたから油泥で犬を切つたんだ。……あわてゝ俺はさういつた

銀次。…………

源七。……三右衞門は俺に意見した。堅氣になれと意見した。――しじみそれが俺の身に、こたへた。――いまさらのやうに、俺に、直間お前にいはれたことがおもひ出された。

銀次。早まつたことをした。――殺生なことをした。――何も新三のいのちまでとることアなかつた……

銀次。…………

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

源七。……俺はほと〴〵してそこを出た。――空にたゞ俺はあるいた。……永代へかゝつたとき上総澪からふいて来る風のなぐれに思はず俺は立留つた。……と一しよに、いけねえ、失敗つた！――俺はさう思つた。……

銀次。…………

源七。三右衛門のせがれが厚木で目明しをしてゐるんだ。然にそれが江戸へ出て来るんだ。――出て来れば――出て来れば、これ……

銀次。…………――

源七。……すぐ引つ返した。――叩いてもう一度三右衛門に戸をあけさせた。――そのときもう俺の手は脇差の柄にかゝつてゐた。

銀次。（おもはず）親分……

源七。……俺はあの佛のやうな夫婦を、つみもむくいもねえ夫婦を、俺の身を思つてくれる夫婦を、入らざる手めえのかんぐりだけで取返しのつかねえことをしてしまつたんだ。（泣く）

間。――銀次、ともに泣く……

源七。……お前にかくさうなんぞこれッぱかりも俺アおもつちやアゐなかつた。――そんなつもりは臆ほどもなかつた。――たゞ……たゞそれを……新三のことをいふとなればとも〴〵それをいはなくッちアならねえのが辛かつた。――それが俺にたまらなかつたんだ……

銀次。……えゝ分りました

源七。けど、銀次、どうしてかうも俺アたじれたらう？ どうしてかうもなさけねえ心をもつたらう？

銀次。えゝ……

源七。俺の身うちにはいまゝでゞもそんな血がながれてゐたんだらうか？ 俺の胎には、そんな腐つた、卑怯な、み下げ果てた血がながれてゐたんだらうか？

銀次。えゝ……

源七。俺は、俺を、八つ裂にしてもまだ足りねえ。いゝえ、それでもまだ俺は飽き足りねえ……

銀次。…………。

源七。察してくれ。――察してくれ、銀次……

銀次。…………

間。――二人、泪に浸る……

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

銀次。(急に)自訴して下さい。――自訴して下さい、親分。――あとはあッしどもでどうともしますから、親分、かうなつたら逃げかくれしねえでいさぎよく自訴して出て下さい……

源七。もとよりそのつもりだ。

銀次。といふのは、どこをどうしたわけか、新三を殺したのは親分ともッぱらさういふ評判がもうはう〴〵に立つてゐます。――とても逃れッこねえと思ひます。――とても逃れッこねえものなら……

源七。三右衛門に對してだつてさうしなくつちやアすまねえ。

と、そのとき、門にだれか來る。――源七、源七とよぶ。――源七、銀次、おもはず顔をみ合はす……

間。――源七、ぢッと寂しく自分の上をみまもる。

……銀次、土間に下りて格子をあける。――捕吏、どや〴〵と入つて來る。

捕吏の一。源七、ちッと聞きてえことがあるから番屋まで來てくれ。

源七。御苦勞でございます。

捕吏の二。神妙にしろ。

捕吏、すぐに繩をかけようとする。――と、源七、發作的に急にその身を飜して脱兎のやうに逃れ去る。

捕吏、狼狽。――すぐあとを追ふ。――

その騒ぎに驚いて、

お仲、眼をわづらつてゐる病人の、いた〴〵しくまろぶやうに奥から出て來る。――銀次、いそいで介抱す……

その五

五間屋町附近の往來。

「その四」の半刻ほどあと。

逃げ切ることが出來ないで掴つた源七、繩にかゝり、捕吏大ぜいに引立てられて出て來る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

それを見る雨の中の通行人大ぜい。……

銀次、お仲をつれて出て來る。——源七のそばへすがりよる。

——が、二人とも口がきけない。……

源七。すまねえ。——銀次、すまねえ……

銀次。……………

源七。たのむ。——お仲をたのむ……

銀次。……………

源七、無慘にそのまゝ引かれ去る。——通行人の一部それに從ふ。——銀次、お仲、み送つて泣く。……

(昭和四年八月)

懸賞創作募集

『改造』昭和五年四月號、五月號に登載すべき創作を募集します。左記の規定御一讀の上奮つて應募せられたし。

一、創作は小說戲曲の二種とし一人一篇に限る。

一、原稿の枚數は四百字百枚內外。

一、〆切は昭和四年拾壹月三十日。

一、賞金は壹等壹仟五百圓(壹人)、貳等七百五拾圓(壹人)。尙選外として三四篇採用することあるべし。

一、應募原稿は當落共に一切返還せず。

一、應募者は略歷一通を添付すること。

一、宛名は「改造編輯部」とし、封裏には必らず「懸賞創作」と明記すること。

一、壹貳等の版權は本社に歸するものとす。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

編輯だより

◇今年の暑さは近年稀な殺人的暑さだつた。だが我々は悠々と此の炎熱圈を突破して、いよ〳〵邁進だ。本誌の出る頃は新秋の氣が動いて、海に山に休養を盡くした人々をも、精神的に引き緊めることだらう。

◇洵に緊張すべき時だ。いつまでもダラ〳〵と遊惰無氣力であつてはならぬ。覺めよ！緊急重大な問題が我等を包圍してゐる。本誌は鋭氣勃々、夫等諸問題を捕へて解剖批判し進路を指標してゐる。

◇失業問題は正に刻下の最深考慮を拂ふべき秋、單に爲政家、思想家のみならず、全國民の直接關心事だ。學的基礎の上に立つ福田氏の所論を始め、武藤、鈴木氏の熱論は此の問題に對する滿天下の反省と對應策に根本的示唆を與へてゐる。

◇また失業問題に關聯して、濱口内閣の一張羅「緊縮」と「金解禁」とがある。山川、杉山、石橋氏の所見と共に、井上藏相の平價解禁論の反駁を掲げて、我國財政經濟の實相を明鏡の如く反映した。

◇待たれてゐた河上氏の「第二貧乏物語」が登載された。森戸氏の久振りの論文と共に誌界第一の讀物だ。

◇露支の紛爭を何う見るべきかに就いては長谷川氏の論文に聽くべきだ。

◇小倉氏の「算術の社會性」は學界に一波紋を投げながら、興味津々たる讀物だ。

◇其他釋氏の「千樫追善記」大佛氏の「怪談」等々、本誌が誌界の頴脱を語るもの。

◇日本地理大系の寫眞班は過日樺太の撮影旅行を了へて歸社したがオロチョン族ロシア人まで我社の計劃に滿腔の賛意を表し種々便宜を計つて與れた。航空寫眞班は近畿より西日本へかけて撮影中で「改造號」の機影を仰いだ讀者から盛に祝賀の手紙を貰う。此の事業の性質上お祭り騷ぎはしたくないが、何分國家的事業として先人未到の境域を開拓しやうとしてゐる我社の撮影班出發の際は、その事業を壯として學界のため國家のため種々便宜を計つて下さい、お願ひします。

◇「現代短歌全集」は出來した。日本民族の純粹の文學として世界的に誇り得るものは短歌である。殊に明治以降三朝に亘る時代思潮の變轉と共に、取材の展開、着想の奔放百花燎亂の盛觀を呈した狀態は過去の史上に發見することが出來ない。本社はこれを集大成して百世にのこる偉業の完成に努力することを近頃の快事とする。

◇豫約募集中のゴーリキイ全集は既に第一回分「母」（長岡義夫譯）を出し好評嘖々。第二回分の「アルタマーノフ一家」（米川正夫譯）も目下印刷中だ。本全集は露國國立出版所で嚴密な監修校訂の下に刊行された全集を臺本とし譯者は斯界の權威ばかりだから、從來吾が國に行はれた重譯のものとは較べものにならない。定譯本として認められてゐる。

◇「赤穗浪士」の下卷は旬日にして百版突破といふすばらしい人氣だ。討入以後は本卷の爲めに筆をとつた苦心の新稿。大佛氏の筆が益々冴えたところです。

改造定價

冊數	定價	郵税
壹冊	五拾錢	參錢
半ヶ年	參圓	郵税不要
壹ヶ年	六圓	郵税不要

註文の注意

▲御註文は凡て前金に申受く前金切の時は發送を停止す

▲増大號其他定價變更に依る前金拂込不足の時は御拂込を待つて雜誌を發送す

▲外國よりの御註文は郵税實費を申受く

▲見本御請求の向は振替又は郵券にて定價通り御拂込ありたし但し郵券代用は一割増の事

▲御拂込は振替によらるゝを最も便利とす

昭和四年八月十八日印刷納本
昭和四年九月一日發行

定價五拾錢（郵税三錢）

東京市芝區愛宕下町四ノ六
編輯兼發行人　山本三生

東京市牛込區市谷加賀町一ノ一二
印刷所　秀英舍

發行所
東京芝區愛宕下町四ノ六
改造社
振替東京八四〇二
電話芝(43)一二三一　一二三二　一二三三　一二三四

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

好評嘖々◇新選名作集◇各冊壹圓 送料各廿錢

最新刊

新選里見弴集

（内容）

友達の見舞、河岸のかへり、勝負、箱根行、題のない小說、女按摩、妻を買ふ經驗、失はれた原稿、三人の弟子、恐ろしき結婚、ひえもんとり、或る年の初夏に、不良少年、幸福人、不幸な偶然、朴の歌留多札、大火、叱る、一目惚、刑事の家、病床記、子ころし、最後の一つ手前のもの、けむり、慾、雪の夜話、彼と小娘、毒蕈、夜櫻、潮風、甘酒、尾行、截紙刀、親、暗い夜空、ムス武遺聞、操り達磨、百年の戀、雨に咲く花、大臣の晝飯、不貞、夢みたいな話、緣談窶、蚊やり、小暴君、川はまり。（七二〇頁）

新選島崎藤村集

（内容）▲海へ 第一章 海へ。第二章 地中海の旅。第三章 燕のごとく歸る。第四章 故國を見るまで。第五章 故國に歸りて。▲佛蘭西紀行 自序。佛蘭西紀行。佛蘭西紀行の後に。▲山陰土産 一 大阪より城崎へ。二 城崎附近。三 大乘寺を訪ふ。四 山陰道の夏。五 浦富海岸。六 鳥取の二日。七 三朝温泉。八 松江まで。九 境港と美保の關。十 出雲浦海岸。十一 宍道湖の旅情。十二 菅田庵を訪ふ。十三 杵築より石見益田まで。十四 雪舟の遺蹟。十五 高角山。十六 津和野。▲熱海土産

——五百二十六頁——

新選吉田絃二郎集
新選北原白秋集（詩歌篇）
新選北原白秋集（散文篇）
新選前田河廣一郎集
新選前田河廣一郎集（續篇）
新選山本有三集

新選横光利一集
新選菊池寛集
新選谷崎潤一郎集
新選永井荷風集
新選藤森成吉集
新選長田幹彦集

新選武者小路實篤集
新選小山内薫集
新選久保田万太郎集
新選宇野浩二集
新選近松秋江集
新選岡本綺堂集

新選葉山嘉樹集
新選森鷗外集
新選夏目漱石集
新選豐島與志雄集
新選相馬泰三集
新選久米正雄集

發行所 東京芝區愛宕下町 改造社 振替東京八四〇二

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

現代日本文學全集（38）

第三十四回 九月上旬 配本

現代短歌集 現代俳句集

東京・芝・愛宕下

改造社

振替東京八四〇二

新興日本の藝文界に燎亂と花咲いた韻高き傳統的精神の華は「言靈」の道だ、そ

卷頭 明治天皇御製集 昭憲皇太后御歌集

◆現代短歌集内容（順序不同）

鈴木重嶺 佐佐木弘綱 小杉榲邨 武島羽衣 北原白秋 尾上柴舟 前田夕暮 窪田空穗

小出粲 高崎正風 黒田清綱 落合直文 高村光太郎 武山英子 加藤東籬

税所敦子 三條實美 山縣有朋 久保猪之吉 吉井勇 田波御白

八田知紀 愚庵和尚 入江爲守 服部躬治 石川啄木 岡

井上文雄 福田行誠 萩野由之 與謝野寛 山川登美子

太田垣蓮月 禮嚴法師 森鷗外 與謝野晶子

三條西季知 阪正臣 中村秋香 平野

本居豐穎 大口鯛二 大和田建樹

池袋清風 海上胤平

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

して「さび」の極致だ。本集收むるところ短歌百五十餘家四千八百餘首、俳句百七十餘家五千九百餘句これこそ新興民族の潑剌たる力と至純の美とを永世に傳ふべき一大金字塔だ！

長塚節　岡麓　香取秀眞　蕨眞　島木赤彦　齋藤茂吉　中村憲吉　釋迢空　古泉千樫
土屋文明　今井邦子　杉浦翠子　結城哀草果　土田耕平　石原純　原阿佐緒　三井甲之　相馬御風
太田水穗　岡山巖　川崎杜外　四賀光子　小田觀螢　大井廣　峯村國一　野澤柿葺　尾山篤二郎
佐佐木信綱　河野愼吾　村野次郎　宗不旱　橋田東聲　生田蝶介　石榑千亦　新井洸　三浦守治
川田順　下村海南　木下利玄　大塚楠緒子　橋糸重子　九條武子　柳原燁子　片山廣子　西出朝風
西村陽吉　青山霞村　矢代東村　花田比露志　岡本かの子　石井直三郎　藤澤古實　高田浪吉　三ケ島葭子
平福百穗　淺野梨郷　岡野直七郎　上田英夫　植松壽樹　大熊長次郎　大熊信行　菊池知勇　臼井大翼
今中楓溪　山田花夕　依田秋圃　安江不空　酒井廣治　香川不抱　齋藤劉　由利貞三　竹尾忠吉
穗積忠　並木秋人　中村柊花　川端千枝　横山重　水町京子　松本初子　久保田不二子　萬造寺齊
印東昌綱　大悟法利雄　（其他）
（附錄）▼明治大正短歌史概觀（齋藤茂吉）▼歌壇諸家年譜

◆現代俳句集内容（順序不同）

小築庵春湖　月の本爲山　佳峰園等裁　老鼠堂永機　老鼠堂機一　其角堂永湖　雪中庵雀志　雪中庵宇貫　雪中庵東枝
春秋庵幹雄　春秋庵準一　東杵庵萬齋　不白軒梅年　花の本芹舍　花の本聽秋　夜雪庵金羅　大野酒竹　尾崎紅葉
嚴谷小波　伊藤松宇　泉鏡花　田岡嶺雲　沼波瓊音　佐々醒雪　笹川臨風　岡野知十　川村黃雨
内藤鳴雪　鶴澤四丁　角田竹冷　服部耕石　星野麥人　武田鶯塘　小平雪人　安藤和風　筏井竹の門
勝峰晋風　福田把栗　坪谷水哉　山口花笠　泉天郎　小泉迂外　菅原師竹　廣江八重櫻　吉田冬葉
正岡子規　河西和露　森無黃　高濱虛子　河東碧梧桐　松瀬青々　石井露月　夏目漱石　佐藤紅綠
寒川鼠骨　大谷繞石　阪本四方太　水落露石　青木月斗　野田別天樓　藤井紫影　村上霽月　中村樂天
柴淺茅　柳原極堂　佐藤肋骨　數藤五城　五百木飄亭　新海非風　藤澤古白　永田青嵐　峯青嵐
吉野左衛門　赤木格堂　矢田挿雲　中野三允　籾山梓月　寺田寅日子　奈倉梧月　石島雉子郎　相島虛吼
原田濱人　島田青峰　柴田宵曲　鈴木花蓑　前田普羅　楠目登橙子　島村元　吉岡禪寺洞　淸原枴堂
岩木躑躅　田中王城　日野草城　野村泊月　鈴鹿野風呂　中田みづほ　小野蕪子　杉山一轉　酒井默禪
高野素十　藤田耕雪　久保田九品太　阿波野青畝　杉田久女　水原秋櫻子　池内たけし　久保より江　山本梅史
田村木國　山口誓子　富安風生　宮部寸七翁　庄司瓦全　松浦爲王　村上鬼城　臼田亞浪　渡邊水巴
原石鼎　長谷川零餘子　長谷川かな女　篠原溫亭　原月舟　室積徂春　飯田蛇笏　西山泊雲　中川四明
井上日石　福島小蕾　飛鳥田孋無公　安藤甦浪　大谷句佛　大須賀乙字　荻原井泉水　鹽井鶴平　喜谷六花
中塚一碧樓　岡本癖三醉　小澤碧童　名和三幹竹　中村烏堂　井出臺水　松宮寒骨　染川鑑泉　木下笑風
梅野米城　國又蓑爾　關口比呂志　吉永壱音　須藤水心樓　風間直得　野村朱鱗洞　尾崎放哉　青木比君樓
芹田鳳車　栗林一石路　小澤武二　大橋櫟木　秋山秋紅蓼　安齋櫻磈子　武定巨口　横山蜃樓　西村白雲鄉
松根東洋城　萩原羅月　岡本圭岳　湯村月村　花木伏兎　室生犀星　島田五空　志田素琴　幸田露伴
高田蝶衣　久保田万太郎　芥川龍之介　久米三汀　瀧井折柴　本田あふひ　岡本松濱　宮島五丈原　（其他）
（附錄）▼明治大正俳諧史概觀（高濱虛子）▼俳壇諸家年譜

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

小酒井不木全集

第四回配本

探偵小說長篇集

布製美裝本　五百八十六頁　口繪寫眞二葉入

日本探偵小說の典型

江戸川亂歩

小酒井氏の小說はあまりに冷徹すぎると、一部の人々から批評された程で、その作品には事實鬼氣の迫るものがある。『擬人の復讐』『直接證據』などの作品が現れた時小酒井氏自身、あゝした冷徹な性格を持つてゐるのではないかと怪しむ者さへあつたやうだ。が、今再度讀み直してみると、その觀察は極皮相なものであつて、冷徹なゆゑんは氏が科學者であり、その冷徹の彼方にこそ溫いヒューマニテイがひた〳〵と波打つてゐることを知る事が出來る。（中畧）探偵小說の本質論はしばらくおき、小酒井氏の小說が、興味的價値以上に何物かゞあつた點は充分かふべきであると思ふ。なほ氏が科學者であつたゞけ、そのプロットの立て方など、實に整然としてゐて、長篇『疑問の黑枠』の如きは探偵小說の教科書とまでいはれてゐる。晩年、怪奇的な部屋を建て、そこでアラビアンナイトを讀み、かつ仕事もしたいといつてゐられたが、さういふ氣持が小酒井氏を小說家にしないではおかなんだのであらう。若しその幻の部屋が完成して、そこから生れる數々の夢を聞くことが出來たなら、我々はどんなにか樂しかつたことであらう。

配本

第一回（第三巻）探偵小說短篇集

第二回（第一巻）殺人論……

第二巻　犯罪文學研……

―以下續刊―

發行所　東京芝區愛宕下町　改造社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

子規全集

◇全十八卷・一冊壹圓・一時拂拾七圓

第三回配本（九月）

第六卷 歌論及歌話

歌論及歌話　竹の里人曰く　歌よみに與ふる書　再び歌よみに與ふる書　三たび歌よみに與ふる書　四たび歌よみに與ふる書　五たび歌よみに與ふる書　六たび歌よみに與ふる書　七たび歌よみに與ふる書　八たび歌よみに與ふる書　九たび歌よみに與ふる書　十たび歌よみに與ふる書　あきまろに答ふ　人々に答ふ　歌の題　五七五七七　一つ二つ　賀の歌　歌の評の評　萬葉集卷十六　叡覧の歌　歌話　短歌を募る辭　再び短歌を募る辭　短歌撿考　七日會詠草歌評　三たび短歌を募る辭　草徑集を讀む　磐之屋歌集を讀む　「こやす」といふ動詞　第三回募集短歌に就きて　短歌第二句切の一種　竹里歌話　萬葉集を讀む　竹の里人曰く　募集歌　「續平家物語」に就きて　旋頭歌を募る　御題の短歌を新年の紙上に載することに就きて　短歌の調子に就きて

根岸短歌會記事三十三篇

―以下續刊―

1 俳句全集（第一卷）
2 俳句全集（第二卷）
3 俳句全集（第三卷）
4 俳論及俳話（上卷）
5 俳論及俳話（下卷）
7 和歌、新體詩、漢詩
10 小說、紀行、小品
11 少年時代創作篇（上卷）
12 少年時代創作篇（下卷）
13 編著（上卷）
14 編著（下卷）
15 書簡（上卷）
16 書簡（中卷）
17 書簡（下卷）
18 未發表作品及年譜、藏書目錄

第一回配本濟 第八卷 隨筆篇（上卷）

第二回配本濟 第九卷 隨筆篇（下卷）

東京芝區愛宕下町　**改造社**　振替東京八四〇二番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

田中貢太郎著

奇談全集

現代篇一冊
歴史篇一冊

（谷中安規氏裝幀）（四六判各五七〇頁）

價各壹圓五拾錢
送料各十八錢

現代篇は獵奇的讀物たると共に明治大正を語る者の見逃すべからざる好資料。歴史篇は明治以前に材を採れる一粒撰りの實話。何れも物語文學の最傑作。

（現代篇内容）脂取り一揆。松木騒動。閻閻秘記。模範教師。村の盗人。針打ち。近江の巻。遺言狀。多畫の野猪。丸山教祖物語。仙術修業。畸人列傳。神仙河野久。木食僧と語る。痴。蛇田の話。鷲。白つぽい洋服。鬼熊一代記。殺人鬼横行。枇杷葉湯賣。破獄囚の話。播磨屋橋濱開。一犠牲者の話。幕末の暴力團。水金町綺談。木ノ江港挿話。南瓜の苗。温泉宿の狂婦。嘘。悪戯。少佐の夫人の情死。心中の唄。數奇の戀。比律賓獨立物語。朱塗重藤の杖。馬闘街頭の刺客。青年の陰謀、大隈侯狙撃の人々。自由黨巷説。自由黨物語。自由黨積話。三多摩壯士行。逝ける先輩の印象。中江兆民の一生。見しは今日聞きしは昨日。選擧干渉物語。喜劇代議士候補者。明治大正瀆職事件。

（歴史篇内容）青の洞門物語。唐人殺し。袈裟懸の辻斬。岡崎巷説。紅鹿子の笠紐。有馬温泉物語。總穏寺の復讐。瀧山に砦を構へて。神讓。伯夷叔齊。松風村雨物語。橘次兄弟。朝比奈が曾我を訪ふ日。楠正行の中風。女塚の主。安土への使者。祖先のまぼろし。長曾我部盛親。蟬の痛み。花見物語、酒合戰物語。芭蕉庵の春。痩蛙負けるな一茶ここにあり。仁義行。吉田御殿原話、月前の怪異。騙術國。七人の大人。文錢牌樓。虞姫。女の市。支那歴朝帝位の纂奪史。妓生春香物語。虎妖奇談。人蔘の精。心の奉加。京の土妓。遊女殺し。薔薇の水櫛。雀の宮物語。ある神主の話。姉妹の復讐。木彫の像について話。俳諧修業。海賊。倫盗篇、鷄物語。鼓の音。旅僧。猿の話。目出度い話。龍を生捕つた、坂本龍馬の一面。四國巡禮記。兄弟の死。

涼味万斛鎖
第一の讀物

發行所 東京芝區愛宕下町 改造社 振替…

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

マルクス=エンゲルス全集

第十三卷―十回配本（約七百二十頁）

兩者壯年時代の力作二十數篇を網羅して本卷成る。

カール・マルクス經濟學批判第一册（**エンゲルス**）ヴィラフランカの平和（**マルクス**）マルクス自傳手記（**マルクス**）ウィーン・プレッセよりの諸論文（**マルクス**）價値と價格と利潤（**マルクス**）國際勞働者協會の諸文書（**マルクス**）フランスに於ける內亂（**マルクス**）政治上の不偏不黨主義（**マルクス**）國際勞働者協會に對する陰謀（**マルクス=エンゲルス=ラフワルグ**）ゴータ綱領批判（**マルクス**）ポーとライン（**エンゲルス**）戰爭雜記（**エンゲルス**）

次回配本=第十四卷=エルフルト綱領批判以下十數篇

東京芝區愛宕下町 **改造社** 振替東京八四〇二

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

社會科學

九月號內容

論文

資料

社會科學文獻批評

東京芝區愛宕下町 改造社發行 （振替東京

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大佛次郎著

赤穗浪士

下卷愈發賣

上卷＝百十版
中卷＝百版突破

旬日にして百版突破

最終篇いよく討入り!!

雪の中に見張りに立つてゐた神崎與五郎が山田宗偏の駕籠が吉良邸の門に入るのを見屆けてから突如として快速調を以て事件は展開する。二年間痺れをきらして待ち焦れてゐた時は來たのだ。なほ悠々閑々として出陣の盃を擧げ羅生門の謠を唄ふ四十六の元祿武士を見よ。日本人のみが所有し得た高貴なる生ける瞬間である。堀部彌兵衞老人の颯爽たる門出の一語は武士道の生んだ詩である。滿目の雪に月の映ゆる寒夜の悽壯たる劍戟の聲を聞け。雪の中に銅像の如くがっしりと立つて戰況を見まもる內藏之助を見よ。また塀越しに松の雪を染めて高張の光を集め、終夜浪士らの義擧に沈默の加勢をする快男兒旗本土屋主税の風格を見よ。本懷、黎明の引揚、暮れがたの泉岳寺の雨。この偉大なる瞬間の浪士たちの纖細なる心の動き、潜める苦悶が切腹前夜に生みたる「狂言」の近代的悲愴。——まことに、これは現代の心を通じて見たる民族の詩である。殊に討入り以後は新聞に發表しなかつた新稿、作者が單行本のために書きおろしたもので、浪人堀田隼人のテロリズムへの轉向、快盗蜘蛛の陣十郎のその後についても諸君は初めて見られるのである。

（各卷定價壹圓五拾錢・送料廿四錢）

ごろつき船（上卷）價1,80 税.24 百十版突破（下卷）近日發賣

發行所 東京芝區愛宕下町 改造社 振替東京八四〇二

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

KAIZO, A MONTHLY REVIEW OF
LITERATURE, SOCIAL AFFAIRS, ETC.
FIFTY SEN A COPY, SIX YEN A YEAR
: KAIZOSHA, ATAGOSHITA-MACHI SHIBA-KU, TOKIO.



秋の洋服は松屋

歐米に於ける今秋最新のスタイルがいろ〱參りました
生地は流行の中心英國の最高級品を始め、當店特選の優秀國産品等
豐富に取揃へて御座います。秋の洋服は何卒松屋へ御用命の程を……

東京・銀座

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

株式會社秀英舍印刷